市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第66集

市原市潤井戸遺跡群（西ノ崎地区）

２０２５

株式会社セブン - イレブン・ジャパン
市 原 市 教 育 委 員 会

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第66集

市原市潤井戸遺跡群（西ノ崎地区）

２０２５

株式会社セブン‐イレブン・ジャパン
市 原 市 教 育 委 員 会

序　　文

市原市は、千葉県のほぼ中央に位置し、養老川が形成した肥沃な平野から標高300m 近い丘陵部まで変化に富んだ地勢を有します。この豊かな地に古くから暮らした人々の痕跡は、「王賜」銘鉄剣や上総国分僧尼寺跡に代表される埋蔵文化財となって当時の状況を私たちに伝えてくれます。

今回の発掘調査は、株式会社セブン-イレブン・ジャパンの店舗新設工事に伴い実施されました。工事範囲内の遺跡の取り扱いについては、関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ずこの度記録保存の措置を講ずることとなりました。

調査の結果、弥生時代から平安時代にかけての集落跡を検出しました。特に、市内では珍しい奈良時代の畿内産土師器や平安時代の鉄製の鍵などが出土しました。潤井戸地区は古代湿津郷にあたり、その拠点的な集落であったことを示す重要な資料となりました。

発掘調査は本書の刊行をもって終了しますが、今後は発掘調査によって得られた成果を記録として将来に伝えられると同時に、市原歴史博物館と連携して、市民の生涯学習や学校教育に活用できるように、一層心を砕いてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御尽力をいただきました、千葉県教育庁教育振興部文化財課、株式会社セブン-イレブン・ジャパン、地元関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

令和７年３月

市原市教育委員会
教育長　藤谷　誠

例 言 ・ 凡 例

1　本書は、千葉県市原市潤井戸字西ノ崎720番1、720番2、720番3、756番2、地先道路水路に所在する潤井戸遺跡群（西ノ崎地区）の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、店舗新設事業を計画する、株式会社セブン-イレブン・ジャパンの委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもと、市原市埋蔵文化財調査センターが実施した。

3　発掘調査は開発範囲2,770㎡のうち、2,059.69㎡を対象とした本調査である。調査範囲は令和5年度国庫補助事業として埋蔵文化財調査センターが実施した277㎡の確認調査の結果に基づく。

4　発掘調査・整理作業は以下のとおりに行った。

確認調査　令和5年6月 5 日～令和5年 7 月14日　担当　川上知哉

本調査　令和6年5月20日～令和6年11月26日　担当　川上知哉

整理作業　令和6年8月19日～令和7年 3 月12日　担当　川上知哉・浅野健太・鈴木宏和

5　本書の執筆・編集は川上知哉が行った。遺物の分類は浅野・川上、遺物実測は川上・浅野・鈴木、遺物写真撮影は浅野が行った。

6　潤井戸遺跡群（西ノ崎地区）の調査コードはセ609（確認調査）・セ620（本調査）である。

7　図版2はAgisoft Metashape Professional（64bit）ver.1.5.2により作成した。

8　本書で示す北は座標北である。

9　座標値は世界測地系に基づく。座標値・標高ともm単位で表示している。

10　土器実測図は完形・反転復元実測図は4分の1、断面実測図は3分の1の縮尺で掲載している。瓦実測図は5分の1、土製品・石製品・金属製品実測図は3分の1の縮尺を基本とする。なお遺物写真（図版37 ～ 56）の縮尺は基本的に実測図に準じる。

11　土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社による。

12　本書に掲載した出土遺物及び図面・写真等の記録類は、市原市埋蔵文化財調査センター（千葉県市原市能満1489番地）で収蔵・保管している。

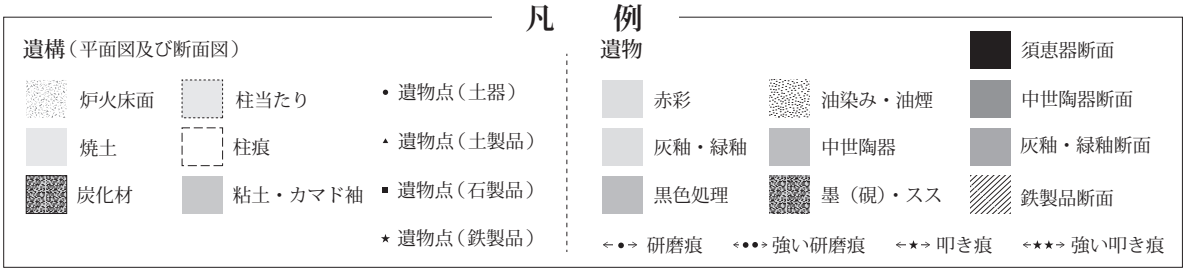
13　SI37出土須恵器の型式分類については佐藤晃雅氏（八街市教育委員会）、SI34出土の墨書土器の釈読については垣中健志氏をはじめとする奈良文化財研究所歴史史料研究室の皆様に御教示いただいた。またSI34出土の韓式軟質土器模倣品の可能性のある土師器鍋については藤野一之氏（駒澤大学）、日高慎氏（東京学芸大学）、SI33出土の東関東系弥生土器については小林嵩氏（千葉市埋蔵文化財調査センター）から御助言いただいた。記して感謝申し上げる。

14　出土土器の分類・年代は、弥生時代土器（大村ほか2004・2009）、古墳時代土師器（大村ほか1989、小沢2008、木對1992、木對ほか2008）、奈良・平安時代土師器（房総歴史考古学研究会1987）、畿内産土師器（奈良国立文化財研究所1962・1993）、永田・不入窯産須恵器（財団法人千葉県文化財センター 1993）、新治窯産須恵器（赤井1998）、木葉下窯産須恵器（佐々木1997）、猿投窯産灰釉陶器・緑釉陶器（井上2015）、湖西窯産須恵器（後藤2015）、中世在地土器カワラケ（櫻井ほか2009）、中世陶器（柴垣ほか2012）、青磁（山本2022）の各文献を参考にした。

15　SI37・SI49・SK002出土焼成粘土塊は非実測遺物として扱うが、図版51・52に写真を掲載している。

16　土器観察表等一部表類は、添付のDVD−ROMのみの収録とした。

17　挿図における網掛け・ドット表示等の用例、竪穴建物跡平面形の基準は下記による。



内容物の表記

ローム粒子	→	ロ粒
ロームブロック	→	ロブ

炭化物粒子	→	炭粒
炭化物ブロック	→	炭ブ

焼土粒子	→	焼粒
焼土ブロック	→	焼ブ

白色粘土粒子	→	白粘粒
白色粘土ブロック	→	白粘ブ

内容物の大きさ

粒	＝	5mm 未満
ブ	＝	5mm 以上

幅長比 1:1.2 以上を
長楕円形、長方楕円形、隅丸長方形とした。

本 文 目 次

第1章　調査の経緯と概要 …… 1

第 1 節　調査に至る経緯 …… 1

第 2 節　遺跡周辺の地理的環境 …… 1

第 3 節　調査の成果 …… 1

第2章　遺構と遺物

第 1 節　竪穴建物跡 …… 5

第 2 節　掘立柱建物跡 …… 106

第 3 節　柵列 …… 123

第 4 節　溝・道路 …… 124

第 5 節　土坑・ピット …… 124

第 6 節　性格不明遺構 …… 140

第 7 節　遺構外出土遺物 …… 140

第 8 節　遺構の変遷 …… 148

第3章　まとめ

第 1 節　弥生時代 …… 152

第 2 節　古墳時代 …… 152

第 3 節　奈良～平安時代 …… 153

第 4 節　中世 …… 156

第 5 節　遺跡の性格 …… 156

挿 図 目 次

第 1 図　潤井戸遺跡（西ノ崎地区）及び周辺遺跡位置図 …… 2
第 2 図　潤井戸遺跡群（西ノ崎地区）周辺地形図 …… 2
第 3 図　全体図 …… 4
第 4 図　SI01 遺構図・遺物実測図 …… 6
第 5 図　SI02・03 遺構図・遺物実測図 …… 7
第 6 図　SI04・SK042 遺構図、SI04 遺物実測図 …… 8
第 7 図　SI05 遺構図・遺物実測図 …… 10
第 8 図　SI06・07 遺構図・遺物実測図 …… 11
第 9 図　SI08・09・SK044 遺構図 …… 14
第 10 図　SI08・09 遺物実測図 …… 15
第 11 図　SI10 遺構図・遺物実測図 …… 16
第 12 図　SI12 遺構図・遺物実測図 …… 17
第 13 図　SI13・14・15 遺構図、SI15 遺物実測図 …… 18
第 14 図　SI16・17 遺構図、SI16 遺物実測図 …… 19
第 15 図　SI18・19・20・SK117 遺構図 …… 20
第 16 図　SI18・19 遺物実測図 …… 21
第 17 図　SI21・SK074 遺構図、SI21 遺物実測図 …… 22
第 18 図　SI22・23 遺構図、SI22 遺物実測図（1） …… 23
第 19 図　SI22 遺物実測図（2）、SI23 遺物実測図 …… 24
第 20 図　SI24・25 遺構図・遺物実測図 …… 25
第 21 図　SI26・SK080 遺構図 …… 26
第 22 図　SI26 遺物実測図 …… 27
第 23 図　SI27 遺構図・遺物実測図 …… 28
第 24 図　SI28 遺構図・遺物実測図 …… 29
第 25 図　SI29・SK103 遺構図、SI29 遺物実測図 …… 30
第 26 図　SI30 遺構図・遺物実測図 …… 31
第 27 図　SI31 遺構図・遺物実測図 …… 34
第 28 図　SI32・33 遺構図、SI33 遺物実測図 …… 35
第 29 図　SI11 遺構図・遺物実測図 …… 36
第 30 図　SI34・SK001 遺構図 …… 37
第 31 図　SI34 遺構図 …… 38
第 32 図　SI34 遺構図 …… 39
第 33 図　SI34 遺物実測図（1） …… 40
第 34 図　SI34 遺物実測図（2）、SK001 遺物実測図 …… 41
第 35 図　SI35・SK002 遺構図・遺物実測図 …… 43
第 36 図　SI36 遺構図 …… 44
第 37 図　SI36 遺物実測図（1） …… 45
第 38 図　SI36 遺物実測図（2） …… 46
第 39 図　SI37・SK003 遺構図 …… 47
第 40 図　SI37 遺構図・ 遺物実測図（1） …… 48
第 41 図　SI37 遺物実測図（2）、SK003 遺物実測図 …… 49
第 42 図　SI38・SK004 遺構図 …… 51
第 43 図　SI38 遺物実測図 …… 52
第 44 図　SK004 遺物実測図 …… 53
第 45 図　SI39 遺構図 …… 54
第 46 図　SI39 遺物実測図 …… 55
第 47 図　SI40・41・42・SK005 遺構図、SK005 遺物実測図 …… 56
第 48 図　SI41 遺構図・遺物実測図（1）、SI40 遺物実測図 …… 57
第 49 図　SI41 遺物実測図（2） …… 58
第 50 図　SI43・SK075 遺構図、SI43 遺物実測図（1） …… 59
第 51 図　SI43 遺物実測図（2） …… 60
第 52 図　SI44 遺構図・遺物実測図（1） …… 61
第 53 図　SI45・SK083・084 遺構図、SI44 遺物実測図（2）、SI45 遺物実測図 …… 62
第 54 図　SI46・SK104 遺構図 …… 63
第 55 図　SI46 遺物実測図 …… 64

第 56 図　SI47・SK006 遺構図 …… 65
第 57 図　SI47・SK006 遺物実測図 …… 66
第 58 図　SI48 遺構図・遺物実測図 …… 67
第 59 図　SI49・Pit027 遺構図 …… 69
第 60 図　SI49 遺物実測図 …… 70
第 61 図　SI50・SK120 遺構図 …… 71
第 62 図　SI51 遺構図 …… 72
第 63 図　SI51 遺構図・遺物実測図（1） …… 73
第 64 図　SI51 遺物実測図（2） …… 74
第 65 図　SI68 遺構図・遺物実測図 …… 75
第 66 図　SI52・53 遺構図・遺物実測図 …… 76
第 67 図　SI54・SK029 遺構図 …… 77
第 68 図　SI55 遺構図、SI54・55・SK029 遺物実測図 …… 79
第 69 図　SI56 遺構図・遺物実測図 …… 80
第 70 図　SI57 遺構図・遺物実測図（1） …… 81
第 71 図　SI57 遺物実測図（2） …… 82
第 72 図　SI57 遺物実測図（3） …… 83
第 73 図　SI58・SK115・116 遺構図、SI58 遺物実測図 …… 84
第 74 図　SI59 遺構図・遺物実測図 …… 85
第 75 図　SI60 遺構図・遺物実測図 …… 86
第 76 図　SI61・62 遺構図・遺物実測図 …… 87
第 77 図　SI63 遺構図・遺物実測図 …… 88
第 78 図　SI64・SK066 遺構図 …… 90
第 79 図　SI64 遺物実測図 …… 91
第 80 図　SI65・SK072 遺構図、SK066・072 遺物実測図 …… 92
第 81 図　SI66・67 遺構図、SI66 遺物実測図 …… 94
第 82 図　SI67 遺物実測図 …… 95
第 83 図　SI69 遺構図・遺物実測図（1） …… 96
第 84 図　SI69 遺物実測図（2） …… 97
第 85 図　SI70 遺構図・遺物実測図（1） …… 98
第 86 図　SI70 遺物実測図（2） …… 99
第 87 図　SI71・SK014・016 遺構図・遺物実測図 …… 100
第 88 図　SI72・73 遺構図・遺物実測図 …… 102
第 89 図　SI74 遺構図・遺物実測図 …… 103
第 90 図　SI75 遺構図・遺物実測図 …… 104
第 91 図　SI76 遺構図・遺物実測図 …… 105
第 92 図　SI77・78 遺構図、SI77 遺物実測図 …… 107
第 93 図　SI79 遺構図・遺物実測図 …… 108
第 94 図　SB01 遺構図・遺物実測図 …… 109
第 95 図　SB02 遺構図・遺物実測図 …… 110
第 96 図　SB03 遺構図・遺物実測図 …… 111
第 97 図　SB04・05 遺構図 …… 112
第 98 図　SB06・07 遺構図、SB06 遺物実測図 …… 114
第 99 図　SB08 遺構図・遺物実測図 …… 115
第 100 図　SB09 遺構図・遺物実測図 …… 116
第 101 図　SB10A・10B 遺構図、SB10A 遺物実測図 …… 117
第 102 図　SB11 遺構図・遺物実測図 …… 118
第 103 図　SB12 遺構図・遺物実測図 …… 119
第 104 図　SB13・14 遺構図 …… 120
第 105 図　SB15 遺構図・遺物実測図 …… 121
第 106 図　SB16 遺構図・遺物実測図 …… 122
第 107 図　SB17 遺構図・遺物実測図 …… 123
第 108 図　SA01・02・03 遺構図、SA02 遺物実測図 …… 125
第 109 図　SD01・SK039・040・113・114 遺構図、SD01・SK039 遺物実測図 …… 126
第 110 図　SD02 遺構図・遺物実測図 …… 127
第 111 図　SK・Pit 遺構図 …… 128
第 112 図　SK007・008・009 遺構図・遺物実測図 …… 130

第 113 図　SK010・011・012・027 遺構図・遺物実測図 …… 131
第 114 図　SK013・015・017 遺構図、SK013・015 遺物実測図 …… 133
第 115 図　SK043・071・090・096・112 遺構図、SK043・096 遺物実測図 …… 134
第 116 図　SK018・023・030・037・038・041・045・055・109・110 遺物実測図 …… 135
第 117 図　Pit028 遺構図、SK057・081・085・087・088・094・099・111・Pit028 遺物実測図 …… 136
第 118 図　SX01 遺構図・遺物実測図 …… 141
第 119 図　A区・B区 出土遺物 遺物実測図、C区 出土遺物 遺物実測図（1） …… 143
第 120 図　C区 出土遺物 遺物実測図（2）、D区 出土遺物 遺物実測図（1） …… 144
第 121 図　D区 出土遺物 遺物実測図（2）、E区 出土遺物 遺物実測図、西端区 出土遺物 遺物実測図 …… 145
第 122 図　遺構外出土遺物 遺物実測図（1） …… 146
第 123 図　遺構外出土遺物 遺物実測図（2）、撹乱出土遺物 遺物実測図 …… 147
第 124 図　遺構変遷図（1） …… 150
第 125 図　遺構変遷図（2） …… 151

写 真 図 版 目 次

図版 1　遺構　潤井戸遺跡群周辺航空写真
図版 2　遺構　調査区全体図　3次元データ
図版 3　遺構　発掘前状況　作業風景　調査区北側遺構検出状況　調査区中央遺構検出状況　調査区南側遺構検出状況
図版 4　遺構　調査区中央遺構検出状況　調査区南側遺構検出状況　法定外道路区遺構検出状況
西端区遺構検出状況　SI01　SI02
図版 5　遺構　SI03　SI04　SI05　SI06　SI35　SI56　SK021　SK025
図版 6　遺構　SI08　SI09　SI10　SI11　SI12　SI14　SI15　SI16　SI17　SI18　SI39　SI43　SK044
図版 7　遺構　SI18　SI19　SI20　SI21　SI22　SI23　SI25　SI26　SI45　SI71　SK014　SK016　SK117
図版 8　遺構　SI27　SI28　SI29　SI30　SI31　SI34　SI46　SI76　SK103
図版 9　遺構　SI34　SI36　SK001　SK002
図版 10　遺構　SI36　SI37　SI38　SK003
図版 11　遺構　SI11　SI38　SI40　SI41　SI44　SI66　SK005
図版 12　遺構　SI46　SI47　SI48　SI49　SI50　SI51　SI57　Pit027
図版 13　遺構　SI51　SI52・53　SI54　SI57　SI58　SI59　SI60　SI79　SK029　SK045　SK115　SK116
図版 14　遺構　SI63　SI64　SI65　SI67　SI68　SI69　SK066
図版 15　遺構　SI70　SI72　SI74　SI77　SI79　SB01
図版 16　遺構　SB01　SB02　SB03
図版 17　遺構　SB08　SD01　SD02　SK008　SK017　SK039　SK066
図版 18　遺構　SK043　SK071　Pit028　SX01　調査区北側完掘
図版 19　遺構　調査区中央完掘　調査区南側完掘
図版 20　遺構　調査区北側完掘　調査区中央・南側完掘
図版 21　遺構　調査区完掘（法定外道路区）　調査区完掘（西端区）
図版 22　土器　SI01　SI02　SI04　SI05　SI06　SI08　SI09
図版 23　土器　SI11　SI12　SI15　SI16　SI18　SI19　SI21　SI22　SI23
図版 24　土器　SI23　SI25　SI26　SI27　SI28　SI29　SI30　SI31
図版 25　土器　SI31　SI34　SI35　SI36
図版 26　土器　SI36　SI37
図版 27　土器　SI37　SI38
図版 28　土器　SI38　SI39　SI40　SI41　SI43
図版 29　土器　SI44　SI45　SI46　SI47
図版 30　土器　SI47　SI48　SI49　SI51　SI52　SI52・53　SI54　SI55　SI56　SI57
図版 31　土器　SI57　SI58　SI59　SI60　SI61　SI62　SI63
図版 32　土器　SI64　SI67　SI68　SI69
図版 33　土器　SI69　SI70　SI71　SI72　SI74
図版 34　土器　SI75　SI76　SI77　SI79　SB02　SB08　SB16　SK001　SK003　SK004　SK005
図版 35　土器　SK005　SK006　SK007　SK008　SK012　SK013　SK014　SK045　SK057　SK066　SK096　Pit028
SX01　B3区　B4区　C4区
図版 36　土器　C4区　D1区　D2区　D3区　D4区　E3区　E4区　西端区　遺構外出土遺物
図版 37　土器　SI01　SI02　SI03　SI04　SI05　SI06　SI07　SI08　SI09　SI10　SI11
図版 38　土器　SI12　SI16　SI18　SI21　SI22　SI23　SI24　SI25　SI26　SI27　SI28　SI29　SI30　SI31

図版 39　土器　SI31　SI33　SI34　SI35　SI36
図版 40　土器　SI37　SI38　SI39　SI41　SI43　SI45　SI46　SI47　SI48
図版 41　土器　SI49　SI51　SI52　SI52・53　SI53　SI54
図版 42　土器　SI54　SI55　SI56　SI57　SI58　SI59
図版 43　土器　SI60　SI62　SI63　SI64　SI66　SI67
図版 44　土器　SI67　SI68　SI69　SI70
図版 45　土器　SI70　SI71　SI72　SI73　SI74
図版 46　土器　SI75　SI76　SI77　SI79　SB01　SB02　SB03　SB08　SB09　SB10A　SB11　SB12　SB16　SB17
図版 47　土器　SA02　SD01　SD02　SK002　SK003　SK004　SK005　SK007　SK009　SK010　SK011　SK013
図版 48　土器　SK014　SK015　SK016　SK018　SK023　SK027　SK029　SK037　SK038　SK041　SK043　SK045
SK055　SK057
図版 49　土器　SK066　SK072　SK081　SK085　SK087　SK088　SK094　SK099　SK109　SK110　SX01　A1区
A2区　A3区　B2区　B3区　B4区　C2区
図版 50　土器　C3区　C4区　D1区　D2区　D3区　D4区　E3区　E4区　西端区
図版 51　土器　遺構外　撹乱
土製品　SI04　SI05　SI07　SI12　SI34　SI36　SI37　SI43
図版 52　土製品　SI49　SI51　SI52・53　SI54　SI57　SI68　SI69　SI71　SI75　SI76　SI77　SB06　SK002
SK010　SK013　SK014
図版 53　土製品　A4区　B4区　C4区　E4区　遺構外　撹乱
瓦　SI60　E4区　遺構外
石製品　SI02　SI05　SI06　SI12　SI18　SI22　SI27
図版 54　石製品　SI29　SI31　SI34　SI37　SI39　SI41　SI44　SI47　SI51　SI52　SI57　SI59　SI64　SI68　SI69
SI73　SI76
図版 55　石製品　SB08　SB16　SD02　SK001　SK009　SK030　SK045　SK111　A3区　B4区　遺構外
金属製品　SI04　SI08　SI29　SI34　SI36　SI37　SI38　SI49　SI51　SI58　SI59　SI63　SI64　SI67　SI68
SI69
図版 56　金属製品　SI70　SI71　SI73　SI74　SI75　SI79　SB15　SK007　SK011　SK013　SK027　SK039　SK043
B4区　C3区　D2区　遺構外
土器　線刻／SI58　SI64　SI69　SI70　SI74　SI76　SI79
図版 57　土器　線刻／SB16　SK072　A2区　A3区　B2区　B3区　C4区　E3区　遺構外出土遺物
墨書土器赤外線／SI04　SI34　SI37　SI49　SI57　SI59　SI60
図版 58　土器　墨書土器赤外線／SI67　SI70　SI72　SI74　SI77　SB02　SK013　SK045　SK081　A3区　B3区
B4区　C2区　遺構外出土遺物

表 目 次

第 1 表　竪穴建物跡一覧表 …… vii
第 2 表　掘立柱建物跡一覧表 …… ix
第 3 表　柵列跡一覧表 …… x
第 4 表　溝・道路跡一覧表 …… x
第 5 表　土坑一覧表 …… x
第 6 表　ピット一覧表 …… xiii
第 7 表　性格不明遺構一覧表 …… xiii
第 8 表　掘立柱建物跡・柵列　柱穴新旧番号対応表 …… xiv
第 9 表　確認・本調査遺構番号対応表 …… xiv
第 10 表　土器類観察表 …… DVD-ROM収録
第 11 表　瓦観察表 …… DVD-ROM収録
第 12 表　土製品観察表 …… DVD-ROM収録
第 13 表　石製品観察表 …… DVD-ROM収録
第 14 表　金属製品観察表 …… DVD-ROM収録
第 15 表　本調査非掲載遺物一覧 …… DVD-ROM収録
第 16 表　確認調査非掲載遺物一覧 …… DVD-ROM収録

第1表　竪穴建物跡一覧表

（　）は現存値、?は推定復元値を示す。

遺構 No.	旧遺構 No.	挿図 No.	縮尺	主軸 m	×	副軸 m	上端面積 ㎡	下端面積 ㎡	床までの深度 m	主軸方向（E 東・W 西）	柱穴（本数・深度）					時期	区分	切り合い関係		備考
											本数	P1（P4）	P2（P5）	P3（P6）	P4			古い	新しい	
SI01	SI002	4	1：80	－	×	－	（11.223）	（10.310）	0.4	N－40°－W	（2）	0.5	0.2	－	－	弥生後期後半（山田橋式期）			SI52・SI53	
SI02	SI029	5	1：80	－	×	－	10.158?	8.916?	0.2	－	－	－	－	－	－	弥生後期（久ヶ原式～山田橋式期）			SI54・SD02・SK119	
SI03	SI009	5	1：80	－	×	－	（6.078）	（5.657）	0.1 ～ 0.2	－	－	－	－	－	－	弥生後期			SK021・SK025	
SI04	SI003	6	1：80	4.6	×	4.8	18.002	16.473	0.2	N－21°－W	4	0.3	0.2	0.8	0.7	弥生後期後半（山田橋式期）			SI56・SK042・SK038	
SI05	SI001	7	1：80	4.8	×	5.1	21.099	18.594	0.4	N－49°－W	4	0.5	0.6	0.6	0.7	弥生後期後半（山田橋式期）			Pit004	
SI06	SI043	8	1：80	（5.4）	×	（4.8）	23.087?	21.216?	0.3	東西？	－	－	－	－	－	弥生後期後半（山田橋式期）			SI35・SI36・SI37・SB01・SK002	
SI07	SI055	8	1：80	（4.4）	×	（3.8）	（13.218）	11.907?	0.3	N－37°－E	－	－	－	－	－	弥生後期			SI34・SI37・SB02・SB04・SK056	
SI08	SI023	9	1：80	－	×	（6.0）	（11.942）	（10.426）	0.5	N－13°－W	（2）	0.4	0.5	－	－	弥生終末期（中台式期）		SI09	SI58・SI59・SK044・SK065	
SI09	SI024	9	1：80	（3.8）	×	（3.9）	11.933?	10.366?	0.2	N－49°－E?	－	－	－	－	－	弥生後期中葉			SI08・SI11・SI39・SI63・SK065	
SI10	SI026	11	1：80	（2.8）	×	（3.6）	8.591?	7.535?	0.1 ～ 0.3	N－28°－E	4	0.3	0.1	0.3	0.3	弥生後期（久ヶ原式～山田橋式期）			SI11	
SI11	SI049	29	1：80	（6.2）	×	（4.5）	27.686?	25.611?	0.3	南北？	－	－	－	－	－	古墳前期（草刈式期）		SI09・SI10	SI39・SI63・SA02	
SI12	SI037	12	1：80	（4.5）	×	（4.4）	18.178?	16.014	0.26	N－24°－W	（3）	0.1	0.2	0.1	－	弥生後期後半～終末期前半（山田橋式～中台式期）			SI43・SB06	
SI13	SI039	13	1：80	－	×	－	－	－	0.16	－	－	－	－	－	－	?			SI43	
SI14	SI053	13	1：80	3.1	×	（3.1）	8.117?	6.836?	0.3	N－50°－W	－	－	－	－	－	弥生後期（久ヶ原式～山田橋式期）		SI15	SI43	
SI15	SI052	13	1：80	（3.0）	×	（3.1）	7.831?	6.621?	0.2	N－1°－W	－	－	－	－	－	弥生後期後半（山田橋式期）			SI14・SI38・SI43・SI62・SB05	
SI16	SI236	14	1：80	（4.2）	×	（3.5）	13.328?	11.861?	0.2	N－8°－W	4	0.3	0.1	0.4	0.3	弥生後期（久ヶ原式～山田橋式期）			SI39	
SI17	SI239	14	1：80	（6.9）	×	（5.1）	31.886?	29.471?	0.1	N－30°－W	（3）	0.2	1.0	0.8	－	弥生終末期（中台式期）			SI18・SI19・SB08・SK007・Pit016	
SI18	SI237	15	1：80	（3.9）	×	（5.1）	24.137	22.316	0.3	南北	－	－	－	－	－	弥生終末期（中台式期）		SI17・SI19・SI20・SK090	SI69・SK007・SK117・Pit016	
SI19	SI243	15	1：80	4.6	×	4.8	20.938	19.969	0.2	N－3°－E	4	0.4	0.5	0.6	0.6	弥生終末期（中台式期）		SI17・SI20・SK090	SI18・SK007・SK117・Pit016	
SI20	SI238	15	1：80	（3.4）	×	－	（3.710）	（3.227）	0.12	N－21°－W?	－	－	－	－	－	弥生後期～終末期			SI18・SI19・SK117	
SI21	SI234	17	1：80	4.5	×	（4.5）	17.015?	15.592?	0.3	N－35°－W	4	0.2	0.2	0.2	0.2	弥生後期後半（山田橋式期）			SI22・SI41・SI42	
SI22	SI228	18	1：80	5.6	×	4.6	24.816	22.713	0.5	N－22°－W	4	1.0	1.0	1.0	1.0	弥生終末期前半（中台１式期）		SI21・SI23	SI71・SK014・SK015	
SI23	SI231	18	1：80	3.2	×	2.8	9.112?	7.963?	0.2	N－30°－W	－	－	－	－	－	弥生終末期（中台式期）			SI22・SI71・SK014・SK016・SK092・SK093	
SI24	SI227	20	1：80	－	×	－	9.203?	7.773?	0.15	－	－	－	－	－	－	弥生後期後半（山田橋式期）				
SI25	SI226	20	1：80	（4.9）	×	（4.7）	18.944?	17.292?	0.1	N－53°－E?	－	－	－	－	－	弥生後期（久ヶ原式～山田橋式期）			SI71・SI72・SB16・SK012	
SI26	SI233	21	1：80	9.0	×	（7.3）	（56.588?）	（53.359）	0.4	N－50°－W	4	0.7	0.6	0.7	0.8	弥生後期後半（山田橋式期）			SI44・SI45・SI67・SB09・SK079・SK096	
SI27	SI225	23	1：80	5.2	×	4.9	24.122	22.119	0.3	N－39°－W	4	0.6	0.6	0.15	0.1	弥生終末期（中台式期）			SK011・SK013・SK098	
SI28	SI220	24	1：80	4.2	×	4.0	16.803	15.239	0.2 ～ 0.25	N－41°－W	4	0.5	0.4	0.3	0.6	弥生終末期（中台式期）			SI69・SI70・SK087・SK088	
SI29	SI242	25	1：80	（6.0）	×	（4.8）	26.724?	24.573?	0.4	N－45°－W?	（3）	0.1	0.2	0.2	－	弥生中期後葉～終末期			SI46・SA03・SK103・SK104	
SI30	SI216	26	1：80	4.1	×	4.0	13.269	11.530	0.4	N－32°－W?	－	－	－	－	－	弥生後期中葉			SI73・SB12	
SI31	SI219	27	1：80	4.2	×	4.0	16.246?	14.628?	0.2 ～ 0.3	N－30°－W	－	－	－	－	－	弥生終末期前半（中台１式期）			SI76・SB12・SK008・SK101	

遺構 No.	旧遺構 No.	挿図 No.	縮尺	主軸 m	×	副軸 m	上端面積 ㎡	下端面積 ㎡	床までの深度 m	主軸方向（E 東・W 西）	柱穴（本数・深度）					時期	区分	切り合い関係		備考
											本数	P1（P4）	P2（P5）	P3（P6）	P4			古い	新しい	
SI32	SI302	28	1：80	（3.3）	×	（3.4）	9.716?	8.589?	0.2	－	－	－	－	－	－	弥生後期			SI50・SI76	
SI33	SI206	28	1：80	－	×	－	（4.744）	（3.903）	0.2	－	－	－	－	－	－	弥生中期後葉（宮ノ台式期）			SI47・SI51	
SI34	SI008	30・31・32	1：80	（7.8）	×	（7.9）	65.134	61.545	0.3	N－11°－E	4	0.6	0.8	0.8	0.8	古墳中期中葉（和泉式期）		SI07	SI55・SB01・SB02・SK035・SK036	
SI35	SI044	35	1：80	（4.0）	×	3.9	16.495?	14.968?	0.3	N－18°－W?	－	－	－	－	－	古墳中期後半～後期（鬼高式期）		SI06・SI37	SI36・SB01	
SI36	SI017	36	1：80	4.7	×	4.8	23.603	21.746	0.4	N－60°－W	4	0.6	0.6	0.4	0.7	古墳後期後半（鬼高式期）		SI06・SI35・SI37	SI60・SK067・Pit015	
SI37	SI032	39・40	1：80	7.4	×	7.2	55.622?	52.486	0.15～0.2	N－20°－W	4	0.9	0.5	0.5	0.5	古墳中期後葉		SI06・SI07・Pit020・Pit021	SI35・SI36・SI60・SB04・SK055・SK057・SK063・SK076・SK110・Pit012	
SI38	SI020	42	1：80	4.8	×	4.3	20.849	18.810	0.2～0.3	N－83°－E	－	－	－	－	－	古墳中期中葉～後葉（和泉式期）		SI15	SI61・SI62・SB03	
SI39	SI041	45	1：80	6.7	×	6.6	（45.636）	（42.752）	0.1～0.3	?	4	0.5	0.4	0.5	0.5	古墳中期前半（和泉式期）		SI09・SI11・SI16	SI63・SA02	
SI40	SI036	47	1：80	（2.2）	×	－	7.708?	6.613?	0.2?	?	－	－	－	－	－	古墳中期末（鬼高式期）			SI41・SI65・SI66・SK005	
SI41	SI034	47・48	1：80	4.6	×	4.6	21.565	19.934	0.3～0.4	N－51°－W	4	0.3	0.4	0.4	0.4	古墳後期中葉～後葉（鬼高式期）		SI21・SI40・SI42	SI66	
SI42	SI240	47	1：80	－	×	－	（2.674）	（2.291）	0.3	－	－	－	－	－	－	古墳前期～中期		SI21	SI41	
SI43	SI033	50	1：80	5.2	×	4.8	25.804?	23.478	0.2	N－62°－E	4	0.7	0.5	0.8	0.8	古墳中期前半（和泉式期）		SI12・SI13・SI14・SI15	SB06	
SI44	SI232	52	1：80	4.2	×	4.4	19.184	17.124	0.2	N－61°－W	4	0.4	0.4	0.4	0.4	古墳終末期（鬼高式期）	Ⅰ	SI26・SI45	SI68・SB09・SK095	
SI45	SI235	53	1：80	（4.6）	×	4.7	23.031?	20.970?	0.2	N－52°－W?	－	－	－	－	－	古墳中期前半（和泉式期）		SI26・Pit022	SI44・SI67・SB09・SA02・SK083・SK084・SK085	
SI46	SI214	54	1：80	（6.9）	×	（7.7）	（38.071）	（35.943）	0.2～0.3	N－50°－W?	（3） （3）	0.6 0.7	0.8 0.6	0.7 0.7	－ －	古墳終末期（鬼高式期）（7 世紀後葉～末）	Ⅰ	SI29・SK103	SB11・SA03・SK094・SK104	
SI47	SI202	56	1：80	－	×	7.0	（22.156）	（20.321）	0.1～0.2	N－41°－E	（2）	0.6	0.6	－	－	古墳中期中葉（和泉式期）		SI33		
SI48	SI054	58	1：80	（5.4）	×	（5.1）	28.029?	25.667?	0.1	－	4	0.4	0.5	0.3	0.4	奈良時代（8 世紀後葉～末）	Ⅲ		SI57・SD01・SK061	
SI49	SI201	59	1：80	6.9	×	7.2	51.533	44.397	0.2	N－40°－W	4	0.6	0.4	0.5	0.5	奈良時代（7 世紀末～ 8 世紀前葉）	Ⅱ	SK017	SI74・SI75・SB15・SB16	
SI50	SI212	61	1：80	（3.4）	×	（3.6）	13.242?	11.714?	0.3～0.4	－	－	－	－	－	－	古墳～奈良時代？		SI32	SI74・SI75・SB15・SK120	
SI51	SI204	62・63	1：80	6.1	×	6.8	43.703	40.952	0.3～0.35	N－59°－W	4	0.3	0.6	0.35	0.2	奈良時代（8 世紀前葉）	Ⅱ	SI33	SI77・SI79・SB12・SB13・SK102・Pit029	
SI52	SI005	66	1：80	－	×	－	9.771?	－	－	－	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀中葉～後葉）	Ⅷ	SI01・SI53		
SI53	SI004	66	1：80	－	×	－	9.966?	－	－	－	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀中葉～後葉）	Ⅷ	SI01	SI52	
SI54	SI018	67	1：80	6.2	×	6.0	40.937	37.993	0.3	N－34°－E?	（2）	0.7	0.5	－	－	平安時代（9 世紀中葉～後葉）	Ⅵ	SI02・SK119	SD02	
SI55	SI012	68	1：80	－	×	－	9.663?	8.197?	0.2	－	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀前葉～中葉）	Ⅴ	SI34	SD01	
SI56	SI006	69	1：80	（2.4）	×	（2.6）	6.975?	5.897?	0.12	－	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀中葉～後葉）	Ⅴ	SI04	SK038	
SI57	SI016	70	1：80	－	×	5.6	（17.785）	（16.342）	0.2	N－25°－W	（2）	0.4	0.2	0.2	－	平安時代（9 世紀中葉）	Ⅶ	SI48	SD01	
SI58	SI010	73	1：80	－	×	－	（7.863）	（6.415）	0.1～0.15	－	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀中葉～後葉）	Ⅶ	SI08・SK045	SK115・SK116	
SI59	SI013	74	1：80	3.5	×	3.3	11.985	10.470	0.25	－	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀後葉）	Ⅷ	SI08	SK043	
SI60	SI042	75	1：80	（4.4）	×	（4.2）	20.429?	－	－	N－67°－W	（3）					平安時代（9 世紀後葉）	Ⅶ	SI36・SI37・SB04・SK057・SK110		
SI61	SI019	76	1：80	3.1	×	2.9	9.466	7.916?	－	南北？	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀末～ 10 世紀前葉）	Ⅷ	SI38・SB03・SB04		
SI62	SI027	76	1：80	1.9	×	1.5	2.737	－	－	N－42°－W?	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀中葉～後葉）	Ⅷ	SI15・SI38		
SI63	SI028	77	1：80	3.6	×	（4.6）	（11.180）	－	－	S－88°－W	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀）	Ⅷ	SI09・SI11・SI39		
SI64	SI011	78	1：80	5.1	×	4.7	25.359	23.338	0.3～0.4	N－50°－W	4	0.7	0.6	0.5	0.7	平安時代（9 世紀中葉～後葉）	Ⅶ	SB08・SK071	SK066	
SI65	SI031	80	1：80	（2.8）	×	（2.8）	8.335	－	－	南北？	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀中葉）	Ⅶ	SI40・SI66・SK071・SB08	SK072	

遺構 No.	旧遺構 No.	挿図 No.	縮尺	主軸 m	×	副軸 m	上端面積 ㎡	下端面積 ㎡	床までの深度 m	主軸方向（E 東・W 西）	柱穴（本数・深度）					時期	区分	切り合い関係		備考
											本数	P1（P4）	P2（P5）	P3（P6）	P4			古い	新しい	
SI66	SI035	81	1：80	3.2	×	3.4	11.069	9.740	0.2 ～ 0.3	－	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀前葉～中葉）	Ⅴ	SI40・SI41・SK005	SI65・SB08	
SI67	SI221	81	1：80	（3.6）	×	3.8	13.932?	12.740?	0.15	N－55°－W	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀中葉～後葉）	Ⅶ	SI26・SI45・SK079・SK080		
SI68	SI213	65	1：80	（3.1）	×	3.7	11.292?	10.031?	0.3	N－49°－W	－	－	－	－	－	奈良時代（8 世紀後葉）	Ⅲ	SI44・SK095	SB09	
SI69	SI210	83	1：80	3.3	×	（3.3）	11.420?	10.061?	0.2	N－79°－E	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀後葉）	Ⅷ	SI18・SI28・SK090		
SI70	SI208	85	1：80	3.2	×	3.0	9.629	8.454?	0.12	N－24°－W	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀後葉）	Ⅶ	SI28・SK009・SK087・SK088・SK089・Pit023・Pit024		
SI71	SI223	87	1：80	（3.3）	×	（3.8）	13.655?	－	－	N－62°－W	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀後葉～末）	Ⅷ	SI22・SI23・SI25・SK016・SK092・Pit026	SK014	
SI72	SI222	88	1：80	－	×	（2.8）	7.940?	7.217?	0.05	N－43°－E	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀後葉～ 10 世紀初頭）	Ⅷ	SI25・SB16		
SI73	SI215	88	1：80	（2.7）	×	（3.1）	8.730?	－	－	N－54°－W	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀後葉）	Ⅶ	SI30・SB12		
SI74	SI200	89	1：80	（4.6）	×	（5.2）	25.290?	22.766?	0.2	N－9°－E	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀初頭～ 9 世紀後葉）	Ⅶ	SI49・SI50・SK017	SI75・SB15	
SI75	SI207	90	1：80	（3.6）	×	－	（9.482?）	－	－	N－37°－W?	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀中葉～後葉）	Ⅶ	SI49・SI50・SI74・SB15		
SI76	SI218	91	1：80	4.0	×	4.1	16.801	15.085	0.3	N－56°－E	4	0.6	0.3	0.3	0.5	平安時代（9 世紀前葉）	Ⅴ	SI31・SI32・SB12	SI77・SI78・SB13	
SI77	SI241	92	1：80	2.8	×	（2.9）	8.231?	7.239?	0.1	S－40°－E	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀前葉～中葉）	Ⅴ	SI51・SI76・SI78・SB12	SB13	
SI78	SI301	92	1：80	－	×	（2.5）	（5.948）	（5.494）	－	N－37°－W?	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀前葉～中葉）	Ⅴ	SI76・SB12	SI77・SB13	
SI79	SI203	93	1：80	3.3	×	3.8	13.099	11.629	0.3	S－35°－E	－	－	－	－	－	平安時代（9 世紀前葉～中葉）	Ⅴ	SI51		

第2表　掘立柱建物跡一覧表

（　）は現存値、?は推定復元値を示す。

遺構 No.	種別	挿図 No.	棟方向	主軸方位	廂	規模 cm（尺）		柱間寸法 cm（尺）　1 尺＝ 30cm で算出		廂（入側）等	建坪㎡（）は身舎	切り合い関係		備考
						企画（身舎）	桁行×梁行（身舎）	桁行	梁行			古い	新しい	
SB01	礎石建物跡	94	東西	N－38.5°－W	－	3 × 2	532（a1－d1）× 365（a1－a3）（17.7 × 12.1）	a1－d1：167+175 +190（5.5+5.8+6.3） a2－c2：150+175+207（5.0+5.8+6.9） a3－c3：160+205+167（5.3+6.8+5.5）	a1－a3：155+210（5.1+7.0） b1－b3：140+225（4.6+7.5） c1－c3：187+178（6.2+5.9） d1－d3：190+175（6.3+5.8）	－	12.4	SI06・SI34・SI35		
SB02	掘立柱建物跡	95	東西	N－26.0°－W	－	2 × 1	346（b1－b3）× 253（a3－b3）（11.6 × 8.4）	a3－a1：160+186（5.3+6.2） b3－b1：160+186（5.3+6.2）	a1－b1：253（8.4） a3－b3：253（8.4）	－	8.9	SI07・SI34		
SB03	掘立柱建物跡	96	東西	N－29.5°－W	－	2 × 2	365（a1－a3）× 312（a1－c1）（12.1 × 10.4）	a3－a1：185?+180（6.1?+6.0） c3－c1：180?+185（6.0?+6.1）	a1－c1：156+156（5.2+5.2） a3－c3：160?+152?（5.3?+5.0?）	－	11.4	SI38	SI61	
SB04	掘立柱建物跡	97	南北	N－6.0°－E	－	2 × 1	540（b1－b3）× 318（a3－b3）（18.0 × 10.4）	b1－b3：283+257（9.4+8.5） a1－a3：295+245（9.8+8.1）	b1－a1：318（10.6） b3－a3：318（10.6）	－	16.8	SI07・SI37	SI60・SI61	
SB05	掘立柱建物跡	97	東西	N－25.0°－W	－	3 以上×2 以上	485 以上（a1－a3）× 212 以上（a1－b1）（16.1 以上× 7.0 以上）	（55）+208+222 （（1.8）+6.9+7.4）	140+（72）（4.6+（2.4））	－	（10.9）	SI15		
SB06	掘立柱建物跡	98	東西	N－49.5°－E	－	1 × 1	415（a1－a2）× 305（a2－b2）（13.8 × 10.1）	a1－a2：415（13.8） b1－b2：415（13.8）	a1－b1：305（10.1） a2－b2：305（10.1）	－	12.5	SI12・SI43		
SB07	掘立柱建物跡	98	東西	N－30.0°－E	－	2 × 1	349（a1－a3）× 190（a1－b1）（11.6 × 6.3）	a3－a1：169+180（5.6+6.0） b3－b1：150+204（5.0+6.8）	a1－b1：190（6.3） a3－b3：190（6.3）	－	6.6			
SB08	掘立柱建物跡	99	東西	N－34.0°－E	－	4 × 2	819（c1－c5）× 415（a1－c1）（27.3 × 13.8）	a5－a1：212+201+201+208（7.0+6.7+6.7+6.9） c5－c1：216+192+201+210（7.2+6.4+6.7+7.0）	a1－c1：152+263（5.0+8.7） a5－c5：152+263（5.0+8.7）	－	34.0	SI17・SI66	SI64・SI65・SK066	

遺構No.	種別	挿図No.	棟方向	主軸方位	廂	規模 cm（尺）		柱間寸法 cm（尺）　1 尺＝ 30cm で算出		廂（入側）等	建坪㎡（）は身舎	切り合い関係		備考
						企画（身舎）	桁行×梁行（身舎）	桁行	梁行			古い	新しい	
SB09	掘立柱建物跡	100	南北	N－26.0°－E	－	2 × 1	285（a1－c1）× 290（a1－c1）（9.5 × 9.6）	a1－b1：285（9.5） a3－b3：285（9.5）	a1－a3：142+148（4.7+4.9） b1－b3：125+165（4.1+5.5）	－	8.3	SI26・SI44・SI45・SI68		
SB10A	掘立柱建物跡	101	東西	N－37.0°－W	－	2 × 1	420（a1－a3）× 199（a1－b1）（14.0 × 6.6）	a3－a1：218+202（7.2+6.7） b3－b1：188+232（6.2+7.7）	a1－b1：199（6.6） a3－b3：200（6.6）	－	8.4	SB10B		
SB10B	掘立柱建物跡	101	東西	N－28.5°－W	－	2 × 1	326（a1－a3）× 193（a1－b1）（10.8 × 6.4）	a3－a1：146+180（4.8+6.0） b3－b1：142+185（4.7+6.1）	a1－b1：193（6.4） a3－b3：193（6.4）	－	6.3		SB10A	
SB11	掘立柱建物跡	102	東西	N－47.0°－E	－	3 以上× 3	520 以上（d1－d3）× 522（a1－d1）（18.3 以上× 18.3）	d3－d1：（70）+190+260 （（2.3）+6.3+8.6）	d1－a1：205+162+155 （6.8+5.4+5.1）	－	（30.3）	SI46		
SB12	掘立柱建物跡	103	南北	N－13.5°－W	－	3 × 3	630（a1－a4）× 440（a4－d4）（21.0 × 14.6）	a1－a4：210+225+195 （7.0+7.5+6.5） d1－d4：218+205+205 （7.2+6.8+6.8）	a1－d1：172+134+132 （5.8+4.4+4.4） a4－d4：157+128+155 （5.2+4.4+4.9）	－	27.7	SI30・SI31・SI51	SI73・SI76・SI77・SI78・SB13	
SB13	掘立柱建物跡	104	東西	N－28.0°－E	－	1 × 1	350（a1－b1）× 270（a1－b1）（11.6 × 9.0）	a1－a2：350（11.6） b1－b2：347（11.5）	a1－b1：270（9.0） a2－b2：270（9.0）	－	9.5	SI51・SI76・SI77・SI78・SB12		
SB14	掘立柱建物跡	104	東西	N－17.0°－E	－	3 以上×3 以上	310 以上（a1－a3）× 205 以上（a1－c1）（10.8 以上× 7.2 以上）	（70）+100+140 （（2.3）+3.3+4.6）	100+80+（25） （3.3+2.6+（0.8））	－	（7.1）			
SB15	掘立柱建物跡	105	南北	N－10.5°－E	－	2 以上×2 以上	405 以上（a1－a2）× 220 以上（a1－b1）（14.0 以上× 7.7 以上）	355+（50）（11.8+（1.6））	（30）+190（（1.0）+6.3）	－	（9.7）	SI49・SI50・SI74	SI75	
SB16	掘立柱建物跡	106	東西	N－20.0°－W	－	4 以上× 2	755 以上（a1－a4）× 474 以上（a1－c1）（25.1 以上× 15.8 以上）	a4－a1：（26）+212+175+342 （（10.8）+7.0+5.8+11.4） c3－c1：（150）+194+249 （（5.0）+6.4+8.3）	a1－c1：210+235（7.0+7.8）	－	（35.8）	SI25・SI49・SK086	SI72	
SB17	掘立柱建物跡	107	東西	N－47.0°－E?	－	（梁行）3 間以上	（梁行）430（15.6 以上）	（130）+150+150 （（4.3）+5.0+5.0）	－	－	－	SA03		

第3表　柵列跡一覧表

遺構 No.	旧遺構 No.	挿図 No.	縮尺	区	主軸方向	長さ m	時期	切り合い関係		備考
								古い	新しい	
SA01		108	1：80	A2 ～ B2	N－80°－W	3.6	－			
SA02	SK114・SK310	108	1：80	C1 ～ D2	N－82°－E	4.2	－	SI11・SI39・SI45		
SA03	SK210・SK215・SK225	108	1：80	E4 ～西端区	N－88°－E	20.0	8 世紀頃	SI29・SI46・SX01	SB17	

第4表　溝・道路跡一覧表

（　）は現存値、？は推定復元値を示す。

遺構 No.	旧遺構 No.	遺構種	挿図 No.	縮尺	長軸 m	×	短軸 m	深度 m	主軸方向（E 東・W 西）	時期	切り合い関係		備考
											古い	新しい	
SD01	SD001	溝	109	1：80	（19.3）	×	0.5	0.3	N－22°－E	13 世紀後半～ 14 世紀前半	SI48・SI55・SI57・SK040		
SD02	SD002	道路	110	1：80	（12.2）	×	3.0	0.3 ～ 0.45	N－65°－W	13 世紀中葉～ 14 世紀初頭	SI02・SI54		

第5表　土坑一覧表

（　）は現存値、?は推定復元値を示す。

遺構 No.	旧遺構 No.	区	挿図 No.	縮尺	長軸 m	×	短軸 m	深度 m	主軸方向（E 東・W 西）	時期	切り合い関係		備考
											古い	新しい	
SK001	SK047	A3	30	1：80	0.9	×	0.7	0.8	N－10°－E	古墳中期（和泉式）			SI34 の貯蔵穴
SK002	SK070	B2	35	1：80	1.4	×	0.9	0.3	N－25°－E	古墳後期（鬼高式）	SI06		SI35 カマド？
SK003	SK061	B3 ～ B4	39	1：80	0.9	×	0.8	0.6	N－30°－W	古墳中期（和泉式）			SI37 の貯蔵穴
SK004	SK055	B4	42	1：80	0.7	×	0.6	0.5	－	古墳中期（和泉式）			SI38 の貯蔵穴
SK005	SK120	C3	47	1：80	0.5	×	0.3	0.5	N－45°－E	古墳後期（鬼高式）	SI40	SI66	SI41 の貯蔵穴
SK006	SI202P3	西端区	56	1：80	0.7	×	0.7	0.5	－	古墳中期（和泉式）			SI47 の貯蔵穴
SK007	SK200	D2 ～ D3	111・112	1：80	1.4	×	1.1	0.4	N－12°－W	9 世紀後半	SI17・SI18・SI19		廃棄坑？

遺構 No.	旧遺構 No.	区	挿図 No.	縮尺	長軸 m	×	短軸 m	深度 m	主軸方向（E 東・W 西）	時期	切り合い関係		備考
											古い	新しい	
SK008	SK204	E3	111・112	1：80	1.1	×	1.0	0.57	－	9 世紀中葉～ 10 世紀前葉	SI31		廃棄坑？
SK009	SK255	D3	111・112	1：80	1.2	×	0.9	0.5	N－35°－W	9 世紀		SI70	廃棄坑？
SK010	SK264	E1	111・113	1：80	1.5	×	1.3	0.3	N－43°－W	9 世紀			廃棄坑？
SK011	SK265	E2	111・113	1：80	1.2	×	1.2	0.4	－	9 世紀後葉	SI27		廃棄坑？
SK012	SK268	D4	111・113	1：80	0.7	×	0.7	0.3	－	9 世紀末～ 10 世紀前葉	SI25		
SK013	SK272	D2	111・114	1：80	2.0	×	1.4	0.6	N－45°－E	10 世紀前葉	SI27		廃棄坑？
SK014	SK276	D4	87	1：80	1.5	×	1.5	1.0	－		SI22・SI23・SI71		廃棄坑？
SK015	SK277	D4	111・114	1：80	1.2	×	1.1	0.6	－	9 世紀	SI22		廃棄坑？
SK016	SK278	D4	87	1：80	1.3	×	1.1	0.8	N－60°－E	9 世紀前葉～中葉	SI23	SI71・SK092	廃棄坑？
SK017	SK243	E3	111・114	1：80	1.5	×	0.9	0.9	N－86°－W	縄文時代？		SI49・SI74	落とし穴？
SK018	SK038	A1	111	1：80	0.8	×	－	0.65	－	9 世紀中葉以降？	Pit001	SK019	
SK019	SK039	A1	111	1：80	0.7	×	0.6	0.45	－	9 世紀中葉以降？	SK018		
SK020	SK062	A1	111	1：80	1.0	×	－	0.2	－				焼成坑？
SK021	SK005	A2	111	1：80	0.7	×	0.6	0.4	N－37°－E		SI03・SK025		
SK022	SK006	A2	111	1：80	0.9	×	0.6	0.2	N－16°－W				
SK023	SK007	A2	111	1：80	0.8	×	0.6	0.2	N－62°－W				
SK024	SK009	A2	111	1：80	1.0	×	0.6	0.2	N－11°－W				
SK025	SK024	A2	111	1：80	1.2	×	0.7	1.0	N－81°－E		SI03	SK021	
SK027	SK034	A2	111・113	1：80	0.5	×	0.5	0.1	－	中世			
SK028	SK037	A2	111	1：80	1.2	×	1.1	0.5	－				
SK029	SK064	A2	67	1：80	1.1	×	0.7	0.6	N－2°－W				
SK030	SK069	B2	111	1：80	1.8	×	1.2	0.2	N－2°－W				
SK031	SK113	A2	111	1：80	1.2	×	0.8	0.3	N－36°－E				
SK032	SK143	A2	111	1：80	0.7	×	0.5	0.2	N－66°－E				
SK033	SK145	A2	111	1：80	0.6	×	0.45	0.1	N－29°－E				
SK034	SK146	A2	111	1：80	0.7	×	0.55	0.1	N－26°－E				
SK035	SK023	A3	111	1：80	0.65	×	0.4	0.2	N－57°－E		SI34		
SK036	SK028	A3	111	1：80	0.9	×	0.7	0.2	N－24°－W		SI34		
SK037	SK144	A3	111	1：80	0.8	×	0.6	0.2	N－39°－E				
SK038	SK004	A4	111	1：80	0.8	×	0.6	0.5	N－69°－W		SI04	SI56	
SK039	SK022	A4	109	1：80	1.3	×	1.2	0.2	－	中世			
SK040	SK032	A4	109	1：80	0.9	×	－	0.1	－			SD01	
SK041	SK033	A4	111	1：80	0.5	×	0.5	0.2	－			SK114	
SK042	SK112	A4	6	1：80	0.8	×	0.7	0.2	－		SI04		
SK043	SK030	B1	111・115	1：80	1.1	×	0.9	0.5	N－89°－W	9 世紀末？	SI59		廃棄坑？
SK044	SK115	B1	9	1：80	0.65	×	0.65	0.7	－		SI08		
SK045	SK116	B1	111	1：80	1.9	×	1.2	0.15～0.3	N－46°－W	9 世紀中葉		SI58	
SK047	SK013	B2	111	1：80	0.7	×	0.4	0.2	N－18°－W				
SK048	SK138	B2	111	1：80	0.7	×	0.25	0.3	N－7°－E				
SK049	SK140	B2	111	1：80	0.7	×	0.4	0.2	N－9°－E				
SK050	SK141	B2	111	1：80	0.85	×	0.55	0.2	N－16°－E				
SK051	SK142	B2	111	1：80	0.6	×	0.35	0.1	N－17°－W				
SK052	SK147	B2	111	1：80	1.7	×	1.25	0.4	N－3°－W				
SK053	SK018	B3	111	1：80	－	×	0.6	0.2	N－45°－W			SK054	
SK054	SK020	B3	111	1：80	0.8	×	0.65	0.2	N－78°－W		SK053		
SK055	SK045	B3	111	1：80	1.2	×	1.0	0.4	N－22°－w		SI37		
SK056	SK078	B3	111	1：80	1.0	×	0.6	0.1	N－67°－W		SI07		
SK057	SK082	B3	111	1：80	1.25	×	0.8	0.5	N－34°－W		SI37	SI60	
SK058	SK080	B4	111	1：80	1.35	×	0.25	0.3	－				
SK059	SK081	B4	111	1：80	0.5	×	0.35	0.6	N－58°－E				

遺構 No.	旧遺構 No.	区	挿図 No.	縮尺	長軸 m	×	短軸 m	深度 m	主軸方向（E 東・W 西）	時期	切り合い関係		備考
											古い	新しい	
SK060	SK100	B4	111	1：80	0.6	×	0.5	0.4	－				
SK061	SK111	B4	111	1：80	0.85	×	0.6	0.1	N－36°－E		SI48		
SK062	SK123	B4	111	1：80	0.5	×	0.4	0.5	－				
SK063	SK128	B4	111	1：80	0.5	×	0.5	0.2	－		SI37		
SK064	SK129	B4	111	1：80	0.55	×	0.4	0.2	N－44°－E				
SK065	SK053	C1	111	1：80	0.9	×	0.8	0.2	－		SI08・SI09		
SK066	SK057	C2	78	1：80	1.1	×	0.8	0.9	N－31°－W		SI64・SB08		
SK067	SK133	C2	111	1：80	0.65	×	0.5	0.4	東西		SI36		
SK068	SK135	C2	111	1：80	0.65	×	0.5	0.4	N－39°－W				
SK069	SK136	C2	111	1：80	0.7	×	0.45	0.5	N－39°－W				
SK070	SK315	C2	111	1：80	0.5	×	0.4	0.4	－				
SK071	SX001	C2 ～ C3	111・115	1：80	2.8	×	1.0	1.2	N－6°－W	縄文時代？		SI64・SI65・SK072・SK118	
SK072	SK036	C3	80	1：80	0.9	×	0.75	0.4	N－35°－E		SI65・SK071		
SK073	SK087	C3	111	1：80	0.7	×	0.55	0.3	N－12°－W				
SK074	SK296	C3	17	1：80	0.9	×	0.65	0.3	N－44°－E	弥生後期？			貯蔵穴
SK075	SK119	C4	50	1：80	0.65	×	0.65	0.4	－		SI43		貯蔵穴
SK076	SK127	C4	111	1：80	0.5	×	0.3	0.1	N－85°－W		SI37		
SK077	SK292	C4	111	1：80	0.55	×	0.3	0.2	東西				
SK078	SK228	D1	111	1：80	0.9	×	0.75	0.4	N－34°－W				
SK079	SK304	D1	111	1：80	0.95	×	0.8	0.3	N－15°－E		SI26	SI67	
SK080	SK307	D1	21	1：80	0.5	×	0.4	0.8	－			SI67	
SK081	SK281	D2	111	1：80	1.2	×	0.95	0.3	N－28°－W	9 世紀以降			墨書土器「大」出土
SK082	SK284	D2	111	1：80	0.85	×	0.75	0.4	－				
SK083	SK303	D2	53	1：80	0.8	×	0.6	0.4	N－25°－W		SI45		
SK084	SK305	D2	53	1：80	0.7	×	0.6	0.6	－		SI45		
SK085	SK316	D2	111	1：80	1.1	×	1.1	0.2	N－36°－W		SI45		
SK086	SK250	D3	111	1：80	0.9	×	0.7	0.1	N－28°－E			SB16	
SK087	SK253	D3	111	1：80	0.8	×	0.65	0.2	N－52°－E		SI28	SI70	
SK088	SK254	D3	111	1：80	0.8	×	0.6	0.3	N－15°－W		SI28	SI70	
SK089	SK256	D3	111	1：80	0.65	×	0.45	0.1	N－59°－W			SI70・Pit024	
SK090	SK301	D2 ～ D3	111・115	1：80	1.35	×	0.8	0.6	N－27°－E	縄文時代？		SI18・SI19・SI69	落とし穴？
SK091	SK270	D4	111	1：80	1.4	×	1.2	0.2	N－71°－E	9 世紀			廃棄坑？
SK092	SK273	D4	111	1：80	0.65	×	0.5	0.1	N－79°－E		SI23・SK016	SI71	
SK093	SK289	D4	111	1：80	0.5	×	0.5	0.3	－		SI23		
SK094	SK219	E1	111	1：80	0.55	×	0.45	0.3	－	9 世紀中葉？	SI46		
SK095	SK286	E1	111	1：80	0.5	×	0.35	0.2	N－54°－E		SI44	SI68	
SK096	1030－1	E1	111・115	1：80	0.7	×	0.4	(0.1)	N－71°－E	9 世紀中葉	SI26		
SK097	SK263	E2	111	1：80	0.5	×	0.5	0.2	－				
SK098	SK266	E2	111	1：80	0.75	×	0.5	0.4	N－60°－W		SI27		
SK099	SK239	E3	111	1：80	0.5	×	0.35	0.1	N－15°－E				
SK100	SK240	E3	111	1：80	0.7	×	0.5	0.3	N－17°－E				
SK101	SK248	E3	111	1：80	0.95	×	0.45	0.1	N－70°－E		SI31		
SK102	SK324	法定外道路区	111	1：80	0.6	×	0.5	0.3	－		SI51		
SK103	SK327	法定外道路区	25	1：80	0.7	×	0.55	0.2	N－48°－E		SI46		貯蔵穴？
SK104	SK330	法定外道路区	54	1：80	－	×	0.5	0.4	N－25°－W		SI29・SI46		
SK105	SK208	西端区	111	1：80	0.7	×	0.6	0.1	－		SX01		
SK106	SK212	西端区	111	1：80	0.5	×	0.4	0.2	－				
SK107	SK224	西端区	111	1：80	0.65	×	0.6	0.3	－				
SK108	SK230	西端区	111	1：80	0.6	×	0.4	0.7	N－67°－W				
SK109	SK148	B1	111	1：80	0.55	×	0.45	0.6	－				
SK110	SK131	B3	111	1：80	0.5	×	0.3	0.1	N－90°－W		SI37	SI60	

遺構 No.	旧遺構 No.	区	挿図 No.	縮尺	長軸 m	×	短軸 m	深度 m	主軸方向（E 東・W 西）	時期	切り合い関係		備考
											古い	新しい	
SK111	SK089	C4	111	1：80	0.35	×	0.2	0.4	N－86°－W				
SK112	SK269	E2	111・115	1：80	1.2	×	0.7	0.7	N－11°－E	縄文時代？			落とし穴？
SK113	方形土坑－1	A4	109	1：80	1.7	×	1.2	0.3	N－66°－W	中世			
SK114	方形土坑－2	A4	109	1：80	－	×	1.7	0.4	－	中世	SK041		
SK115	SK117	B1	73	1：80	1.5?	×	1.35?	0.3	N－38°－W	9 世紀後～ 10 世紀前葉	SI58	SK116	廃棄坑？
SK116	SK118	B1	73	1：80	1.0?	×	0.75	0.3	N－39°－W	9 世紀後～ 10 世紀前葉	SI58・SK115		廃棄坑？
SK117	1031－3	D3	15	1：80	0.6	×	0.45	0.1	N－6°－E		SI18・SI9・SI20		
SK118	SK085	C2	111	1：80	0.7	×	0.6	0.8	－		SK071		
SK119	SK063	A1	111	1：80	0.9	×	0.7	0.3	N－20°－W		SI02	SI54	焼成坑？
SK120	SK229	E3	61	1：80	－	×	－	0.6	－		SI50		

第6表　ピット一覧表

遺構 No.	旧遺構 No.	区	挿図 No.	縮尺	長軸 m	×	短軸 m	深度 m	時期	切り合い関係		備考
										古い	新しい	
Pit001	SK017	A1	111	1：80	0.40	×	－	0.1	9 世紀中葉以降？		SK018	
Pit002	SK040	A1	111	1：80	0.36	×	0.30	0.35				
Pit003	SK149	B1	111	1：80	0.46	×	0.34	0.3				
Pit004	SK035	B2	111	1：80	0.46	×	0.44	0.3		SI05		
Pit005	SK139	B2	111	1：80	0.40	×	0.22	0.1				
Pit006	SK121	B3	111	1：80	0.42	×	0.28	0.5				
Pit007	SK097	B4	111	1：80	0.36	×	0.26	0.3				
Pit008	SK104	B4	111	1：80	0.44	×	0.36	0.30				
Pit009	SK105	B4	111	1：80	0.32	×	0.26	0.4				
Pit010	SK106	B4	111	1：80	0.42	×	0.34	0.4				
Pit011	SK110	B4	111	1：80	0.28	×	0.24	0.4				
Pit012	SK130	B4	111	1：80	0.42	×	0.32	0.2		SI37		
Pit013	SK150	C1	111	1：80	0.54	×	0.50	0.3				
Pit014	SK134	C2	111	1：80	0.48	×	0.25	0.4				
Pit015	SK132	C3	111	1：80	0.28	×	0.28	0.4		SI36		
Pit016	SK298	C3	111	1：80	0.32	×	0.28	0.2		SI17・SI18・SI19		
Pit017	SK088	C4	111	1：80	0.32	×	0.20	0.3				
Pit018	SK090	C4	111	1：80	0.48	×	0.34	0.3				
Pit019	SK124	C4	111	1：80	0.40	×	0.30	0.2				
Pit020	SK125	C4	111	1：80	0.34	×	0.22	0.1			SI37	
Pit021	SK126	C4	111	1：80	0.28	×	0.20	0.1			SI37	
Pit022	SK299	D2	111	1：80	0.40	×	－	0.2			SI45	
Pit023	SK257	D3	111	1：80	0.42	×	0.36	0.1			SI70	
Pit024	SK258	D3	111	1：80	－	×	0.38	0.2		SK089	SI70	
Pit025	SK274	D4	111	1：80	0.28	×	0.22	0.2				
Pit026	SK275	D4	111	1：80	0.18	×	0.18	0.4			SI71	
Pit027	SK205	E3	59	1：80	0.46	×	0.38	0.4				SI49 の梯子穴
Pit028	SK237	E3	111・117	1：80	0.75	×	－	0.45	5 世紀			
Pit029	SK320	法定外道路区	111	1：80	0.48	×	0.42	0.2		SI51		

第7表　性格不明遺構一覧表

遺構 No.	旧遺構 No.	種別	挿図 No.	縮尺	区	主軸方向	主軸 m	×	副軸 m	時期	切り合い関係		備考
											古い	新しい	
SX01	SI211	不整形遺構	118	1：80	西端区	南北？	5.2	×	3.6	古墳時代前期（草刈式）		SA03・SK105	

第8表　掘立柱建物跡・柵列　柱穴新旧番号対応表

遺構No.	柱穴No.	旧遺構No.	深度（m）
SB01	a1	SI044P1	0.5～0.6
	a2	SK079	0.4
	a3	SK043	0.3～0.4
	b1	SK042	0.3～0.4
	b2	SK041	0.4～0.5
	b3	0823－13	0.3～0.4
	c1	SK122	0.4
	c2	0823－12	0.2
	c3	SK026	0.4～0.5
	d1	SK011	0.35
	d2	SK027	0.2
	d3	－	－
SB02	a1	SK029	0.5～0.6
	a2	SK046	0.5
	a3	SK077	0.4
	b1	SK025	0.5～0.6
	b2	SK048	0.5
	b3	SK050	0.7～0.8
SB03	a1	SK002	0.5
	a2	－	－
	a3	SK054	0.5
	b1	SK001	0.5
	b3	－	－
	c1	SK003	0.4
	c2	SK095	0.4
	c3	－	－
SB04	a1	0823－16	0.4
	a2	SI032P16	0.5
	a3	SK075	0.6
	b1	SK056	0.4
	b2	SI051P2	0.6
	b3	SI051P6	0.7
SB05	a1	SK099	0.3
	a2	SK107	0.4
	a3	SK065	0.4
	b1	SK102	0.3
SB06	a1	SK291	0.4
	a2	SK074	0.5
	b1	SK071	0.2
	b2	SK075	0.5～0.6
SB07	a1	0823－34	0.2～0.3
	a2	0823－41	0.3
	a3	0823－44	0.3～0.4
	b1	0823－36	0.5
	b2	0823－42	0.4
	b3	SK137	0.8～0.9
SB08	a1	SK058	0.9
	a2	SK073	0.5
	a3	SK060	0.5
	a4	SK313	0.2
	a5	SK311	0.5
	b1	SK059	0.6
	b5	SK312	0.2
	c1	SK052	0.5～0.6
	c2	SK067	0.4
	c3	SK317	0.4
	c4	SK318	0.5
	c5	SK321	0.6
SB09	a1	SK294	0.4
	a2	SK290	0.4
	a3	SK295	0.1～0.2
	b1	SK293	0.5～0.6
	b2	SI232P10	0.4
	b3	SI232P8	0.3～0.4

遺構No.	柱穴No.	旧遺構No.	深度（m）
SB10A	a1	SK226	0.2～0.3
	a2	20241015－6	0.25
	a3	SK232	0.4
	b1	SK279	0.2
	b2	1108－29	0.2
	b3	1108－26	0.2
SB10B	a1	SK233	0.3
	a2	20241015－6	0.25
	a3	SK231	0.2
	b1	SK282	0.2
	b2	1108－29	0.2
	b3	1108－27	0.3～0.4
SB11	a1	SK221	0.5
	b1	SK235	0.3
	c1	SK331	0.4
	d1	1108－19	0.2
	d2	SK217	0.3
	d3	SK216	0.4
SB12	a1	SK309	0.3～0.5
	a2	1105－1	0.3
	a3	SK319	0.4
	a4	SK407	0.3
	b1	SK323	0.4
	b4	SK267	0.4
	c1	SK241	0.4
	c4	SK261	0.4
	d1	SK242	0.6
	d2	20241015－16	0.4
	d3	SK246	0.4
	d4	1002－1	0.2～0.3
SB13	a1	20240930－3	0.4
	a2	1105－7	0.6～0.7
	b1	SK322	0.8
	b2	SK222	0.6
SB14	a1	20240919－8	0.2
	a2	SK211	0.4
	a3	20240919－6	0.1
	b1	20240919－10	0.2
	c1	20240919－11	0.1
SB15	a1	SK227	0.3～0.4
	a2	SK234	0.3
	b1	SK245	0.3
SB16	a1	SK249	0.2
	a2	SK206	0.3
	a3	SK201	0.1
	a4	20241003－6	0.3
	b1	20241021－3	0.2
	c1	SK280	0.3～0.4
	c2	20241016－16	0.1
	c3	SK271	0.5
SB17	a1	SK225	0.3
	b1	SK203	0.1
	c1	20240919－13	0.2
SA01	P1	0823－29	0.2
	P2	0823－26	0.2
	P3	0823－25	0.2
	P4	0823－3	0.2
	P5	0823－1	0.1
SA02	P1	SK310	0.8
	P2	20241023－29	0.2
	P3	SK114	0.8
SA03	P1	20240920－2	0.5
	P2	SK210	0.4
	P3	SK215	0.2
	P4	SI214カマド掘方？	0.4
	P5	20241003－17	0.3
	P6	20241003－35	0.2

第9表　確認・本調査遺構番号対応表

確認調査（令和5年度報告）	本調査（令和6年度報告）
SI01	SI04
SI02	SI38
SI03	SI34
SI04	
SI05	
SI06	
SI07	
SI08	SI37
SI09	SD02
SI10	SI64・SK071
SI11	SI66
SI12	SI41
SI13	SI22
SI14	SI05
SI15	SI10
SI16	－
SI17	SI11
SI18	SI39
SI19	SI28
SI20	SI69
SI21	SI73
SI22	SI30
SI23	SI31
SI24	SI79
SI25	SI51
SI26	調査区外
SI27	調査区外
SK01	SB03b1
SK02	SK040
SK03	－
SK04	SB01a2
SK05	－
SK06	SB06b1
SK07	SB16c1
SK08	SK015
SK09	－
SK10	SK008
SK11	SB12d4
SK12	調査区外
Pit01	SB03a1
Pit02	－
Pit03	SB01a3
Pit04	－
Pit05	SI018－P18
Pit06	SI018－P19
Pit07	SK014
Pit08	－
Pit09	－
Pit10	－
Pit11	調査区外
Pit12	調査区外
Pit13	調査区外
Pit14	調査区外
SD01	SD01

第１章　調査の経緯と概要

第１節　調査に至る経緯

今回の発掘調査は千葉県市原市潤井戸字西ノ崎720番1、720番2、720番3、756番2、地先道路水路における店舗新設事業に伴い実施したものである。株式会社セブン−イレブン・ジャパンは工事に先立ち、令和５年２月27日付けで文化財保護法第93条に基づく届出を提出し、これを受けた市原市教育委員会文化財課は試掘を実施した。この結果、遺構・遺物を確認し、令和５年３月30日付けで千葉県教育委員会へ進達した（市教文第6969号）。届出と試掘結果を受けた県教委は令和５年４月21日付けで事業地内における発掘調査を指示する文書を事業者に通知した（教文第122号の116）。事業者の計画実施の方針に変更はなかったため、事業範囲2,770㎡のうち277㎡を対象に市教委が国庫補助事業（令和５年度市内遺跡発掘調査事業）として確認調査を行った（令和５年６ 月５日〜令和５年７ 月14日）。確認調査結果に基づき、事業者と市教委及び県教委が協議を重ねたところ、保存困難な埋蔵文化財について、事業者負担による記録保存の措置をとることとなり、2,059.69㎡を対象に本調査を実施することとなった。

第２節　遺跡周辺の地理的環境（第１・２図）

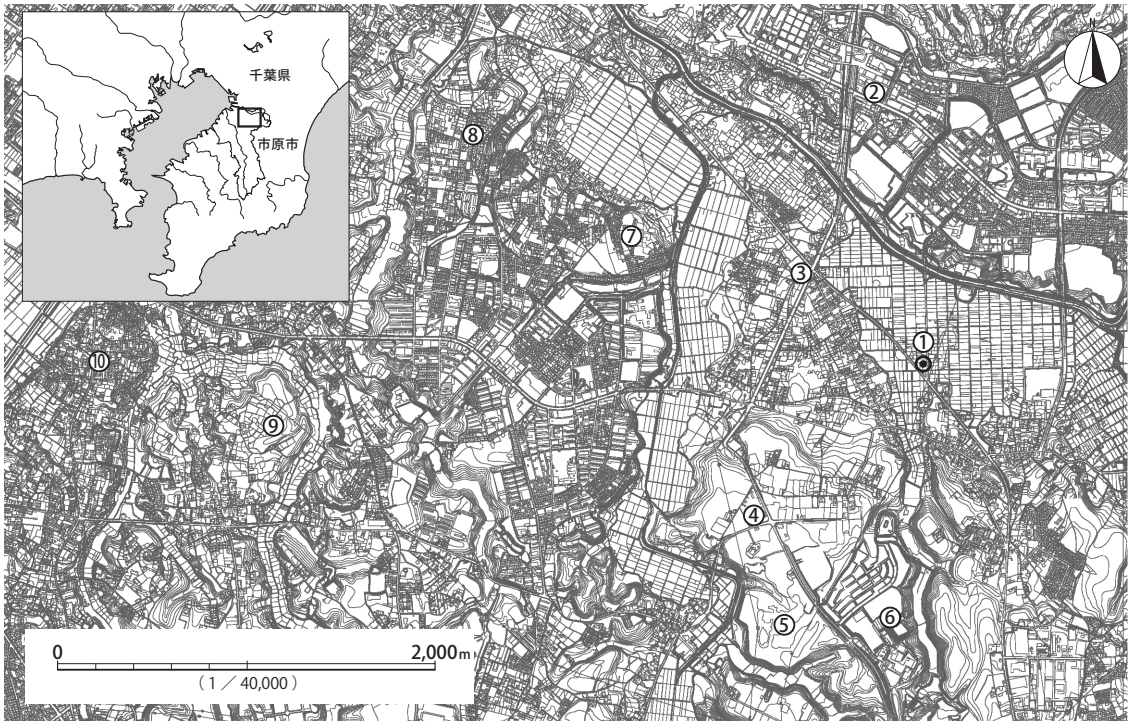
遺跡は市原市北部を東京湾に向かって西流する村田川とその支流の開析によって形成された標高約17mの低位段丘面に位置する。周辺には樹枝状の開析谷によって画された菊間、大厩地区などの台地があり、それぞれの平坦面上で多くの遺跡が確認されている。また今回調査区を含む包蔵地範囲は潤井戸遺跡群西部の微高地上に広がると想定され、南方の尾根状部先端には全長35mの前方後円墳である宿後古墳が位置する。この旧地形は昭和36年の航空写真（図版１）でも白黒の陰影で僅かに確認でき、現在でも遺跡範囲は周囲と比べて標高が少し高い。

今回の調査区近隣では東方約600m地点で潤井戸鎌之助遺跡の発掘調査が行われており縄文時代中期後半〜古墳時代終末期の竪穴建物跡、古墳時代終末期の掘立柱建物跡などが確認されている（鶴岡1998）。北西約800mには潤井戸西山遺跡があり、弥生時代中期の環濠の一部や古墳時代前期〜後期の竪穴建物跡、奈良・平安時代の竪穴建物跡や柵列跡・四脚門跡が確認されている（鈴木1986）。さらにこの遺跡の北西には草刈尾梨遺跡が隣接し、主に古墳時代後期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が検出されている（半田1992）。また南方約600mには潤井戸山王後古墳群、潤井戸小谷古墳群が分布しており、その内、山王後１号墳と小谷１号墳については発掘調査の結果から遅くとも古墳時代後期には築造されたと推定されている（祭り野遺跡・山王後古墳発掘調査団1982、高橋1992）。さらに周辺には下野寺谷古墳群（一部本調査）や全長56.5mの前方後円墳を含む潤井戸杉山古墳群などがあり、調査区は多くの古墳に囲まれた立地である。

第３節　調査の成果

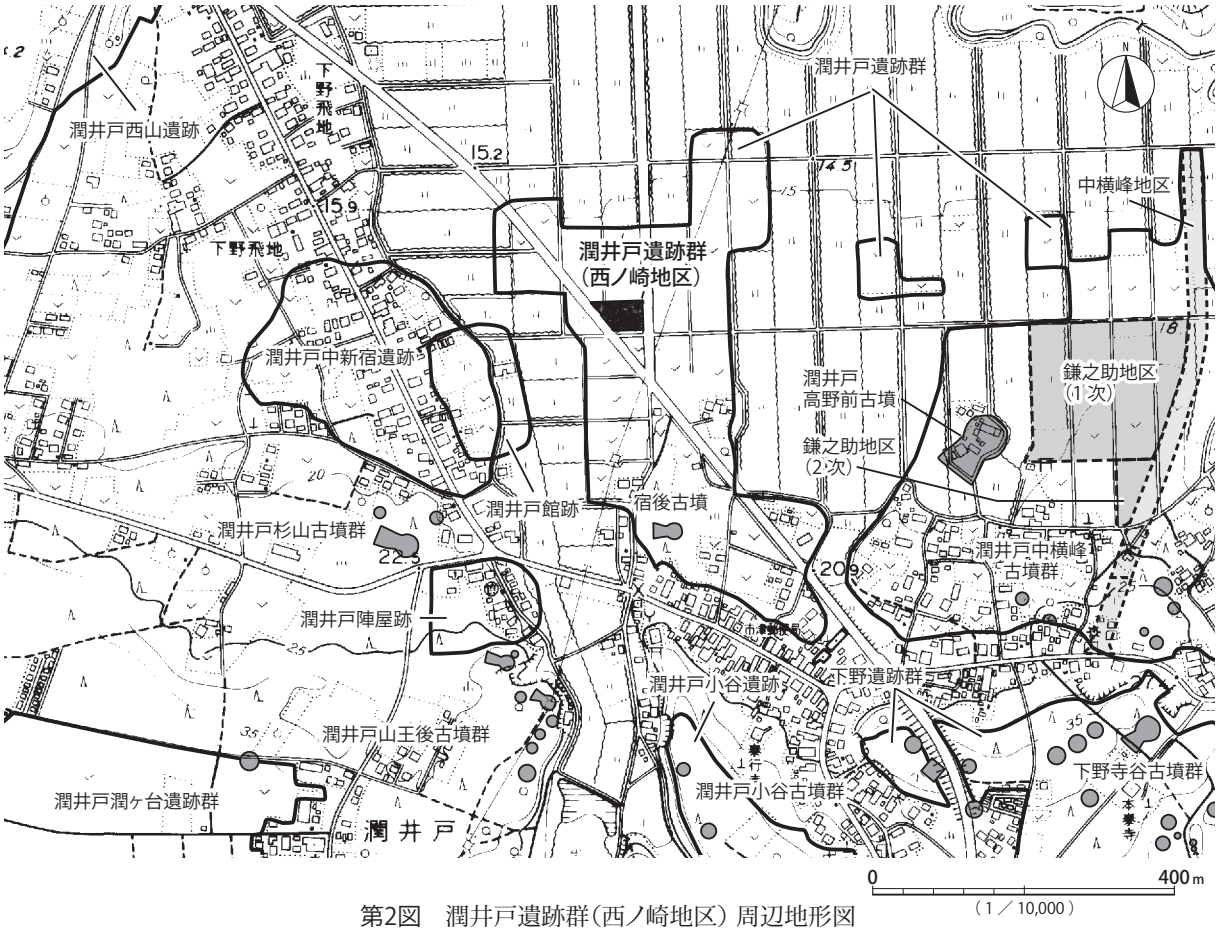
（１）調査概要（第３図）

今回の調査は確認調査の結果を受けて遺跡保存困難な2,059.69㎡の範囲を対象とした調査である。調査前の現地は畑地であった。測量基準点は座標値（世界測地系）を使用し、方眼杭を打設した。表



① 潤井戸遺跡群（西ノ崎地区）　② 草刈遺跡群　③ 潤井戸西山遺跡　④ 潤井戸潤ヶ台遺跡群
⑤ 潤井戸潤ヶ広遺跡　⑥ 下鈴野遺跡　⑦ 大厩遺跡群　⑧ 辰巳台遺跡群　⑨ 能満遺跡群　⑩ 郡本遺跡群

第1図　潤井戸遺跡（西ノ崎地区）及び周辺遺跡位置図



第2図　潤井戸遺跡群（西ノ崎地区）周辺地形図

土は重機により除去し、遺構プランを確認した。表土からローム層上面までの黒色土層中に竪穴建物床面に伴う硬化面が検出されていることから、遺構確認面は主に上層と下層の２段階ある。特に上層の遺構確認面は色や含有物の差異から判別することは困難であり、出土遺物の密度やカマド（白色粘土の含有密度）から判別した。遺構確認面の深度は上層で約0.3m、下層で約0.4 ～ 0.8mであった。遺構の保存状況は比較的良好だった。

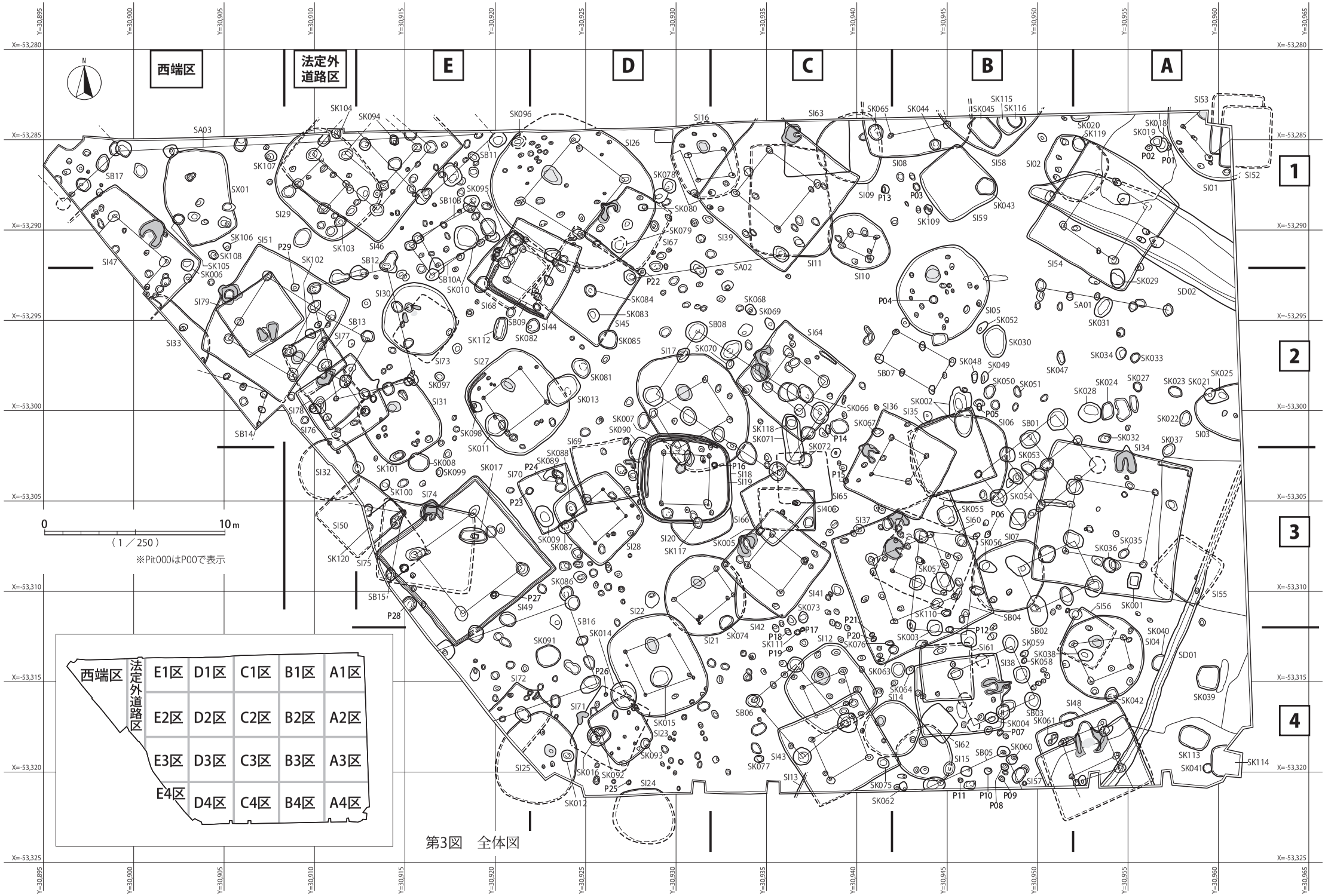
（２）調査方法

調査区全体を第３図のように法定外道路区を挟んで西側を「西端区」とし、東側を１辺10mのグリッド20区に分けた。着手は、法定外道路が周辺の畑地への通用路として利用されていたことを考慮し、東側東部→東側西部・西端区→法定外道路区の順とし、東側調査区はスイッチバックを実施した。

遺構検出時には確認調査成果を踏まえて、弥生時代後期から平安時代に属する遺構を想定し、上層・下層の検出面で段階的に遺構確認を行った。検出遺構のうち小規模なものはサブトレンチを設定し層序を確認した後に層位ごとに掘り下げを行った。竪穴建物等についてはセクションベルトを設定し、覆土を掘り下げた。カマドは周辺の土を除去し袖部を露出させた後、焚き口と煙道の軸に対して直交・平行方向にサブトレンチを掘り下げ、土層断面図を作成した。

出土遺物のうち、小片は層位毎、遺構毎または区毎に収集した。また出土位置記録遺物や遺構プランについては遺構実測支援システム（遺構くんcubic）を用いて、位置及び標高（X・Y・Z座標）を記録した。遺構・遺物の検出状況はデジタルカメラ（PENTAX K－1 Mark II）で撮影した。

なお、確認調査と本調査の遺構番号の対応は第９表の通りである。


西端区
法定外道路区
E
D
C
B
A
1
2
3
4
0
10m
（1／250）
※Pit000はP00で表示
西端区
法定外道路区
E1区
D1区
C1区
B1区
A1区
E2区
D2区
C2区
B2区
A2区
E3区
D3区
C3区
B3区
A3区
E4区
D4区
C4区
B4区
A4区

第3図　全体図

第２章　遺構と遺物

調査の結果、縄文時代と推測される落とし穴３基、弥生時代の竪穴建物跡31棟・土坑１基・ピット１基、古墳時代の竪穴建物跡15棟・土坑６基、奈良時代竪穴建物跡４棟・掘立柱建物跡２棟、平安時代竪穴建物跡27棟・掘立柱建物跡15棟・土坑18基、中世の掘立柱建物跡１棟・溝１条・道路１条・土坑４基、不明遺構１基、時期不明竪穴建物跡２棟・柵列３条・土坑85基・ピット28基が検出された。遺物は弥生時代後期～終末期、古墳時代中期～終末期、奈良・平安時代の土器を中心に、27ℓコンテナ約82箱分が出土しており、時期は縄文時代早期から中世にわたる。

第１節　竪穴建物跡

弥生時代

SI01（第４図、図版４・22・37）

形態・規模　A1区に位置し南西部を除く遺構の大半は調査区外へ続く。竪穴平面形は円形を呈すると考えられ、柱穴列から推定される主軸方位はN－40°－Wである。床までの深さは約0.4m、調査区北隅に地床炉があり、深度は約0.2mである。柱穴は２箇所確認されており、柱心々間距離は約2.2m、深度はP1約0.5m、P2約0.2mである。また小穴（ア）・（イ）の深度は浅いものの、地床炉と対面側の壁際に位置することから、両者は貯蔵穴の可能性がある。東側壁沿いには平安時代の竪穴建物であるSI52・53が位置するが、これら遺構の掘り込みは浅い。

出土遺物　１は高杯、２は鉢、３は壺であり、いずれも後期（山田橋式）の特徴を示す。４～７は甕であり後期（久ヶ原式～山田橋式）の所産と考えられる。本遺構は弥生時代後期後半、山田橋式期に帰属すると思われる。

SI02（第５図、図版４・22・37・53）

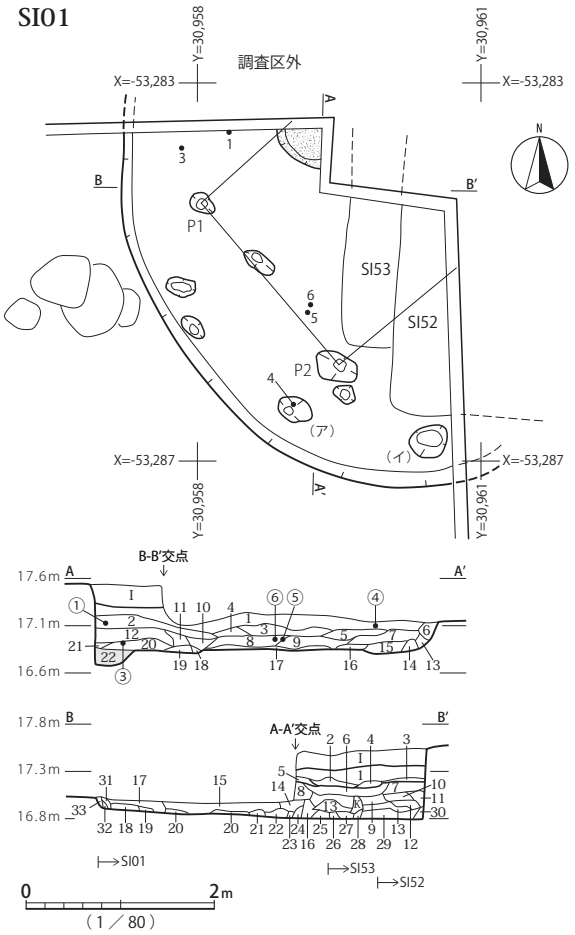
形態・規模　A1～B1区に位置し、遺構の東側の大半が平安期の竪穴建物SI54や中世道路SD02によって破壊されている。竪穴平面形は不整円形を呈していたと考えられ、床までの深さは約0.2mである。柱穴及び地床炉は確認されていないが、地床炉はSI54に破壊されたと思われる。また小穴（ア）は貯蔵穴、（イ）は梯子穴の可能性がある。

出土遺物　１は高杯、２は甕でありどちらも後期（久ヶ原式～山田橋式）のものと思われる。３は砥石として使用した軽石、４は泥岩製砥石である。本遺構は弥生時代後期（久ヶ原式～山田橋式期）に帰属すると思われる。

SI03（第５図、図版５・37）

形態・規模　A2区に位置し、遺構の東側は調査区外へ続く。竪穴平面形は楕円形を呈していたと考えられ、床までの深さは約0.1～0.2mである。床面表面からは焼土塊が部分的に確認されており、地床炉と思われる。柱穴は検出されていない。本遺構は遺構確認面から床面の深度が非常に浅く、遺構の大半は後世の耕作等により破壊されたものと考えられる。

出土遺物　１・２ともに壺であり、いずれも弥生時代中期後葉、宮ノ台式に位置付けられる。出土遺



A-A'

自然堆積層

Ⅰ	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性なし

SI01

1	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
2	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 5 層と同じ
3	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
4	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
5	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
6	10YR	6/6	明黄褐	ロ粒(1～3mm)多量	しまりやや強い　粘性なし
7	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
8	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
9	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～3mm)少量、ロブ(5mm 程度)含む、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
10	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、ロブ(5mm 程度)微量、炭粒微量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
11	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～5mm)多量	しまりやや強い　粘性あり
12	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量	しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 8 層と同じ
13	10YR	4/4	褐	ロ粒(1mm 程度)微量	しまりやや強い　粘性なし
14	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
15	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
16	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
17	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
18	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む	しまりやや強い　粘性なし
19	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 以下)少量	しまりやや強い　粘性なし　B-B'の 24 層と同じ
20	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 14 層と同じ
21	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
22	10R	5/8	赤	焼粒多量、焼ブ多量	しまり強い　粘性なし

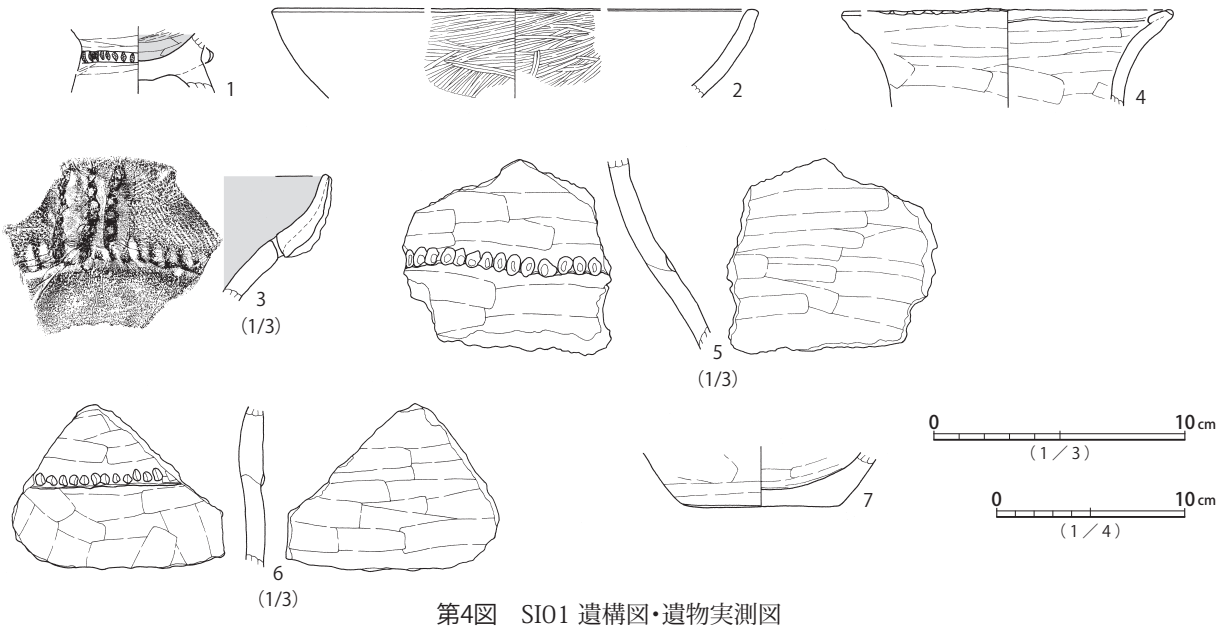
B-B'

自然堆積層

Ⅰ	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性なし

SI01

1	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
2	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
3	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量	しまり非常に強い　粘性あり　SI52・53 貼床
4	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
5	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 2 層と同じ
6	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
7	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
8	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量	しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 12 層と同じ
9	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)微量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
10	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
11	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
12	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
13	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
14	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 20 層と同じ
15	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
16	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量	しまり弱い　粘性あり
17	10YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
18	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
19	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒微量	しまり弱い　粘性あり
20	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
21	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量	しまり弱い　粘性あり
22	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
23	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量	しまり弱い　粘性あり
24	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 以下)少量	しまりやや強い　粘性なし　A-A'の 19 層と同じ
25	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
26	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量	しまり弱い　粘性なし
27	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
28	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒微量	しまり弱い　粘性あり
29	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
30	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
31	10YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量	しまり弱い　粘性あり
32	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量	しまり弱い　粘性あり
33	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量	しまり弱い　粘性あり

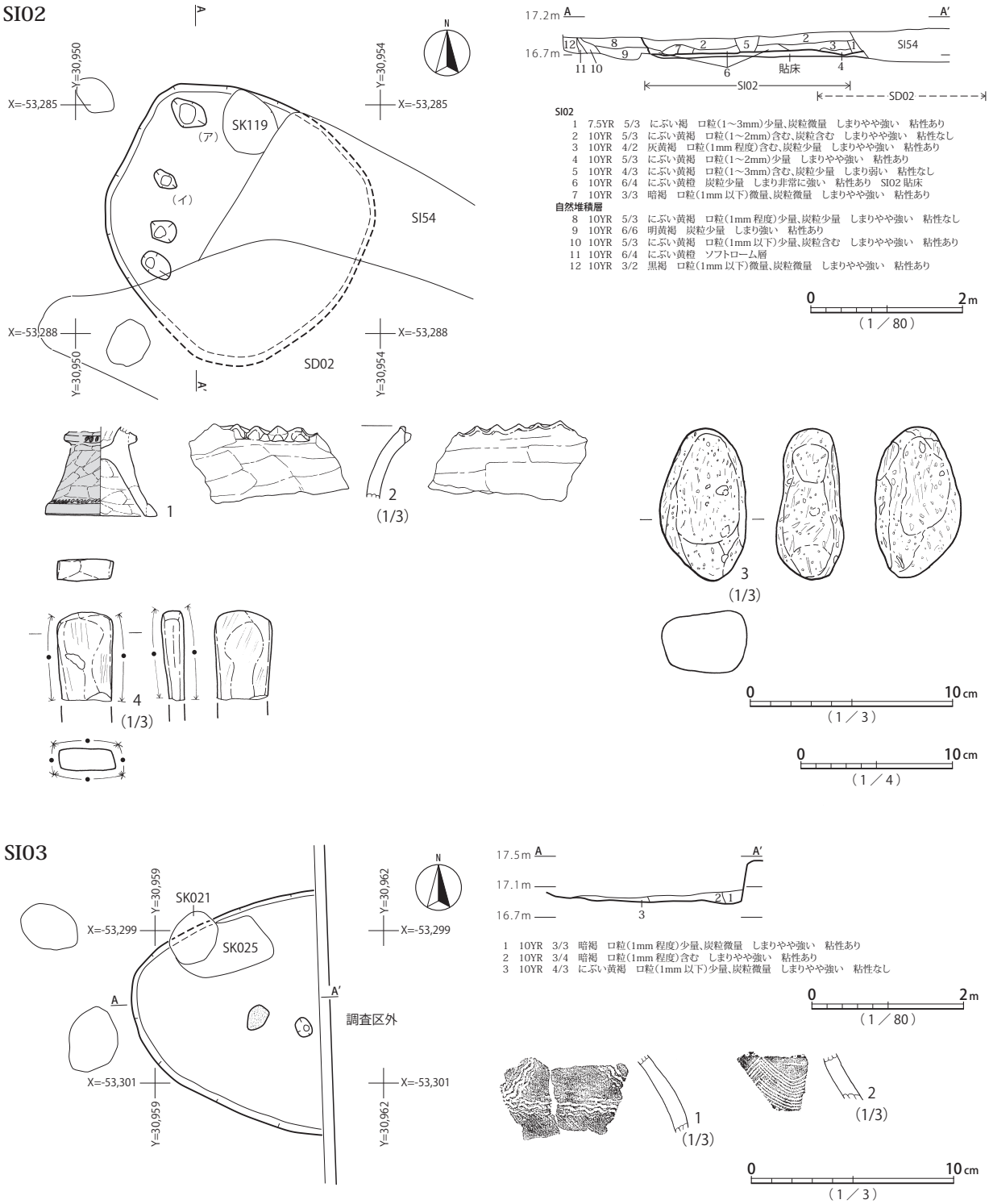


第4図　SI01 遺構図・遺物実測図

物が限られ、遺構の遺存状態も悪いため不確実だが、平面形が円に近いことから弥生時代後期の所産と推定する。

SI04・SK042（第 6 図、図版 5・22・37・51・55・57）

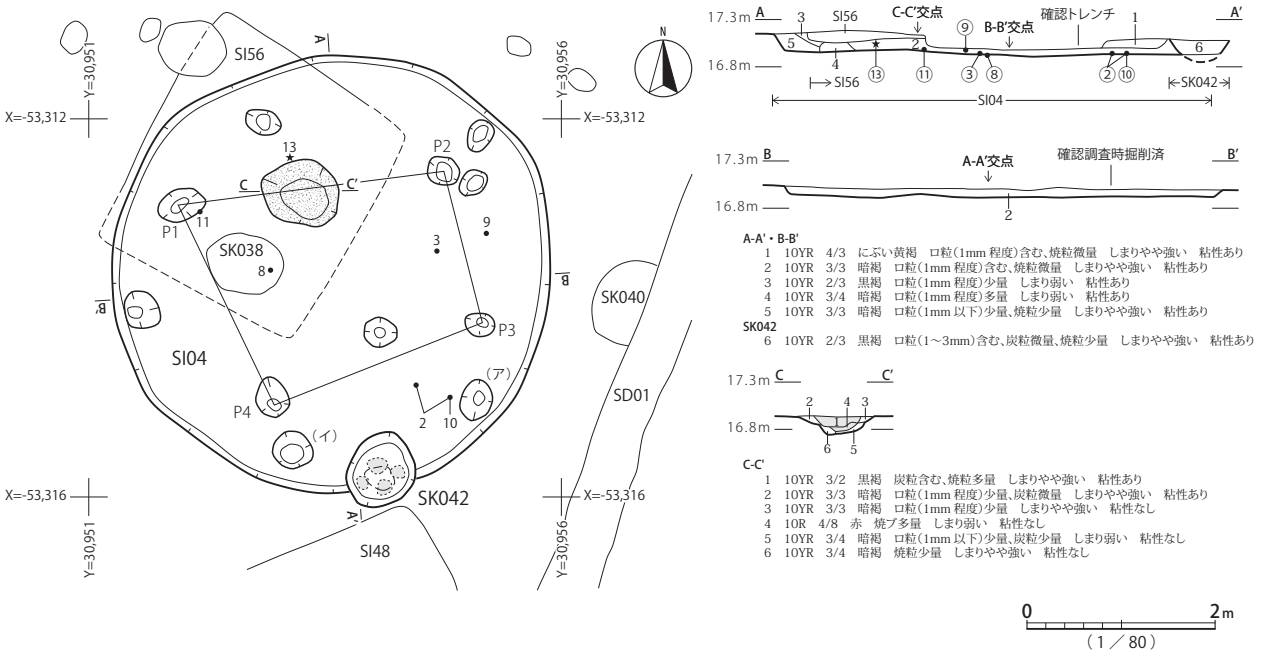
形態・規模　A4～B4 区に位置する。竪穴平面形は直径約 4.6～4.8m の円形を呈し、床までの深さは



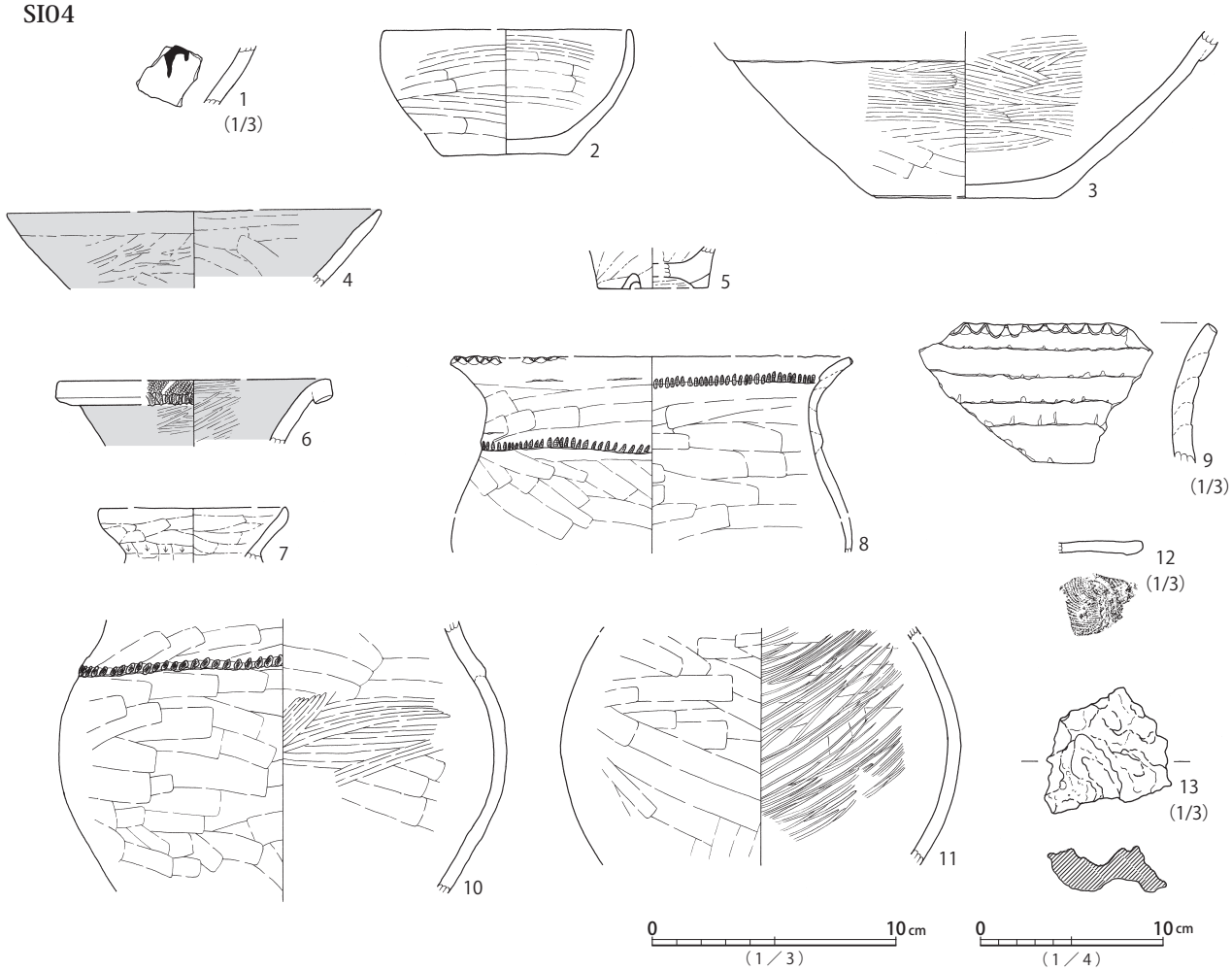
第5図 SI02・03 遺構図・遺物実測図

約0.2m、主軸方位はN－21°－Wである。床面中央やや北側に地床炉が検出され、深度は約0.2mである。柱穴は4箇所確認されているが、並びは不規則、柱心々間距離はP1－P2間約2.8m、P2－P3間約1.7m、P3－P4間約2.4m、P4－P1間約2.3mである。深度はP1約0.3m、P2約0.2m、P3約0.8m、P4約0.7mである。遺構の南壁の一部はSK042によって破壊されている。梯子穴は確認されておらず、SK042に破壊されている可能性がある。小穴（ア）・（イ）は貯蔵穴と思われる。また本遺構北西部に

SI04・SK042



SI04



第6図　SI04・SK042 遺構図、SI04遺物実測図

は平安時代の竪穴建物跡SI56が構築されているが、覆土中に床面レベルがとどまり、破壊は本遺構の床面に及んでいない。

出土遺物　1・4・7・12・13は後世の混入遺物である。1は外面に判読不能の墨書を残すロクロ土師器、4は弥生終末期～古墳前期（中台式～草刈式）の高杯、7は弥生終末期～古墳前期（中台式～草刈式）の直口壺、12はロクロ土師器の転用土製品である。さらに13は椀形滓である。2・3・5・6・8～11は本遺構に伴う遺物であり、2・3は弥生時代後期後半～終末期（山田橋式～中台式）の椀である。5は弥生時代中期後葉、宮ノ台式の鉢である。また6は弥生後期～終末期（山田橋式～中台式）の壺、8～11は甕であり山田橋式～中台式と考えられる。本遺構の帰属時期は、中台式に類する無文の椀2・3が床面直上から出土しているものの、甕8～11は山田橋式以前に位置付けられることから、竪穴平面形がほぼ円形を呈することを重視し、弥生時代後期後半（山田橋式期）と考えられる。

SI05（第７図、図版５・22・37・51・53）

形態・規模　主にB2区に位置する。竪穴平面形は直径約4.8～5.1mの円形を呈し、床までの深さは約0.4m、主軸方位はN－49°－Wである。床面中央やや北側に地床炉が検出され、深度は約0.3mである。柱穴は４箇所確認されているが、並びは粗雑、柱心々間距離はP1－P2間約2.8m、P2－P3間約2.3m、P3－P4間2.5m、P4－P1間約2.5mである。深度はP1約0.5m、P2約0.6m、P3約0.6m、P4約0.7mである。小穴（ア）は梯子穴、小穴（イ）は貯蔵穴と思われる。

出土遺物　1は鉢、2は壺、3は広口壺で、いずれも弥生時代後期後半、山田橋式に位置付けられる。4は焼成粘土塊、5は砂岩製磨石、6・7は貝巣穴泥岩である。この他、8は確認調査時に覆土より出土し、山田橋式に帰属する壺下半部と思われる。本遺構は、出土土器の様相から弥生時代後期後半、山田橋式期の所産と考えられる。

SI06（第８図、図版５・22・37・53）

形態・規模　主にB3区に位置する。遺構の大半は古墳時代後期のSI35・SI36に破壊されている。竪穴平面形は直径約5.4×4.8mの方楕円形を呈していたと考えられ、床までの深さは約0.3m、主軸方位は東西であったと思われる。地床炉及び柱穴は確認されていない。小穴（ア）は貯蔵穴の可能性がある。

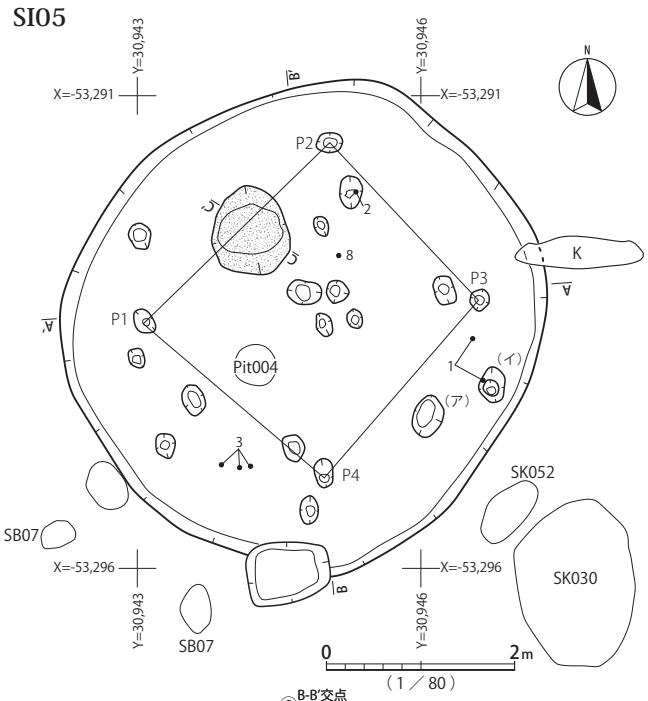
出土遺物　1は弥生時代後期後半、山田橋式の高杯である。胴部の張る2の壺も同様に位置付けられる。3は宮ノ台式の甕、4は使用により平坦な摩滅面を持つ軽石である。本遺構は、床面直上から出土した1・2が示す弥生時代後期後半、山田橋式期の所産と考えられる。

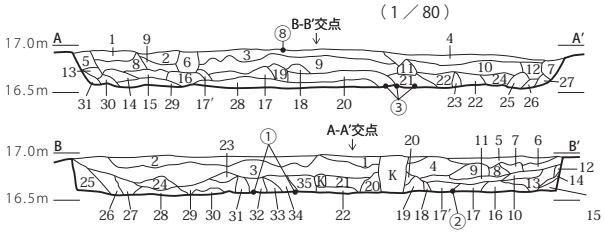
SI07（第８図、図版37・51）

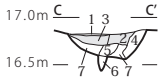
形態・規模　主にB3区に位置する。遺構の大半は古墳時代中期以降の竪穴建物跡SI34・SI37により床面レベルまで破壊されている。竪穴平面形は直径約4.4×3.8mの不整円形を呈していたと考えられ、床までの深さは約0.3m、主軸方位はN－37°－Eであったと思われる。地床炉及び主柱穴は確認されていない。小穴（ア）は梯子穴の可能性がある。

出土遺物　本遺構からの出土遺物は少ない。1は灰釉陶器瓶類口縁片であり混入品である。2は不明

SI05







C-C'

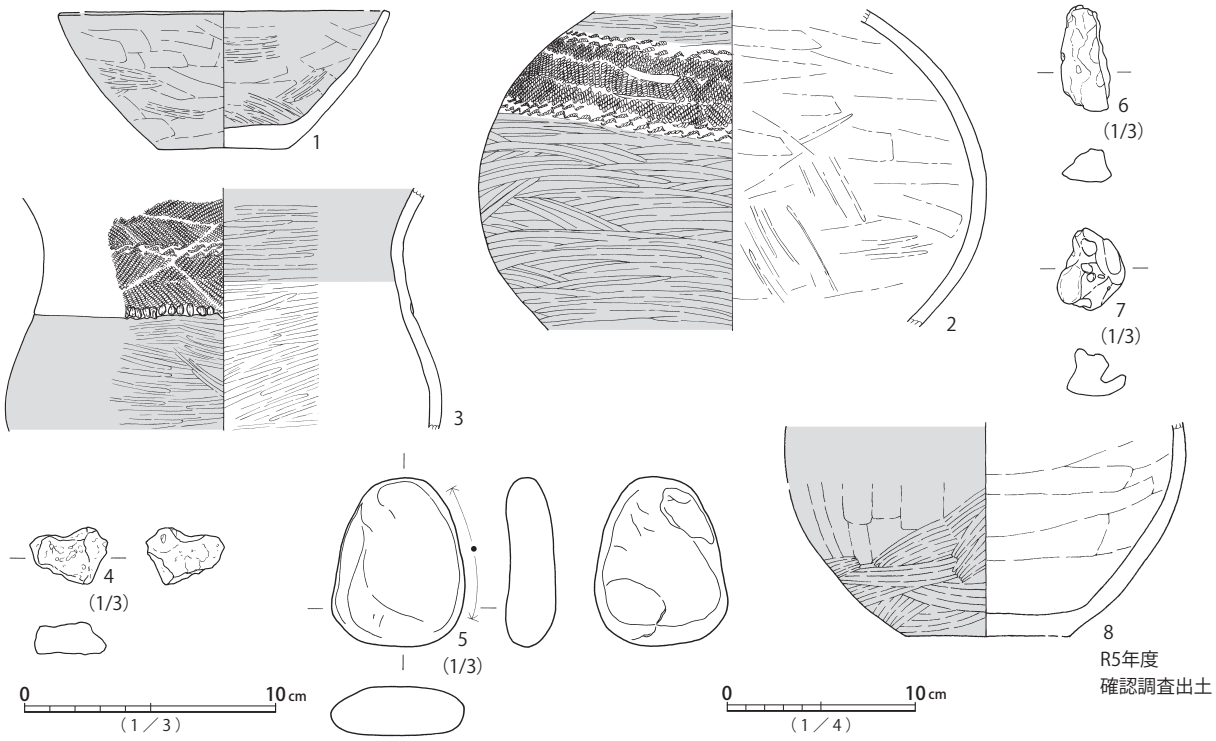
1 10YR 2/3 黒褐 炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒多量 しまり弱い 粘性なし
3 10R 4/8 赤 焼ブ多量 しまり弱い 粘性なし
4 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性なし
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む しまり弱い 粘性なし
6 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性あり

A-A'

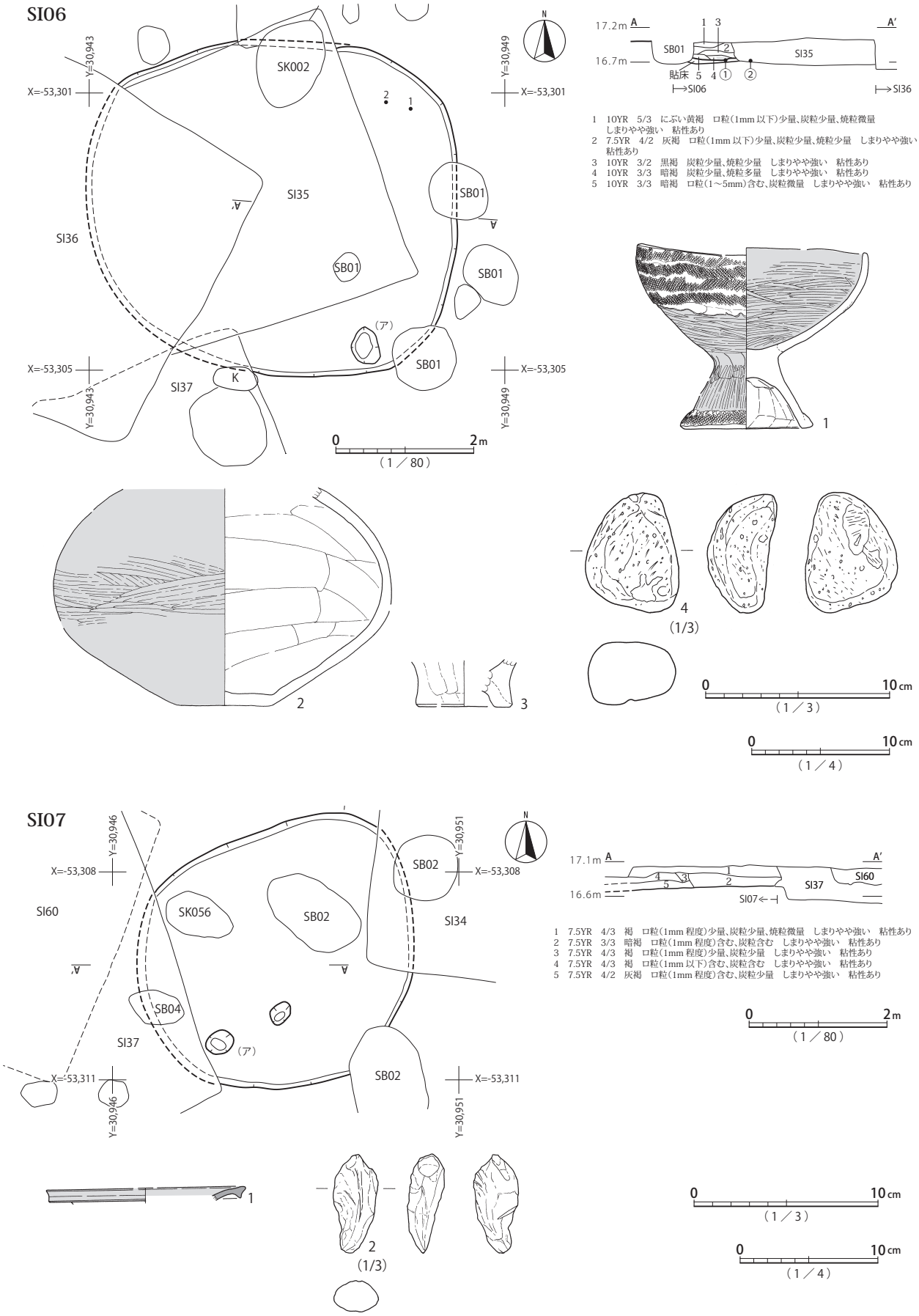
1 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 1 層と同じ
4 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまり弱い 粘性あり
7 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量 しまり弱い 粘性あり
8 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 3 層と同じ
10 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)多量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
17 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
17' 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
18 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
19 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む しまり弱い 粘性あり
20 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 21 層と同じ
21 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
22 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
23 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量 しまり弱い 粘性あり
24 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5～10mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
25 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
26 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
27 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量 しまり弱い 粘性あり
28 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 22 層と同じ
29 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
30 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
31 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまり弱い 粘性あり

B-B'

1 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 3 層と同じ
2 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 9 層と同じ
4 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～3mm)多量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～5mm)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)多量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)多量 しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 以下)多量 しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
17 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
17' 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
18 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(3～5mm)多量 しまり弱い 粘性なし
19 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
20 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
21 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 20 層と同じ
22 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 28 層と同じ
23 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性あり
24 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、ロブ(5mm 程度)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
25 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
26 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
27 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
28 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
29 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
30 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
31 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
32 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
33 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
34 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
35 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり



第7図 SI05 遺構図・遺物実測図



第8図　SI06・07 遺構図・遺物実測図

土製品であり、手捏ね整形後に焼成されており、破断面は見られない。本遺構の帰属時期について、出土遺物から判定するのは困難ではあるが、他遺構との前後関係や遺構外形からや弥生時代後期と推測される。

SI08・SK044（第９・10図、図版６・22・37・55）

形態・規模　主にB1区に位置する。遺構の北側の大半は調査区外へ続いており、東側の一部は平安時代のSI58に破壊されている。竪穴平面形は副軸約6.0mの隅丸方形を呈していたと考えられ、床までの深さは約0.5m、主軸方位はN－13°－Wであったと思われる。主柱穴は２箇所検出し、柱心々間距離は約3.2m、深度はP1約0.4m、P2約0.5mである。地床炉・梯子穴・貯蔵穴は確認されていない。さらに南壁付近にはSK044が位置し、外形約0.65m、深さ約0.7mの円形を呈する。この土坑は土層断面図から竪穴覆土上面から掘り込んでいることが確認できる。また両遺構の覆土上層は後世の耕作などにより撹乱を受けていた。

出土遺物　1は赤彩で仕上げられ、頸部が屈曲する素口縁の壺であり、弥生時代終末期、中台式に位置付けられる。2・3は弥生時代後期の壺の小片、4は鉄滓である。本遺構の帰属時期は、床面直上から出土した壺1から弥生時代終末期（中台式期）の可能性が高い。

SI09（第９・10図、図版６・22・37）

形態・規模　主にC1区に位置する。遺構の半分程は弥生時代終末期以降のSI08・SI39に床面レベルまで破壊されている。竪穴平面形は直径約3.8～3.9mの不整円形を呈していたと思われ、床までの深さは約0.2m、主軸方位はN－49°－Eであったと思われる。地床炉は中央北東寄りに確認されているが、東側半分はSI08によって破壊されている。柱穴・梯子穴・貯蔵穴は検出されていない。

出土遺物　1～5は高杯、6～9は壺であり、どれも弥生時代後期中葉、山田橋1式の所産と思われる。10・11は甕であり、形状・装飾から弥生時代後期のものと考えられる。12は同時期の台付甕である。本遺構は床面近くから検出された土器様相から、弥生時代後期中葉に帰属すると思われる。

SI10（第11図、図版６・37）

形態・規模　主にC1区に位置し、遺構の西側の一部は古墳時代竪穴建物跡SI11に破壊されている。竪穴平面形は直径約2.8～3.6mの不整楕円形を呈していたと思われ、床までの深さは約0.1～0.3m、主軸方位はN－28°－Eである。柱穴は4箇所検出され、柱心々間距離はP1－P2間約1.5m。P2－P3間約1.2m、P3－P4間約1.7m、P4－P1間約0.8mである。深度はP1約0.3m、P2約0.1m、P3約0.3m、P4約0.3mである。地床炉は床面中央北東部に確認されており、深度は約0.1mである。小穴（ア）は梯子穴と考えられる。

出土遺物　1は鉢、2は壺であり、いずれも弥生時代後期に位置付けられる。3は混入品の東海産須恵器の高台付杯である。本遺構は竪穴平面形と出土土器の様相から弥生時代後期に帰属すると思われる。

SI12（第12図、図版６・23・38・51・53）

形態・規模　主にC4区に位置する。遺構の南側の一部は古墳時代中期前半のSI43によって切り込ま

れるが、床面レベルには及んでいない。竪穴平面形は約4.5×4.4mの隅丸方形を呈していたと思われ、床までの深さは約0.26m、主軸方位はN−24°−Wであったと考えられる。柱穴は3箇所確認され、柱心々間距離はP1−P2間約2.4m、P2−P3間約1.8mである。地床炉は中央北西部に確認され、深度は約0.2mである。小穴（ア）は梯子穴、小穴（イ）は貯蔵穴と思われる。

出土遺物　1は高杯、2・3は広口壺、4・5・6は甕であり、いずれも弥生時代後期後半の山田橋式から終末期の中台式と考えられる。7は浅鉢形のミニチュア土器である。8は不明焼成粘土塊、9は緑泥片岩製の板碑片であり、後者は混ざり込みと思われる。この他、10は確認調査時に出土した同時期の遺物と見られ、文様帯が一帯化した壺下半部である。本遺構は出土遺物から弥生時代後期後半〜終末期前半に帰属すると思われる。

SI13（第13図）

形態・規模・出土遺物　主にC4区に位置し、遺構の大半は調査区外にある。また古墳時代中期後半のSI43によって破壊されており、検出できた部分は僅かである。床までの深さは約0.16m、竪穴平面形は不明である。出土遺物も無いため、本遺構帰属時期は不明確であるが、SI43との切り合い関係から古墳時代中期以前と推測される。

SI14（第13図、図版6）

形態・規模　主にB4区に位置し、遺構の南西側の一部は古墳時代中期前半のSI43によって破壊されている。また南東部はSI15の一部を破壊している。竪穴平面形は直径約3.1mの円形を呈していたと思われ、主軸方位はN−50°−W、床までの深さは約0.3mである。柱穴は確認されておらず、地床炉は中央北西部に確認され、深度は約0.15mである。小穴（ア）は貯蔵穴と思われる。

出土遺物　掲載遺物はない。非掲載遺物として、縄文時代早期の深鉢や弥生時代終末期（中台式）のものと思われる甕・壺などがある。本遺構の帰属について、弥生時代終末期（中台式）の遺物が出土しているものの、竪穴平面形や規模が先行するSI15と類似していることから弥生時代後期（久ヶ原式〜山田橋式期）と考えられ、終末期の遺物は混入品と思われる。

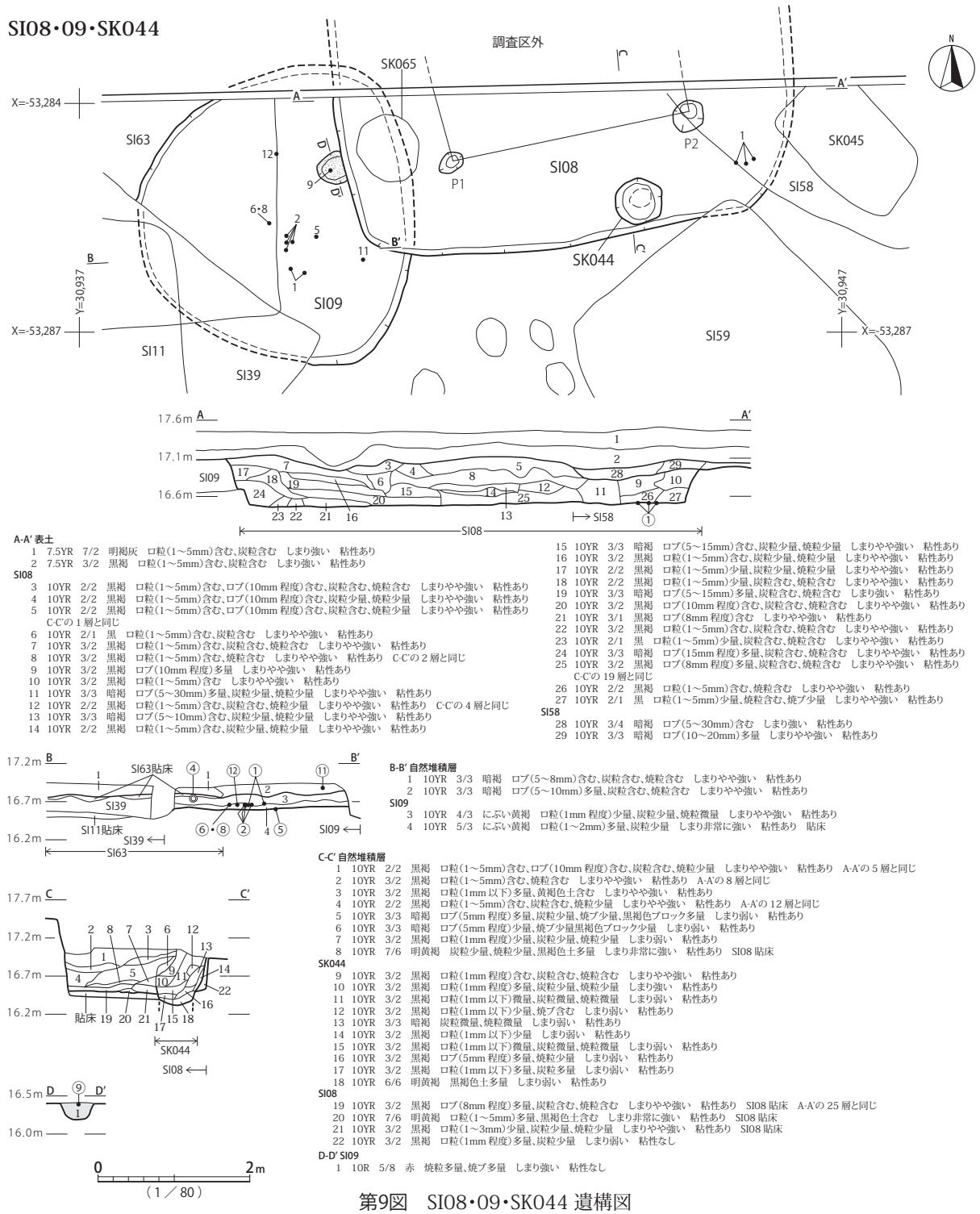
SI15（第13図、図版6・23）

形態・規模　主にB4区に位置し、遺構の北西部と北東部の一部はそれぞれ先述のSI14と古墳時代中期後葉のSI38によって破壊されている。竪穴平面形は直径約3.0〜3.1mの円形を呈していたと思われ、主軸方位はN−1°−W、床までの深さは約0.2mである。柱穴は確認されておらず、地床炉は中央北側に確認され、深度は約0.2mである。小穴（ア）は梯子穴、小穴（イ）は貯蔵穴と考えられる。

出土遺物　1は鉢であり山田橋式に位置付けられる。この他、非掲載遺物として弥生時代終末期（中台式）の壺や永田・不入窯産須恵器の杯などがあるが混ざり込みと考えられる。本遺構の帰属時期は、竪穴の形状と出土遺物から弥生時代後期後半（山田橋式期）と考えられる。

SI16（第14図、図版6・23・38）

形態・規模　C1〜D1区に位置し、遺構の南東部は古墳時代中期前半の竪穴建物跡SI39に切り込ま



A-A′ 表土
1　7.5YR　7/2　明褐灰　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む　しまり強い　粘性あり
2　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む　しまり強い　粘性あり

SI08
3　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(10mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(10mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
5　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(10mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
C-C′の 1 層と同じ
6　10YR　2/1　黒　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
8　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり　C-C′の 2 層と同じ
9　10YR　3/2　黒褐　ロブ(10mm 程度)多量　しまりやや強い　粘性あり
10　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む　しまりやや強い　粘性あり
11　10YR　3/3　暗褐　ロブ(5～30mm)多量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
12　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　C-C′の 4 層と同じ
13　10YR　3/3　暗褐　ロブ(5～10mm)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
14　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
15　10YR　3/3　暗褐　ロブ(5～15mm)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
16　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
17　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
18　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)少量、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
19　10YR　3/3　暗褐　ロブ(5～15mm)多量、炭粒含む、焼粒含む　しまり強い　粘性あり
20　10YR　3/2　黒褐　ロブ(10mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
21　10YR　3/1　黒褐　ロブ(8mm 程度)含む　しまりやや強い　粘性あり
22　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
23　10YR　2/1　黒　ロ粒(1～5mm)少量、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
24　10YR　3/3　暗褐　ロブ(15mm 程度)多量、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
25　10YR　3/2　黒褐　ロブ(8mm 程度)多量、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
C-C′の 19 層と同じ
26　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
27　10YR　2/1　黒　ロ粒(1～5mm)少量、焼粒含む、焼ブ少量　しまりやや強い　粘性あり

SI58
28　10YR　3/4　暗褐　ロブ(5～30mm)含む　しまり強い　粘性あり
29　10YR　3/3　暗褐　ロブ(10～20mm)多量　しまりやや強い　粘性あり

B-B′ 自然堆積層
1　10YR　3/3　暗褐　ロブ(5～8mm)含む、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
2　10YR　3/3　暗褐　ロブ(5～10mm)多量、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり

SI09
3　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　5/3　にぶい黄褐　ロ粒(1～2mm)多量、炭粒少量　しまり非常に強い　粘性あり　貼床

C-C′ 自然堆積層
1　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(10mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　A-A′の 5 層と同じ
2　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり　A-A′の 8 層と同じ
3　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)多量、黄褐色土含む　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　A-A′の 12 層と同じ
5　10YR　3/3　暗褐　ロブ(5mm 程度)多量、炭粒少量、焼ブ少量、黒褐色ブロック多量　しまり弱い　粘性あり
6　10YR　3/3　暗褐　ロブ(5mm 程度)少量、焼ブ少量黒褐色ブロック少量　しまり弱い　粘性あり
7　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまり弱い　粘性あり
8　10YR　7/6　明黄褐　炭粒少量、焼粒少量、黒褐色土多量　しまり非常に強い　粘性あり　SI08 貼床

SK044
9　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
10　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒少量、焼粒少量　しまり強い　粘性あり
11　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量、焼粒微量　しまり弱い　粘性あり
12　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、焼ブ含む　しまり弱い　粘性あり
13　10YR　3/3　暗褐　炭粒微量、焼粒微量　しまり弱い　粘性あり
14　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量　しまり弱い　粘性あり
15　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量、焼粒微量　しまり弱い　粘性あり
16　10YR　3/2　黒褐　ロブ(5mm 程度)多量、焼粒少量　しまり弱い　粘性あり
17　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒多量　しまり弱い　粘性あり
18　10YR　6/6　明黄褐　黒褐色土多量　しまり弱い　粘性あり

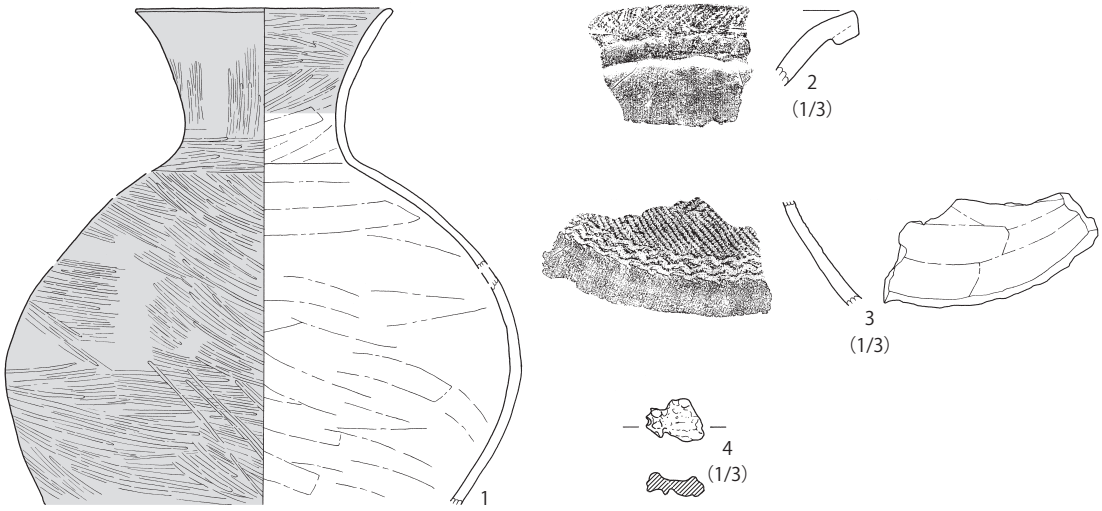
SI08
19　10YR　3/2　黒褐　ロブ(8mm 程度)多量、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり　SI08 貼床　A-A′の 25 層と同じ
20　10YR　7/6　明黄褐　ロ粒(1～5mm)多量、黒褐色土含む　しまり非常に強い　粘性あり　SI08 貼床
21　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　SI08 貼床
22　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒少量　しまり弱い　粘性なし

D-D′ SI09
1　10R　5/8　赤　焼粒多量、焼ブ多量　しまり強い　粘性なし

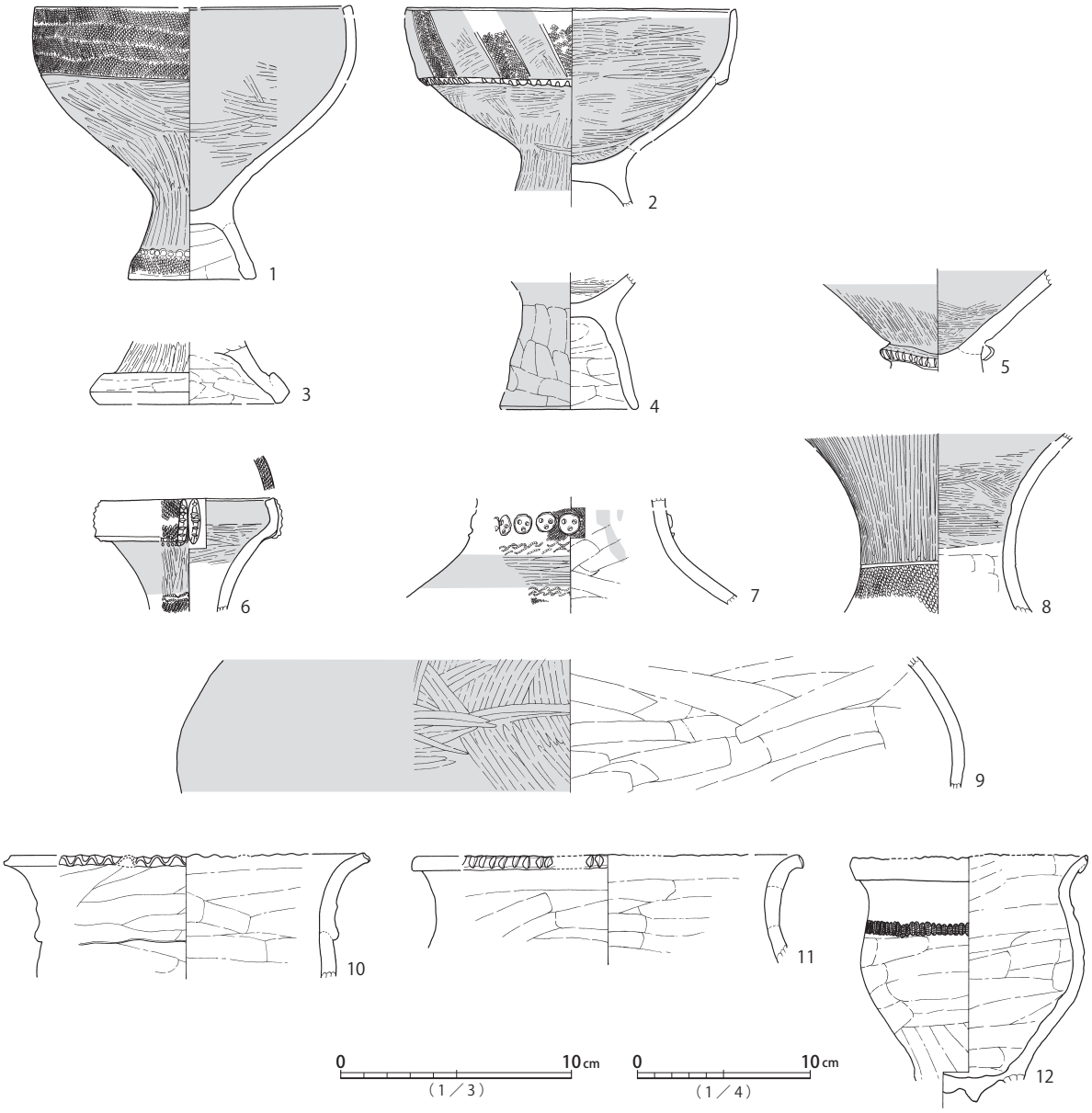
第9図　SI08・09・SK044 遺構図

れ、また南西壁は撹乱によって破壊されている。竪穴平面形は約4.2×3.5mの長楕円形を呈していたと思われ、主軸方位はN−8°−W、床までの深さは約0.2mである。柱穴は4箇所確認されており、並びは不規則、柱心々間距離はP1−P2間約2.0m。P2−P3間約1.5m、P3−P4間約2.0m、P4−P1間約1.5mである。深度はP1約0.3m、P2約0.1m、P3約0.4m、P4約0.3mである。地床炉は中央北側に確認され、深度は約0.2mである。小穴（ア）は撹乱の下から検出され、本遺構の南西壁際に位置すると考えられることから、貯蔵穴の可能性がある。

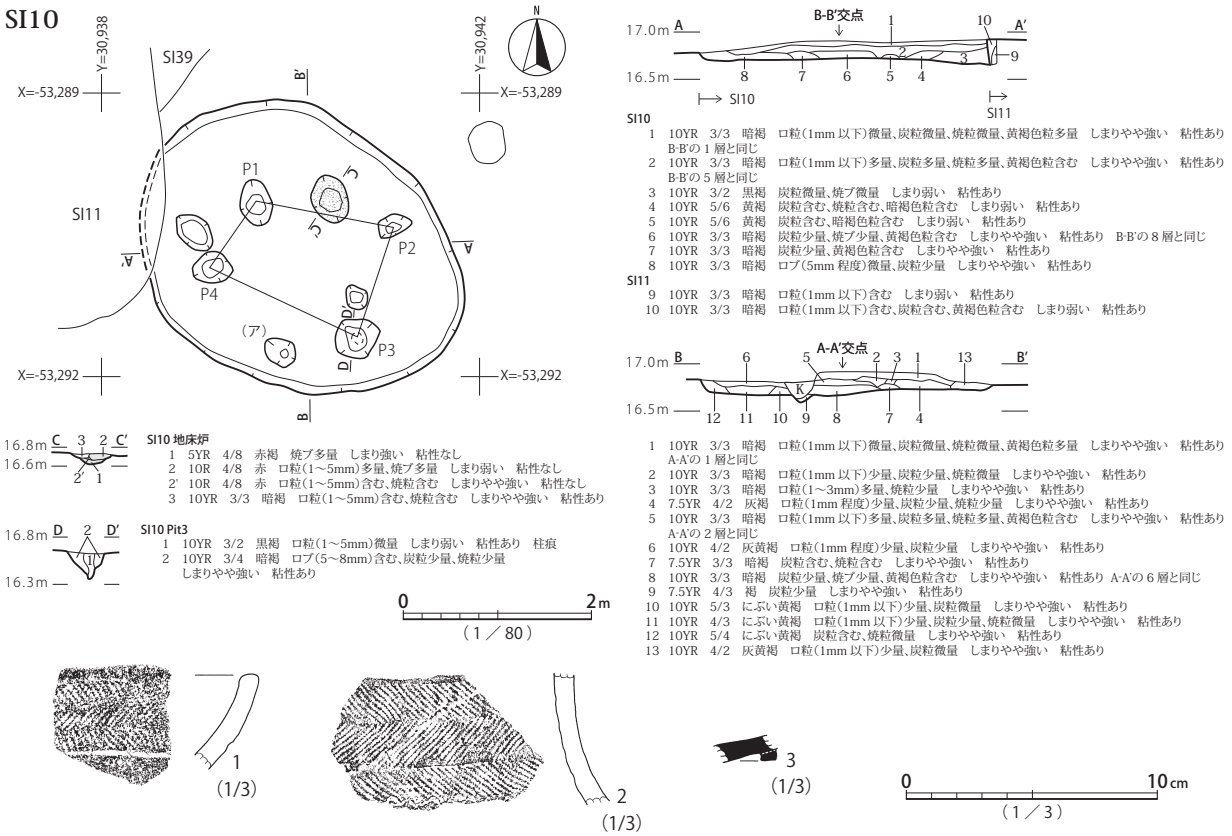
SI08



SI09



第10図　SI08・09 遺物実測図



第11図　SI10 遺構図・遺物実測図

出土遺物　1・2は壺、3は甕であり、いずれも弥生時代後期（久ヶ原式～山田橋式）の所産と思われる。本遺構は、平面形と出土遺物から弥生時代後期（久ヶ原式～山田橋式期）に帰属すると考えられる。

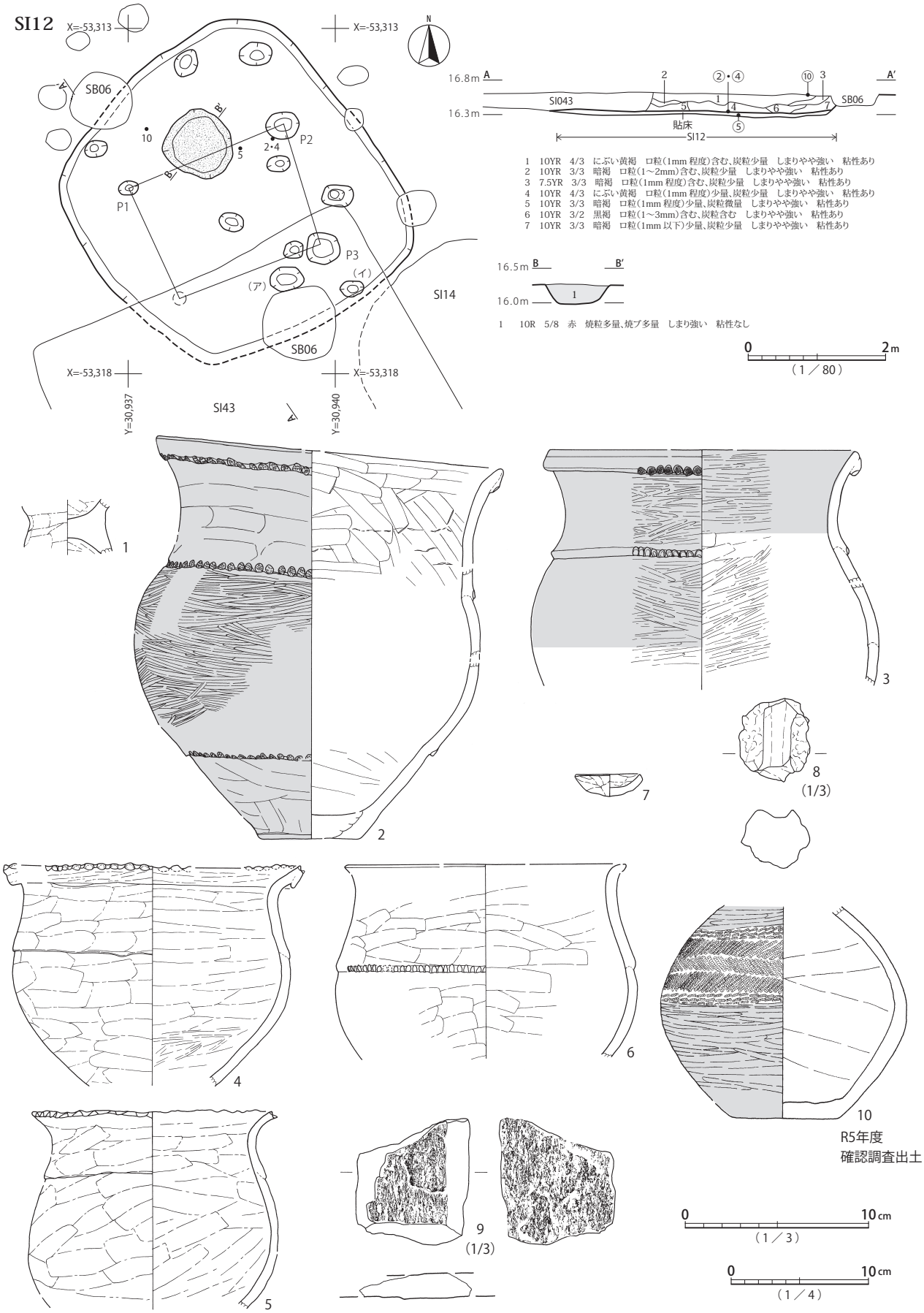
SI17（第 14 図、図版 6）

形態・規模　主にD2区に位置し、遺構の南側は弥生時代終末期以降の竪穴建物跡SI18・19によって破壊されている。また北西部は樹木の根に撹乱されている。外形は約6.9×5.1mを測り、不整長楕円形を呈していたと思われるが後世の破壊により不明瞭である。主軸方位はN−30°−Wであり、床までの深さは約0.1mと浅い。柱穴は3箇所が推定され、柱心々間距離はP1−P2間約3.4m、P2−P3間約2.5mである。また深度はP1約0.2m、P2約1.0m、P3約0.8mである。P1については検出位置が壁際であることから、主柱穴以外の床面施設の可能性がある。地床炉は中央北西部に確認され、深度は約0.25mである。また、（ア）は貯蔵穴と考えられる。

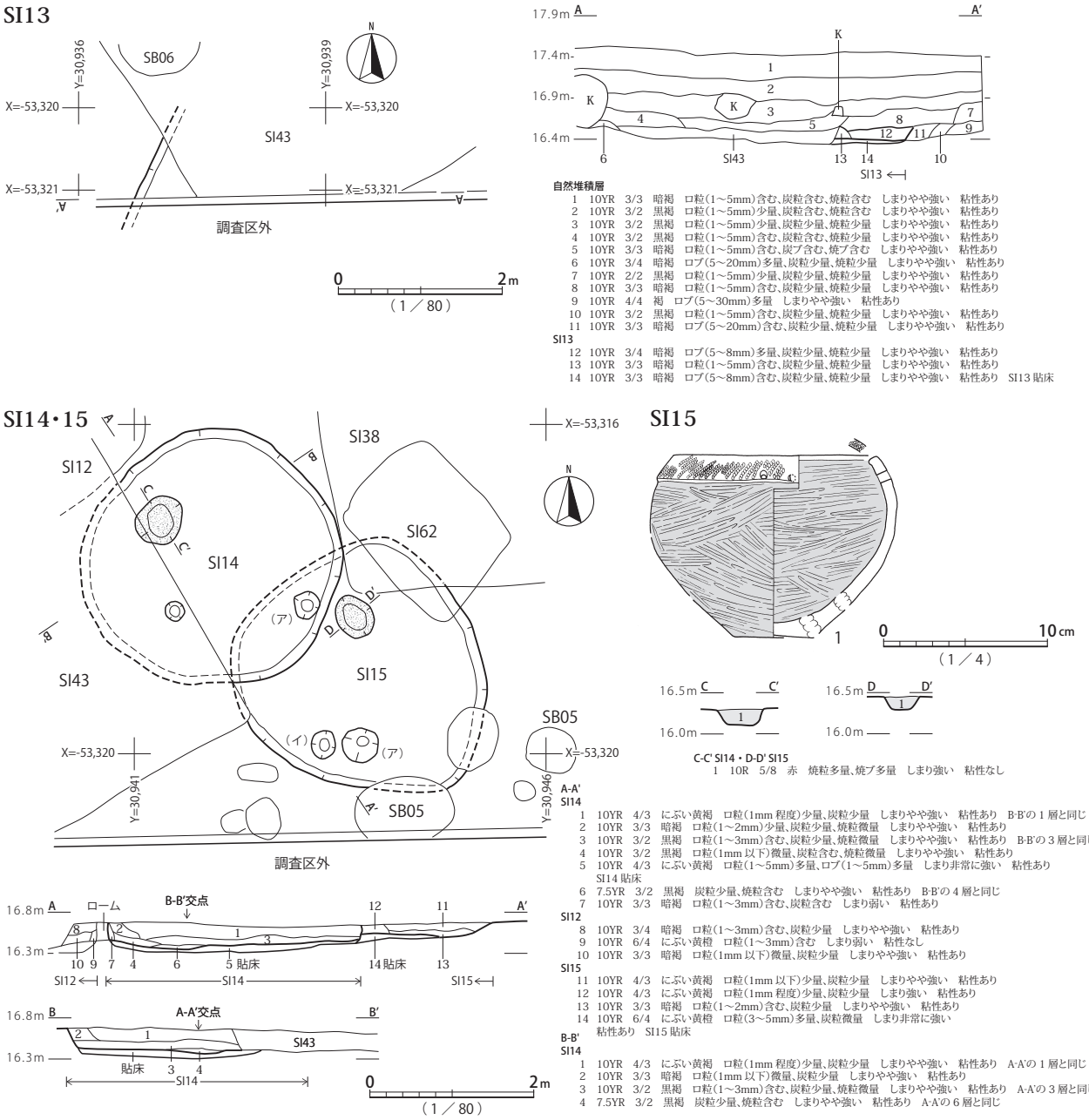
出土遺物　出土遺物が僅少で掲載遺物はない。非掲載遺物には、弥生時代後期（久ヶ原式～山田橋式）の壺や弥生時代終末期（中台式）の広口壺などが出土している。これらの出土遺物と平面形から、本遺構は弥生時代終末期に帰属するものと思われる。

SI18・SK117（第 15・16 図、図版 6・7・23・38・53）

形態・規模　主にD3区に位置し、竪穴平面形は約3.9×5.1mの隅丸方形、床までの深さは約0.3mである。下層からSI19の覆土が確認できることから本遺構はSI19の建て替えと思われる。主軸方位は



第12図 SI12 遺構図・遺物実測図



第13図 SI13・14・15 遺構図、SI15 遺物実測図

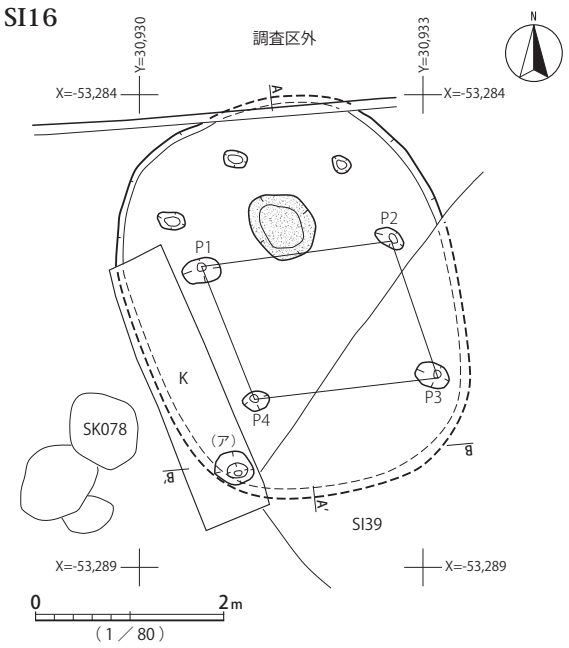
南北、地床炉は中央やや北側に確認され、深度は極浅である。柱穴・梯子穴・貯蔵穴は確認されていない。また南壁の一部はSK117によって破壊されている。

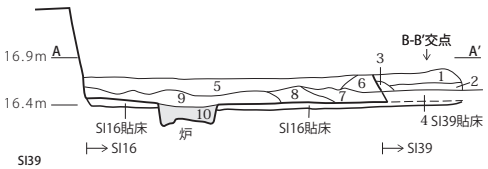
出土遺物 1は鉢、2は壺であり前者は弥生時代終末期(中台式)、後者は弥生時代後期(山田橋式)のものと考えられる。3は弥生時代終末期(中台式)の甕であり、底部を焼成後に穿孔していることから甑に転用したと思われる。4は剣形石製模造品である。本遺構の帰属時期は、遺構南東壁際より完形に近い状態で出土した甕3から、弥生時代終末期(中台式期)と考えられる。

SI19(第15・16図、図版7・23)

形態・規模 主にD3区に位置する。本遺構はSI18に建て替えられており、SI18の貼床面の下層に覆

SI16



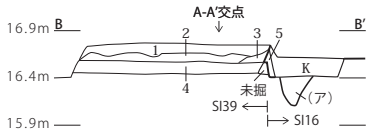


SI39

1　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり　B-B′の 1 層と同じ
2　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり　B-B′の 2 層と同じ
3　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり
4　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量　しまり強い　粘性あり　貼床　B-B′の 4 層と同じ

SI16

5　7.5YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
6　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
7　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
8　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(3～5mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
9　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
10　10R　4/8　赤　焼ブ多量　しまり強い　粘性なし　地表炉



SI39

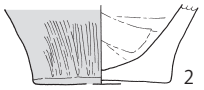
1　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり　A-A′の 1 層と同じ
2　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり　A-A′の 2 層と同じ
3　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり
4　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量　しまり強い　粘性あり　貼床　A-A′の 4 層と同じ

SI16

5　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量　しまり弱い　粘性あり

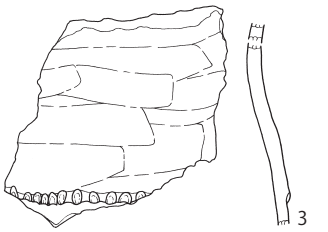
1

0　10cm
(1／3)



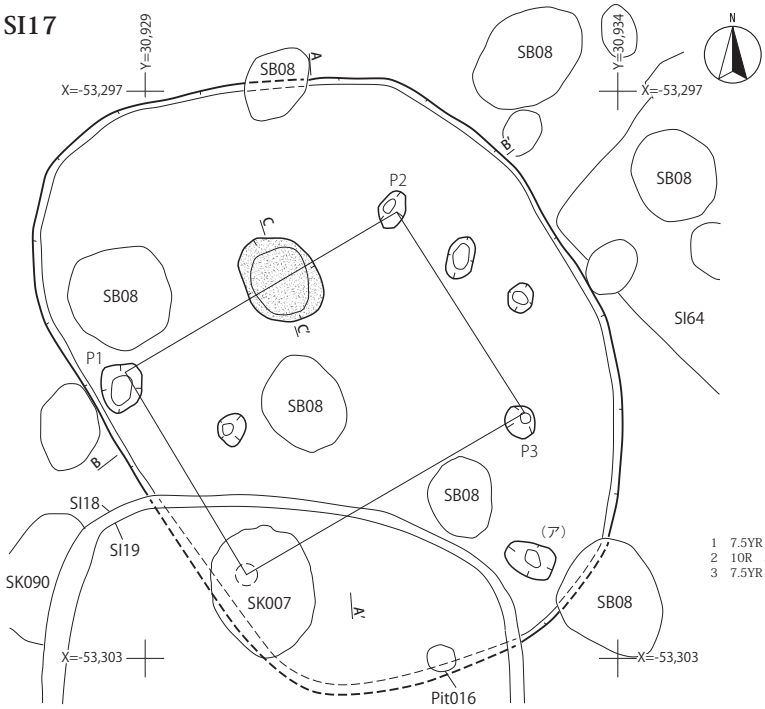
2

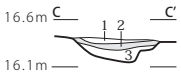
0　10cm
(1／4)



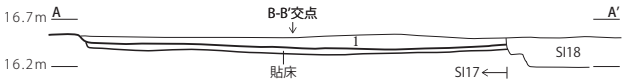
3
(1/3)

SI17

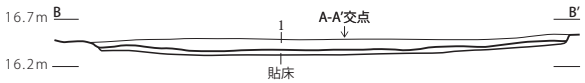




1　7.5YR　3/2　黒褐　炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
2　10R　5/8　赤　炭粒少量、焼ブ多量　しまり強い　粘性なし
3　7.5YR　4/3　褐　ロブ(5mm 程度)多量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性なし



1　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり　B-B′の 1 層と同じ



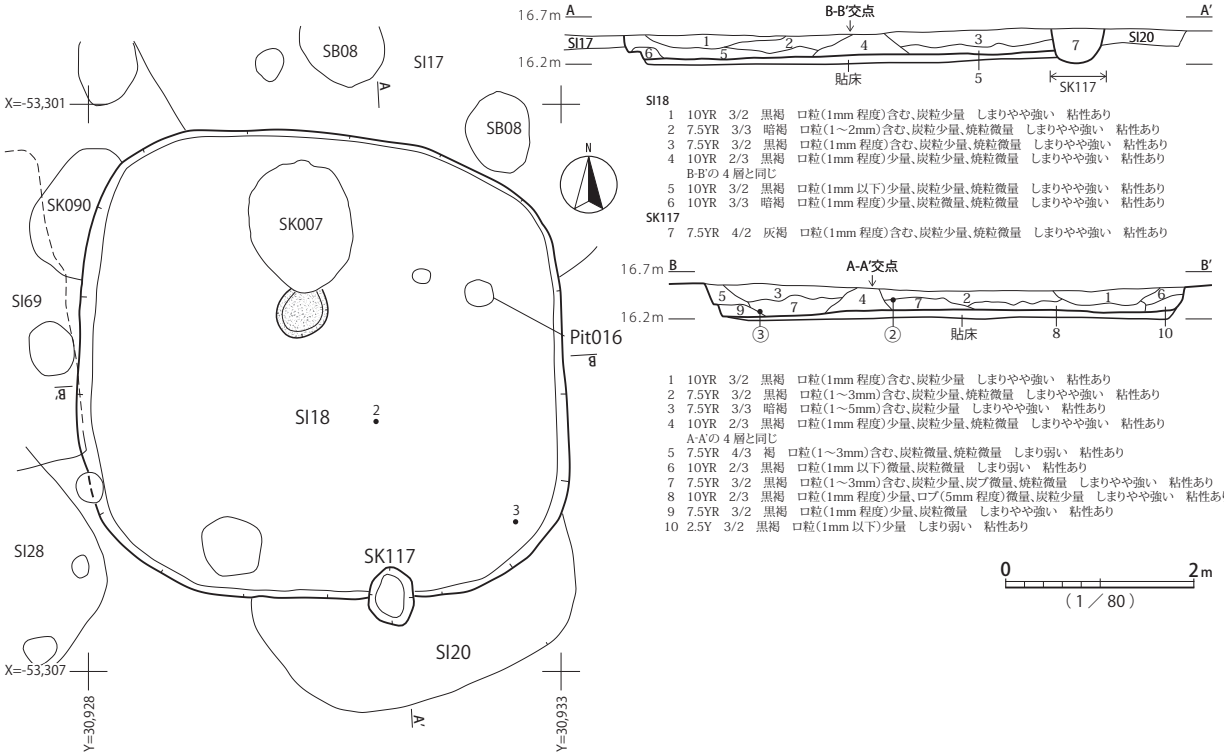
1　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり　A-A′の 1 層と同じ

0　2m
(1／80)

第14図　SI16・17 遺構図、SI16 遺物実測図

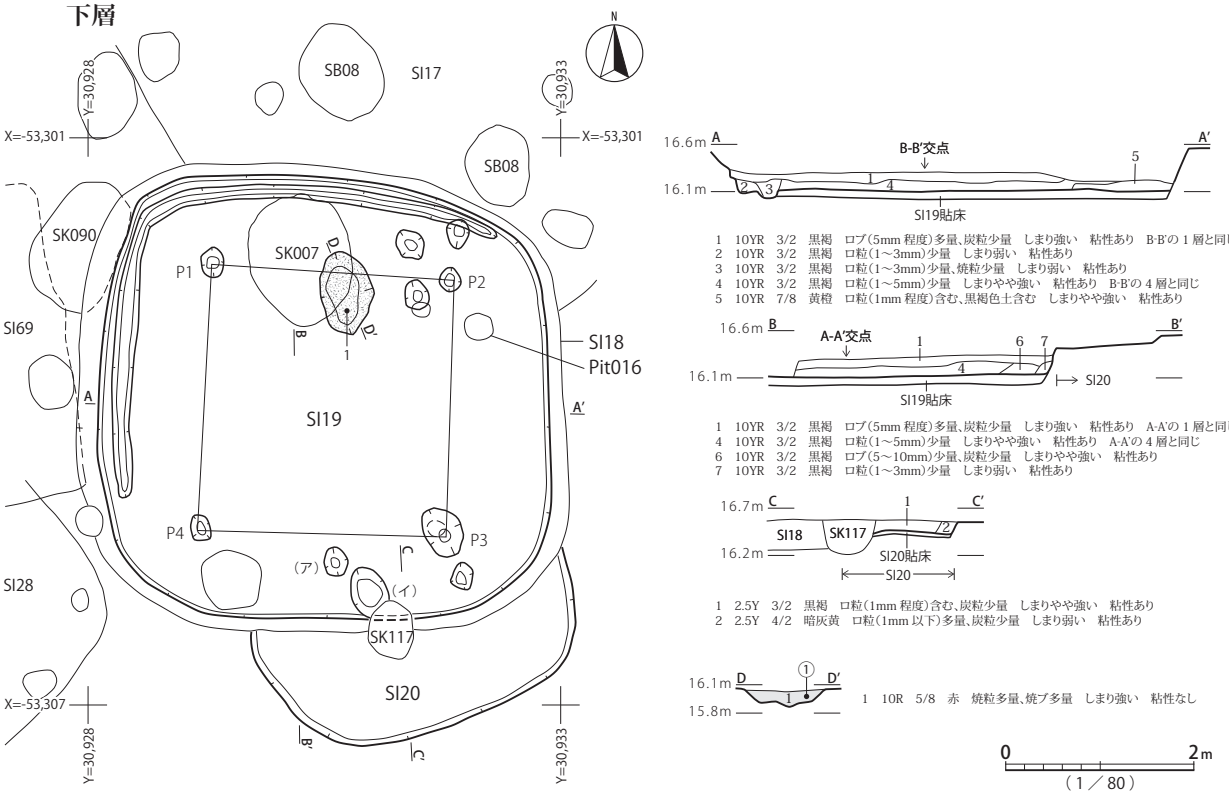
SI18・SK117

上層



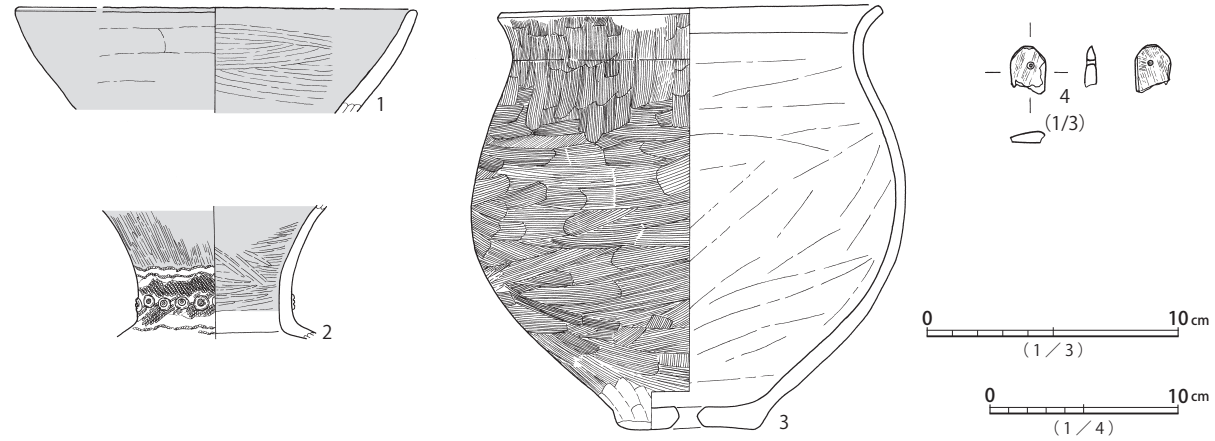
SI19・20

下層

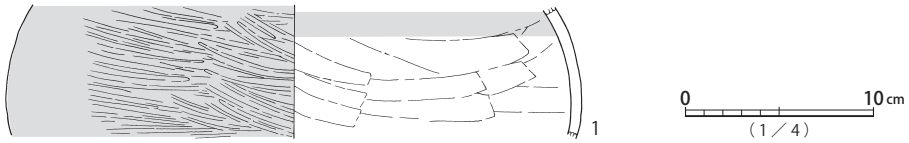


第15図 SI18・19・20・SK117 遺構図

SI18



SI19



第16図　SI18・19 遺物実測図

土が残存する。またこの遺構はSI17とSI20を破壊している。竪穴平面形は約4.6×4.8mの隅丸方形を呈し、主軸方位はN−3°−E、床までの深さはSI18の貼床面下約0.2mである。また床面北東隅から南西隅にかけて周溝を巡らす。柱穴は4箇所確認され、柱並びは良好、柱心々間距離はP1−P2間約2.6m、P2−P3間約2.7m、P3−P4間約2.6m、P4−P1間約2.8mである。深度はP1約0.4m、P2約0.5m、P3約0.6m、P4約0.6mである。地床炉は中央やや北側、深度は約0.2mである。小穴（ア）は梯子穴、小穴（イ）は貯蔵穴と思われる。

出土遺物　1は地床炉に転用されて埋め込まれた可能性のある壺胴部片である。本遺構はSI18との前後関係から弥生時代終末期（中台式期）の帰属と推察される。

SI20（第15図、図版7）

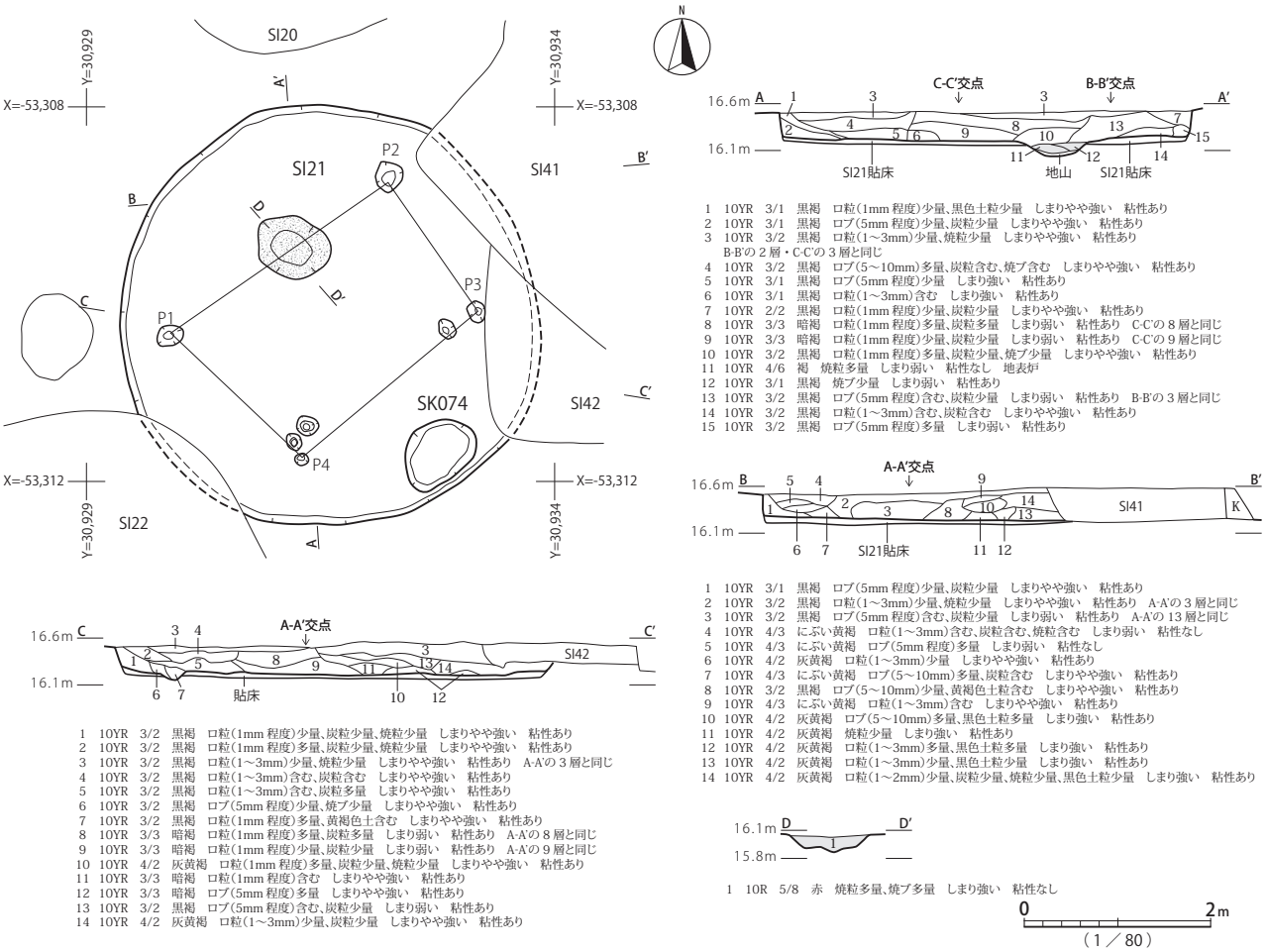
形態・規模　主にD3区に位置し、遺構の北側大半は弥生時代終末期の竪穴建物跡SI18・SI19によって床面レベルまで破壊されている。竪穴平面形は1辺約3.4mの隅丸方形あるいは方楕円形を呈していたと考えられ、主軸はN−21°−Wと推定される。床までの深さは約0.12mと浅く、柱穴・地床炉ともに確認されていない。

出土遺物　掲載可能遺物はない。非掲載遺物は時期不明土師器と礫などわずかである。出土遺物から本遺構の帰属時期を判断するのは困難だが、SI18・SI19との切り合い関係から弥生時代後期〜終末期に属すると推測される。

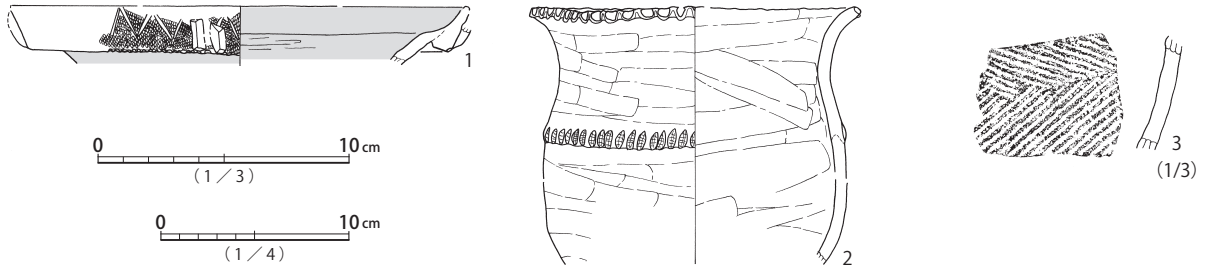
SI21・SK074（第17図、図版7・23・38）

形態・規模　主にD3区に位置し、遺構の南西壁と東壁の一部は弥生時代終末期以降の竪穴建物跡SI22・41・42によって破壊されている。外形は直径約4.5mの円形を呈し、主軸方位はN−35°−W、

SI21・SK074



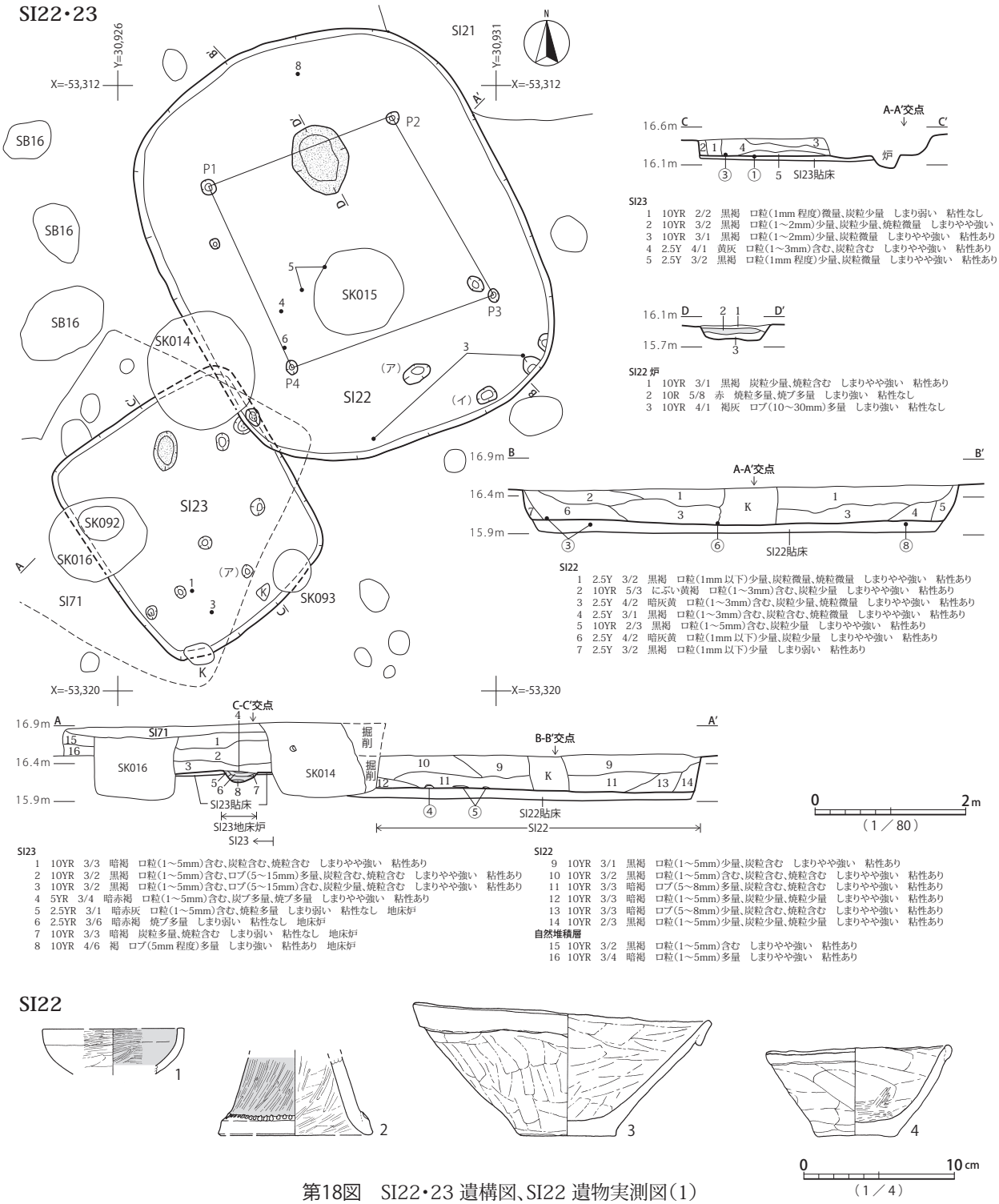
SI21



第17図　SI21・SK074 遺構図、SI21 遺物実測図

床までの深さは約0.3mである。柱穴は４箇所を想定、柱並びはやや不規則、柱心々間距離はP1－P2間約2.8m、P2－P3間約1.7m、P3－P4間約2.4m、P4－P1間約1.9mである。深度はP1 ～ P4ともに約0.2mである。また地床炉は中央やや北西側にあり、深度は約0.1mである。SK074は地床炉と反対側の壁際に位置する深さ約0.3mの土坑であり、貯蔵穴と思われる。

出土遺物　1は壺口縁片であり、弥生時代後期後半、山田橋式に位置付けられる。2・3は甕であり、前者は弥生時代後期（久ヶ原式～山田橋式）のもの、後者は附加条１種が施される北関東系の型式であり弥生後期の所産と考えられる。本遺構の帰属時期は、平面形と出土遺物の様相から弥生時代後期後半と思われる。



SI23

1 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)微量、炭粒少量 しまり弱い 粘性なし
2 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/1 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 2.5Y 4/1 黄灰 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
5 2.5Y 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり

SI22 炉

1 10YR 3/1 黒褐 炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
2 10R 5/8 赤 焼粒多量、焼プ多量 しまり強い 粘性なし
3 10YR 4/1 褐灰 ロブ(10～30mm)多量 しまり強い 粘性なし

SI22

1 2.5Y 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 2.5Y 4/2 暗灰黄 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 2.5Y 3/1 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 2.5Y 4/2 暗灰黄 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
7 2.5Y 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまり弱い 粘性あり

SI23

1 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～15mm)多量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～15mm)含む、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
4 5YR 3/4 暗赤褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭プ多量、焼プ多量 しまりやや強い 粘性あり
5 2.5YR 3/1 暗赤灰 ロ粒(1～5mm)含む、焼粒多量 しまり弱い 粘性なし 地床炉
6 2.5YR 3/6 暗赤褐 焼プ多量 しまり弱い 粘性なし 地床炉
7 10YR 3/3 暗褐 炭粒多量、焼粒含む しまり弱い 粘性なし 地床炉
8 10YR 4/6 褐 ロブ(5mm 程度)多量 しまり強い 粘性あり 地床炉

SI22

9 10YR 3/1 黒褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5～8mm)多量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)多量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5～8mm)少量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり

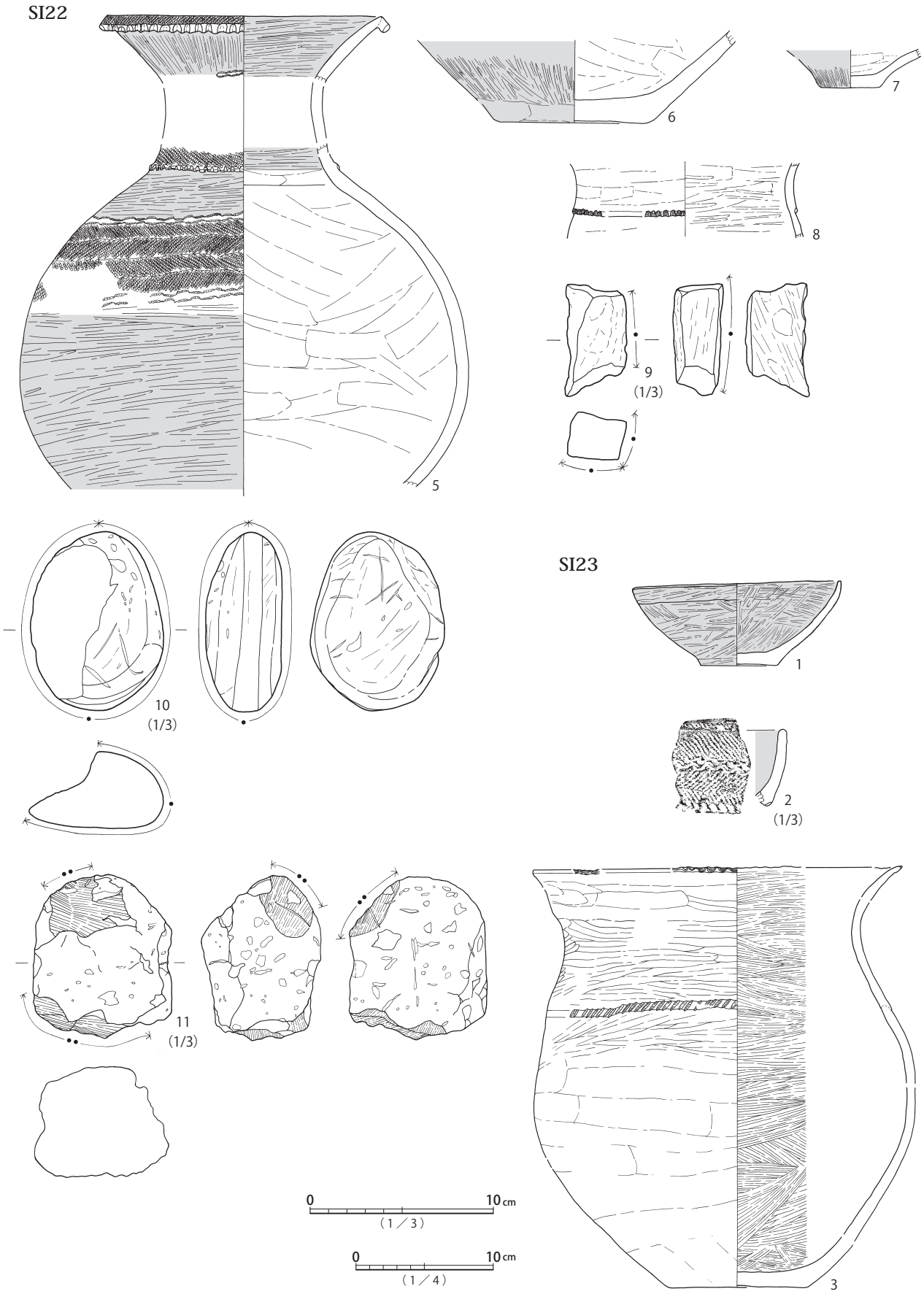
自然堆積層

15 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～5mm)多量 しまりやや強い 粘性あり

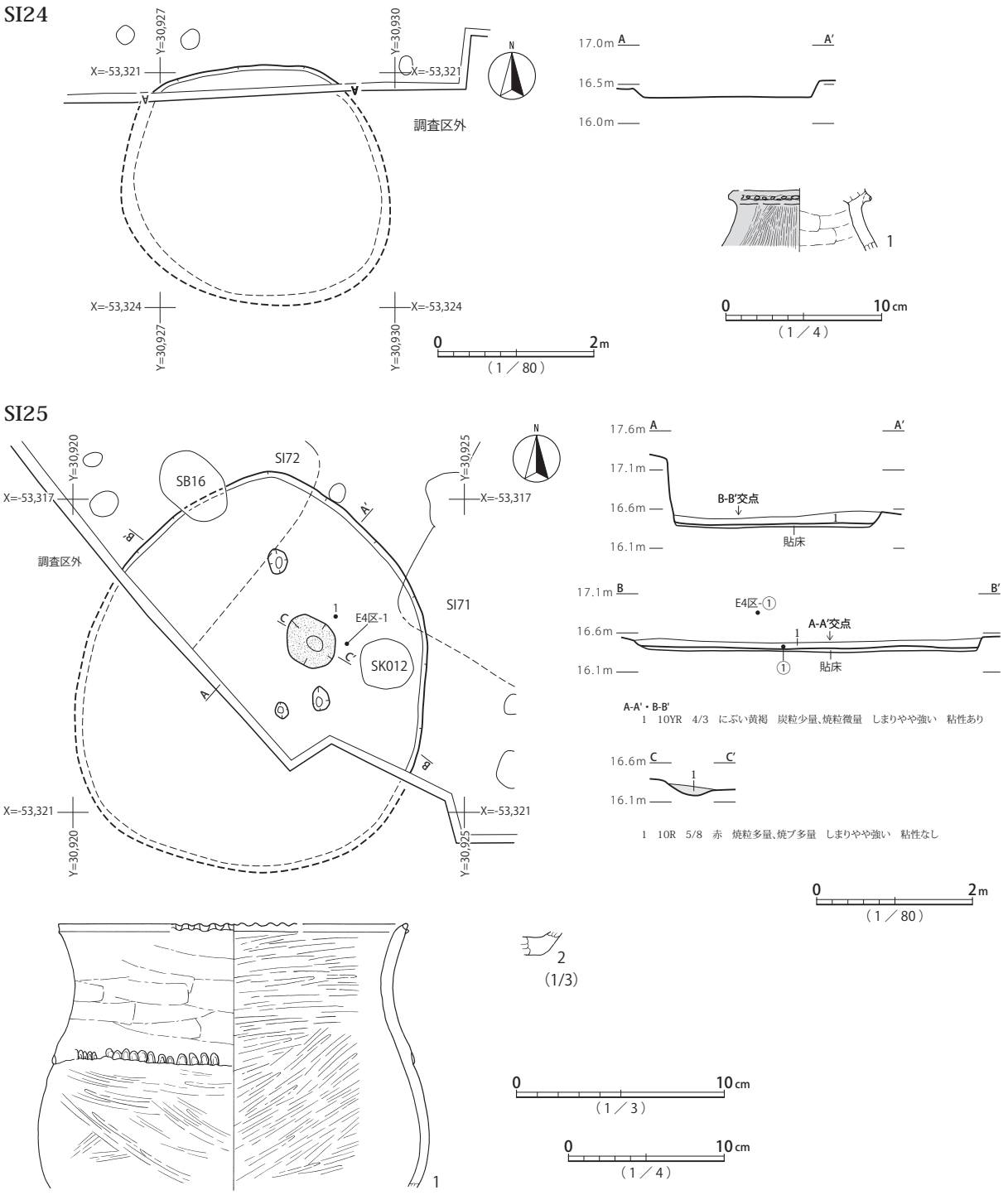
第18図 SI22・23 遺構図、SI22 遺物実測図(1)

SI22(第 18・19 図、図版 7・23・38・53)

形態・規模 主にD4区に位置し、竪穴平面形は約5.6×4.6mの隅丸長方形を呈する。主軸方向はN−22°−W、床までの深さは約0.5mである。柱穴は4箇所確認され、柱並びは良好、柱心々間距離はP1−P2間約2.6m、P2−P3間約2.7m、P3−P4間約2.8m、P4−P1間約2.6mである。深度はP1～P4ともに約1.0mである。地床炉は中央やや北西側に位置し、深度は約0.2mである。小穴(ア)は梯子穴、小穴(イ)は深度は浅いものの、地床炉反対側の壁際に位置することから、貯蔵穴と考えられる。



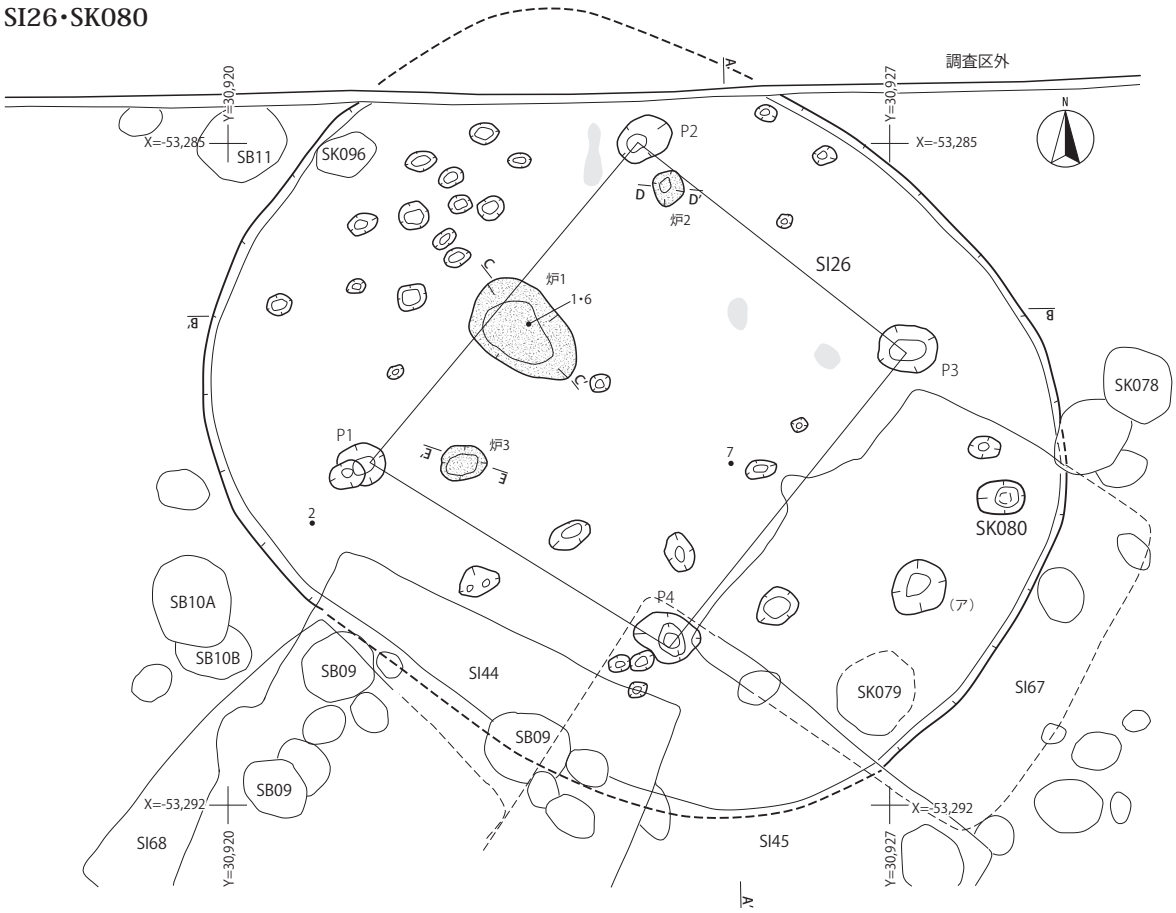
第19図　SI22 遺物実測図(2)、SI23 遺物実測図

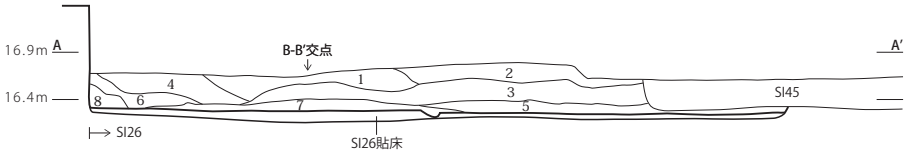


第20図　SI24・25 遺構図・遺物実測図

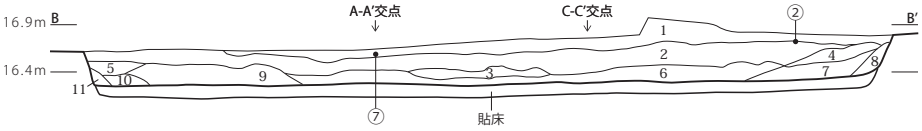
出土遺物　1は弥生時代終末期～古墳時代前期（中台式～草刈式）の所産と思われる小型椀である。2は高杯、3・4は鉢、5・6・7は壺、8は甕である。2・3・4は肥厚部が無文化しており、中台式に位置付けられる。5は山田橋式期から中台式期の所産と思われる。9・10・11は石製品であり、それぞれ砥石・磨石・軽石である。本遺構の帰属時期は、平面形と出土遺物の様相から弥生時代終末期前半（中台1式期）と推察される。

SI26・SK080



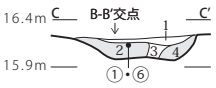


1　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 1 層と同じ
2　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 2 層と同じ
4　7.5YR　2/3　極暗褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
5　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり
6　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 6 層と同じ
8　7.5YR　2/3　極暗褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり



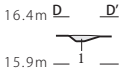
1　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 1 層と同じ
2　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 3 層と同じ
3　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
5　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
6　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 7 層と同じ
7　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
8　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量　しまり弱い　粘性あり
9　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～8mm)少量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
10　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
11　2.5Y　4/2　暗灰黄　ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり

炉 1



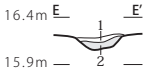
1　7.5YR　3/1　黒褐　炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
2　10R　4/8　赤　焼ブ多量　しまり強い　粘性なし
3　7.5YR　3/2　黒褐　炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性なし
4　10R　5/8　赤　炭粒少量、焼ブ多量　しまり強い　粘性なし

炉 2



1　10R　4/8　赤　焼ブ多量　しまり強い　粘性なし

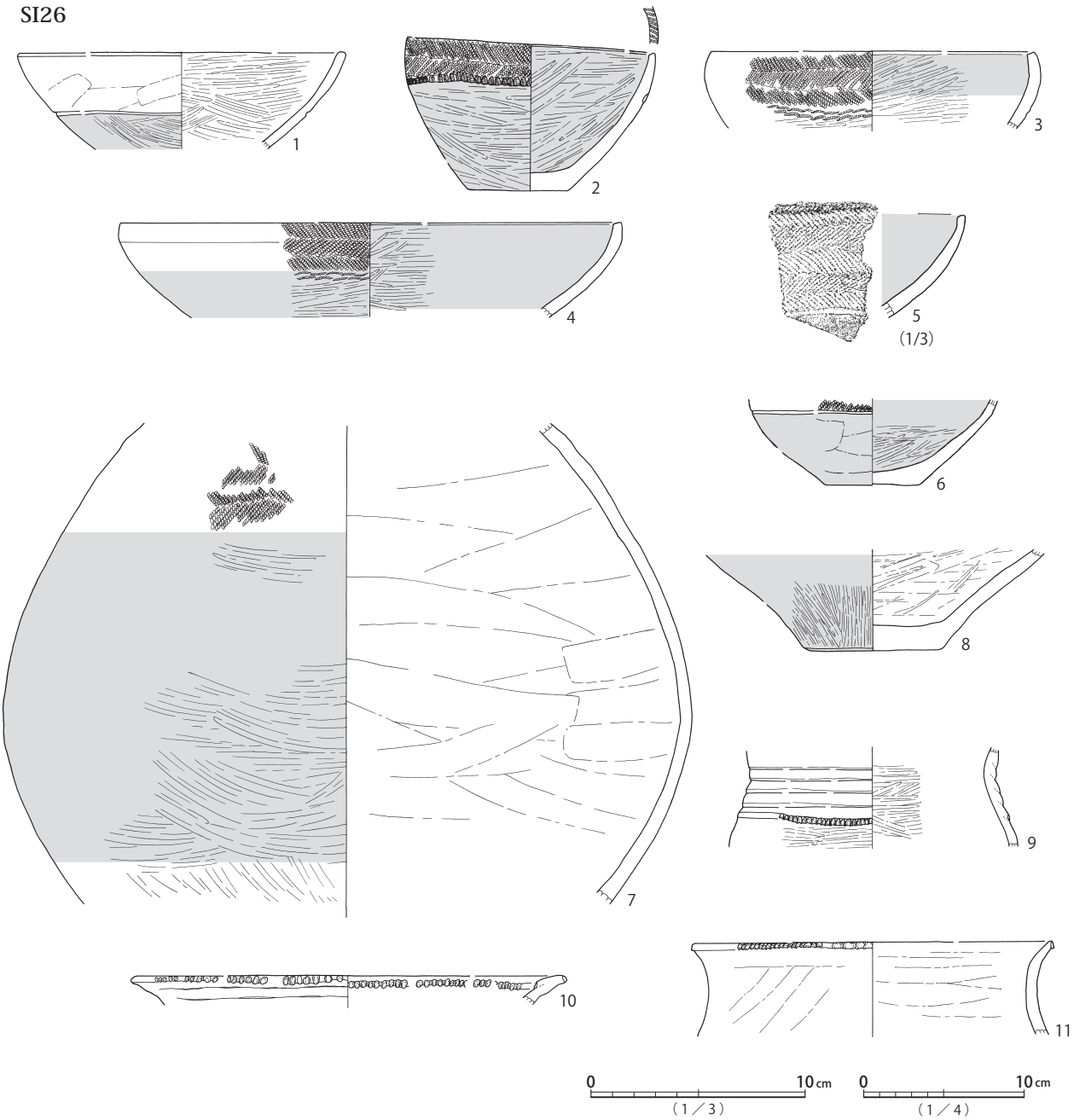
炉 3



1　7.5YR　3/1　黒褐　炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
2　10R　4/8　赤　焼ブ多量　しまり強い　粘性なし

0　2m
(1／80)

第21図　SI26・SK080 遺構図

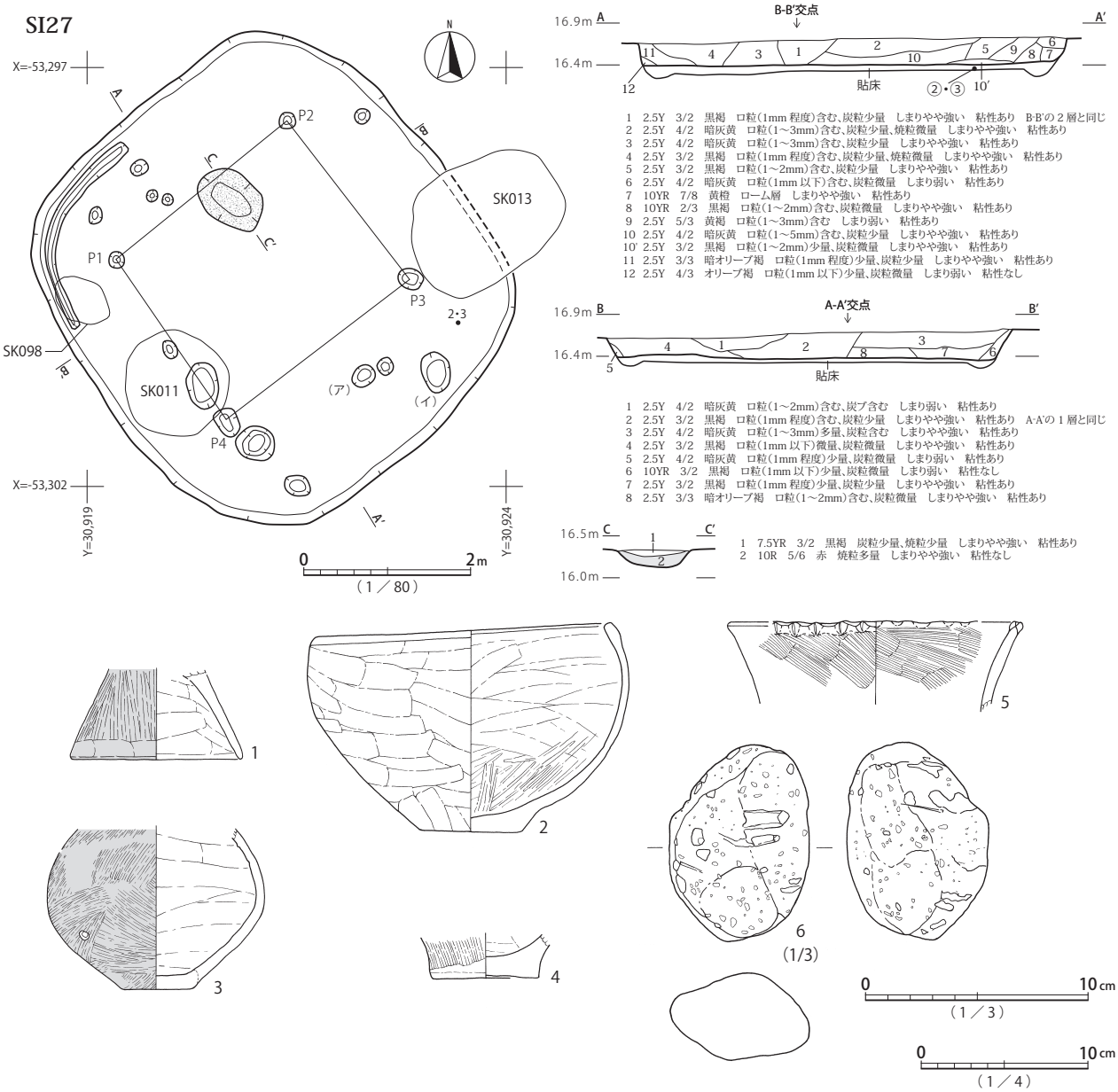


第22図　SI26 遺物実測図

SI23（第 18・19 図、図版 7・23・24・38）

形態・規模　D4 区に位置し、北東壁の一部を弥生時代終末期前半の竪穴建物跡のSI22と切り合う。さらに上層に平安時代竪穴建物跡SI71が構築され、一部破壊を受けている。また同様に北東壁と南西壁の一部も後述するSK014・SK016にそれぞれ切られている。竪穴平面形は約3.2×2.8mの隅丸方形を呈しており、主軸方位はN−30°−W、床までの深さは約0.2mである。柱穴は確認できなかったが、地床炉は中央北西側に位置し、深度は約0.12mである。この他、小穴（ア）は地床炉と反対側にあることから、梯子穴の可能性がある。なお、SI71の竪穴掘り込み深度は浅い。

出土遺物　1・2は鉢であり、前者は弥生時代終末期（中台式）、後者は弥生時代後期（久ヶ原式〜山田橋式）に位置付けられる。3は甕であり、弥生時代後期〜終末期（久ヶ原式〜中台式）の所産と考え



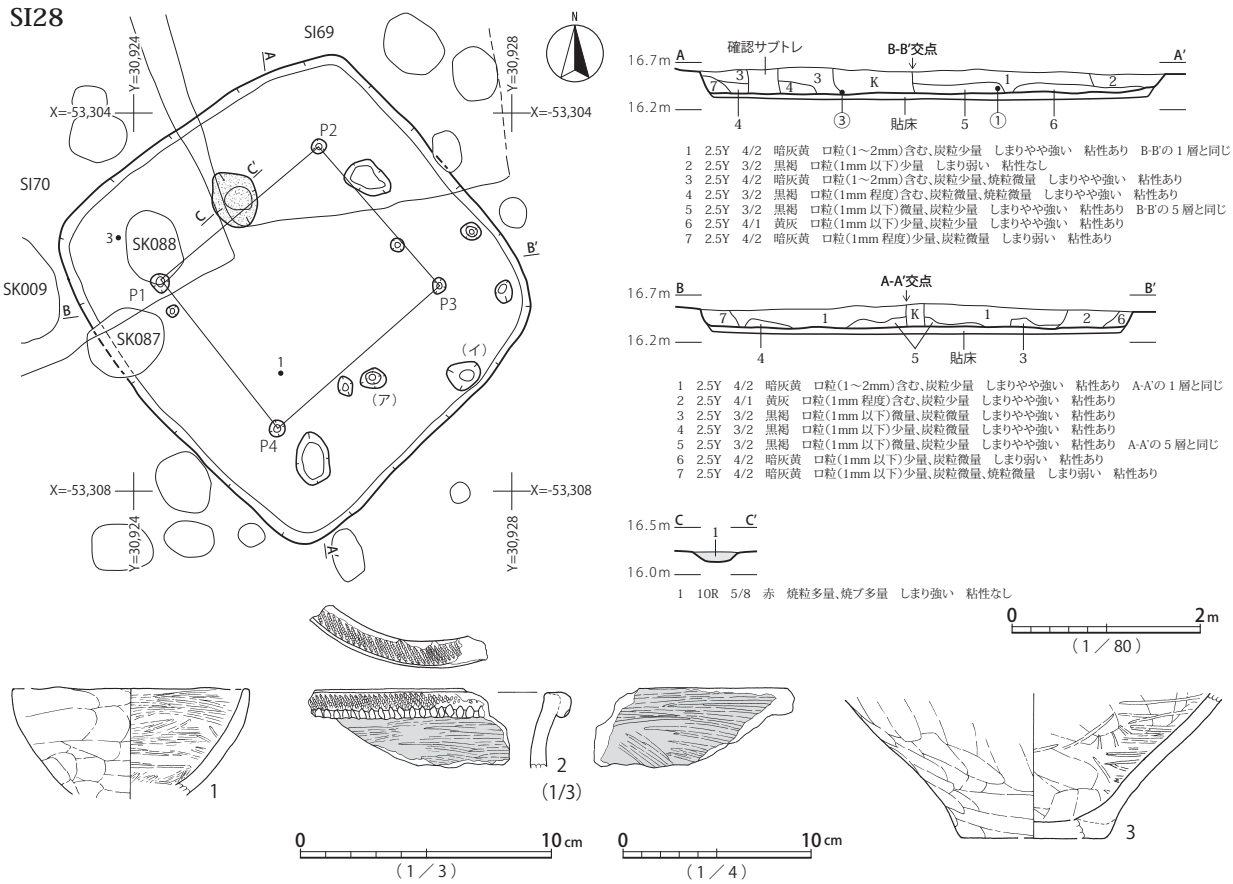
第23図　SI27 遺構図・遺物実測図

られる。本遺構の帰属時期は、1・3が床面直上から出土していることから弥生時代終末期（中台式期）と考えられる。平面形の比較からはSI22より本遺構の方が新しく捉え得るものの、切り合い部の土層は不明瞭で断定は難しい。

SI24（第20図、図版38）

形態・規模　主にD4区に位置し、遺構の大部分は調査区外へと続く。床までの深さは約0.15mであり、竪穴平面形は円形または方楕円形を呈していたと考えられる。

出土遺物　1は高杯であり弥生時代後期（山田橋式）のものと思われる。調査範囲が狭小なため、出土遺物はこの1点のみである。そのため、遺物から本遺構の帰属時期を特定することは困難だが、推定される竪穴平面形を勘案すると、弥生時代後期後半（山田橋式期）の遺構と推察される。



第24図　SI28 遺構図・遺物実測図

SI25（第 20 図、図版 7・24・38）

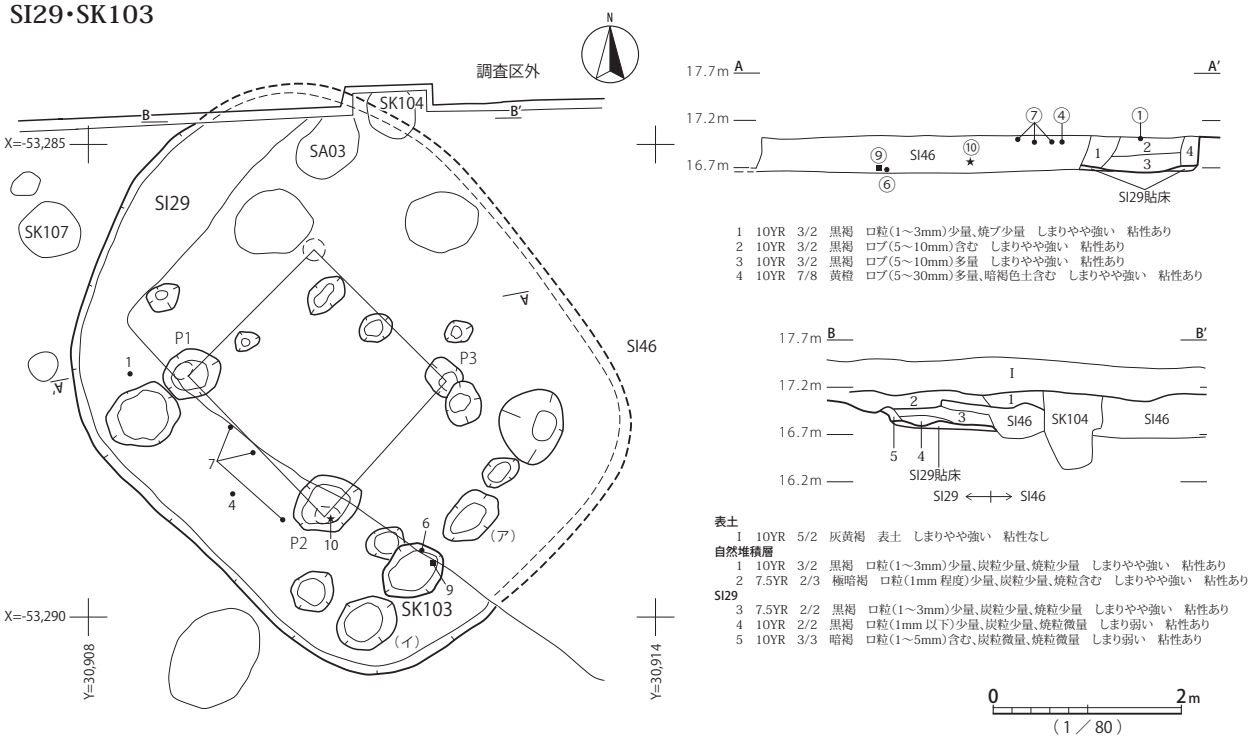
形態・規模　主にD4区に位置し、遺構南西部の半分ほどは調査区外へ続く。竪穴平面形は直径約4.7 ～ 4.9mの不整円形が想定でき、主軸方位はN－53°－Eと思われ、床までの深さは約0.1mと浅い。柱穴は確認できないが、地床炉は中央やや北東側に位置し、深度は約0.1mである。

出土遺物　1は甕であり弥生時代後期（久ヶ原式～山田橋式）のものと考えられる。2は中世在地土器カワラケの杯である。本遺構の帰属時期は、平面形と床面直上から出土した甕1から弥生時代後期（久ヶ原式～山田橋式期）と考えられる。

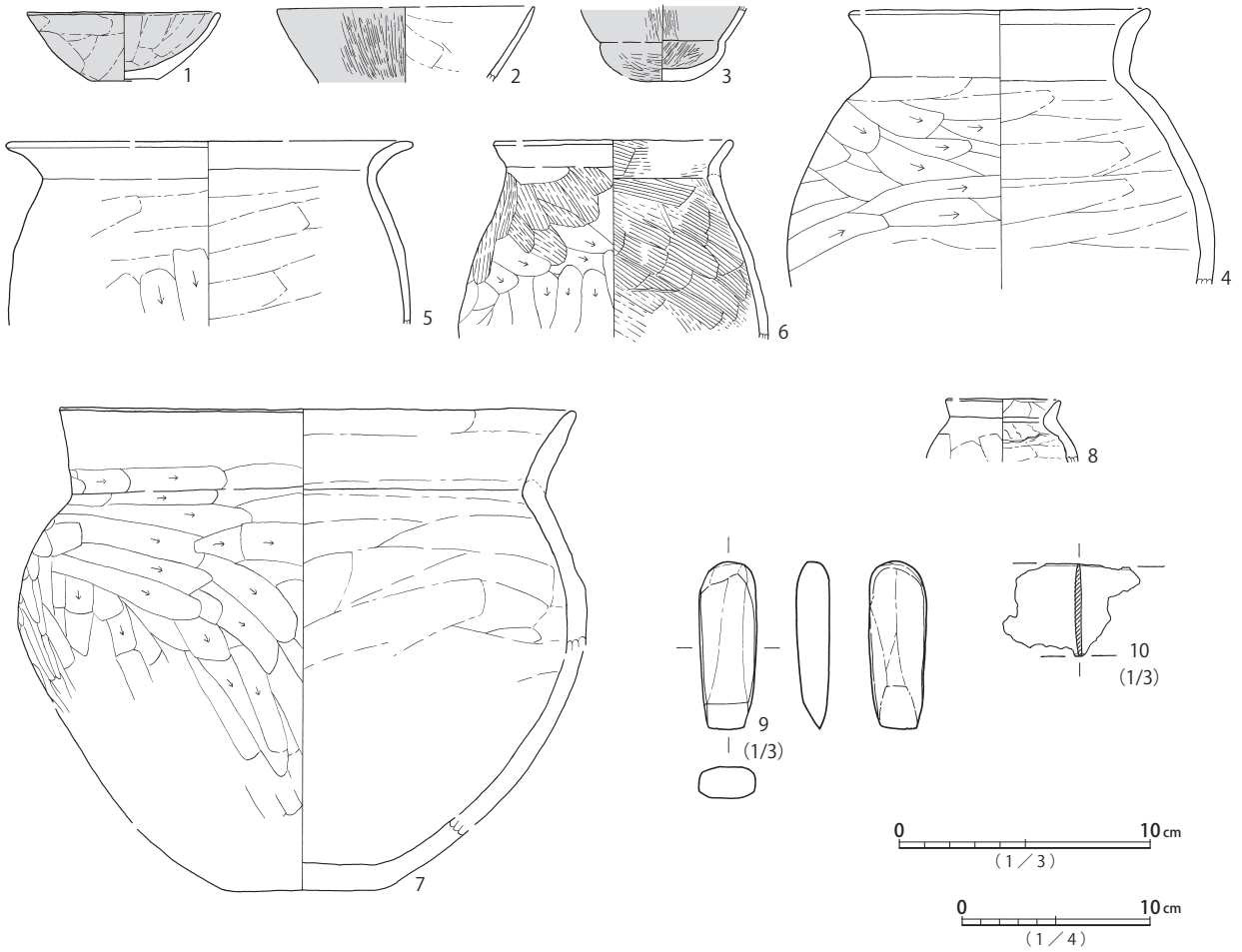
SI26・SK080（第 21・22 図、図版 7・24・38）

形態・規模　主にD1区に位置し、遺構北側の一部は調査区外に出ている。また竪穴南側壁の上端は古墳時代中期以降の竪穴建物跡SI44・45によって破壊されている。竪穴平面形は約9.0×7.3mの方楕円形を呈しており、主軸方位はN－50°－W、床までの深さは約0.4mである。主柱穴は4箇所検出し、柱並びはほぼ方形配置、柱心々間距離はP1－P2間約4.4m、P2－P3間約3.6m、P3－P4間約4.0m、P4－P1間約3.7mである。深度はP1約0.7m、P2約0.6m、P3約0.7m、P4約0.8mである。また地床炉は3箇所確認され、主要な地床炉（炉1）は中央やや北西側にあり、深さは約0.3mである。その他の地床炉（炉2・3）の位置はそれぞれ炉1から北東約2.2m・南西約1.6mである。また深さは約0.1mと約0.16mである。この他、小穴（ア）は梯子穴、SK080は深度が約0.8mと深いため、貯蔵穴と考

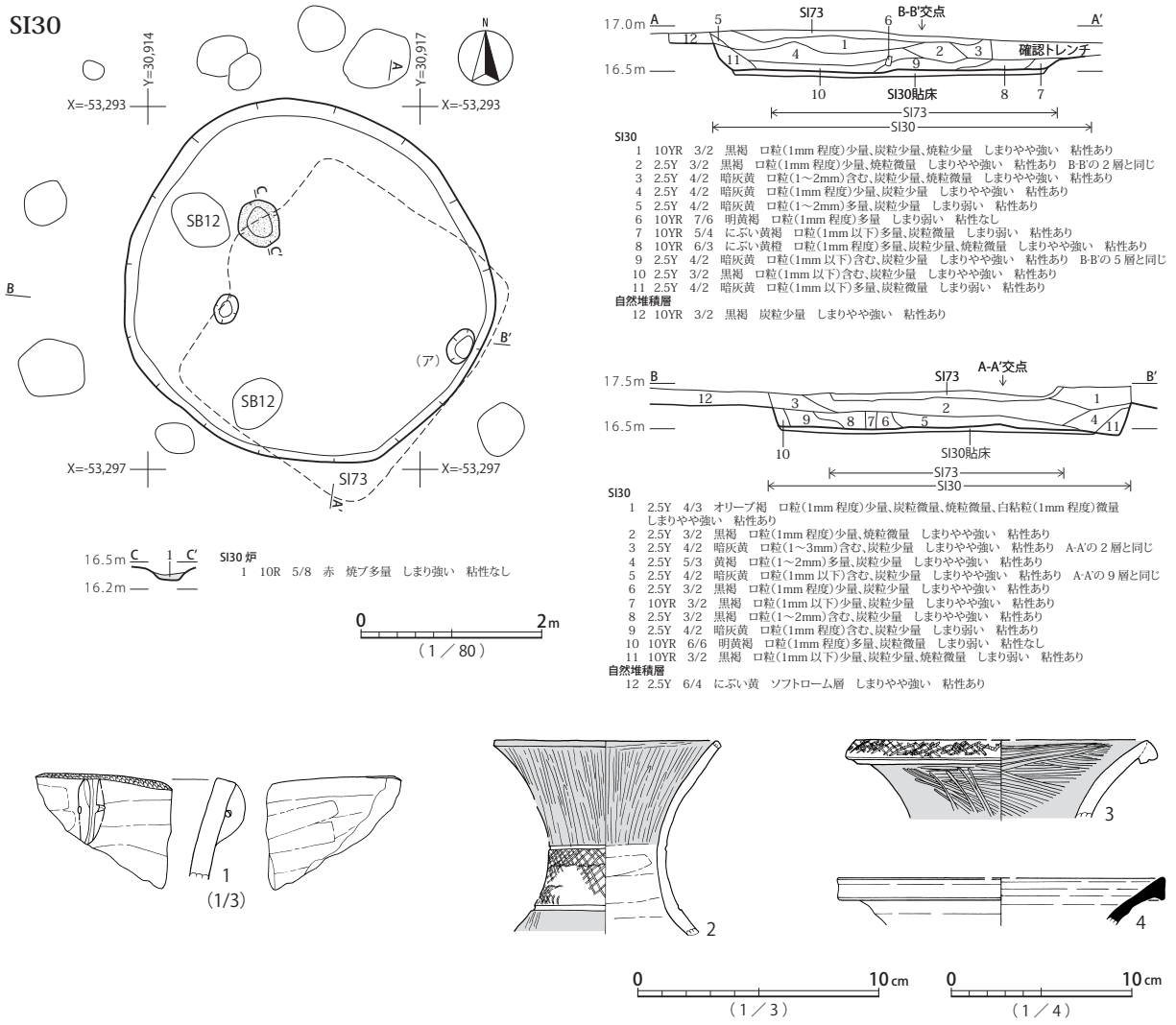
SI29・SK103



SI29



第25図　SI29・SK103 遺構図、SI29 遺物実測図



第26図　SI30 遺構図・遺物実測図

えられる。なお、本遺構と平安時代竪穴建物跡SI67とは一部重複関係にあるが、後者の竪穴掘り込み深度が浅く検出面レベルが近いため、本遺構への影響は無かったと考えられる。

出土遺物　1～6は鉢であり、2～6は弥生時代後期後半（山田橋式）のものと考えられる。口縁部に縄文帯のない1については、弥生時代終末期、中台式までの幅の中に位置付けられる。7・8は壺、9～11は甕であり、いずれも弥生時代後期に属すると思われる。本遺構の帰属時期として、出土遺物の様相や平面形などから弥生時代後期後半、山田橋式期に当たると推察される。

SI27（第23図、図版8・24・38・53）

形態・規模　主にE2区に位置し、北東壁の一部は平安時代土坑SK013によって床面レベルまで破壊されている。竪穴平面形は約5.2×4.9mの隅丸方形を呈し、主軸方位はN−39°−W、床までの深さは約0.3mである。北西壁際には周溝が巡っている。柱穴は4箇所確認され、柱並びは良好、柱心々間距離はP1−P2間約2.6m、P2−P3間約2.4m、P3−P4間約2.7m、P4−P1間約2.3mである。深度はP1・P2で約0.6m、P3約0.15m、P4約0.1mである。また地床炉は中央やや北西側に位置し、深さは約0.2mである。この他、小穴（ア）は梯子穴、小穴（イ）は貯蔵穴と思われる。

出土遺物　1は高杯、2は鉢、3は小型壺であり、いずれも弥生時代終末期（中台式）の所産と考えられる。4・5は弥生時代中期後葉、宮ノ台式の甕である。6は平坦面を伴う軽石であり、磨石として使用されたと考えられる。本遺構の帰属時期は、平面形と出土遺物の様相から弥生時代終末期（中台式期）と推察される。

SI28（第24図、図版8・24・38）

形態・規模　主にD3区に位置し、上層の平安時代遺構（SI69・70）の掘削後に検出した。竪穴平面形は約4.2×4.0mの隅丸方形を呈し、主軸方位はN−41°−W、床までの深さは約0.2mである。柱穴は4箇所確認され、柱並びは良好、柱心々間距離はP1−P2間約2.2m、P2−P3間約1.9m、P3−P4間約2.3m、P4−P1間約2.0mである。深度はP1約0.5m、P2約0.4m、P3約0.3m、P4約0.6mである。また地床炉は中央北西側に位置し、深さは約0.1mである。この他、小穴（ア）は梯子穴、小穴（イ）は貯蔵穴と考えられる。なお、上層のSI69・70の竪穴床面レベルは本遺構の検出レベルより浅い。

出土遺物　1は鉢、2は広口壺で、いずれも弥生時代後期（久ヶ原式〜山田橋式）の所産と思われるが、特に無文の1は山田橋式以降に属する可能性がある。3は弥生時代後期の甕である。本遺構は、竪穴平面形を重視すると、弥生時代終末期（中台式期）に帰属すると見られる。

SI29・SK103（第25図、図版8・24・38・54・55）

形態・規模　主に法定外道路区に位置し、遺構の大半は古墳時代終末期の大型竪穴建物跡SI46に破壊されている。竪穴平面形は約6.0×4.8mの隅丸方形を呈し、主軸方位はN−45°−Wであったと考えられ、床までの深さは約0.4mである。柱穴は3箇所確認され、柱並びは方形配置に近く、柱心々間距離はP1−P2間約2.1m、P2−P3間約1.9mである。深度はP1約0.1m、P2・P3で約0.2mである。地床炉は検出されなかった。この他、小穴（ア）は梯子穴、SK103は貯蔵穴の可能性がある。

出土遺物　1は小型鉢、2は直口壺、3は小型丸底系壺であり、どれも古墳時代前期（草刈式）に属すると考えられる。4〜7は甕、8は小型甕であり、特に6は内外面にハケメを残していることから古墳時代前期（草刈式）の所産と考えられる。9は柱状片刃石斧、10は不明鉄片（鎌？）である。遺存状態の良い出土遺物に古墳時代前期土師器が含まれるものの、上層を中心に検出されており、遺構時期を直接示すものとは言い難い。石斧9が宮ノ台式期の遺物であるとすれば、平面形を重視し、本遺構は弥生時代中期後葉から終末期までの範囲に帰属時期を推定できる。調査区内に宮ノ台式土器が少量認められることから、宮ノ台式期の所産としても不思議ではない。

SI30（第26図、図版8・24・38）

形態・規模　主にE2区に位置し、上層に平安時代竪穴建物跡SI73が重なる。竪穴平面形は直径約4.0〜4.1mの円形を呈し、主軸方位はN−32°−Wであったと考えられる。床までの高さは約0.4mを測る。柱穴は確認されていない一方、地床炉は中央北西側に位置し、深度は約0.1mである。この他、小穴（ア）は貯蔵穴と思われる。なお、上層のSI73の床面レベルは本遺構表土最上層とほぼ等しい。

出土遺物　1は鉢であり、弥生時代中期後葉、宮ノ台式に位置付けられる。2・3は壺で、前者は弥生時代後期（久ヶ原2式）、後者は弥生時代後期（久ヶ原式〜山田橋式）の所産と考えられる。4は東海

産須恵器の瓶類口縁片であり、上層のSI73由来の遺物と思われる。本遺構の帰属時期は、2・3の所属時期から弥生時代後期中葉と推察される。

SI31（第27図、図版8・24・25・38・39・54）

形態・規模　主にE2区に位置し、北西隅は平安時代竪穴建物跡のSI76に床面レベルまで破壊されている。竪穴平面形は約4.2×4.0mの隅丸方形で、主軸方位はN−30°−W、床までの深さは約0.2〜0.3mである。柱穴は確認されていない一方、地床炉は中央やや北西側に位置し、深度は約0.1mである。この他、小穴（ア）は梯子穴、小穴（イ）は貯蔵穴と考えられる。

出土遺物　1は高杯、2は台付甕、3は広口壺である。いずれも弥生時代後期後半から終末期、山田橋式から中台式に位置付けられる。4・5は壺であり両者とも弥生時代後期後半（山田橋式）の範疇である。6は東海産須恵器の蓋、7は磨石であり全面被熱している。本遺構の帰属時期は、床面直上から出土した土器1〜3から、弥生時代終末期前半（中台1式期）の所産と推察される。

SI32（第28図）

形態・規模　主に法定外道路区に位置する。遺構の南西半分は調査区外に続き、東壁や北壁はそれぞれSI50・SI76などによって破壊されている。竪穴平面形は直径約3.3〜3.4mの円形または方楕円形が想定され、床までの深さは約0.2mである。明確な床面施設は確認されていないが、小穴（ア）は梯子穴、小穴（イ）は貯蔵穴の可能性がある。

出土遺物　掲載遺物はない。非掲載遺物として、時期不明土師器が僅かに出土している。本遺構の帰属時期の検証は困難であるが、他遺構との切り合い関係や平面形から弥生時代後期の遺構と推測される。

SI33（第28図、図版39）

形態・規模　西端区に位置し、遺構南西部大半は調査区外に続く。また北西隅と北東隅は古墳時代中期以降のSI47・SI51によって破壊されている。外形や主軸方位は不明であり、床までの深さは約0.2mである。主柱穴や地床炉は確認されていないが、小穴（ア）は梯子穴の可能性がある。

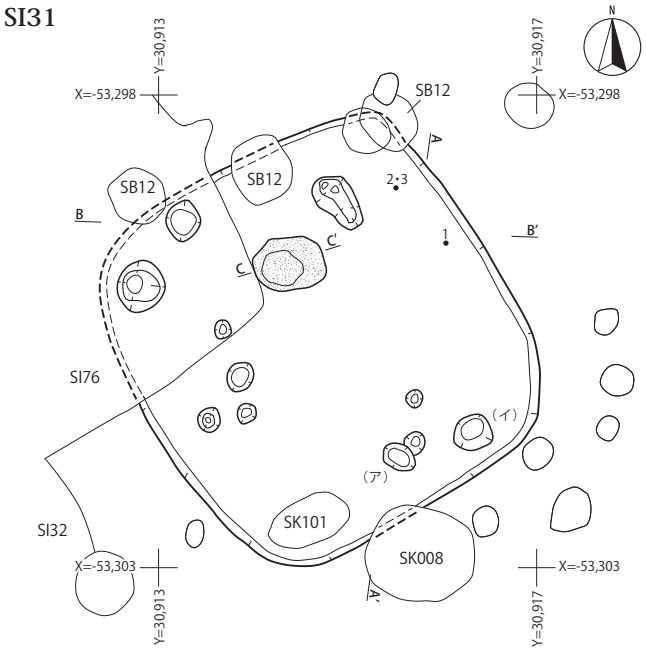
出土遺物　1は非在地的な弥生土器で、肩部に2本束ねの施文具による斜位の多条沈線文、最大径以下に附加条1種の縄文が施されている。弥生時代中期後葉（宮ノ台式）並行、東関東系（阿玉台北式系）の型式と考えられる。この他、非掲載遺物として、時期不明土師器甕などが僅かに出土している。本遺構の帰属時期は、出土遺物が少なく検証は困難であるが、弥生土器1から弥生時代中期後葉（宮ノ台式期）の所産と考えられる。

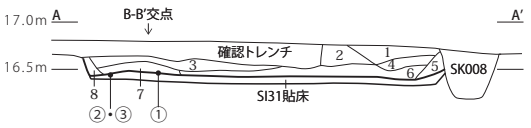
古墳時代

SI11（第29図、図版6・11・23・37）

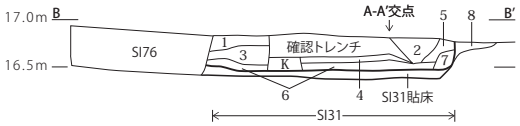
形態・規模　主にC1区に位置し、遺構の大半は古墳時代中期の竪穴建物跡SI39に破壊されており、本遺構は南東部隅を除いた範囲は貼床部のみ残存している。竪穴平面形は約6.2×4.5mの隅丸方形を呈していたと思われ、床までの深さは約0.3m、主軸方位は南北であったと考えられる。柱穴・地床炉は確認されていない。

SI31

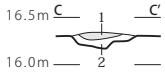




1　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
2　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり
3　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 4 層と同じ
4　2.5Y　4/2　暗灰黄　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む　しまり弱い　粘性あり
5　2.5Y　4/2　暗灰黄　ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒少量　しまり弱い　粘性あり
6　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 6 層と同じ
8　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量　しまり弱い　粘性あり

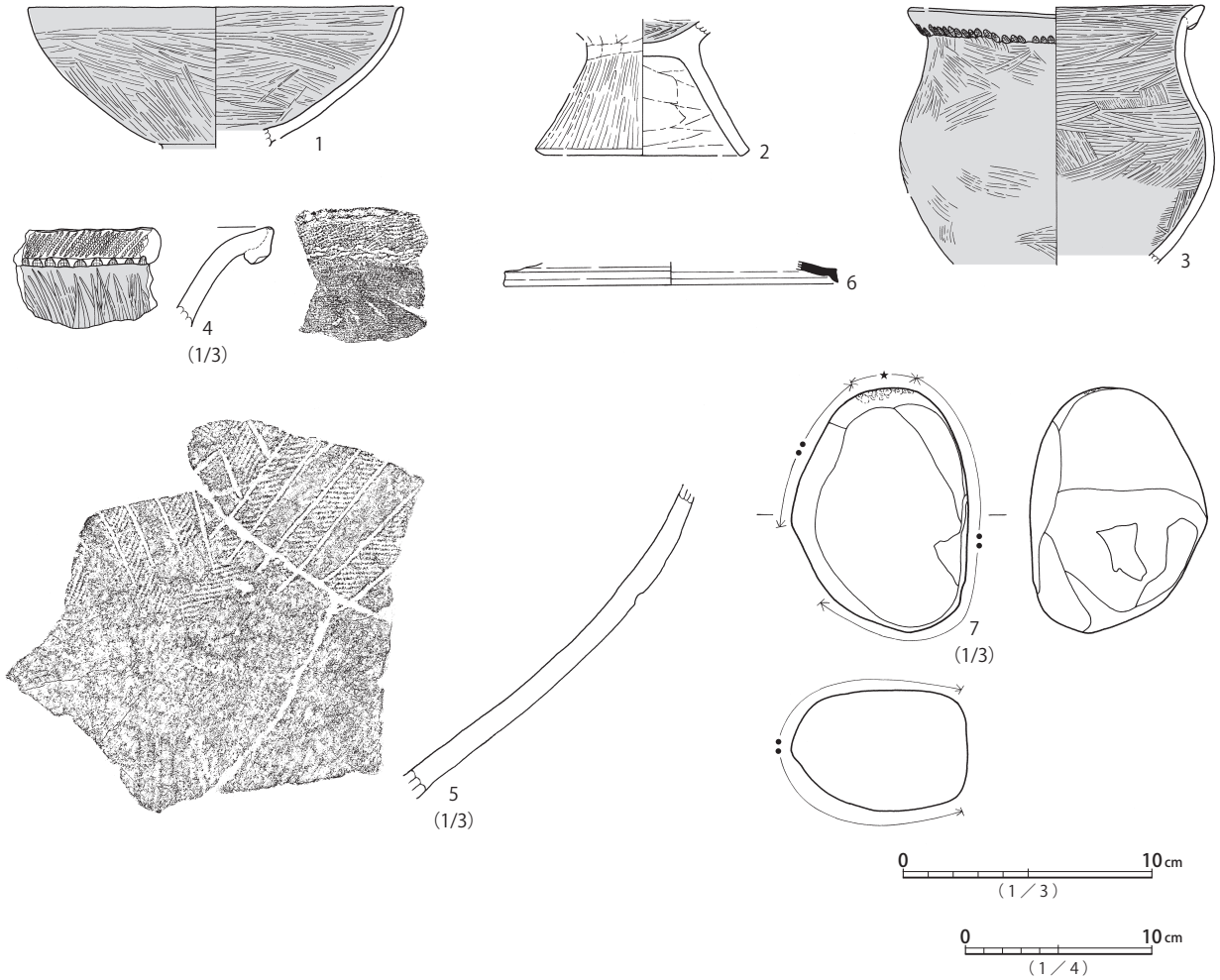


1　2.5Y　4/2　暗灰黄　ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
2　2.5Y　4/2　暗灰黄　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
3　2.5Y　4/2　暗灰黄　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり
4　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 3 層と同じ
5　2.5Y　3/3　暗オリーブ褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
6　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 7 層と同じ
7　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり
8　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり



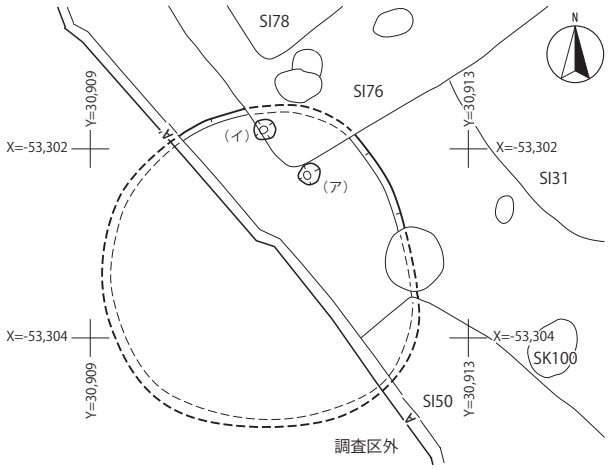
1　10R　5/6　赤　焼粒多量　しまりやや強い　粘性なし
2　7.5YR　3/3　暗褐　ロ粒(3mm 程度)多量　しまり弱い　粘性なし

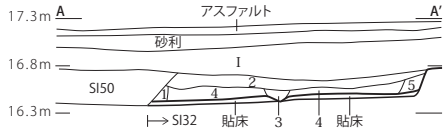
0　2m
(1／80)



第27図　SI31 遺構図・遺物実測図

SI32





道路造成土

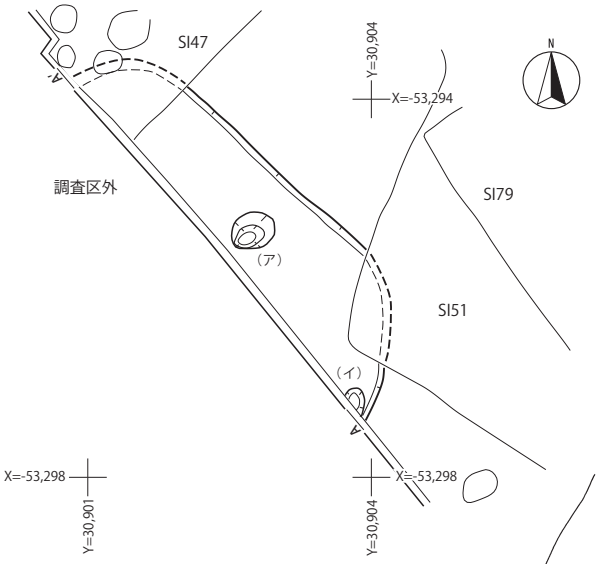
I　10YR　3/1　黒褐　ロ粒（1mm 程度）少量、炭粒微量、焼粒少量　しまり強い　粘性あり

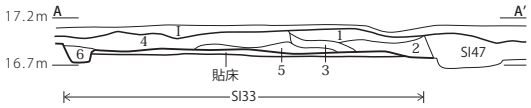
SI32

1　10YR　4/1　褐灰　ロ粒（1mm 程度）多量、炭粒微量、焼粒含む　しまり弱い　粘性あり
2　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 程度）含む、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 程度）多量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 程度）含む、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
5　10YR　2/3　黒褐　ロ粒（1～3mm）多量、炭粒少量　しまり弱い　粘性あり

0　2m
（1／80）

SI33





表土

I　10YR　3/3　暗褐　ロ粒（1～3mm）含む、焼粒少量　しまりやや強い　粘性なし

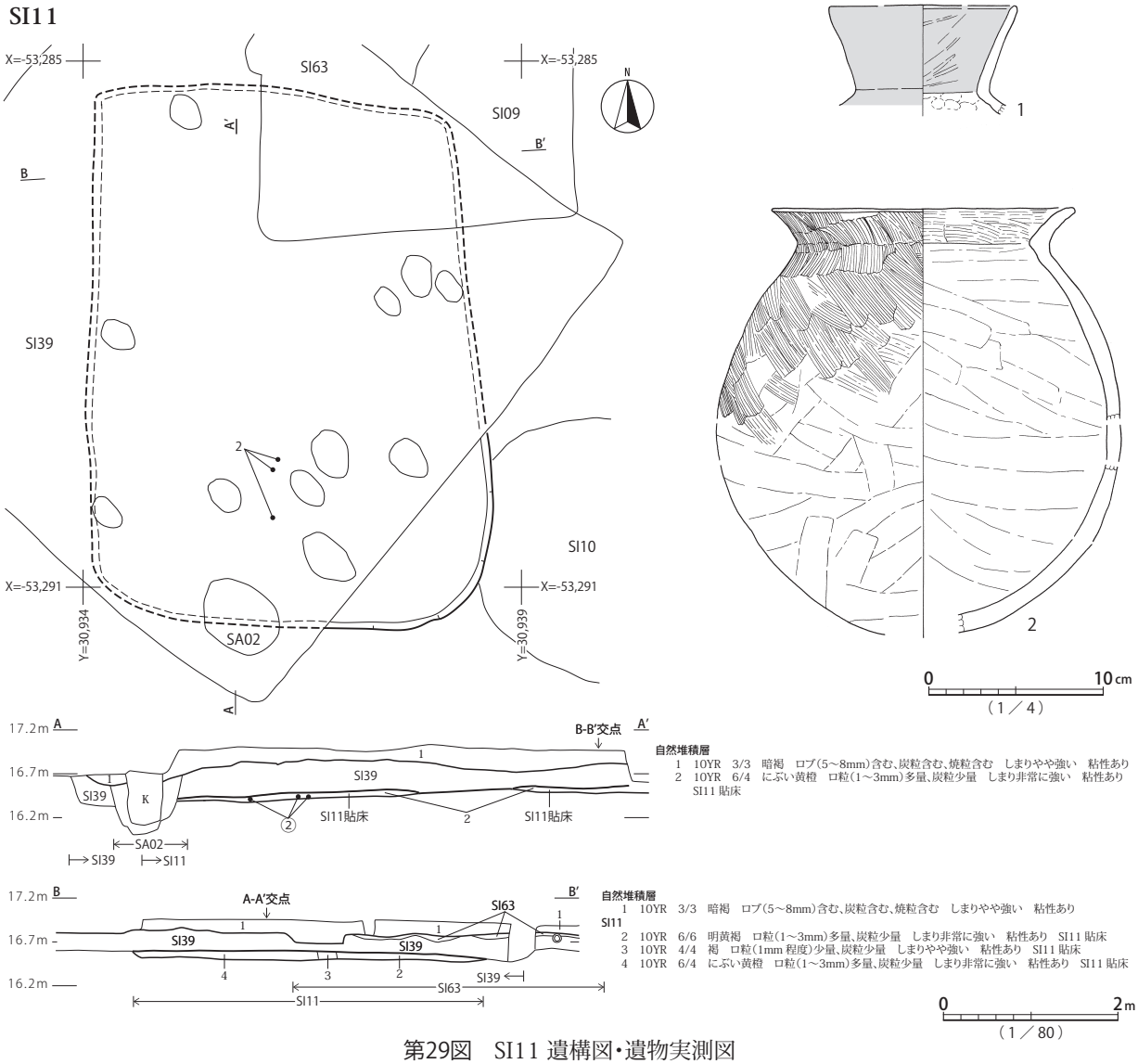
A-A′

1　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒（1～5mm）含む、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性なし
2　10YR　5/3　にぶい黄褐　ロ粒（1mm 以下）少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　5/4　にぶい黄褐　ロ粒（1～3mm）含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　4/2　灰黄褐　ロブ（5～20mm）含む　しまり弱い　粘性なし
5　10YR　4/4　褐　ロ粒（1mm 以下）少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
6　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1～3mm）少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり

0　2m
（1／80）

0　10cm
（1／4）

第28図　SI32・33 遺構図、SI33 遺物実測図



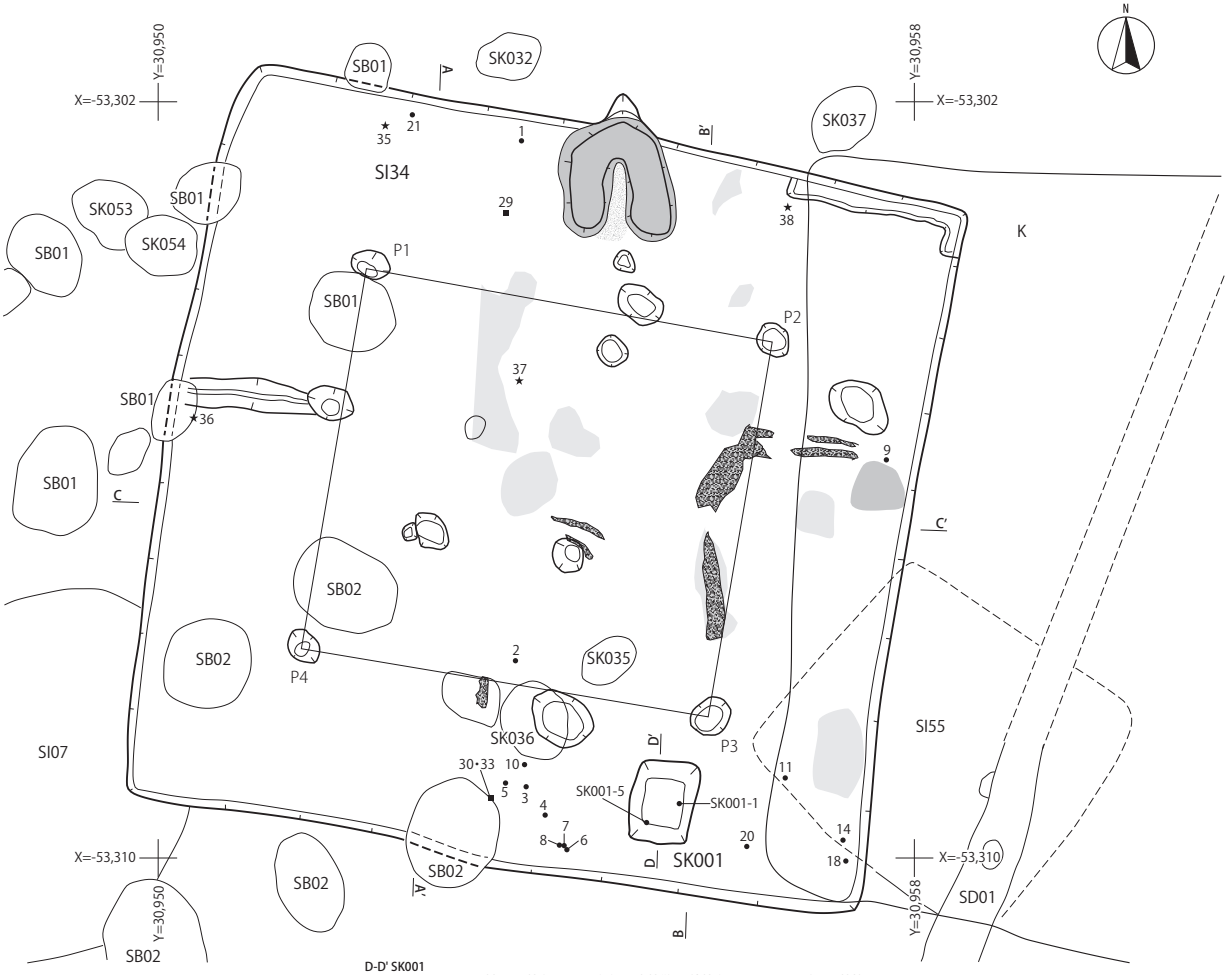
第29図　SI11 遺構図・遺物実測図

出土遺物　1は直口壺、2はハケメの施される甕で、前者は弥生時代終末期～古墳時代前期（中台式～草刈式）、後者は古墳時代前期（草刈式）の所産と思われる。これらの土器から、本遺構は古墳時代前期（草刈式）に帰属すると思われる。

SI34・SK001（第 30 ～ 34 図、図版 8・9・25・34・39・51・54・55・57）

形態・規模　主にA3区に位置し、東側の一部は後世の撹乱によって床面を僅かに残して破壊されている。また西側と南西側ではSB01とSB02に重複している。竪穴平面形は約7.8×7.9の方形を呈し、主軸方位はN－11°－E、床までの深さは約0.3mである。柱穴は4箇所確認され、柱並びは方形配置、柱心々間距離はP1－P2間約4.4m、P2－P3間約4.0m、P3－P4間約4.4m、P4－P1間約4.1mである。深度はP1約0.6m、P2 ～ P4で約0.8mである。加えて、この遺構の床面には焼土や炭化材が点在している。その他の特徴として、床面北東隅では僅かに周溝が確認された。西壁には直交するように細い溝と先端に小穴が付随しており、間仕切り壁の跡と思われる。また本遺構の北壁にはカマドがあり、遺存状態は良好であった。カマド北側には煙道も残存しており土層断面図では焼土層の帯が確認でき

SI34・SK001

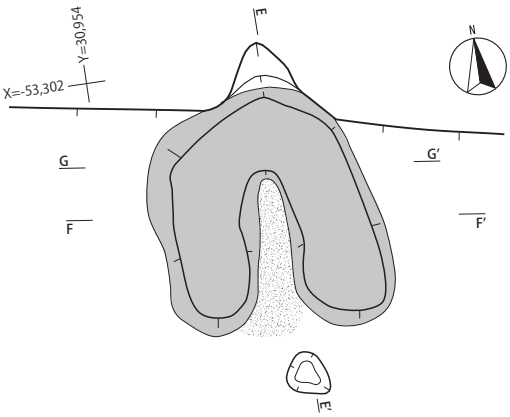


D-D' SK001

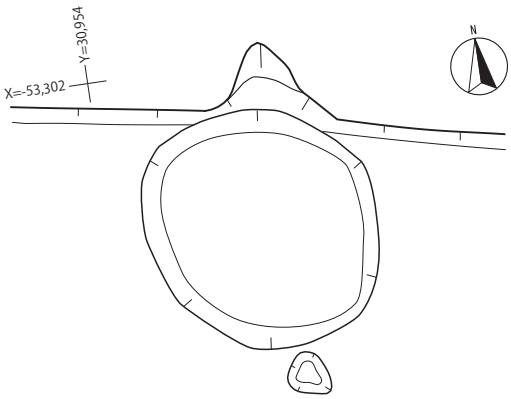
1	10YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm以下)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
2	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
3	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1～2mm)微量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
4	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm以下)少量、炭粒微量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
5	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm以下)微量　しまり弱い　粘性あり
6	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm以下)微量、焼粒微量、白粘粒(1mm以下)少量　しまりやや強い　粘性あり
7	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
8	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm以下)微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
9	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm以下)少量　しまりやや強い　粘性あり
10	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～2mm)少量　しまり弱い　粘性あり
11	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm以下)微量　しまりやや強い　粘性あり
12	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm以下)微量　しまり弱い　粘性あり

0　2m
(1／80)

カマド



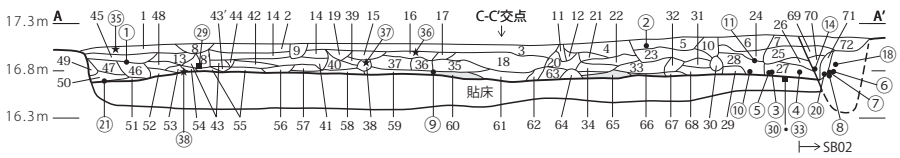
掘方



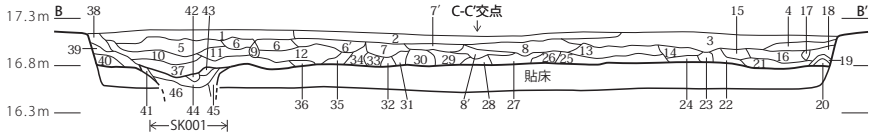
0　1m
(1／40)

第30図　SI34・SK001 遺構図

SI34



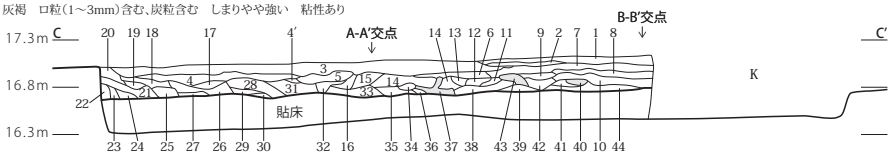
1 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
2 7.5YR 4/4 褐 ロ粒(1～2mm)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり C-C′の３層と同じ
4 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、白粘粒(1mm 程度)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、ロブ(5～8mm)微量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、ロブ(5～8mm)微量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 6/2 灰黄褐 白粘粒(1mm 程度)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
8′ 10YR 6/2 灰黄褐 白粘粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
9 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
11 2.5YR 3/2 暗赤褐 ロ粒(1～3mm)多量、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
12 2.5YR 3/2 暗赤褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり
13 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
14 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、ロブ(8～10mm)微量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
17 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
18 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり C-C′の 15 層と同じ
19 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
20 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
21 2.5YR 3/2 暗赤褐 ロ粒(1～3mm)多量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
22 2.5YR 3/2 暗赤褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
23 2.5YR 4/2 灰赤 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
24 2.5YR 3/2 暗赤褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
25 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
26 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1～5mm)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
27 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
28 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
29 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
30 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
31 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
32 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
33 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～3mm)含む、ロブ(8～10mm)少量、炭粒含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
34 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1～2mm)含む、ロブ(5～10mm)微量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
35 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5～10mm)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
36 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
37 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
38 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(3～5mm)含む、ロブ(5～10mm)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
39 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性あり
40 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～2mm)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
41 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
42 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
43 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、白粘粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
43′ 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり
44 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、白粘粒(1mm 程度)微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性なし
45 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
46 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
47 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～8mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
48 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
49 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)微量 しまりやや強い 粘性あり
50 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
51 7.5YR 3/2 黒褐 白粘粒(1mm 程度)含む、焼粒少量 しまり非常に強い 粘性あり SI008 貼床
52 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
53 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
54 10YR 5/2 灰黄褐 白粘粒(1mm 程度)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
55 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
56 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
57 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
58 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
59 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり
60 7.5YR 2/3 極暗褐 焼粒多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
61 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり C-C′の 33 層と同じ
62 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(3～5mm)含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
63 7.5YR 3/2 黒褐 ロブ(5～8mm)多量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
64 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
65 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒多量 しまりやや強い 粘性あり
66 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
67 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒多量 しまりやや強い 粘性あり
68 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
69 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまり弱い 粘性あり
70 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
71 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、ロブ(15mm 程度)微量 しまり弱い 粘性あり
72 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量 しまりやや強い 粘性あり



1 5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
2 5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり C-C′の１層と同じ
3 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性なし
4 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6′ 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
7′ 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5～10mm)微量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い
粘性あり C-C′の７層と同じ
8′ 5YR 4/2 灰褐 ロ粒(3～5mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり C-C′の８層と同じ
9 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(3mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、ロブ(5～8mm)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
13 5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～5mm)少量、ロブ(8～10mm)少量、白粘粒(1mm 程度)少量、焼粒微量
しまりやや強い 粘性なし
14 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 4/2 灰黄褐 ロブ(5～20mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
17 10YR 3/2 黒褐 炭粒微量、焼粒多量 しまり弱い 粘性あり
18 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
19 10YR 3/2 黒褐 白粘粒(1mm 程度)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
20 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(3～5mm)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
21 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
22 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、ロブ(5～8mm)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
23 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
24 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
25 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5～8mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
26 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
27 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5～8mm)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
28 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり C-C′の 10 層と同じ
29 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
30 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)微量、ロブ(8～10mm)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
31 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
32 7.5YR 3/2 黒褐 炭粒多量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
33 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
34 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒多量 しまりやや強い 粘性あり
35 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
36 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
37 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
38 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(3～5mm)多量 しまり弱い 粘性なし
39 5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
40 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(3～5mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり

SK001

41 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
42 7.5YR 4/2 灰褐 白粘粒(1～3mm)多量 しまり強い 粘性なし
43 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
44 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)少量、白粘粒(1mm 程度)微量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
45 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量 しまり弱い 粘性あり
46 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性あり
47 7.5YR 6/6 橙 ソフトローム層 しまりやや強い 粘性なし

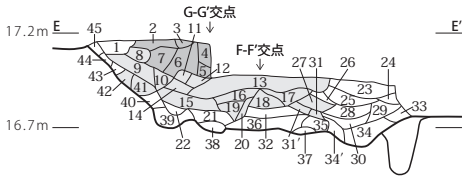


1 5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の２層と同じ
2 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
3 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり A-A′の３層と同じ
4 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
4′ 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量 しまりやや強い 粘性あり
5 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5～10mm)微量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い
粘性あり B-B′の８層と同じ
8 5YR 4/2 灰褐 ロ粒(3～5mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 8′ 層と同じ
9 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
10 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 28 層と同じ
11 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、ロブ(10mm 程度)微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 18 層と同じ
16 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量 しまり弱い 粘性あり
17 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
18 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
19 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
20 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
21 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
22 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
23 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)多量、炭粒少量 しまり弱い 粘性なし
24 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
25 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～10mm)微量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
26 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
27 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(3～5mm)多量 しまり非常に強い 粘性あり SI008 貼床
28 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(3～5mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
29 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(8～10mm)微量 しまりやや強い 粘性あり
30 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(3～5mm)多量 しまり非常に強い 粘性あり SI008 貼床
31 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
32 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり
33 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 61 層と同じ
34 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性あり
35 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
36 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
37 10YR 2/3 黒褐 炭粒少量、焼粒多量 しまりやや強い 粘性あり
38 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
39 10YR 3/2 黒褐 炭粒多量 しまりやや強い 粘性あり
40 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒多量 しまりやや強い 粘性あり
41 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
42 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
43 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
44 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり

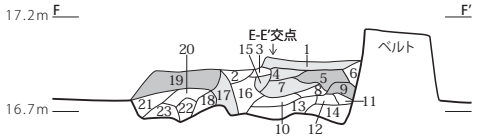
0 2m
（1／80）

第31図 SI34 遺構図

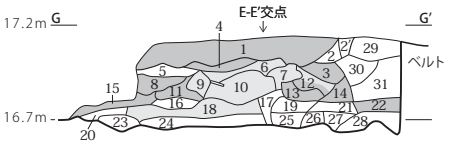
SI34 カマド



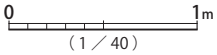
1　10YR　5/2　灰黄褐　ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)少量　しまり強い　粘性なし
2　10YR　7/3　にぶい黄橙　ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量、白粘粒(1～3mm)多量　しまり強い　粘性なし
3　10YR　7/3　にぶい黄橙　ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量、白粘粒(1～3mm)多量　しまり強い　粘性なし
4　10YR　6/3　にぶい黄橙　ロ粒(1～5mm)含む、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)含む　しまり強い　粘性なし
G-G′の 1 層と同じ
5　10YR　5/2　灰黄褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)含む　しまり強い　粘性あり
G-G′の 4 層と同じ
6　10YR　6/3　にぶい黄橙　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い
粘性なし
7　10YR　5/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒多量、白粘粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い　粘性なし
8　10YR　3/3　暗褐　炭粒少量、焼粒多量、白粘粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い　粘性なし
9　10R　4/8　赤　焼粒多量　しまり弱い　粘性あり
10　10R　4/2　灰赤　炭粒少量、焼粒多量　しまり弱い　粘性あり
11　10R　4/8　赤　炭粒少量、焼粒多量、白粘粒(1mm 程度)少量　しまりやや強い　粘性あり
12　10R　5/8　赤　焼粒多量、白粘粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い　粘性なし　G-G′の 6 層と同じ
13　10R　4/8　赤　炭粒含む、焼粒多量　しまりやや強い　粘性なし　F-F′の 1 層・G-G′の 10 層と同じ
14　10R　4/8　赤　炭粒少量、焼粒多量　しまりやや強い　粘性あり
15　10YR　3/4　暗褐　炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)少量　しまり弱い　粘性あり　G-G′の 18 層と同じ
16　5YR　3/4　暗赤褐　炭粒多量、焼粒多量　しまり弱い　粘性なし
17　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒(3～5mm)多量、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり　F-F′の 4 層と同じ
18　10R　3/6　暗赤　焼粒多量　しまり弱い　粘性あり　F-F′の 7 層と同じ
19　7.5YR　4/4　褐　炭粒少量、焼粒多量　しまり弱い　粘性なし
20　7.5YR　4/4　褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性なし
21　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
G-G′の 24 層と同じ
22　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
23　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量
しまりやや強い　粘性あり
24　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～2mm)含む、焼粒微量　しまり弱い　粘性あり
25　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5～10mm)少量、炭粒含む、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)含む
しまりやや強い　粘性あり
26　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(3～5mm)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
27　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い
粘性あり
28　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い
粘性あり
29　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)含む、焼粒少量　しまり弱い　粘性あり
30　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
31　10YR　3/2　黒褐　炭粒微量、焼粒多量　しまりやや強い　粘性あり
31′　10YR　4/2　灰黄褐　炭粒少量、焼粒多量　しまりやや強い　粘性あり
32　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　F-F′の 10 層と同じ
33　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり
34　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(3～5mm)多量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性なし
34′　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(3～5mm)多量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性なし
35　10YR　3/3　暗褐　ロブ(5～8mm)多量、炭粒少量、焼粒少量　しまり弱い　粘性なし
36　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(10～15mm)含む、焼粒少量　しまり弱い　粘性あり
F-F′の 13 層と同じ
37　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量　しまり弱い　粘性なし
38　10YR　5/6　黄褐　ロ粒(3～5mm)多量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性なし
39　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1mm 以下)微量、ロブ(5～8mm)微量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
40　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
41　10YR　3/2　黒褐　炭粒少量、焼粒多量　しまりやや強い　粘性あり
42　10YR　4/2　灰黄褐　炭粒微量、焼粒多量　しまりやや強い　粘性あり
43　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性なし
44　10YR　6/6　明黄褐　ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性なし
45　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 以下)微量　しまりやや強い　粘性なし



1　10R　4/8　赤　炭粒含む、焼粒多量　しまりやや強い　粘性なし　E-E′の 13 層・G-G′の 10 層と同じ
2　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)微量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　5/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒(3～5mm)多量、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり　E-E′の 17 層と同じ
5　10YR　5/3　にぶい黄褐　炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1～3mm)多量　しまりやや強い　粘性なし
6　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
7　10R　3/6　暗赤　焼粒多量　しまり弱い　粘性あり　E-E′の 18 層と同じ
8　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量　しまりやや強い　粘性あり
9　10YR　5/3　にぶい黄褐　炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1～3mm)多量　しまり強い　粘性なし
10　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　E-E′の 32 層と同じ
11　10YR　3/4　暗褐　ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
12　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)少量　しまりやや強い　粘性あり
13　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(10～15mm)含む、焼粒少量　しまり弱い
粘性あり　E-E′の 36 層と同じ
14　10YR　4/4　褐　ロブ(5～8mm)少量　しまりやや強い　粘性なし
15　10R　5/6　赤　炭粒含む、焼粒多量、白粘粒(1mm 程度)少量　しまり強い　粘性なし
16　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
17　10YR　3/2　黒褐　炭粒少量、焼粒多量　しまりやや強い　粘性なし
18　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
19　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
20　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
21　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
22　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
23　10YR　3/4　暗褐　ロ粒(1～3mm)少量、ロブ(5～8mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性なし



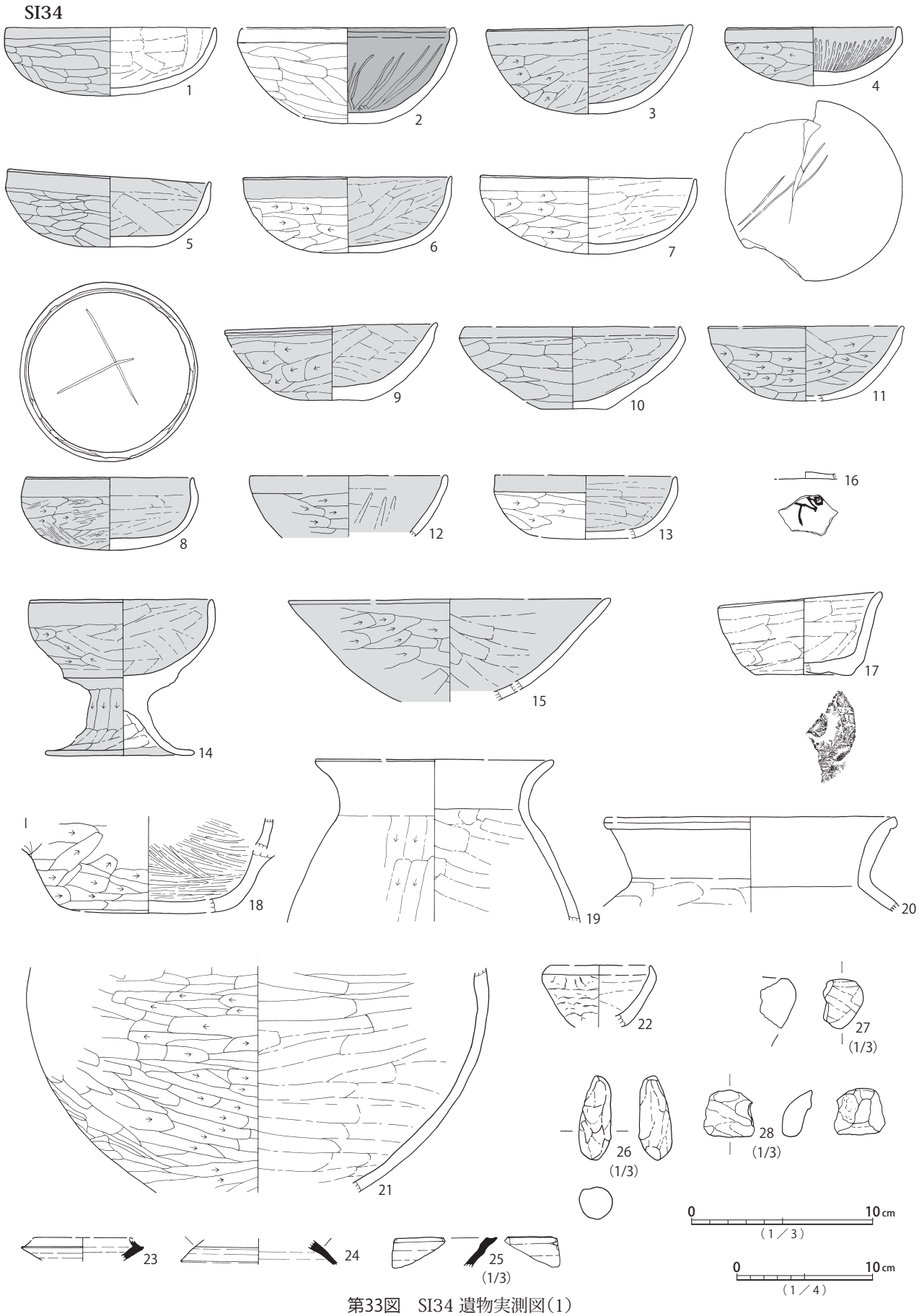
1　10YR　6/3　にぶい黄橙　ロ粒(1～5mm)含む、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)含む　しまり強い　粘性なし
E-E′の 4 層と同じ
2　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
2′　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　4/4　褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　5/2　灰黄褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)含む　しまり強い
粘性あり　E-E′の 5 層と同じ
5　10YR　5/3　にぶい黄褐　ロ粒(3～5mm)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
6　10R　5/8　赤　焼粒多量、白粘粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い　粘性なし　E-E′の 12 層と同じ
7　10YR　5/2　灰黄褐　炭粒多量、焼粒多量、白粘粒(1～3mm)含む　しまりやや強い　粘性あり
8　7.5YR　4/1　褐灰　ロ粒(1～5mm)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
9　10R　5/6　赤　焼粒多量、白粘粒(1～3mm)少量　しまりやや強い　粘性なし
10　10R　4/8　赤　炭粒含む、焼粒多量　しまりやや強い　粘性なし　E-E′の 13 層・F-F′の 1 層と同じ
11　10YR　8/4　浅黄橙　白粘粒(1～5mm)多量　しまり強い　粘性あり
12　10YR　4/2　灰黄褐　炭粒含む、焼粒多量、白粘粒(1～3mm)多量　しまりやや強い　粘性あり
13　10YR　8/4　浅黄橙　白粘粒(1～5mm)多量　しまり強い　粘性あり
14　10YR　4/3　にぶい黄褐　炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
15　10YR　4/2　灰黄褐　炭粒微量、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い　粘性あり
16　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
17　10YR　3/4　暗褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒微量、焼粒微量　しまり弱い　粘性あり
18　10YR　3/4　暗褐　炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)少量　しまり弱い　粘性あり　E-E′の 15 層と同じ
19　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～3mm)含む　しまりやや強い　粘性あり
20　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
21　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量　しまりやや強い　粘性あり
22　10YR　3/4　暗褐　炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い　粘性あり
23　10YR　5/3　にぶい黄褐　ロ粒(1～3mm)多量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
24　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　E-E′の 21 層と同じ
25　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(3～5mm)含む　しまりやや強い　粘性あり
26　10YR　3/3　暗褐　ロブ(5～10mm)多量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
27　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
28　10YR　3/4　暗褐　ロ粒(1～5mm)少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
29　7.5YR　4/3　褐　ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
30　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
31　10YR　3/4　暗褐　ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり



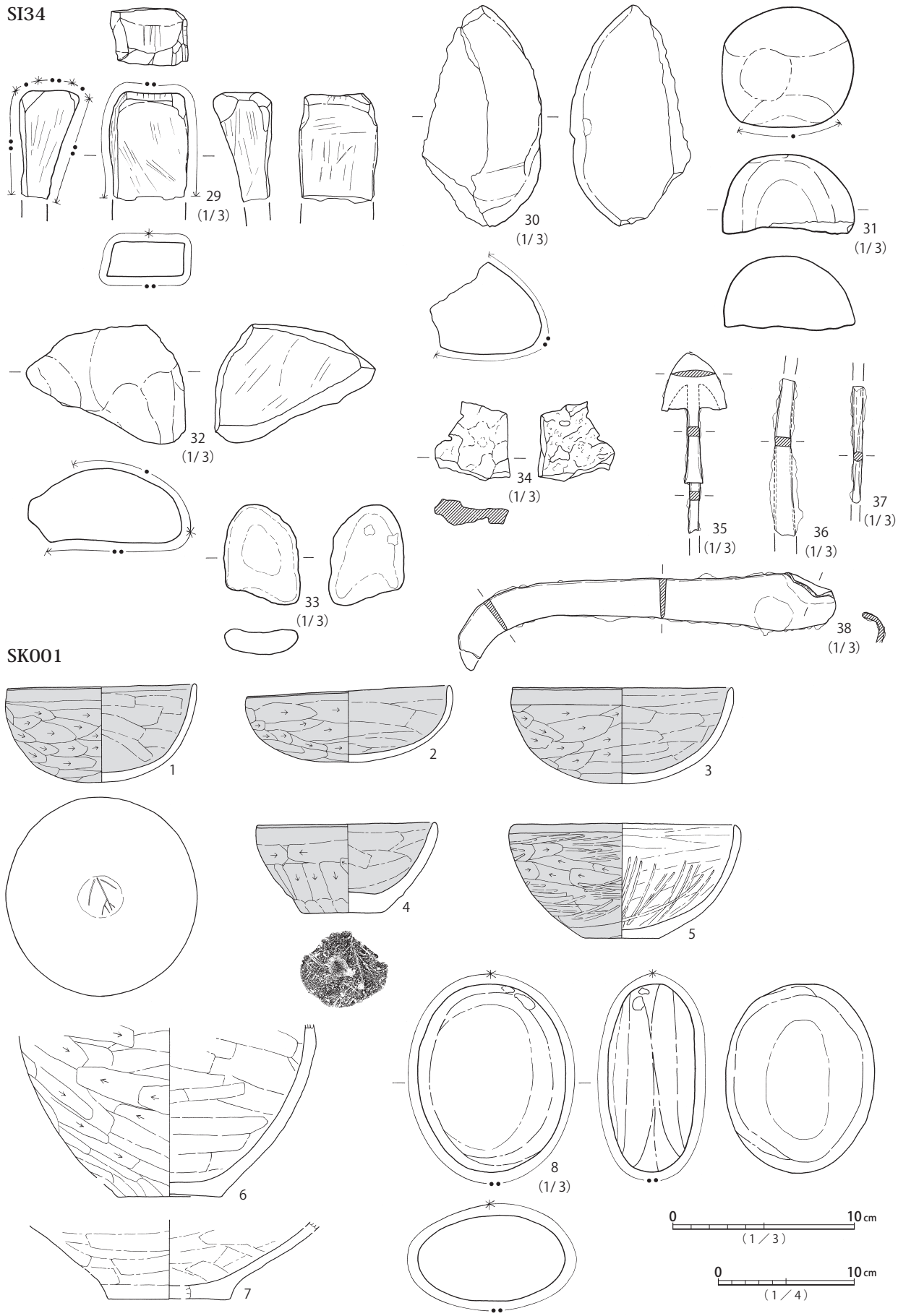
第32図　SI34 遺構図

た。さらに本遺構南壁傍に方形（約0.9×0.7m）で深さ約0.8mのSK001があり、覆土の中から完形の杯を含む多くの遺物が出土したことから貯蔵穴と思われる。

出土遺物　1～13は土師器の杯であり、平底を含むことから古墳時代中期中葉（和泉式から鬼高式の過渡期）のものと考えられる。1・3～6・8～13は赤彩を施している。また2・4・8・12は内面に放射状暗文を施し、4は底部外面に、8は底部内面に線刻が見られる。14・15は土師器の高杯で内外面に赤彩を施す。特に14は杯部形状が平底杯と椀形杯の中間的な様相を示す点が特徴的であり五所



第33図　SI34 遺物実測図(1)



第34図　SI34 遺物実測図(2)、SK001 遺物実測図

四反田遺跡SD023A出土土器に近似する資料が認められる（浅野2023）。16はロクロ土師器杯の底部の小片であり、外面に人名と思われる墨書が確認できる。古代遺構由来の混入品である。17は土師器鉢であり本遺構覆土と後述のSK001・SB02b1の覆土出土の小片3つが接合した。18は土師器鍋であり韓式系軟質土器の模倣品の可能性がある。19 ～ 21は土師器甕、22は手捏ね土器である。23は東海産須恵器の杯身でTK209 ～ TK217型式並行、24は東海産須恵器の蓋、25は陶邑産須恵器の壺類口縁片でTK23 ～ TK47型式並行と思われる。26 ～ 28は不明土製品である。29は砥石、30 ～ 32は磨石、33は被熱石である。34 ～ 38は鉄製品で、34は溶解炉壁、35は鉄鏃であり、古代遺構からの混入品と考えられる。36は刀子、37は棒状鉄製品、38は鉄鎌である。

さらにSK001の遺物として、1 ～ 5は土師器杯であり赤彩を施されている。特に1・4は底面に木葉痕が見られ、また5は内面に放射状暗文が施文されている。いずれも古墳時代中期中葉（和泉式～鬼高式）のものと考えられる。6・7は土師器甕、8は磨石である。

本遺構は出土土器の様相から、古墳時代中期中葉、市原市御林跡遺跡Ⅴ～Ⅵ期に相当する時期に帰属すると考えられる。

SI35・SK002（第35図、図版5・9・25・39・47・52）

形態・規模　主にB3区に位置し、遺構西側は古墳時代後期以降の竪穴建物跡SI36に破壊されている。竪穴平面形は約4.0×3.9mの方形を呈し、主軸方位はN－18°－Wであったと考えられる。床までの深さは約0.3mである。柱穴及びカマドは検出されていない。

また遺構北東隅に楕円形（約1.4×0.9m）・深さ約0.3mのSK002がある。この土坑はSI35の床面の一角にあった焼土範囲を掘削中に検出された。さらに底部付近の壁面の一部を掘り抜いたトンネル状の穴が遺構外へ続いており、天井の崩落の様相は確認されなかったことから、煙道と思われる。SK002の土層断面には焼土・灰も多く含まれており、カマドの可能性がある。

出土遺物　1・2は土師器高杯でありどちらも赤彩を施す。時期は両者とも古墳時代中期後半～後期（鬼高式）と思われる。3は土師器甕である。

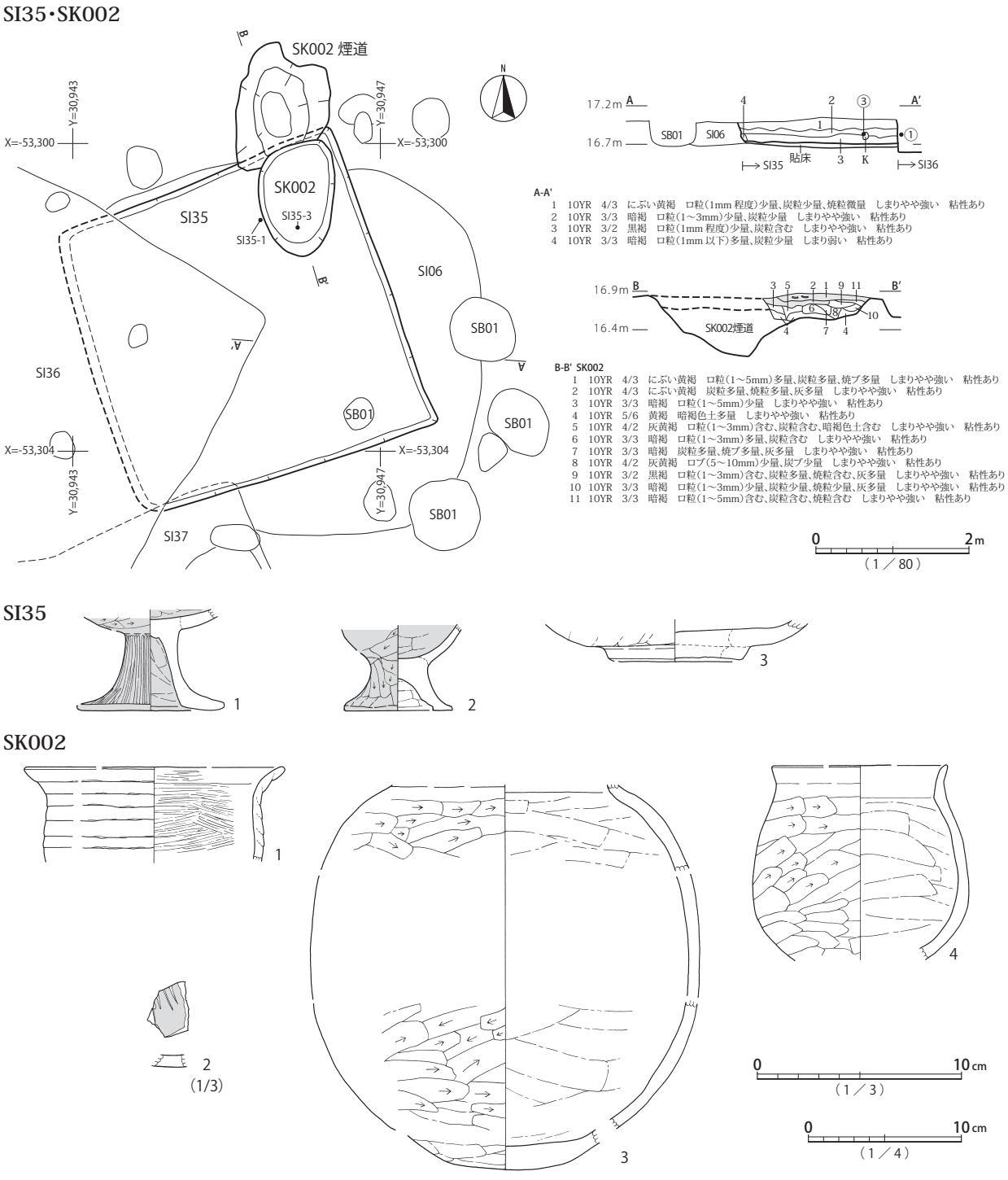
またSK002の遺物として、1は甕であり弥生時代後期（久ヶ原式～山田橋式）のもの、2は土師器杯の小片で内面に線刻がある。3は土師器壺もしくは甕、4は土師器甕である。

SI35の帰属時期は古墳時代中期後半～後期（鬼高式期）と考えられる。

SI36（第36～38図、図版9・10・25・26・39・51・55）

形態・規模　主にB3 ～ C3区に位置し、竪穴平面形は約4.7×4.8mの方形を呈する。主軸方位はN－60°－Wであり、床までの深さは約0.4mである。柱穴は4箇所確認されており、柱並びは一部不規則で、柱心々間距離はP1－P2間約2.3m、P2－P3間約2.2m、P3－P4間約1.8m、P4－P1間約2.1mである。深度はP1 ～ P2で約0.6m、P3約0.4m、P4約0.7mである。また北西壁中央付近にはカマドが付随し、遺存状態は良好、焚口では多くの焼土が検出された。貯蔵穴と思われる土坑は確認されていないが、カマド北東側の隅には甑など多くの遺物が集中して出土した（図版10）。

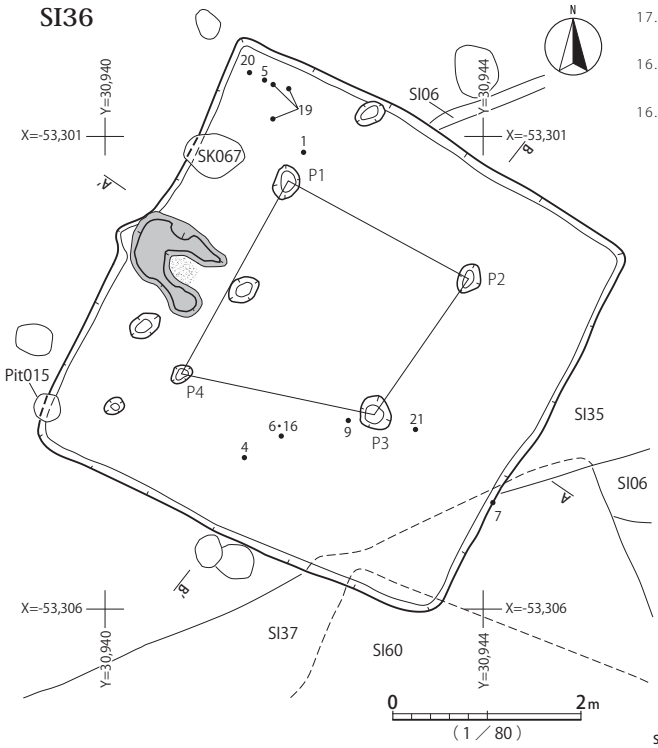
出土遺物　1 ～ 12は土師器杯であり古墳時代後期後半（鬼高式）の所産と考えられる。特に2・7・10は赤彩を施し、5は内面、6・8は内外面を黒色処理している。13・14は土師器高杯、15は土師器鉢

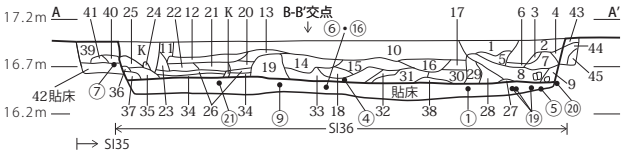


第35図　SI35・SK002 遺構図・遺物実測図

である。16は土師器小型短頸壺であり古墳時代後期前葉（鬼高式）のものと思われる。17 ～ 19は土師器甕、20・21は土師器甑であり、21は古墳時代後期（鬼高式）に属すると考えられる。22は常滑産の中世陶器片口鉢Ⅱ類である。23 ～ 25は土製品であり、23は支脚、24は棒状土製品、25は土玉である。26は不明鉄製品で木質が残存している。本遺構の帰属時期は古墳時代後期後半、市原市椎津茶ノ木遺跡第６期並行と推察される。

SI36





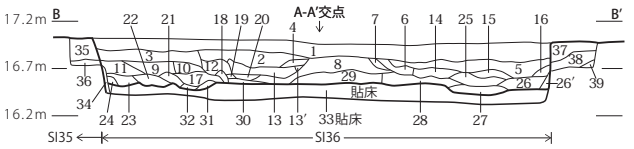
1 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)微量 しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、白粘粒(1～3mm)微量 しまり強い 粘性あり
5 10YR 3/4 暗褐 焼粒含む、白粘粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性なし
6 10YR 3/4 暗褐 白粘粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒含む、白粘粒(3～5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量 しまりやや強い 粘性あり
9 7.5YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒少量、白粘粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 1 層と同じ
11 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
13 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 8 層と同じ
15 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量、白粘粒(1～2mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
17 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
18 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量 しまり強い 粘性あり 貼床
19 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまり強い 粘性あり
20 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
21 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
22 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
23 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
24 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまり弱い 粘性あり
25 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量 しまりやや強い 粘性あり
26 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床
27 7.5YR 3/3 炭粒少量、明黄褐色粒多量 しまりやや強い 粘性なし
28 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒含む、焼粒多量、明黄褐色粒含む しまりやや強い 粘性あり
29 7.5YR 3/2 黒褐 炭粒含む、明黄褐色粒多量 しまりやや強い 粘性あり
30 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまり強い 粘性あり 貼床
31 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1mm 程度)含む しまり非常に強い 粘性あり 貼床
32 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
33 10YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 29 層と同じ
34 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
35 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
36 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
37 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
38 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床

SI35

39 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
40 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む しまり弱い 粘性あり
41 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5mm 程度)微量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
42 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量 しまり非常に強い 粘性あり SI35 貼床

自然堆積層

43 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、白粘粒(1～3mm)微量 しまりやや強い 粘性あり
44 10YR 5/4 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)多量 しまりやや強い 粘性あり
45 10YR 5/4 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)多量 しまりやや強い 粘性あり

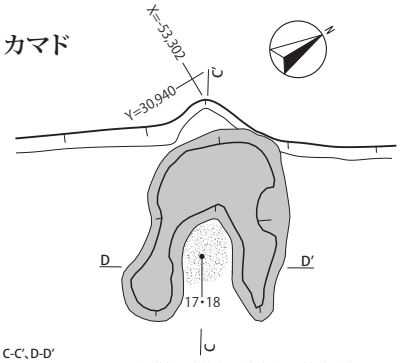


1 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 10 層と同じ
2 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまり強い 粘性あり
6 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～2mm)多量、炭粒少量、焼粒微量 しまり強い 粘性あり
7 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1～3mm)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 14 層と同じ
9 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、ロブ(5mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
13′ 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5～8mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、ロブ(5mm 程度)微量、炭粒少量 しまり強い 粘性あり
15 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、ロブ(5mm 程度)少量、炭粒含む、焼粒微量 しまり強い 粘性あり
16 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
17 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、ロブ(5～8mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
18 7.5YR 4/1 褐灰 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
19 7.5YR 4/1 褐灰 ロ粒(1～2mm)多量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
20 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
21 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
22 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
23 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
24 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
25 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
26 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
26′ 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
27 10YR 6/4 にぶい黄橙 ロ粒(1～3mm)多量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床
28 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
29 10YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 33 層と同じ
30 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
31 10YR 6/4 にぶい黄橙 ロ粒(1～3mm)多量、炭粒少量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床
32 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
33 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～3mm)多量、炭粒少量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床
34 10YR 6/6 明黄褐 ロ粒(3mm 程度)多量 しまりやや強い 粘性なし
35 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
36 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり

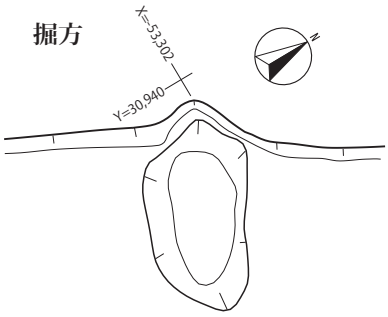
自然堆積層

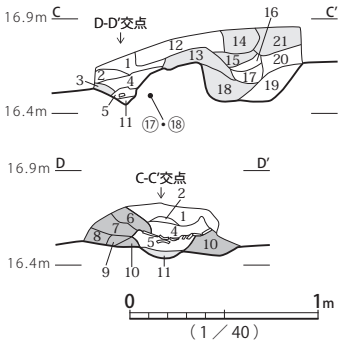
37 10YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
38 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量 しまりやや強い 粘性あり
39 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む しまりやや強い 粘性あり

カマド



掘方



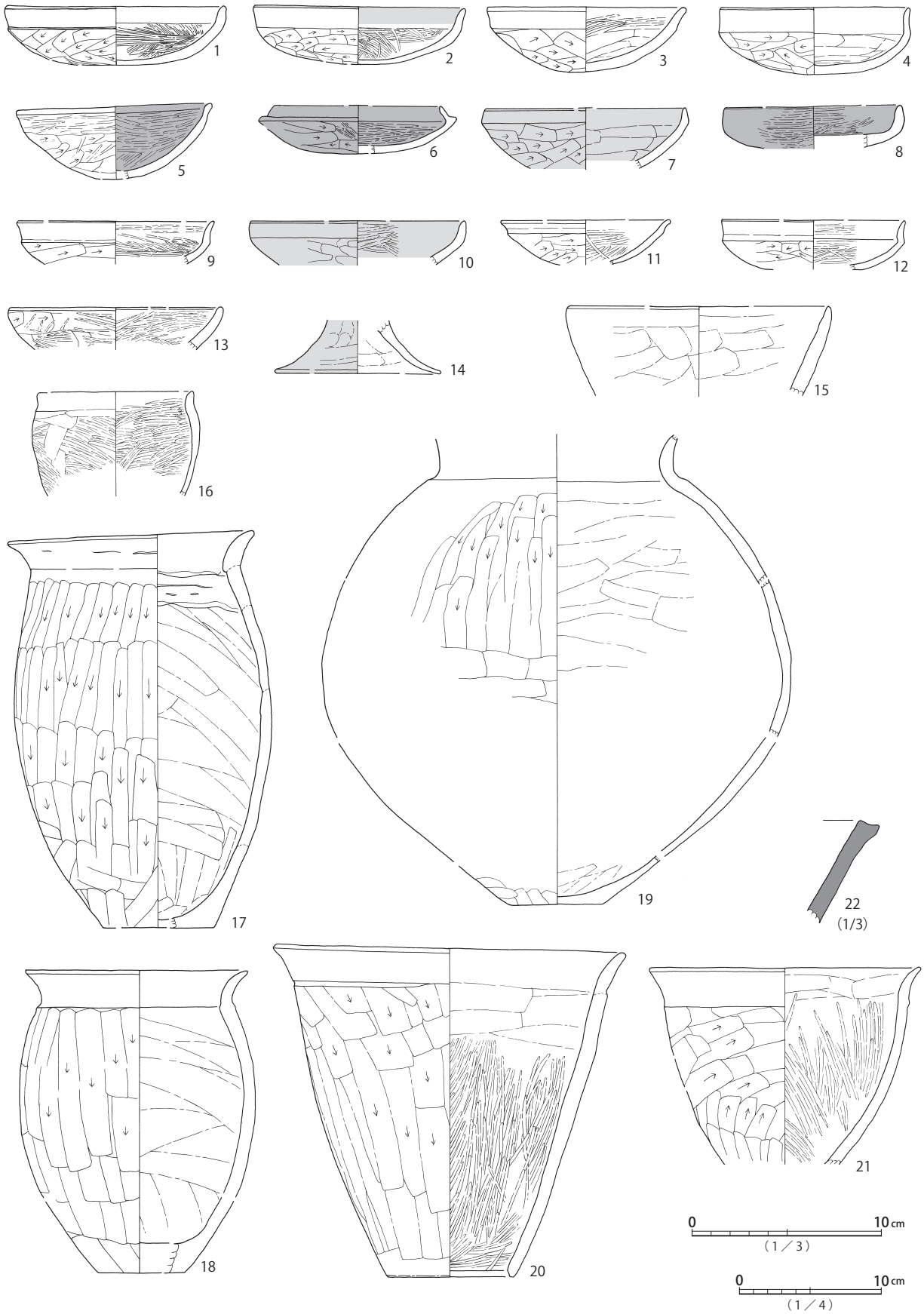


C-C′、D-D′

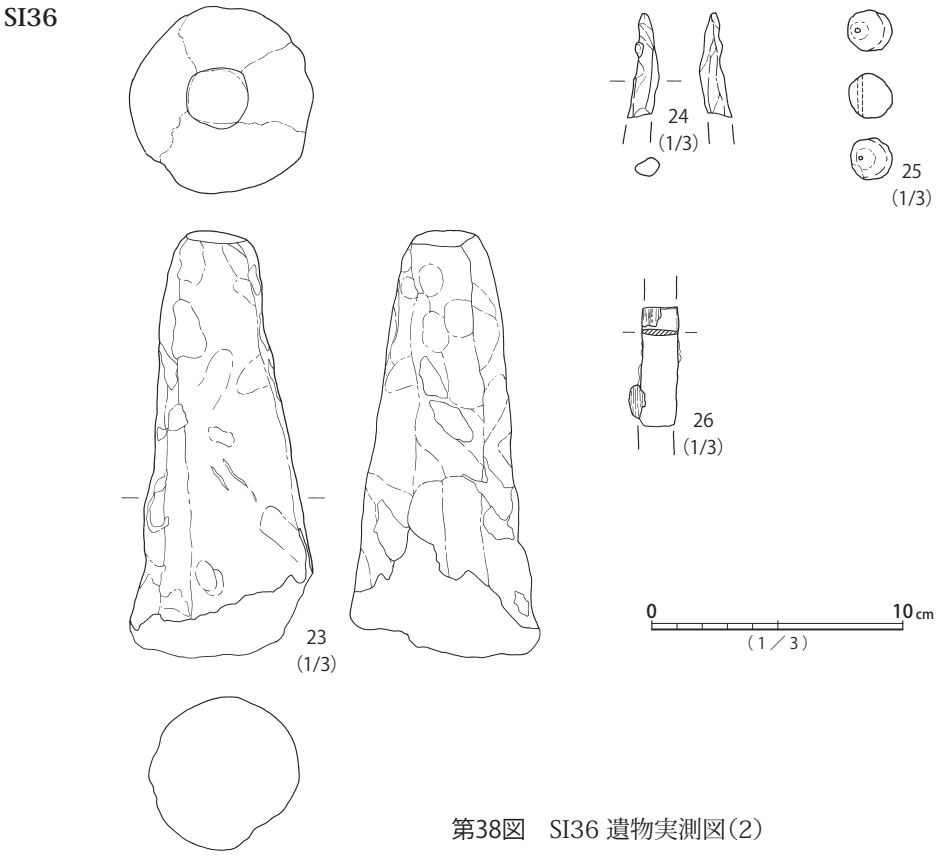
1 10YR 7/3 にぶい黄橙 炭粒少量、焼粒少量、暗褐色土多量 しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 4/2 灰黄褐 炭粒含む、焼粒含む、にぶい黄橙色砂質粘土含む しまりやや強い 粘性あり
3 2.5YR 5/8 明赤褐 炭粒少量、暗褐色土少量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 4/2 灰黄褐 炭粒含む、焼粒含む、にぶい黄橙色砂質粘土含む しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 4/2 灰黄褐 炭粒含む、焼ブ含む、黄橙色砂質粘土含む しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 7/3 にぶい黄橙 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒含む、暗褐色土含む しまりやや強い 粘性あり カマド袖
10 10YR 7/3 にぶい黄橙 ロ粒(1mm 程度)含む、焼ブ含む しまりやや強い 粘性あり カマド袖
11 2.5YR 5/8 明赤褐 炭粒含む、焼ブ含む しまりやや強い 粘性あり 炉面
12 10YR 3/3 暗褐 炭粒微量、焼ブ微量、黄橙色砂質粘土微量 しまりやや強い 粘性なし
13 10YR 3/3 暗褐 炭粒多量、焼ブ多量、黄橙色砂質粘土多量 しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 7/6 明黄褐 炭粒多量、焼ブ多量、暗褐色土含む しまり強い 粘性あり
15 10YR 3/3 暗褐 炭粒多量、焼粒多量、明黄褐色砂質粘土多量 しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 3/3 暗褐 炭粒少量、焼粒少量、明黄褐色砂質粘土少量 しまりやや強い 粘性あり
17 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒少量、明黄褐色砂質粘土少量 しまりやや強い 粘性あり
18 10YR 3/2 黒褐 炭粒多量、焼粒多量、明黄褐色砂質粘土多量 しまりやや強い 粘性あり
19 10YR 3/3 暗褐 炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
20 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
21 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)多量 しまりやや強い 粘性あり

第36図 SI36 遺構図

SI36



第37図　SI36 遺物実測図(1)



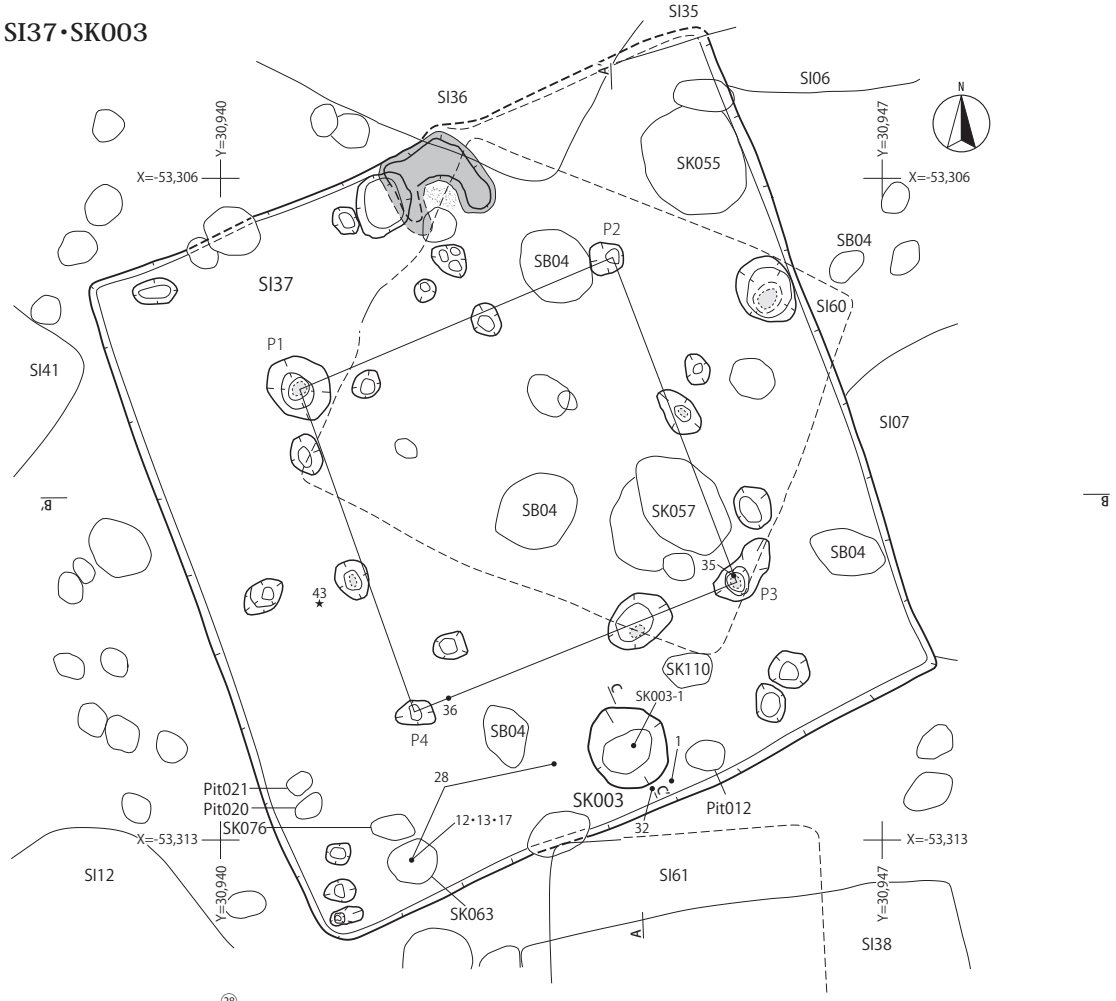
第38図　SI36 遺物実測図(2)

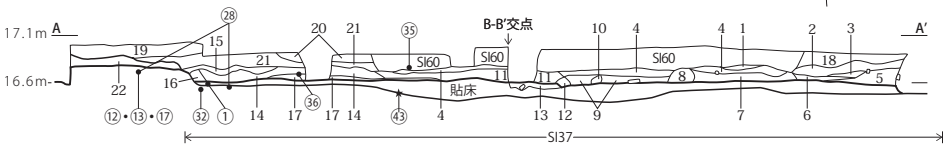
SI37・SK003（第 39 ～ 41 図、図版 10・26・27・34・40・47・51・54・55・57）

形態・規模　主にB3 ～ C3区に位置し、北側の壁の東側は古墳時代後期後半のSI36によって破壊されている。加えて、平安時代竪穴建物跡SI60は本遺構覆土中位に床面を形成する。竪穴平面形は約7.4 × 7.2mの方形を呈し、主軸方位はN－20°－W、床までの深さは約0.15 ～ 0.2mである。柱穴は4箇所確認されており、柱並びは方形配置、柱心々間距離は約3.6 ～ 3.7mである。深度はP1約0.9m、P2 ～ P4で約0.5mである。北壁中央にはカマドが付随している。カマドの一部は後世の遺構で破壊されおり、遺存状態は良くない。また煙道は黒色土中に形成されていた可能性があり、竪穴形状検出面ではとらえられなかった。遺構南壁付近には直径約0.8 ～ 0.9m、深さ約0.6mのSK003があり、覆土内から甕の上部が良好な状態で出土した（図版10）。貯蔵穴の可能性がある。なお、後述するSI60の大部分はこの遺構の覆土内で形成されている。

出土遺物　1 ～ 10は土師器杯であり、1・2・4 ～ 7・9・10は内外面に赤彩を施している。9は内面に放射状暗文が確認される。一方、3はロクロ土師器杯であり胴部外面に記号のような墨書が見られる。時期として3以外は古墳時代中期後葉～末（鬼高式）、3は9世紀前葉～中葉の所産と考えられる。11 ～ 22は土師器高杯であり、古墳時代中期後葉のものと思われる。4・8・16は須恵器模倣の形状をとる。23は土師器鉢、24は宮ノ台式甕を焼成後底部穿孔した転用甑である。25 ～ 27は土師器壺類であり25は小型壺、26・27は短頸壺である。28 ～ 33は土師器甕類で、28 ～ 32は甕、33は小型甕である。34は土師器甑、35は土師器小型器台で古墳時代前期（草刈式）のものと考えられる。36・37・38は陶邑産須恵器であり36・37は杯身であり、38は蓋である。36は形状と回転ヘラケズリ範囲からTK23 ～ TK47型式に位置付けられる。39は東海産の灰釉陶器長頸瓶であり、3と共に

SI37・SK003

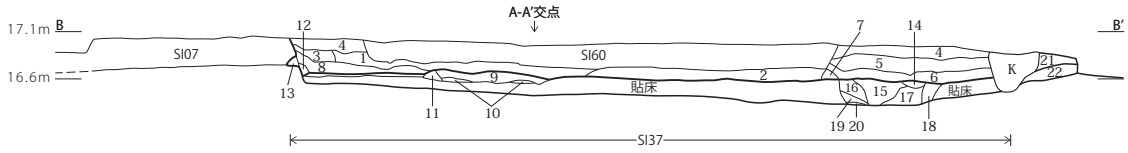




1 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
2 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
3 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)含む、焼粒少量 しまり強い 粘性あり
4 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまり強い 粘性あり
5 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
9 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒少量、焼プ微量 しまりやや強い 粘性あり
10 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
11 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 1 層と同じ
12 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)多量、焼粒多量 しまりやや強い 粘性あり
13 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり SI37 貼床 B-B'の 9 層と同じ
14 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまり弱い 粘性あり
17 7.5YR 3/4 暗褐 炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
18 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)、炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
19 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性なし
20 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
21 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり

自然堆積層

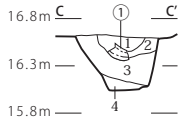
22 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり



1 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 11 層と同じ
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
9 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒含む しまり非常に強い 粘性あり SI37 貼床 A-A'の 13 層と同じ
10 10YR 5/8 黄褐 炭粒少量 しまり非常に強い 粘性あり SI37 貼床
11 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
12 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
13 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～3mm)多量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
14 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む しまり弱い 粘性あり
16 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒含む、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
17 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
18 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
19 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
20 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり

自然堆積層

21 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
22 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり



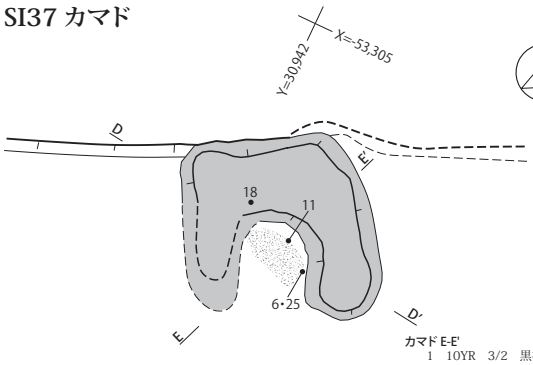
SK003

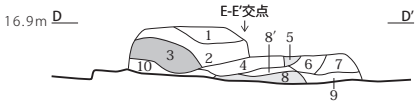
1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒少量 しまり強い 粘性あり
2 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 5/6 黄褐 ロ粒(1～5mm)多量、炭粒含む、焼粒含む、暗褐色土多量 しまり強い 粘性あり

0 2m
(1／80)

第39図 SI37・SK003 遺構図

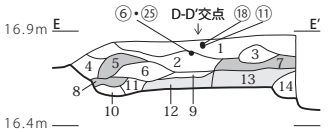
SI37 カマド





カマド D-D'

1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり E-E'の 1 層と同じ
2 2.5Y 3/2 黒褐 炭粒含む、焼粒少量、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり E-E'の 2 層と同じ
3 2.5Y 7/4 浅黄 炭粒少量、白粘粒(1～3mm)多量 しまり強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり E-E'の 9 層と同じ
5 10YR 3/3 暗褐 炭粒少量、焼粒多量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼ブ含む しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/2 黒褐 炭粒含む、焼粒含む、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり E-E'の 12 層と同じ
8' 7.5YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 3/3 暗褐 炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/2 黒褐 炭粒微量、焼粒微量、白粘粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性あり

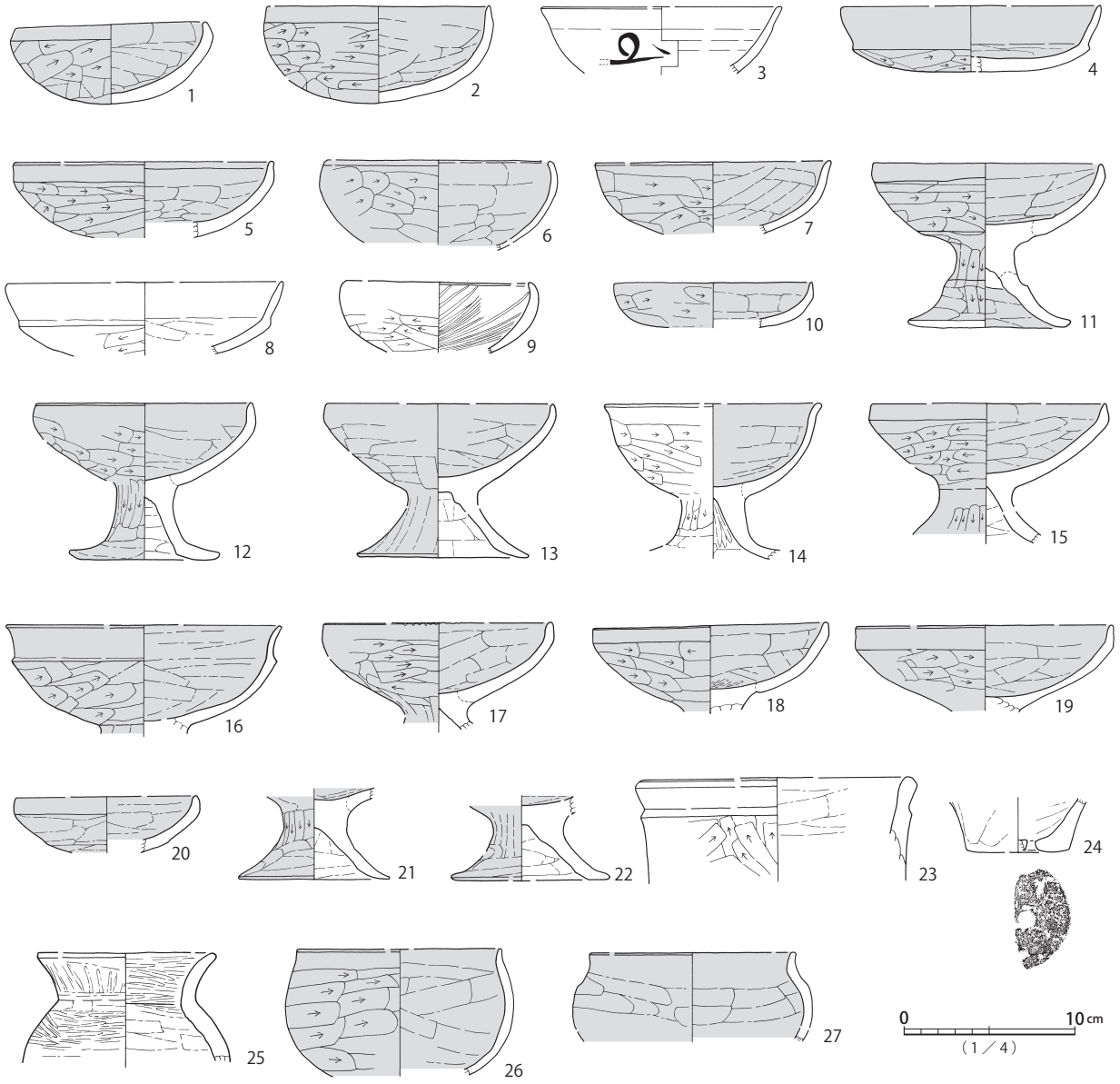


カマド E-E'

1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり D-D'の 1 層と同じ
2 2.5Y 3/2 黒褐 炭粒含む、焼粒少量、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり D-D'の 2 層と同じ
3 7.5YR 5/3 にぶい褐 炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
4 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1～3mm)多量 しまり強い 粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼ブ含む しまりやや強い 粘性あり
7 7.5YR 4/3 褐 炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1～3mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
8 7.5YR 3/3 暗褐 炭粒少量、白粘粒(1～3mm)多量 しまり強い 粘性あり
9 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり D-D'の 4 層と同じ
10 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、白粘粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 3/2 黒褐 炭粒含む、焼粒含む、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり D-D'の 8 層と同じ
13 10YR 3/2 黒褐 炭粒含む、焼粒多量 しまりやや強い 粘性あり 煙道
14 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり

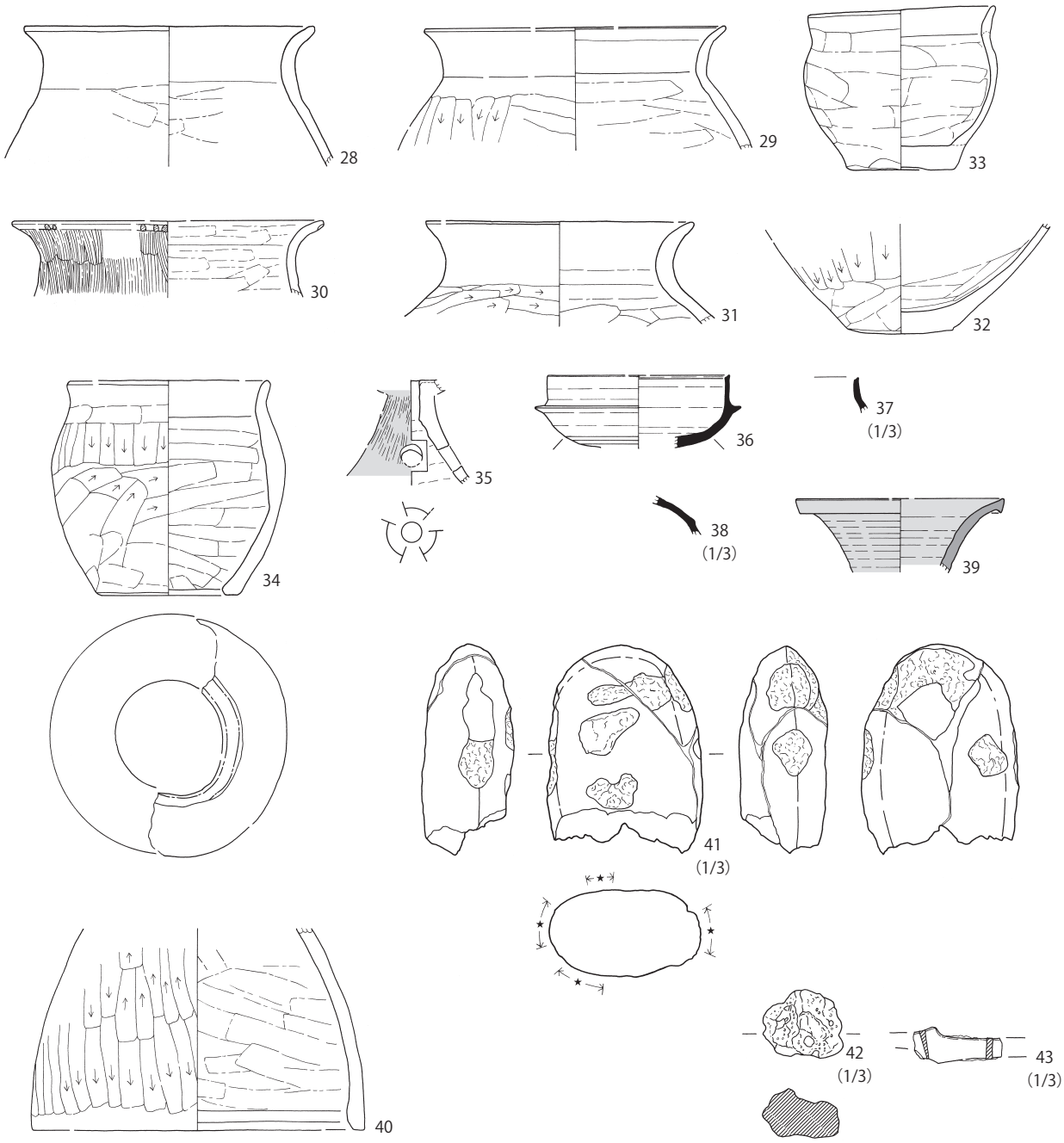
0 1m
(1／40)

SI37

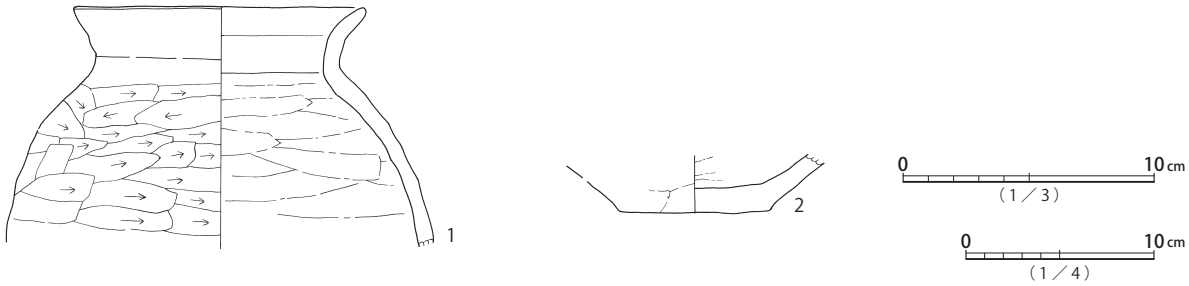


第40図 SI37 遺構図・遺物実測図(1)

SI37



SK003



第41図　SI37 遺物実測図(2)、SK003 遺物実測図

SI60からの混入品と思われる。40は砲弾形の甑もしくは置きカマド、41は被熱石、42は鉄滓、43は鉄製刀子である。また本遺構からは焼成粘土塊が出土している（図版51）。

またSK003の遺物として1・2は土師器甕であり、特に1は土層断面図のとおり、覆土上面に検出されている。

SI37の帰属時期は出土遺物から古墳時代中期後葉、TK23 ～ TK47型式期と考えられる。

SI38・SK004（第42～44図、図版10・11・27・28・34・40・47・55）

形態・規模　B4区に位置し、SB03と重複関係にある。竪穴平面形は約4.8×4.3mの方形を呈し、主軸方位はN-83°-E、床までの深さは約0.2 ～ 0.3mである。柱穴は確認されていないが、東壁にカマドが付随する。遺存状態は良好であり、焚口の袖粘土や煙道が残存する。またカマド南側隅には直径約0.6 ～ 0.7m、深さ約0.5mのSK004が位置する。覆土から遺物が多く出土しており貯蔵穴の可能性が高い。さらにカマド南隣の床面上に土器が集中的に出土した（図版10）。

出土遺物　1・2は土師器杯で、いずれも内外面赤彩されている。1はカマド燃焼部に支脚の下部に接する状態で出土した。3は土師器鉢、また4・5は土師器壺であり、3は外面に、4・5は外面に赤彩している。3点ともにカマド脇から口縁を床面に向けた状態で出土した。これら5点の時期は古墳時代中期中葉～後葉と考えられる。6 ～ 11は土師器甕であり、6はカマド横から破片が集中的に出土し、完形に復元された。12は土師器小型甕である。13は土師器甑であり、この遺物も6と同様にカマド脇床面から出土した個体である。14は土製品支脚、15は鉄鏃である。また覆土から直径約5mmの陸産微小貝が検出された（図版55）。

またSK004の遺物として、1は土師器杯の小片であり内面にまばらな放射状暗文がある。2は土師器甕、3は土師器甑でほぼ完形の状態まで復元できた個体である。

カマド内の支脚は使用時の位置ではなく、欠損した状態で検出されている。また、カマド内の杯1のほか、南側床面より各器種が完形に近い状態で出土していることから、建物及びカマド廃絶時に意図的に残された可能性が示唆される。

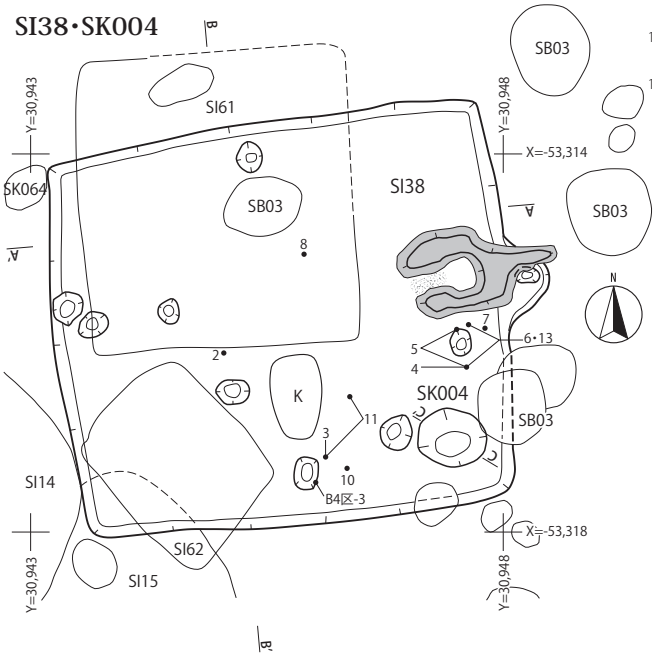
SI38の帰属時期は古墳時代中期中葉～後葉、御林跡遺跡Ⅴ ～ Ⅶ期並行と考えられる。

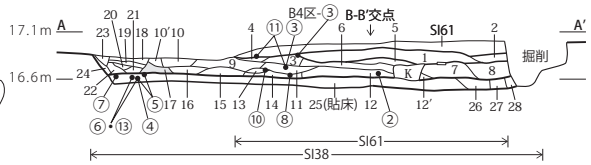
SI39（第45・46図、図版6・28・40・54）

形態・規模　主にC1区に位置し、後述のSI63・SA02とは重複関係にある。しかしSI63の掘り込み深度が浅いため本遺構への影響はない。竪穴平面形は約6.7×6.6mの方形を呈するが、主軸方位は不明である。また床までの深さは約0.1 ～ 0.3mである。柱穴は4箇所確認されており、柱並びは方形配置、柱心々間距離は4辺ともに3.0 ～ 3.2m、深度はP1 ～ P4ともに0.4 ～ 0.5mである。一方、カマドは付随していない。

出土遺物　1は弥生後期後半（山田橋式）の鉢である。2・3は内外面赤彩された土師器杯であり、前者は古墳時代中期中葉（和泉式）、後者は古墳時代中期中葉～後葉（鬼高式）のものと思われる。4は土師器高杯であり、古墳時代中期前半（和泉式）の所産と考えられる。5は土師器甕であり床面から出土した。6は砥石である。この遺構は古墳時代中期前半（和泉式期）の帰属と推察される。カマドが検出されていないことから、SI34より先行すると考えられる。

SI38・SK004



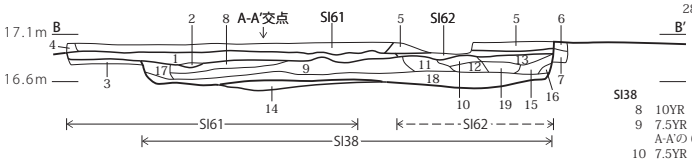


自然堆積層

1 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、焼粒微量、白粘粒(1mm 程度)微量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 1 層と同じ
2 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり

SI38

3 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
4 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)多量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
5 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 8 層と同じ
6 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5～10mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 9 層と同じ
7 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
9 7.5YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1～2mm)含む しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)微量 しまりやや強い 粘性あり
10′ 7.5YR 3/4 暗褐 焼粒微量、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
11 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 18 層と同じ
12′ 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり SI38 貼床
13 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 6/6 明黄褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒微量 しまり非常に強い 粘性あり
15 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまり弱い 粘性なし
16 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
17 7.5YR 3/4 暗褐 炭粒少量、焼粒多量 しまりやや強い 粘性あり
18 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
19 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(8～10mm)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
20 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
21 7.5YR 3/4 暗褐 炭粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
22 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
23 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
24 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
25 10YR 5/6 黄褐 ロ粒(3～5mm)多量、炭粒微量 しまり非常に強い 粘性あり SI38 貼床 B-B′の 14 層と同じ
26 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
27 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
28 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性なし



自然堆積層

1 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、焼粒微量、白粘粒(1mm 程度)微量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 1 層と同じ
2 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む しまり弱い 粘性あり
3 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
7 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまり弱い 粘性あり

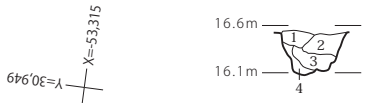
SI38

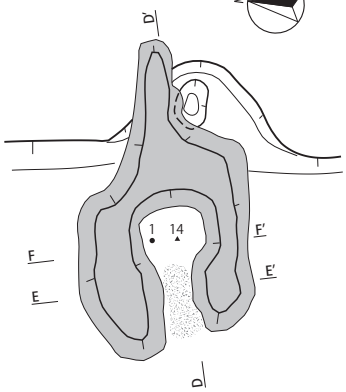
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 5 層と同じ
9 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5～10mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 6 層と同じ
10 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、ロブ(5～8mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
11 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
12 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
13 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 5/6 黄褐 ロ粒(3～5mm)多量、炭粒微量 しまり非常に強い 粘性あり SI38 貼床 A-A′の 25 層と同じ
15 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 6/6 明黄褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
17 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
18 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 12 層と同じ
19 10YR 5/6 黄褐 ロ粒(3～5mm)多量、炭粒微量 しまり非常に強い 粘性あり SI38 貼床

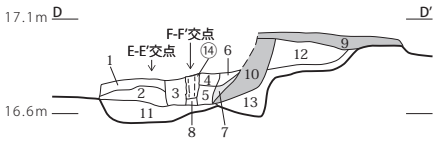
SK004

1 7.5YR 3/3 暗褐 炭粒少量、焼プ含む、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
2 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1～2mm)多量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量 白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり

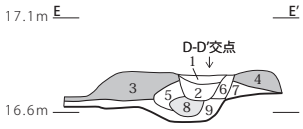
カマド



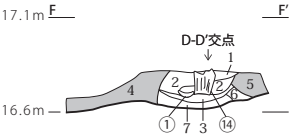




1 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり E-E′の 1 層と同じ
2 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり E-E′の 2 層と同じ
3 10YR 5/2 灰黄褐 炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 5/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒少量、白粘プ(5mm 程度)含む しまりやや強い 粘性なし
5 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 4/3 にぶい黄褐 炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性なし
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒多量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり F-F′の 3 層と同じ
9 10YR 6/2 灰黄褐 炭粒少量、白粘プ(5mm 程度)多量 しまり強い 粘性なし カマド袖
10 10YR 6/3 にぶい黄橙 炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1～3mm)含む しまり強い 粘性なし カマド袖
11 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり E-E′の 9 層・F-F′の 7 層と同じ
12 10YR 3/4 暗褐 炭粒含む、焼粒少量、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 3/3 暗褐 炭粒含む、焼粒微量、白粘粒(1～2mm)少量 しまりやや強い 粘性あり



1 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり D-D′の 1 層と同じ
2 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり D-D′の 2 層と同じ
3 10YR 6/3 にぶい黄橙 炭粒少量、焼粒含む、白粘プ(5mm 程度)多量 しまり強い 粘性なし カマド左袖
4 10YR 7/3 にぶい黄橙 炭粒微量、焼粒少量、白粘プ(5mm 程度)多量 しまり強い 粘性なし カマド右袖
5 10YR 4/3 にぶい黄褐 炭粒含む、焼粒含む、白粘プ(5mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 4/2 灰黄褐 炭粒少量、焼粒含む、白粘プ(5mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 6/2 灰黄褐 炭粒少量、焼粒含む、白粘プ(5mm 程度)少量 しまり強い 粘性なし
8 2.5YR 4/8 赤褐 炭粒少量、焼プ多量 しまりやや強い 粘性なし
9 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり D-D′の 11 層・F-F′の 7 層と同じ

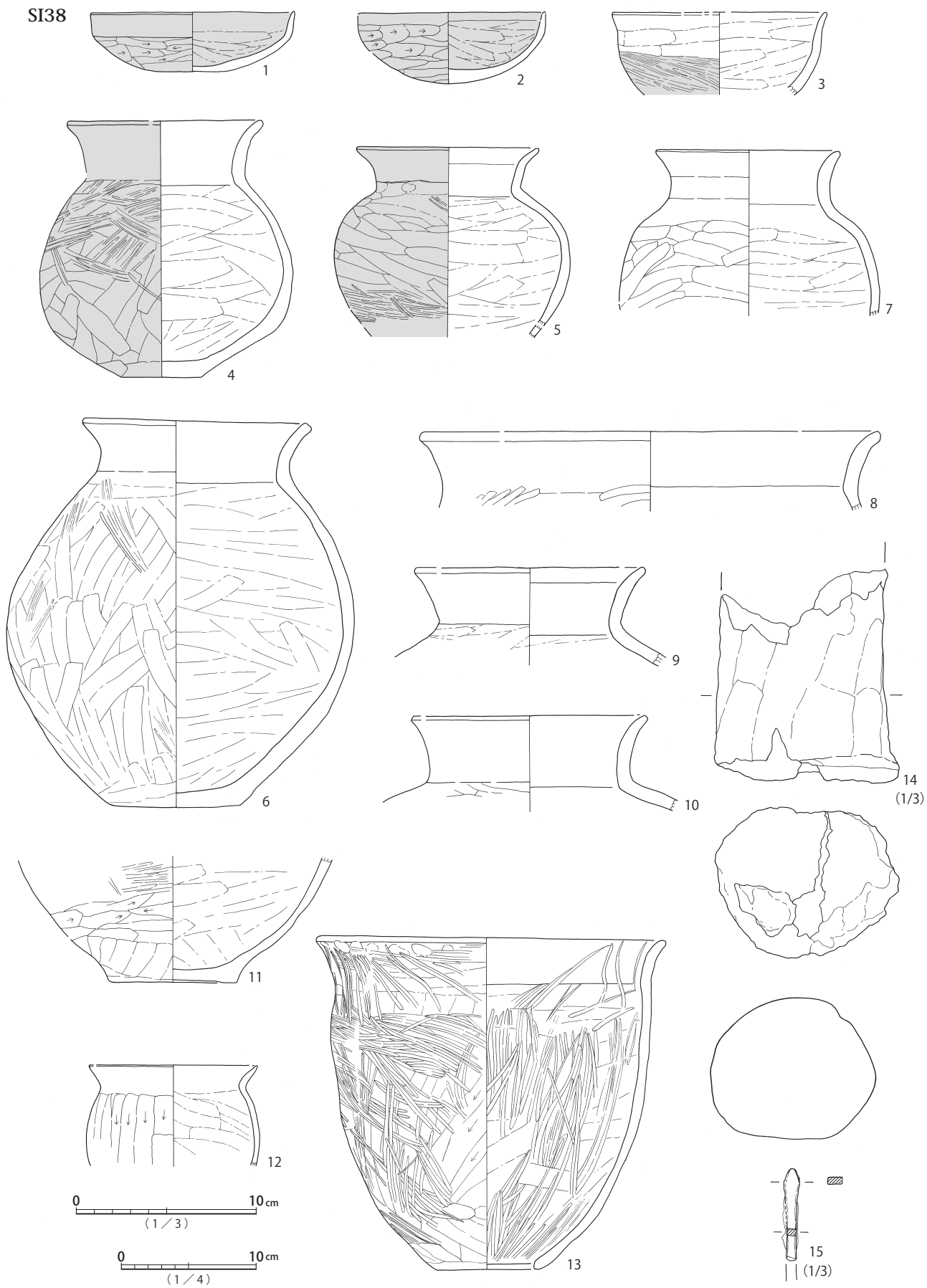


1 7.5YR 5/1 褐灰 炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1～5mm)多量 しまりやや強い 粘性なし
2 7.5YR 5/2 灰褐 炭粒少量、焼プ含む、白粘粒(1～5mm)含む しまりやや強い 粘性なし
3 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり D-D′の 8 層と同じ
4 10YR 5/3 にぶい黄褐 炭粒少量、焼粒含む、白粘プ(5mm 程度)多量 しまり強い 粘性なし カマド左袖
5 10YR 7/3 にぶい黄橙 炭粒少量、焼粒含む、白粘プ(5mm 程度)多量 しまり強い 粘性なし カマド右袖
6 10YR 6/3 にぶい黄橙 炭粒含む、焼粒少量、白粘粒(1～5mm)含む しまりやや強い 粘性なし
7 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり D-D′の 11 層・E-E′の 9 層と同じ

0 2m (1／80)

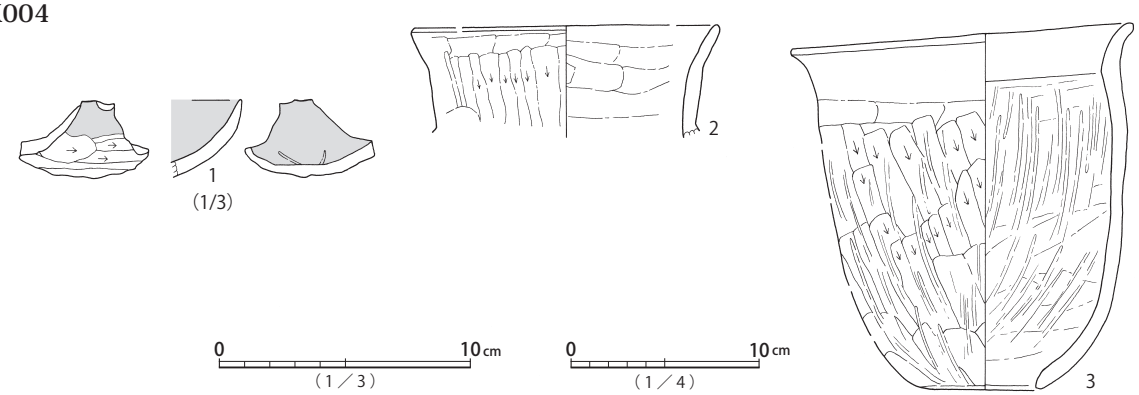
0 1m (1／40)

第42図 SI38・SK004 遺構図



第43図　SI38 遺物実測図

SK004



第44図　SK004 遺物実測図

SI40（第 47・48 図、図版 11・28）

形態・規模　C3区に位置し、検出できた範囲は東側の一部と貼床のみである。大部分は古墳時代後期後半のSI41と平安時代のSI66によって破壊されているため、遺存状態は悪い。竪穴平面形は南北約2.2mの方形を呈していたと考えられる。主軸方位は東西、床までの深さは約0.2mと思われる。柱穴やカマドは検出されていない。

出土遺物　1はナデ仕上げの土師器甕でありSI40P1から出土した。その他、非掲載遺物として弥生土器や5世紀後半の杯などがあるが量は少ない。積極的な根拠に乏しいが、切り合い関係と出土遺物の様相から、本遺構の帰属時期は、古墳時代中期末（鬼高式期）と推測される。

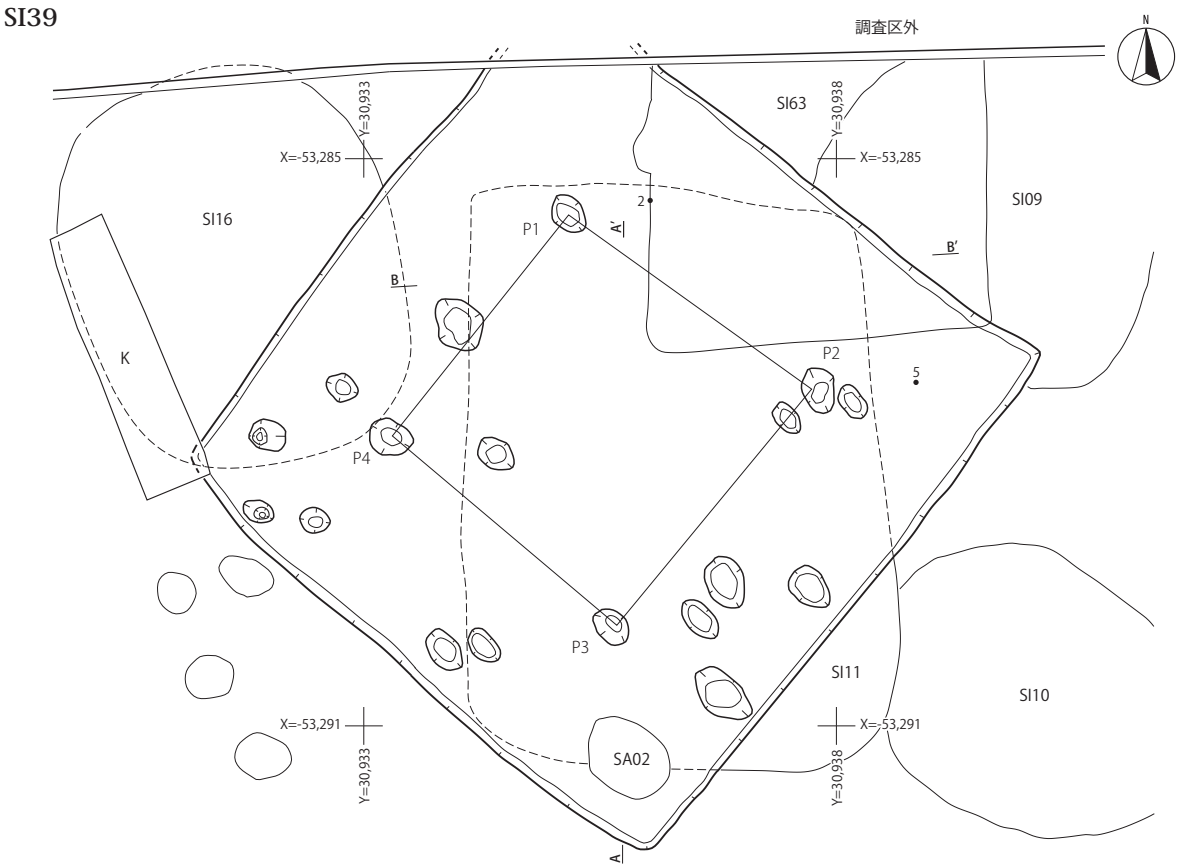
SI41・SK005（第 47～49 図、図版 11・28・34・35・40・47・54）

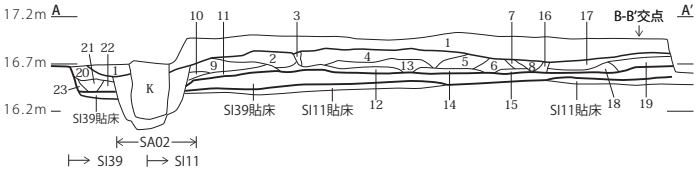
形態・規模　C3区に位置し、遺構北隅は平安時代竪穴建物跡SI66に切られている。竪穴平面形は1辺約4.6mの方形を呈し、主軸方位はN−51°−W、床までの深さは約0.3 ～ 0.4mである。柱穴は4箇所確認されており、柱並びは方形配置、柱心々間距離は約2.2 ～ 2.4m、深度はP1 ～ P4ともに0.3 ～ 0.4mである。北西壁にはカマドが付随する。遺存状態は良好であり、カマド脇からは完形に近い遺物も出土している。支脚は検出されていない。またカマド横には一辺約0.5 × 0.3m、深さ約0.5mの方形の土坑（SK005）があり、覆土から完形の杯などの遺物が数点発見された。貯蔵穴と思われる。

出土遺物　1 ～ 3は東海系のS字状口縁台付甕（C類）であり、古墳時代前期前半、草刈式期の遺構に由来する混入品である。非在地的な灰黄色胎土を持つ搬入品である。4 ～ 9は土師器杯であり、4は底部外面に焼成後の格子状線刻が見られる。また7について、器形は東北地方栗囲式に類似するが、内面漆塗りで技法は在地である。さらに9は内面に暗文がある。これら杯類は古墳時代後期中葉～後葉の所産と考えられる。10は土師器高杯、11は土師器鉢、12は土師器壺、13・14は土師器小型短頸壺である。特に11と14はカマドの脇から出土した遺物である。15 ～ 17は土師器甕であり古墳時代後期（鬼高式）のものと思われる。また18は須恵器蓋でありTK23 ～ TK47型式並行のものと考えられる。19は砥石である。20は確認調査時に出土した土師器杯（古墳時代後期中葉～後葉）である。

貯蔵穴SK005出土遺物1～3は土師器杯であり、1・2は内面黒色処理が施されている。SK005覆土下層から出土したこれら3点は古墳時代後期中葉～後葉（鬼高式）の所産と考えられる。4は土師器甕、

SI39



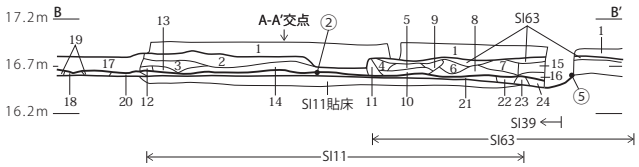


自然堆積層

1 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5～8mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり B-B'の 1 層と同じ

A-A'

2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/4 暗褐 ロブ(5～8mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 4/4 褐 ロ粒(1～5mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 3/2 黒褐 ロブ(5～10mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 3/2 黒褐 ロブ(5～10mm)少量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 4/4 褐 ロブ(5～8mm)多量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
17 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 2 層と同じ
18 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
19 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 14 層と同じ
20 10YR 4/4 褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
21 10YR 3/4 暗褐 ロブ(5～8mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
22 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
23 10YR 4/4 褐 ロブ(5～8mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり



自然堆積層

1 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5～8mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり A-A'の 1 層と同じ

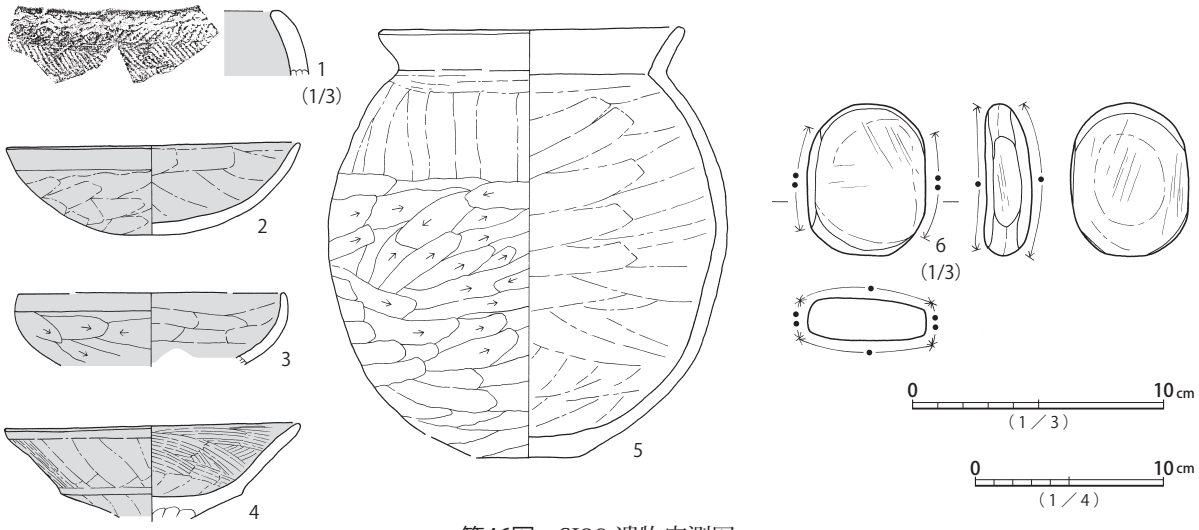
B-B'

2 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 17 層と同じ
3 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
4 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
5 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
7 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまり弱い 粘性あり
12 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 19 層と同じ
15 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
16 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
17 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
18 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)多量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり SI39 貼床
19 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまり非常に強い 粘性あり SI39 貼床
20 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり SI39 貼床
21 10YR 6/4 にぶい黄橙 ロ粒(1～2mm)多量、炭粒含む しまり非常に強い 粘性あり SI39 貼床
22 10YR 6/6 明黄褐 ロ粒(1～2mm)多量、炭粒少量 しまり非常に強い 粘性あり SI39 貼床
23 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり SI39 貼床
24 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり SI39 貼床

0 2m
（1／80）

第45図 SI39 遺構図

SI39



第46図　SI39 遺物実測図

5は土師器小型甕である。いずれも竪穴建物出土遺物と同時期であり、廃絶時に残された一群の資料である。カマド正面右側にまとまって検出される様相はSI36等と近似する。

SI41の帰属時期は、出土遺物の様相から古墳時代後期中葉～後葉（鬼高式期）、市原市椎津茶ノ木遺跡第6～7期並行と考えられる。

SI42（第47図）

形態・規模　C3区に位置し、遺構の大半が古墳時代後期竪穴建物のSI41によって破壊されている。遺構東側はSI41南西部と重複し、両遺構の床面レベルはほぼ同等である。平面形は方形、主軸方位は座標北に近いと推定される。柱穴をはじめとする床面施設は検出されていない。床までの深さは約0.3mである。

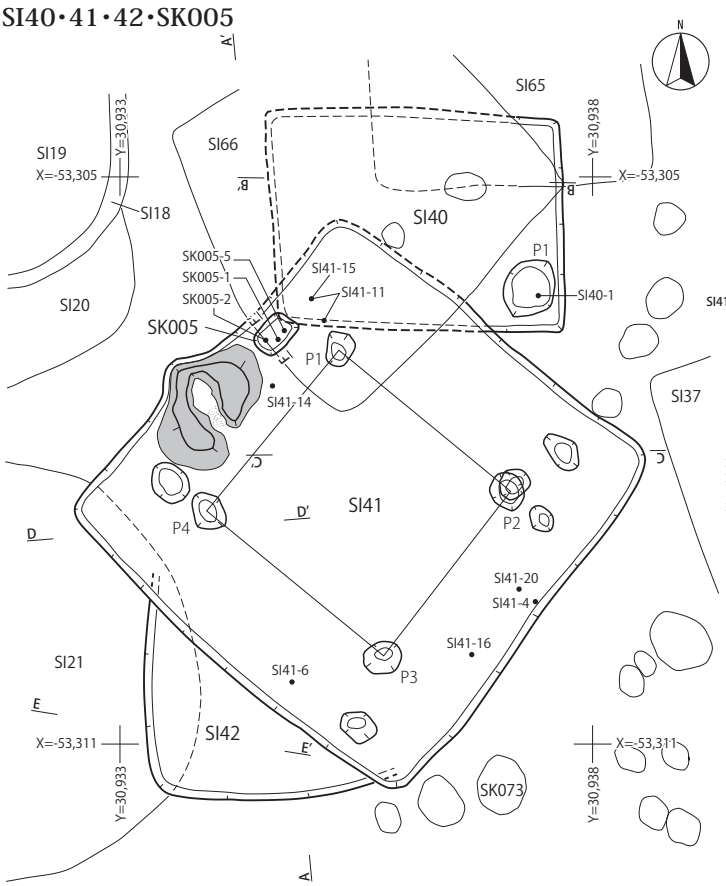
出土遺物　掲載遺物・非掲載遺物ともに存在しない。周辺遺構の様相と重複関係から、本遺構の帰属時期は古墳時代前期～中期頃と推測される。

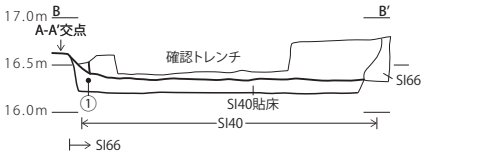
SI43・SK075（第50・51図、図版6・28・40・51）

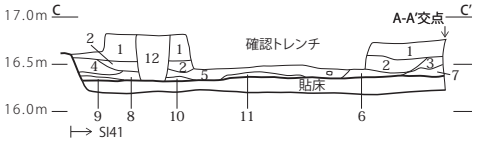
形態・規模　主にC4区に位置し、遺構南隅は調査区外へ続く。竪穴平面形は約5.2×4.8mの方形を呈し、主軸方位はN-62°-E、床までの深さは約0.2mである。柱穴は4箇所確認されており、柱並びは良好やや不規則な方形配置、柱心々間距離は約2.4～2.5m、深度はP1約0.7m、P2約0.5m、P3とP4で約0.8mである。なお、P2の上端の一部は平安時代掘立柱建物跡柱穴SB06b2によって破壊されている。本遺構にカマドの設置は確認できず、床面直上から烏帽子形土製支脚が出土していることから、検出されていないものの、本来は地床炉が存在した可能性が高い。また竪穴南東隅に位置するSK075は、本遺構に伴う貯蔵穴である可能性も考えられる。

出土遺物　1は土師器杯、2・3は土師器高杯、4は土師器鉢である。4点ともに内外面赤彩しており、時期も古墳時代中期前半、和泉式の所産と考えられる。5は土師器甕、6はミニチュア土器である。7・8は烏帽子形支脚と思われ、床面直上から出土した。本遺構の帰属時期は、地床炉に伴う烏帽子形支

SI40・41・42・SK005

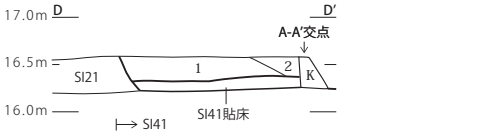




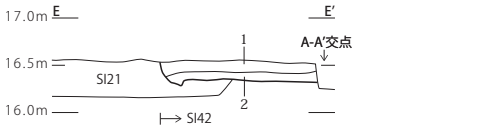


SI41

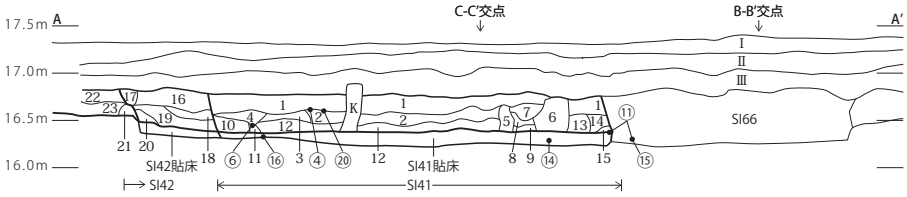
1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 1 層と同じ
2 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 2 層と同じ
4 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 12 層と同じ
8 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 6/4 にぶい黄橙 ロ粒(1～2mm)多量、炭粒少量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床
10 10YR 5/6 黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床
11 10YR 5/4 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量、焼粒微量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床
12 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり

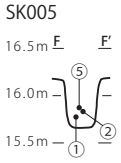


1 10YR 3/1 黒褐 ロ粒(1mm 程度)多量 しまり強い 粘性あり
2 10YR 3/1 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む、焼プ含む しまり強い 粘性あり



1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒多量、黒褐色土含む しまりやや強い 粘性あり SI42 貼床





表土

I 10YR 6/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまり弱い 粘性なし
II 10YR 6/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまり弱い 粘性なし
III 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性なし

SI41

1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 1 層と同じ
2 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 3 層と同じ
3 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 白粘プ(5mm 程度)少量、焼粒微量 しまり強い 粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 白粘プ(5mm 程度)多量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/2 黒褐 白粘粒(1～3mm)多量、炭粒多量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 2/2 黒褐 白粘粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量 しまりやや強い 粘性なし
12 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 7 層と同じ
13 7.5YR 4/2 灰褐 白粘粒(1～3mm)含む、炭粒含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
14 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
15 7.5YR 3/2 黒褐 白粘粒(1～3mm)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり

SI42

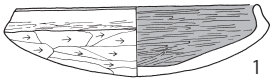
16 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
17 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
18 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
19 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 程度)微量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
20 10YR 2/3 黒褐 炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし

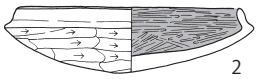
自然堆積層

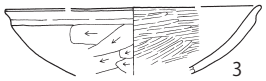
21 2.5Y 4/3 オリーブ褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性なし
22 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
23 2.5Y 4/3 オリーブ褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし

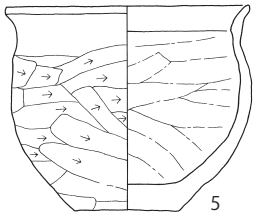
0 2m
(1／80)

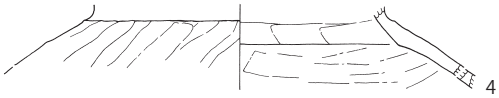
SK005







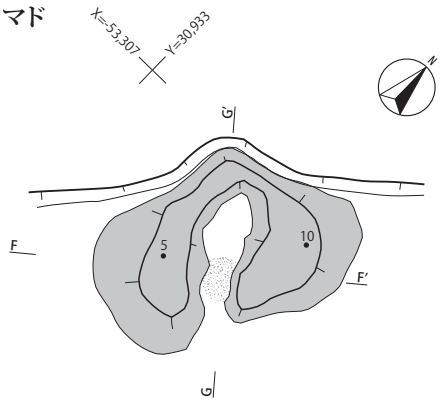




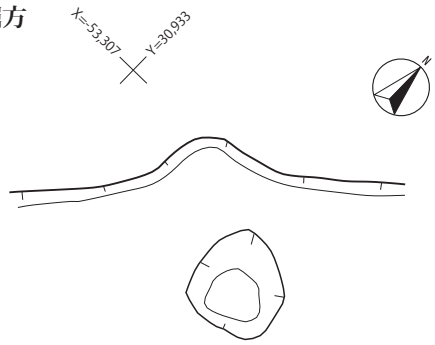
0 10cm
(1／4)

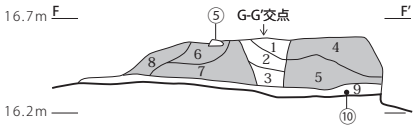
第47図 SI40・41・42・SK005 遺構図、SK005 遺物実測図

SI41 カマド

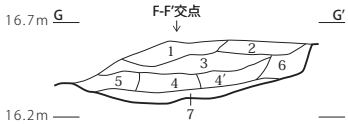


掘方



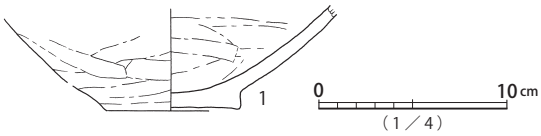


1　10YR　3/1　黒褐　焼粒微量、白粘粒(1mm以下)含む　しまりやや強い　粘性なし
2　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm以下)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
3　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm以下)少量、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　8/3　浅黄橙　炭粒少量、白粘粒(1mm程度)多量　しまり強い　粘性なし
5　2.5Y　4/2　暗灰黄　ロ粒(1mm程度)少量、炭粒少量、白粘粒(1mm程度)含む　しまりやや強い　粘性あり
6　2.5Y　3/2　黒褐　炭粒微量、焼粒微量、白粘粒(1mm程度)含む　しまり強い　粘性なし
7　2.5Y　4/2　暗灰黄　ロ粒(1～2mm)多量、炭粒少量、焼粒少量　しまり強い　粘性なし
8　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1mm程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
9　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm以下)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり



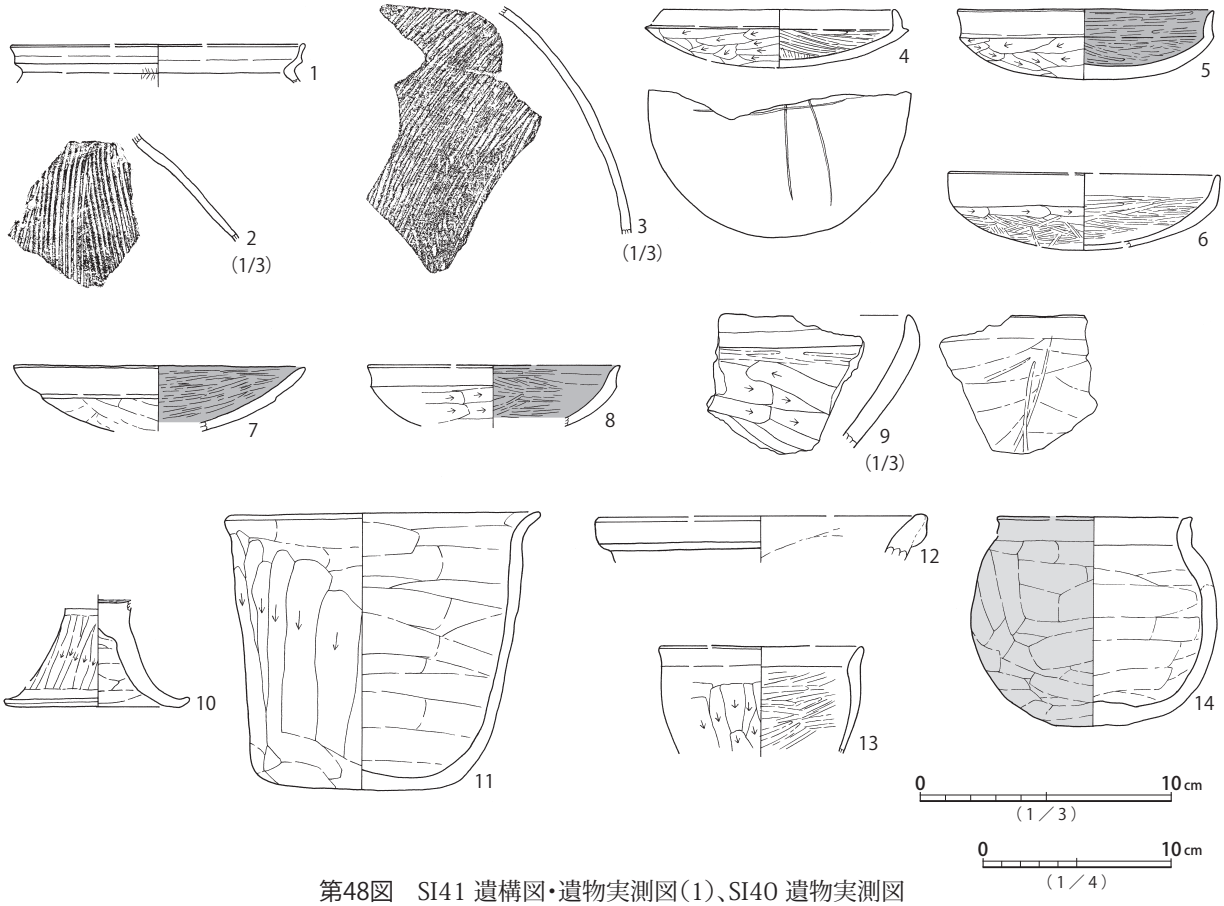
1　10YR　3/1　黒褐　焼粒微量、白粘粒(1mm以下)含む　しまりやや強い　粘性なし
2　2.5Y　4/2　暗灰黄　炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1mm程度)含む　しまり強い　粘性なし
3　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm以下)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
4　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm以下)少量、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
4′　10YR　3/2　黒褐　炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1mm程度)少量　しまりやや強い　粘性あり
5　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
6　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm以下)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり

SI40



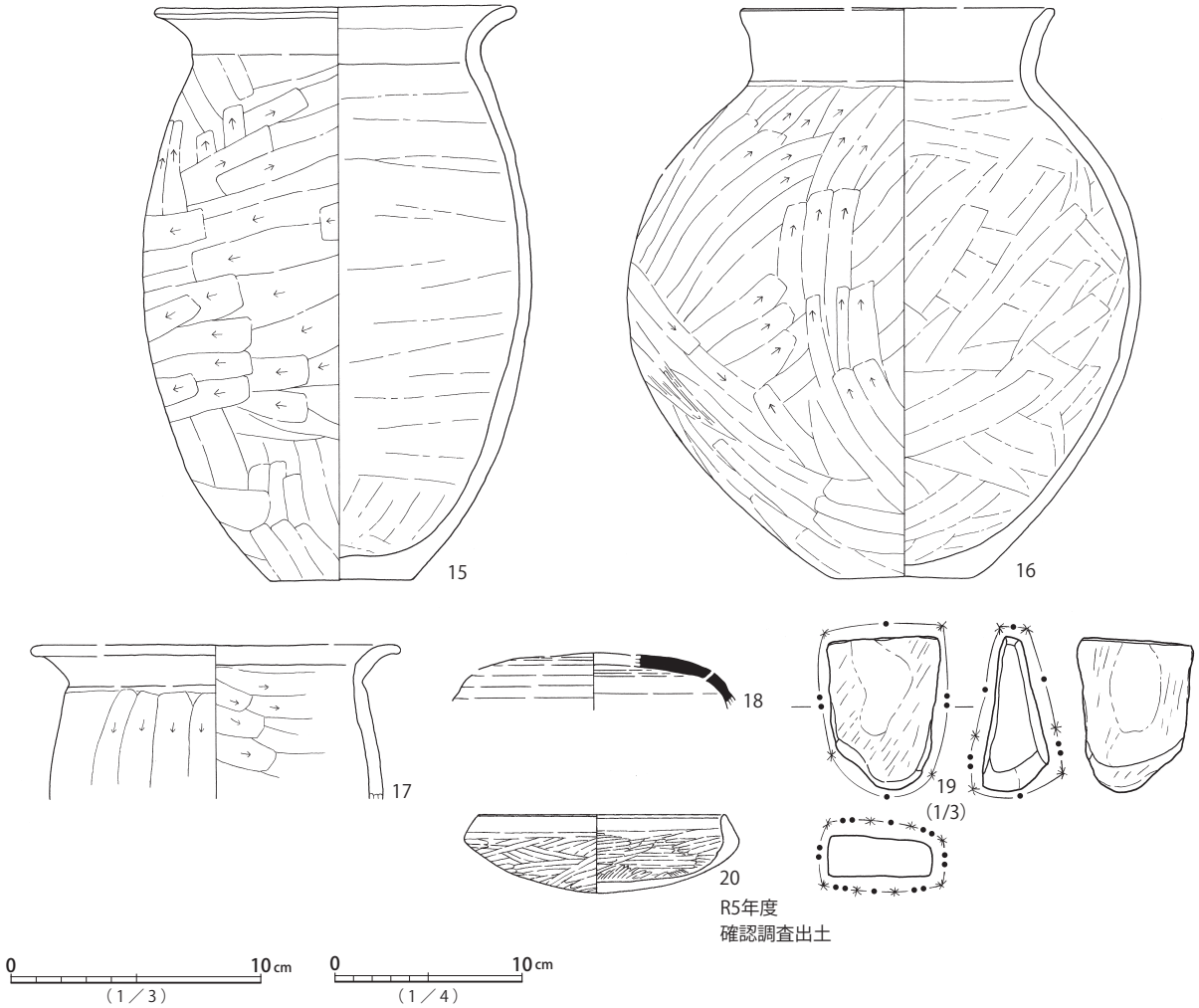
0　1m
(1／40)

SI41



第48図　SI41 遺構図・遺物実測図(1)、SI40 遺物実測図

SI41



第49図　SI41 遺物実測図(2)

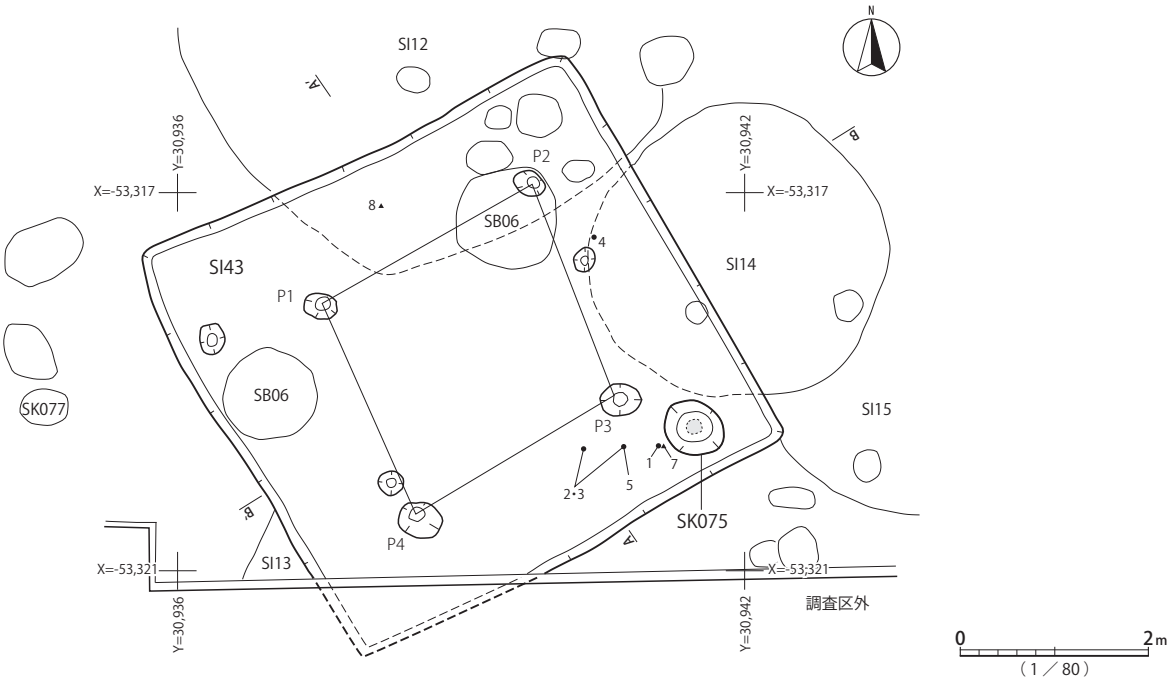
脚と脚柱部透孔のない土師器高杯が検出されたことから古墳時代中期前半（和泉式期）と考えられる。

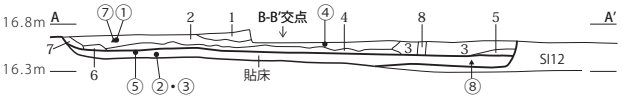
SI44（第 52・53 図、図版 11・29・54）

形態・規模　主にD1～D2区に位置し、上層に奈良時代竪穴建物跡SI68等が位置する。竪穴平面形は4.2×4.4mの方形を呈し、主軸方向はN-61°-W、床までの深さは約0.2mである。柱穴は4箇所確認され、柱並びはやや不規則な方形配置、柱心々間距離は約1.9～2.1m、深度はP1～P4ともに約0.4mである。また北西壁にはカマドが付随するが、平安時代掘立柱建物跡柱穴SB09a2や後世のピットによって大半が破壊され、袖部はほとんど遺存しない。

出土遺物　1～4は土師器杯であり、1・2は赤彩、4は内面黒色処理されている。これら4点ともに古墳時代終末期（鬼高式）のものと思われる。5・6は土師器高杯であり、6は床面直上から出土した。時期は古墳時代終末期（鬼高式）と考えられる。7・8は土師器甕、9は緑泥片岩製板碑片、10・11は砥石、12は貝巣穴泥岩である。本遺構の帰属時期は、古墳時代終末期（鬼高式期）、市原市椎津茶ノ木遺跡10～11期並行と考えられる。

SI43・SK075

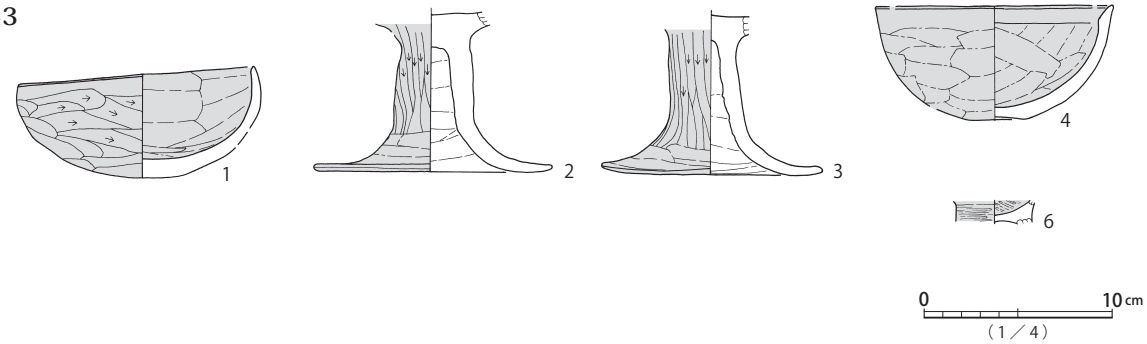




1　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
2　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 8 層と同じ
3　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 9 層と同じ
5　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
6　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
8　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり

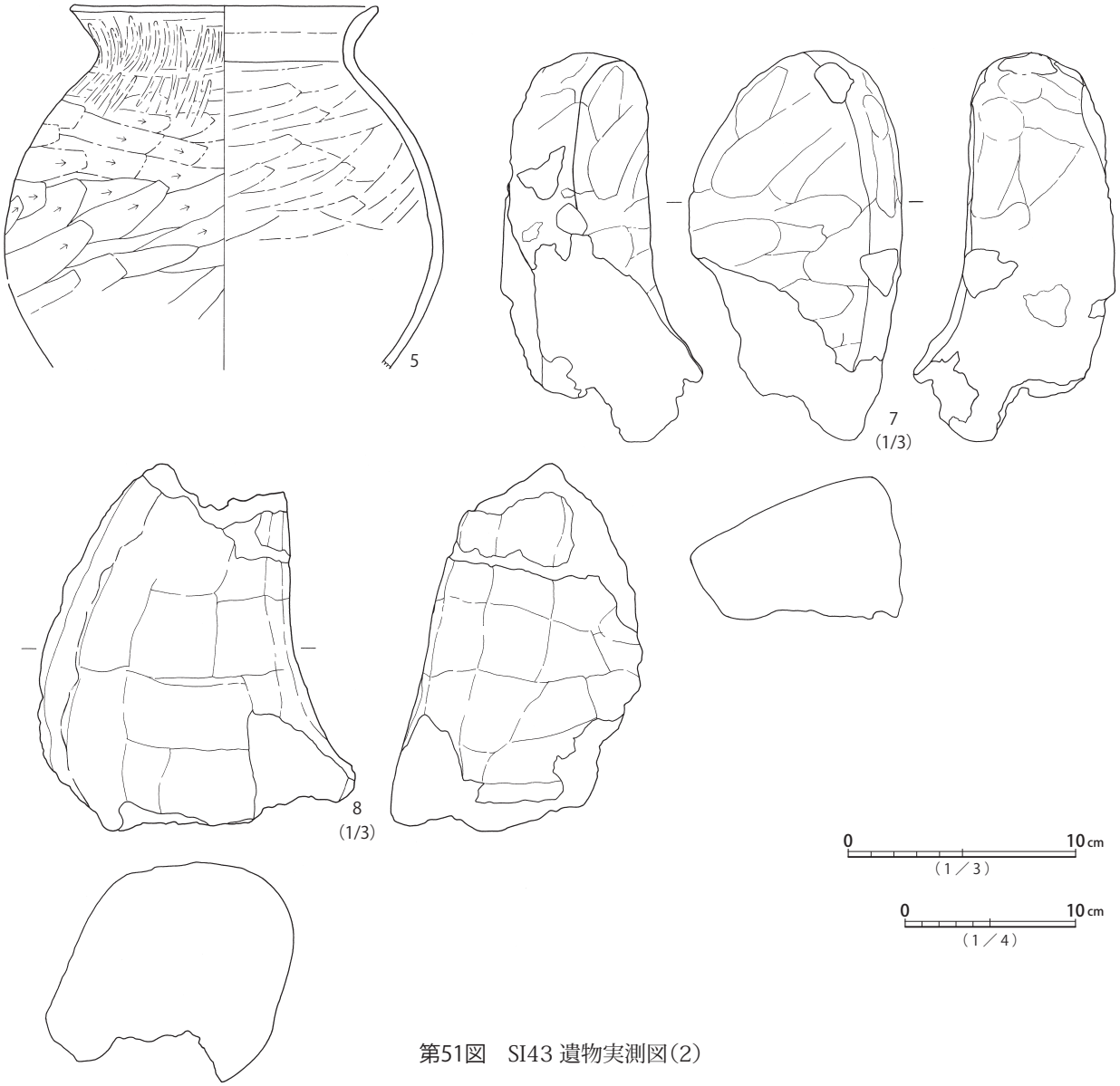
1　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
2　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
4　7.5YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
5　10YR　3/4　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
6　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
8　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 2 層と同じ
9　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 4 層と同じ
10　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
11　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒少量　しまりやや強い　粘性なし
12　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
13　7.5YR　3/4　暗褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
14　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性なし
15　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒(1mm 以下)少量、ロブ(5～10mm)微量　しまり強い　粘性あり
16　7.5YR　3/2　黒褐　ロブ(5～8mm)微量、炭粒微量、焼粒含む　しまり強い　粘性あり

SI43



第50図　SI43・SK075 遺構図、SI43 遺物実測図(1)

SI43

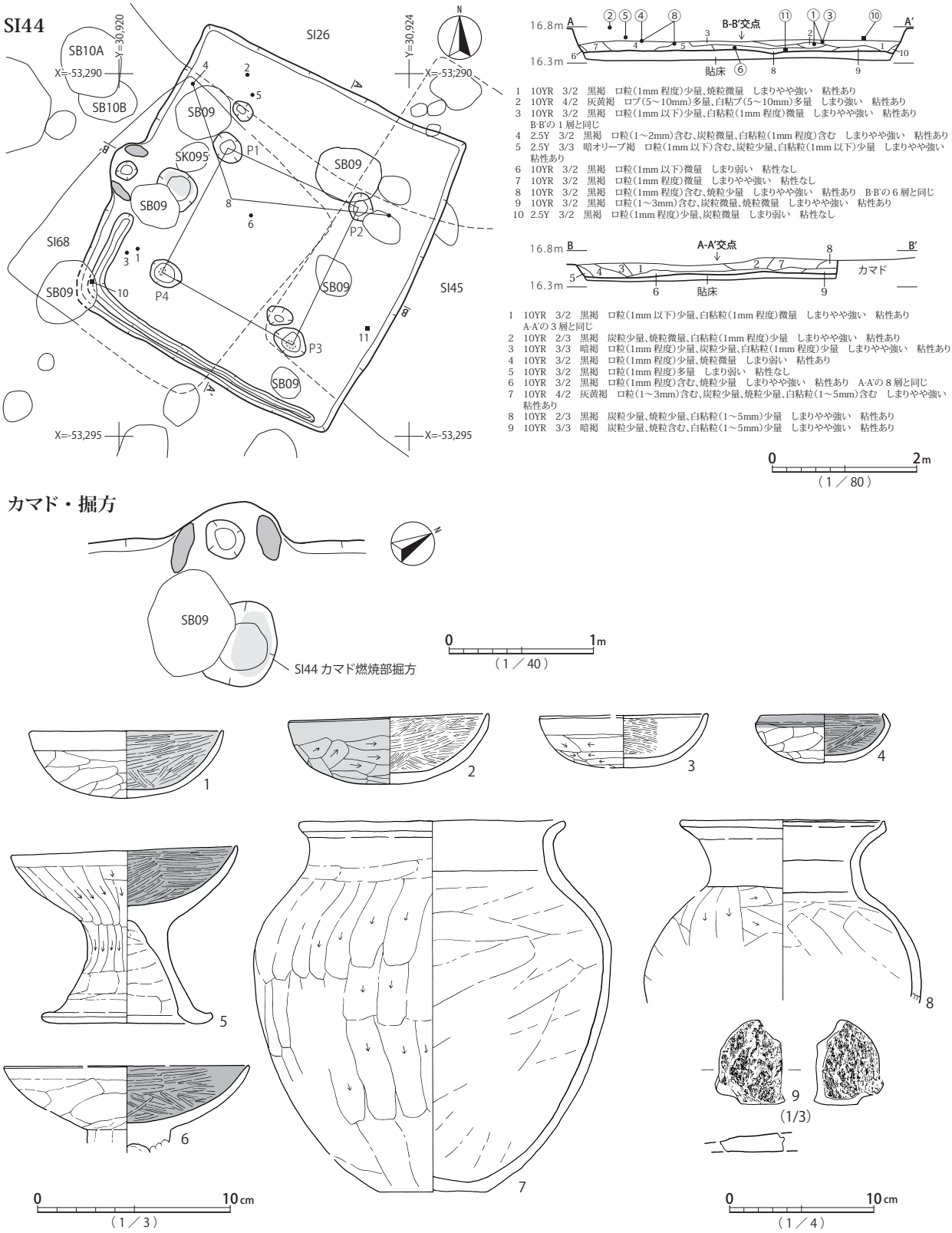


第51図　SI43 遺物実測図(2)

SI45・SK083・SK084（第 53 図、図版 7・29・40）

形態・規模　主にD2区に位置し、北西壁付近は古墳時代終末期のSI44によって破壊されている。また北東部最上層には平安時代竪穴建物跡のSI67の床面が構築されている。遺構東隅辺りは樹木の根による撹乱を受けている。竪穴平面形は約4.6×4.7mの方形を呈していたと考えられ、床までの深さは約0.2mである。主軸方位はN−52°−Wであったと思われる。本遺構でカマドは確認されておらず、壁から離れた位置に火床部が認められることから、地床炉だったと見られる。柱穴は確認されていない。さらに、本遺構内側にはSK083・SK084があり、前者は長軸約0.8m×短軸約0.6m・深さ約0.4m、後者は直径約0.6 ～ 0.7m・深さ約0.6mの円形を呈する。両者とも本遺構を切り込む遺構だが性格は不明である。

出土遺物　1は土師器高杯であり、内外面を赤彩されている。時期は古墳時代中期前半（和泉式）と思われる。2は北西壁床面より出土したナデ仕上げの土師器甕であり、古墳時代中期前半（和泉式）



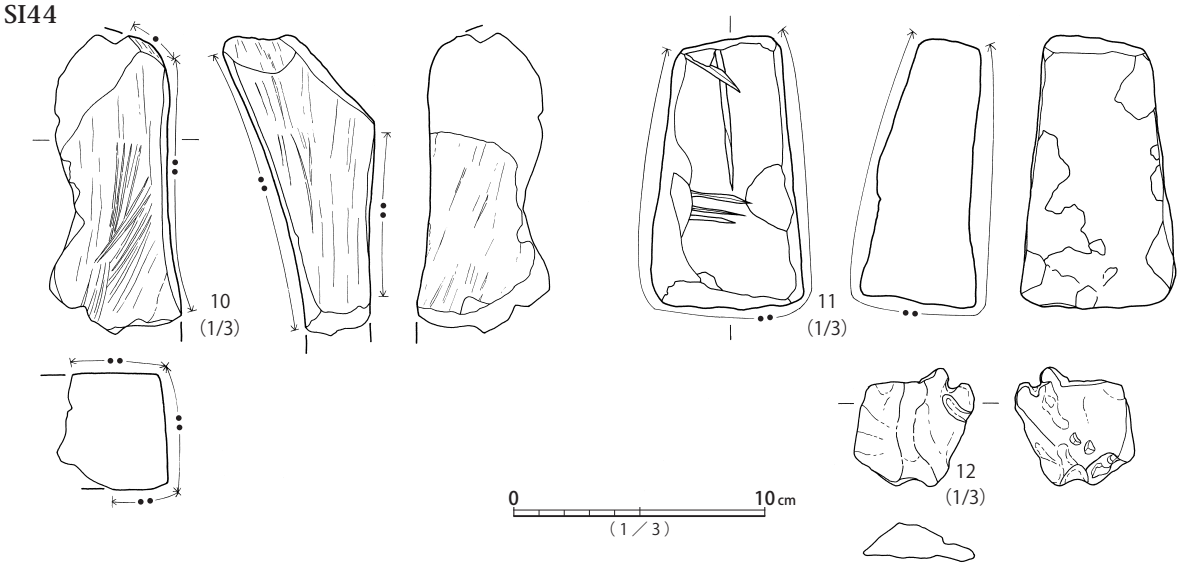
1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 4/2 灰黄褐 ロブ(5～10mm)多量、白粘ブ(5～10mm)多量 しまり強い 粘性あり
3 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、白粘粒(1mm 程度)微量 しまりやや強い 粘性あり
B-B'の 1 層と同じ
4 2.5Y 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量、白粘粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性あり
5 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量、白粘粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い
粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量 しまり弱い 粘性なし
7 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)微量 しまりやや強い 粘性なし
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 6 層と同じ
9 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
10 2.5Y 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまり弱い 粘性なし

1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、白粘粒(1mm 程度)微量 しまりやや強い 粘性あり
A-A'の 3 層と同じ
2 10YR 2/3 黒褐 炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
5 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)多量 しまり弱い 粘性なし
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 8 層と同じ
7 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1～5mm)含む しまりやや強い
粘性あり
8 10YR 2/3 黒褐 炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1～5mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 3/3 暗褐 炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1～5mm)少量 しまりやや強い 粘性あり

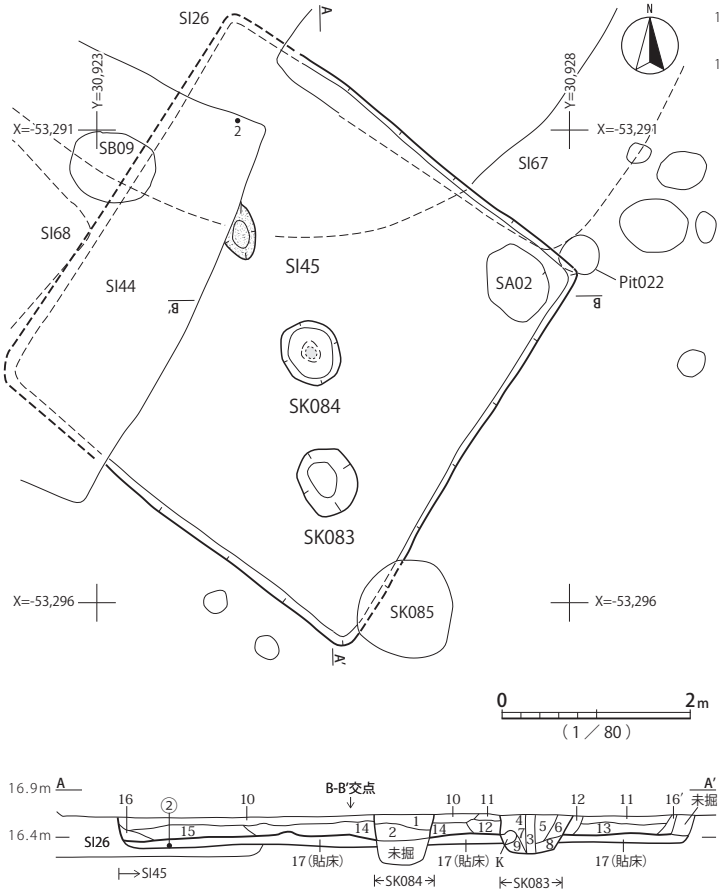
第52図 SI44 遺構図・遺物実測図(1)

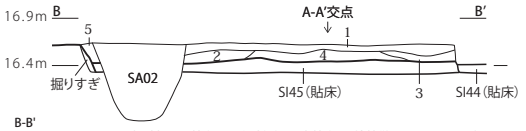
のものと考えられる。一方、SK083・SK084には掲載遺物はなく、非掲載遺物として弥生時代後期(久ヶ原式～山田橋式)の甕などがある。本遺構は竪穴の形態と出土遺物から、古墳時代中期前半、和泉式期の所産と推察される。

SI44



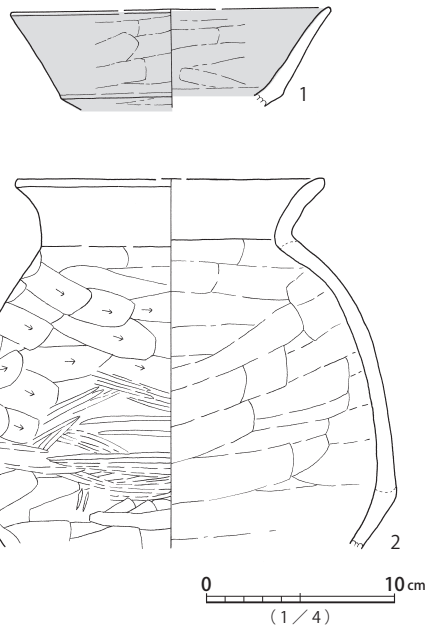
SI45・SK083・084





B-B'
1 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 10 層と同じ
2 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 14 層と同じ
5 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり

SI45

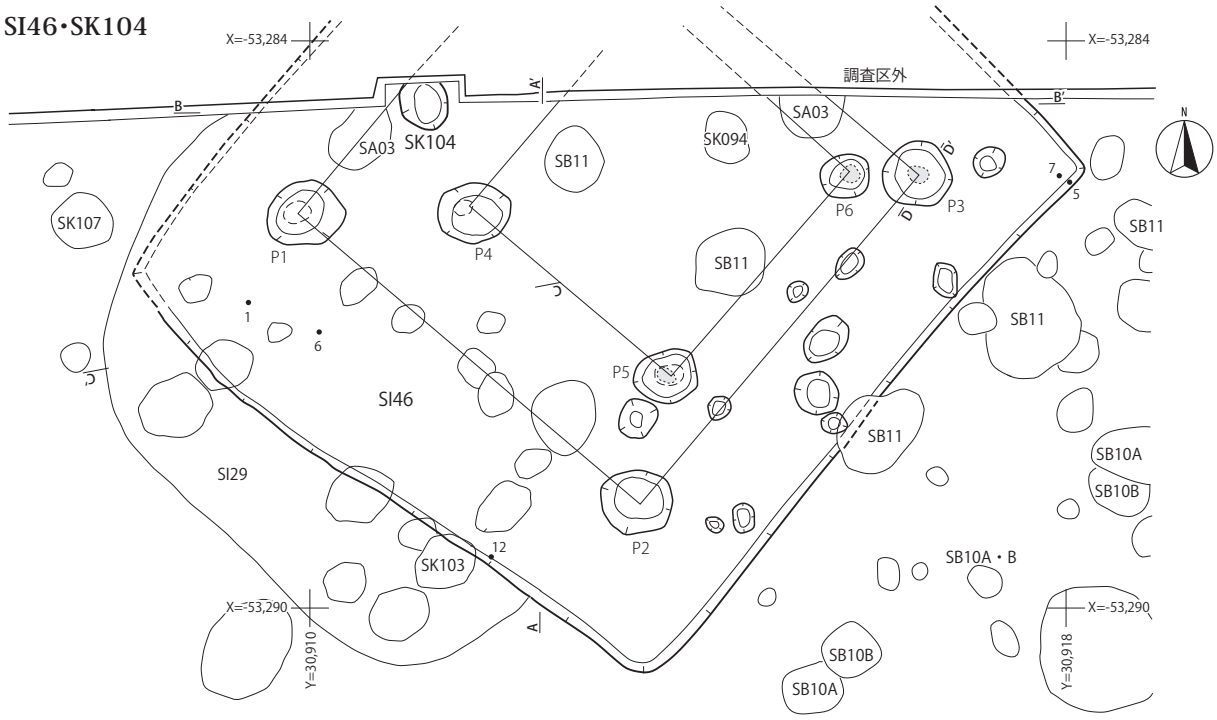


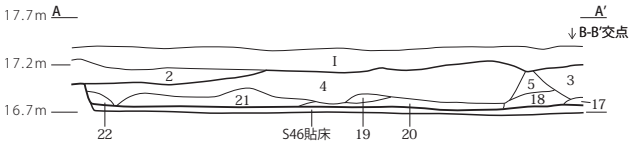
A-A'
SK084
1 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
SK083
3 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり 柱痕
4 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性あり
5 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
6 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)含む しまり弱い 粘性あり
7 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
8 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
9 7.5YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまり弱い 粘性あり

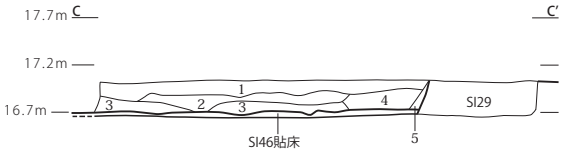
SI45
10 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 1 層と同じ
11 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
12 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
13 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまり弱い 粘性あり
14 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 4 層と同じ
15 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
16 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
16' 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
17 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床

第53図 SI45・SK083・084 遺構図、SI44 遺物実測図(2)、SI45 遺物実測図

SI46・SK104







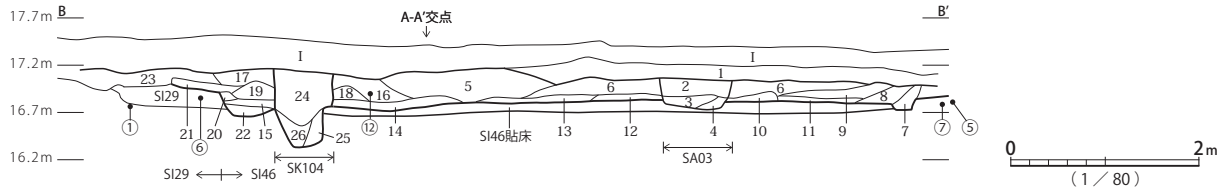
自然堆積層

I　10YR　5/2　灰黄褐　表土　しまりやや強い　粘性なし
2　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり

SI46

3　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　B-B′の 5 層と同じ
4　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性なし
5　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1～3mm)多量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性なし
17　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒含む　しまり強い　粘性あり　B-B′の 14 層と同じ
18　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
19　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量　しまり弱い　粘性あり
20　2.5Y　4/2　暗灰黄　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量、焼粒微量　しまり非常に強い　粘性あり　貼床
21　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～2mm)含む、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)微量　しまりやや強い　粘性あり
22　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量　しまり弱い　粘性あり

1　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
2　10YR　2/2　黒褐　ロブ(5～10mm)含む、炭ブ含む、焼ブ含む　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　3/2　黒褐　ロブ(5～50mm)多量　しまり強い　粘性あり
4　10YR　3/2　黒褐　ロブ(5～10mm)多量　しまり強い　粘性あり
5　10YR　3/2　黒褐　ロブ(5～10mm)少量　しまりやや強い　粘性あり



表土

I　10YR　5/2　灰黄褐　表土　しまりやや強い　粘性なし

自然堆積層

1　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性なし

SA03

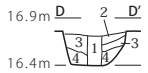
2　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量　しまり弱い　粘性あり
4　10YR　5/4　にぶい黄褐　ロ粒(1～2mm)多量　しまり弱い　粘性なし

SI46

5　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
A-A′の 3 層と同じ
6　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1～5mm)多量、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり
8　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1～2mm)少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
9　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
10　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性なし
11　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量　しまり強い　粘性あり
12　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
13　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
14　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒含む　しまり強い　粘性あり　A-A′の 17 層と同じ
15　10YR　4/1　褐灰　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
16　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
17　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
18　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(3mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量　しまりやや強い　粘性あり
19　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1～3mm)含む　しまりやや強い　粘性あり
20　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
21　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)微量　しまりやや強い　粘性あり
22　7.5YR　2/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり　堀方
23　7.5YR　2/3　極暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり

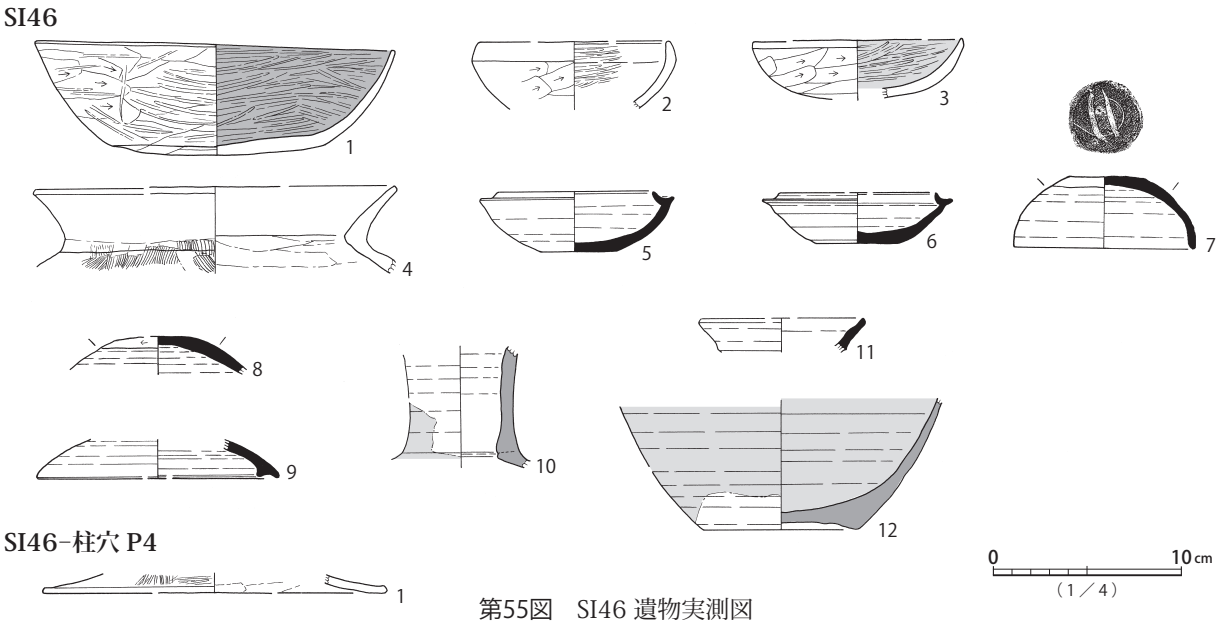
SK104

24　10YR　3/1　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～20mm)多量、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
25　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1～3mm)少量　しまり弱い　粘性あり
26　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量　しまり弱い　粘性あり



1　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり　柱痕
2　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性なし
3　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒(1～5mm)多量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性なし
4　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)少量　しまりやや強い　粘性あり

第54図　SI46・SK104 遺構図



第55図　SI46 遺物実測図

SI46・SK104（第 54・55 図、図版 8・12・29・40）

形態・規模　主にE1～法定外道路区に位置し、遺構北隅にかけて調査区外へ続く。また北東部はSB11と重複する。竪穴平面形は約6.9×7.7mの方形を呈すると考えられ、北西壁は土層断面図と柱穴P1との位置関係から推定した。床までの深さは約0.2～0.3mである。本遺構にカマドは確認されていないが、調査区壁面土層中に粘土粒が散布しており、他遺構の傾向からも調査区の北西壁に存在すると考えられる。よって本遺構の主軸方位はN−50°−Wと推測される。また柱穴は6箇所確認されており、外側3本（P1 ～ P3）は覆土除去後、内側の3箇所（P4 ～ P6）は貼床層除去後に検出された。本遺構は建て替え及び拡張が行われたと考えられる。新旧の柱穴ともに柱並びは方形配置であり、柱心々間距離は新柱穴で約4.5 ～ 4.7m、旧柱穴で約2.8 ～ 2.9mである。また深度は新柱穴で約0.6 ～ 0.8m、旧柱穴で約0.6 ～ 0.7mである。加えて、調査区壁沿いにSK104があり、土層の切り合いからSI46の後世の遺構であるが詳しい様相は不明である。

出土遺物　1～3は土師器杯であり、1は7世紀後葉～ 8世紀初頭、2・3は古墳時代終末期に位置付けられる。4は土師器甕である。5・6は東海産須恵器の杯、7は東海産須恵器の蓋でありTK217～TK46型式並行（7世紀中葉～後葉）のものである。特に5・7は隣接して出土しており、組み合わせて使用されていたものと思われる。また7は底部にヘラ記号が施されていた。8は東海産須恵器の蓋、9は湖西産須恵器の蓋であり、7世紀末の所産と考えられる。10は東海産灰釉陶器の長頸瓶、11は東海産須恵器で瑳、12は東海産灰釉陶器の瓶類である。

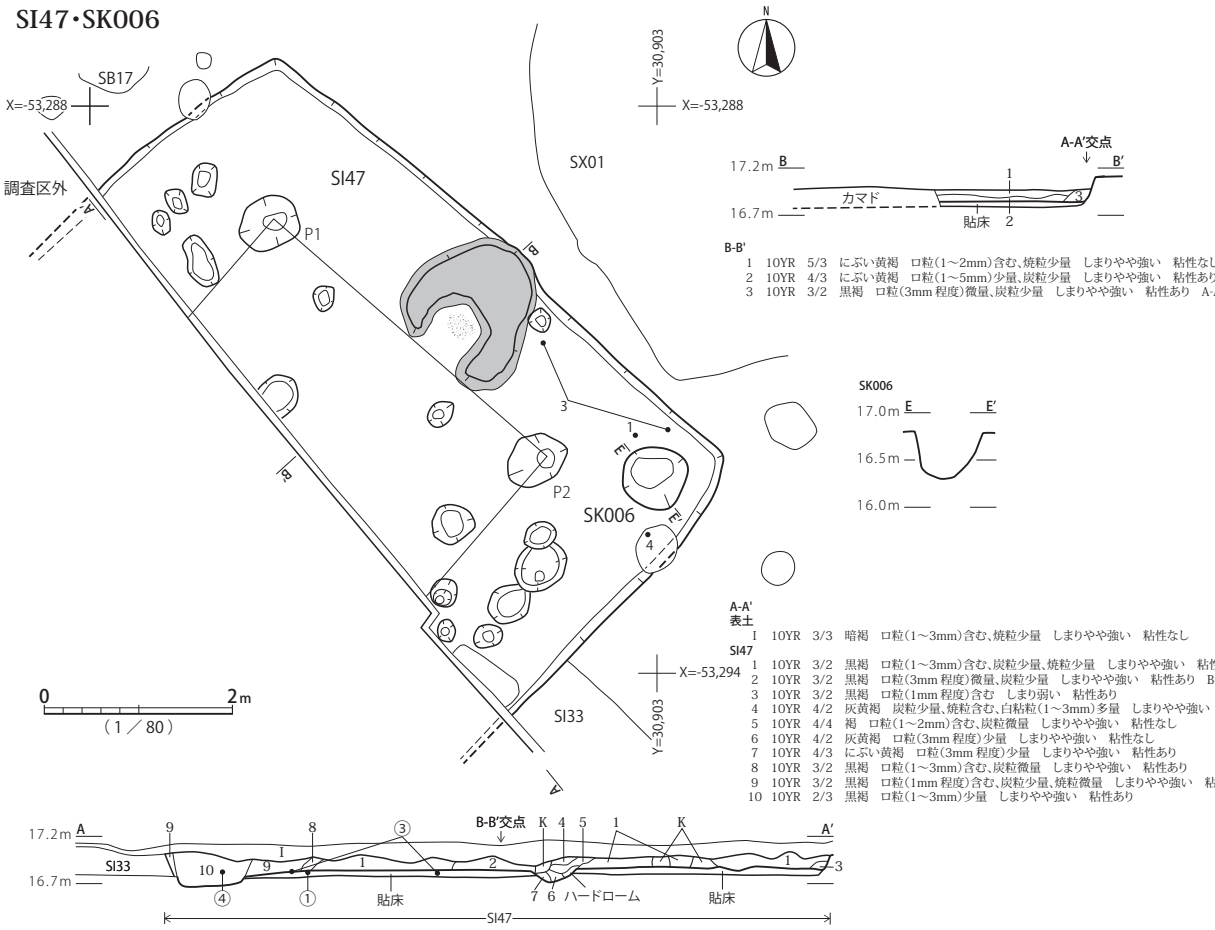
また柱穴P4の遺物として、1は土師器高杯で、古墳時代前期の遺構からの混入品と思われる。

本遺構の帰属時期は古墳時代終末期（7世紀後葉～末）と考えられる。

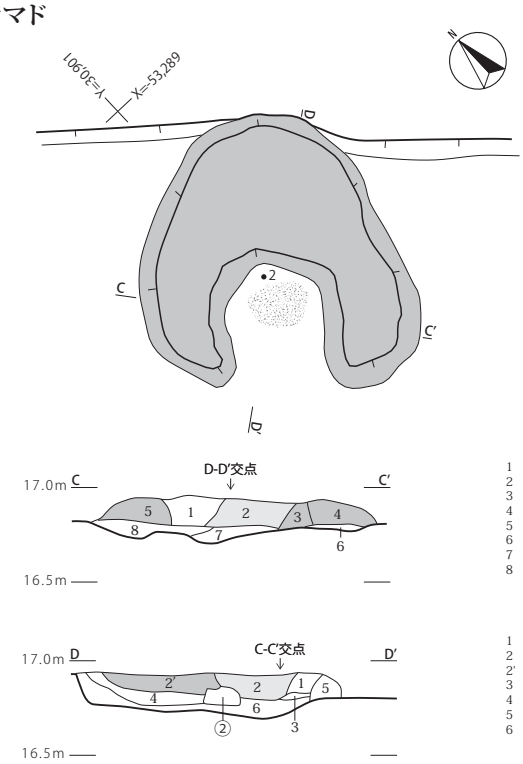
SI47・SK006（第 56・57 図、図版 12・29・30・35・40・54）

形態・規模　主に西端区に位置し、遺構南西側の大半は調査区外へ続く。竪穴平面形は北東面約7.0mを測る方形を呈すると考えられ、深さは約0.1～0.2mと浅い。柱穴は2箇所確認され、柱心々間距離は約3.8m、深度はP1・P2ともに約0.6mである。また北東壁にはカマドが付随している。カ

SI47・SK006



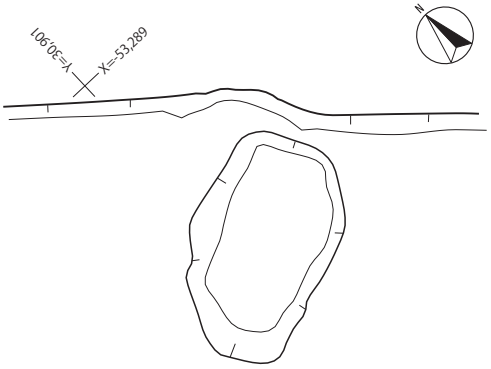
カマド



1 10YR 6/3 にぶい黄橙 ロ粒(1～3mm)少量、白粘粒(1～3mm)含む、焼ブ含む しまりやや強い 粘性なし
2 10R 5/8 赤 炭粒少量、焼粒多量 しまりやや強い 粘性なし D-D'の２層と同じ
3 10YR 4/4 褐 炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 8/3 浅黄橙 炭粒少量、白粘粒(1～5mm)多量 しまり強い 粘性なし
5 10YR 8/3 浅黄橙 炭粒微量、焼粒含む、白粘粒(1～5mm)多量 しまり強い 粘性なし
6 10YR 4/4 褐 ロ粒(3～5mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/2 黒褐 炭粒微量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり D-D'の６層と同じ
8 10YR 3/3 暗褐 炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり

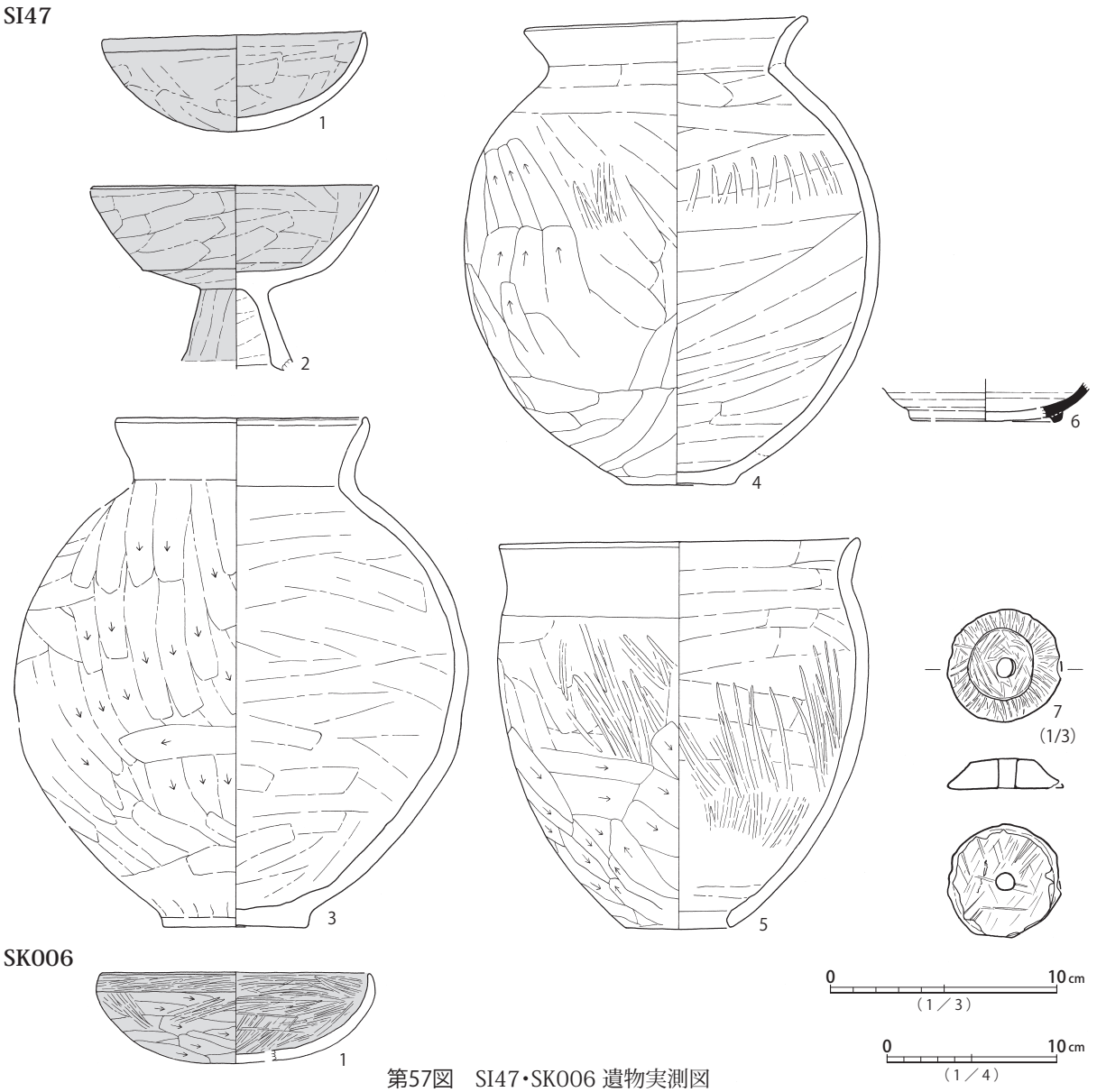
1 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性なし
2 10R 5/8 赤 炭粒少量、焼粒多量 しまりやや強い 粘性なし C-C'の２層と同じ
2' 10YR 3/4 暗褐 炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 炭粒微量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり C-C'の７層と同じ

掘方



0 1m
（1／40）

第56図　SI47・SK006 遺構図



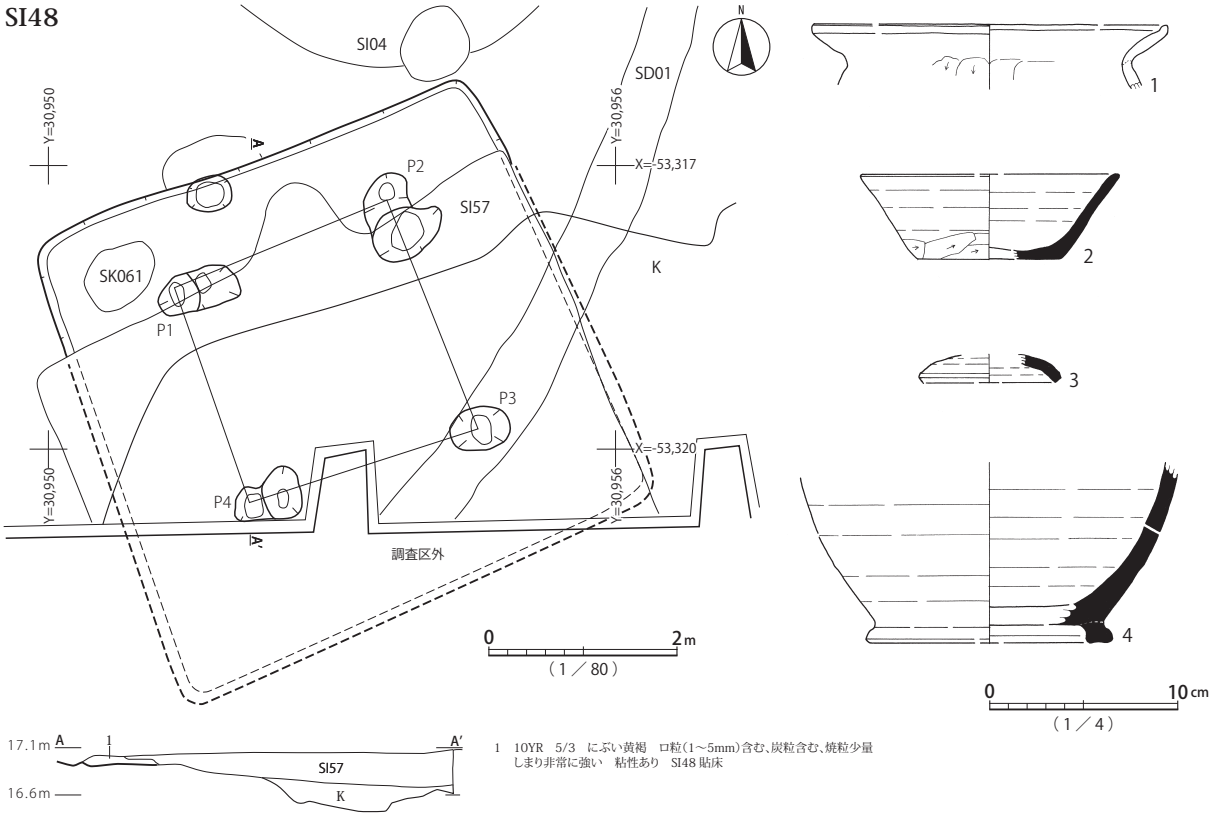
第57図　SI47・SK006 遺物実測図

マドの上部は後世の耕作などで削平されていたが、遺存状態は良好であった。またカマド南東隅には直径約0.7m、深さ約0.5mのSK006がある。この土坑は竪穴床面検出時に確認され、中から多くの遺物が出土したことから貯蔵穴の可能性が高い。

出土遺物　1は内外面赤彩された土師器杯、2はカマド内から逆位で検出された土師器高杯である。2は二次焼成を受けた形跡がないため、転用支脚ではなく、建物・カマド廃絶過程で遺棄されたものと考えられる。いずれも古墳時代中期前半（和泉式）の所産と考えられる。3・4は土師器甕であり、カマド南東床面から出土した。5は土師器甑であり古墳時代中期に属すると思われる。6は湖西産須恵器の底部突出高台付杯で、8世紀初頭の遺構からの混入品である。7は石製の紡錘車である。

SK006の遺物として、1は土師器杯であり内外面赤彩されている。時期は古墳時代中期前半（和泉式）と思われる。

SI47の帰属時期は、出土遺物の様相から古墳時代中期中葉、和泉式期、市原市御林跡遺跡Ⅳ～Ⅵ期並行と考えられる。



第58図　SI48 遺構図・遺物実測図

奈良時代

SI48（第 58 図、図版 12・30・40）

形態・規模　主にA4区に位置し、遺構南側の大半はSI57に破壊されているため、検出範囲は僅かである。また本遺構の南側はA4区南側に広がる撹乱面の上に位置している。柱穴はSI57の貼床層下から4箇所確認されており、柱並びは方形配置、柱心々間距離は約2.4 ～ 2.6mである。深度はP1・P4で約0.4m、P2で約0.5m、P3で約0.3mである。これら柱穴の位置関係から本遺構の平面形は約5.4×5.1mの方形を呈していたと思われ、床までの深さは約0.1mと浅い。なお、カマドは確認されていない。

出土遺物　1は土師器甕、2は千葉産須恵器の杯、3は東海産須恵器の蓋であり、合子蓋と考えられる。4は東海産須恵器の瓶壺類である。本遺構の出土遺物と後述のSI57の出土遺物から、SI48の帰属時期は8世紀後葉～末と考えられる。

SI49・Pit027（第 59・60 図、図版 12・30・41・52・55・57）

形態・規模　主にE3区に位置し、上層には後述するSI74・75が位置する。竪穴平面形は約6.9×7.2mの方形を呈し、主軸方位はN-40°-W、床までの深さは約0.2mである。北西壁にはカマドが付随しているが、カマド左袖は破壊されていた。柱穴は4箇所確認されており、柱並びは方形配置、柱心々間距離はP1-P2間約3.9m、P2-P3間約4.1m、P3-P4間約4.1m、P4-P1間約4.2mである。また深度はP1 ～ P3で約0.4 ～ 0.5m、P4で約0.6mであるが、P4は後世の土坑によって柱当たりを除いて破壊されている。また本遺構は壁面に周溝が全周する。さらに、Pit027は梯子穴と思われる。

出土遺物　1・2は土師器杯であり、7世紀末～8世紀初頭のものと思われる。3・5は畿内産土師器の杯であり、3は杯CII、5は杯AIでいずれも平城I期（7世紀末～8世紀初頭）に属すると思われる。4は内面を黒色処理したロクロ土師器の杯であり、外面に「⊕」状の墨書が見られる。この遺物は9世紀前葉～中葉のものと思われる。6は在地産の畿内系土師器の杯であり内面に放射状暗文が見られる。7は7世紀中葉～末の土師器杯、8は7世紀後葉～8世紀初頭の土師器杯であり内面に放射状暗文が見られる。9・10は8世紀と思われる土師器であり、前者は杯、後者は赤彩盤状杯である。11～16は内面に暗文の見られる土師器杯の小片で、11・13・14は7世紀後葉～8世紀初頭、12には斜格子状暗文上総型杯で8世紀前葉～中葉、15は畿内産土師器の杯Cで平城I期（7世紀末～8世紀初頭）、16は在地産の畿内系土師器の杯であり7世紀末～8世紀前葉の所産と思われる。17は土師器椀、18は土師器高杯であり、前者は7世紀中葉～末のもの、後者は7世紀後葉～8世紀前葉のものと考えられる。19は土師器鉢、20は土師器直口壺で古墳前期（草刈式）のもの、21は土師器甑である。22・23は東海産須恵器で前者は杯、後者は底部突出高台付杯、24・25は新治産須恵器の蓋で8世紀第1四半期のものと思われる。26は陶邑産須恵器の瑕、27・28は東海産須恵器でそれぞれ丸底壺と瓶壺類である。29・30は土製品で支脚、31は閂金具、32は刀子である。他にも、本遺構からは粘土塊が検出されている（図版52）。

また柱穴P4の遺物として、1は7世紀（古墳時代終末期）のものと思われる土師器杯、2は灰釉陶器の瓶壺類である。

SI49の帰属時期は出土遺物から7世紀末～8世紀前葉と考えられる。

SI50・SK120（第61図、図版12）

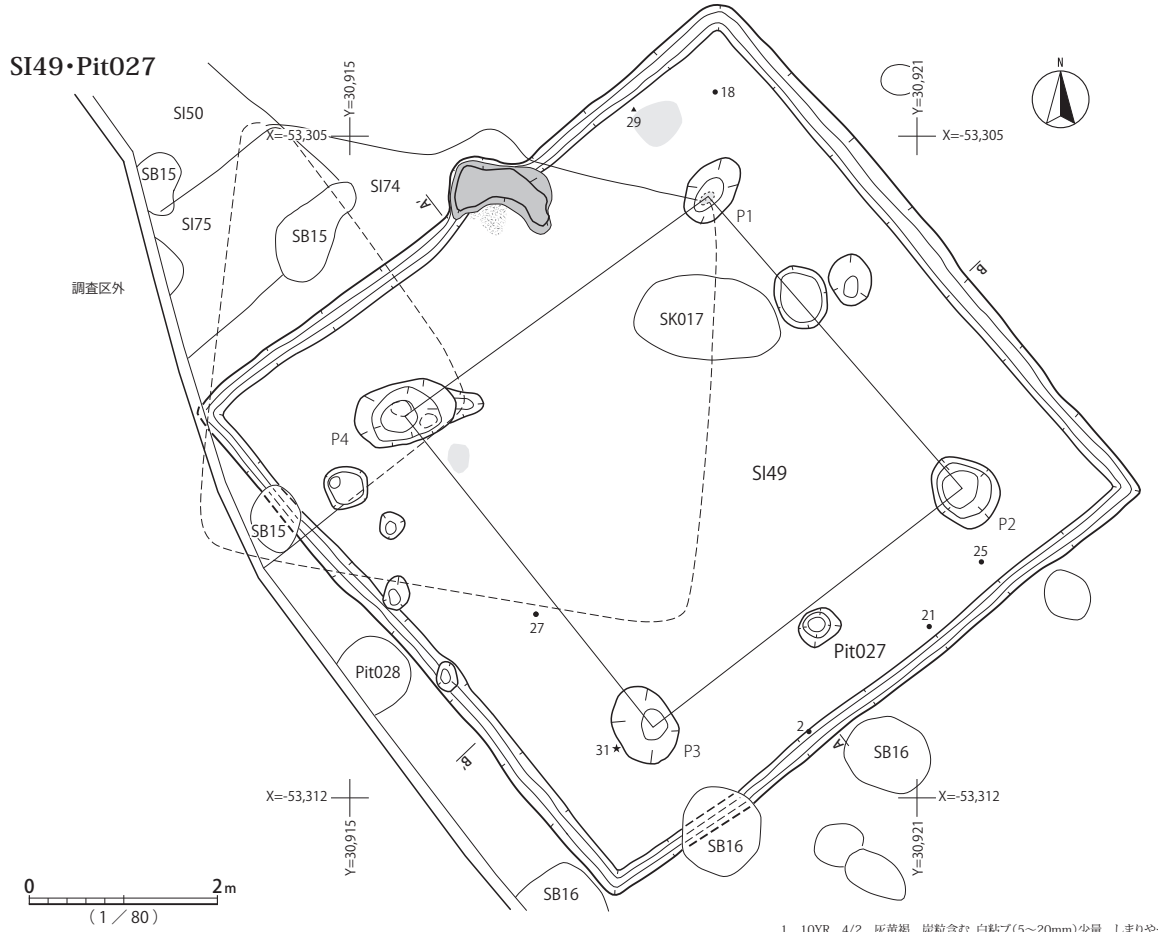
形態・規模　主にE3区～法定外道路区に位置し、遺構南西部の大半は調査区外に続く。南側はSB15と重複する。また上層には後述するSI74・75が位置するが、貼床層はSI50の掘り込みの上にある。また覆土上面からSK120が掘り込まれている。竪穴平面形は約3.4×3.6mの方形を呈すると考えられ、深さは約0.3～0.4mである。またSK120については平面形及び規模が不明だが、深さは約0.6mを測る。本遺構にカマド、柱穴は確認されておらず、主軸方位は不明である。

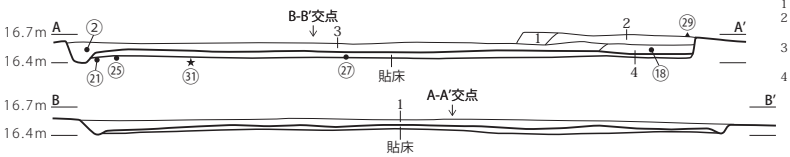
出土遺物　掲載遺物はない。また非掲載遺物として、千葉産須恵器杯や土師器の武蔵型甕が出土している。本遺構の遺物は少なく時期推定は困難であるが、周辺遺構との切り合い関係から古墳～奈良時代のものと考えられる。なお、出土位置は不明ながら、SI75出土土器とした中に、全形をほぼ完全に復元できた和泉式の高杯（第90図3）があり、本遺構由来とすれば、古墳時代中期前半に帰属する可能性も否定できない。

SI51（第62～64図、図版12・13・30・41・52・54・55）

形態・規模　主に法定外道路区～西端区に位置し、南側隅の壁の一部は後世の撹乱によって破壊されている。竪穴平面形は約6.1×6.8mの方形を呈し、主軸方位はN-59°-W、床までの深さは約0.3～0.35mである。北西壁にはカマドが付随し、袖の一部はSI79によって破壊されている。柱穴は4箇所確認されており、柱並びは方形配置、柱心々間距離はP1-P2間約4.0m、P2-P3間約4.2m、P3-P4間約3.9m、P4-P1間約4.1mである。また深度はP1で約0.3m、P2で約0.6m、P3で約0.35m、

SI49・Pit027

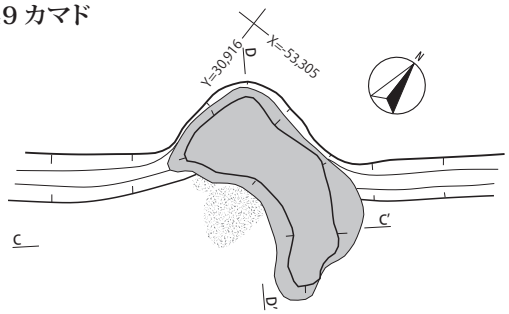


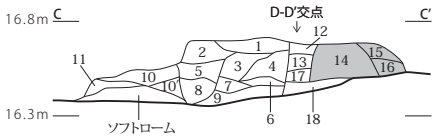


1　10YR　4/2　灰黄褐　炭粒含む、白粘プ（5～20mm）少量　しまりやや強い　粘性あり
2　10YR　4/2　灰黄褐　炭粒少量、焼粒含む、白粘粒（1～5mm）含む、白粘プ（5～20mm）含む　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　3/3　暗褐　炭粒微量、焼粒少量、白粘粒（1～2mm）含む　しまりやや強い　粘性あり　B-B′の１層と同じ
4　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 程度）少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり

1　10YR　3/3　暗褐　炭粒微量、焼粒少量、白粘粒（1～2mm）含む　しまりやや強い　粘性あり　A-A′の３層と同じ

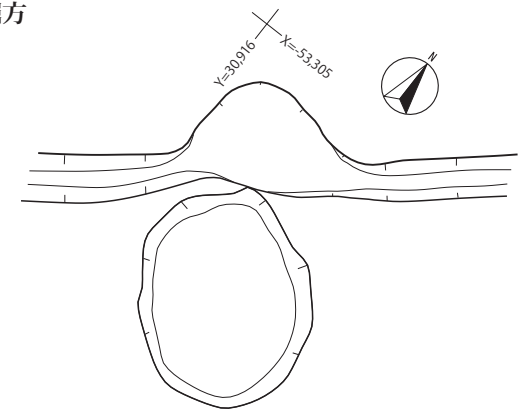
SI49 カマド

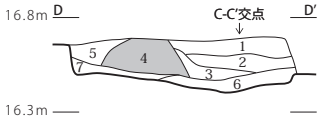




1　10YR　6/3　にぶい黄橙　ロ粒（1mm 以下）少量、炭粒少量、焼粒少量、白粘粒（1mm 程度）少量　しまりやや強い　粘性なし
2　10YR　3/3　暗褐　ロ粒（1mm 程度）微量、焼粒少量、白粘粒（1mm 程度）微量　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　3/3　暗褐　白粘粒（1mm 以下）少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　3/2　黒褐　炭粒少量、焼粒含む、白粘粒（1mm 程度）少量　しまりやや強い　粘性あり
5　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 以下）少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
6　7.5YR　3/2　黒褐　ロブ（5mm 程度）微量、焼粒含む、白粘粒（1mm 程度）少量　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒（1mm 以下）含む、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
8　7.5YR　2/3　極暗褐　ロ粒（1mm 程度）少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
9　10YR　3/3　暗褐　ロ粒（1mm 以下）少量　しまり弱い　粘性あり
10　7.5YR　4/2　灰褐　焼粒少量、白粘粒（1～3mm）多量　しまり強い　粘性あり
10′7.5YR　3/2　黒褐　焼粒多量、白粘粒（1～3mm）少量　しまりやや強い　粘性あり
11　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 以下）少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
12　10YR　5/2　灰黄褐　ロ粒（1mm 以下）少量　しまり強い　粘性あり　D-D′の１層と同じ
13　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒（1mm 程度）少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　D-D′の２層と同じ
14　10YR　7/3　にぶい黄橙　炭粒微量、白粘粒（1～3mm）多量　しまり強い　粘性あり
15　10YR　3/2　黒褐　炭粒微量、焼粒含む　しまり強い　粘性あり
16　10YR　3/3　暗褐　ロ粒（1mm 以下）少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
17　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 以下）含む、炭粒少量　しまり弱い　粘性あり　D-D′の３層と同じ
18　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 以下）少量、炭粒微量、焼粒微量　しまり弱い　粘性あり　D-D′の６層と同じ

掘方

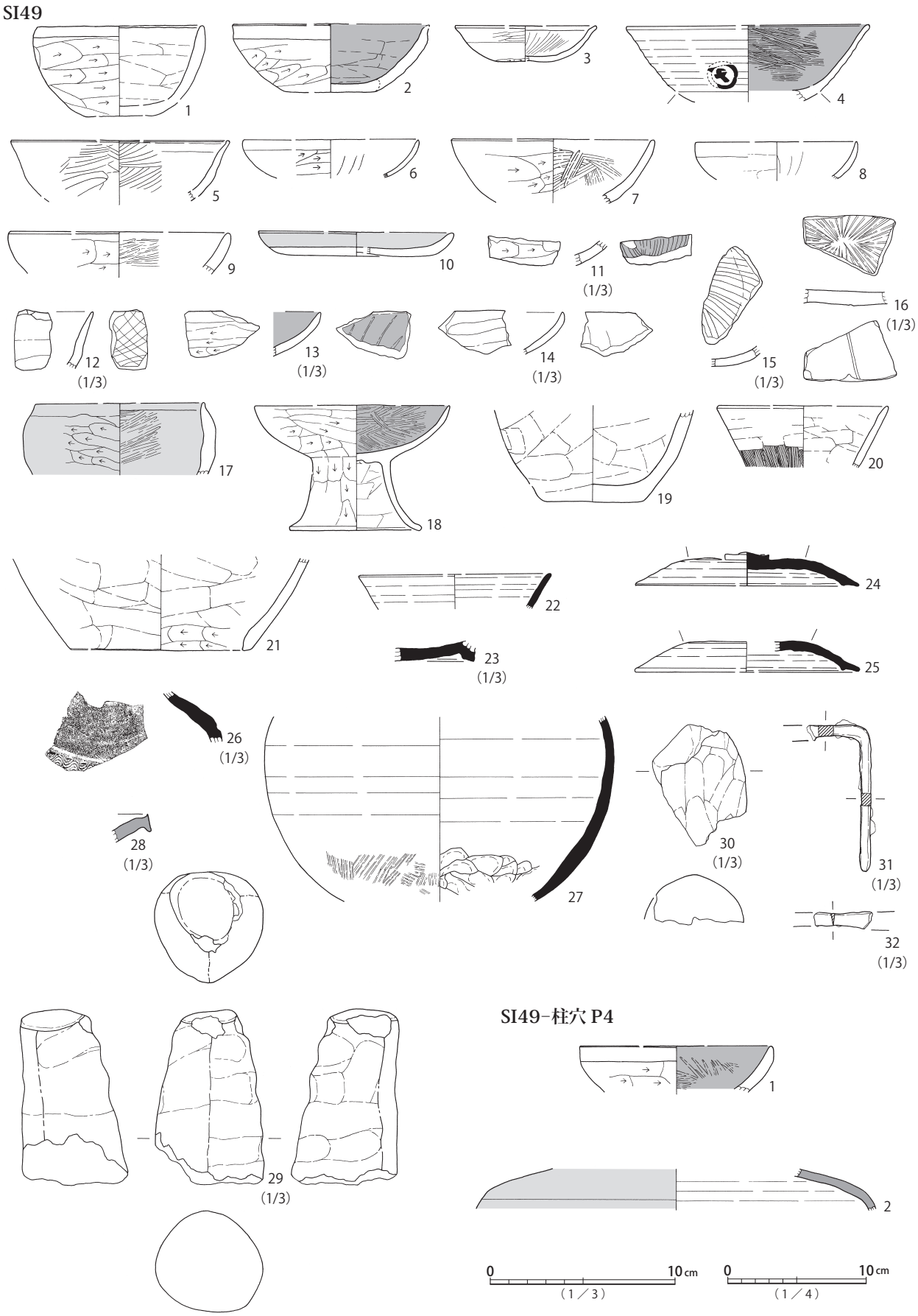




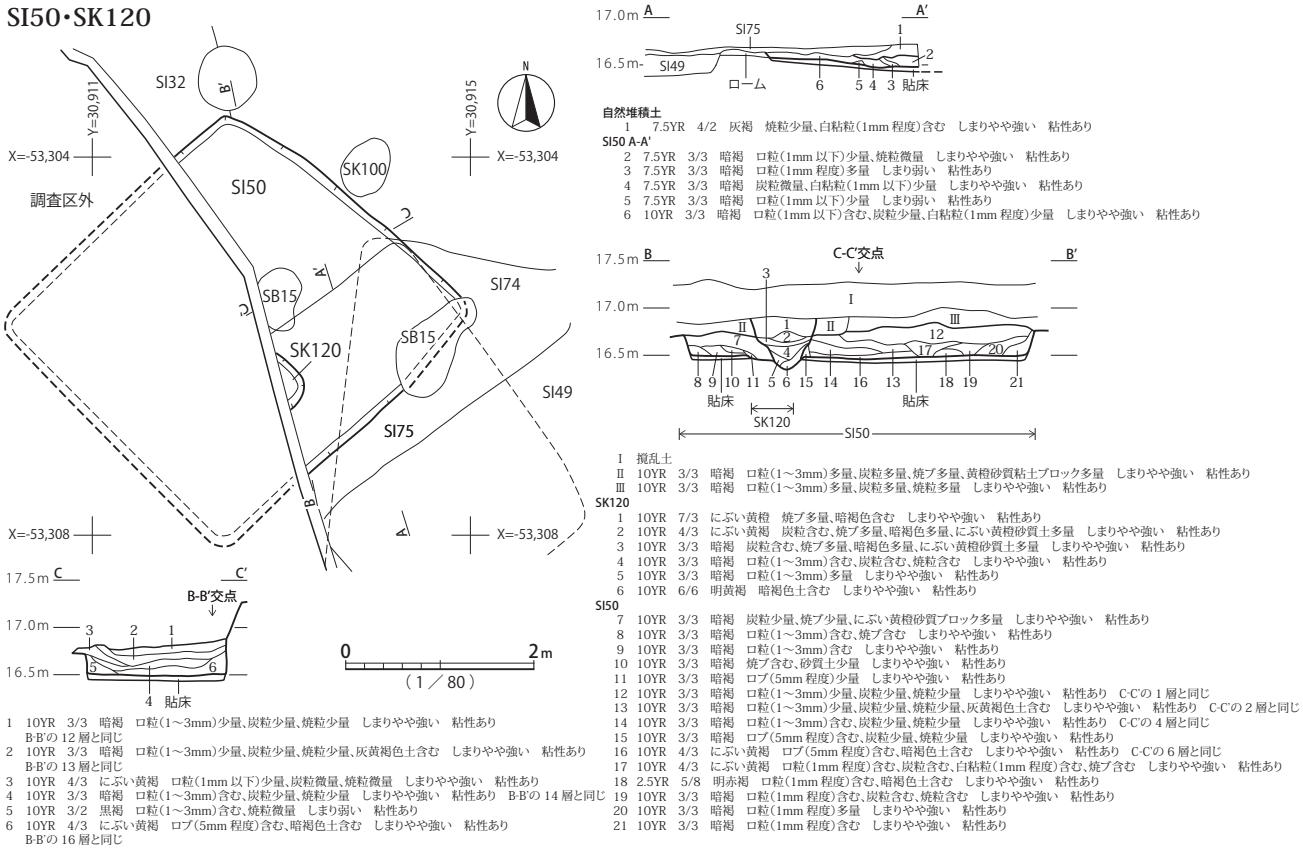
1　10YR　5/2　灰黄褐　ロ粒（1mm 以下）少量　しまり強い　粘性あり　C-C′の 12 層と同じ
2　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒（1mm 程度）少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　C-C′の 13 層と同じ
3　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 以下）含む、炭粒少量　しまり弱い　粘性あり　C-C′の 17 層と同じ
4　10YR　5/3　にぶい黄褐　炭粒微量、焼粒含む、白粘粒（1～3mm）多量　しまり強い　粘性あり
5　7.5YR　4/3　褐　ロ粒（1mm 以下）少量　しまり強い　粘性なし
6　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 以下）少量、炭粒微量、焼粒微量　しまり弱い　粘性あり　C-C′の 18 層と同じ
7　7.5YR　3/3　暗褐　ロ粒（1mm 以下）含む　しまりやや強い　粘性なし

0　1m
（1／40）

第59図　SI49・Pit027 遺構図



第60図　SI49 遺物実測図



第61図　SI50・SK120 遺構図

P4で約0.2mである。さらに南東部壁際には地床炉と思われる焼土溜が位置する。

出土遺物　1は椀鉢類で弥生時代中期（宮ノ台式）のもの、2は弥生時代の鉢と思われる。3～5は土師器杯であり、4は内面黒色処理、5は内面に放射状暗文がある。時期としては、3は7世紀末～8世紀前葉～中葉のもの、4・5は古墳時代終末期（鬼高式）の所産と考えられる。6は土師器の赤彩盤状杯であり8世紀前葉～中葉のもの、7は土師器の鉢、8は土師器甕である。9は東海産須恵器の杯、10・11は湖西産須恵器の底部突出高台付杯であり、10はカマドの構築材として使用されていた。時期は8世紀前葉と思われる。12・13は湖西産須恵器の蓋であり8世紀前葉の所産と考えられる。14・15は支脚であり、前者にはカマドの構築材が付着している。16は敲石、17は鉄鏃である。

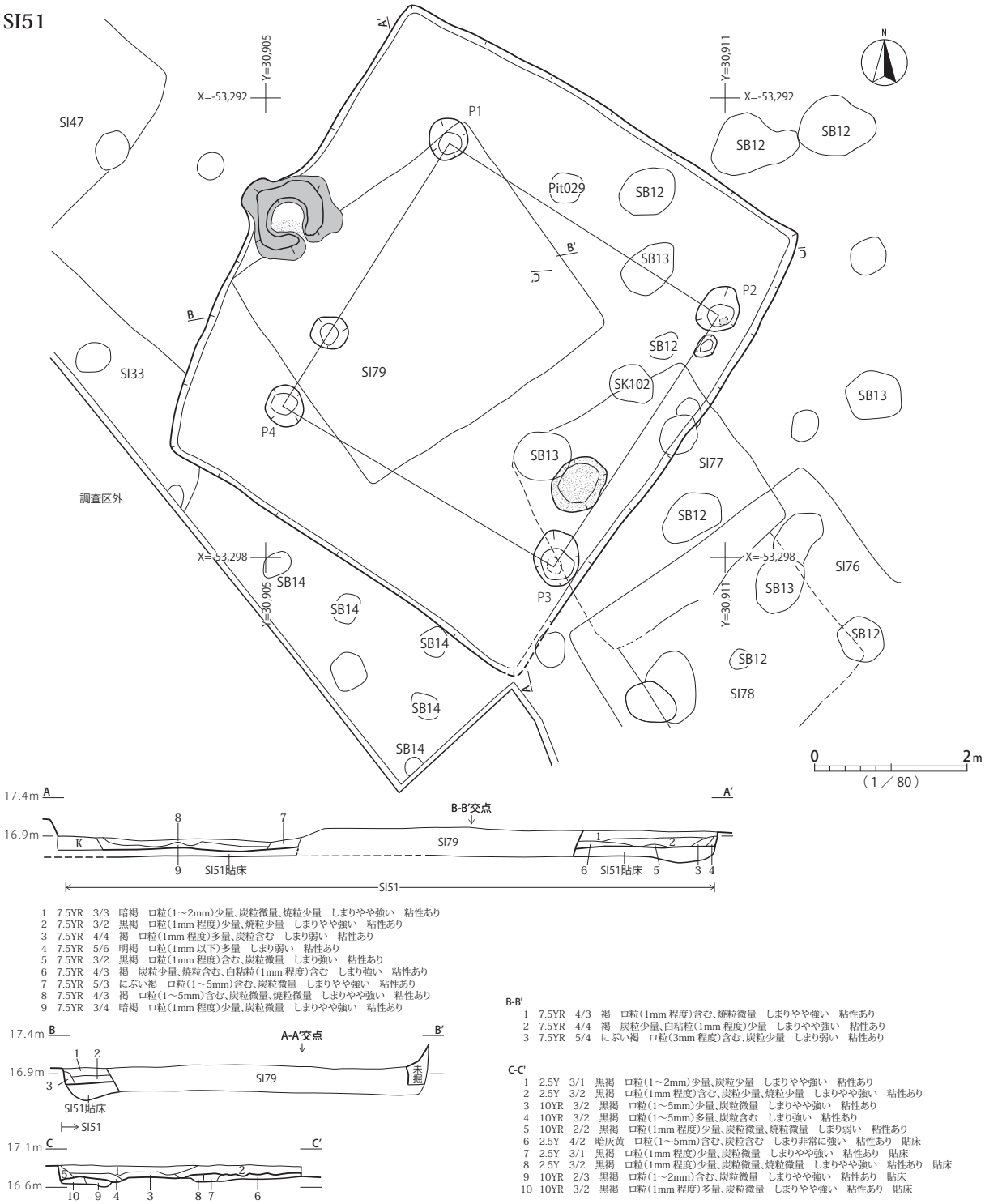
また柱穴P3から出土した遺物として、1は弥生土器の高杯の脚部であり透かし穴がある。

SI52の帰属時期は8世紀前葉と考えられる。

SI68（第65図、図版14・32・44・52・54・55）

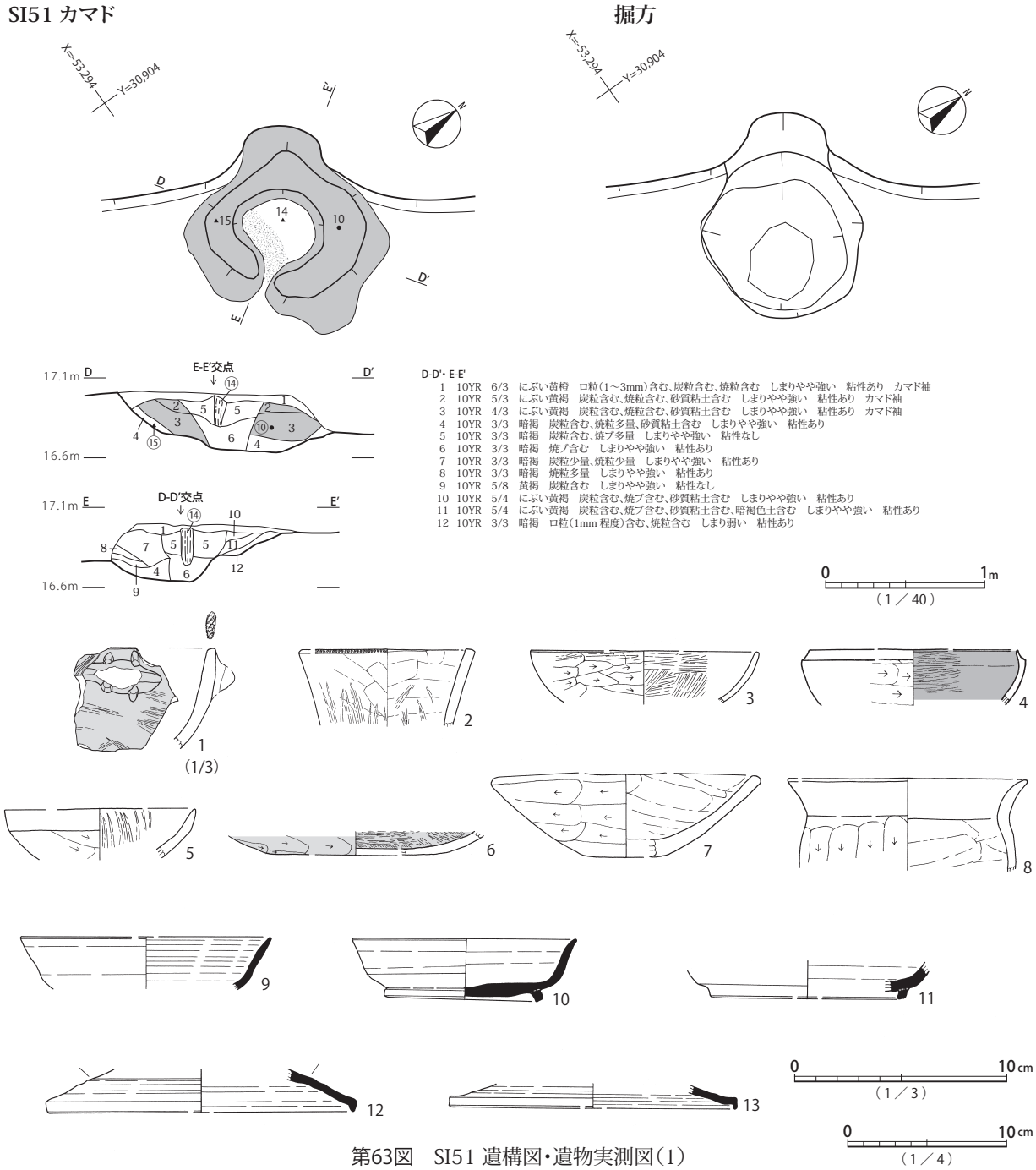
形態・規模　主にD1～D2区に位置し、下層にSI44がある。またSB09に先行する遺構である。表土から貼床層までは浅く、本遺構は下層のSI44に干渉していない。本遺構の検出範囲はカマド周辺を含む北西壁際のみであり、遺構の規模など詳細は不明だが、竪穴平面形は約3.1×3.7mの方形を呈していたと思われ、主軸方位はN－49°－W、床までの深さは約0.3mである。カマドは北西壁から検出されたが、後世のSB09やピット等によって破壊されており遺存状態は非常に悪い。柱穴は確認されていない。

出土遺物　1は土師器杯、2は土師器鉢であり、両者ともに古墳時代終末期（鬼高式）のものと思われ



第62図　SI51 遺構図

る。3は土師器甕である。4～6は須恵器杯であり、4・5は東海産、6は永田・不入窯産である。時期としては、4は7世紀末、5・6は8世紀後葉と考えられる。7はカマド支脚、8は鏡形石製品、9は刀子である。本遺構の帰属時期は8世紀後葉と考えられる。



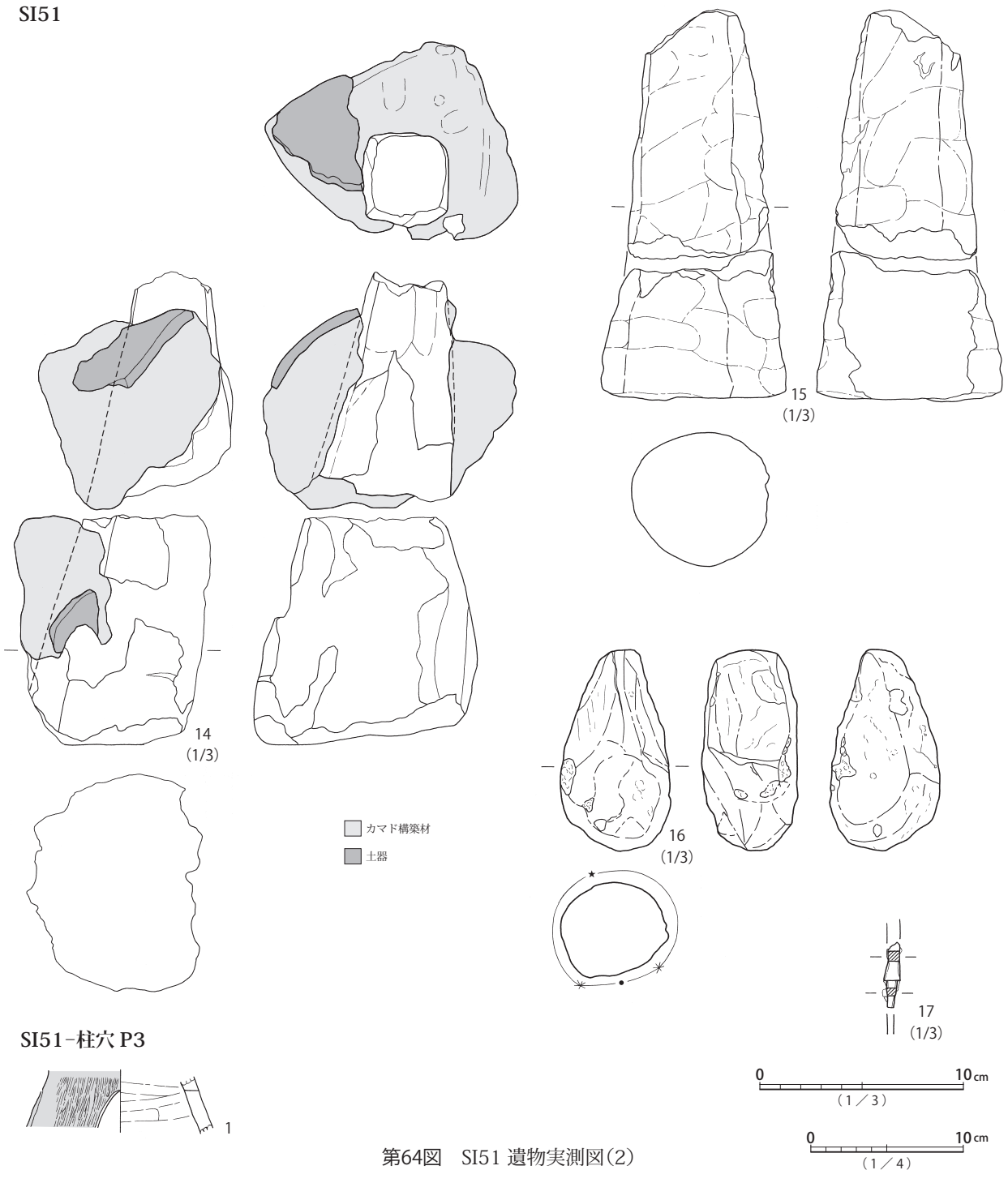
第63図　SI51 遺構図・遺物実測図(1)

平安時代

SI52・53（第 66 図、図版 13・30・41・52・54）

形態・規模　主にA1区に位置し、両遺構ともに大半は調査区外へと続く。下層にはSI01が位置するが貼床層はSI01の覆土上層にある。またSI53は大半をSI52によって破壊されている。両遺構ともに確認されたのは貼床層のみで、検出範囲も狭小であったため外形やその規模・主軸方位などは不明である。

出土遺物　両遺構は大半が重複していたため、全ての遺物をそれぞれの遺構毎に判別するのは困難であった。SI52の遺物として、1は土師器杯で9世紀中葉のもの、2は土師器椀、3・4は土師器甕である。5は不明石製品である。



第64図　SI51 遺物実測図(2)

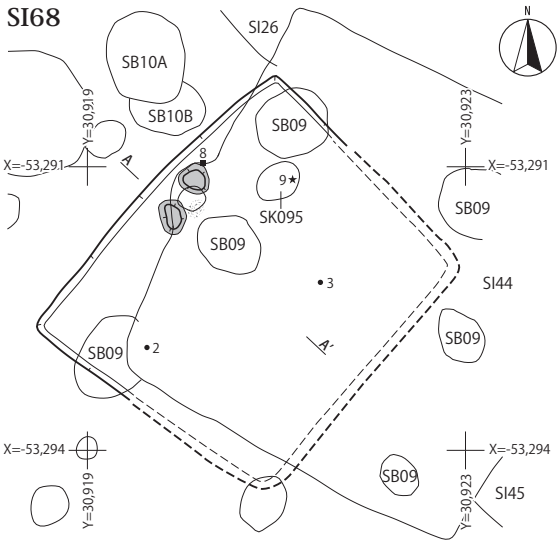
SI53の1は土師器甕である。

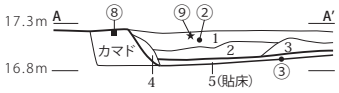
また帰属が確定できなかったSI52・53の遺物として、1～3は土師器杯であり、1～3は9世紀中葉～後葉のものと考えられる。4は土製品で支脚である。

SI52・53の帰属時期として、両者ともに9世紀中葉～後葉と考えられる。

SI54・SK029（第67・68図、図版13・30・41・42・48・52）

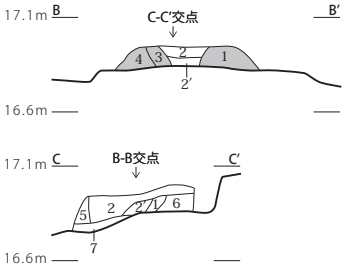
形態・規模　主にA1区に位置し、遺構北側の大半は後述するSD02や撹乱によって破壊されてい





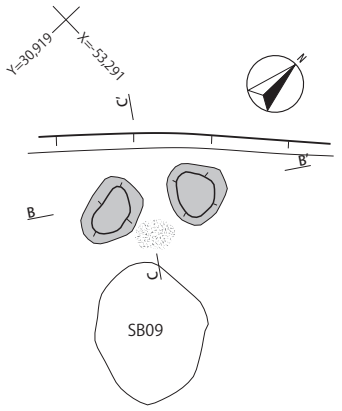
1　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
2　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　5/2　灰黄褐　炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1～3mm)多量　しまりやや強い　粘性あり
5　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量　しまり強い　粘性あり

0　2m
(1／80)

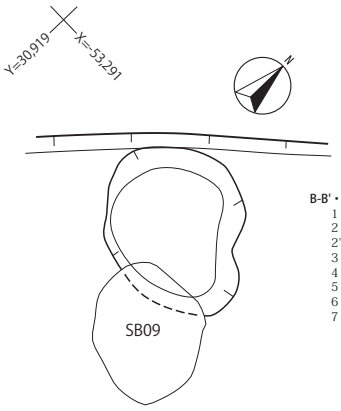


B-B'・C-C'
1　10YR　7/4　にぶい黄橙　暗褐色土含む、にぶい黄橙色砂質土含む　しまりやや強い　粘性あり
2　10YR　5/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
2'　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　5/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒含む、暗褐色土多量　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
5　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
6　10YR　3/3　暗褐　炭粒含む、焼粒多量、黄橙色砂質粘土含む　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり

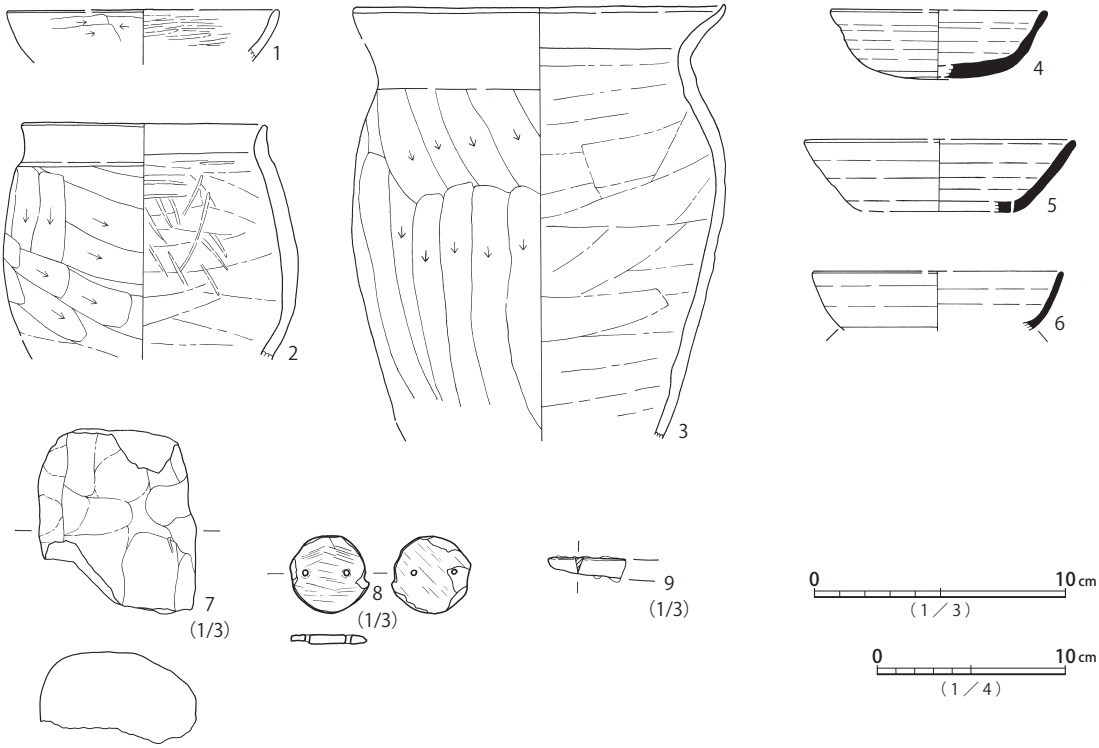
カマド



掘方

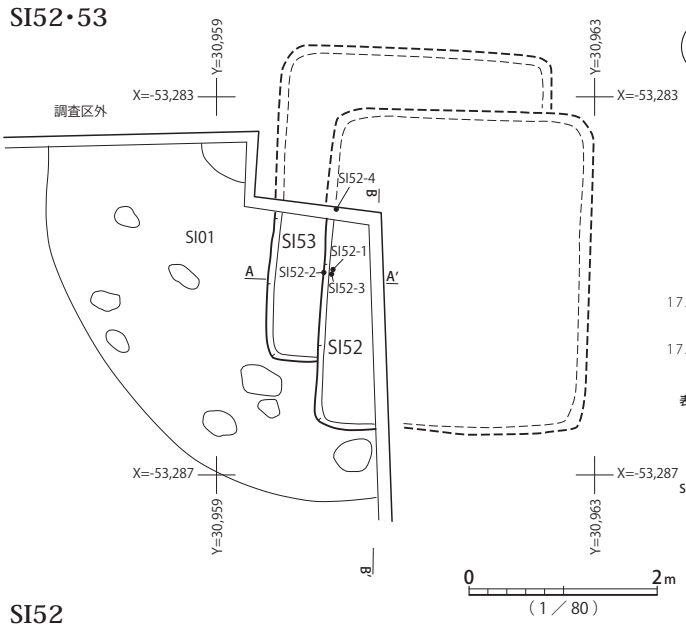


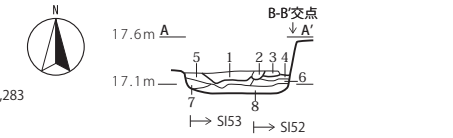
0　1m
(1／40)



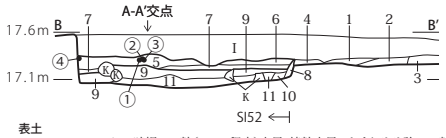
第65図　SI68 遺構図・遺物実測図

SI52・53





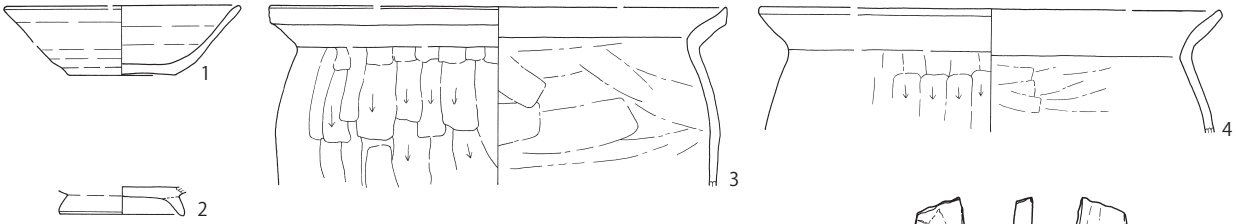
1　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒多量　しまり非常に強い　粘性あり　SI53 貼床
2　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒多量　しまり非常に強い　粘性あり　SI53 貼床
3　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量　しまり非常に強い　粘性あり　SI52 貼床
4　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　B-B′の 5 層と同じ
5　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
6　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり　B-B′の 9 層と同じ
7　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量　しまりやや強い　粘性あり
8　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり　B-B′の 11 層と同じ



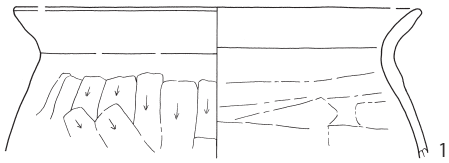
表土
I　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性なし
1　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性なし
2　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性なし
3　10YR　3/4　暗褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性なし
4　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり

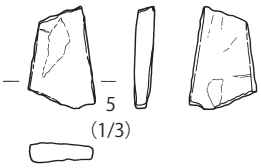
SI52
5　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　A-A′の 4 層と同じ
6　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまり非常に強い　粘性あり　SI52 貼床
8　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量　しまり弱い　粘性あり
9　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり　A-A′の 6 層と同じ
10　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
11　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり　A-A′の 8 層と同じ

SI52

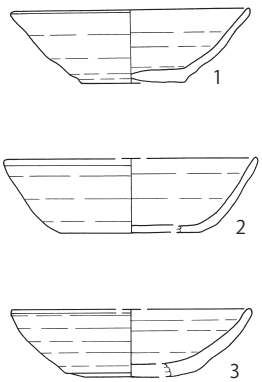


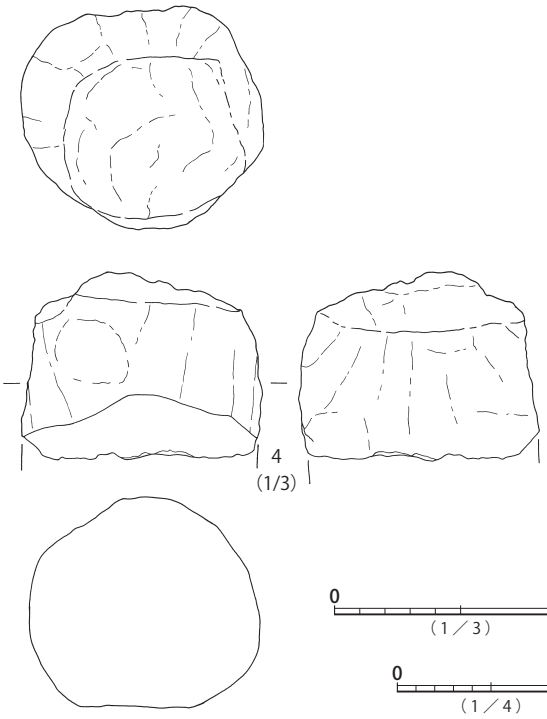
SI53





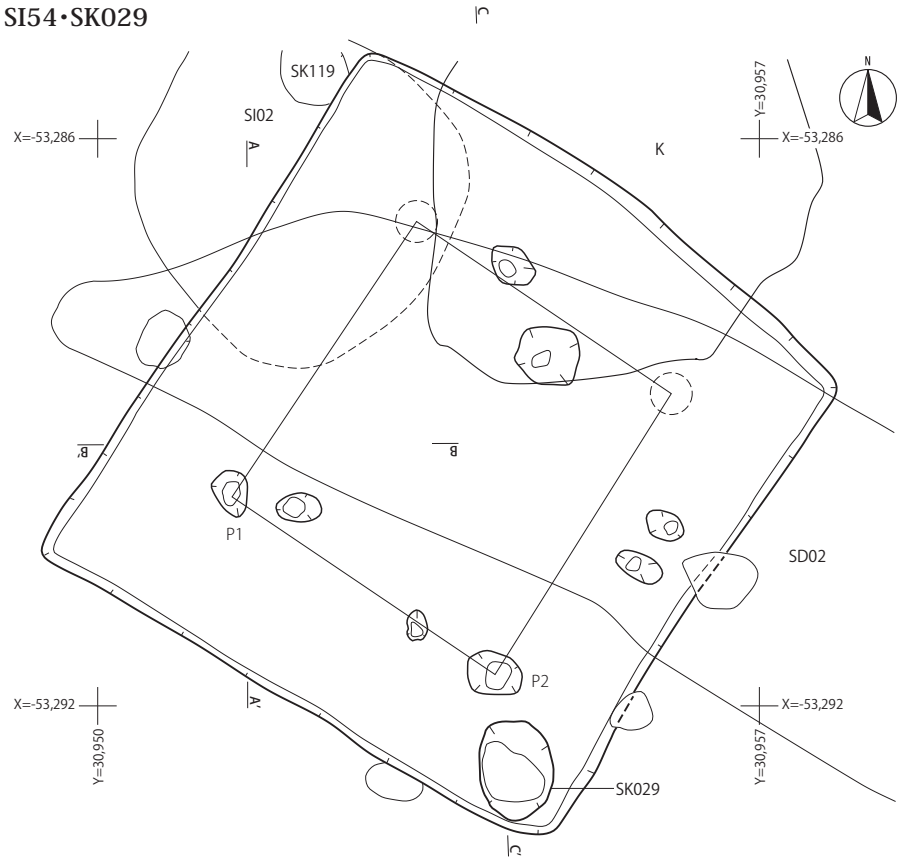
SI52・53

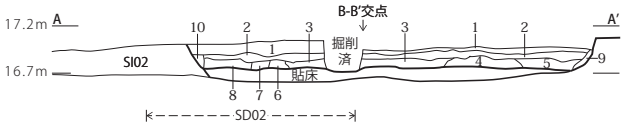


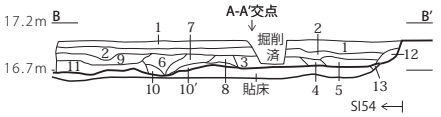


第66図　SI52・53 遺構図・遺物実測図

SI54・SK029

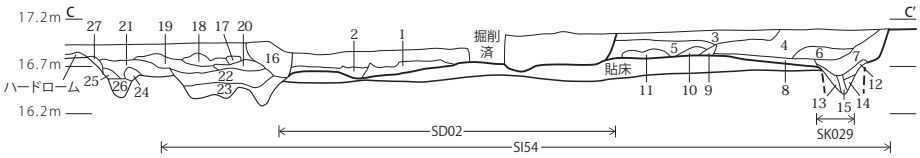






1 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性なし B-B′の 1 層と同じ
2 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B′の 2 層と同じ
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒含む しまり非常に強い 粘性あり B-B′の 3 層と同じ
4 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまり非常に強い 粘性あり
5 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒少量 しまり非常に強い 粘性あり
6 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性なし
7 10YR 5/4 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性なし
8 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
9 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
10 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり

1 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性なし A-A′の 1 層と同じ
2 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A′の 2 層と同じ
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒含む しまり非常に強い 粘性あり A-A′の 3 層と同じ
4 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～2mm)微量、炭粒少量 しまり非常に強い 粘性あり
5 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒含む しまり非常に強い 粘性あり
6 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまり強い 粘性あり
8 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまり強い 粘性あり
9 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまり強い 粘性あり
10 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒少量 しまり弱い 粘性あり
10′ 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまり強い 粘性あり
11 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 4/3 にぶい黄褐 炭粒少量、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
13 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(3～5mm)多量、炭粒少量 しまり弱い 粘性あり



SI54
1 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量 しまりやや強い 粘性あり
2 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～8mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、ロブ(5～8mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
5 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～20mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
7 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
8 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、ロブ(5～10mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
9 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 4/3 にぶい黄褐 炭ブ多量 しまりやや強い 粘性なし
11 7.5YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり

SK029
12 10YR 5/4 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
13 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む しまり弱い 粘性あり
14 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)微量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
15 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性なし

風倒木
16 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性なし
17 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭ブ含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性なし
18 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1～3mm)含む、ロブ(5～10mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
19 10YR 3/2 黒褐 ロブ(5～15mm)多量、炭粒含む しまりやや強い 粘性なし
20 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロブ(5～30mm)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
21 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
22 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロ粒(3～5mm)多量、炭粒含む しまりやや強い 粘性なし
23 10YR 5/4 にぶい黄褐 ロブ(5～30mm)多量 しまりやや強い 粘性なし
24 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
25 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
26 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
27 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし

0 2m
(1／80)

第67図 SI54・SK029 遺構図

る。竪穴平面形は約6.2×6.0mの方形を呈し、主軸方位はN−34°−Eと考えられ、床までの深さは約0.3mである。カマドは確認されていないが、北東壁が撹乱によって著しく破壊されていることから、元々北東壁に付随されていたと推測される。柱穴は2箇所確認されており、柱心々間距離は3.3m、深度はP1で約0.7m、P2で約0.5mである。SK029はSI54の南隅に位置し、長軸約1.1m×短軸約0.7m、深さ約0.6mを測る。SI54の土層断面図から住居の貼床層を切っているが、住居覆土上層からの掘り込みは確認できないため貯蔵穴の可能もある。

出土遺物　1は弥生時代後期（久ヶ原式〜山田橋式）の鉢である。2・3は土師器杯であり、4は畿内産土師器杯Aで飛鳥Ⅴ〜平城Ⅰ期のものと考えられる。5は土師器椀であり9世紀中葉〜後葉のものと思われる。6は土師器鉢、7は土師器甕である。8〜10は須恵器であり、8は永田・不入窯産の杯、9は湖西産の蓋、10は陶邑産の瓶である。11は猿投窯産緑釉陶器の椀であり9世紀の所産と思われる。12・13は須恵器の転用砥石であり前者は東海産、後者は木葉下窯産である。

SK029の出土遺物として、1は土師器甕である。

出土遺物から竪穴遺構の帰属時期は、出土遺物の様相から9世紀中葉〜後葉と考えられる。

SI55（第68図、図版30・42）

形態・規模　A3区に位置し、遺構の検出範囲は狭小であり、大半は後世の撹乱やSD01によって破壊されている。土層断面から想定できる床までの深さは約0.2mである。竪穴平面形やその規模、主軸方位などは不明である。

出土遺物　1〜3は土師器の杯であり、どれも9世紀前葉〜中葉のものと考えられる。本遺構の帰属時期も出土遺物から9世紀前葉〜中葉と思われる。

SI56（第69図、図版5・30・42）

形態・規模　主にA4区に位置し、遺構の掘り込みはSI04の覆土、壁を一部破壊している。しかし表土から本遺構の確認面の深度は浅く、遺構南側は確認トレンチによって破壊されていた。遺構が明瞭に確認できた範囲は限定的ではあるが、竪穴平面形は約2.4m×2.6mの方形であったと考えられ、深さは約0.12mである。柱穴は確認されておらず、遺構中央には焼土溜が位置する。

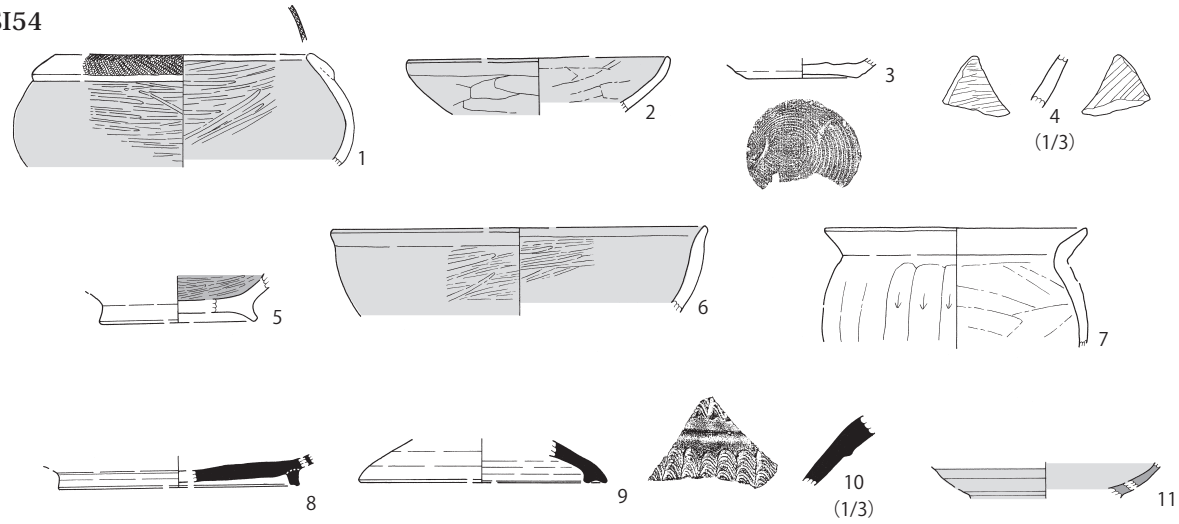
出土遺物　1は椀、2・3は土師器杯であり、3は内面黒色処理されている。時期として3は9世紀中葉、1・2は9世紀後葉の所産と思われる。この遺構の帰属時期として、出土遺物の様相から9世紀中葉〜後葉と考えられる。

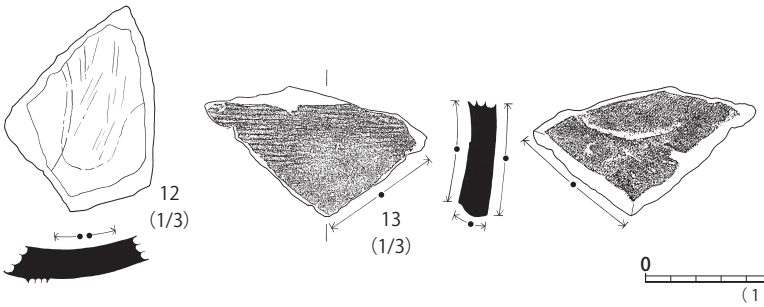
SI57（第70〜72図、図版12・13・30・31・42・52・54・57）

形態・規模　主にA4区に位置し、遺構南側は調査区外へ続く。またこの遺構はSI48を破壊しており、SI48と同様にA4区南側に広がる撹乱面の上に位置している。外形は短軸約5.6mの方形を呈すると考えられ、主軸方位はN−25°−W、床までの深さは約0.2mである。北壁にはカマドが付随しており、支脚は2本立った状態で出土した。柱穴は2箇所確認されている。

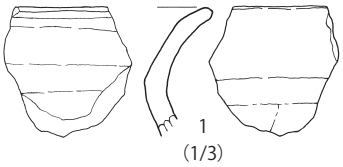
出土遺物　1・3・4は土師器杯で、1は外面に習字と思われる墨書があり、3は内面黒色処理されている。時期としては、1・3は9世紀中葉、4は8世紀後葉と考えられる。5は土師器杯転用灯明皿であり、

SI54



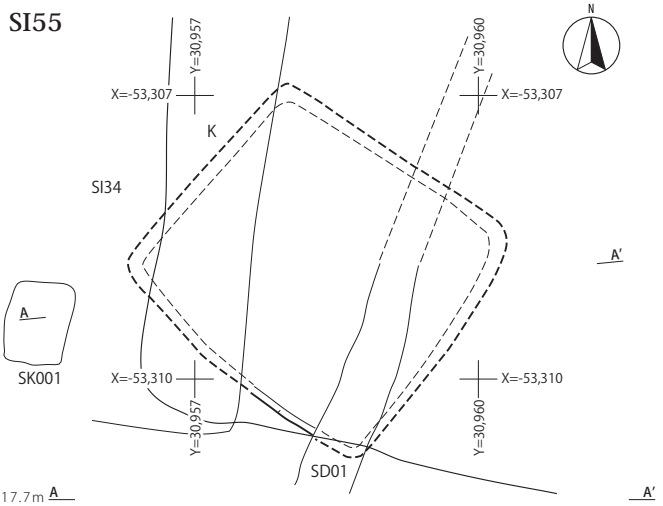


SK029



0 10cm (1／3)　0 10cm (1／4)

SI55



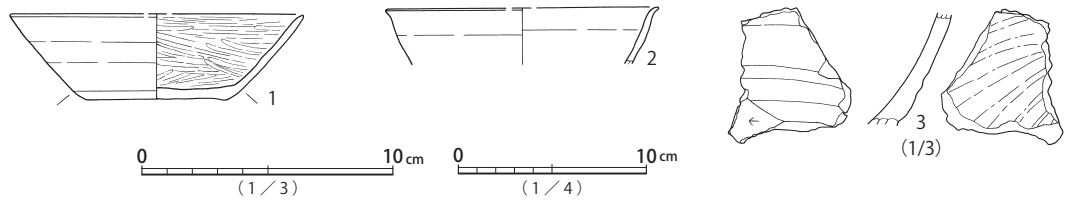
SD01
1 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまり強い 粘性なし
2 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり

SI55
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒含む しまり弱い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒含む しまり弱い 粘性あり
9 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまり強い 粘性あり
11 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまり強い 粘性あり
12 10YR 5/6 黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む しまり非常に強い 粘性あり 貼床
13 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり

SI34
15 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
17 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
18 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
19 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
20 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
21 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)多量、ロブ(5～10mm)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
22 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
23 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
24 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
25 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、ロブ(5mm 程度)微量、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
26 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
27 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒多量 しまりやや強い 粘性あり
28 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
29 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
30 10YR 4/4 褐 ロ粒(1～3mm)多量、炭粒少量 しまり非常に強い 粘性なし 貼床
31 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
32 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床
33 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり

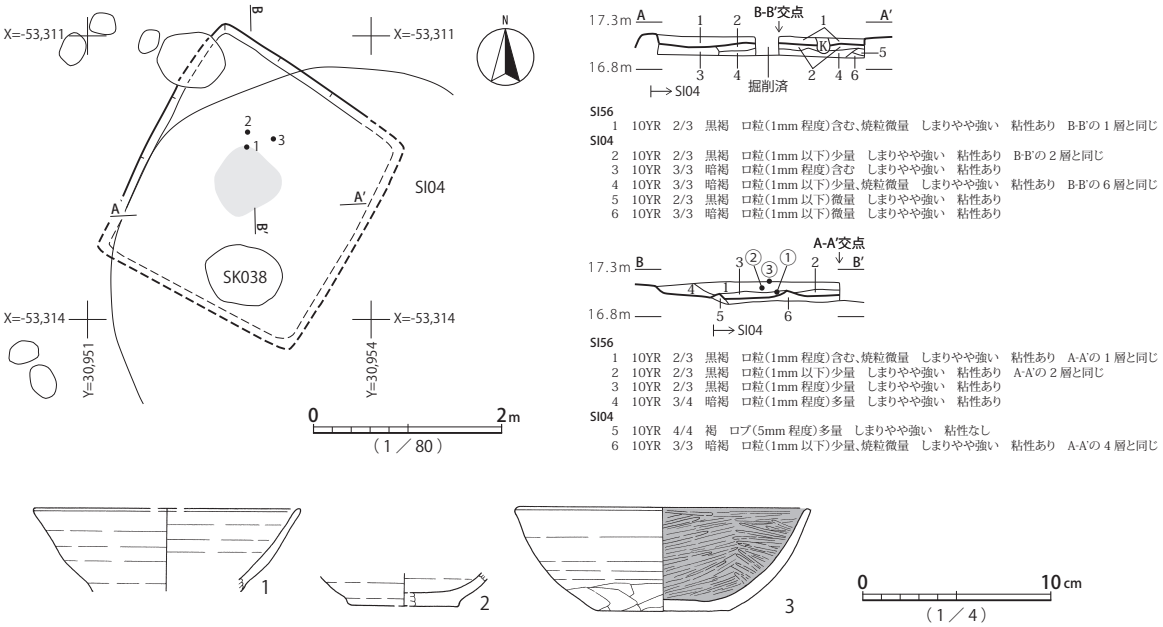
SK001
34 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む しまりやや強い 粘性あり

撹乱土
35 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、ロブ(5mm 程度)微量 しまり強い 粘性なし
36 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒微量 しまり強い 粘性なし
37 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
38 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
39 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～10mm)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
40 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(10～15mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
41 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)多量、ロブ(5～10mm)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
42 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
43 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)多量、ロブ(5～10mm)少量 しまり弱い 粘性あり



第68図　SI55 遺構図、SI54・55・SK029 遺物実測図

SI56



第69図　SI56 遺構図・遺物実測図

8世紀後葉の遺物と思われる。底部内面に焼成後線刻がある。6は8世紀の所産と思われる土師器蓋、7～9は土師器甕である。2・10～14は千葉産須恵器の杯である。15は東海産須恵器の底部突出高台付杯、16は永田・不入窯産の椀であり、永田・不入窯Ⅲ期（8世紀後葉）の所産と考えられる。17は新治産須恵器蓋のつまみ部であり7世紀第4四半期、18は東海産須恵器蓋であり7世紀中葉～後葉のものと思われる。19は千葉産須恵器の甕、20は東海産須恵器の甕、21は東海産灰釉陶器の長頸瓶である。22は常滑産の中世陶器甕である。23は須恵器転用砥石、24・25は支脚、26は砥石である。本遺構の帰属時期は、出土遺物の様相から9世紀中葉と思われる。また、4・5・15・16は下層のSI48由来の遺物と考えられる。

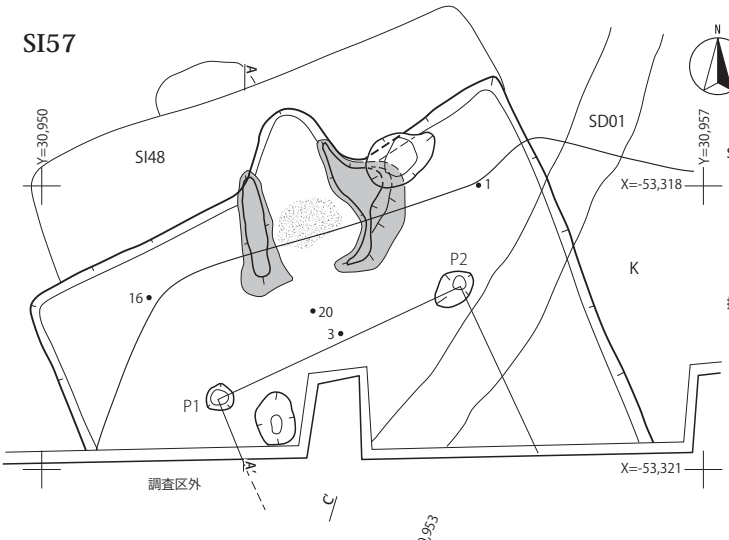
SI58・SK115・SK116（第73図、図版13・31・42・55・56）

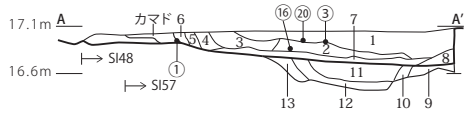
形態・規模　主にB1区に位置し、遺構北側の大半は調査区外へ続く。西側はSI08と重複する。この遺構はSK045の後に築造され、SK115・SK116は本遺構を破壊している。竪穴平面形は方形を呈していると考えられ、深さは約0.1～0.15mであるが、規模や主軸方位は不明である。カマド、柱穴は確認されていない。

またSK115・SK116は本遺構より後世の土坑である。SK115の平面形は長軸推定1.5m×短軸推定約1.35m、深さ約0.5mの方形を呈する。またSK116の平面形は長軸推定1.0m×短軸約0.75m、深さ約0.9mの楕円形を呈する。特にSK116の覆土上層には焼土粒が多く含まれていた。

出土遺物　1～3は土師器杯であり、9世紀中葉～後葉の所産と思われる。4・5は千葉産須恵器の杯であり、前者の底部外面には十字状の焼成前線刻が施されている。6・7は東海産灰釉陶器の瓶壺類である。8は鉄滓である。本遺構の帰属時期は9世紀中葉～後葉と思われる。

SI57





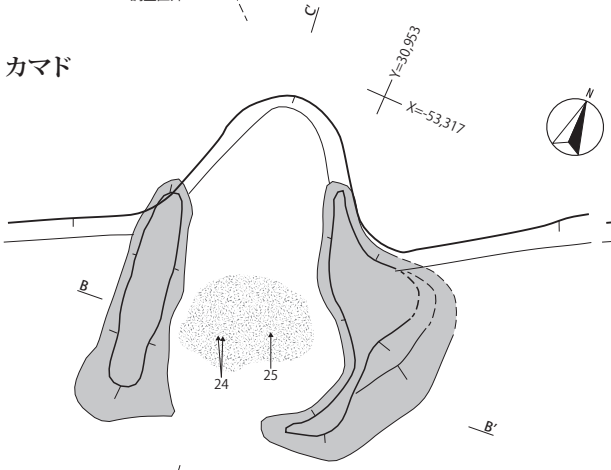
SI57

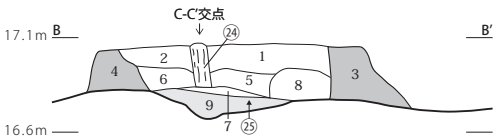
1 10YR 5/4 にぶい黄褐 炭ブ多量、焼ブ多量、白粘ブ(5～10mm)多量 しまり強い 粘性あり
2 10YR 5/4 にぶい黄褐 炭ブ含む、焼ブ含む、白粘ブ(5～10mm)含む しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 5/4 にぶい黄褐 炭ブ多量、焼ブ多量、白粘ブ(5～10mm)多量 しまり強い 粘性あり
4 10YR 4/4 褐 ロブ(5～10mm)多量、焼ブ多量、白粘ブ(5～10mm)多量 しまり強い 粘性あり
5 10YR 4/4 褐 ロブ(5～20mm)少量、焼ブ少量、白粘ブ(5～20mm)少量 しまり強い 粘性あり
6 10YR 4/4 褐 ロ粒(1～5mm)少量、焼粒少量、白粘粒(1～5mm)少量 しまり強い 粘性あり
7 10YR 5/3 にぶい黄褐 ロブ(5～10mm)多量、炭ブ多量、焼ブ多量 しまり非常に強い 性あり S57 貼床
8 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5～20mm)少量、炭ブ少量、焼ブ少量 しまりやや強い 粘性あり

撹乱

9 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5～10mm)多量、炭ブ多量、焼ブ多量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロブ(5～50mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロブ(5～10mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロブ(5～100mm)多量 しまりやや強い 粘性あり

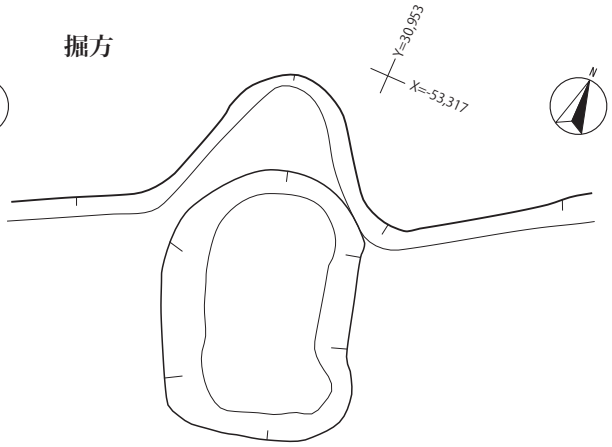
カマド

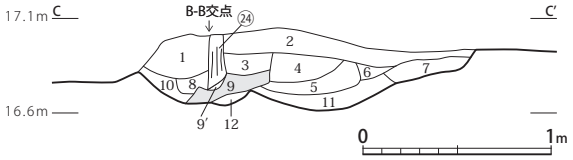




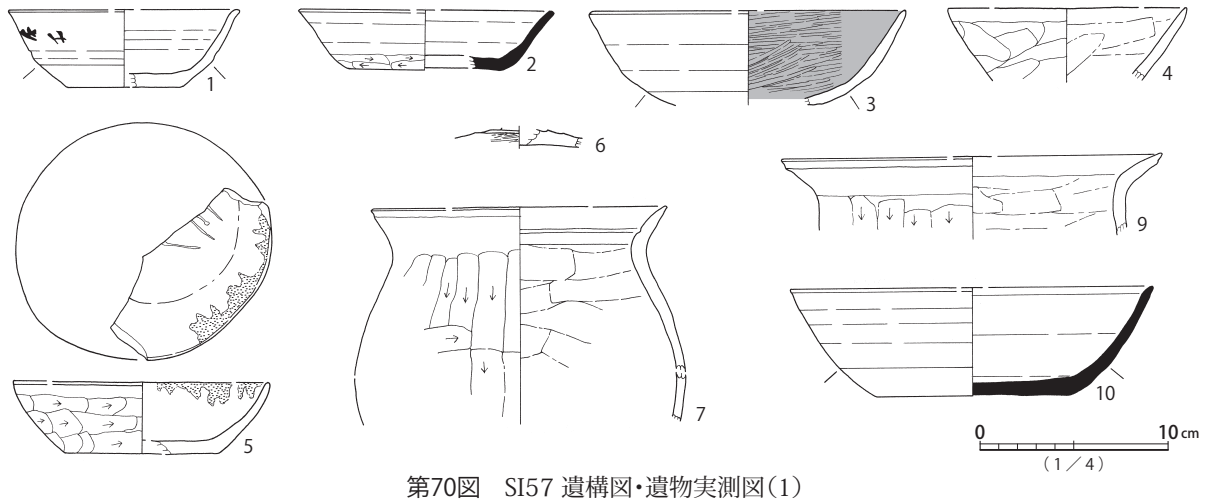
1 7.5YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
2 7.5YR 4/2 灰褐 炭粒少量、焼粒多量、白粘粒(1～3mm)微量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 6/3 にぶい黄橙 炭粒含む、焼粒少量、白粘粒(1～5mm)多量 しまり強い 粘性あり カマド右袖
4 10YR 6/3 にぶい黄橙 炭粒微量、焼粒多量、白粘粒(1～5mm)多量 しまり強い 粘性あり カマド左袖
5 10YR 2/3 黒褐 炭粒微量、焼粒含む、白粘粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
6 7.5YR 2/2 黒褐 炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
7 7.5YR 2/2 黒褐 焼粒含む しまりやや強い 粘性あり C-C'の 9' 層と同じ
8 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)微量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
9 2.5YR 4/8 赤褐 焼粒多量、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性なし C-C'の 9 層と同じ

掘方

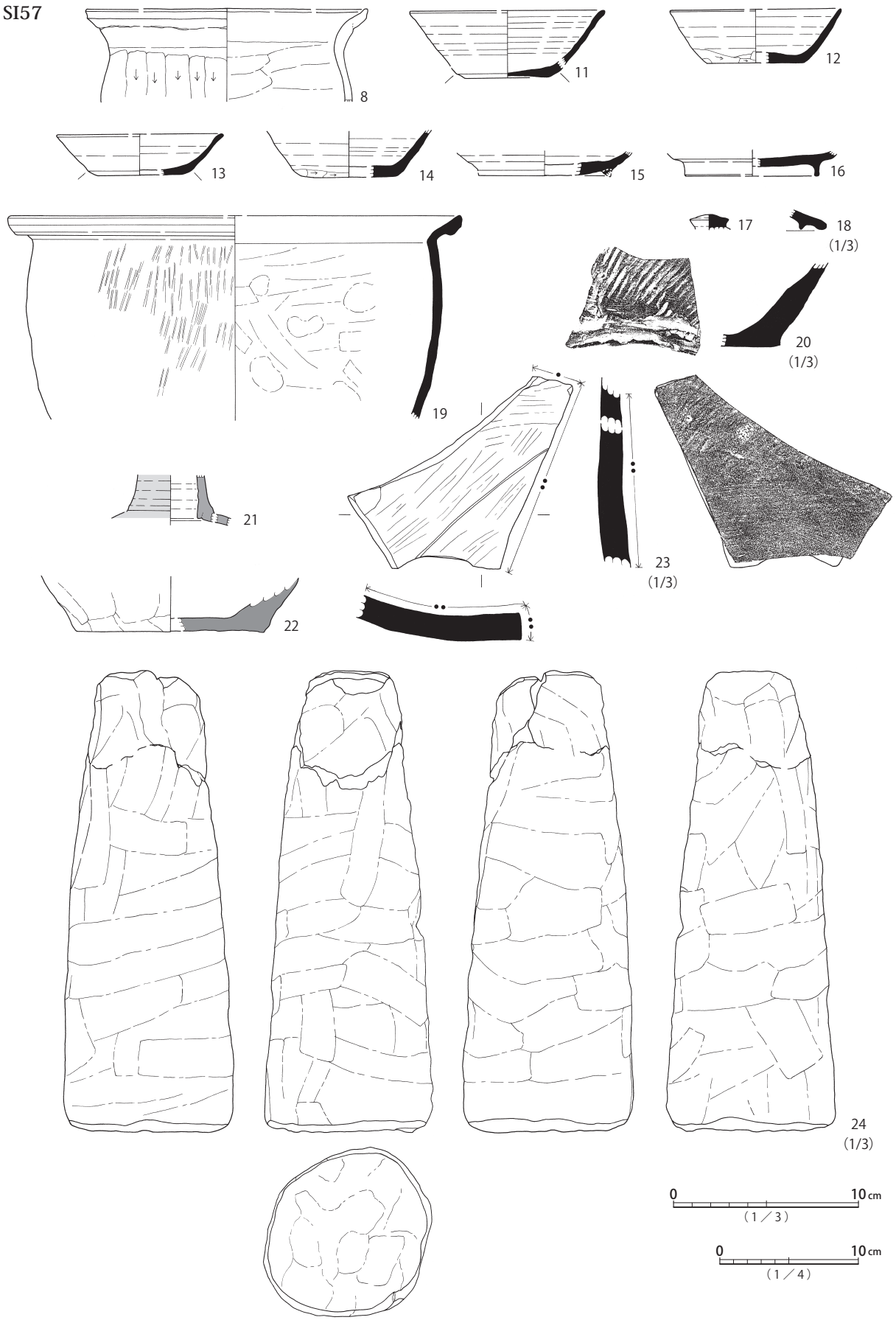




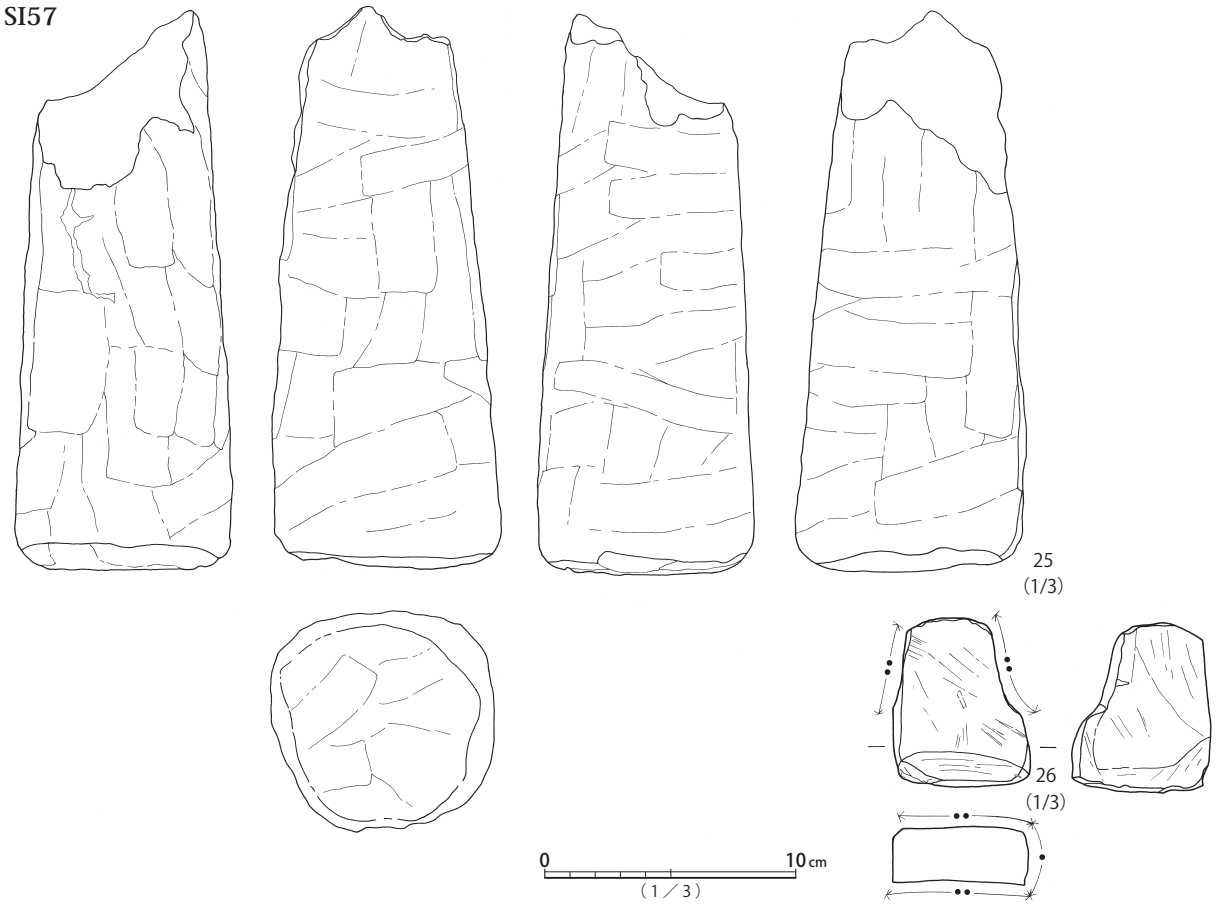
1 10YR 3/3 暗褐 炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
2 7.5YR 4/2 灰褐 炭粒少量、焼粒多量、白粘粒(1～3mm)微量 しまりやや強い 粘性あり
3 7.5YR 2/2 黒褐 炭粒少量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 2/3 黒褐 炭粒微量、焼粒含む、白粘粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 2/3 黒褐 ロブ(5mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり 煙道
6 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(3～5mm)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり 煙出し部埋土
7 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量、白粘粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性なし
8 7.5YR 3/2 黒褐 炭粒微量、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
9 2.5YR 4/8 赤褐 焼粒多量、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性なし B-B'の 9 層と同じ
9' 7.5YR 2/2 黒褐 焼粒含む しまりやや強い 粘性あり B-B'の 7 層と同じ
10 7.5YR 2/2 黒褐 炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロブ(5～8mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(3mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり



第70図 SI57 遺構図・遺物実測図(1)



第71図　SI57 遺物実測図(2)



第72図　SI57 遺物実測図(3)

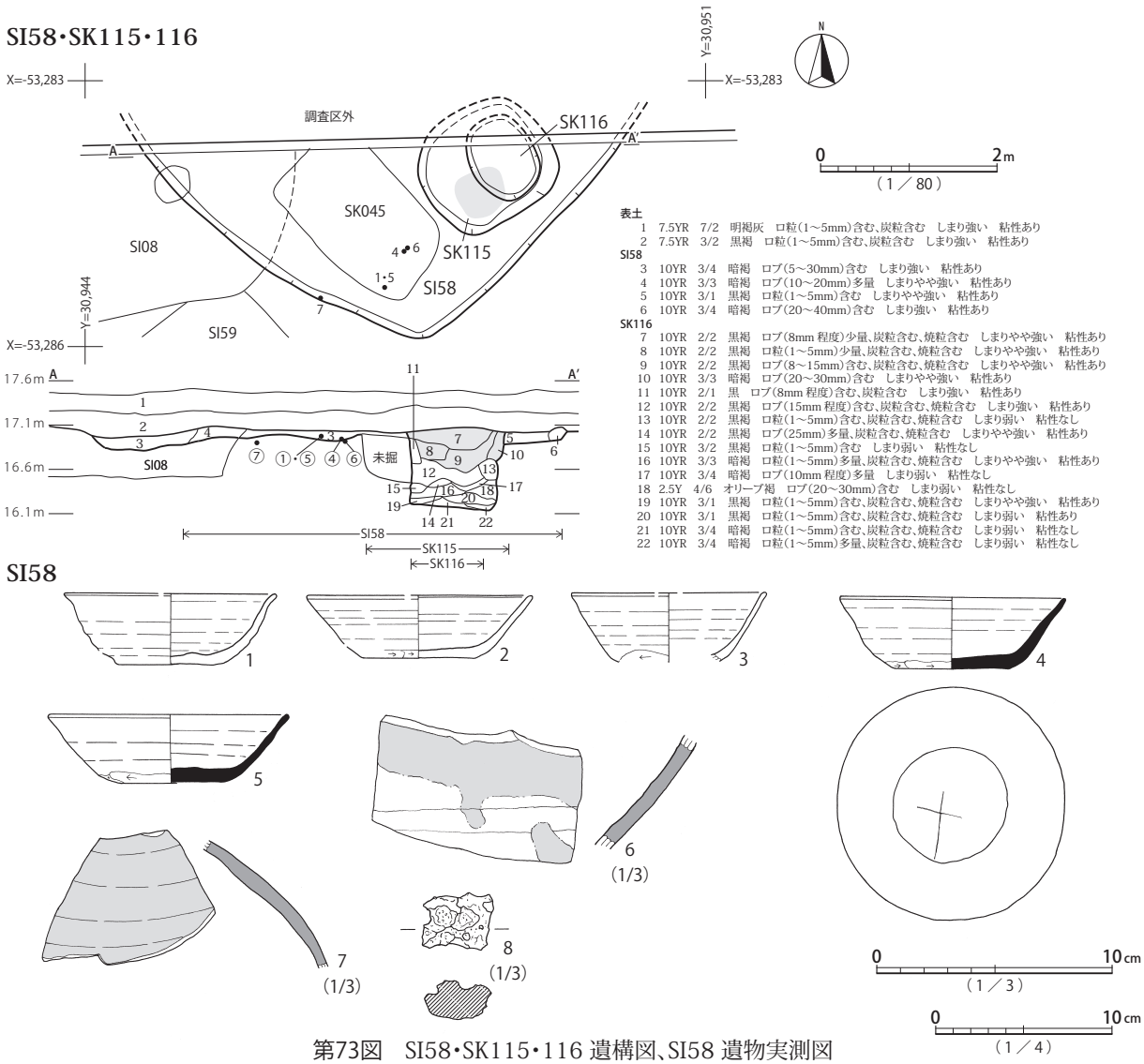
SI59（第 74 図、図版 13・31・42・54・55・57）

形態・規模　B1 区に位置し、東隅にはSK043が位置する。竪穴平面形は約3.5×3.3mの方形を呈し、主軸方位は不明、床までの深さは約0.25mである。柱穴やカマドは確認されていない。

出土遺物　1～10はロクロ土師器の杯であり、10の外面には判読不能墨書が見られる。時期として、1～9は9世紀後葉の所産と思われる。11は土師器小型器台で古墳時代前期（草刈式）のもの、12は「一」状の判読不能な墨書が見られるロクロ土師器皿で、9世紀中葉～後葉のもの、13は土師器甕である。14～16は須恵器であり、14は永田・不入窯産の杯で底部外面に焼成前線刻が見られる。15・16は東海産須恵器で前者は杯蓋、後者は長頸壺である。17は東海産灰釉陶器の長頸瓶であり、9世紀の所産と思われる。18は磨石・敲石、19は砥石である。20は刀子、21は鉄鎌である。本遺構の帰属時期は9世紀後葉と考えられる。

SI60（第 75 図、図版 13・31・43・53・57）

形態・規模　主にB3区、SI37の上層に位置する。本遺構の検出範囲はカマドのみであり、床面の大半は検出できなかった。しかし柱穴と思われる土坑が3箇所確認されており、柱並びは方形配置、柱心々間距離はP1－P2間約3.1m、P2－P3間約2.1mである。また柱穴検出面からの深度はP1で約0.4m、P2・P3で約0.2mである。また本遺構の主軸方位はN－67 －Wであったと考えられる。カマドは北西側に位置し、遺存状態は粗悪であった。



表土
1 7.5YR 7/2 明褐灰 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む しまり強い 粘性あり
2 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む しまり強い 粘性あり

SI58
3 10YR 3/4 暗褐 ロブ(5～30mm)含む しまり強い 粘性あり
4 10YR 3/3 暗褐 ロブ(10～20mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/1 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/4 暗褐 ロブ(20～40mm)含む しまり強い 粘性あり

SK116
7 10YR 2/2 黒褐 ロブ(8mm 程度)少量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 2/2 黒褐 ロブ(8～15mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/3 暗褐 ロブ(20～30mm)含む しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 2/1 黒 ロブ(8mm 程度)含む、炭粒含む しまり強い 粘性あり
12 10YR 2/2 黒褐 ロブ(15mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒含む しまり強い 粘性あり
13 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまり弱い 粘性なし
14 10YR 2/2 黒褐 ロブ(25mm)多量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む しまり弱い 粘性なし
16 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)多量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
17 10YR 3/4 暗褐 ロブ(10mm 程度)多量 しまり弱い 粘性なし
18 2.5Y 4/6 オリーブ褐 ロブ(20～30mm)含む しまり弱い 粘性なし
19 10YR 3/1 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
20 10YR 3/1 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまり弱い 粘性あり
21 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまり弱い 粘性なし
22 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～5mm)多量、炭粒含む、焼粒含む しまり弱い 粘性なし

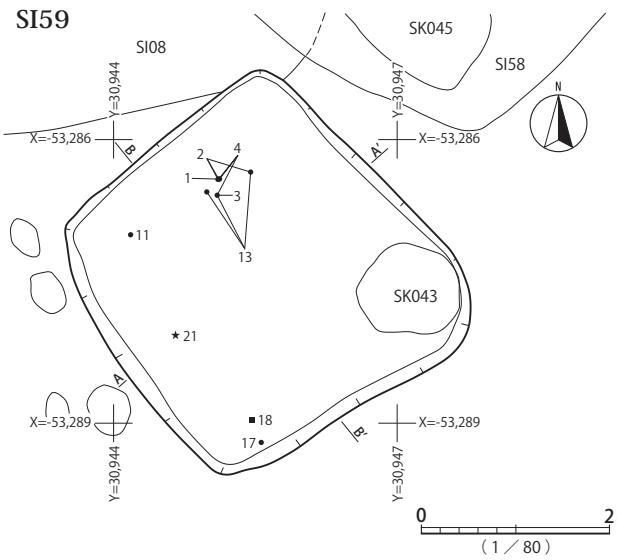
第73図　SI58・SK115・116 遺構図、SI58 遺物実測図

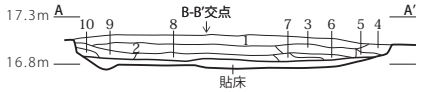
出土遺物　2はロクロ土師器椀、1・3～7はロクロ土師器杯であり、7の内外面には習書と思われる墨書が見られる。時期として、9世紀が主であり、1～5は9世紀後葉の所産と思われる。8・9は土師器甕である。10は永田・不入窯産須恵器の杯、11は新治産須恵器の蓋で8世紀第1四半期～8世紀第2四半期のもの、12は千葉産須恵器の甕である。13は猿投窯産緑釉陶器の椀皿類である。14は平瓦であり、カマドの構築材として使用されていた。本遺構の帰属時期は出土遺物から9世紀後葉と考えられる。

SI61（第76図、図版31）

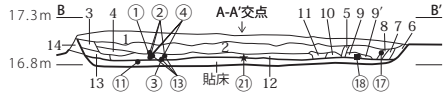
形態・規模　B4区、SI38の上層に位置し、SI62と隣接する。検出できたのは主に貼床層の一部のみであり、柱穴・カマドは確認されていない。竪穴平面形は約3.1×2.9mの方形を呈し、主軸方位は南北と思われる。

出土遺物　1・2はロクロ土師器の杯であり、前者は9世紀末～10世紀前葉、後者は10世紀前葉の所産と思われる。出土遺物は少ないものの1・2は床面直上から確認されていることから、本遺構の帰属時期は9世紀末～10世紀前葉と考えられる。

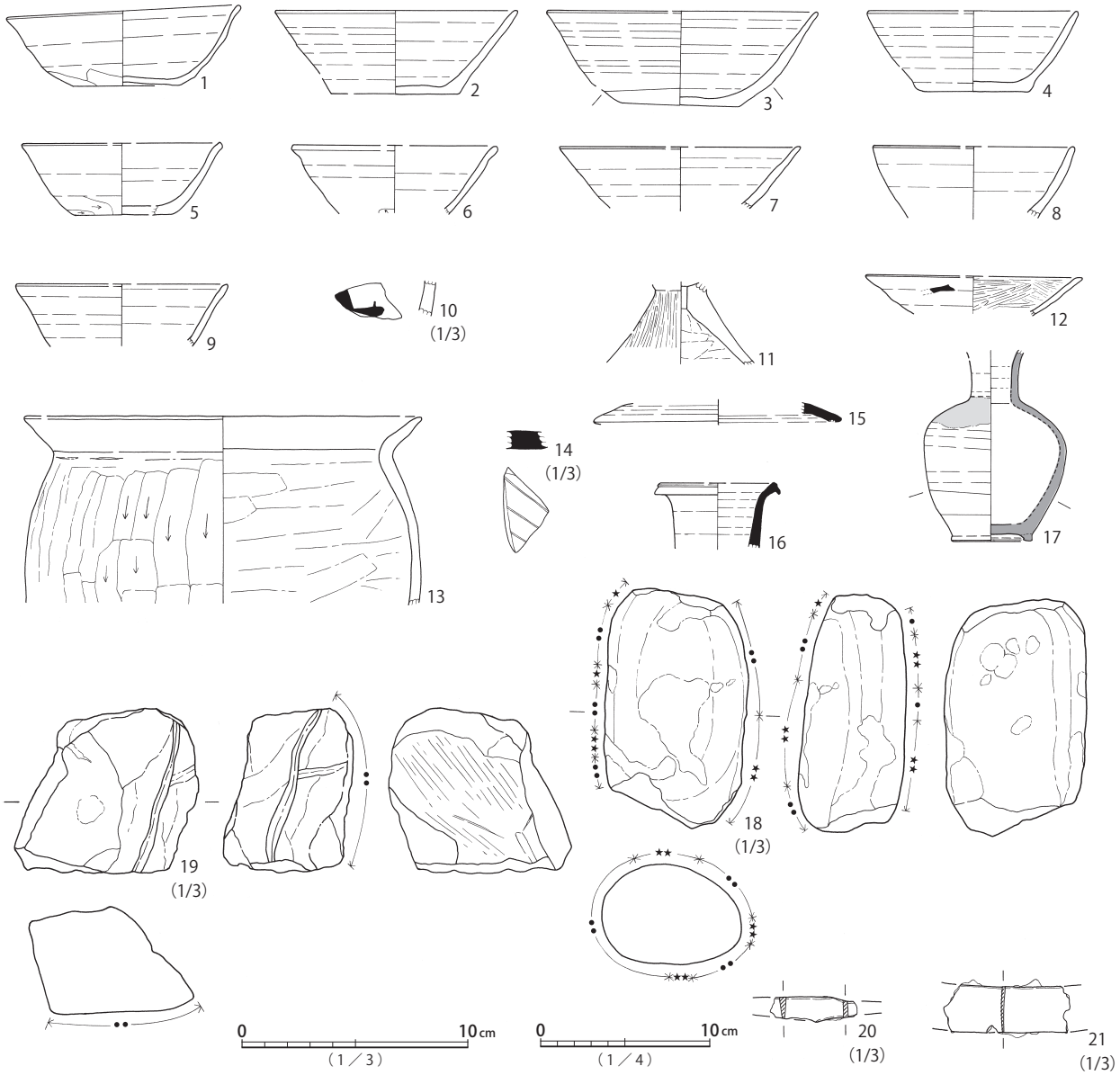




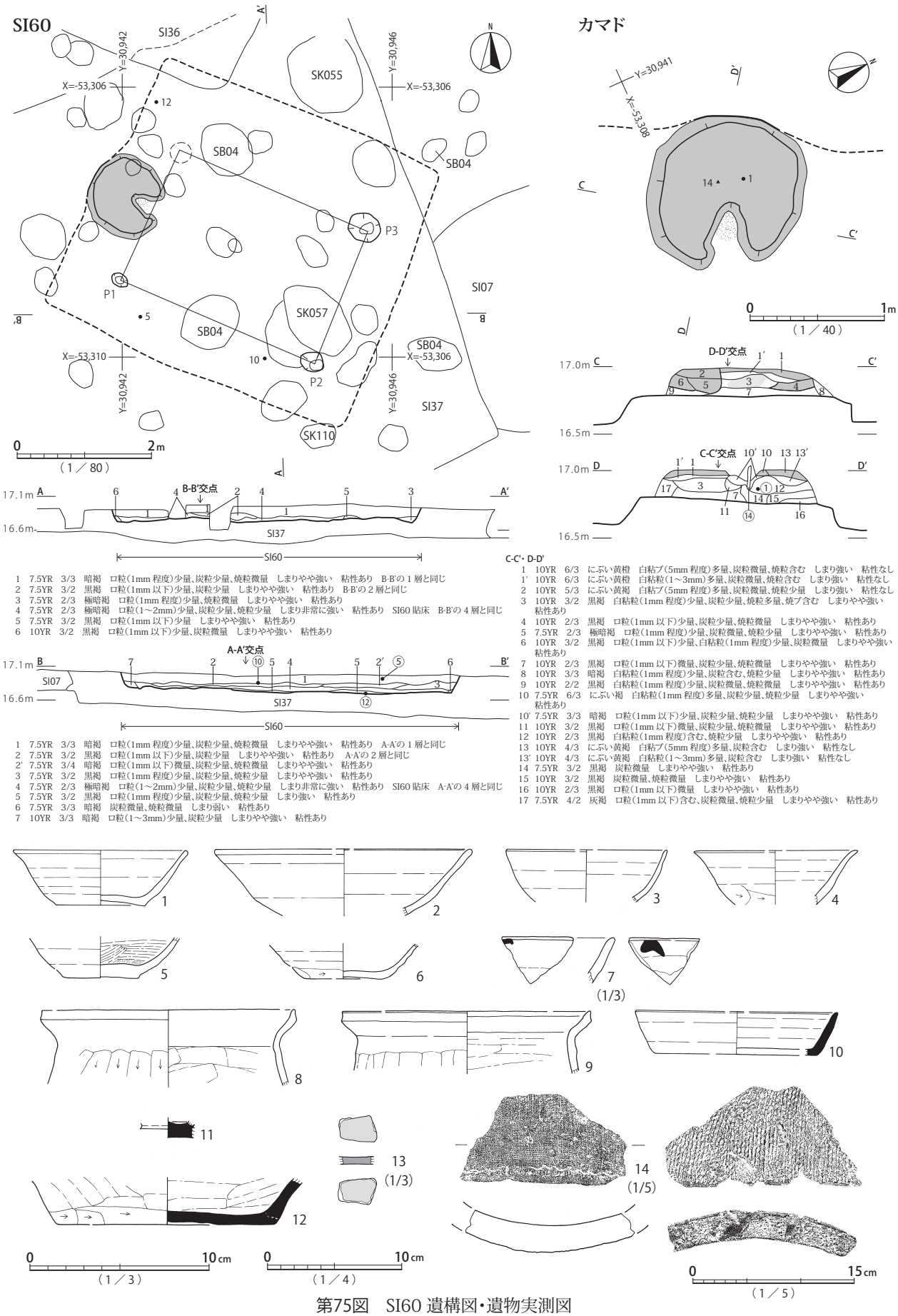
1 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 1 層と同じ
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 2 層と同じ
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒少量 しまり弱い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量 しまり弱い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまり弱い 粘性あり
6 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
7 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床
8 10YR 5/8 黄褐 ロ粒(1～5mm)多量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床 B-B'の 12 層と同じ
9 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量 しまり弱い 粘性あり



1 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 1 層と同じ
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 2 層と同じ
3 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまり弱い 粘性あり
4 10YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 程度)多量、白粘粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 5/8 黄褐 ロ粒(1mm 以下)多量 しまり弱い 粘性なし
6 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 5/6 黄褐 ロ粒(1mm 以下)多量 しまり弱い 粘性なし
9 10YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、白粘粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
9' 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性なし
10 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～2mm)多量、炭粒少量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床
11 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒微量、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
12 10YR 5/8 黄褐 ロ粒(1～5mm)多量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床 A-A'の 8 層と同じ
13 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 5/6 黄褐 ロ粒(1～2mm)多量 しまりやや強い 粘性あり



第74図 SI59 遺構図・遺物実測図

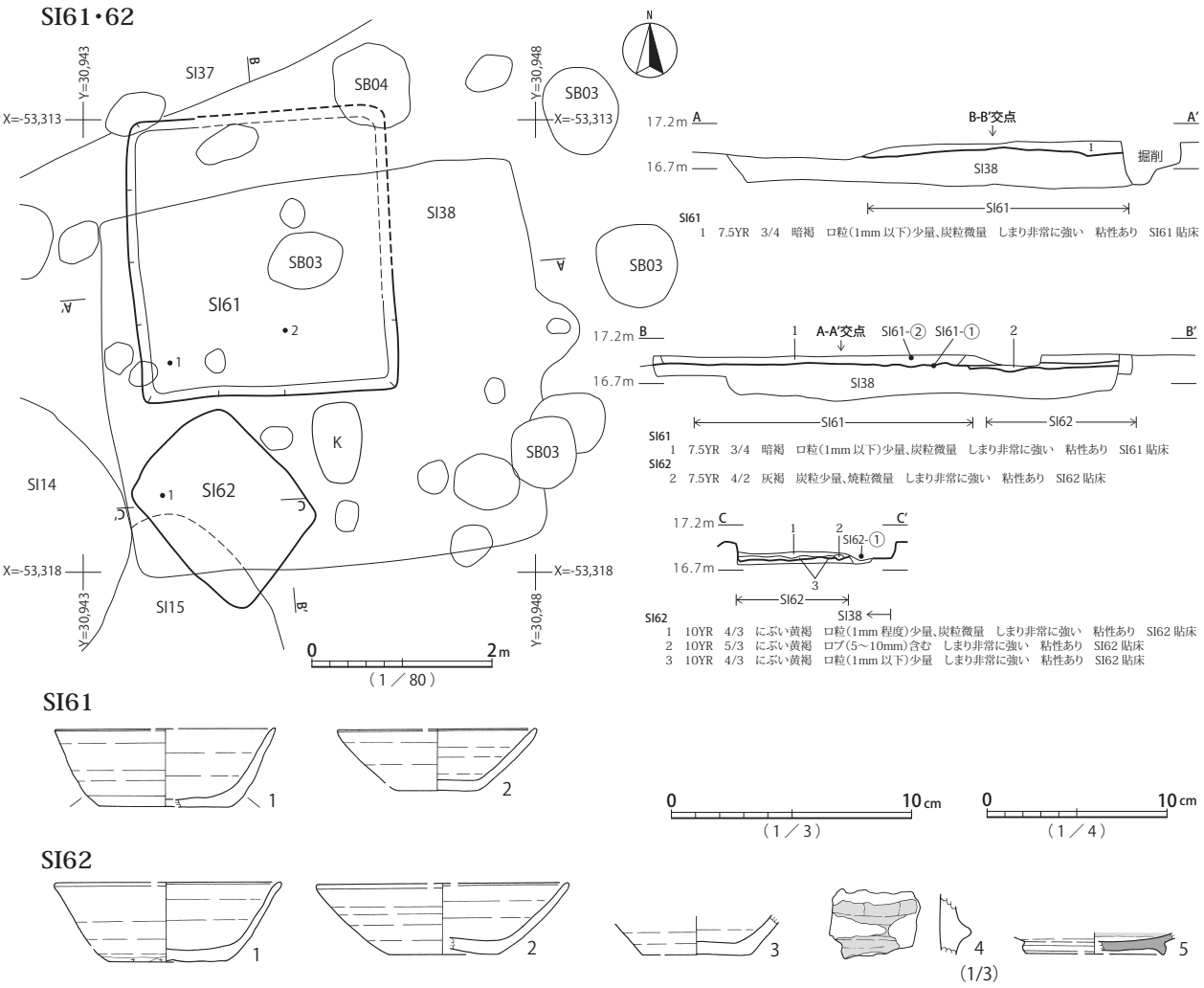


1 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 1 層と同じ
2 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 2 層と同じ
3 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまり非常に強い 粘性あり SI60 貼床 B-B'の 4 層と同じ
5 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり

1 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 1 層と同じ
2 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 2 層と同じ
2' 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
3 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
4 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまり非常に強い 粘性あり SI60 貼床 A-A'の 4 層と同じ
5 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまり強い 粘性あり
6 7.5YR 3/3 暗褐 炭粒微量、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり

C-C'・D-D'
1 10YR 6/3 にぶい黄橙 白粘ブ(5mm 程度)多量、炭粒微量、焼粒含む しまり強い 粘性なし
1' 10YR 6/3 にぶい黄橙 白粘粒(1～3mm)多量、炭粒微量、焼粒含む しまり強い 粘性なし
2 10YR 5/3 にぶい黄褐 白粘ブ(5mm 程度)多量、炭粒微量、焼粒少量 しまり強い 粘性なし
3 10YR 3/2 黒褐 白粘粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒多量、焼ブ含む しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
5 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、白粘粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/3 暗褐 白粘粒(1mm 程度)少量、炭粒含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 2/2 黒褐 白粘粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
10 7.5YR 6/3 にぶい褐 白粘粒(1mm 程度)多量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
10' 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 2/3 黒褐 白粘粒(1mm 程度)含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 4/3 にぶい黄褐 白粘ブ(5mm 程度)多量、炭粒含む しまり強い 粘性なし
13' 10YR 4/3 にぶい黄褐 白粘粒(1～3mm)多量、炭粒含む しまり強い 粘性なし
14 7.5YR 3/2 黒褐 炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 3/2 黒褐 炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量 しまりやや強い 粘性あり
17 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり

第75図 SI60 遺構図・遺物実測図



第76図　SI61・62 遺構図・遺物実測図

SI62（第 76 図、図版 31・43）

形態・規模　B4区、SI38の上層に位置し、SI61と隣接する。検出できたのは主に貼床層の一部のみであり、柱穴・カマドは確認されていない。平面形は約1.9×1.5mの方形を呈し、N−42°−Wと思われる。しかし、確認できた貼床層が僅かであったため、本来の規模はさらに大きかったと考えられる。

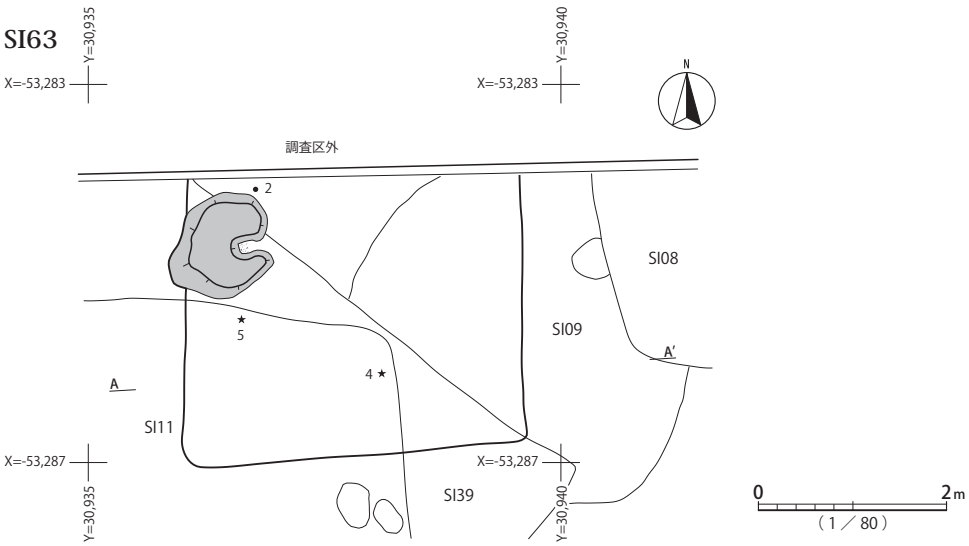
出土遺物　1～3はロクロ土師器の杯であり、1・2は9世紀中葉～後葉の所産と思われる。4は器種不明土師器、5は東海産灰釉陶器の椀であり、9世紀後葉のものと考えられる。本遺構の帰属時期は、出土遺物から9世紀中葉～後葉と推察される。

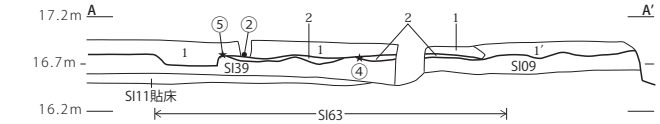
SI63（第 77 図、図版 14・31・43・55）

形態・規模　主にC1区に位置し、SI09・11・39の上層に位置する。検出できたのは貼床層と西壁面に付随しているカマドのみである。竪穴平面形は約3.6×4.6mの方形を呈すると考えられ、主軸方位はS−88°−Wである。カマドの遺存状態は粗悪であり、柱穴は確認できなかった。

出土遺物　1は弥生時代後期（久ヶ原式～山田橋式）の鉢、2は千葉産須恵器の杯であり、カマド北隣から出土した。3は刀子、4は鉄鎌、5は鉄錐と思われる。出土遺物から本遺構は9世紀に属すると考えられる。

SI63





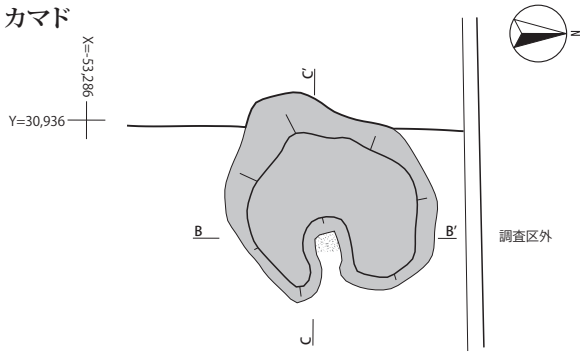
自然堆積層

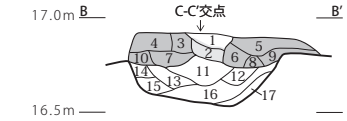
1　10YR　3/3　暗褐　ロブ（5～8mm）含む、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
1′　10YR　3/3　暗褐　ロブ（5～10mm）多量、炭粒含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり

SI63

2　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 程度）少量、焼粒微量　しまり強い　粘性あり　SI63 貼床

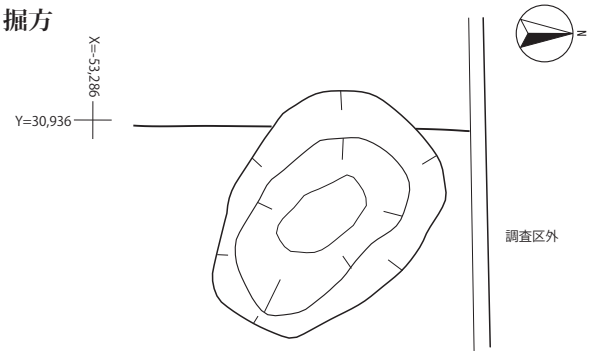
カマド

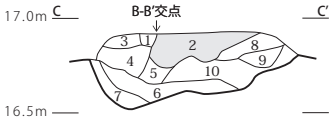




1　10YR　2/2　黒褐　炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり　C-C′の 1 層と同じ
2　10YR　2/2　黒褐　炭粒微量、焼粒多量　しまりやや強い　粘性あり　C-C′の 2 層と同じ
3　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 以下）微量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　4/2　灰黄褐　ロ粒（1mm 程度）少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性なし
5　7.5YR　3/2　黒褐　炭粒少量、焼粒含む、白粘粒（1～3mm）含む　しまりやや強い　粘性あり
6　7.5YR　3/3　暗褐　炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　2/2　黒褐　ロ粒（1mm 以下）微量　しまりやや強い　粘性あり
8　7.5YR　2/3　極暗褐　炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
9　7.5YR　2/2　黒褐　炭粒少量、焼粒少量、白粘粒（1～3mm）少量　しまりやや強い　粘性あり
10　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒（1mm 以下）微量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
11　7.5YR　2/3　極暗褐　炭粒微量、焼粒少量、白粘粒（1～2mm）少量　しまり弱い　粘性あり　C-C′の 5 層と同じ
12　7.5YR　2/3　極暗褐　炭粒少量、白粘粒（1mm 程度）微量　しまり弱い　粘性あり
13　7.5YR　2/1　黒　ロ粒（1mm 以下）少量　しまりやや強い　粘性あり
14　7.5YR　3/1　黒褐　ロ粒（1mm 以下）少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
15　10YR　3/1　黒褐　ロ粒（1mm 程度）少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
16　10YR　2/1　黒　炭粒少量　しまり弱い　粘性あり　C-C′の 6 層と同じ
17　10YR　2/1　黒　ロ粒（1mm 以下）少量　しまりやや強い　粘性あり

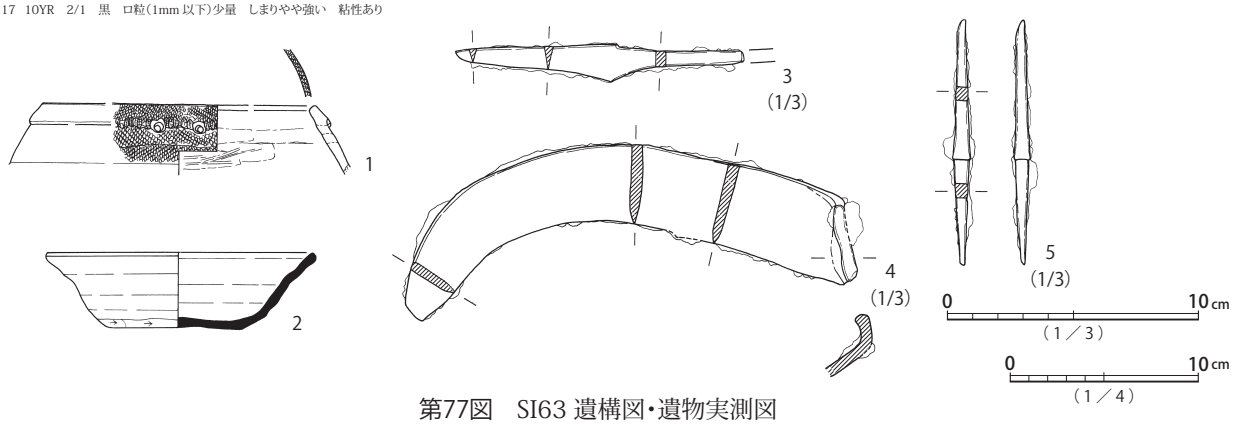
掘方





1　10YR　2/2　黒褐　炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり　B-B′の 1 層と同じ
2　10YR　2/2　黒褐　炭粒微量、焼粒多量　しまりやや強い　粘性あり　B-B′の 2 層と同じ
3　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 以下）微量、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1mm 以下）微量、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
5　7.5YR　2/3　極暗褐　炭粒微量、焼粒少量、白粘粒（1～2mm）少量　しまり弱い　粘性あり　B-B′の 11 層と同じ
6　10YR　2/1　黒　炭粒少量　しまり弱い　粘性あり　B-B′の 16 層と同じ
7　10YR　2/1　黒　ロ粒（1mm 以下）少量　しまりやや強い　粘性あり
8　10YR　3/3　暗褐　ロ粒（1～5mm）少量　しまり強い　粘性あり
9　10YR　3/3　暗褐　ロ粒（1～5mm）多量、炭粒含む、焼粒含む　しまり強い　粘性あり
10　10YR　3/2　黒褐　ロ粒（1～3mm）多量、炭粒多量、焼粒多量　しまり強い　粘性あり　煙道

0　1m
（1／40）



第77図　SI63 遺構図・遺物実測図

SI64・SK066（第78～80図、図版14・32・35・43・49・54～56）

形態・規模　C2区に位置し、SB08と重なる。竪穴平面形は5.1×4.7mの方形を呈し、主軸方位はN-50°-W、床までの深さは約0.3～0.4mである。北西壁にはカマドが付随しており、周辺に粘土や焼土が濃く散っていたことから保存状態は良くない。柱穴は4箇所確認されており、柱並びは方形配置、柱心々間距離はP1-P2間で約2.6m、P3-P4間で約2.4m、P2-P3間・P4-P1間で約2.2mである。また深度はP1・P4で約0.7m、P2で約0.6m、P3で約0.5mである。北東壁際には周溝が僅かに検出されている。またSB08a3はカマド左袖除去後に検出されていることから、本遺構はSB08より新しい。加えて、遺構中央やや南東よりに長軸約1.1m×短軸約0.8m、深さ約0.9mのSK066がありSI64より新しい。

出土遺物　1は土師器大型壺で古墳時代前期（草刈式）の所産の可能性がある。6・7は古墳時代終末期（鬼高式）の土師器杯であり、前者は内面黒色処理、後者は内面赤彩され、特に後者は内面に放射状暗文が見られる。2～5・9～12はロクロ土師器の杯、8はロクロ土師器椀であり、8は内面黒色処理されている。また11・12の底部内面には、それぞれ「キ」・「＊」状の焼成前線刻が施されている。時期としては、2～5・8～11はいずれも9世紀後葉の所産と思われる。13は土師器台付鉢、14・15は土師器甕である。16は東海産須恵器の杯蓋でありTK217型式並行のものと思われる。17～19は東海産灰釉陶器の瓶壺類である。20は東海産原始灰釉陶器の瓶壺類である。21・22はカマド支脚、23は貝巣穴泥岩、24は鉄釘である。

また柱穴P4の遺物として、1は東海産灰釉陶器の瓶壺類である。

さらにSK066の遺物として、1～2はロクロ土師器杯であり、前者は灯明皿に転用されている。時期としては、前者は9世紀前葉～中葉、後者は9世紀後葉の所産と思われる。3・4は土師器甕、5は東海産灰釉陶器椀で9世紀中葉のもの、6は東海産灰釉陶器瓶壺類である。7は東海産灰釉陶器長頸瓶で9世紀のものと考えられる。

本遺構の帰属時期について、SK066は出土遺物から9世紀中葉～後葉の遺構と思われる。またSI64も9世紀後葉の遺物を多く含んでいるころから、これらの遺構はほぼ同時期に連続して作られたと考えられる。

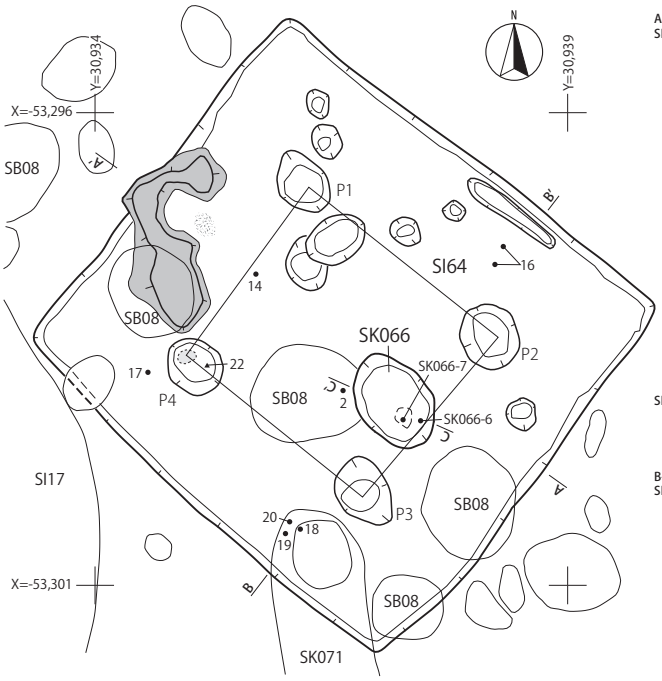
SI65・SK072（第80図、図版14・49・57）

形態・規模　C3区、SI40・66の上層に位置する。本遺構は貼床面の一部を検出したのみであり、カマド・柱穴は確認されていない。平面形は約2.8×2.8mの方形を呈し、主軸方位は南北であったと考えられる。また、本遺構中央やや北にはSK072があり直径約0.8m、深さ約0.4mを測り、覆土に多くの焼土を含んでいた。この土坑は確認調査時の4トレンチSPA-A’13層に相当するものと考えられ（川上2024）、貼床層の標高との比較からSK072はSI65の後に作られたと考えられる。

出土遺物　掲載遺物はない。また非掲載遺物も東海産須恵器甕など僅かである。一方、SK072の掲載遺物として、1・2はロクロ土師器杯であり、特に前者の底部内面には格子状の焼成前線刻が見られる。時期としては、1は9世紀前葉～中葉、2は9世紀中葉と思われる。3は千葉産須恵器鉢である。

両遺構の帰属時期について、SK072は出土遺物から9世紀中葉以降と思われる。SI65はSK072より古いことから、9世紀中葉に属すると推測される。

SI64・SK066



A-A'
SI64

1	7.5YR	4/2	灰褐	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
2	7.5YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
3	7.5YR	3/3	暗褐	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む、焼粒微量	しまり強い　粘性あり
4	7.5YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
5	7.5YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
6	7.5YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
7	10YR	3/3	暗褐	ロブ(5～8mm)含む、炭粒少量	しまり強い　粘性あり
8	10YR	3/2	黒褐	ロブ(5～10mm)多量、炭粒少量	しまり非常に強い　粘性あり　SI64 貼床
9	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
10	7.5YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)微量、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
11	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～3mm)少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
12	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
13	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒微量	しまり非常に強い　粘性あり　SI64 貼床
14	7.5Yr	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
15	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量	しまり非常に強い　粘性あり　SI64 貼床
16	10YR	2/3	黒褐	炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
17	7.5YR	4/1	褐灰	ロ粒(1mm 程度)少量、白粘粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
18	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
19	7.5YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～3mm)含む、白粘粒(1mm 程度)微量、炭粒少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
20	7.5YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)少量、白粘粒(1mm 程度)含む、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
21	7.5YR	3/1	黒褐	ロ粒(3mm 程度)少量、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
22	10YR	5/3	にぶい黄褐	ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒微量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
23	7.5YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒含む	しまり強い　粘性あり
24	7.5YR	4/2	灰褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり

SK066

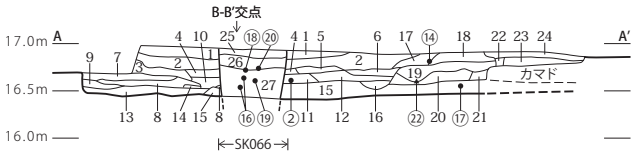
25	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量	しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 22 層と同じ
26	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 23 層と同じ
27	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 24 層と同じ

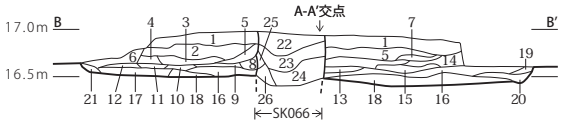
B-B'
SI64

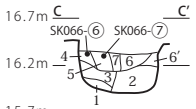
1	7.5YR	4/2	灰褐	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
2	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
3	7.5YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
4	7.5YR	4/2	灰褐	ロ粒(1～3mm)含む、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
5	7.5YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
6	7.5YR	4/1	褐灰	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
7	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
8	7.5YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
9	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量	しまり非常に強い　粘性あり　SI64 貼床
10	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量	しまり非常に強い　粘性あり　SI64 貼床
11	7.5YR	4/2	灰褐	ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒微量	しまり非常に強い　粘性あり　SI64 貼床
12	7.5YR	4/2	灰褐	ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒微量	しまり非常に強い　粘性あり　SI64 貼床
13	7.5YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)微量、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
14	7.5YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
15	7.5YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
16	10YR	3/2	黒褐	ロブ(5～10mm)多量、炭粒少量	しまり非常に強い　粘性あり　SI64 貼床
17	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
18	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量	しまり非常に強い　粘性あり　SI64 貼床
19	7.5YR	4/2	灰褐	ロ粒(1～3mm)含む	しまりやや強い　粘性なし
20	10YR	5/4	にぶい黄褐	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量	しまりやや強い　粘性なし
21	7.5YR	4/2	灰褐	ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒微量	しまりやや強い　粘性なし

SK066

22	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量	しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 25 層と同じ
23	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 26 層と同じ
24	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 27 層と同じ
25	7.5YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～3mm)含む、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり
26	7.5YR	2/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒微量	しまりやや強い　粘性あり





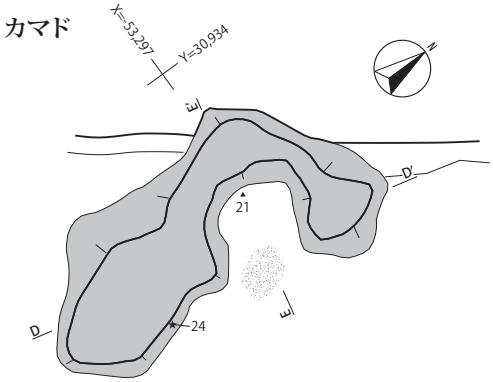


SK066 C-C'

1	10YR	2/1	黒	ロブ(8mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量	しまり弱い　粘性あり
2	10YR	2/1	黒	ロブ(8～15mm)含む、炭粒少量、焼粒少量	しまり強い　粘性あり
3	10YR	2/1	黒	ロブ(8～15mm)含む、炭粒少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
4	10YR	2/1	黒	ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量、焼粒少量	しまり強い　粘性あり
5	10YR	2/1	黒	ロブ(5～8mm)含む、炭粒少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
6	10YR	2/1	黒	ロブ(5～8mm)少量、炭粒少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
6'	10YR	2/1	黒	ロブ(5～15mm)多量、炭粒微量	しまり弱い　粘性あり
7	10YR	2/1	黒	ロ粒(1～5mm)少量、炭粒少量、焼粒少量	しまり弱い　粘性あり　柱痕

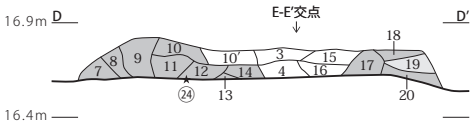
0　2m
（1／80）

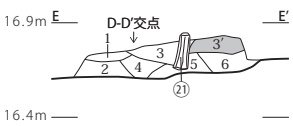
カマド



SI64 D-D'・E-E'

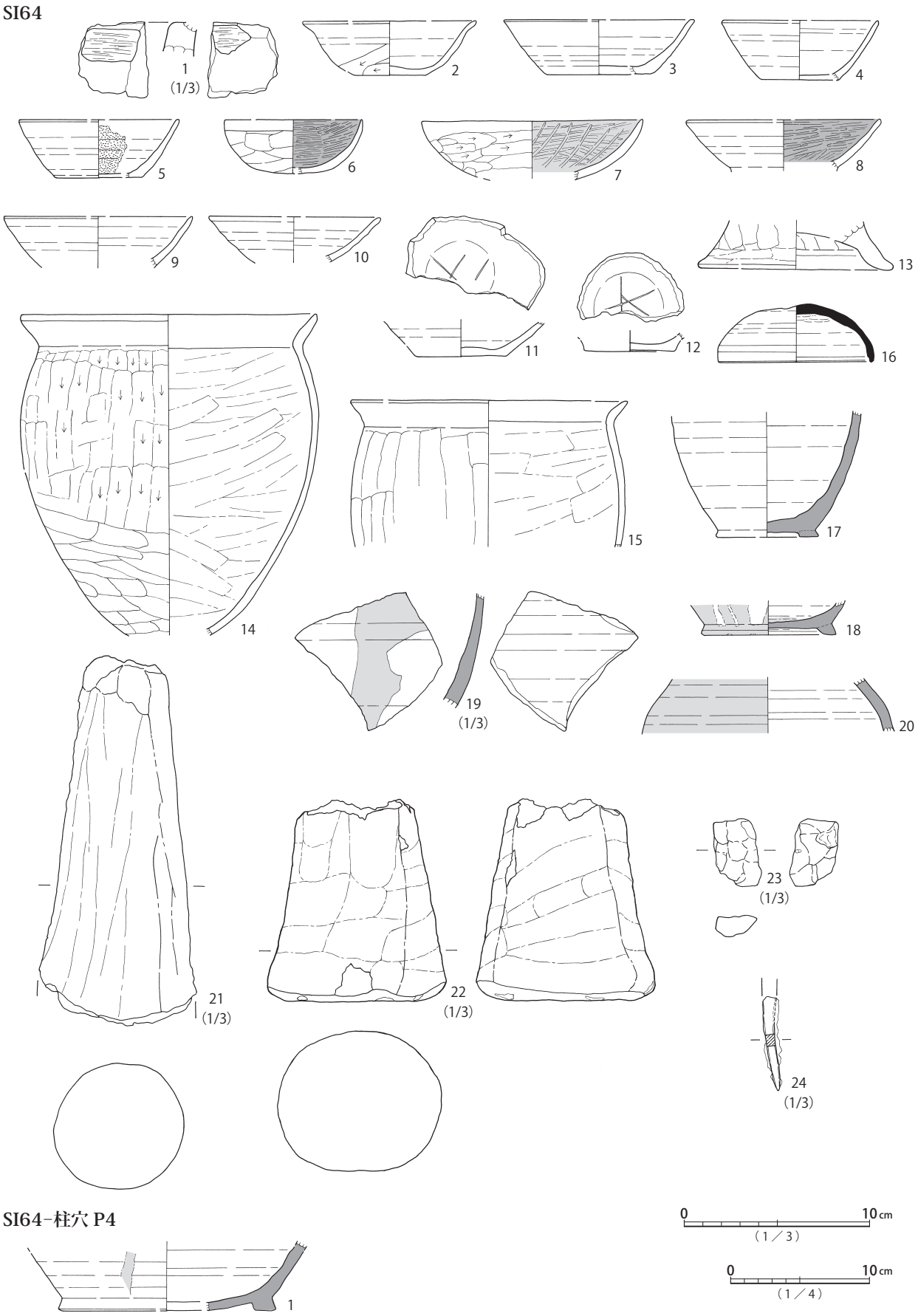
1	7.5YR	4/2	灰褐	炭粒多量、焼粒多量、黄褐色砂質粘土ブロック多量	しまり強い　粘性あり
2	7.5YR	4/2	灰褐	炭ブ多量、焼ブ多量、黄褐色砂質粘土ブロック多量	しまり強い　粘性あり
3	10YR	4/2	灰黄褐	ロ粒(1～5mm)少量、炭粒少量、焼粒少量	しまり強い　粘性あり
3'	10YR	4/2	灰黄褐	ロ粒(1～5mm)少量、炭粒少量、焼粒少量・白粘粒(1mm 程度)少量	しまり強い　粘性なし
4	10YR	4/2	灰黄褐	ロブ(5～10mm)含む、炭粒含む、焼ブ含む、黄橙色砂質粘土ブロック含む	しまり強い　粘性あり
5	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1～5mm)少量、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
6	10YR	3/3	暗褐	焼粒少量、黄橙色砂質粘土ブロック含む	しまりやや強い　粘性あり
7	10YR	3/2	黒褐	焼ブ少量、黄橙色砂質粘土ブロック少量	しまりやや強い　粘性あり　カマド左袖
8	10YR	4/2	灰黄褐	焼粒少量、砂質粘土ブロック少量	しまりやや強い　粘性あり　カマド左袖
9	10YR	4/2	灰黄褐	焼ブ多量	しまりやや強い　粘性あり　カマド左袖
10	10YR	3/2	黒褐	焼ブ少量、砂質粘土ブロック少量	しまりやや強い　粘性あり　カマド左袖
10'	10YR	3/2	黒褐	焼ブ含む、砂質粘土ブロック少量	しまりやや強い　粘性なし
11	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～5mm)少量	しまり強い　粘性あり　カマド左袖
12	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～5mm)少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり　カマド左袖
13	10YR	6/3	にぶい黄橙	焼ブ少量	しまりやや強い　粘性あり　カマド左袖
14	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～5mm)少量、炭粒少量、焼粒少量	しまり強い　粘性あり　カマド左袖
15	10YR	3/2	黒褐	炭粒少量、焼ブ多量、灰黄褐色土少量	しまり強い　粘性あり
16	10YR	3/2	黒褐	炭粒含む、焼粒含む、黄橙色砂質粘土粒含む	しまり強い　粘性あり
17	10YR	7/4	にぶい黄橙	炭粒多量、焼粒多量、暗褐色土多量	しまり強い　粘性あり　カマド右袖
18	10YR	7/4	にぶい黄橙	炭粒少量、焼粒少量、暗褐色土少量	しまり強い　粘性あり　カマド右袖
19	10R	5/8	赤	焼粒多量、暗褐色土含む	しまり強い　粘性あり　カマド右袖
20	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～2mm)少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量	しまりやや強い　粘性あり　カマド右袖





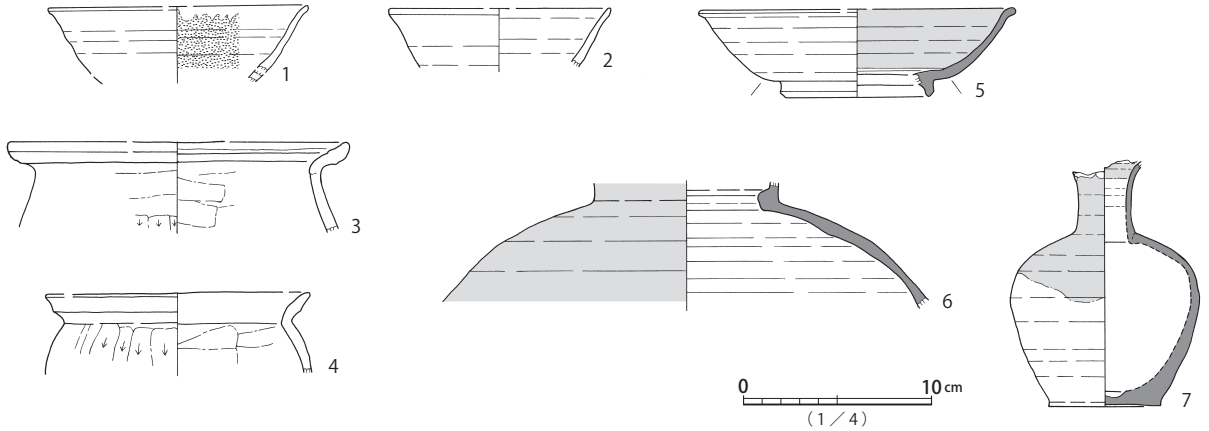
0　1m
（1／40）

第78図　SI64・SK066 遺構図

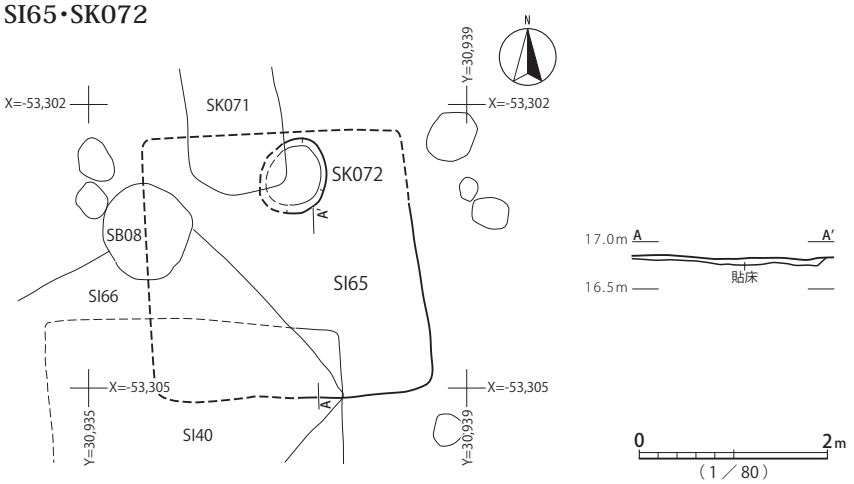


第79図　SI64 遺物実測図

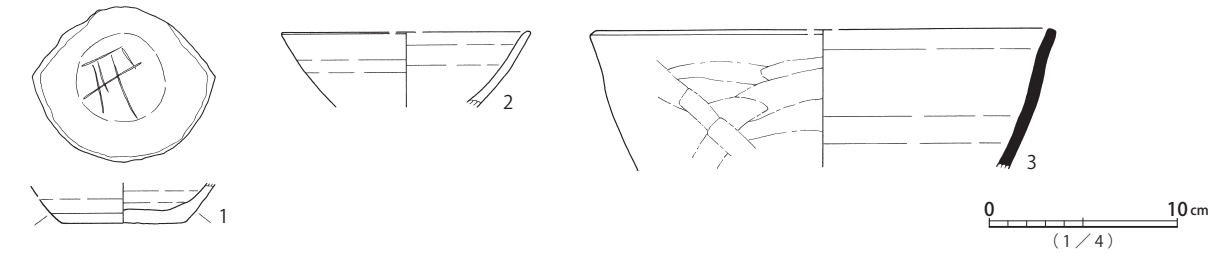
SK066



SI65・SK072



SK072



第80図　SI65・SK072 遺構図、SK066・072 遺物実測図

SI66（第 81 図、図版 11・43）

形態・規模　C3区に位置し、北隅はSB08c1に破壊されている。また遺構の東側は確認トレンチ内にあり、覆土の半分程は確認調査時に破壊されていた。竪穴平面形は約3.2×3.4mの方形を呈し、床までの深さは約0.2 ～ 0.3mである。柱穴・カマドは確認されておらず、主軸方位は不明である。

出土遺物　1は9世紀前葉～中葉の所産と思われるロクロ土師器の杯であり、覆土中から出土した。その他非掲載遺物として、9世紀のロクロ土師器などがある。本遺構の帰属時期は9世紀前葉～中葉と推察される。

SI67（第 81・82 図、図版 14・32・43・44・55・58）

形態・規模　主にD1区、SI26の上層に位置する。外形は約3.6×3.8mの方形を呈すると思われ、主軸方位はN−55°−W、床までの深さは約0.15mである。北西壁にカマドが付随し、袖の大半は失われていた。柱穴は確認されていない。

出土遺物　1～5・9はロクロ土師器の杯であり、1は9世紀中葉～後葉、2～5・9は前葉～中葉のものと思われる。6は9世紀中葉の所産と思われるロクロ土師器椀、7・8はロクロ土師器皿であり、これらは9世紀中葉のものと考えられる。特に7・8には外面に「大」の墨書が記されている。10は土師器鉢であり、古墳時代後期（鬼高式）の所産と思われる。11は土師器甕である。12～14は須恵器杯であり12・13は千葉産、14は新治産である。15～17は千葉産須恵器甕、18は千葉産須恵器小型甕、19は千葉産須恵器甑である。20は刀子である。本遺構の帰属時期は、出土遺物の様相から9世紀中葉～後葉と考えられる。

SI69（第 83・84 図、図版 14・32・33・44・52・54～56）

形態・規模　主にD3区に位置し、SI28の上層にある。検出できたのは貼床と覆土の僅かな範囲のみであり、遺構の規模などは不明瞭である。竪穴平面形は約3.3×3.3mの方形と呈すると思われ、主軸方位はN−79°−E、床までの深さは約0.2mである。東壁にはカマドが付随しているが、右袖周辺は樹木の根によって破壊されていた。柱穴は確認されていない。

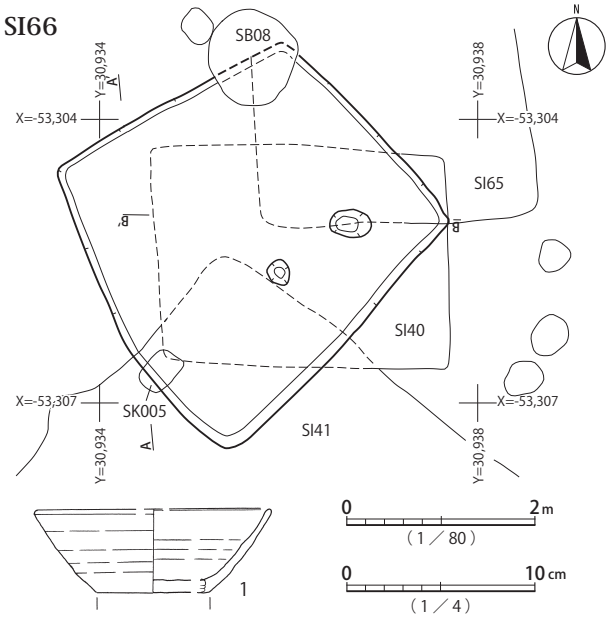
出土遺物　3・5・6は古墳時代中期（和泉式）の土師器杯である。1・2・4・7・8はロクロ土師器杯であり、特に1の底部内面には「上」と「万」が上下でつながった焼成前刻書がある。時期は9世紀後葉と思われる。9～11はロクロ土師器の皿であり、いずれも9世紀後葉の所産と思われる。12は土師器甕、13は東海産須恵器転用砥石である。14は管玉（蛇紋岩？）、15は柱状片刃石斧である。16～20は鉄滓、21は不明鉄製品である。本遺構の帰属時期は、出土遺物の様相から9世紀後葉と思われる。

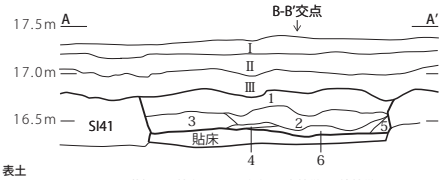
SI70（第 85・86 図、図版 15・33・44・45・56・58）

形態・規模　主にD3区に位置し、SI28の上層に位置する。表土から遺構確認面までの深さは浅く、本遺構の貼床層は下層のSI28より上層にある。竪穴平面形は約3.2×3.0mの方形を呈し、主軸方位はN−24°−W、床までの深さは約0.12mである。北西壁にはカマドが付随しており、主に土師器杯片や甕片を構築材として使用していた。柱穴は確認されていない。

出土遺物　1～13はロクロ土師器の杯であり、6は灯明皿に転用されている。また8は外面胴部に「荒ヵ」墨書、13は内面に焼成前判読不能線刻が見られる。時期として全て9世紀の遺物であり、4・6～10は前葉～中葉、3・5は中葉、1は中葉～後葉、2は後葉である。また14・15は椀で、前者は9世紀中葉のものであり、15は底部外面に「廿」墨書が見られる。16は畿内産土師器の皿Bであり、平城I～II期の所産と考えられる。17はロクロ土師器皿で9世紀前葉～中葉のものであり、底部内面に「ニ」状の焼成前線刻をもつ。18～25は土師器甕であり、特に20は下総型の甕と思われる。27～30は須恵器である。27は東海産の杯蓋、28は東海産の瓶壺類、29・30は千葉産の甕であり、30は焼成後に胴部を穿孔している。26・32・33は東海産の灰釉陶器であり、26は皿で9世紀後半の所産と思われ、32は椀、33は瓶壺類である。31は猿投窯産の灰釉陶器椀である。特に32は内面が硯

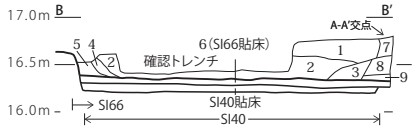
SI66





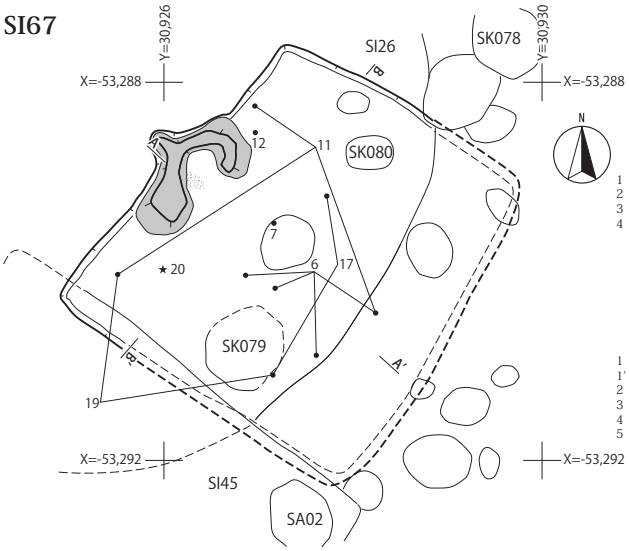
表土
- I 10YR 6/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまり弱い 粘性なし
- II 10YR 6/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまり弱い 粘性なし
- III 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性なし

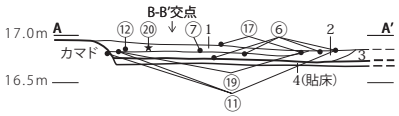
SI66
- 1 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり B-B'の 7 層と同じ
- 2 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 8 層と同じ
- 3 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
- 4 7.5YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
- 5 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
- 6 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭プ含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 9 層と同じ



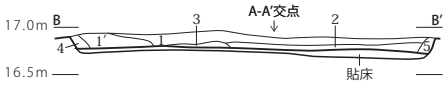
- 1 7.5YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
- 3 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
- 4 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
- 5 10YR 7/6 明黄褐 ロ粒(1～5mm)多量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
- 6 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～3mm)多量、炭粒少量、焼粒微量 しまり非常に強い 粘性なし 貼床
- 7 7.5YR 4/2 灰褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり A-A'の 1 層と同じ
- 8 7.5YR 2/3 極暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 2 層と同じ
- 9 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭プ含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 6 層と同じ

SI67





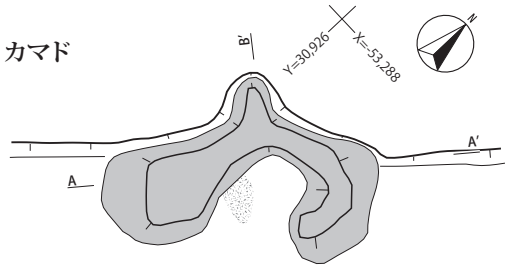
- 1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 1 層と同じ
- 2 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 2 層と同じ
- 3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまり弱い 粘性なし
- 4 2.5Y 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまり非常に強い 粘性あり 貼床



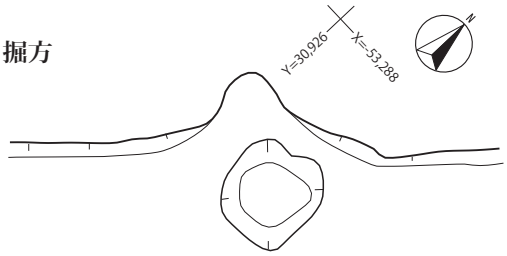
- 1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 1 層と同じ
- 1' 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 2 層と同じ
- 2 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
- 3 7.5YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
- 4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒少量 しまり弱い 粘性あり
- 5 10YR 3/3 暗褐 炭粒微量 しまり弱い 粘性なし

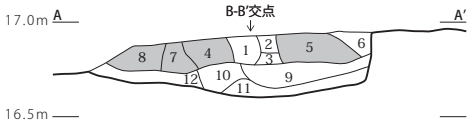
0 2m
(1／80)

カマド

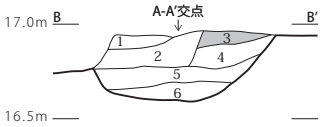


掘方





A-A'
- 1 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量 しまり弱い 粘性なし B-B'の 2 層と同じ
- 2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量 しまり強い 粘性なし
- 3 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまり強い 粘性なし
- 4 10YR 4/2 灰黄褐 炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまり強い 粘性なし
- 5 10YR 4/2 灰黄褐 白粘粒(1mm 程度)多量、焼粒微量 しまり強い 粘性あり
- 6 10YR 3/2 黒褐 白粘粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
- 7 10YR 3/2 黒褐 白粘粒(1mm 以下)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
- 8 10YR 4/2 灰黄褐 白粘粒(1mm 程度)多量、炭粒少量、焼粒微量 しまり強い 粘性あり
- 9 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり B-B'の 5 層と同じ
- 10 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
- 11 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量 しまり弱い 粘性あり B-B'の 6 層と同じ
- 12 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量 しまり弱い 粘性あり

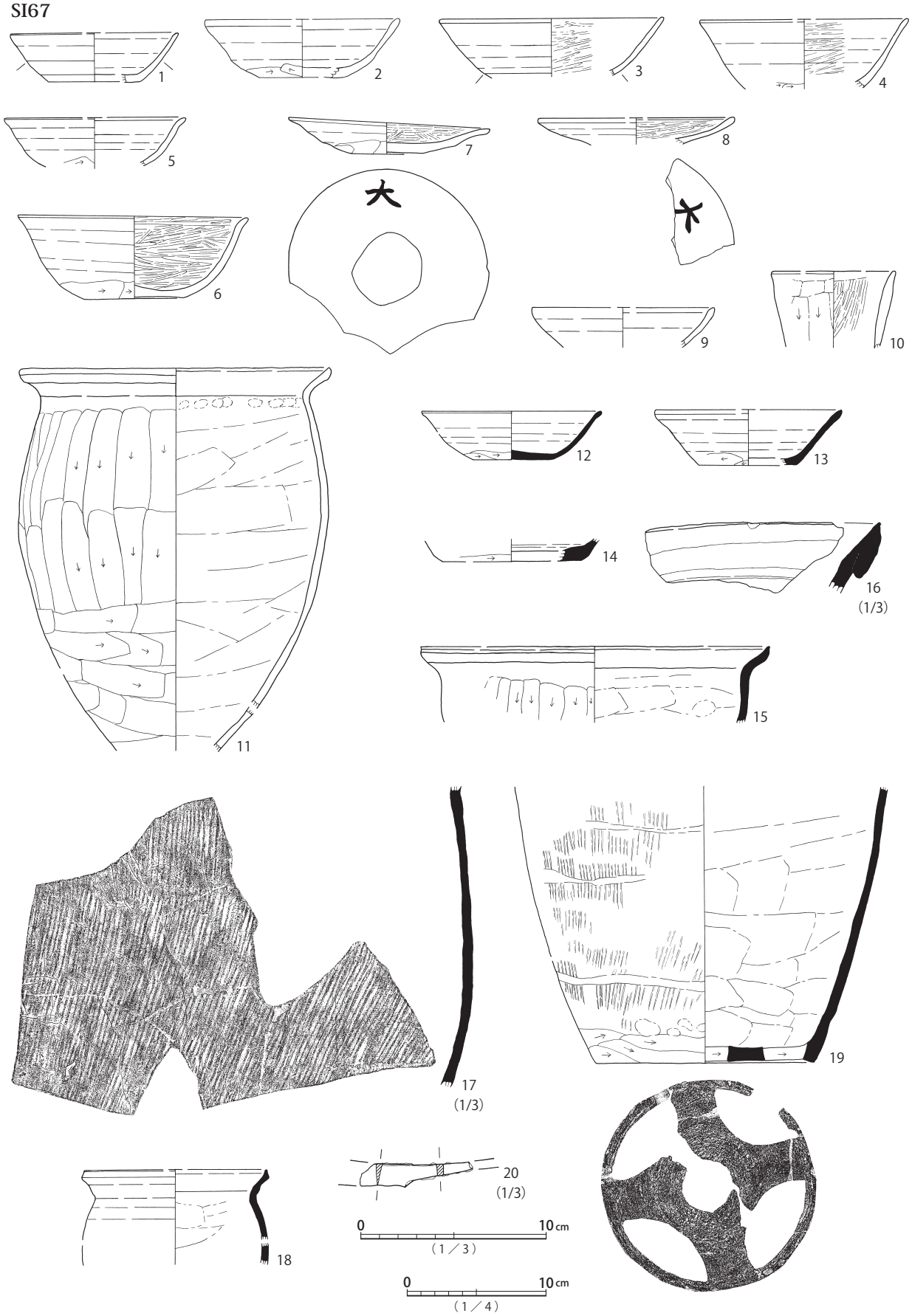


B-B'
- 1 2.5Y 3/1 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量、焼粒微量 しまり強い 粘性なし
- 2 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量 しまり弱い 粘性なし A-A'の 1 層と同じ
- 3 2.5Y 4/2 暗灰黄 炭粒少量、白粘粒(1mm 程度)含む しまり強い 粘性なし
- 4 2.5Y 3/2 黒褐 炭粒少量、白粘粒(1mm 程度)微量 しまりやや強い 粘性あり
- 5 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり A-A'の 9 層と同じ
- 6 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)微量 しまり弱い 粘性あり A-A'の 11 層と同じ

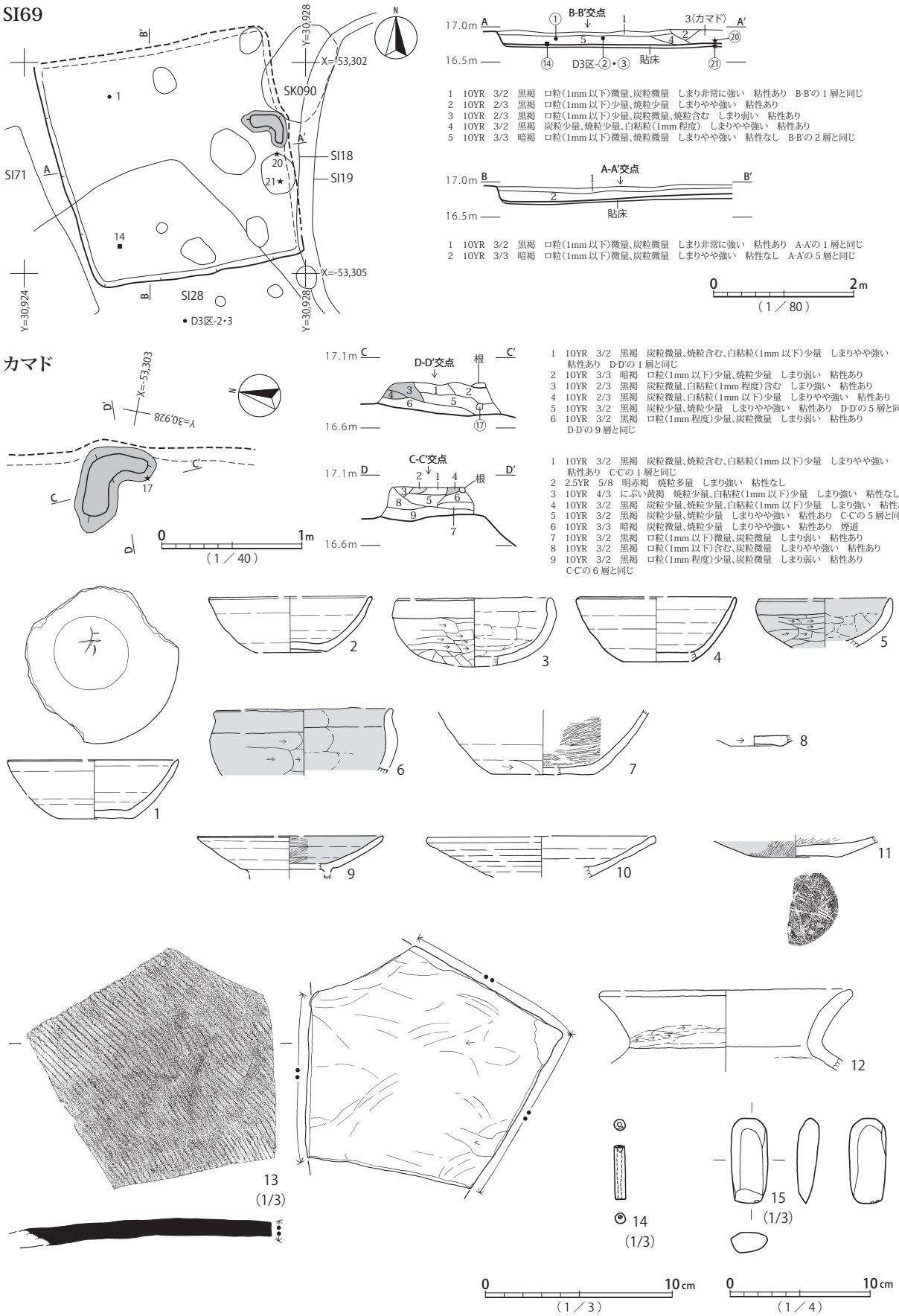
0 1m
(1／40)

第81図 SI66・67 遺構図、SI66 遺物実測図

SI67



第82図　SI67 遺物実測図



1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm以下)微量、炭粒微量 しまり非常に強い 粘性あり B-B′の1層と同じ
2 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm以下)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm以下)少量、炭粒微量、焼粒含む しまり弱い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1mm程度) しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm以下)微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性なし B-B′の2層と同じ

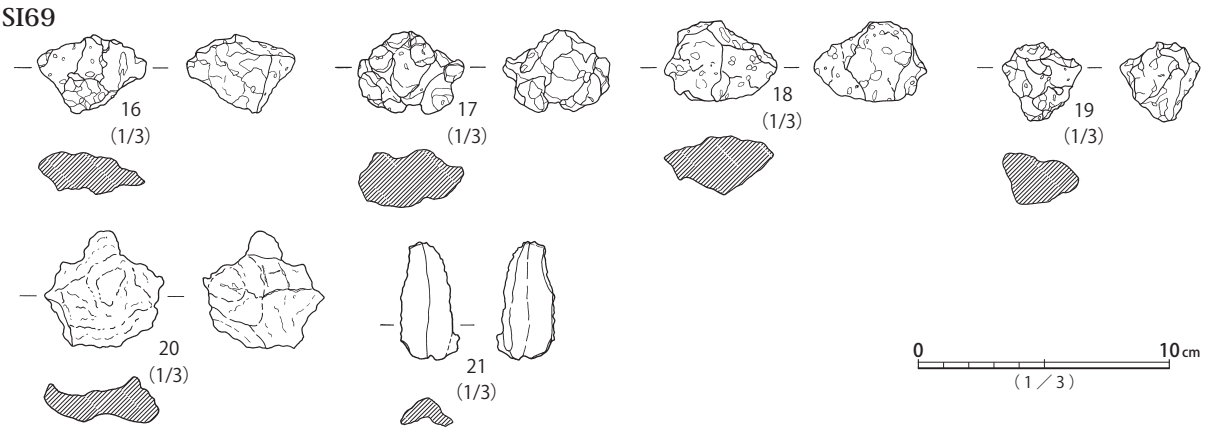
1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm以下)微量、炭粒微量 しまり非常に強い 粘性あり A-A′の1層と同じ
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm以下)微量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性なし A-A′の5層と同じ

1 10YR 3/2 黒褐 炭粒微量、焼粒含む、白粘粒(1mm以下)少量 しまりやや強い 粘性あり D-D′の1層と同じ
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm以下)少量、焼粒少量 しまり弱い 粘性あり
3 10YR 2/3 黒褐 炭粒微量、白粘粒(1mm程度)含む しまり強い 粘性あり
4 10YR 2/3 黒褐 炭粒微量、白粘粒(1mm以下)少量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり D-D′の5層と同じ
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm程度)少量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり D-D′の9層と同じ

1 10YR 3/2 黒褐 炭粒微量、焼粒含む、白粘粒(1mm以下)少量 しまりやや強い 粘性あり C-C′の1層と同じ
2 2.5YR 5/8 明赤褐 焼粒多量 しまり強い 粘性なし
3 10YR 4/3 にぶい黄褐 焼粒少量、白粘粒(1mm以下)少量 しまり強い 粘性なし
4 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1mm以下)少量 しまり強い 粘性あり
5 10YR 3/2 黒褐 炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり C-C′の5層と同じ
6 10YR 3/3 暗褐 炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり 煙道
7 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm以下)微量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm以下)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm程度)少量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり C-C′の6層と同じ

第83図 SI69 遺構図・遺物実測図(1)

SI69



第84図　SI69 遺物実測図(2)

に転用されており、9世紀後半の所産と思われる。34はカマド支脚、35は鉄鏃である。本遺構の帰属時期は、出土遺物の様相から9世紀後葉と推察される。

SI71・SK014・016（第87図、図版7・33・35・45・48・52・56）

形態・規模　D4区、SI23の上層に位置する。検出できたのは貼床のみであり、カマドについても粘土範囲のみの検出となった。遺構の規模は不明瞭だが、平面形は約3.3×3.8mの方形を呈していたと思われ、主軸方位はN−62°−Wである。柱穴は確認されていない。また貼床層下層にはSK016がある一方、SK014は貼床を破壊している。SK014は直径約1.5m・深さ約1.0m、SK016は長軸約1.3m×短軸約1.1m、深さ約0.8mを測る。切り合い関係から形成順はSK016→SI71→SK014である。

出土遺物　1・2はロクロ土師器の杯であり、いずれも9世紀後葉のものと思われる。3～5は土師器椀であり、9世紀中葉～後葉の所産と考えられる。6は土師器甕、7は千葉産須恵器の甑である。8は白磁の小片である。9は羽口、10は鉄滓、11は刀子である。

またSK014の遺物として、1・2はロクロ土師器の杯、5は椀であり、1は内面黒色処理を施している。1は9世紀中葉～後葉の所産、2・5は9世紀前葉～中葉の所産と思われる。また5の外面には渦巻き状の焼成後暗文が見られる。3・4は土師器高台付杯であり、3は9世紀後葉～末、4は9世紀中葉～後葉のものと思われる。6・7は土師器甕、8は千葉産須恵器の甑、9は土製紡錘車である。

さらにSK016の遺物として、1はロクロ土師器杯であり9世紀代の遺物である。

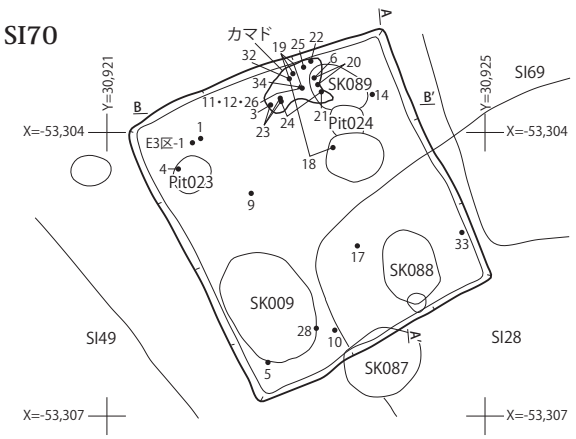
出土遺物の様相と切り合い関係から、SI71は9世紀後葉～末に帰属し、廃絶後間もなくSK014が形成されたと思われる。またSK016はSI71より古いため、9世紀前葉～中葉に属すると推察される。

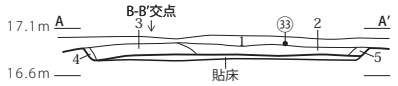
SI72（第88図、図版15・33・45・58）

形態・規模　主にE4区に位置し、SI25の上層にある。検出できたのはカマドの一部と覆土の表層のみであり、貼床層はSI25の上層に位置する。竪穴平面形は北東壁側約2.8mの方形と思われ、主軸方位はN−43°−E、床までの深さは約0.05mである。カマドの遺存状態は悪く、柱穴は確認されていない。

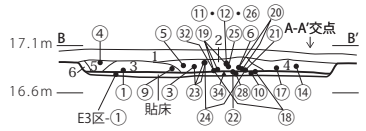
出土遺物　1～5はロクロ土師器の杯であり、2の外面には判読不能の墨書が見られる。時期としては、1～4は9世紀後葉～10世紀初頭の所産と思われる。6は土師器甕である。本遺構の帰属時期は、出土遺物の様相から9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。

SI70





1　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 1 層と同じ
2　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 4 層と同じ
4　10YR　3/2　黒褐　炭粒微量　しまり弱い　粘性なし
5　10YR　3/2　黒褐　炭粒微量、焼粒微量　しまり弱い　粘性あり

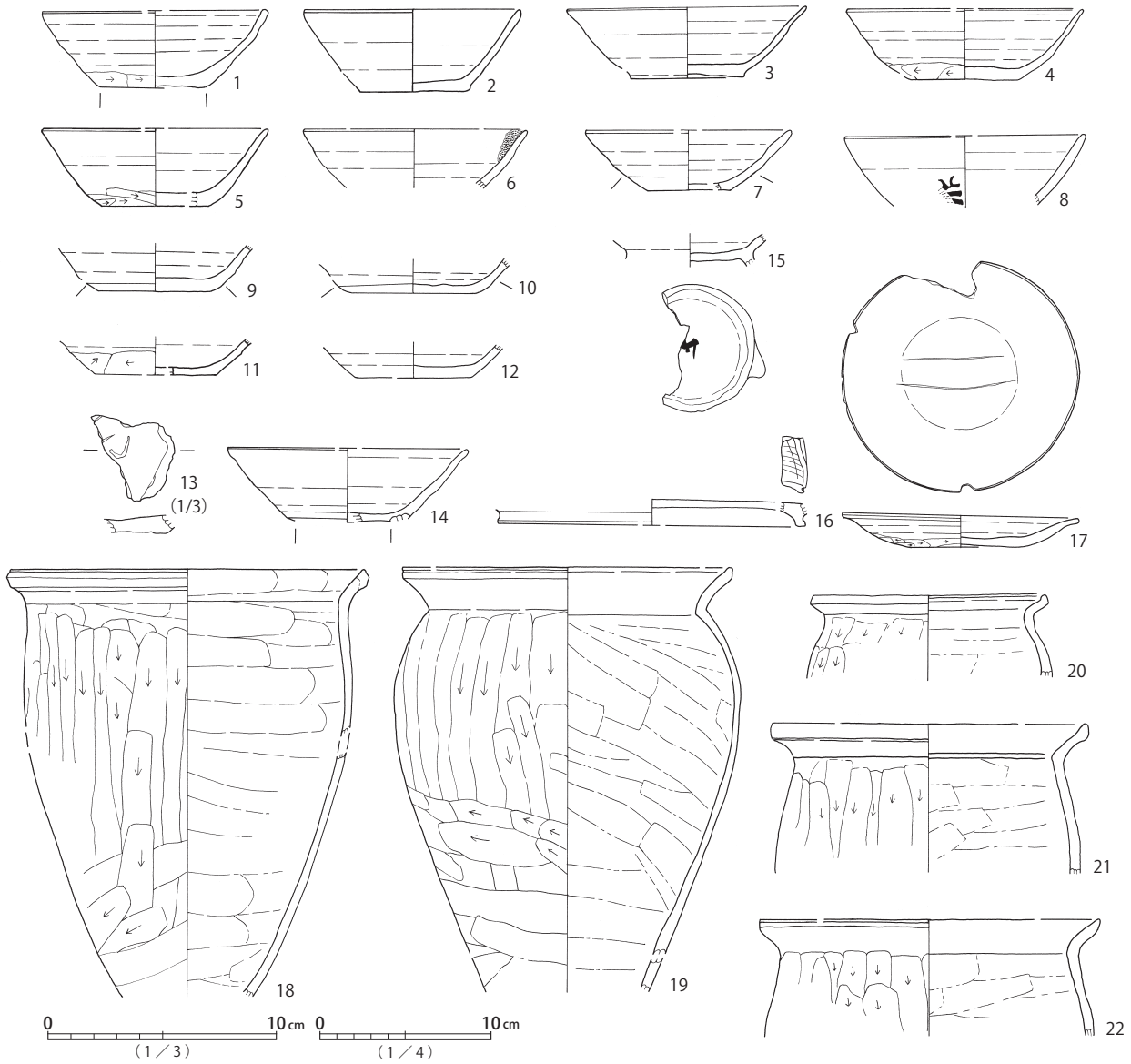


1　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 1 層と同じ
2　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)微量、炭粒少量、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
3　7.5YR　3/2　黒褐　炭粒少量、焼粒含む、白粘粒(1mm 以下)少量　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 3 層と同じ
5　7.5YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
6　7.5YR　3/3　暗褐　炭粒少量　しまり弱い　粘性あり

0　2m
（1／80）

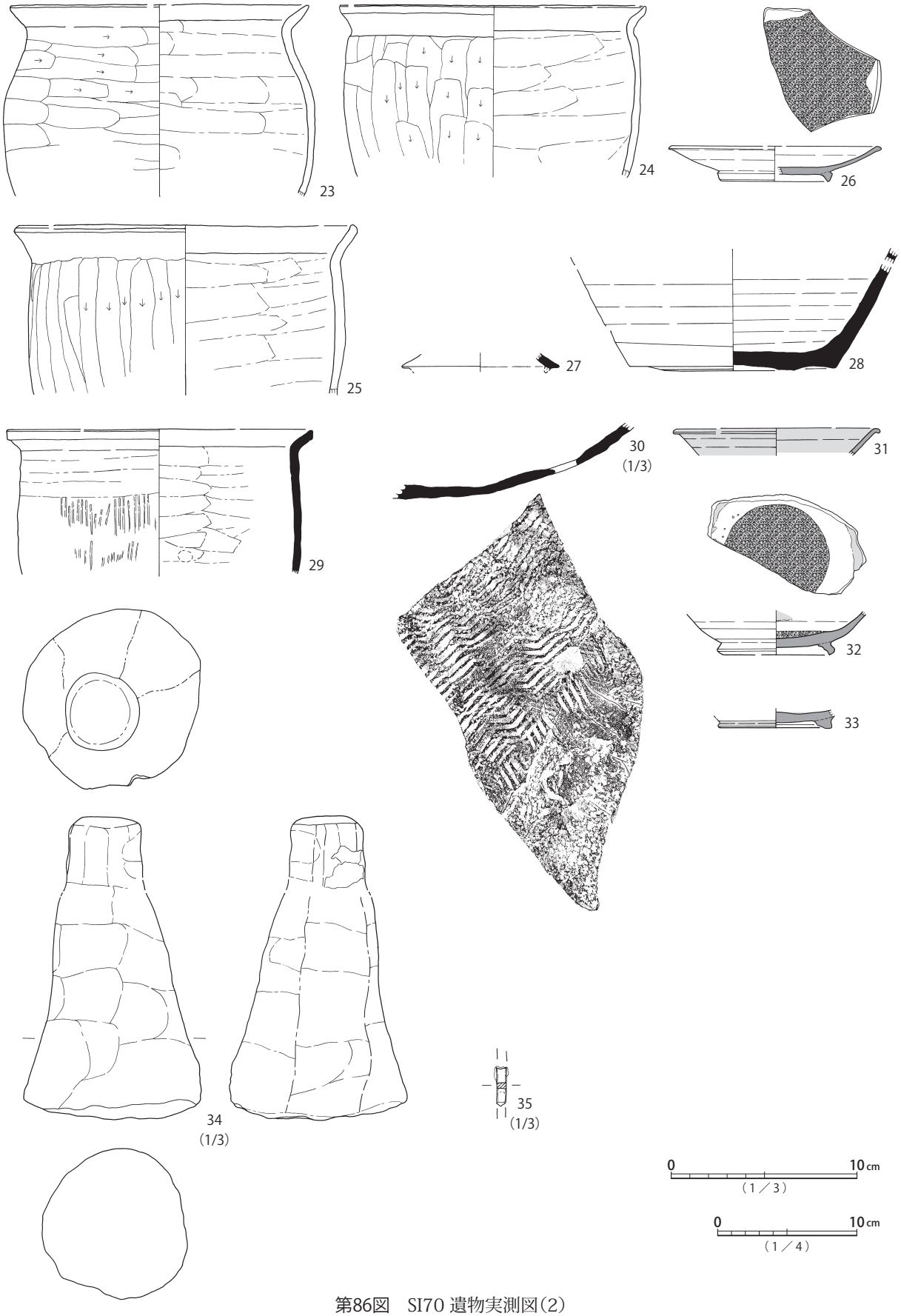
SI70 カマド　SfM オルソ画像

0　1m
（1／40）



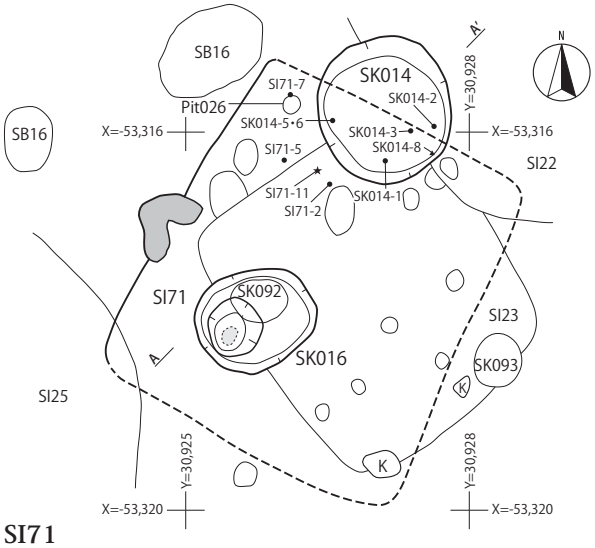
第85図　SI70 遺構図・遺物実測図(1)

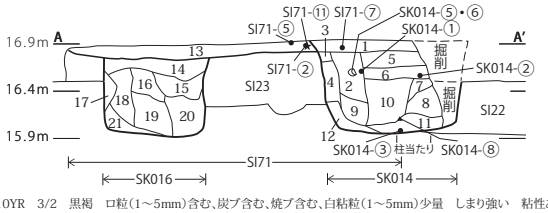
SI70



第86図　SI70 遺物実測図(2)

SI71・SK014・016





SK014

1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭ブ含む、焼ブ含む、白粘粒(1～5mm)少量 しまり強い 粘性あり
2 5YR 3/4 暗赤褐 ロブ(5～8mm)含む、炭ブ多量、焼ブ多量、白粘粒(1～5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒含む、焼粒含む、白粘粒(1～5mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む、白粘粒(1～5mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/1 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、ロ粒(1～5mm)含む しまり強い 粘性あり
6 10YR 3/1 黒褐 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒含む、焼粒含む しまり強い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5～8mm)多量、炭ブ含む、焼ブ含む、白粘粒(1～5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5mm 程度)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 2/2 黒褐 ロブ(5～8mm)含む、炭粒含む、焼粒含む、白粘粒(1～5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5～10mm)多量、炭ブ含む、焼ブ含む、白粘ブ(5～8mm)含む しまり強い 粘性あり
11 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり

SI71

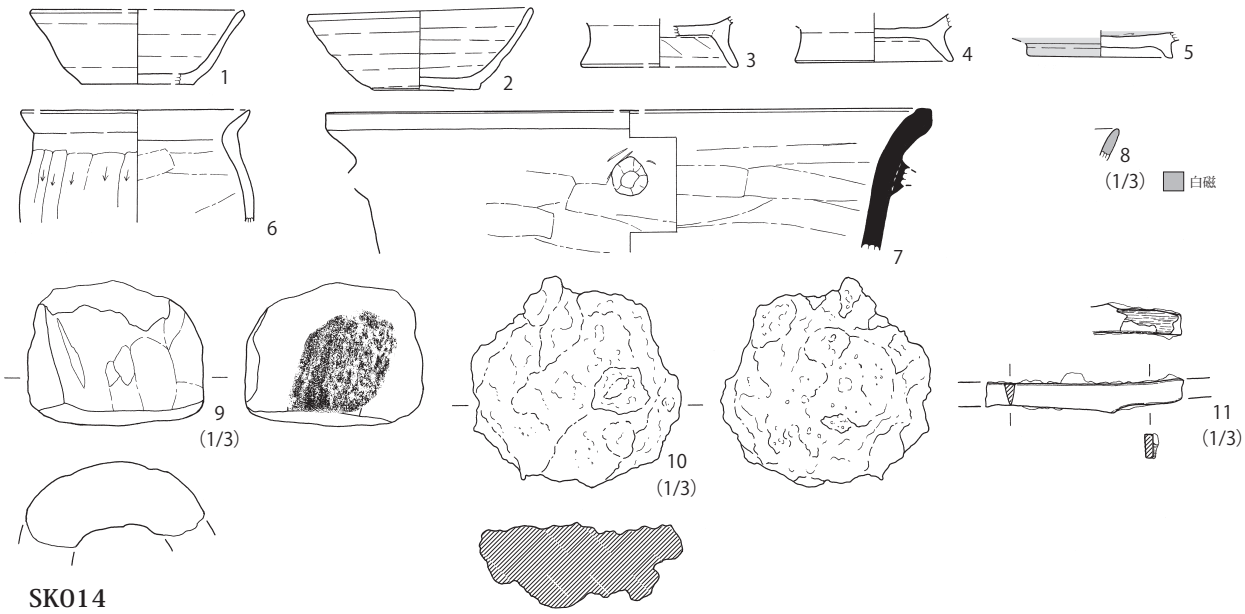
13 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭ブ含む、焼ブ含む しまり非常に強い 粘性あり 貼床

SK016

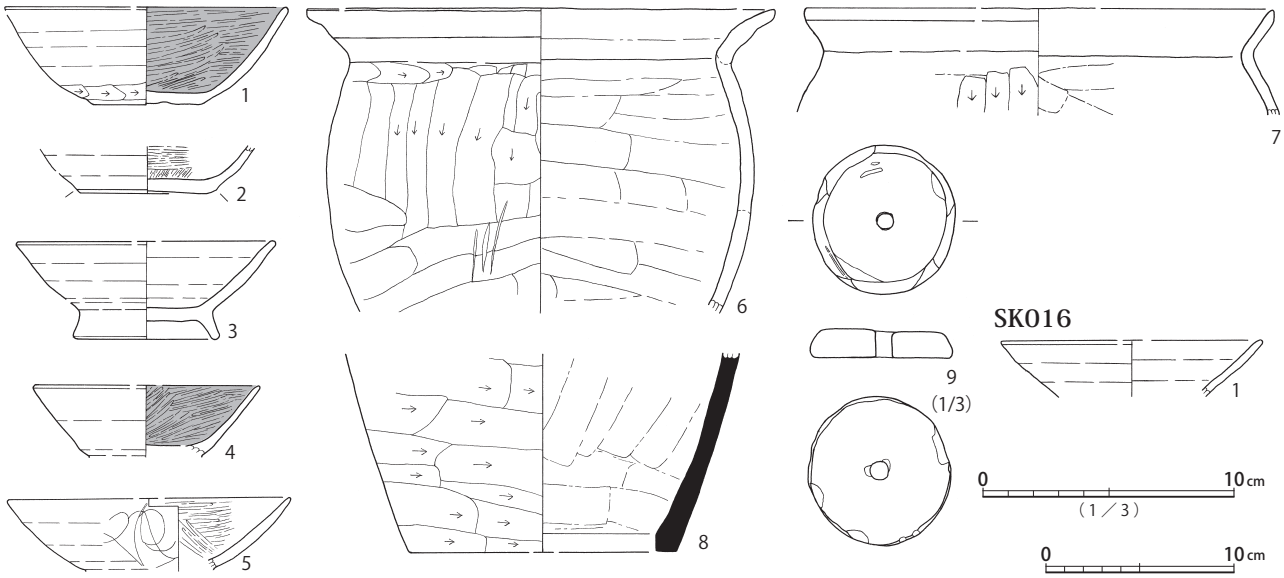
14 10YR 3/4 暗褐 ロブ(5～40mm)多量、炭粒含む、焼粒含む、白粘粒(1～5mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
17 10YR 4/4 褐 ロブ(5～30mm)多量、炭粒少量、焼粒少量 しまり弱い 粘性あり
18 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)多量、炭粒含む、焼粒含む、白粘粒(1～5mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
19 10YR 3/1 黒褐 ロブ(5～8mm)含む、炭粒含む、焼粒含む、白粘粒(1～5mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
20 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む、白粘ブ(5～8mm)含む しまりやや強い 粘性あり
21 10YR 2/1 黒 ロ粒(1～5mm)少量、炭粒含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり

0 2m
(1／80)

SI71



SK014



SK016

0 10cm
(1／3)

0 10cm
(1／4)

第87図 SI71・SK014・016 遺構図・遺物実測図

SI73（第 88 図、図版 45・54・56）

形態・規模　E2区に位置し、SI30の上層にある。検出できたのは貼床の一部とカマドの粘土範囲のみである。平面形は約2.7×3.1mの方形と思われ、主軸方位はN−54°−Wである。柱穴は確認されていない。

出土遺物　1はロクロ土師器の杯であり、9世紀後葉の所産と思われる。2～4は土師器甕、5は須恵器広口壺である。6は石製紡錘車、7は鉄鏃であり、後者は8世紀後半～9世紀の遺物と思われる。出土遺物の様相から、本遺構は9世紀後葉に帰属すると思われる。

SI74（第 89 図、図版 15・33・45・56・58）

形態・規模　E3区に位置し、SI49の上層にある。検出できたのはカマド周辺のみであり、遺構の規模は不明瞭だが、平面形は約4.6×5.2mの方形と思われ、主軸方位はN−9°−E、床までの深さは約0.2mである。柱穴は確認されていない。カマドは北壁に付随し、遺存状態は良くない。またこのカマドの下層にSI49のカマドが位置し、一部を破壊している。

出土遺物　1～3は土師器杯である。1は底部外面に「家」の墨書があり、8世紀前半のものと思われる。2は内面に「十」状の焼成後線刻、3は平城I期の畿内産土師器の杯Cである。4・5は土師器甕である。6・7は須恵器杯であり、前者は千葉産、後者は新治産で8世紀第4四半期～9世紀初頭の所産と思われる。8は東海産須恵器底部突出高台付杯で8世紀前葉のもの、9は東海産須恵器高盤の脚部である。10は永田・不入窯産の盤類であり、永田・不入窯I～II期の所産と考えられる。11・12は須恵器蓋であり、前者は東海産、後者は南比企産のものである。13は鉄鎌、14は鉄鏃である。本遺構の帰属時期として、7が貼床層から出土していることから、8世紀末～9世紀初頭と推察されるが、遺構が明瞭に検出できた範囲が限定的であり、9世紀後葉まで下る可能性もある。一方、1・3・8は下層のSI49由来と思われる。

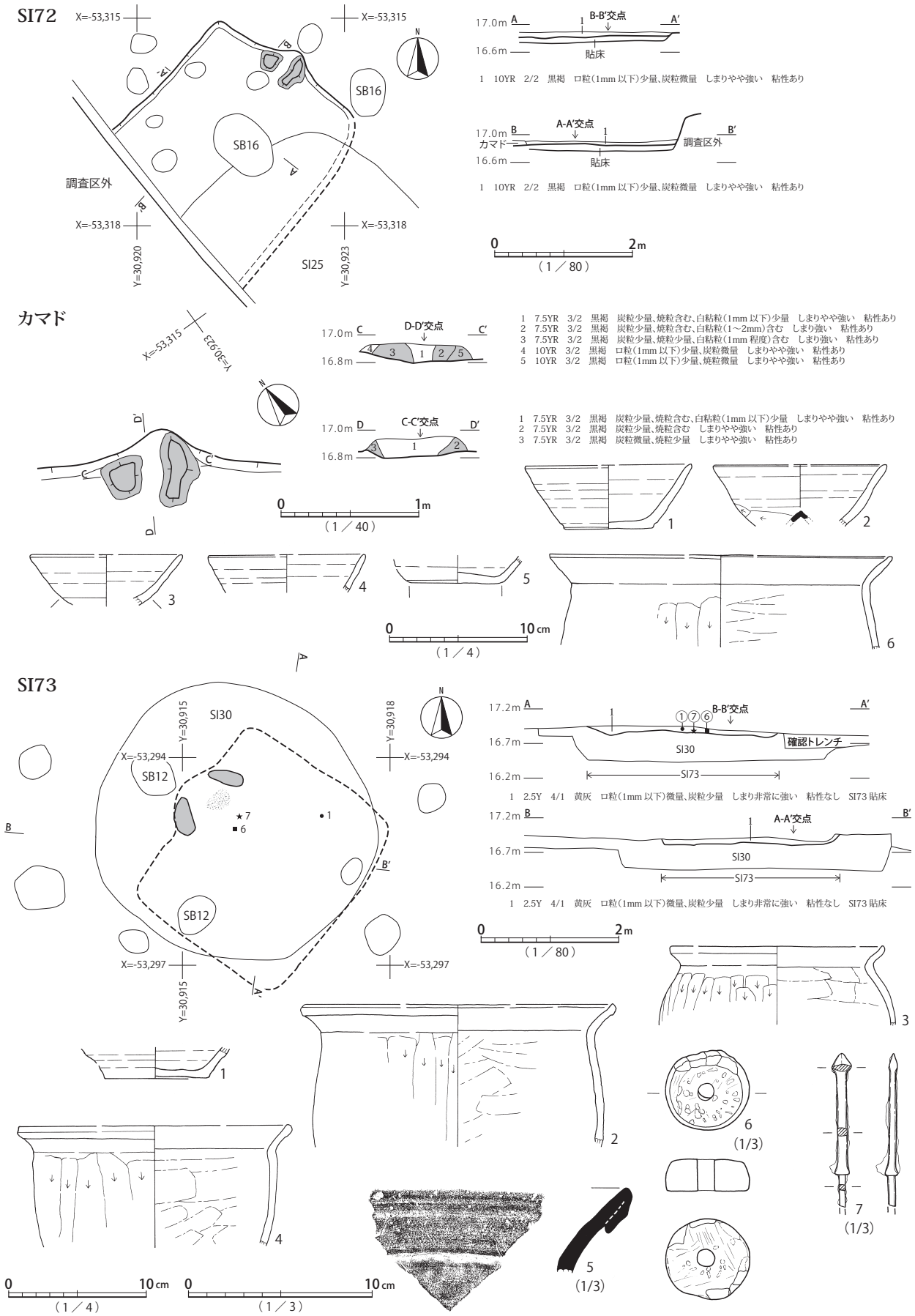
SI75（第 90 図、図版 34・46・52・56）

形態・規模　主にE3区に位置し、遺構東側はSI74を破壊している。検出できたのは貼床面の一部のみであり、カマドは調査区外に位置すると思われる。平面形は北西～南東方向で約3.6mを測る方形と思われ、主軸方向はN−37°−Wと考えられる。柱穴は確認されていない。

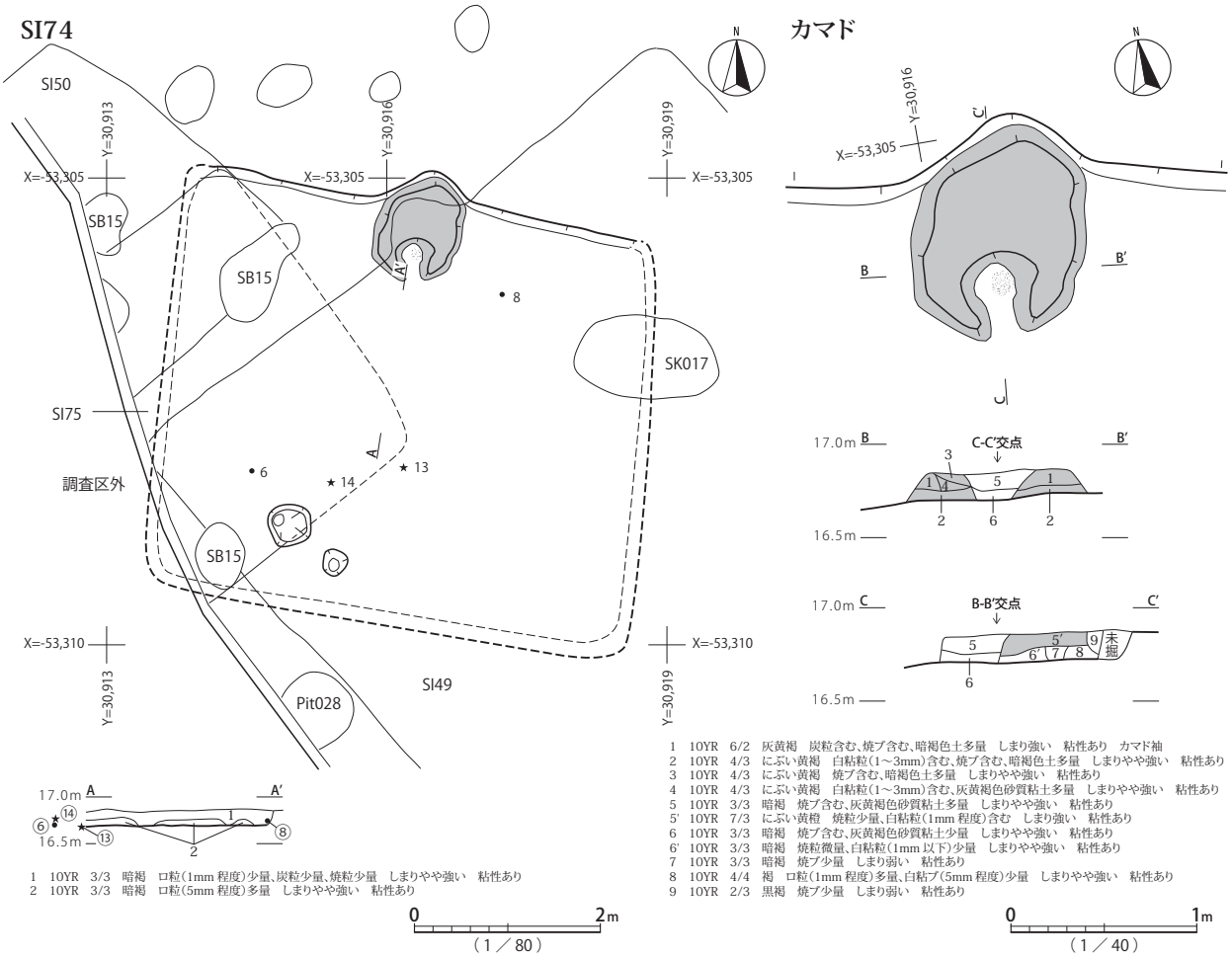
出土遺物　1はロクロ土師器の杯であり、9世紀中葉～後葉の所産と思われる。2は7世紀後葉～8世紀初頭の土師器杯であり、内面に放射状暗文が見られる。3は土師器高杯であり、古墳時代中期（和泉式）のものと考えられる。4は千葉産須恵器の甕である。5は土製支脚、6は鉄製刀子、7は帯状円環形鉄製品である。出土遺物の様相とSI74との切り合い関係から、本遺構の帰属時期は9世紀中葉～後葉と思われる。

SI76（第 91 図、図版 8・34・46・52・54・56）

形態・規模　主にE2～法定外道路区に位置する。外形は約4.0×4.1mの方形と呈し、主軸方向はN−56°−E、床までの深さは約0.3mである。北東壁にはカマドが付随するが遺存状態は非常に悪く、残存部はカマド煙道のみであった。柱穴は4箇所確認されており、柱並びは方形配置、柱心々間距離

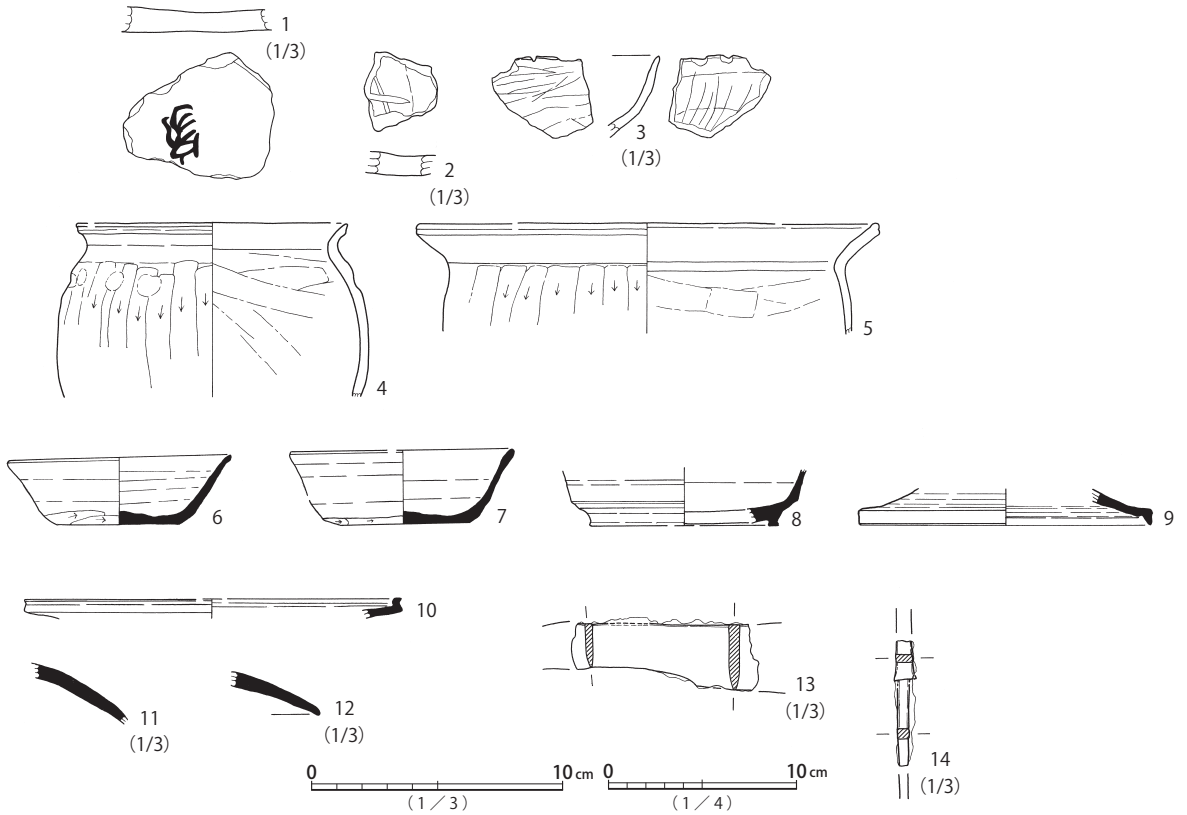


第88図 SI72・73 遺構図・遺物実測図



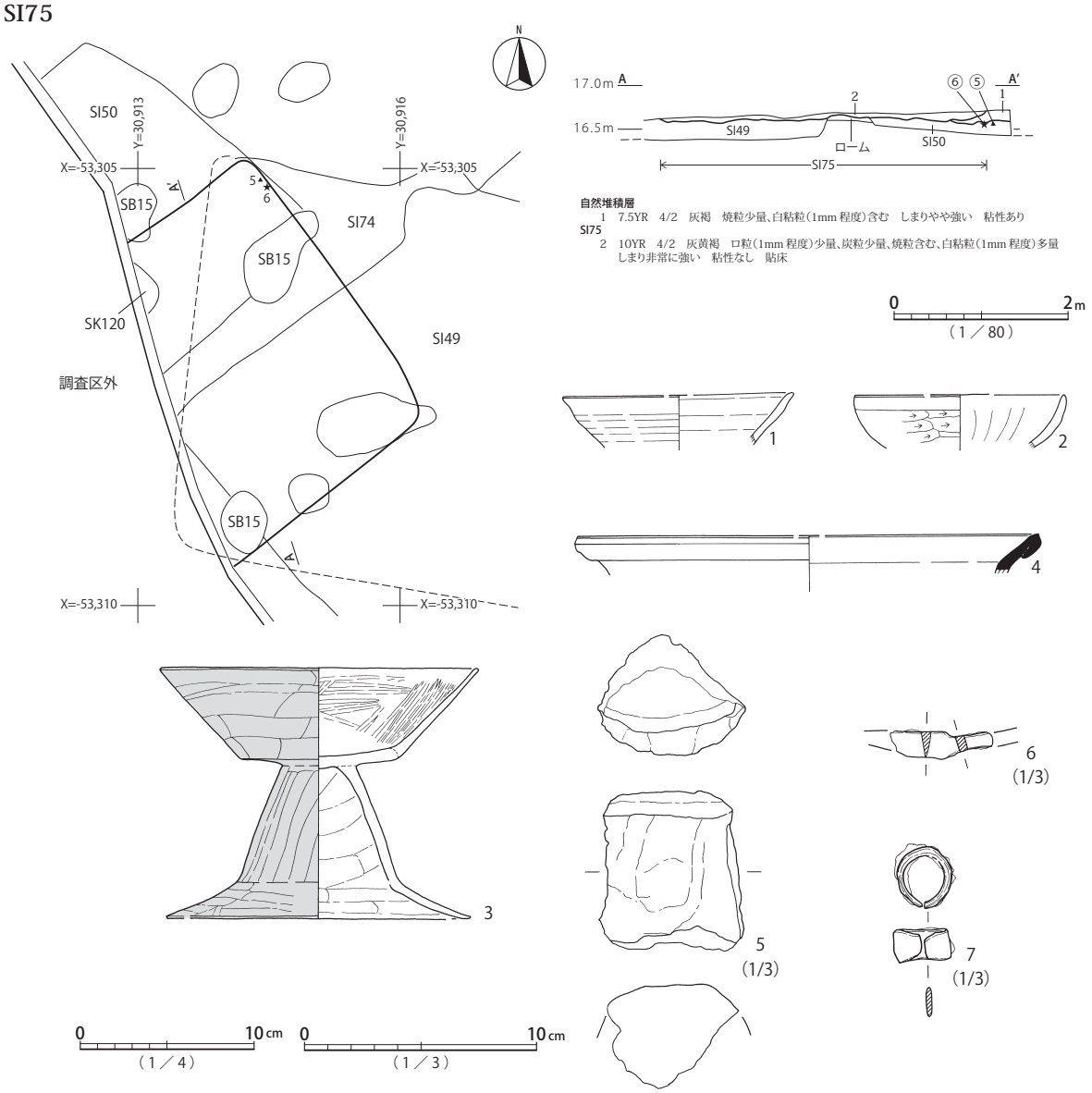
1 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(5mm 程度)多量 しまりやや強い 粘性あり

1 10YR 6/2 灰黄褐 炭粒含む、焼ブ含む、暗褐色土多量 しまり強い 粘性あり カマド袖
2 10YR 4/3 にぶい黄褐 白粘粒(1～3mm)含む、焼ブ含む、暗褐色土多量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 4/3 にぶい黄褐 焼ブ含む、暗褐色土多量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 4/3 にぶい黄褐 白粘粒(1～3mm)含む、灰黄褐色砂質粘土多量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 焼ブ含む、灰黄褐色砂質粘土多量 しまりやや強い 粘性あり
5' 10YR 7/3 にぶい黄橙 焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)含む しまり強い 粘性あり
6 10YR 3/3 暗褐 焼ブ含む、灰黄褐色砂質粘土少量 しまりやや強い 粘性あり
6' 10YR 3/3 暗褐 焼粒微量、白粘粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 焼ブ少量 しまり弱い 粘性あり
8 10YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 程度)多量、白粘ブ(5mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 2/3 黒褐 焼ブ少量 しまり弱い 粘性あり



第89図 SI74 遺構図・遺物実測図

SI75



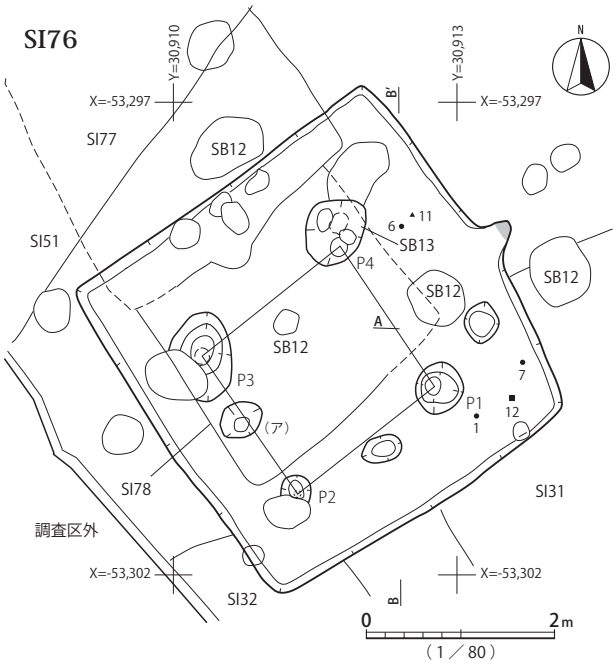
第90図 SI75 遺構図・遺物実測図

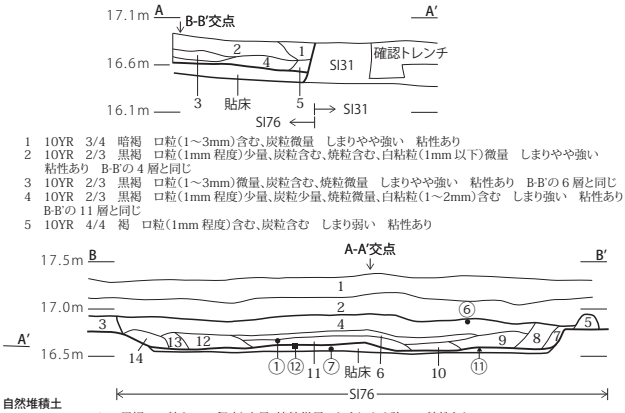
は約1.8～1.9m、深度はP1で約0.6m、P2・P3で約0.3m、P4で約0.5mである。P4はSB13b1によって柱当たりを残して破壊されている。この他、小穴(ア)は梯子穴と思われる。

出土遺物 1～3はロクロ土師器の杯であり、9世紀前葉～中葉の所産と思われる。特に、1の底部外面には「十」状の焼成前線刻が見られる。4はロクロ土師器の皿であり9世紀前葉～中葉のものと考えられる。5は土師器甕である。6～8は須恵器の杯であり6・8は千葉産、7は新治産で8世紀第2四半期～8世紀第3四半期の所産と思われる。9は東海産須恵器の壺蓋で8世紀後葉、10は東海産須恵器の蓋で8世紀中葉のものと考えられる。11はカマド支脚、12は磨石である。出土遺物の様相とSI77・78との重複関係から、本遺構の帰属時期は9世紀前葉とみられる。

SI77(第92図、図版15・34・46・52・58)

形態・規模 主に法定外道路区に位置し、SI51・76の上層にある。また遺構南側でSI78を破壊して

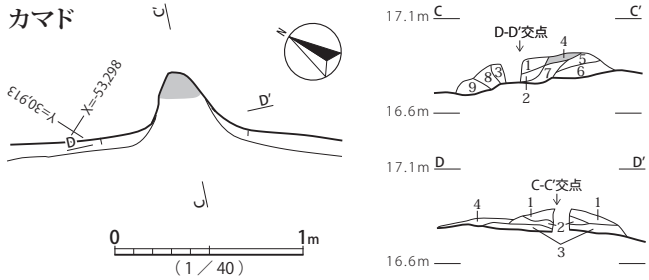




1　10YR　3/4　暗褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
2　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒含む、焼粒含む、白粘粒(1mm 以下)微量　しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 4 層と同じ
3　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1～3mm)微量、炭粒含む、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり　B-B'の 6 層と同じ
4　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1～2mm)含む　しまり強い　粘性あり　B-B'の 11 層と同じ
5　10YR　4/4　褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒含む　しまり弱い　粘性あり

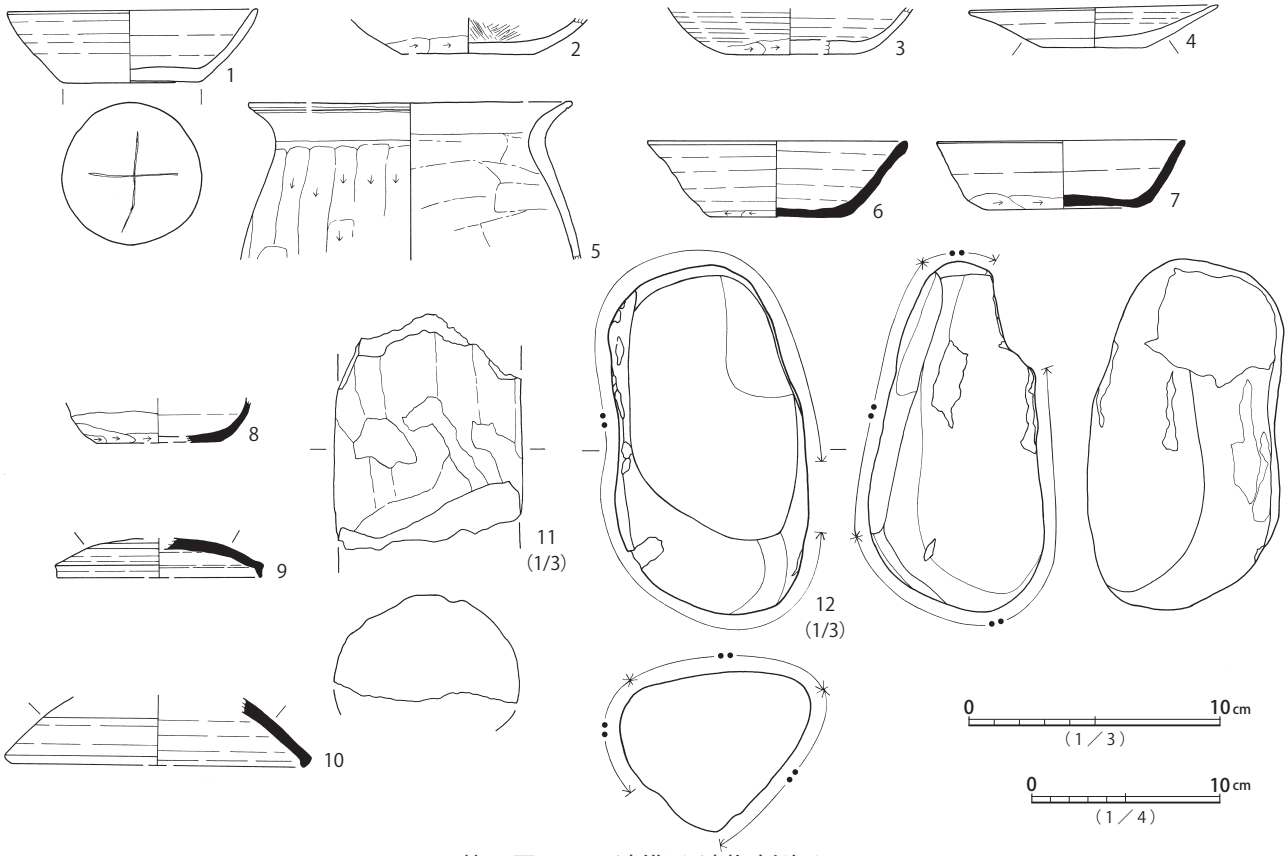
自然堆積土
1　7.5YR　3/1　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性なし
2　7.5YR　2/3　極暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量　しまりやや強い　粘性あり
3　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり

SI76
4　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒含む、焼粒含む、白粘粒(1mm 以下)微量　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 2 層と同じ
5　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性なし
6　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1～3mm)微量、炭粒含む、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 3 層と同じ
7　10YR　4/1　褐灰　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり
8　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量　しまりやや強い　粘性あり
9　2.5Y　4/1　黄灰　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒含む、焼粒少量、白粘粒(1～2mm)含む　しまりやや強い　粘性あり
10　2.5Y　4/1　黄灰　ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
11　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1～2mm)含む　しまりやや強い　粘性あり　A-A'の 4 層と同じ
12　2.5Y　4/1　黄灰　ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量、焼粒少量、白粘粒(1mm 以下)少量　しまりやや強い　粘性あり
13　2.5Y　4/1　黄灰　ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒少量　しまり弱い　粘性あり
14　2.5Y　6/4　にぶい黄　炭粒少量　しまりやや強い　粘性なし



1　2.5Y　4/2　暗灰黄　炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い　粘性あり　D-D'の 1 層と同じ
2　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり　D-D'の 2 層と同じ
3　10YR　2/2　黒褐　焼粒少量　しまり弱い　粘性なし
4　10YR　8/3　浅黄橙　炭粒微量、白粘粒(1mm 程度)多量　しまり強い　粘性あり　カマド袖
5　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり　煙道
6　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量　しまりやや強い　粘性なし
7　10YR　5/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり
8　10YR　5/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒少量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
9　10YR　3/2　黒褐　焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり

1　2.5Y　4/2　暗灰黄　炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い　粘性あり　C-C'の 1 層と同じ
2　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり　C-C'の 2 層と同じ
3　10YR　5/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 以下)多量、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり
4　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり



第91図　SI76 遺構図・遺物実測図

いる。本遺構の上層は法定外道路建築時の砂利敷によって削平されていた。竪穴平面形は約2.8×2.9mの方形を呈すると思われ、主軸方向はS−40°−E、床までの深さは約0.1mである。南壁にはカマドが付随し、遺存状態は良好であった。柱穴は確認されていない。

出土遺物　1・2はロクロ土師器の杯であり、前者の底部外面には「↑」の墨書が見られる。時期としては、1・2は9世紀前葉〜中葉と考えられる。3は古墳時代後期（鬼高式）のものと思われる土師器高杯、4・5は土師器甕である。6は千葉産須恵器の杯、7は東海産須恵器の杯蓋で7世紀末の所産と考えられる。8はカマド支脚である。出土遺物の様相とSI76との重複関係から、本遺構の帰属時期は9世紀前葉〜中葉と思われる。

SI78（第92図）

形態・規模　主に法定外道路区に位置し、SI76の覆土上に貼床が形成されている。検出したのは貼床のみであり、北西側はSI77によって破壊されている。カマドや柱穴は確認されていない。

出土遺物　掲載遺物はない。非掲載遺物として、弥生時代後期（久ヶ原式〜山田橋式）の壺・鉢などが出土している。本遺構はSI76・77との切り合い関係から、9世紀前葉〜中葉に帰属すると考えられる。

SI79（第93図、図版13・15・34・46・56）

形態・規模　主に西端区に位置し、遺構全体がSI51に内包されている。外形は約3.3×3.8mの方形を呈し、主軸方向はS−35°−E、床までの深さは約0.3mである。南東壁にはカマドが付随し、遺存状態は良好であった。柱穴は確認されていない。

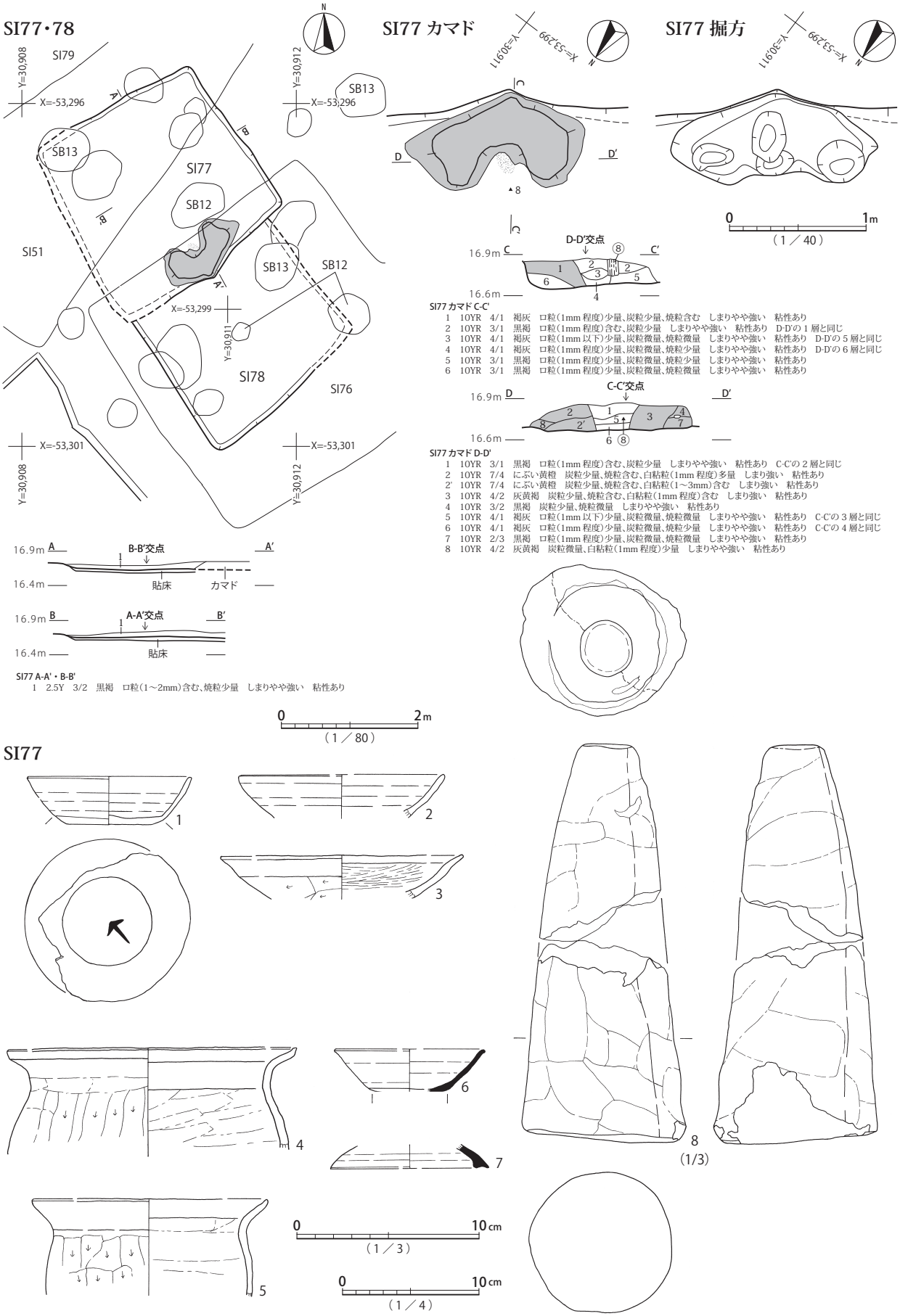
出土遺物　1はロクロ土師器杯であり、9世紀前葉〜中葉のもの、2・3は古墳時代終末期（鬼高式）のものと思われる土師器杯である。4は畿内産土師器の杯Aであり、内面に放射状暗文が見られる。5は千葉産須恵器の杯であり、カマドの袖から出土した。この遺物の底部外面には「カ」状の焼成前刻書が見られる。6は新治産須恵器の底部突出高台付杯であり、8世紀第2四半期〜第3四半期の所産と考えられる。7は鉄製遊環、8は青銅製の馬具銙帯金具鉈尾、9は不明青銅剥片であり、どれも貼床層から出土している。出土遺物から本遺構の帰属時期は9世紀前葉〜中葉と考えられる。

第2節　掘立柱建物跡

SB01（第94図、図版15・16・46）

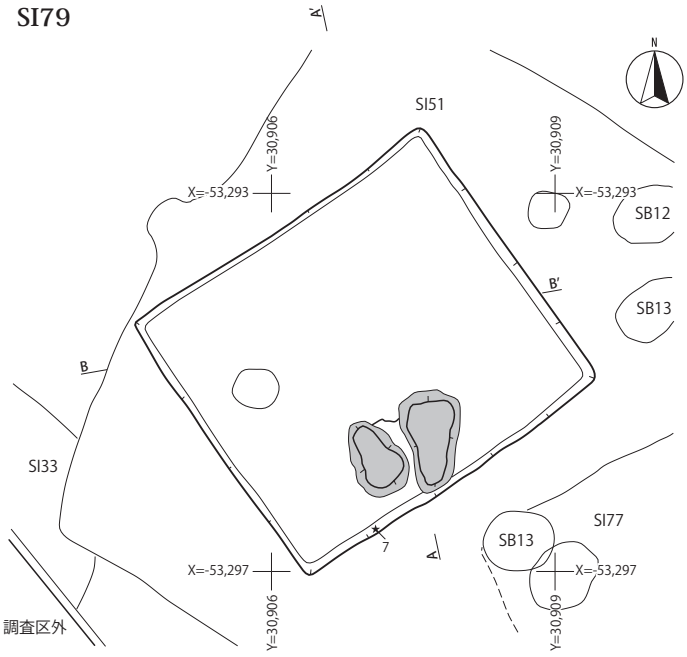
形態・規模　主にB2〜B3区に位置し、SI06・SI34・SI35より後世の遺構である。桁行3間、梁行2間の東西棟総柱建物であり、主軸方向はN−38.5°−Wである。規模は桁行5.32m、梁行3.65mを測る。柱間寸法は桁行・梁行ともに約5〜7尺と揃わず、柱通りは悪く、粗雑な造りであったと考えられる。

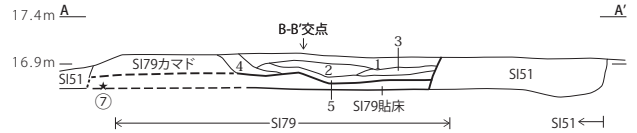
出土遺物　1は土師器の武蔵型甕、2は千葉産須恵器甕、3はミニチュア土器である。これらの遺物はc1から出土した。また非掲載遺物として、a3から千葉産須恵器甕や東海産須恵器甕、c1から永田・不入窯産須恵器杯、d1から8世紀所産の土師器杯などがある。出土遺物から、本遺構は9世紀の帰属と思われる。



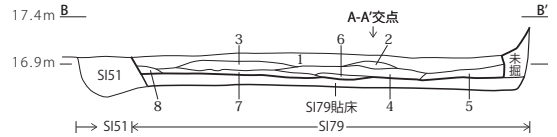
第92図 SI77・78 遺構図、SI77 遺物実測図

SI79



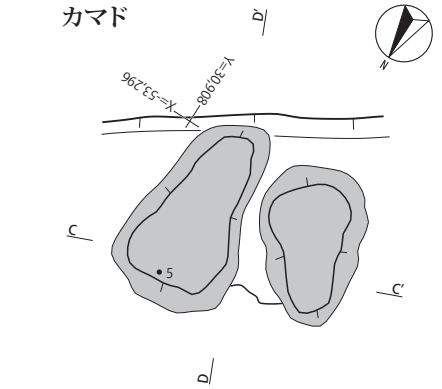


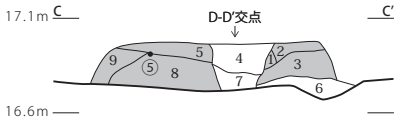
1 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 1 層と同じ
2 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)微量 しまりやや強い 粘性あり B-B'の 2 層と同じ
3 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
4 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
5 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1mm 程度)含む しまり強い 粘性あり B-B'の 4 層と同じ



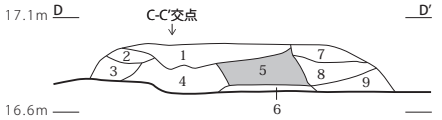
1 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 1 層と同じ
2 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、焼粒少量、白粘粒(1mm 程度)微量 しまりやや強い 粘性あり A-A'の 2 層と同じ
3 7.5YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
4 7.5YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒微量、白粘粒(1mm 程度)含む しまり強い 粘性あり A-A'の 5 層と同じ
5 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 7.5YR 3/3 暗褐 炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
7 7.5YR 3/4 暗褐 炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
8 7.5YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり

カマド

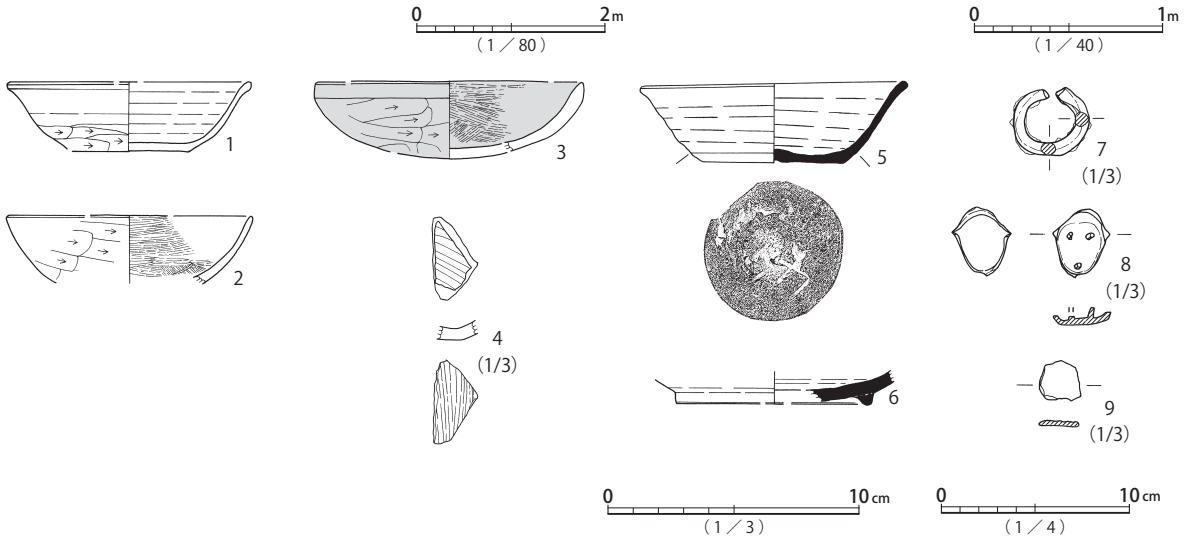




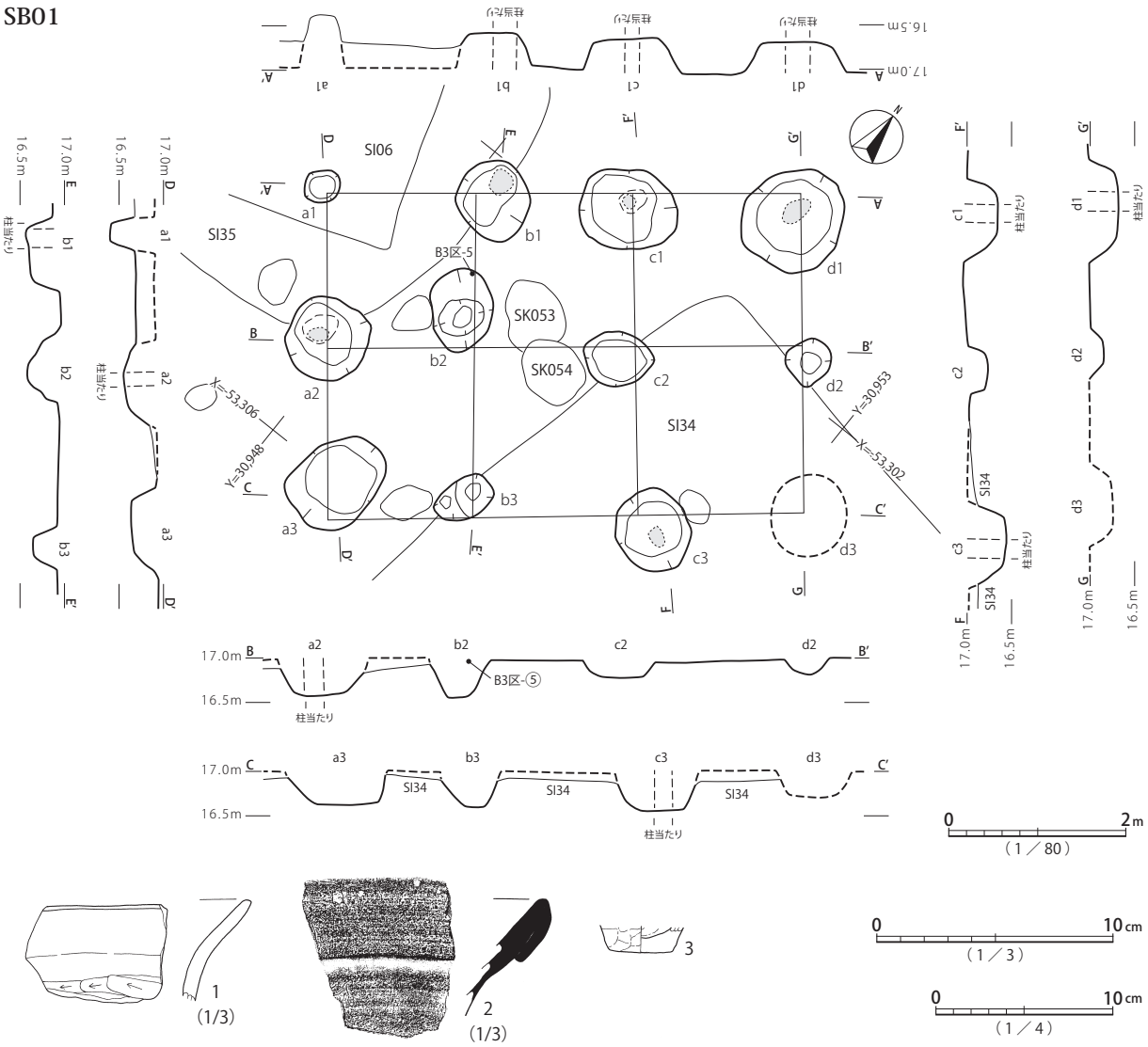
1 10YR 5/3 にぶい黄褐 炭粒少量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性なし
2 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(3mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量、白粘粒(1～3mm)含む しまり強い 粘性なし
3 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり D-D'の 1 層と同じ
5 7.5YR 5/3 にぶい褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、白粘粒(1～3mm)多量 しまり強い 粘性なし
6 10YR 3/2 黒褐 焼粒微量、白粘粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり D-D'の 4 層と同じ
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり



1 7.5YR 4/3 褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり C-C'の 4 層と同じ
2 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり C-C'の 7 層と同じ
5 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性なし
7 10YR 4/2 灰黄褐 白粘粒(1～3mm)少量 しまり強い 粘性なし SI79 覆土
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量 しまりやや強い 粘性あり SI79 覆土
9 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり SI79 覆土



第93図 SI79 遺構図・遺物実測図



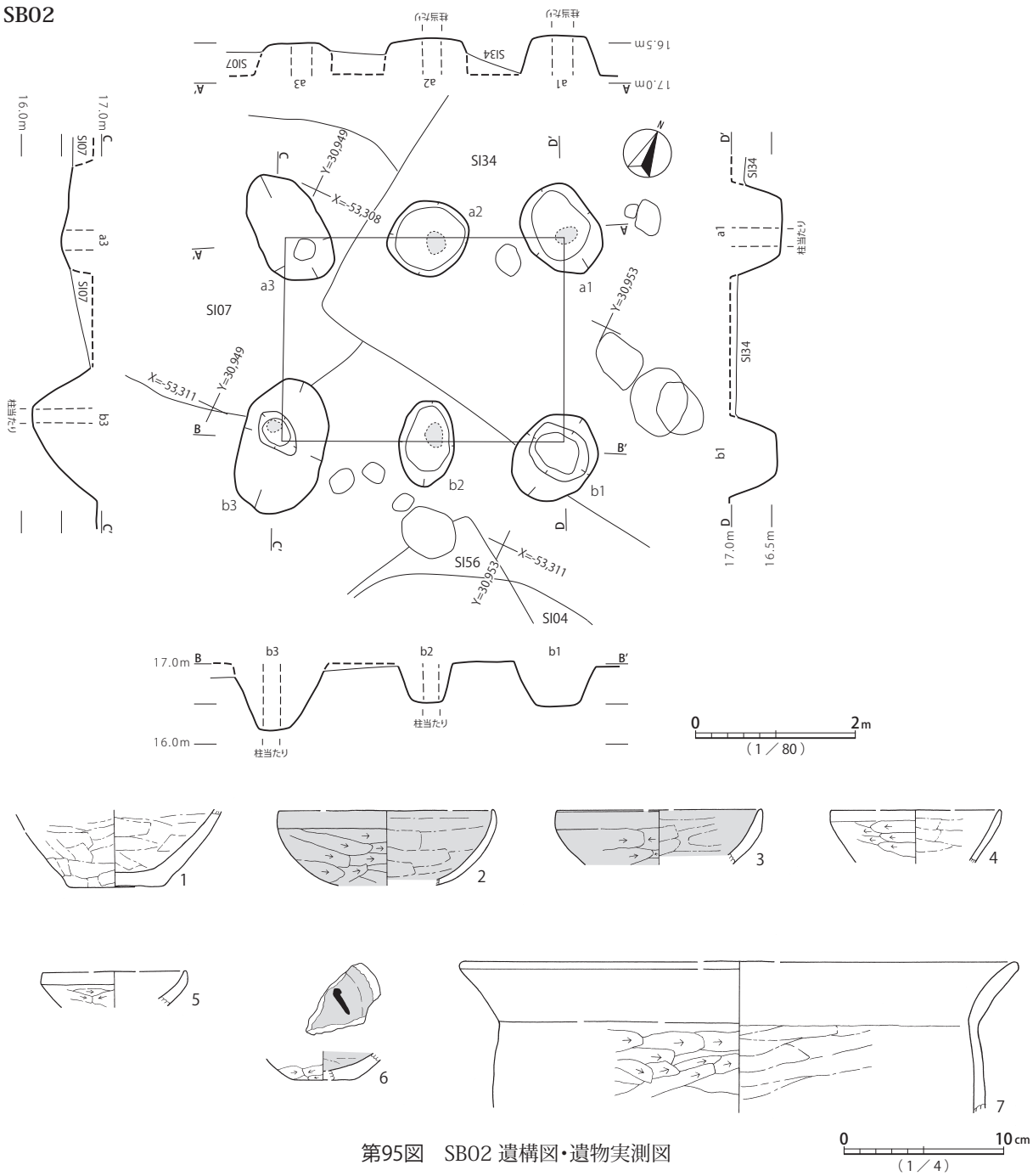
第94図　SB01 遺構図・遺物実測図

SB02（第 95 図、図版 16・34・46・58）

形態・規模　A3 ～ B3 区に位置し、SI07・SI34 より後世の遺構である。桁行２間、梁行１間の東西棟側柱建物であり、主軸方位はN－26.0°－Wである。規模は桁行3.46m、梁行2.53mを測る。柱間寸法は桁行約５～６尺、梁行約８尺であり、柱通りは悪く、粗雑な造りであったと考えられる。またa3とb3は柱穴の平面形状から抜き取りを行った可能性がある。

出土遺物　１は弥生終末期（中台式）と思われる甕、２～６は土師器杯であり、６の内面には習書と思われる墨書が見られる。時期として、2・3は古墳時代中期（和泉式）、4は８世紀中葉～後葉の所産と考えられる。7は土師器の武蔵型甕である。6はa1から、2はa2、3・5・7はb1、1・4はb3から出土した。また非掲載遺物として、a2から東海産須恵器長頸壺や木葉下窯産須恵器瓶壺類、b3から８世紀の土師器杯などが出土している。出土遺物の様相は８世紀中葉～後葉の時期を示すが、主軸方位が後述するSB03と類似することから、本遺構の帰属時期は９世紀代まで下ると推測される。

SB02



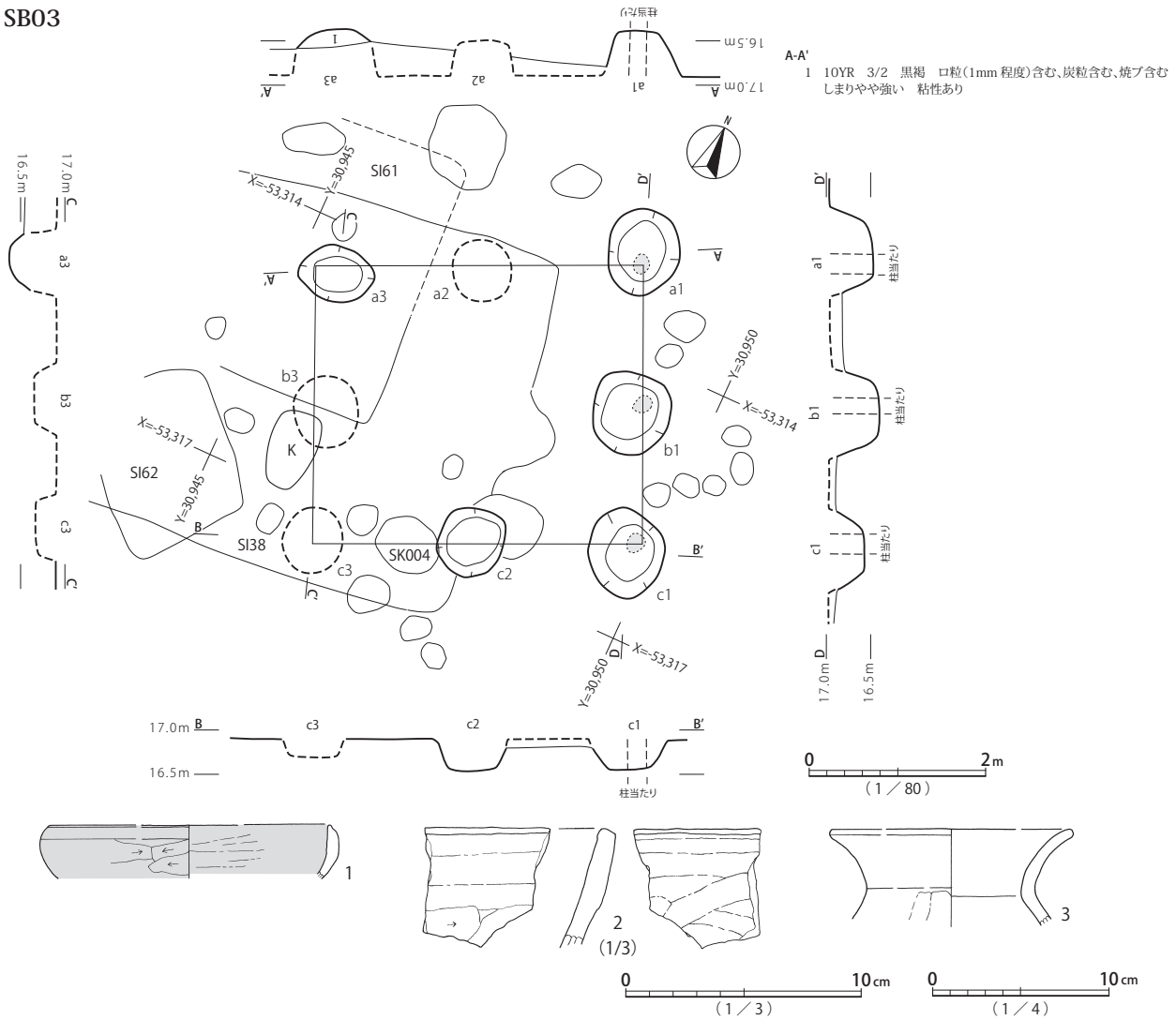
第95図　SB02 遺構図・遺物実測図

SB03（第 96 図、図版 16・46）

形態・規模　B4 区に位置し、SI38 より後世の遺構である。また SI61 は本遺構の上層に貼床層が確認できたことから、本遺構より新しいと思われる。桁行２間、梁行２間の東西棟側柱建物であり、主軸方位はN−29.5°−Wである。規模は桁行推定3.65m、梁行推定3.12mを測る。柱間寸法は桁行推定約６尺等間、梁行約５尺等間であり、柱通りは調査区内では比較的良好な造りであったと考えられる。

出土遺物　１は古墳時代中期（和泉式）の土師器杯、２は土師器鉢、３は土師器甕である。１はc2、２はa3、３はb1から出土した。また非掲載遺物として、a1から東海産灰釉陶器瓶壺類や千葉産須恵器甕、c1から９～10世紀のロクロ土師器杯などが出土している。出土遺物から本遺構の時期は９世紀と考えられる。

SB03



第96図　SB03 遺構図・遺物実測図

SB04（第 97 図）

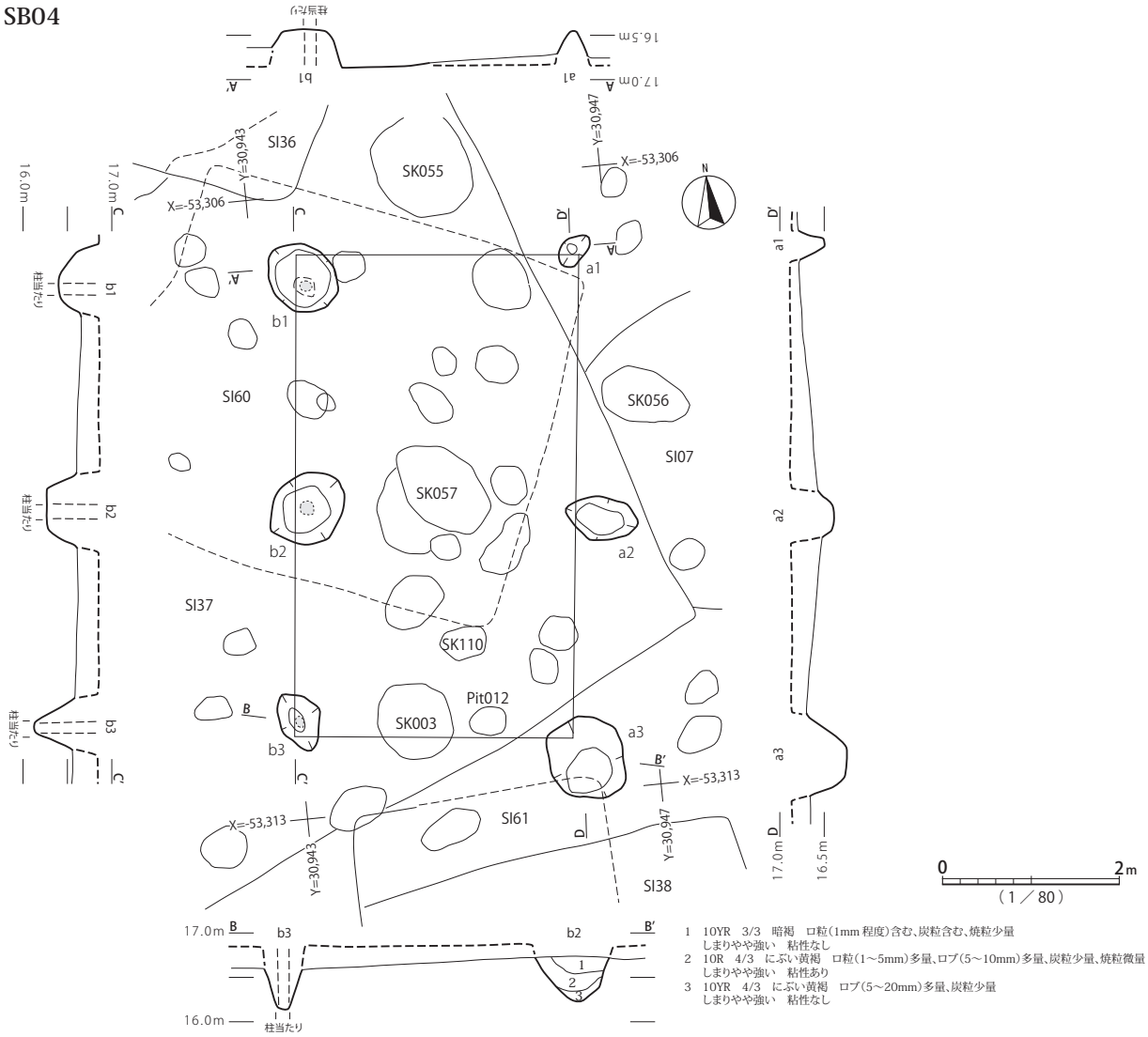
形態・規模　主にB3区に位置し、SI37より後世の遺構である。またSI60は本遺構の上層に貼床層が確認できたことから、本遺構より新しいと思われる。桁行２間、梁行１間の南北棟側柱建物であり、主軸方位はN−6.0°−Eである。規模は桁行推定5.40m、梁行推定3.18mを測る。柱間寸法は桁行約８～９尺、梁行約11尺であり、柱通りは悪く、粗雑な造りであったと考えられる。

出土遺物　掲載遺物はない。また非掲載遺物として、b1から東海産須恵器瓶壺類などがある。出土遺物から本遺構の帰属時期を推定することは困難だが、後述するSB15と棟方向や主軸方向が類似することから９世紀の遺構と推測される。

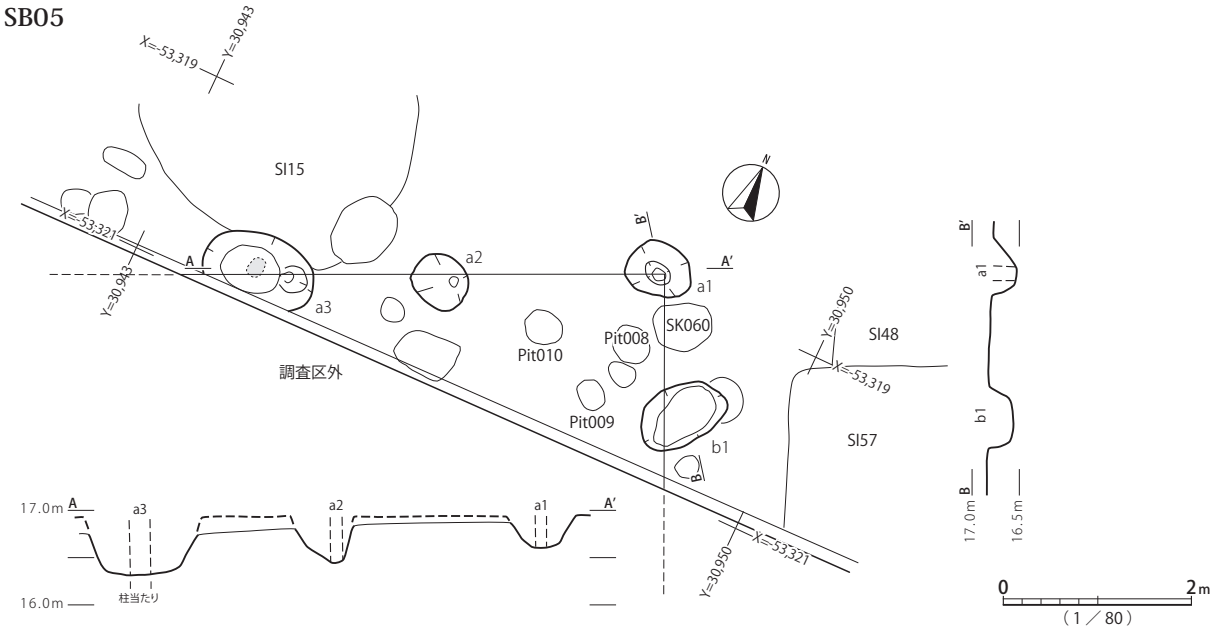
SB05（第 97 図）

形態・規模　主にB4区に位置し、建物範囲の大半は調査区外へ続く。桁行３間以上、梁行２間以上の東西棟側柱建物と思われ、主軸方位はN−25.0°−Wである。規模は桁行4.85m以上、梁行2.12m以上を測る。柱間寸法は桁行約７尺等間、梁行約５尺であり、柱通りは悪く、粗雑な造りであったと考えられる。

SB04



SB05



第97図　SB04・05 遺構図

出土遺物　掲載遺物はない。また非掲載遺物として、a1から８世紀のものと思われる土師器杯が出土している。出土遺物から本遺構の帰属時期を推定することは困難だが、近接するSB03と主軸方位が類似するため、９世紀の遺構と推測される。

SB06（第98図、図版52）

形態・規模　C4区に位置し、SI43より後世の遺構である。桁行1間、梁行1間の東西棟側柱建物であり、主軸方位はN－49.5°－Eである。規模は桁行4.15m（約14尺）、梁行3.05m（約10尺）を測り、柱通りは良好である。また、a2とb2は土層断面図から柱痕が確認できる。

出土遺物　1は不明土製品であり、a1から出土した。また非掲載遺物として、a1から東海産須恵器杯などが出土している。出土遺物から本遺構の帰属時期を推定することは困難であるが、後述するSB11・SB17と主軸方位が類似するため９世紀代の遺構と推測される。

SB07（第98図）

形態・規模　主にB2区に位置する。桁行２間、梁行１間の東西棟側柱建物であり、主軸方位はN－30.0°－Eである。規模は桁行3.49m、梁行1.90mを測る。柱間寸法は桁行約５～６尺、梁行約６尺であり、柱通りは比較的良好である。

出土遺物　掲載遺物はない。また非掲載遺物も少なく、b3から古墳時代前期（草刈式）のものと思われる土師器高杯が出土している。本遺構は後述の、近接するSB08と棟方向や主軸方位が類似することから、９世紀中葉の遺構と推測される。

SB08（第99図、図版17・34・46・55）

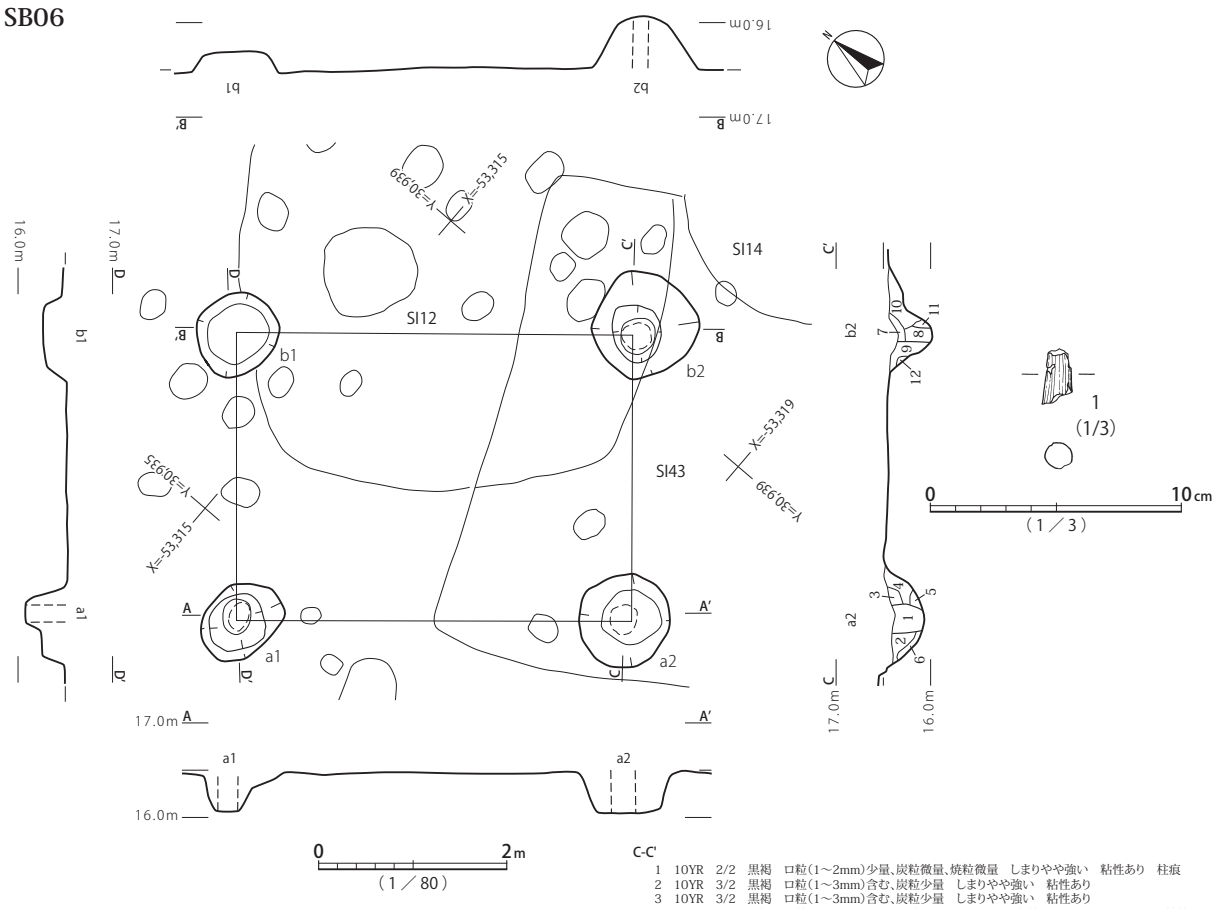
形態・規模　主にC2～D2区に位置し、SI64はSB08より後世の遺構である。またc1はSI66の北壁隅を破壊していることから、本遺構はSI66より新しい。桁行４間、梁行２間の東西棟側柱建物であり、主軸方位はN－34.0°－Eである。規模は桁行8.19m、梁行4.15mを測る。柱間寸法は桁行では概ね７尺等間、梁行では北側で５尺、南側で約９尺であり、柱通りは良好である。本遺構のb1－c1・b5－c5間には柱穴は確認されず、梁行の南側をやや広くとる。また、a2は柱の抜き取りが行われた痕跡がある。この他、a1・b1・c1・a4・a5・b5は土層断面図から柱痕が確認できる。

出土遺物　1は弥生土器鉢であり後期（久ヶ原式～山田橋式）のもの、2は古墳時代終末期（鬼高式）の土師器杯で７世紀中葉～後葉の所産と思われる。3は土師器タタキ甕の小片、4は貝巣穴泥岩である。2・4はa2、1・3はa5から出土した。また非掲載遺物として、a1から８世紀の土師器杯、a2から９～10世紀のロクロ土師器杯、c4から７世紀の土師器杯などが出土している。出土遺物と周辺遺構との切り合い関係から、本遺構は９世紀中葉の帰属と考えられる。

SB09（第100図、図版46）

形態・規模　D1・D2・E1・E2区にかけて位置し、SI44・SI68より後世の遺構である。桁行２間、梁行１間の南北棟側柱建物であり、主軸方位はN－26.0°－Eである。規模は桁行2.85m、梁行2.90mを測り、柱間寸法は桁行で概ね４～５尺、梁行で約10尺である。柱通りは非常に悪く、粗雑な造りであった

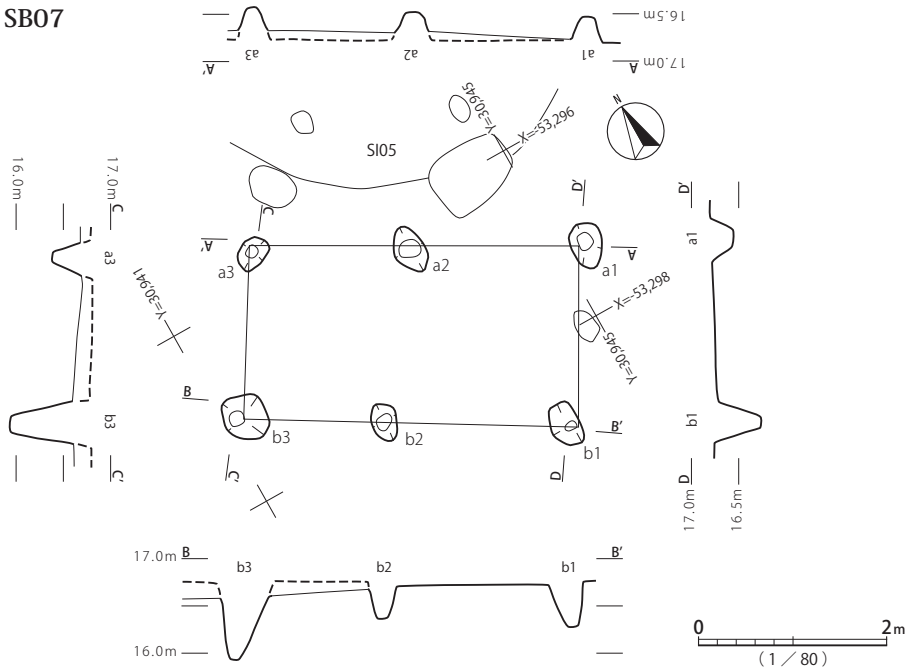
SB06



C-C'

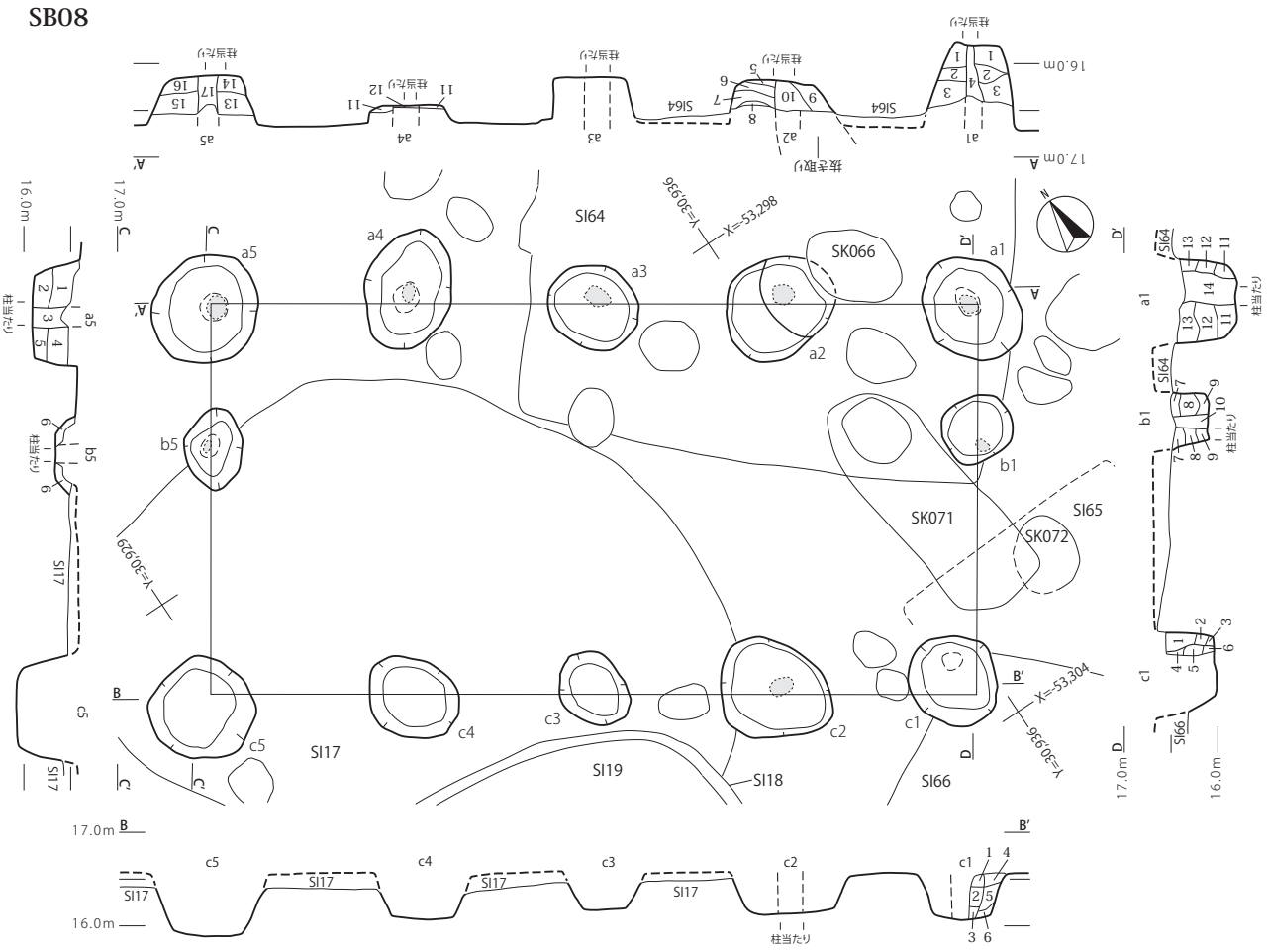
1	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1～2mm)少量、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり　柱痕
2	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
3	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
4	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～10mm)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
5	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量　しまりやや強い　粘性あり
6	10YR	6/4	にぶい黄橙	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量　しまり弱い　粘性あり
7	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～3mm)少量、炭粒微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
8	10YR	2/2	黒褐	ロ粒(1～5mm)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり　柱痕
9	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～15mm)含む、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
10	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1～5mm)多量、ロブ(5～10mm)多量、炭粒少量　しまり弱い　粘性あり
11	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
12	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒(1～2mm)含む　しまり弱い　粘性あり

SB07



第98図　SB06・07 遺構図、SB06 遺物実測図

SB08



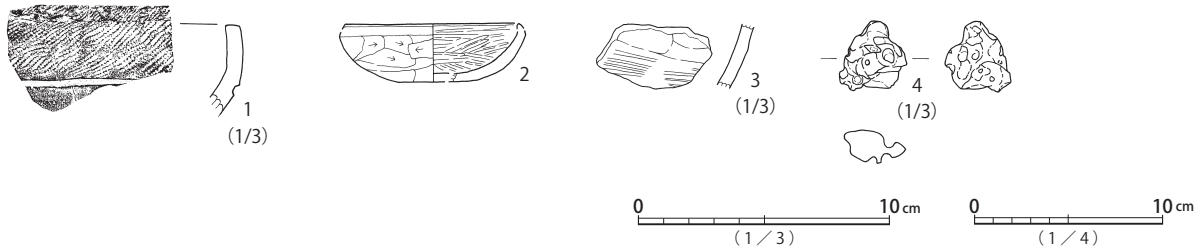
A-A'
1 10YR 4/4 褐 ロブ(10～30mm)多量、炭粒少量、焼粒少量 しまり強い 粘性あり
2 10YR 3/1 黒褐 ロブ(5～15mm)多量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/1 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまり強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む しまり弱い 粘性あり 柱痕
5 10YR 4/4 褐 ロブ(5～15mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 2/1 黒 ロブ(8mm 程度)含む、炭粒少量、焼粒少量 しまり強い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5～20mm)含む、炭粒含む しまり弱い 粘性あり
8 10YR 3/3 暗褐 ロブ(5～10mm)含む しまり強い 粘性あり
9 10YR 3/4 暗褐 ロブ(10～30mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/3 暗褐 炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり 柱抜き取り痕
11 10YR 7/8 黄橙 ロ粒(1～3mm)多量 しまり弱い 粘性あり 裏込
12 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)多量 しまり弱い 粘性あり 柱痕
13 10YR 3/2 黒褐 ロブ(5～20mm)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり 裏込
14 10YR 3/2 黒褐 ロブ(5～10mm)少量 しまりやや強い 粘性あり 裏込
15 10YR 2/2 黒褐 ロブ(5～100mm)多量 しまりやや強い 粘性あり 裏込
16 10YR 6/6 明黄褐 ロ粒(1～3mm)多量、黒褐色土多量 しまり弱い 粘性あり 裏込
17 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)少量 しまり弱い 粘性なし 柱痕

B-B'
1 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、ロブ(5～8mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 5/4 にぶい黄褐 ロ粒(3～5mm)多量、炭粒少量 しまり弱い 粘性なし
5 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり 柱痕

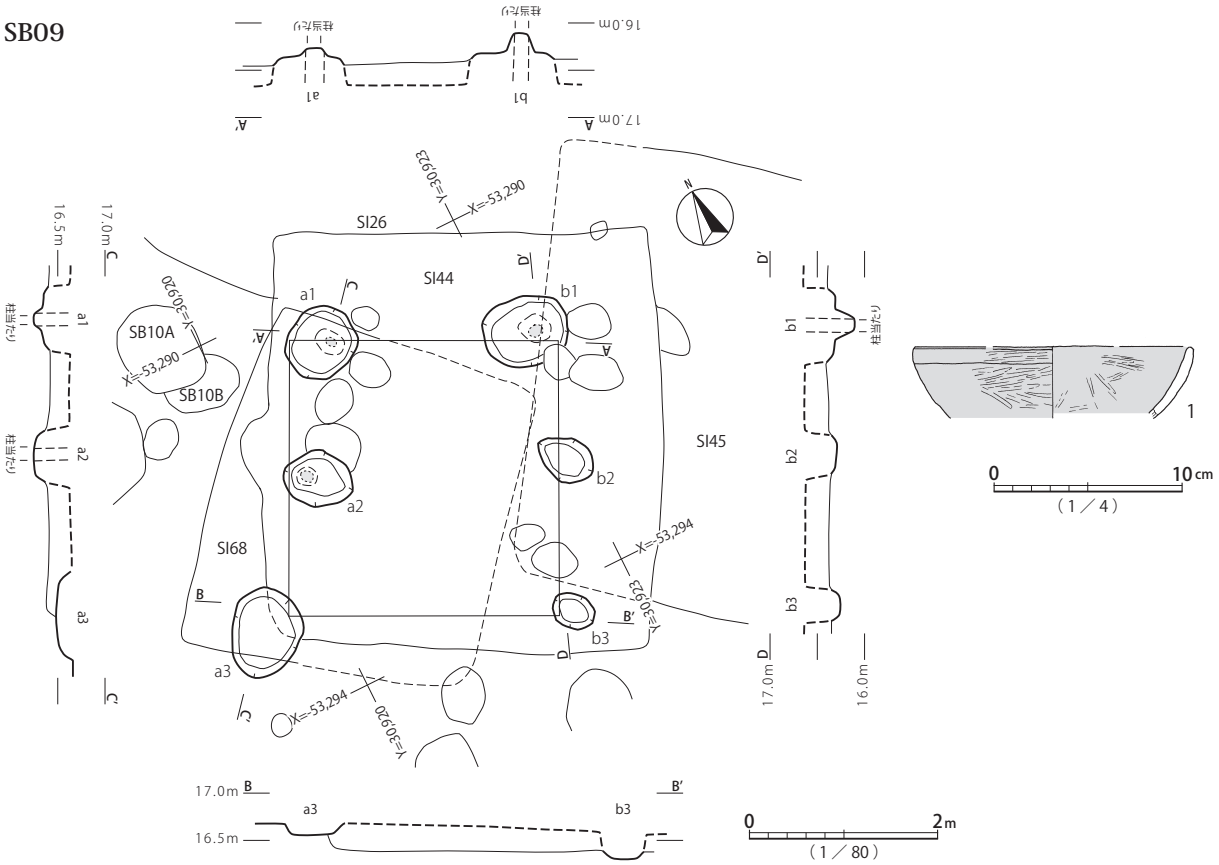
C-C'
1 10YR 2/2 黒褐 ロブ(5～100mm)多量 しまりやや強い 粘性あり 裏込
2 10YR 6/6 明黄褐 ロ粒(1～3mm)多量、黒褐色土多量 しまり弱い 粘性あり 裏込
3 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)少量 しまり弱い 粘性なし 柱痕
4 10YR 3/2 黒褐 ロブ(5～20mm)多量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり 裏込
5 10YR 3/2 黒褐 ロブ(5～10mm)少量 しまりやや強い 粘性あり 裏込
6 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒(1～5mm)含む しまり弱い 粘性あり 裏込

D-D'
1 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、ロブ(5～8mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性なし
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 5/4 にぶい黄褐 ロ粒(3～5mm)多量、炭粒少量 しまり弱い 粘性なし
5 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり 柱痕
6 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり 柱痕
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/2 黒褐 ロブ(5～15mm)多量、炭粒含む しまり弱い 粘性あり
9 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)少量、ロブ(5～15mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり 柱痕
11 10YR 4/4 褐 ロブ(10～30mm)多量、炭粒少量、焼粒少量 しまり強い 粘性あり
12 10YR 3/1 黒褐 ロブ(5～15mm)多量、炭粒少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 3/1 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む、焼粒含む しまり強い 粘性あり
14 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒含む しまり弱い 粘性あり 柱痕

0 2m (1／80)



第99図 SB08 遺構図・遺物実測図



第100図　SB09 遺構図・遺物実測図

と考えられる。

出土遺物　1は土師器杯で7世紀の所産と思われる。また非掲載遺物として、弥生時代終末期～古墳時代前期（中台式～草刈式）の土師器甕などがある。出土遺物から本遺構の帰属時期を判断することは困難だが、SI44・SI68より後世であること、またSB08と主軸方位が類似することから9世紀中葉と考えた。

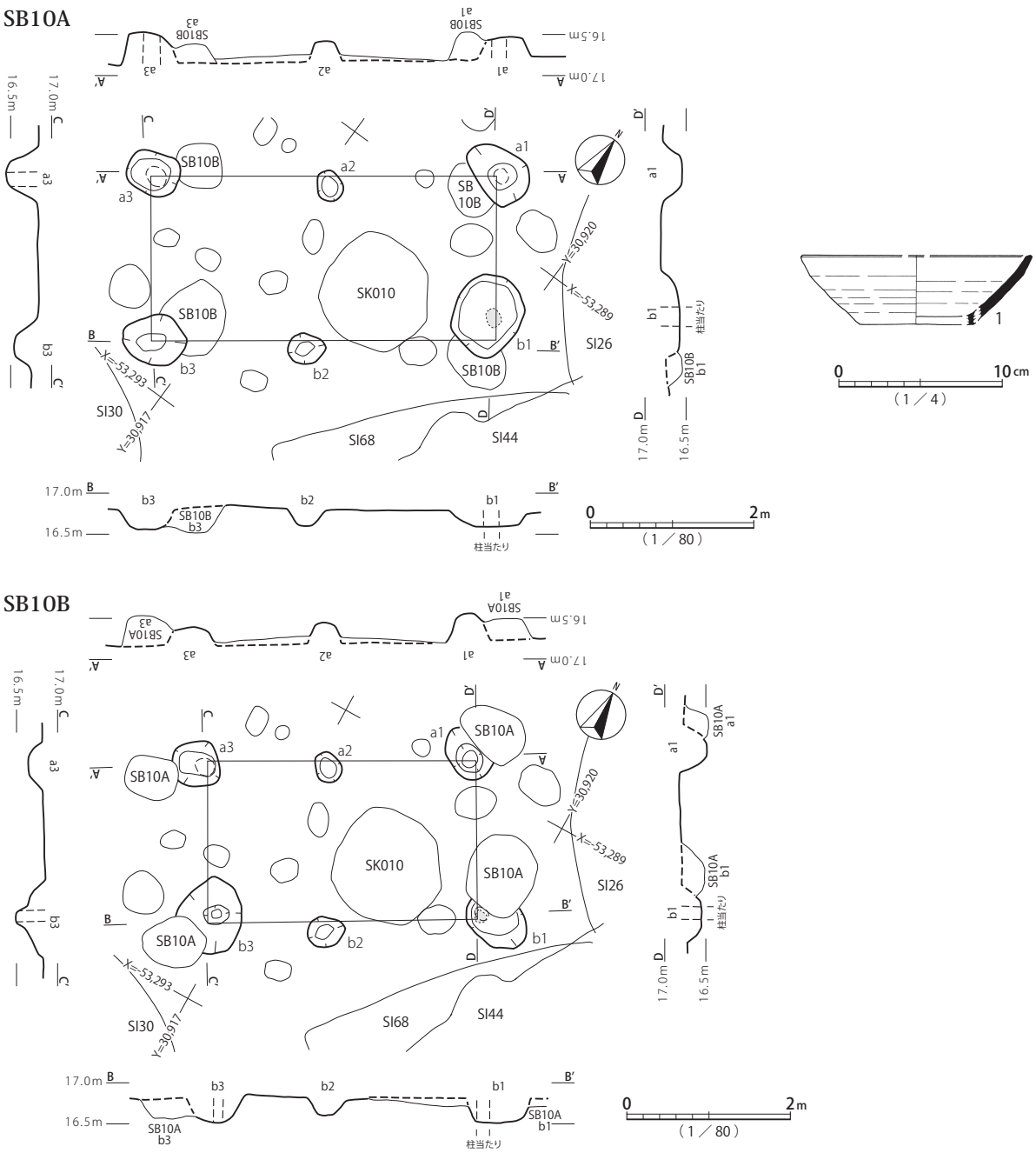
SB10A（第101図、図版46）

形態・規模　主にE1区に位置し、後述するSB10Bの建て替えと思われる。桁行2間、梁行1間の東西棟側柱建物であり、主軸方位はN－37.0°－Wである。規模は桁行4.20m、梁行1.99mを測り、柱間寸法は桁行約6～7尺、梁行約7尺である。柱通りは悪く、粗雑な造りであったと考えられる。

出土遺物　1はb1から出土した東海産須恵器杯であり、8世紀中葉の所産と思われる。また非掲載遺物として、b1から東海産須恵器瓶壺類などが出土している。SB10Bが7世紀末～8世紀前葉と推測されることから、本遺構は8世紀前葉～中葉の帰属と思われる。

SB10B（第101図）

形態・規模　主にE1区に位置し、後世に先述のSB10Aに建て替えられている。桁行2間、梁行1間の東西棟側柱建物であり、主軸方位はN－28.5°－Wである。規模は桁行3.26m、梁行1.93mを測り、柱間寸法は桁行約5～6尺、梁行約6尺である。柱通りは調査区内では比較的良好な造りであったと



第101図　SB10A・10B 遺構図、SB10A 遺物実測図

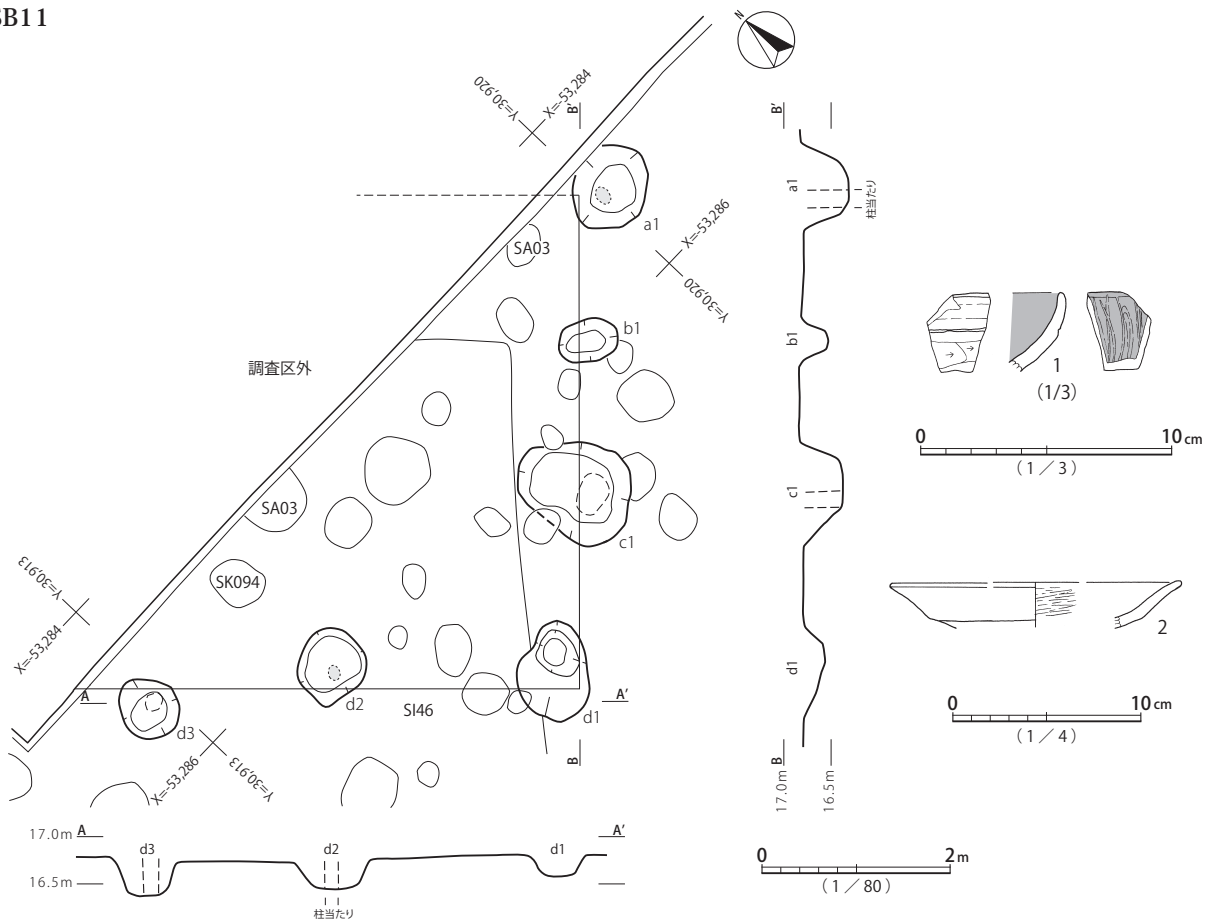
思われる。

出土遺物　掲載遺物はない。また非掲載遺物として、弥生時期後期（久ヶ原式～山田橋式）の鉢などがあるが、遺物数は僅かである。出土遺物から本遺構の帰属時期を判断することは困難だが、主軸方位が南方約12mに位置するSI49と類似していることから７世紀末～８世紀前葉と推測される。

SB11（第 102 図、図版 46）

形態・規模　主にE1区に位置し、建物範囲の大半は調査区外へ続く。またSI46より後世の遺構である。桁行３間以上、梁行３間以上の東西棟側柱建物と考えられ、主軸方位はN－47.0°－Eである。規模は桁行推定5.20m以上、梁行推定5.22mを測り、柱間寸法は桁行約６～９尺、梁行約５～７尺である。

SB11



第102図　SB11 遺構図・遺物実測図

調査区内の掘立柱建物跡の中では比較的大型であるが、柱通りは悪く、粗悪な造りであったと思われる。

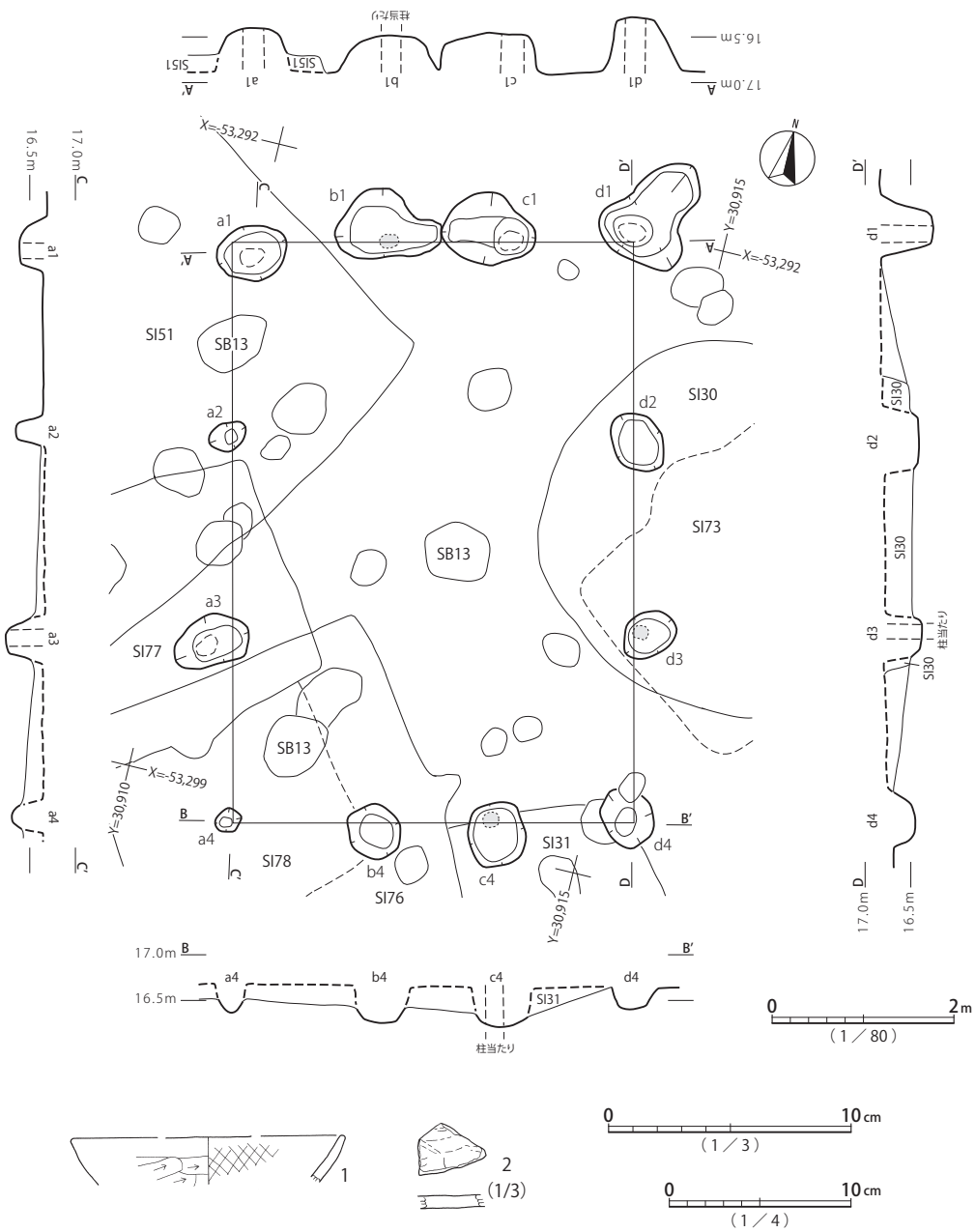
出土遺物　1は7世紀後葉～末の土師器杯であり、内面に放射状暗文が見られる。2は古墳時代後期（鬼高式）の土師器高坏である。1はd2、2はc1から出土した。また非掲載遺物として、a1から千葉産須恵器甕や新治産須恵器杯、8世紀の土師器杯、c1から9世紀のロクロ土師器杯や千葉産・新治産須恵器杯、d2やd3から8世紀の土師器杯などが出土している。出土遺物から本遺構は9世紀の帰属と思われる。

SB12（第 103 図、図版 46）

形態・規模　主にE2区・法定外道路区に位置し、SI51より後世の遺構である。またa3とa4・b4はそれぞれSI77とSI76の貼床下層に位置したことから、SI76・SI77に先行する遺構と考えられる。桁行3間、梁行3間の南北棟側柱建物であり、主軸方位はN−13.5°−Wである。規模は桁行6.30m、梁行4.40mを測り、柱間寸法は桁行約7尺等間、梁行概ね5尺等間である。調査区内の掘立柱建物跡の中では比較的大型であり、柱通りも比較的良好な造りである。

出土遺物　1は内面に斜格子状暗文のある土師器杯であり8世紀中葉～後葉の所産と考えられる。2は畿内産土師器杯の小片である。両者ともにa3から出土した。また非掲載遺物として、a1から東海

SB12



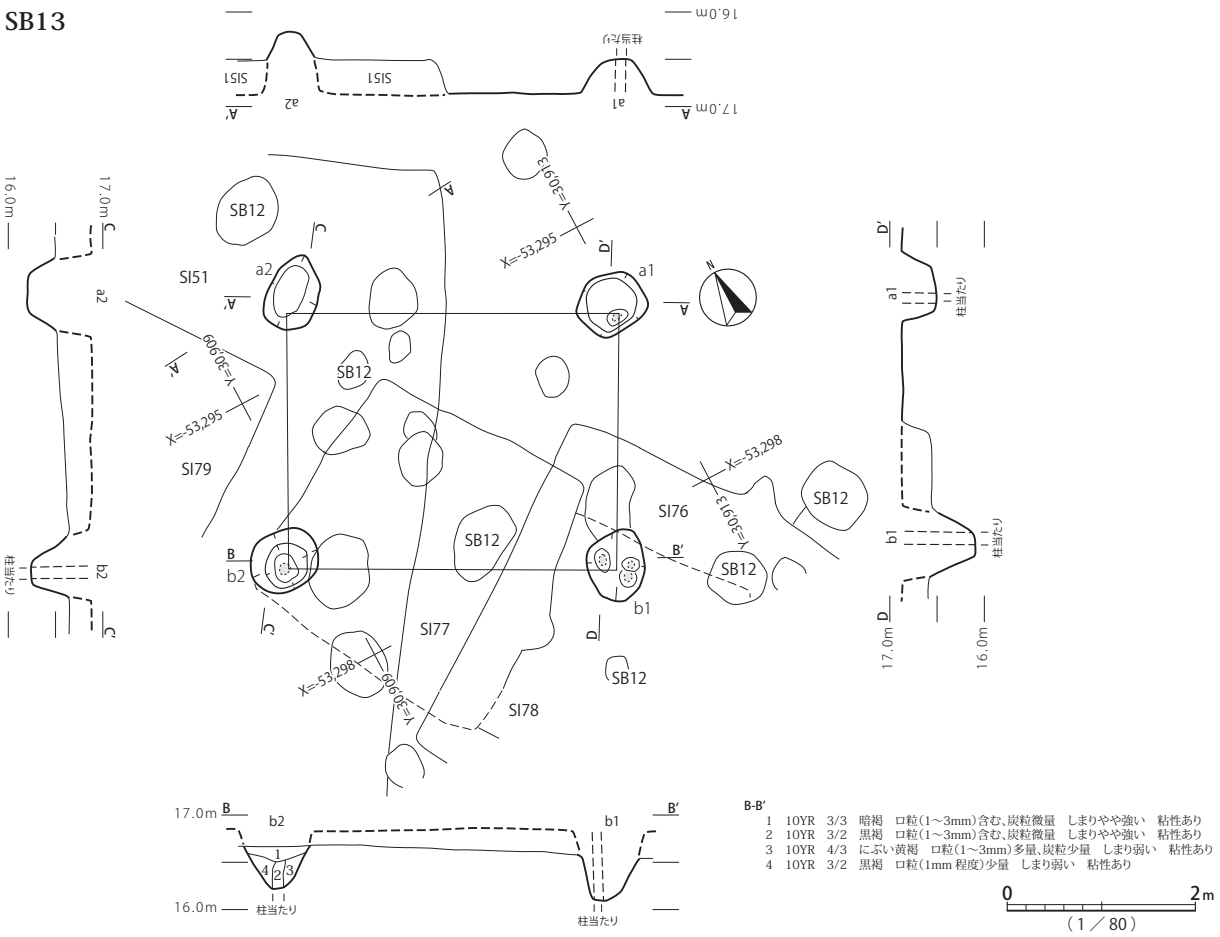
第103図　SB12 遺構図・遺物実測図

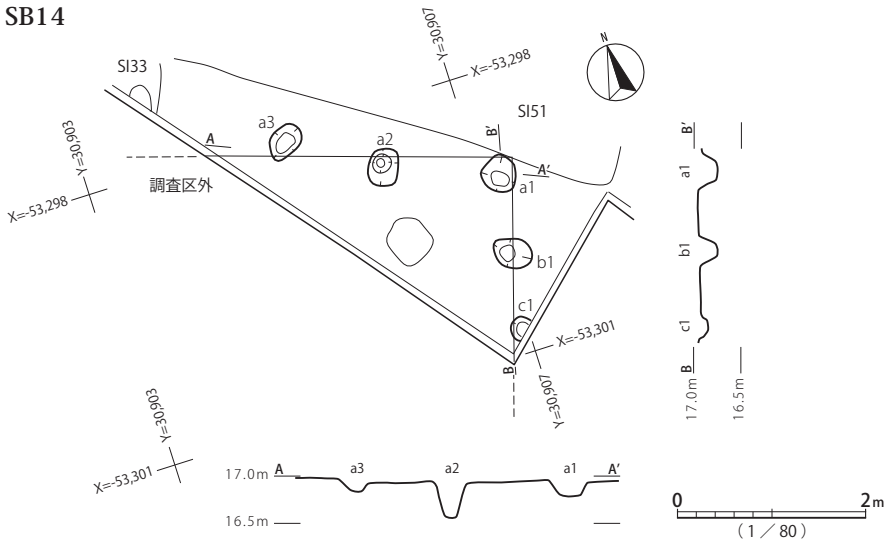
産須恵器甕、a3から武蔵型の土師器甕、b1から９世紀のロクロ土師器杯などが出土している。出土遺物と周辺遺構との切り合い関係から、本遺構の帰属時期は９世紀前葉と考えられる。

SB13（第 104 図）

形態・規模　主に法定外道路区に位置し、SI51より後世の遺構である。またb1はSI76の柱穴P4と土坑を共有しており、本遺構はSI76に先行すると思われる。桁行１間、梁行１間の東西棟側柱建物であり、主軸方位はN−28.0°−Eである。規模は桁行3.50m（約12尺）、梁行27.0m（９尺）を測り、柱通りは比較的良好である。

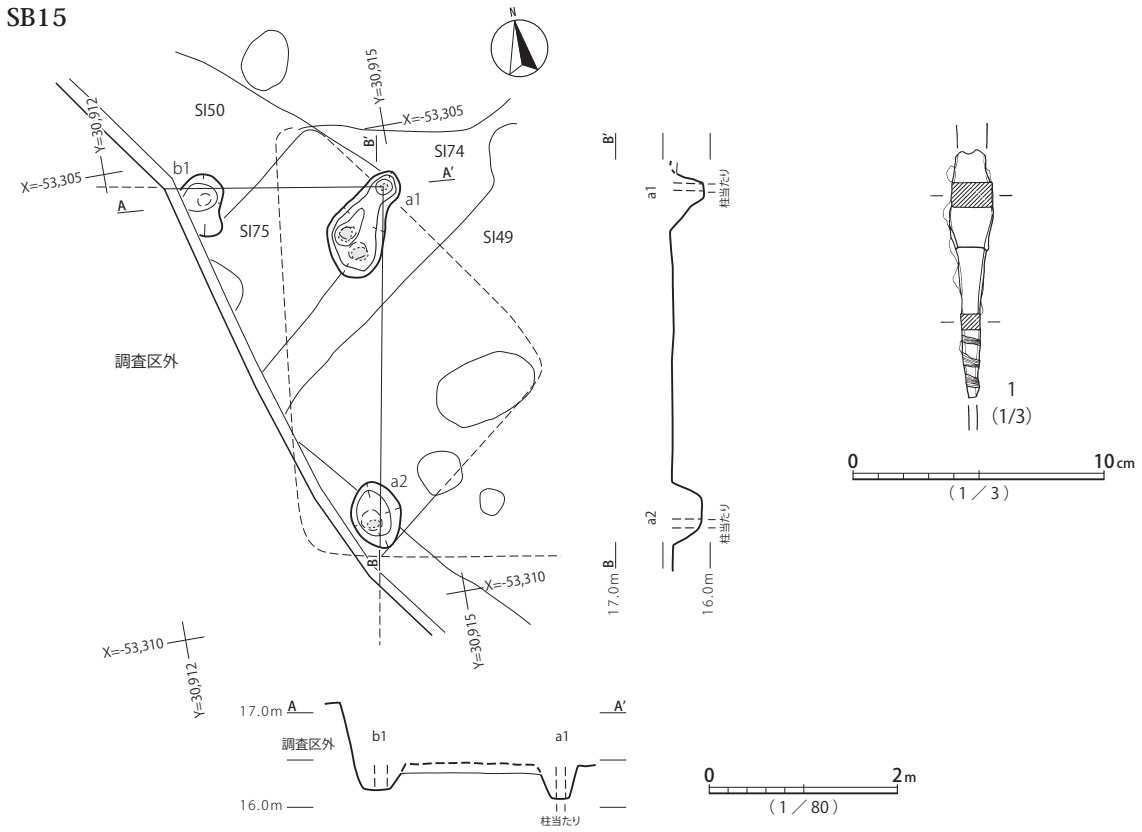
出土遺物　掲載遺物はない。また非掲載遺物として、b1から千葉産須恵器甕などが出土している。





第104図　SB13・14 遺構図

出土遺物から本遺構の時期推定は困難であるが、主軸方位がSB07・SB08と類似するため、9世紀中葉の遺構と推測される。



第105図　SB15 遺構図・遺物実測図

SB14（第 104 図）

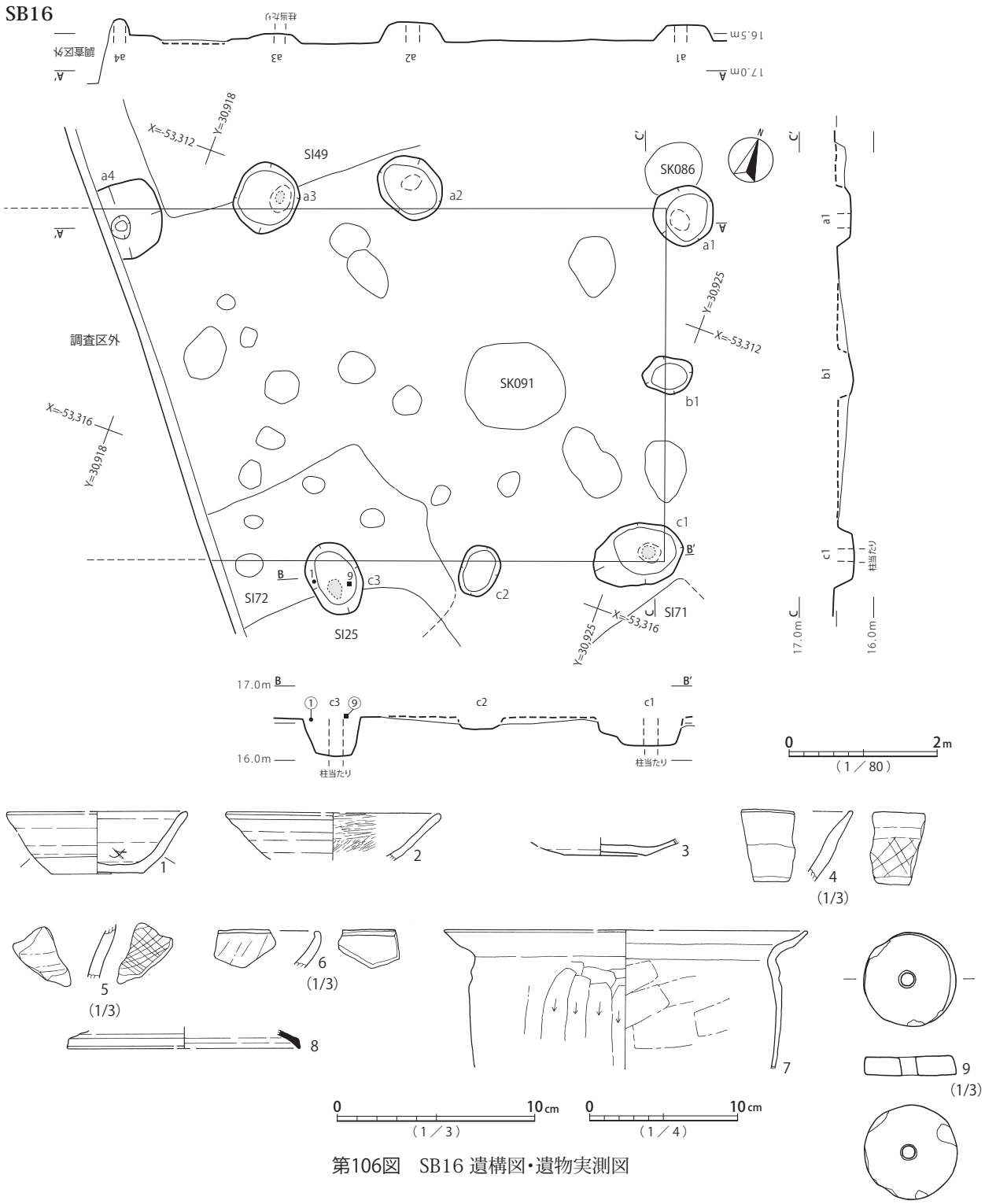
形態・規模　西端区に位置し、建物範囲の大半は調査区外へ続く。桁行３間以上、梁行３間以上の東西棟側柱建物であり、主軸方位はN－17.0°－Eである。規模は桁行3.10m以上、梁行2.05m以上を測り、柱間寸法は桁行約３～５尺、梁行約３尺等間である。柱通りは悪く、また遺構規模及び柱間寸法は、調査区内その他の掘立柱建物跡と比較しても非常に貧弱である。

出土遺物　掲載遺物はない。また非掲載遺物として、a2から土師器は数点出土したのみである。出土遺物から本遺構の時期推定は困難であるが、その他の掘立柱建物跡とは主軸方位や規模が異なるため、中世に帰属する可能性がある。

SB15（第 105 図、図版 56）

形態・規模　主にE3区に位置し、建物範囲の大半は遺構外へ続く。SI50より後世の遺構であり、またa1はSI74・SI75の貼床の下層に位置することから本遺構はこれらの竪穴建物跡に先行すると考えられる。桁行２間以上、梁行２間以上の南北棟側柱建物であり、主軸方位はN－10.5°－Eである。規模は桁行4.05m以上、梁行2.20m以上を測り、柱間寸法は桁行約12尺、梁行約６尺である。確認範囲が狭小であるが、柱通りは比較的良好である。

出土遺物　1はa2から出土した鉄鏃であり、茎部下部に口巻痕が見られる。また非掲載遺物として、a1から千葉産・新治産須恵器杯が１点ずつ、東海産須恵器甕等が出土している。出土遺物から本遺構は９世紀に帰属すると思われる。

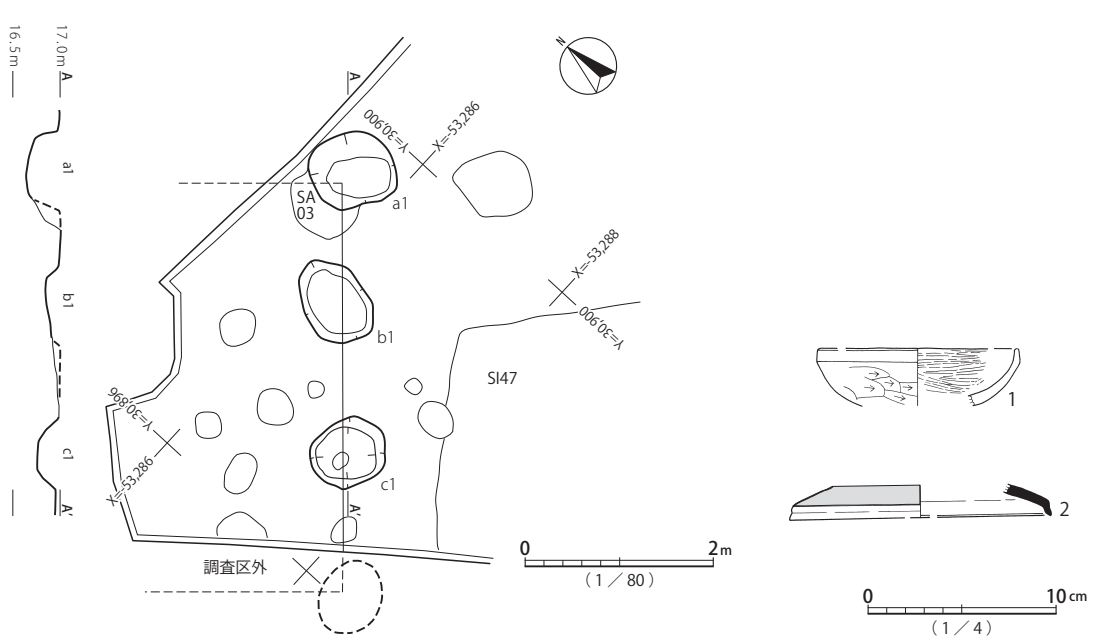


第106図　SB16 遺構図・遺物実測図

SB16（第 106 図、図版 34・46・55・57）

形態・規模　D3・D4・E3・E4 区に位置し、SI25・SI49 より後世の遺構である。また c3 は SI72 の貼床層の下層に位置することから、本遺構は SI72 に先行すると考えられる。桁行 4 間以上、梁行 2 間の東西棟側柱建物であり、主軸方位は N−20.0°−W である。規模は桁行 7.55m 以上、梁行 4.74m 以上を測り、柱間寸法は桁行約 6 ～ 11 尺、梁行約 8 尺等間である。調査区内の他の掘立柱建物跡の中では比較的規模は大きいが、柱通りは悪く、柱間寸法も差が大きいことから粗雑な造りであったと思われる。

SB17



第107図　SB17 遺構図・遺物実測図

出土遺物　1～3は9世紀のロクロ土師器杯であり、特に1の内面には「丈」の焼成前刻書が見られる。時期として、1・2は前葉～中葉と思われる。4・5は8世紀前葉～中葉の土師器杯であり、両者ともに内面に斜格子状暗文がある。6は畿内産土師器皿Aであり、平城II～III期の所産と思われる。7は土師器甕、8は湖西産須恵器蓋であり8世紀のものと考えられる。9は石製紡錘車である。1・3・7・9はc3から、2はc1から、4・5・6・8はa2から出土した。また非掲載遺物として、a2から東海産須恵器高台付杯や瓶壺類、c1から9～10世紀のロクロ土師器、c3から千葉産須恵器杯・甕などが出土している。本遺構の帰属時期は、出土遺物の様相から8世紀後葉～9世紀前葉と考えられる。

SB17（第107図、図版46）

形態・規模　西端区に位置し、建物範囲の大半は遺構外へ続く。a1はSA03P1を切っていることから、本遺構はSA03より後世に属する。梁行3間以上の東西棟側柱建物、主軸方位はN-47.0°-Eであったと考えられる。梁行の規模は4.30m以上、柱間寸法は5尺等間である。確認できる範囲は狭小だが、柱通りは比較的良好である。

出土遺物　1は土師器杯で古墳時代終末期のもの、2は東海産須恵器蓋である。1はb1から、2はa1から出土した。また非掲載遺物として、a1から9～10世紀のロクロ土師器杯などが出土している。出土遺物から本遺構は9世紀の帰属と考えられる。

第3節　柵列

SA01（第108図）

形態・規模・出土遺物　A2区～B2区に位置し、主軸方位はN-80°-Wである。長さは約3.6m、柱間寸法は1.5m～2.0m（約5～7尺）であり、柱通りは悪い。掲載・非掲載ともに出土遺物はなく、また他の遺構の切り合いもないため、この遺構の帰属時期は不明である。

SA02（第 108 図、図版 47）

形態・規模・出土遺物　C1区～ D2区に位置し、主軸方位はN－82°－Eである。長さは約4.2m、柱間寸法はP1－P2間で約3.8m（約13尺）、P2－P3間で約4.5m（約15尺）を測り、柱通りは比較的良好である。掲載遺物として、1は古墳時代中期（和泉式）の土師器杯であり、P3から出土した。また非掲載遺物として、P3から7世紀のものと思われる土師器杯などが出土している。本遺構はSI39・SI45を切っていることから古墳時代中期に帰属するが、詳細は不明である。

SA03（第 108 図）

形態・規模・出土遺物　E1区～西端区に位置し、主軸方位はN－88°－Eである。長さは約20.0m、柱間寸法は3.0m ～ 4.7m（約10～16尺）を測り、柱通りは悪い。掲載遺物はないが、非掲載遺物として、土師器甕や高杯などがある。出土遺物からこの遺構の時期推定は困難であるが、P4・P5はSI47を切っており、またP1はSB17に切られていることから8世紀頃の遺構の可能性がある。

第 4 節　溝・道路

SD01・SK039・SK040・SK113・SK114（第 109 図、図版 17・47・56）

形態・規模・出土遺物　SD01はA3 ～ A4区に位置し、A3区側の大半は後世の撹乱によって破壊されていた。本遺構の幅は約0.5m、深さは約0.3mを測り、主軸方位はN－22°－Eである。また、径約0.9m、深さ約0.1mのSK040を切っている。掲載遺物として、1は中世在地土器カワラケであり、13世紀後半～ 14世紀前半の所産と考えられる。2は新治産須恵器高盤の脚部である。非掲載遺物として、9 ～ 10世紀のロクロ土師器杯や灰釉陶器瓶壺類などがある。出土遺物から本遺構は中世（13世紀後半～ 14世紀前半）の帰属と考えられる。

SK039はSD01の東約2.0mに位置し、一辺約1.2 ～ 1.3m、深さ約0.2mの方形を呈する。出土遺物として、1は鉄鏃であり、中世の遺物の可能性がある。

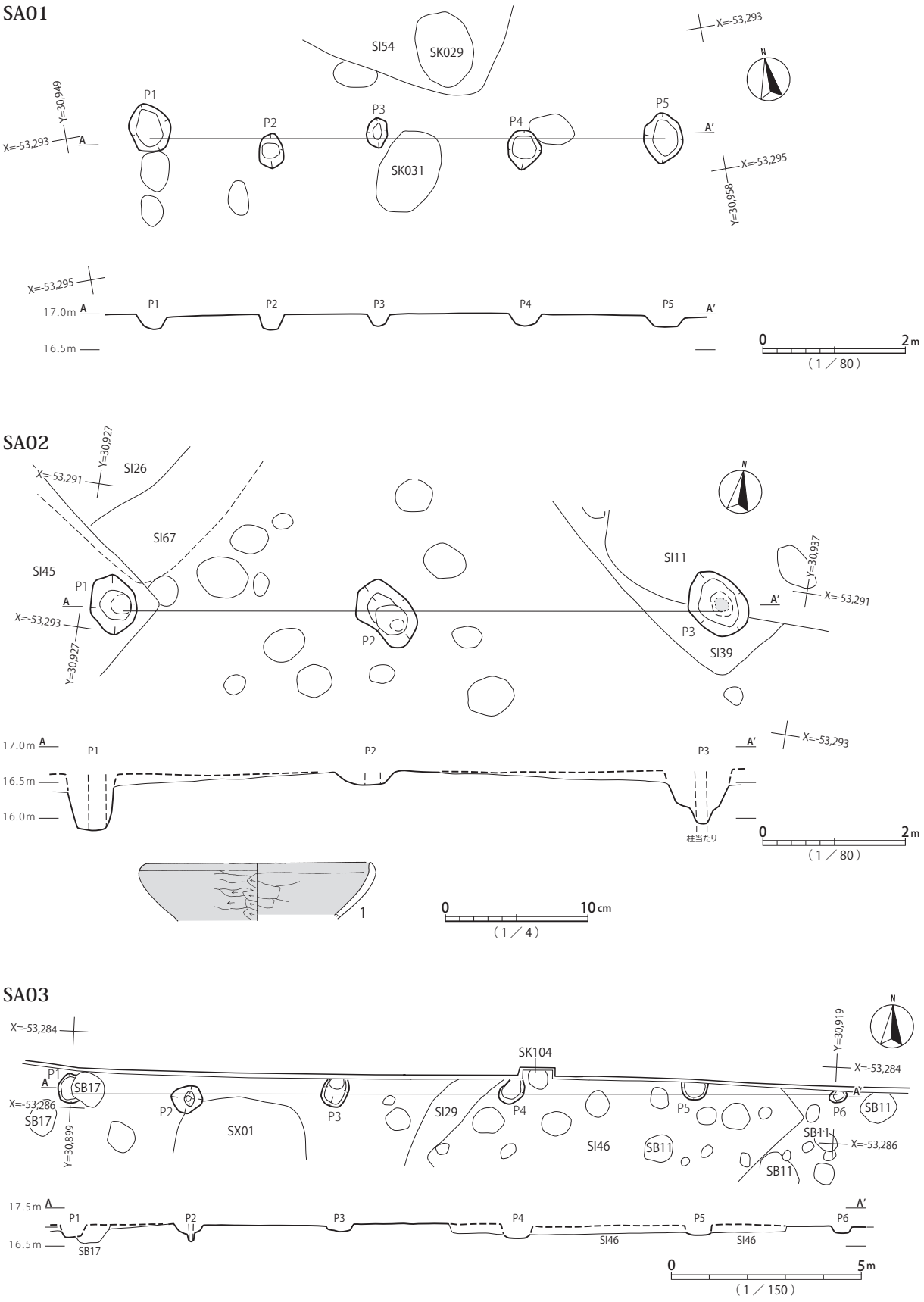
その他、方形を呈する土坑SK039・SK113・SK114がSD01の東側に位置する。出土遺物は僅かであるが、中世の溝と思われるSD01に区切られた範囲に集中的に分布すること、またSK039の出土遺物から、これら方形土坑は中世の遺構であり、SD01は区画溝と思われる。

SD02（第 110 図、図版 17・47・55）

形態・規模・出土遺物　A1・A2・B1区に位置し、一部は後世の撹乱（風倒木）に破壊されていた。またこの遺構は先行するSI02・SI54を破壊している。本遺構の幅は約3.0m、深さは約0.3 ～ 0.45mを測り、底面には硬化面が形成されている。また、この遺構は西側に進むにつれて深度は浅くなる。掲載遺物として、1は常総産須恵器広口壺、2は東海産灰釉陶器平瓶、3は龍泉窯系青磁の盤、4は砥石であり、3は13世紀中葉～ 14世紀初頭の所産と考えられる。出土遺物から本遺構は中世（13世紀中葉～ 14世紀初頭）に帰属する道路であり、先述のSD01と同時期に存在した可能性がある。

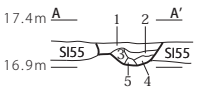
第 5 節　土坑・ピット

SK007（第 111・112 図、図版 35・47・56）

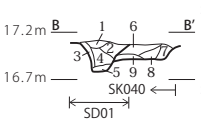


第108図　SA01・02・03 遺構図、SA02 遺物実測図

SD01・SK039・040・113・114

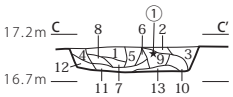


1 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒少量、焼粒少量 しまり強い 粘性なし
2 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり

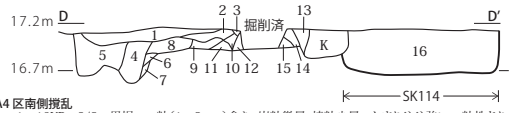


SD01
1 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(3～5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/4 暗褐 ロブ(5～10mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり

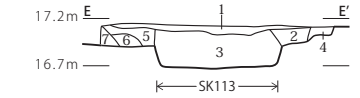
SK040
6 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)多量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む しまり弱い 粘性なし
8 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり



1 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、ロブ(5～15mm)少量、炭粒少量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)少量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(20～30mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)多量 しまり弱い 粘性あり
5 10YR 3/4 暗褐 ロブ(5mm 程度)含む、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
6 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、ロブ(5～20mm)多量、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、ロブ(5～10mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、ロブ(5～10mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)多量、ロブ(5mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、ロブ(5～10mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 4/6 褐 ロ粒(1mm 程度)多量 しまり弱い 粘性あり



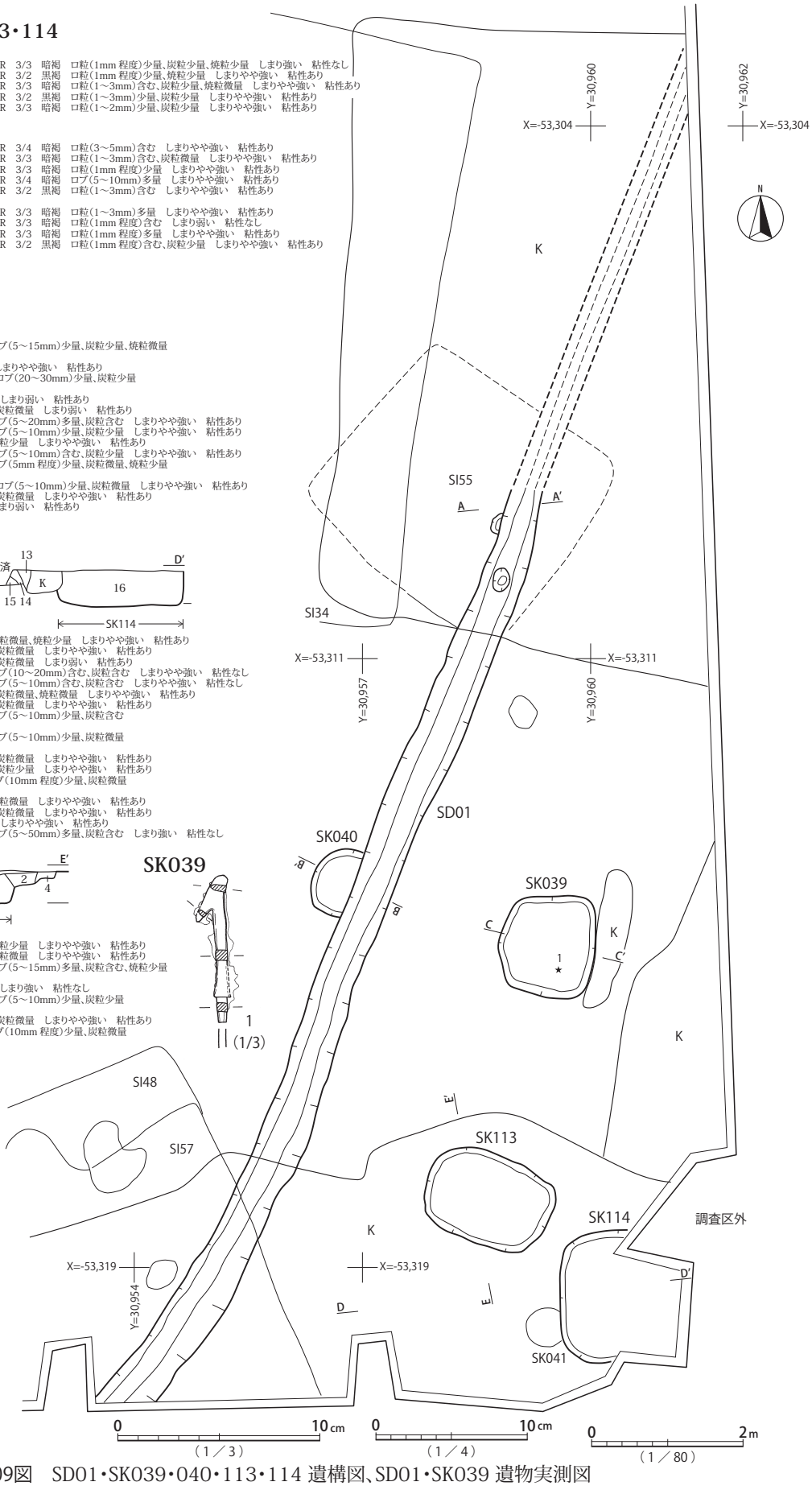
A4 区南側撹乱
1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)含む、炭粒微量、焼粒少量 しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまり弱い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～5mm)多量、ロブ(10～20mm)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性なし
5 10YR 2/3 黒褐 ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～10mm)含む、炭粒含む しまりやや強い 粘性なし
6 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 2/2 黒褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、ロブ(5～10mm)少量、炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～3mm)少量、ロブ(5～10mm)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 以下)少量、ロブ(10mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～2mm)含む、焼粒微量 しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
15 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性あり
16 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～5mm)多量、ロブ(5～50mm)多量、炭粒含む しまり強い 粘性なし



A4 区南側撹乱
1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～5mm)多量、ロブ(5～15mm)多量、炭粒含む、焼粒少量 しまりやや強い 粘性なし
4 10YR 5/6 黄褐 ロブ(5～50mm)多量 しまり強い 粘性なし
5 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～10mm)少量、炭粒少量 しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/4 暗褐 ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 4/4 褐 ロ粒(1mm 以下)少量、ロブ(10mm 程度)少量、炭粒微量 しまりやや強い 粘性あり

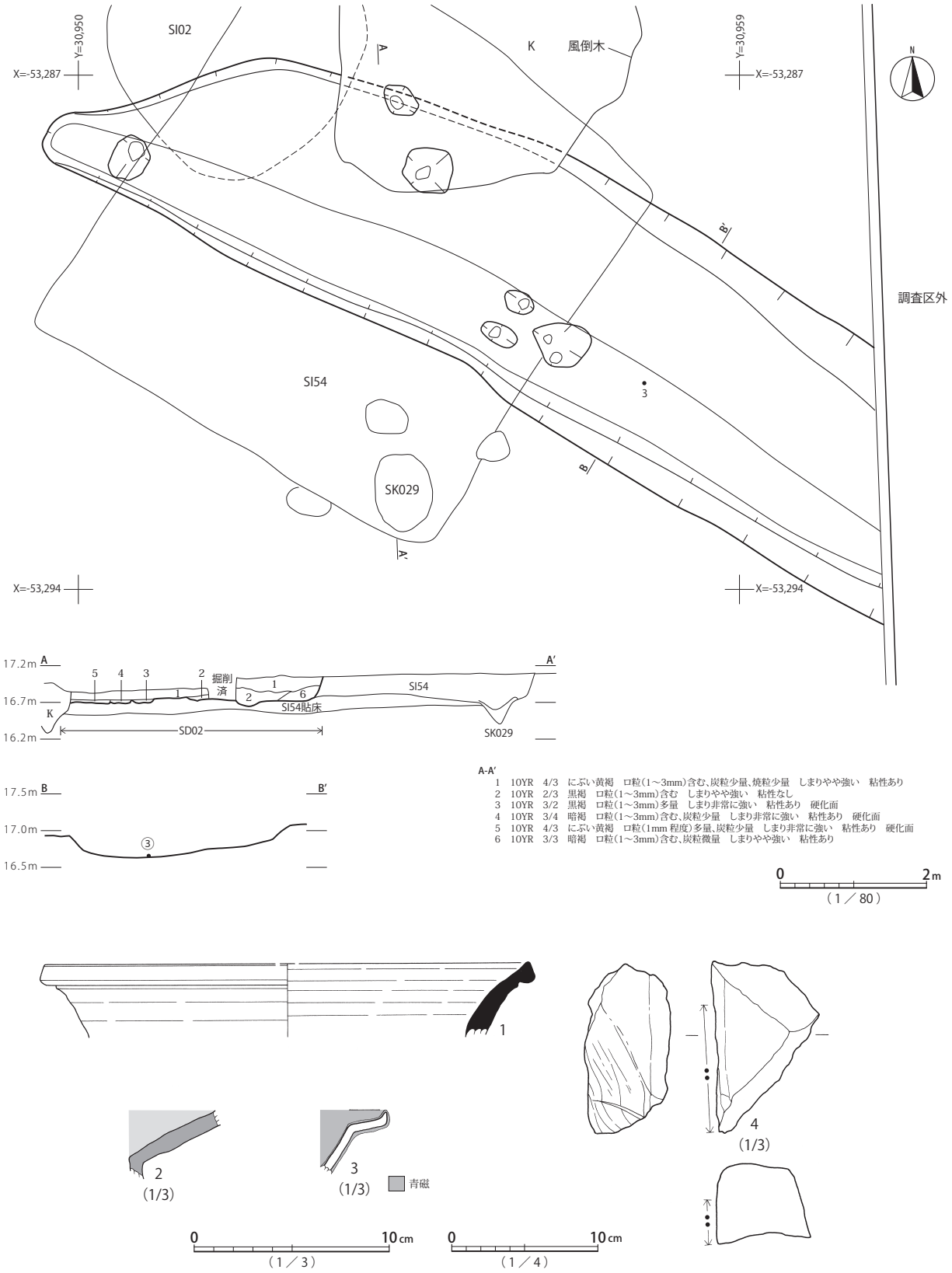
SK039

SD01

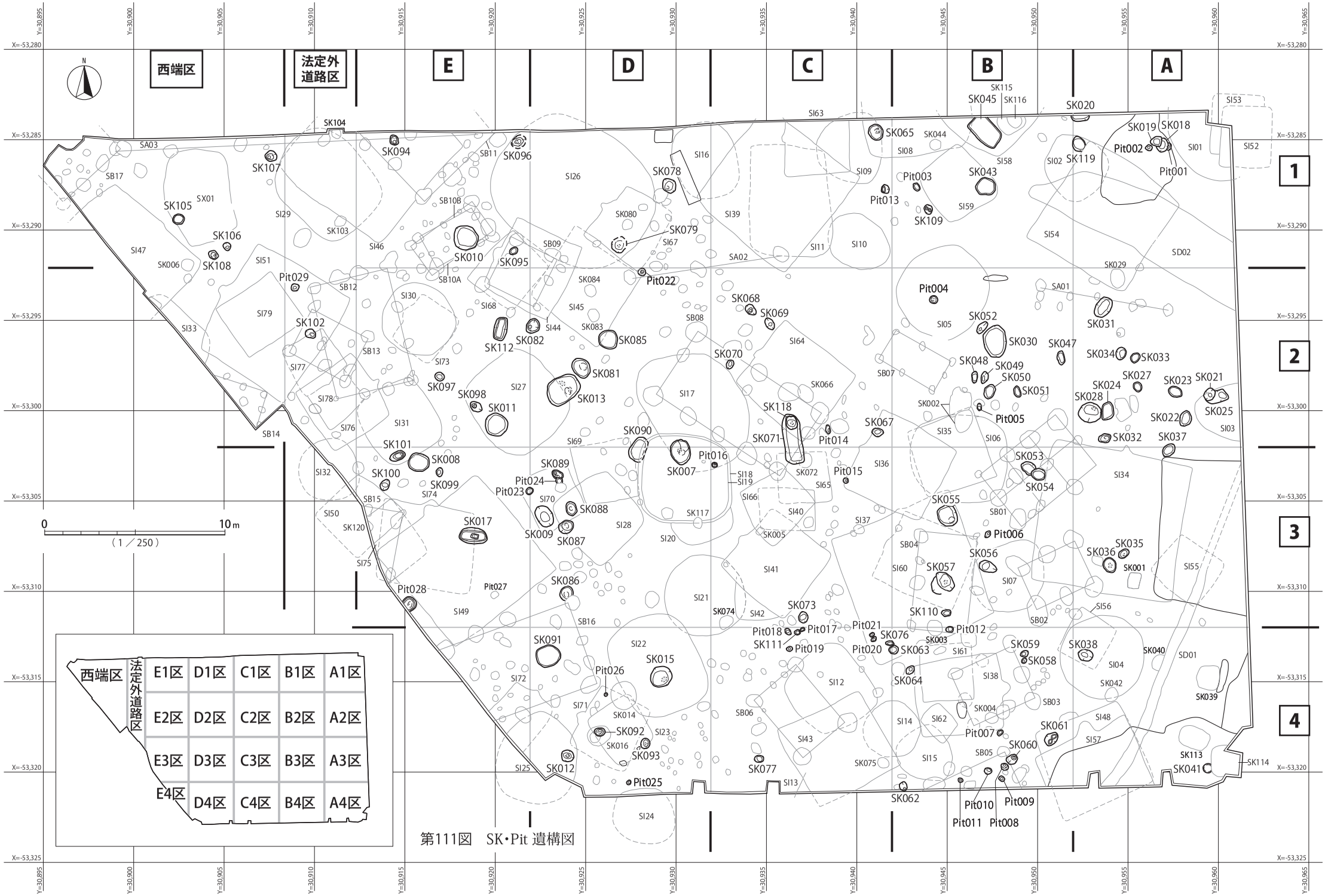


第109図 SD01・SK039・040・113・114 遺構図、SD01・SK039 遺物実測図

SD02



第110図 SD02 遺構図・遺物実測図



第111図　SK・Pit 遺構図

形態・規模・出土遺物　D2 ～ D3区、SI19の内側に位置する。長軸約1.4m×短軸約1.1m、深さ約0.4mの円形を呈し、覆土内には焼土溜まりがあった。出土遺物として、1・2はロクロ土師器の杯であり、前者は9世紀中葉、後者は9世紀前葉～中葉の所産と思われる。3はロクロ土師器の皿であり、内面に油煙が見られることから灯明皿の可能性がある。時期としては9世紀後葉と思われる。4・5はロクロ土師器小型甕であり9世紀のものと考えられる。6は東海産須恵器の広口壺、7は東海産灰釉陶器の椀であり9世紀後半に属すると思われる。8は海老錠の牝金具、9はクルル鉤であり、これらは9世紀後半以降のものと考えられる。出土遺物から本遺構の帰属時期は9世紀後半と思われる。

SK008（第111・112図、図版17・35）

形態・規模・出土遺物　E3区、SI31の南側に位置し、一部SI31の南壁を破壊している。長軸約1.1m～短軸約1.0m、深さ約0.57mの円形を呈し、覆土に焼土粒やロームブロックを多く含んでいた。出土遺物として、1はロクロ土師器の杯であり、内面に被熱痕が見られる。時期として9世紀後葉と思われる。2・3は昨年度確認調査時に覆土表面から出土した遺物であり、前者はロクロ土師器足高高台杯で9世紀末～10世紀前葉のもの、後者はロクロ土師器杯で9世紀中葉のものと考えられる。また、非掲載遺物の中には9～10世紀のロクロ土師器杯がある。よって本遺構の帰属時期は9世紀中葉～10世紀前葉と思われる。

SK009（第111・112図、図版47・55）

形態・規模・出土遺物　D3区、SI28の西隣、SI70の下層に位置する。長軸約1.2m×短軸約0.9mの楕円形を呈し、深さ約0.5mである。覆土に焼土粒を多く含み、特に底部付近には焼土粒溜まりが見られた。出土遺物として、1は内外面赤彩された古墳時代中期（和泉式）の杯、2はロクロ土師器杯で9世紀のものと思われる。3・4は砥石である。また非掲載遺物として、9世紀のロクロ土師器杯や千葉産須恵器などがある。本遺構の帰属時期は出土遺物から9世紀と考えられる。

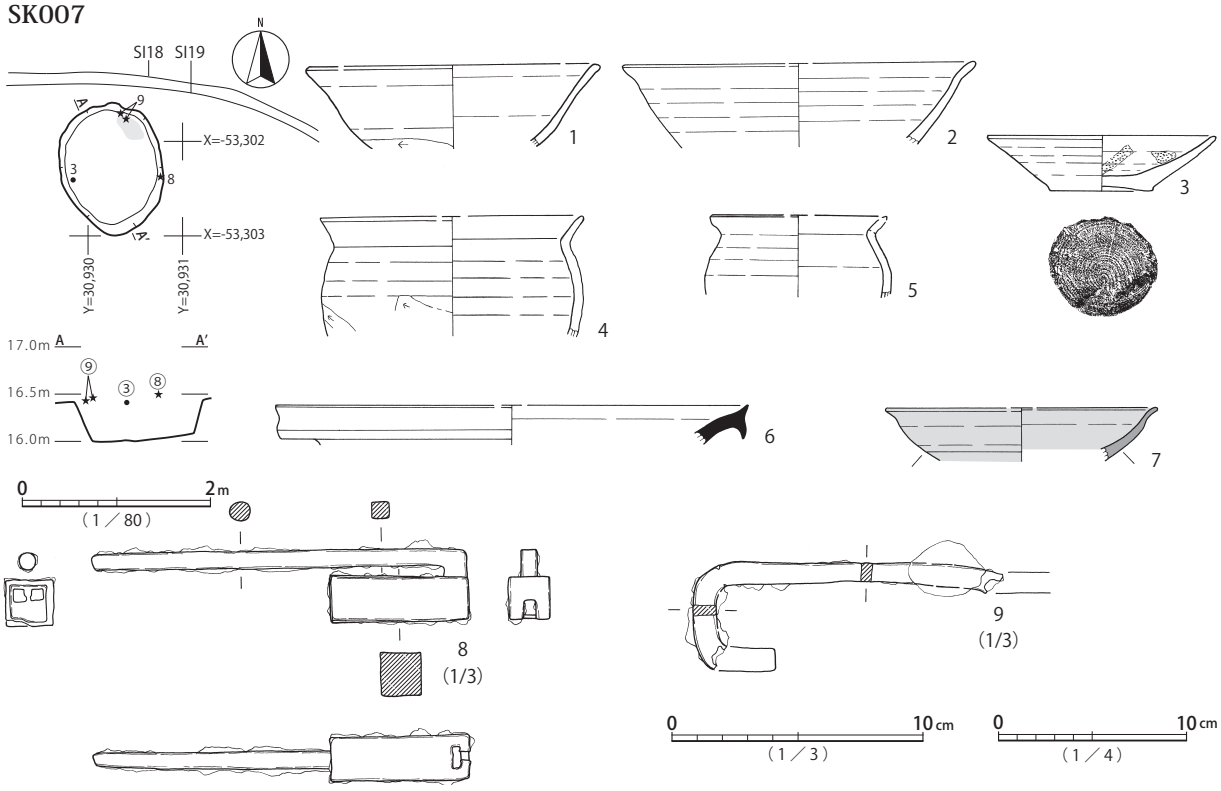
SK010（第111・113図、図版47・52）

形態・規模・出土遺物　E1区、SB10A・Bの内側に位置する。長軸約1.5m×短軸約1.3m、深さ約0.3mの円形を呈する。覆土に焼土を含むが、ロームブロックは確認されていない。出土遺物として、1は土師器タタキ甕であり、9世紀のものと思われる。2は東海産須恵器高台杯である。3は置きカマドであり、庇の反り返しが掛け口よりやや高い位置まで及んでいることから、8世紀後半以降のものと思われる。非掲載遺物として、9～10世紀のロクロ土師器杯や灰釉陶器瓶壺類、千葉産須恵器甕などがある。よって本遺構の帰属時期は9世紀代と考えられる。

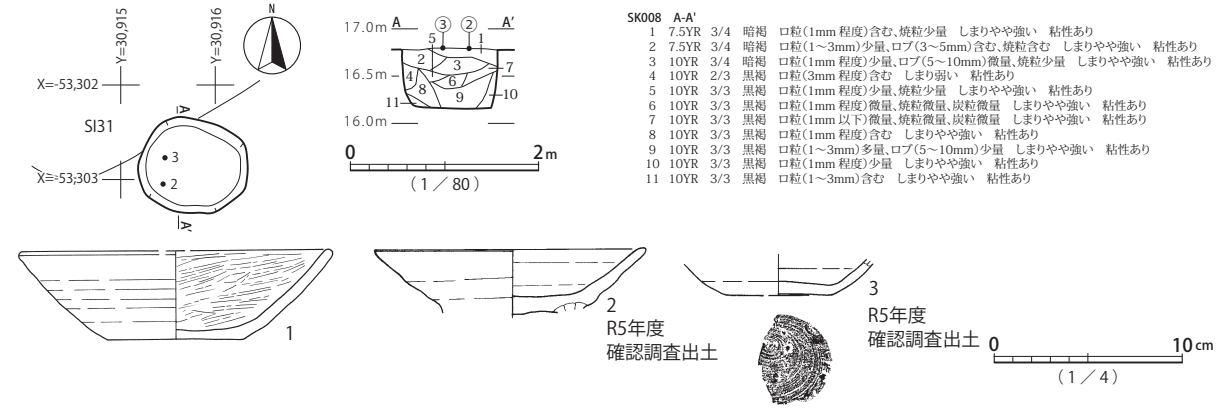
SK011（第111・113図、図版47・56）

形態・規模・出土遺物　E2区、SI27の内側に位置する。直径約1.2m、深さ約0.4mの円形を呈する。覆土は黒褐色土主体でロームブロックは含まない。出土遺物として、1～3は9世紀のロクロ土師器杯であり、1は中葉、2は前葉～中葉、3は後葉の所産と思われる。4は東海産灰釉陶器の瓶壺類、5は陶邑産須恵器瑳、6は鉄鎌である。本遺構の帰属時期は出土遺物から9世紀後葉と推察される。

SK007



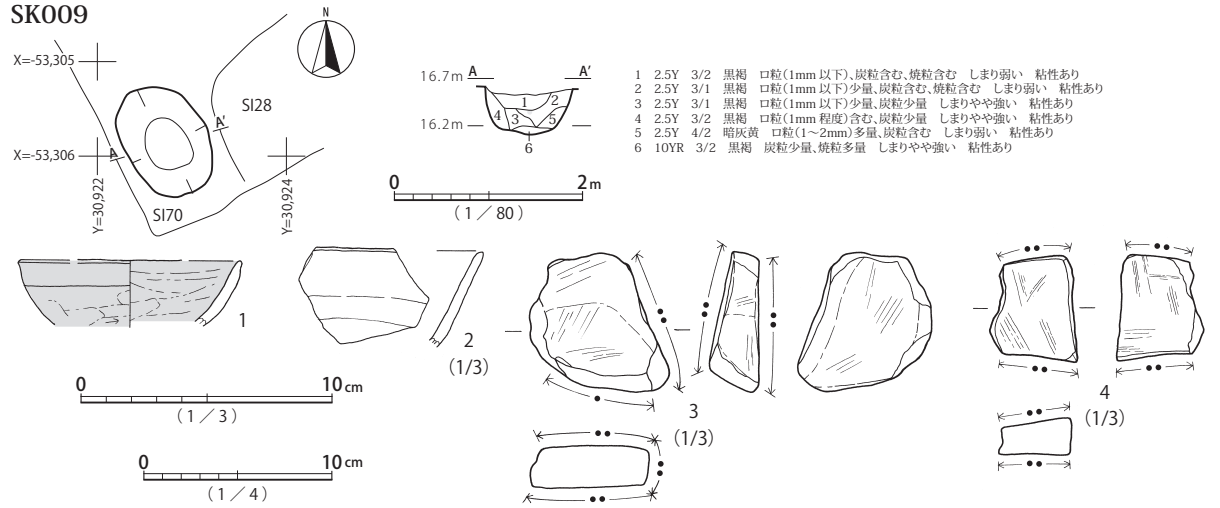
SK008



SK008 A-A'

1	7.5YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
2	7.5YR	3/4	暗褐	ロ粒(1～3mm)少量、ロブ(3～5mm)含む、焼粒含む	しまりやや強い　粘性あり
3	10YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5～10mm)微量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
4	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(3mm 程度)含む	しまり弱い　粘性あり
5	10YR	3/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量、焼粒少量	しまりやや強い　粘性あり
6	10YR	3/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)微量、焼粒微量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
7	10YR	3/3	黒褐	ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量、炭粒微量	しまりやや強い　粘性あり
8	10YR	3/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)含む	しまりやや強い　粘性あり
9	10YR	3/3	黒褐	ロ粒(1～3mm)多量、ロブ(5～10mm)少量	しまりやや強い　粘性あり
10	10YR	3/3	黒褐	ロ粒(1mm 程度)少量	しまりやや強い　粘性あり
11	10YR	3/3	黒褐	ロ粒(1～3mm)含む	しまりやや強い　粘性あり

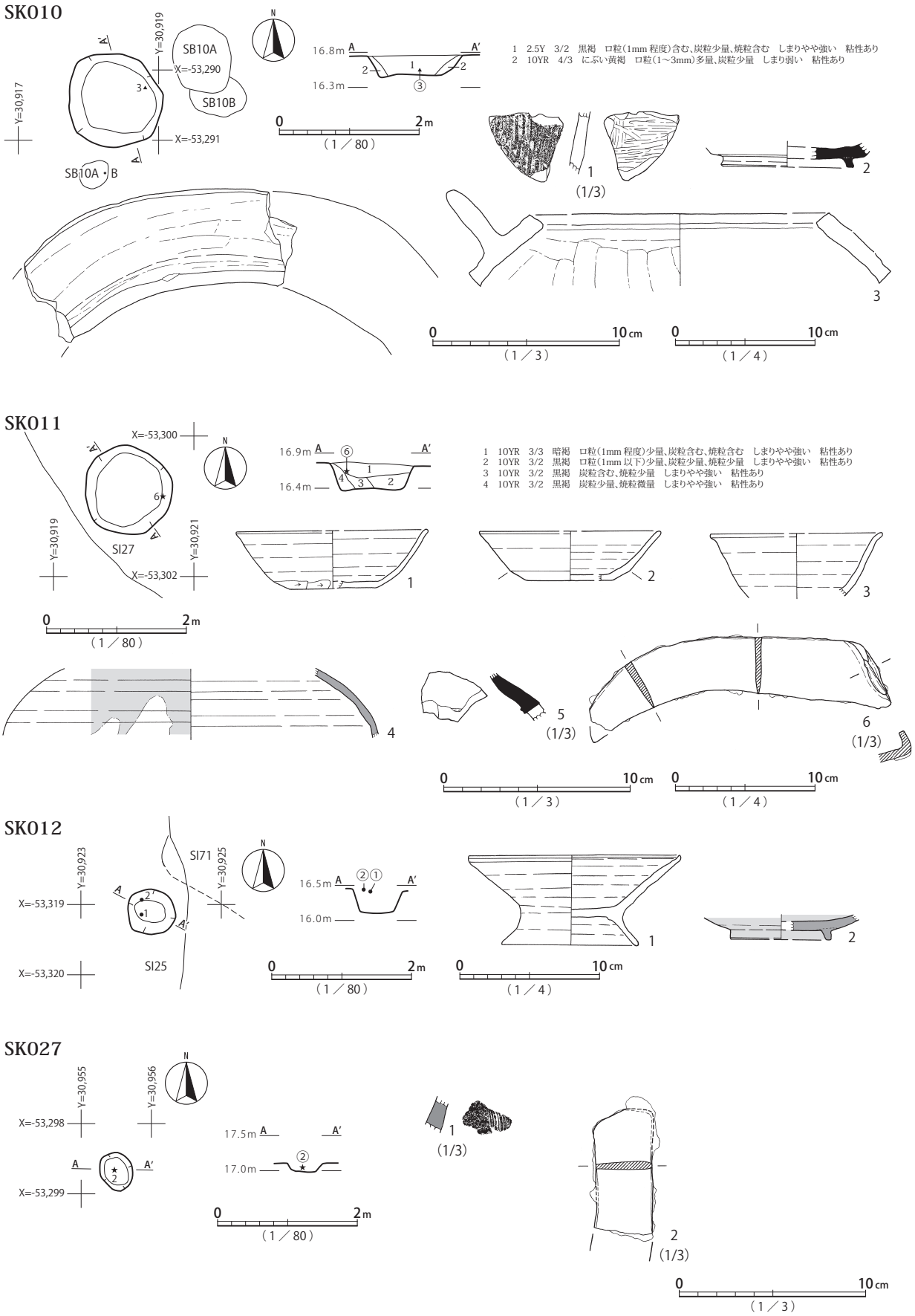
SK009



SK009

1	2.5Y	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 以下)、炭粒含む、焼粒含む	しまり弱い　粘性あり
2	2.5Y	3/1	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒含む、焼粒含む	しまり弱い　粘性あり
3	2.5Y	3/1	黒褐	ロ粒(1mm 以下)少量、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
4	2.5Y	3/2	黒褐	ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量	しまりやや強い　粘性あり
5	2.5Y	4/2	暗灰黄	ロ粒(1～2mm)多量、炭粒含む	しまり弱い　粘性あり
6	10YR	3/2	黒褐	炭粒少量、焼粒多量	しまりやや強い　粘性あり

第112図　SK007・008・009 遺構図・遺物実測図



第113図 SK010・011・012・027 遺構図・遺物実測図

SK012（第 111・113 図、図版 35）

形態・規模・出土遺物　D4 区、SI25 の内側に位置し、直径約 0.7m、深さ約 0.3m の円形を呈する。底面には柱当たりが見られることから掘立柱建物の柱穴の可能性がある。出土遺物として、1 はロクロ土師器の足高高台杯であり、9 世紀末～ 10 世紀前葉の所産と思われる。2 は猿投窯産緑釉陶器の椀皿類であり、9 世紀後半のものと考えられる。非掲載遺物として、ロクロ土師器の杯や千葉産須恵器の甕などがある。本遺構の帰属時期は出土遺物から 9 世紀末～ 10 世紀前葉と推察される。

SK027（第 111・113 図、図版 48・56）

形態・規模・出土遺物　A2 区、SK023 の西約 2.0m に位置し、直径約 0.5m、深さ約 0.1m の楕円形を呈する。出土遺物として、1 は瀬戸美濃系中世陶器擂鉢、2 は板状鉄製品である。

SK013（第 111・114 図、図版 35・47・52・56・58）

形態・規模・出土遺物　D2 区、SI27 の北東部にあり、この竪穴住居の壁を一部破壊している。長軸約 2.0m ×短軸約 1.4m、深さ約 0.6m の楕円形を呈し、覆土のしまりは全体的に弱く、一部ロームブロックを含む。出土遺物として、1 ～ 3 はロクロ土師器の杯であり、3 の内面には判読不能の墨書が見られる。時期として、1 ～ 2 は 10 世紀前葉、3 は 9 世紀の遺物と思われる。4 は内面黒色処理をした土師器杯であり内面に花形状暗文が見られる。5 はロクロ土師器椀であり内面黒色処理をしている。時期は 9 世紀後葉～ 10 世紀前葉と思われる。6 は土師器甑、7 は木葉下窯産の須恵器転用硯である。8 は鉄製不明工具である。本遺構の帰属時期は出土遺物から 10 世紀前葉と考えられる。

SK015（第 111・114 図、図版 48）

形態・規模・出土遺物　D4 区、SI22 の中央やや南側に位置する。直径約 1.1 ～ 1.2m、深さ約 0.6m の円形を呈し、覆土は黒褐色土主体で含有物の粒径は全体的に小さい。出土遺物として、1 は土師器甕である。非掲載遺物として、9 ～ 10 世紀のロクロ土師器や千葉産須恵器の杯、原始灰釉陶器瓶壺類などがある。本遺構の帰属時期は出土遺物から 9 世紀と推察される。

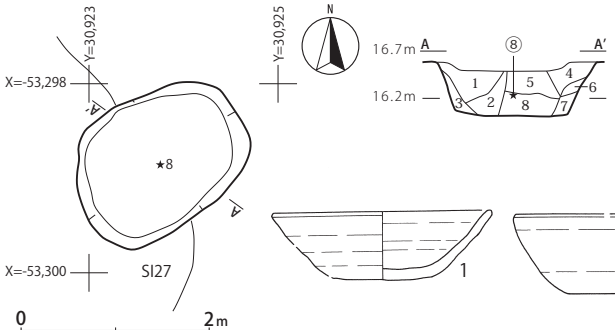
SK017（第 111・114 図、図版 17）

形態・規模・出土遺物　E3 区に位置し、SI49 の貼床下層から検出された。長軸 1.5m ×短軸 0.9m、深さ 0.9m の楕円形を呈し、底面は長方形状に平らに整形されている。覆土は黒褐色土主体でしまりは全体的に弱い。また底面中央部には長軸約 0.4m × 0.3、深さ約 0.5m の楕円形の小穴があった。本遺構から出土遺物はなく遺構の性格を判断することは困難だが、落とし穴と思われる。調査区内では縄文時代早期の遺物が一定数出土していることから、この時期の遺構の可能性があるが、詳細は不明である。

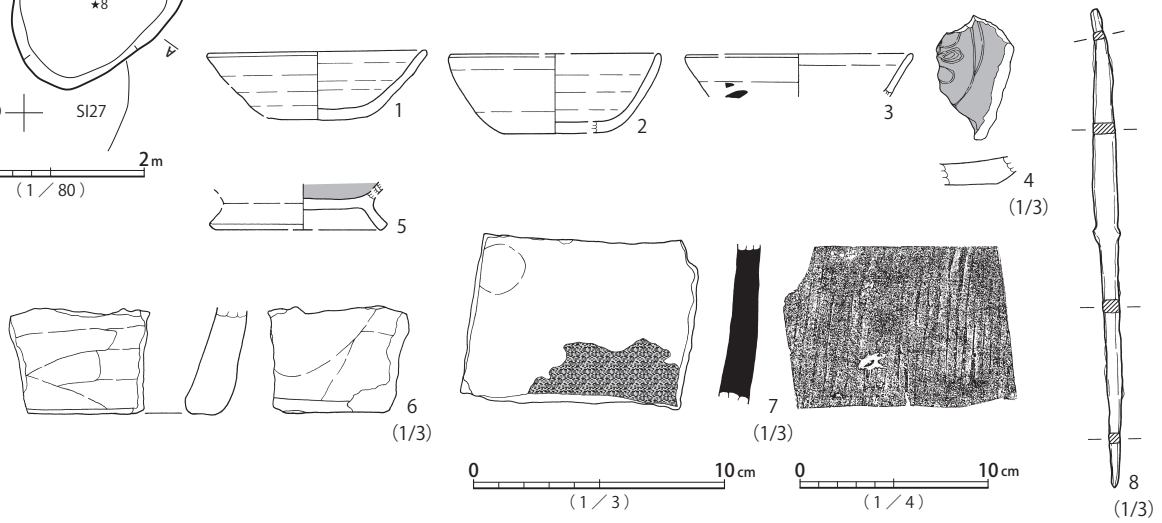
SK043（第 111・115 図、図版 48・56）

形態・規模・出土遺物　B1 区、SI59 の東隅に位置する。長軸約 1.1m ×短軸約 0.9m の楕円形を呈し、深さ約 0.5m である。覆土は暗灰黄～灰黄褐色土主体でロームブロックを多く含む。SI59 覆土上面か

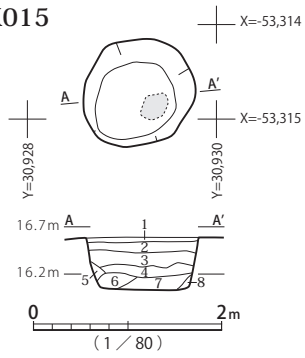
SK013



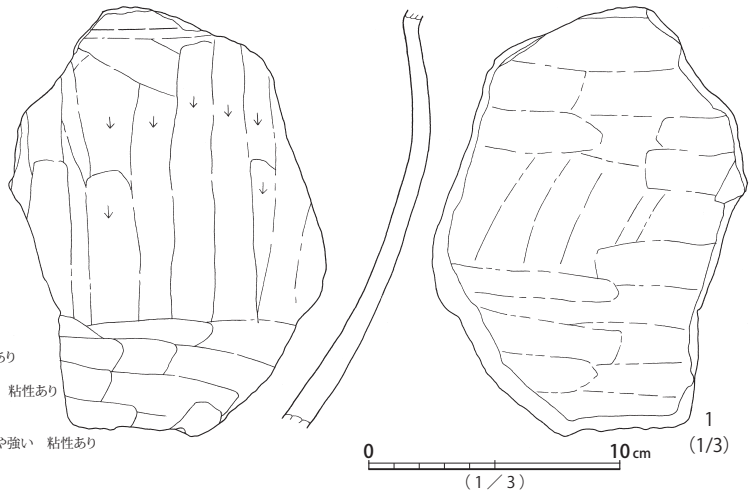
1　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒少量、焼粒微量　しまり弱い　粘性あり
2　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
3　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(3～5mm)含む、炭粒微量、焼粒微量　しまり弱い　粘性あり
4　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1～2mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
5　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1～5mm)含む、ロブ(5～8mm)少量、炭粒少量、焼粒微量　しまり弱い　粘性あり
6　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1mm 程度)含む、ロブ(5～10mm)含む、炭粒少量　しまり弱い　粘性あり
7　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり
8　7.5YR　4/2　灰褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり



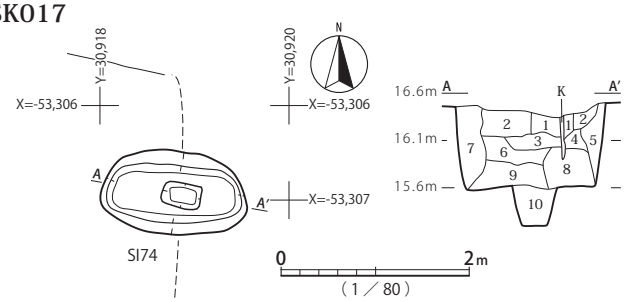
SK015



1　10YR　3/4　暗褐　ロ粒(1mm 以下)微量、焼粒微量　しまり強い　粘性なし
2　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1～3mm)微量、焼粒微量　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量　しまり強い　粘性あり
4　10YR　2/3　黒褐　ロ粒(1mm 以下)微量、炭粒微量、焼粒微量　しまり強い　粘性あり
5　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)微量　しまりやや強い　粘性なし
6　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 程度)少量、ロブ(5～10mm)含む　しまりやや強い　粘性あり
8　10YR　3/3　暗褐　ロ粒(1mm 以下)微量　しまりやや強い　粘性なし

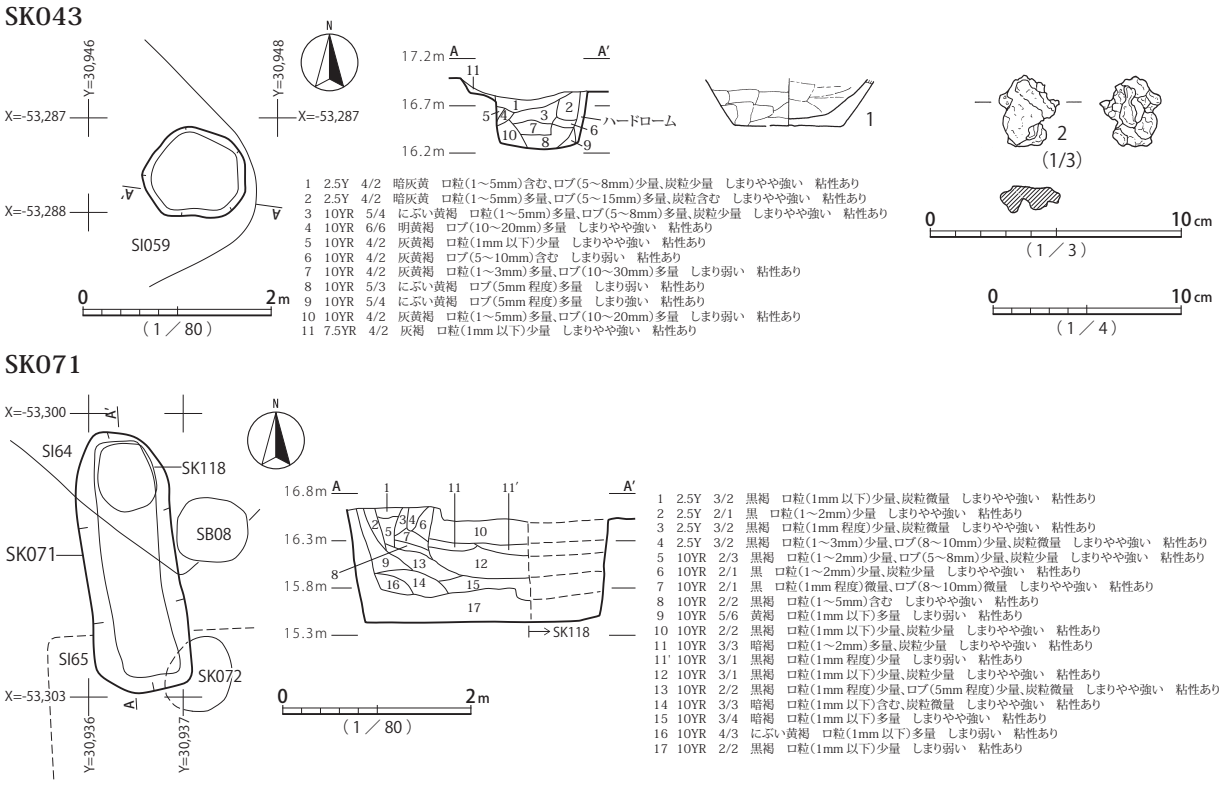


SK017



1　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)少量　しまりやや強い　粘性あり
2　2.5Y　3/2　黒褐　ロ粒(1～2mm)少量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
3　2.5Y　4/2　暗灰黄　ロ粒(1mm 程度)多量、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり
4　2.5Y　3/3　暗オリーブ褐　ロ粒(1mm 程度)少量、炭粒微量　しまりやや強い　粘性あり
5　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1～2mm)多量、炭粒含む　しまり弱い　粘性あり
6　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1mm 程度)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒(1～3mm)含む、炭粒微量　しまり弱い　粘性あり
8　2.5Y　4/3　オリーブ褐　ロ粒(1～2mm)多量、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
9　10YR　3/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む、炭粒少量　しまりやや強い　粘性あり
10　10YR　2/2　黒褐　ロ粒(1～5mm)含む　しまりやや強い　粘性あり

第114図　SK013・015・017 遺構図、SK013・015 遺物実測図

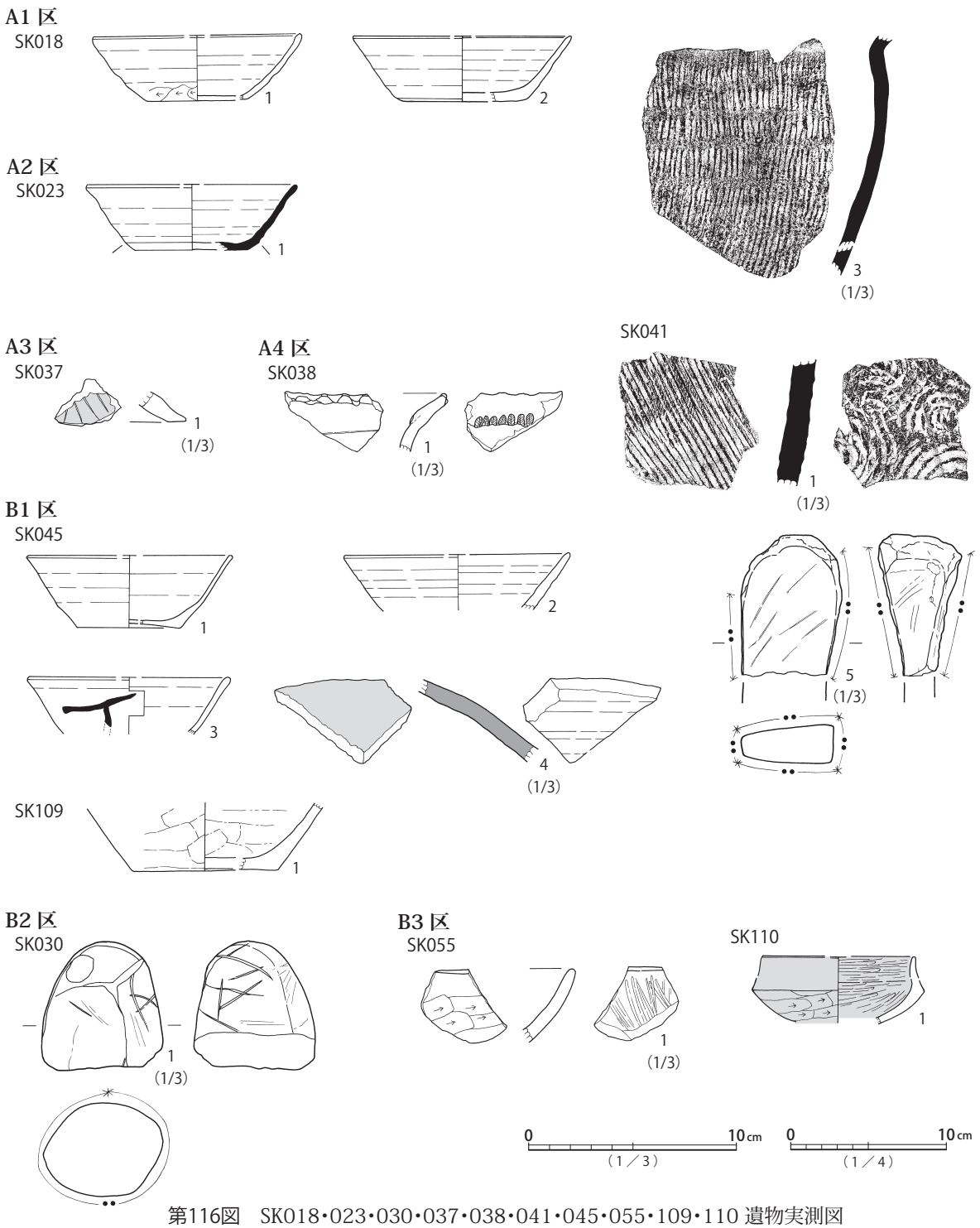


第115図　SK043・071・090・096・112 遺構図、SK043・096 遺物実測図

ら検出されたことから、この竪穴建物が廃絶後に形成された遺構と思われる。出土遺物が少なく掲載遺物として、1は土師器甕、2は鉄滓である。非掲載遺物も土師器の甕など僅かである。

SK071（第 111・115 図）

形態・規模・出土遺物　主にC2区、SI64の下層に位置する。北側ではSK118と重複する。長軸

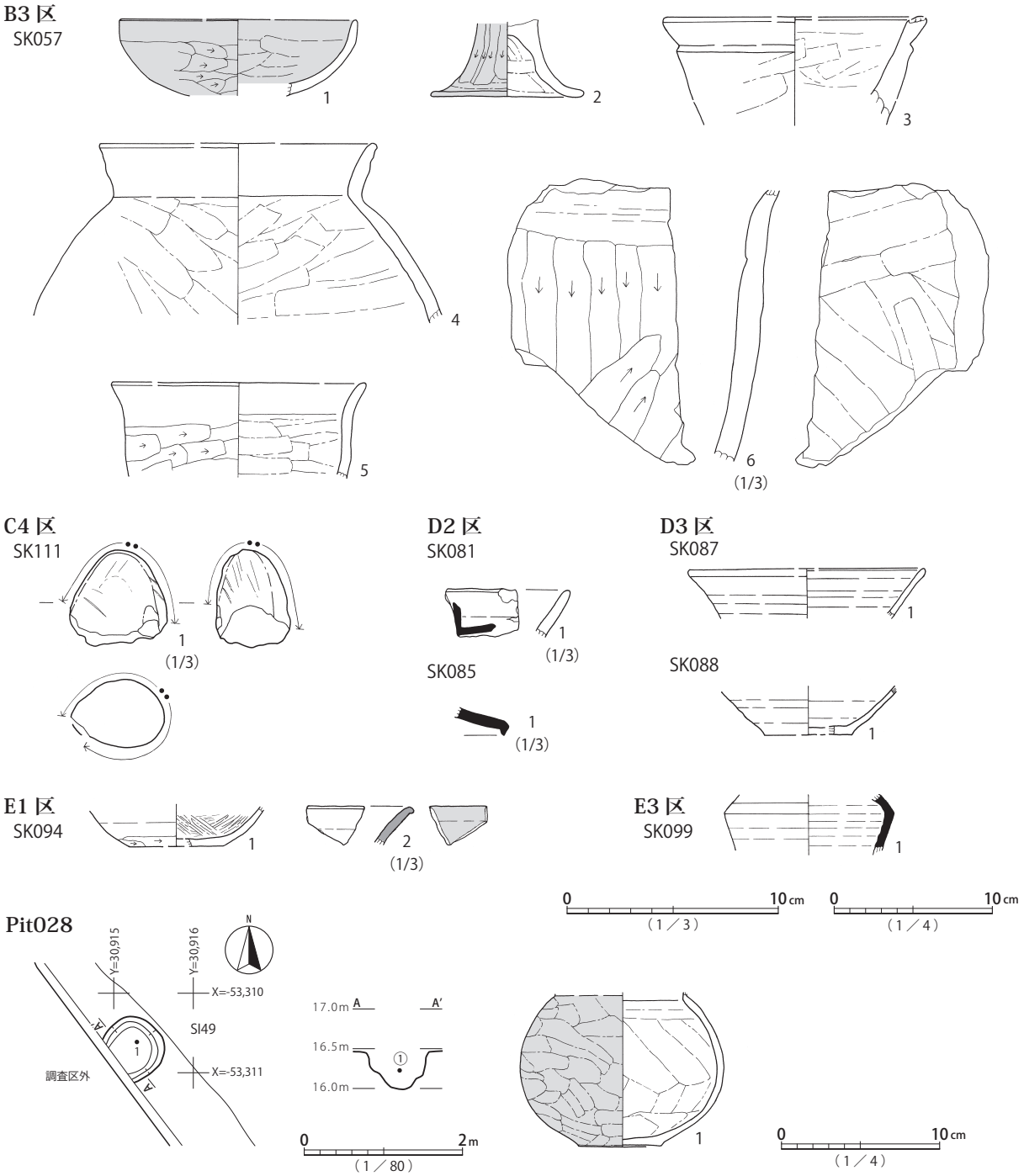


第116図　SK018・023・030・037・038・041・045・055・109・110 遺物実測図

約2.8m×短軸約1.0m、深さ約1.2mの楕円形を呈し、底面は長方形状に平らに整形されている。覆土は黒～黒褐色土主体で、しまりは全体的にやや弱い。本遺構から出土遺物はなく、この遺構の性格を判断するのは困難であるが、SK017と類似する点も多く、縄文時代早期の落とし穴の可能性がある。

SK090（第111・115図）

形態・規模・出土遺物　D2～D3区、SI18・SI19の北西に位置し、土坑の東側はSI18・SI19に破壊さ



第117図　Pit028 遺構図、SK057・081・085・087・088・094・099・111・Pit028 遺物実測図

れている。長軸約1.35m×短軸約0.8m、深さ約0.6mの楕円形を呈する。後世の根撹乱の影響を部分的に受けていたが、底面は長方形状に平らに整形されていたと考えられる。覆土は黒褐色土主体でしまりは全体的に弱かった。本遺構から出土遺物はなく、この遺構の性格を判断するのは困難であるが、SK017と類似する点も多く、縄文時代早期の落とし穴の可能性がある。

SK096（第111・115図、図版35）

形態・規模・出土遺物　E1区、SI26の北西壁に位置し、土坑掘方の一部がSI26の下端を破壊していた。

掲載遺物として、1は9世紀中葉のロクロ土師器杯であり、SI26の覆土上面から出土した。本遺構の存在を確認できたのはSI26貼床検出時であり、その時点では土坑下端付近のみしか残存していなかった。出土遺物を踏まえると、SK096は本来直径約0.9m、深さ約0.5mの円形を呈していた可能性がある。

SK112（第111・115図）

形態・規模・出土遺物　E2区、SI44の南隣に位置する。外形は長軸約1.2m×短軸約0.7m、深さ約0.7mの楕円形を呈し、底面は長方形状に平らに整形されていた。覆土は黒褐色土主体でしまりは全体的に弱かった。本遺構から出土遺物はなく、この遺構の性格を判断するのは困難であるが、SK017と類似する点も多く、縄文時代早期の落とし穴の可能性がある。

以下の遺構図は第111図の遺構分布図を参照いただきたい。

A1区　SK018～SK020・SK119・Pit001・Pit002（第111・116図、図版48）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK018から出土した。

SK018は直径約0.6～0.7m、深さ約0.65mの円形を呈し、Pit001を切っている。出土遺物として、1・2は9世紀中葉のものと思われるロクロ土師器杯、3は千葉産須恵器甕である。

その他の特徴的な土坑として、SK020・SK119は覆土に焼土層を含み、前者は長軸約1.0m・深さ0.2m、後者は長軸約0.9m×短軸約0.7m・深さ約0.3mである。

A2区　SK021～SK025・SK028・SK031～SK034（第111・116図、図版5・48）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK023・SK027から出土した。

SK023はSI03の西隣に位置し、長軸約0.8m×短軸約0.6m、深さ約0.2mの楕円形を呈する。出土遺物として1は千葉産須恵器杯である。

その他の特徴的な土坑として、SK025はSI03の内側に位置する長軸約1.2m×短軸約0.7mの方形の土坑であり深さ約1.0mと深い。

A3区SK035～SK037（第111・116図、図版48）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK037から出土した。

SK037はSI34の北隣に位置する長軸約0.8m×短軸約0.6m、深さ約0.2mの楕円形の土坑である。掲載遺物として、1は土師器高杯の脚部であり、脚部外面を赤彩し暗文を施している。

A4区　SK038・SK041（第111・116図、図版48）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK038・SK041から出土した。

SK038はSI04の内側に位置し、SI04覆土上面から検出された。長軸約0.8m×短軸約0.6m、深さ約0.5mの楕円形を呈する。出土遺物として、1は弥生土器甕で終末期（中台式）の所産と思われる。

SK041はSK114と一部重複しており、直径約0.5m、深さ約0.2mの円形を呈する。出土遺物として、1は東海産須恵器甕である。

B1 区　SK045・SK109・Pit003（第 111・116 図、図版 13・35・48・49・55・58）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK045・SK109から出土した。

SK045はSI58の内側に位置し、貼床を除去後に検出された。外形は長軸約1.9m×短軸約1.2m、深さ約0.2mの長方形を呈し、覆土には灰主体の層が確認された。出土遺物として、1～3はロクロ土師器杯であり、1～3は9世紀後葉の所産と思われる。特に3の外面には「T」状の墨書が見られる。4は東海産灰釉陶器瓶壺類、5は砥石である。

SK109はSI59の南西隣に位置し、外形約0.45～0.55m、深さ約0.6mの円形を呈する。掲載遺物として、1は土師器甕である。

B2 区　SK030・SK047～SK052・Pit004・Pit005（第 111・116 図、図版 55）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK030から出土した。

SK030はB2区中央に位置し、外形は長軸約1.8m×短軸約1.2m、深さ約0.2mの楕円形を呈する。掲載遺物として、1は磨石である。

B3 区　SK053～SK057・SK110・Pit006（第 111・116・117 図、図版 35・48・49）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK055・SK057・SK110から出土した。

SK055はSI37北東隅にあり、外形は長軸約1.2m×短軸約1.0m、深さ約0.4mの楕円形を呈する。掲載遺物として、1は内面に暗文がある土師器杯で7世紀の所産と思われる。SI37の覆土上面から検出されたことや出土遺物から古墳時代中期（和泉式）以降の土坑と考えられる。

SK057はSI37の貼床検出時に確認された土坑であり、外形は長軸約1.25m×短軸約0.8m、深さ約0.5mの楕円形を呈する。覆土には焼土溜まりを含んでいた。掲載遺物として、1は古墳時代中期（和泉式）の土師器杯、2は古墳時代中期後葉の高杯、3は土師器鉢、4～6は土師器甕である。SI37の切り合い関係と出土遺物から古墳時代中期後葉以降の土坑と考えられる。

SK110はSI37の南側に位置し、外形は長軸約0.5m×短軸約0.3m、深さ約0.1mの楕円形を呈する。掲載遺物として、1は古墳時代後期（鬼高式）の土師器杯である。SI37の切り合い関係と出土遺物から古墳時代後期（鬼高式）以降の土坑と考えられる。

B4 区　SK058～SK064・Pit007～Pit012（第 111 図）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はない。

C1 区　SK065・Pit013（第 111 図）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はない。

C2 区　SK067～SK070・SK118・Pit014（第 111 図）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はない。

C3 区　SK073・Pit015・Pit016（第 111 図）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はない。

C4 区　SK076・SK077・SK111・Pit017 ～ Pit021（第 111・117 図、図版 55）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK111から出土した。

SK111はSI12とSI41の間に位置し、外形は直径約0.2 ～ 0.35m、深さ約0.4mの円形を呈する。掲載遺物として、1は磨石である。

D1 区　SK078・SK079（第 111 図）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はない。

D2 区　SK081・SK082・SK085・Pit022（第 111・117 図、図版 49・58）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK081・SK085から出土した。

SK081はSI27とSI45の間に位置し、外形は長軸約1.2m×短軸約0.95m、深さ約0.3mの楕円形を呈する。掲載遺物として、1はロクロ土師器杯であり、外面に「大」と思われる墨書が見られる。

SK085はSI45南隅付近にあり、竪穴建物の壁を破壊している。外形は直径約1.1m、深さ約0.2mの円形を呈する。掲載遺物として、1は須恵器蓋である。

D3 区　SK086 ～ SK089・Pit023・Pit024（第 111・117 図、図版 49）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK087・SK088から出土した。

SK087はSI28の南西壁に位置し、竪穴建物の壁を破壊している。上層にはSI70が位置し、SK087より新しい。外形は長軸約0.8m×短軸約0.65m、深さ約0.2mの楕円形を呈する。掲載遺物として、1はロクロ土師器杯である。

SK088はSI28の内側に位置し、SI28より新しい。また上層にはSI70があり、SI70遺構確認では土坑の存在は確認されていないことから、SK088の方が古いと考えられる。掲載遺物として、1は9世紀後葉のロクロ土師器杯で灯明皿に転用されたと思われる。

D4 区　SK091 ～ SK093・Pit025・Pit026（第 111 図）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はない。

特徴的な土坑として、SK091はSB16の内側にあり、外形は楕円形を呈し、長軸約1.4m×短軸約1.2m、深さ約0.2mを比較的大きい。非掲載遺物として灰釉陶器椀や永田・不入窯産須恵器杯などが確認されている。詳細は不明だが、SB16と何らかの関連性も示唆される。

E1 区　SK094・SK095（第 111・117 図、図版 49）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK094・SK095から出土した。

SK094はSI46の内側、調査区北壁付近に位置し、直径約0.45 ～ 0.55m、深さ約0.3mの円形を呈する。掲載遺物として、1は9世紀中葉のロクロ土師器杯、2は東海産灰釉陶器椀である。SI46は古墳時代終末期の遺構なので、SK094の方が新しい。

E2 区　SK097・SK098（第 111 図）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はない。

E3 区　SK099 ～ SK101・Pit028（第 111・117 図、図版 18・35・49）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はSK099・Pit028から出土した。

SK099はSI31とSI49の間に位置し、外形は長軸約0.5m×短軸約0.35m、深さ約0.1mの楕円形を呈する。掲載遺物として、1は東海産須恵器壺である。

Pit028は調査区南西壁沿いに位置し、一部は調査区外へ続く。外形は直径約0.75m、深さ約0.45mの円形を呈すると考えられる。掲載遺物として、1は土師器壺であり、古墳時代中期の所産と思われる。頸部は意図的に打ち欠いた可能性がある。

法定外道路区　SK102・Pit029（第 111 図）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はない。

西端区　SK105 ～ SK108（第 111 図）

形態・規模・出土遺物　この区の掲載遺物はない。

第 6 節　性格不明遺構

SX01（第 118 図、図版 18・35・49）

形態・規模　西端区、SI47の北東部に位置し、長軸約5.2m、短軸約3.6mの不整形な隅丸方形を呈する。深さは約0.1 ～ 0.2mと非常に浅く、内側に焼土集中範囲が4箇所確認された。

出土遺物　1は土師器小型平底壺で古墳時代前期（草刈式）の所産と思われる。2は土師器ミニチュア土器、3は土師器炉器台であり、弥生時代終末期～古墳時代（中台式～草刈式）のものと考えられる。また非掲載遺物として、弥生時代終末期～古墳時代（中台式～草刈式）の甕や小型壺などがある。出土遺物から本遺構は古墳時代前期（草刈式）に属すると考えられる。本遺構の東隣には同じく小型平底壺が出土したSI29が位置しており、もしSI29が草刈式期に属する場合、両遺構は存続期間を共有した可能性がある。

第 7 節　遺構外出土遺物

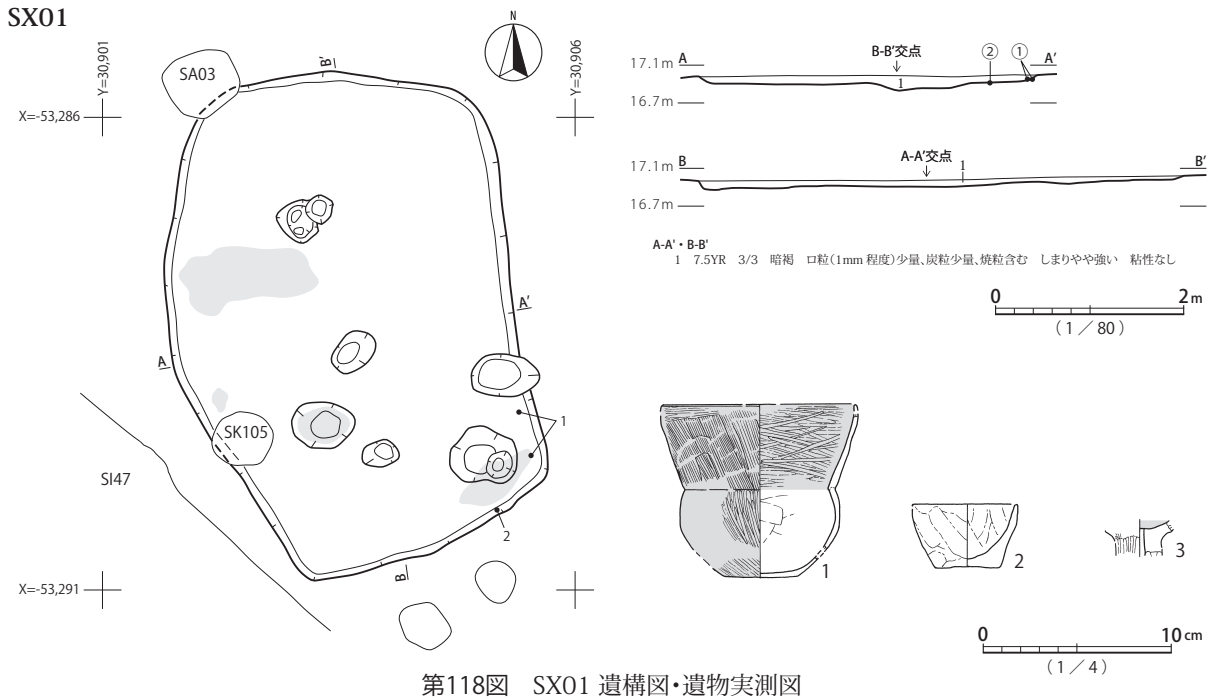
A 区（第 119 図、図版 49・53・55・57・58）

A1区1は木葉下窯産須恵器の甕、2は9世紀前葉の東海産灰釉陶器の椀、3は渥美産中世陶器の甕である。

A2区1は9世紀のロクロ土師器杯で底部内面に平行線と斜線の焼成前線刻が見られる。

A3区1は9世紀前葉～中葉のロクロ土師器杯で底部内面に多条平行線状の焼成後線刻が見られる。2は千葉産須恵器の甕で外面に「十」字状の墨書がある。3は東海産灰釉陶器の椀であり、9世紀の所産と思われる。4は貝巣穴泥岩である。

A4区1は羽口であり被熱部が僅かに残存している。



第118図　SX01 遺構図・遺物実測図

B 区（第 119 図、図版 35・49・53・55～58）

B2区１はロクロ土師器杯であり底部外面に直線状の焼成前線刻が見られる。

B3区１・２はロクロ土師器杯であり、後者の外面には「人」状の焼成後線刻が見られる、時期について、１は９世紀中葉～後葉と考えられる。３は８世紀の土師器盤状杯で内外面に赤彩と内面に放射状暗文がある。４は古墳時代前期（草刈１～２式）の土師器高杯である。５は９世紀前葉～中葉のロクロ土師器皿であり、底部に「丈子万呂○」の墨書が確認される。この遺物はSB01の柱穴b2検出面上層から出土した（第94図）。６は古墳時代中期（和泉式）の土師器鉢、７はミニチュア土器、８は灰釉陶器壺蓋である。特に５はSB01b2の遺構確認面より若干上面から出土したため、SB01b2の遺物と断定できなかった。一方、SB01b2が遺構確認面より上から掘り込まれている場合、この柱穴由来の遺物である可能性もある。

B4区１は弥生時代終末期（中台式）の壺、２～５はロクロ土師器杯であり、２～４は９世紀前葉～中葉のものと考えられる。３はSI38遺構検出面の上層から出土した（第42図）。また5の外面には「８」状の墨書が見られる。６は９世紀中葉～後葉のロクロ土師器皿である。７は置きカマド、８は縄文石器の石鏃、９は鉄鏃である。

C 区（第 119・120 図、図版 35・36・49・50・53・56～58）

C2区１は古墳時代中期（和泉式）の土師器杯、２は９世紀中葉～後葉のロクロ土師器杯であり、外面に判読不能の墨書が見られる。３はミニチュア土器である。４・５は須恵器杯であり前者は南比企産、後者は永田・不入窯産で９世紀初頭の所産と思われる。

C3区１は９世紀前葉のロクロ土師器杯、２は新治産須恵器杯で９世紀第２四半期～９世紀第３四半期のものと考えられる。３は東海産須恵器の蓋、４は瀬戸美濃産中世陶器の擂鉢、５は鉄鎌である。

C4区1～3は縄文土器深鉢であり、1は早期後葉（茅山式）、2は早期中葉（三戸式）、3は早期中葉（城ノ台北式）と推測される。4は弥生土器高杯で脚部上半に三角状の透かし孔が見られる。5は弥生時代中期（宮ノ台式）の広口壺、6は北関東系と思われる弥生土器の甕である。7・8は土師器杯であり、7は古墳時代中期（和泉式）、8は8世紀前葉の所産と思われる。9は古墳時代前期（草刈1～2式）の土師器高杯、10は土師器鉢、11は武蔵型の土師器甕、12・13はミニチュア土器である。14は東海産須恵器のフラスコ型瓶、15は灰釉陶器瓶壺類で胴部外面に「十」状の焼成前線刻がある。16は木葉下窯産須恵器転用砥石、17は土錘である。

D区（第120・121図、図版36・50・56）

D1区1は弥生時代後期（山田橋式）の小型鉢、2は東海産須恵器の杯身である。

D2区1～2は弥生土器壺、3は弥生土器甕であり、1は後期（山田橋式）のものと考えられる。4は9世紀中葉のロクロ土師器椀、5は新治産須恵器の杯、6は不明鉄片である。

D3区1は弥生時代後期（久ヶ原式～山田橋式）の壺、2は弥生終末期～古墳前期（中台式～草刈1式）の高杯、3は古墳時代前期（草刈式）の土師器小型壺である。2・3はSI69の南隣から出土した（第83図）。

D4区1は東海系のS字甕（弥生時代終末期～古墳時代前期）、2・3はロクロ土師器杯である。時期について、2は9世紀後葉～末、3は9世紀前葉～中葉の所産と思われる。4は土師器小型甕、5は須恵器蓋のつまみ部分である。

E区（第121図、図版36・50・53・57）

E3区1・2はロクロ土師器杯である。1は9世紀中葉～後葉で、底部内面に交差する多条直線（五芒星？）の焼成前線刻があり、SI70の下層から出土した（第85図）。また2は9世紀前葉～中葉の所産と考えられる。3は9世紀中葉～後葉の土師器椀、4は土師器台付甕である。

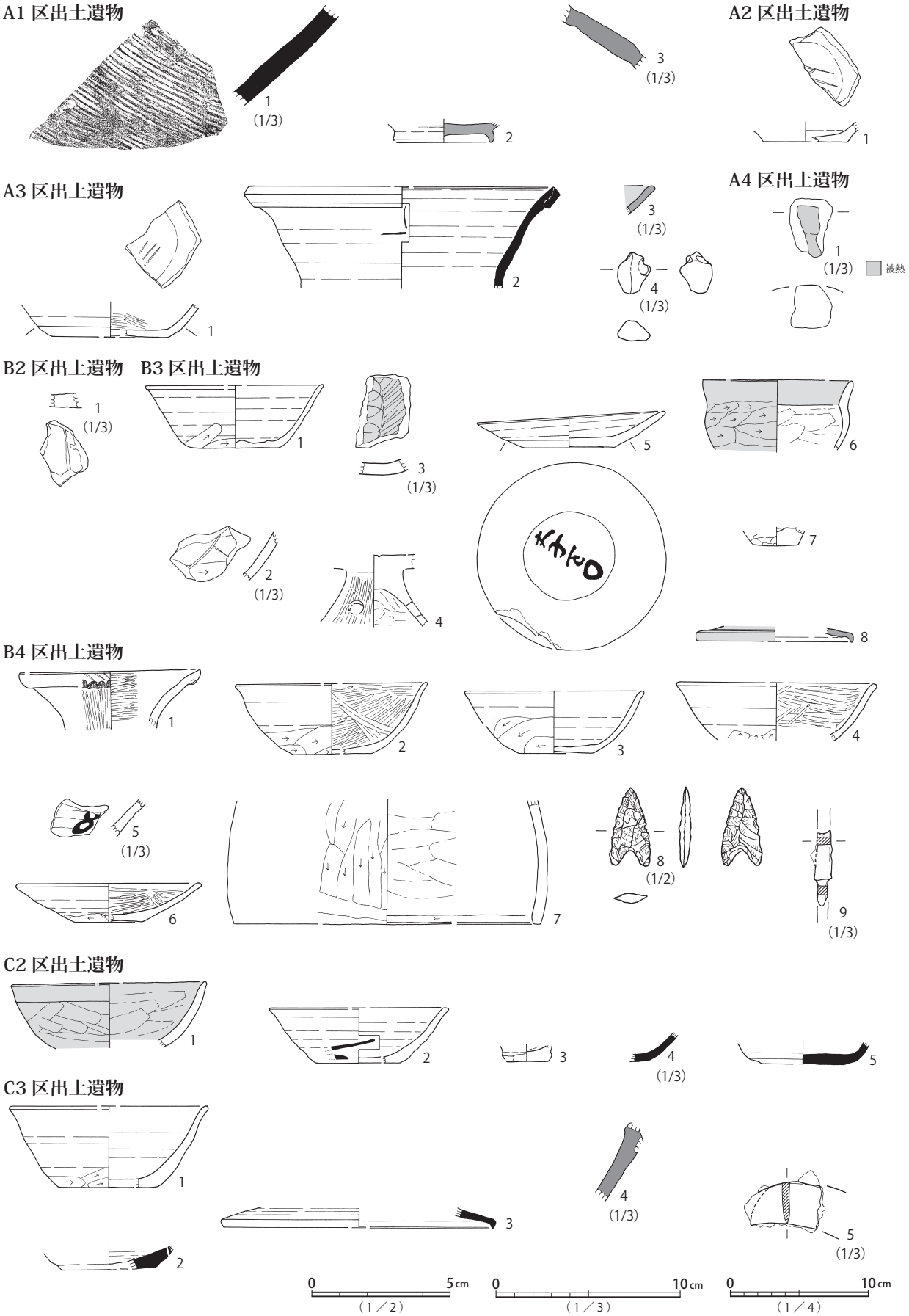
E4区1は9世紀中葉～後葉のロクロ土師器杯、2は古墳時代前期（草刈式）の土師器壺、3は須恵器蓋、4は丸瓦、5は東海産須恵器甕転用硯である。1はSI25の上層から出土した（第20図）。

西端区（第121図、図版4・36・50）

西端区1は畿内産土師器の杯であり、8世紀初頭の所産と思われる。2は古墳時代前期（草刈1～2式）の土師器小型器台である。

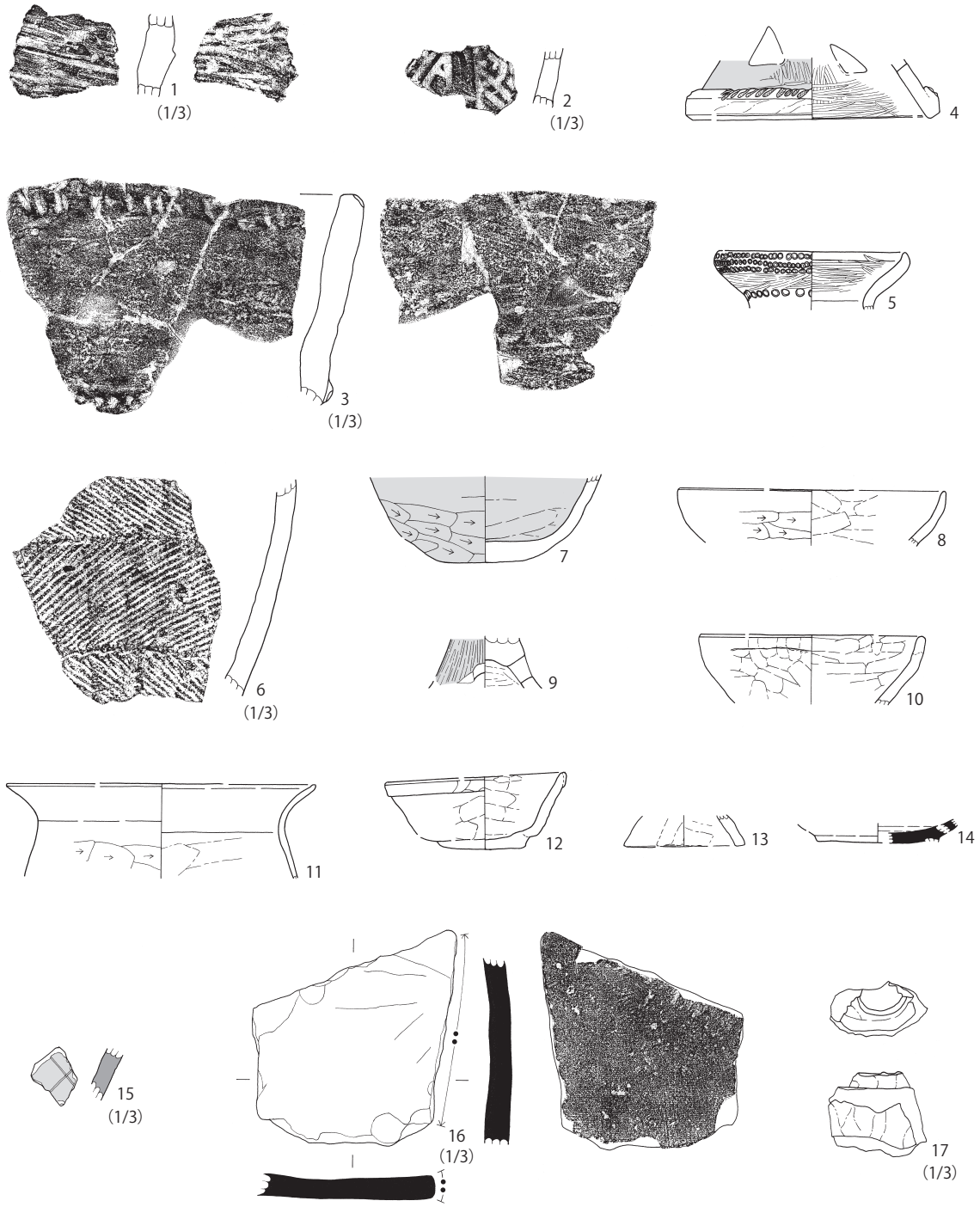
遺構外・撹乱出土遺物（第122・123図、図版36・51・53・55～58）

1は弥生土器鉢で後期（山田橋式）、2は弥生土器直口壺で終末期～古墳時代前期（中台式～草刈式）、3は弥生土器壺で後期（久ヶ原式～山田橋式）、4はS字甕で弥生時代終末期～古墳時代前期（中台式～草刈式期）の所産と思われる。5・6は古墳時代終末期（鬼高式）の土師器杯であり、両者とも内面に放射状暗文が見られる。7・8はロクロ土師器杯であり、前者は9世紀前葉～中葉の所産と思われる。また、8は外面に平行線状の焼成前線刻が見られる。9は畿内産土師器杯A、10は畿内産土師器杯Cであり、平城I～II期（8世紀前葉）のものと思われる。11・12はロクロ土師器杯でありそれぞ

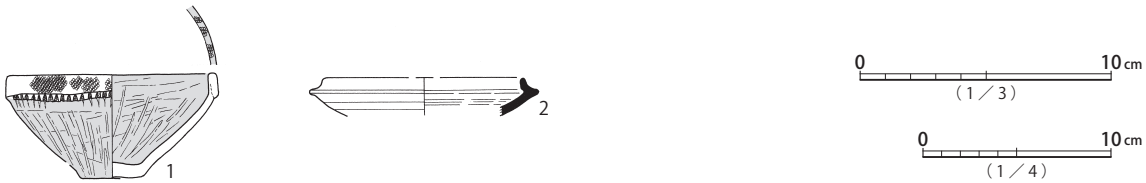


第119図　A区・B区 出土遺物 遺物実測図、C区 出土遺物 遺物実測図(1)

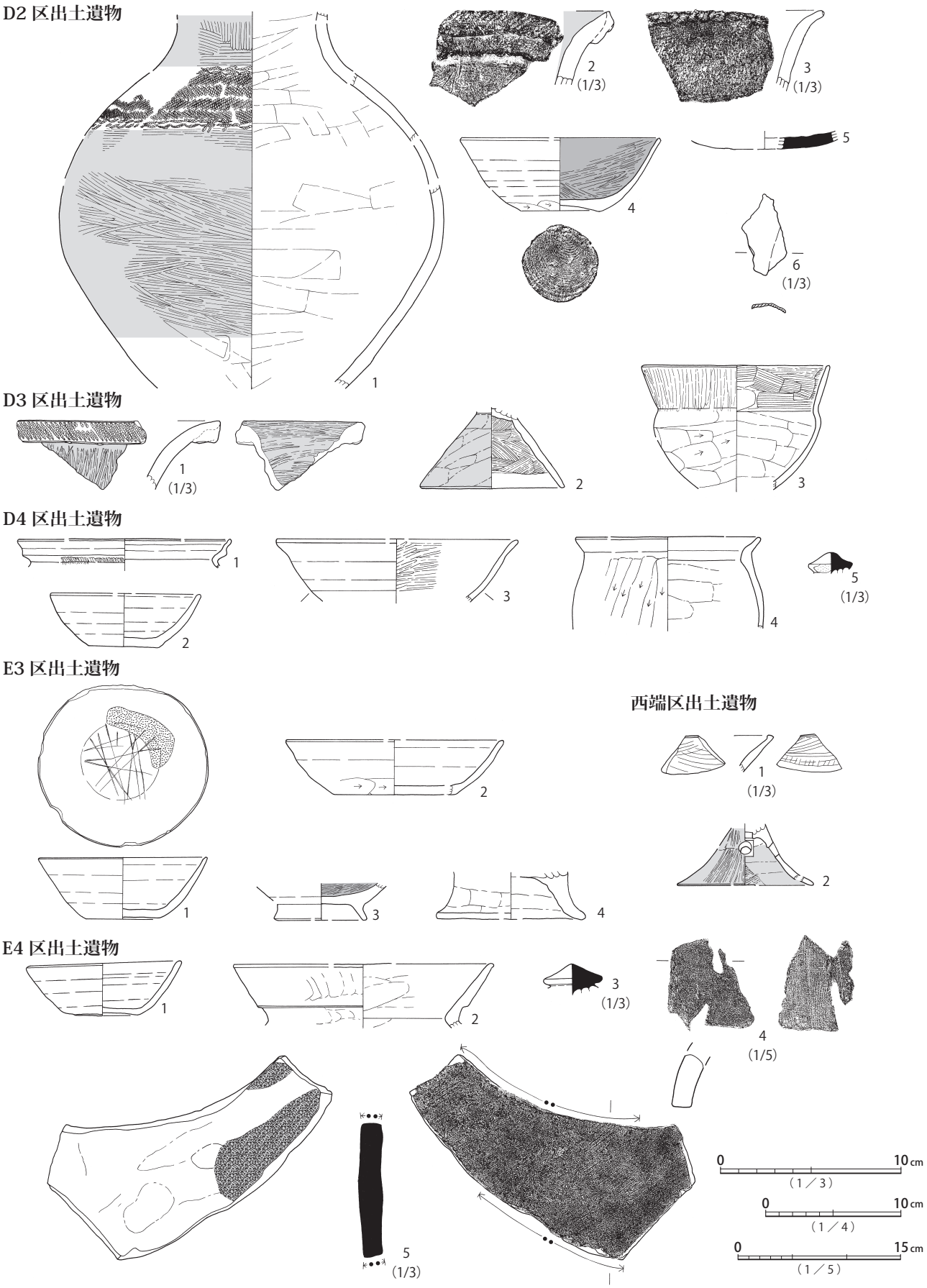
C4 区出土遺物



D1 区出土遺物

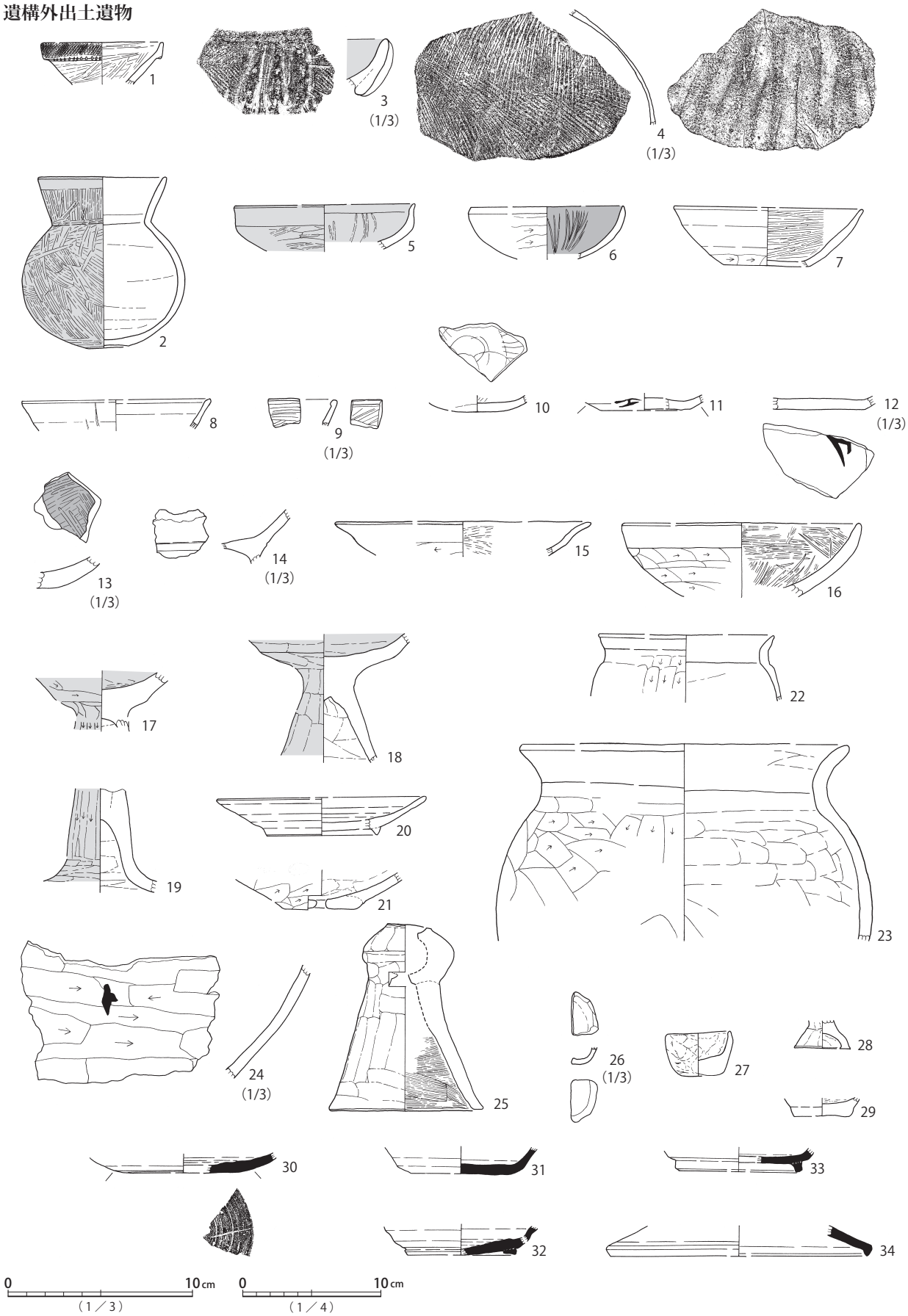


第120図　C区 出土遺物 遺物実測図(2)、D区 出土遺物 遺物実測図(1)



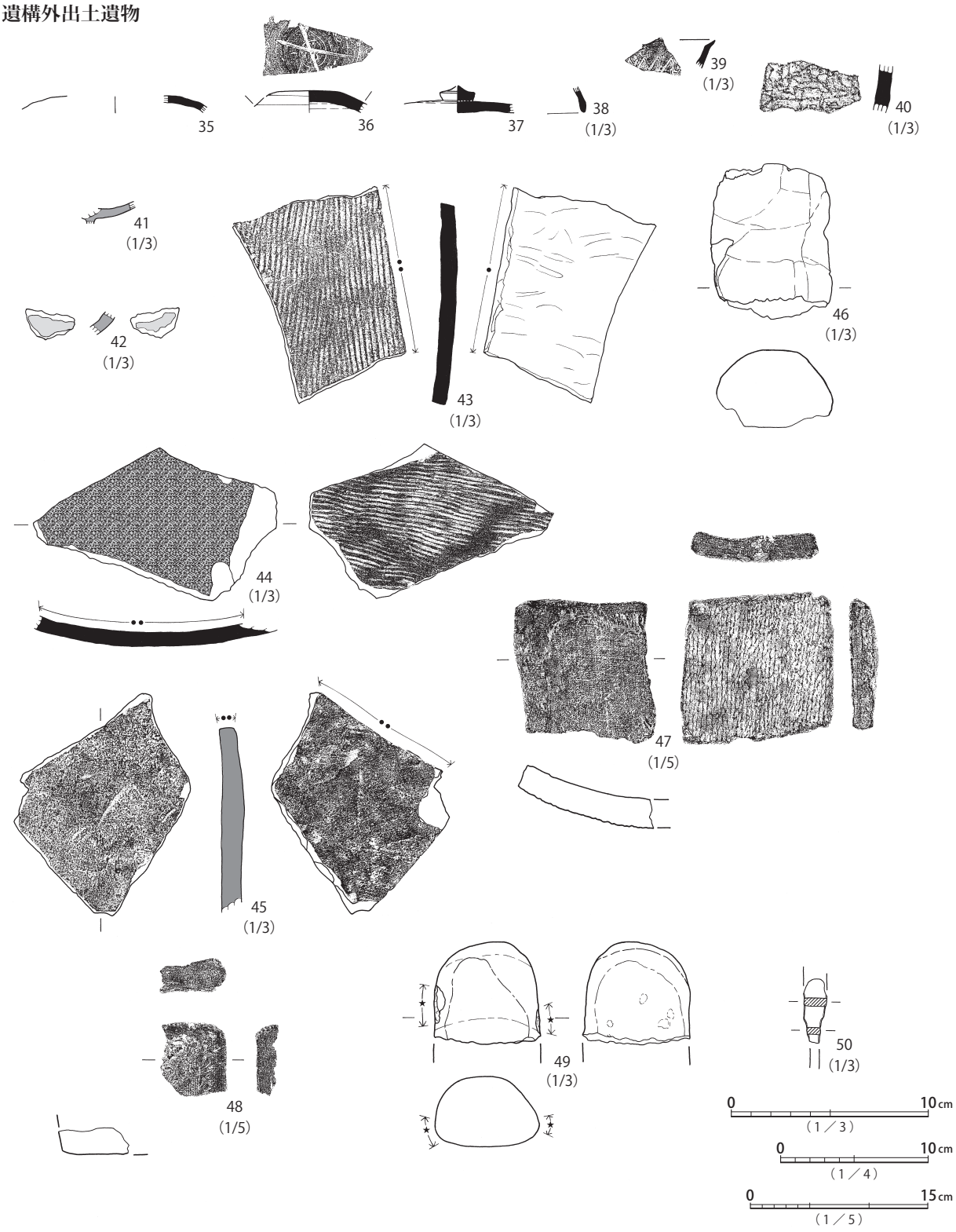
第121図　D区 出土遺物 遺物実測図(2)、E区 出土遺物 遺物実測図、西端区 出土遺物 遺物実測図

遺構外出土遺物

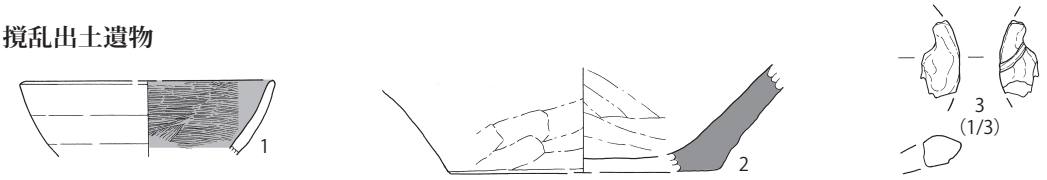


第122図　遺構外出土遺物 遺物実測図(1)

遺構外出土遺物



撹乱出土遺物



第123図　遺構外出土遺物 遺物実測図(2)、撹乱出土遺物 遺物実測図

れ外面に墨書が見られる。13は７世紀後葉～８世紀前葉の土師器杯であり、内面に暗文が見られる。14はロクロ土師器椀である。15 ～ 19は土師器高杯であり、17 ～ 19は古墳時代中期（和泉式）の所産と思われる。20はロクロ土師器皿、21は土師器壺であり、後者は底部焼成前穿孔されている。22は土師器小型甕、23・24は土師器甕であり、24の外面には判読不能墨書が見られる。25は弥生時代終末期（中台式）の弥生土器炉器台、26 ～ 29はミニチュア土器である。30・31は須恵器杯であり、前者は木葉下窯産で底部外面にヘラ記号が見られ、後者は永田・不入窯産である。32は東海産須恵器の底部突出高台付杯で８世紀前葉のものと思われる。33は須恵器高台付杯で新治産の可能性がある。34・37は東海産須恵器蓋で８世紀の所産である。35・36は陶邑産須恵器蓋である。36は７世紀前葉～中葉（TK209 ～ TK217型式並行）の所産であり、天井部にヘラ記号が見られる。38は須恵器蓋、39は陶邑産須恵器瑳である。40は千葉産須恵器甕であり外面に格子叩きが見られる。41・42は緑釉陶器椀であり、特に後者は稜椀である。いずれも猿投窯産である。43は須恵器転用砥石、44は東海産須恵器転用硯、45は常滑産中世陶器転用砥石、46はカマド支脚である。47は一枚作りの平瓦、48は塼である。49は敲石、50は刀子である。

また撹乱出土の遺物として、1は9世紀中葉～後葉のロクロ土師器杯、2は常滑産中世陶器片口鉢II類、3は不明土製品である。

第８節　遺構の変遷

今回、縄文時代の落とし穴と思われる遺構（SK017・071・090・112）が確認され、遺物として縄文時代早期中葉～後葉の深鉢などが出土している。

弥生時代については、中期（宮ノ台式期）と思われるSI33を除いて後期（久ヶ原式～山田橋式期）～終末期（中台式期）の竪穴建物跡や遺物が数多く検出された。後期は少なくとも15棟（SI01・SI02・SI04・SI05・SI06・SI09・SI10・SI14・SI15・SI16・SI21・SI24・SI25・SI26・SI30）であり、その中で山田橋式期に帰属する建物は８棟（SI01・SI04・SI05・SI06・SI09・SI21・SI24・SI26）と半分を占める。終末期は９棟（SI08・SI17・SI18・SI19・SI22・SI23・SI27・SI28・SI31）が確認されている。加えて、山田橋式～中台式期に位置付けられる建物（SI12）も検出されている。これら住居群の後期～終末期における時期毎の調査区内における分布をみると、後期は比較的調査区全体に分布する。一方、終末期はSI08を除いて西側、特にD2 ～ D4区とE2区周辺に偏在しており、居住空間の変容があった可能性がある。

古墳時代では時期推定可能な住居に限ると、前期（草刈式期）の竪穴建物跡が１棟（SI11）、中期（和泉式～鬼高式期）が９棟（SI34・SI35・SI37・SI38・SI39・SI40・SI43・SI45・SI47）、後期後半（鬼高式期）が２棟（SI36・SI41）、終末期が２棟（SI44・SI46）確認されている。須恵器から時期推定可能なのは中期後葉のSI37（TK23 ～ TK47型式並行期）と７世紀中葉のSI46（TK217 ～ TK46型式並行期）のみだが、市原市御林跡遺跡IIと市原市椎津茶ノ木遺跡の土器編年を参考にすると、SI34・47は中期中葉、SI35は中期後半～後期、SI36は後期後半、SI41は後期中葉～後葉、SI44は７世紀中葉と思われる。また、SI50も上層のSI75からほぼ完形に復元できた和泉式の高杯が出土したことから、中期前半に位置付けられる可能性がある。古墳時代の竪穴建物の分布の特徴として、中期～後期では主に調査区南東部と北壁付近へ集中しており、北東・南西部は希薄である。一方、７世紀中葉になると調

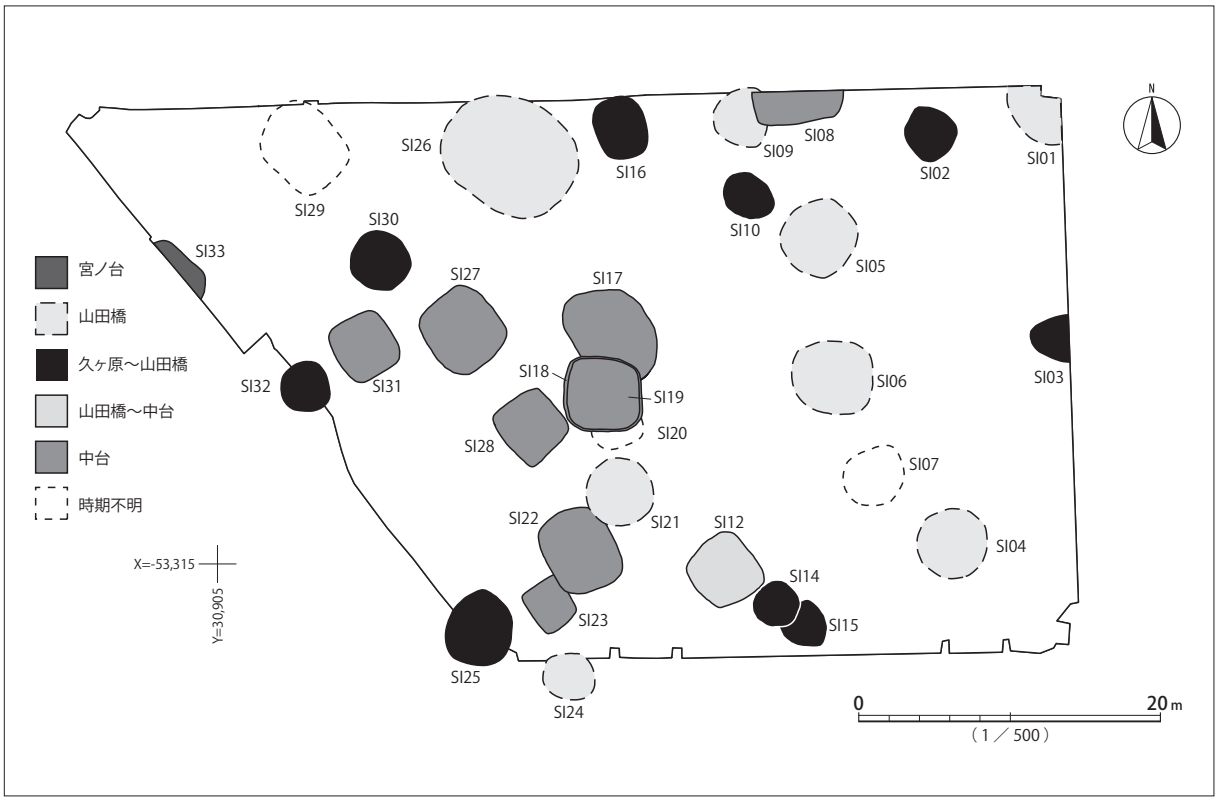
査区北西部に竪穴建物２棟が並ぶことから、遺構分布の重心移動がこの時期の集落居住域やその変化を示唆している可能性がある。

奈良時代では８世紀前葉にかけて調査区の西側に竪穴建物跡（SI49・SI51）や掘立柱建物跡（SB10A・SB10B）が確認され、前時期のSI44・SI46から連続して居住域として利用されていたことが窺える。一方で後葉～末には調査区南東部にも竪穴建物跡（SI48）が見られるようになる。

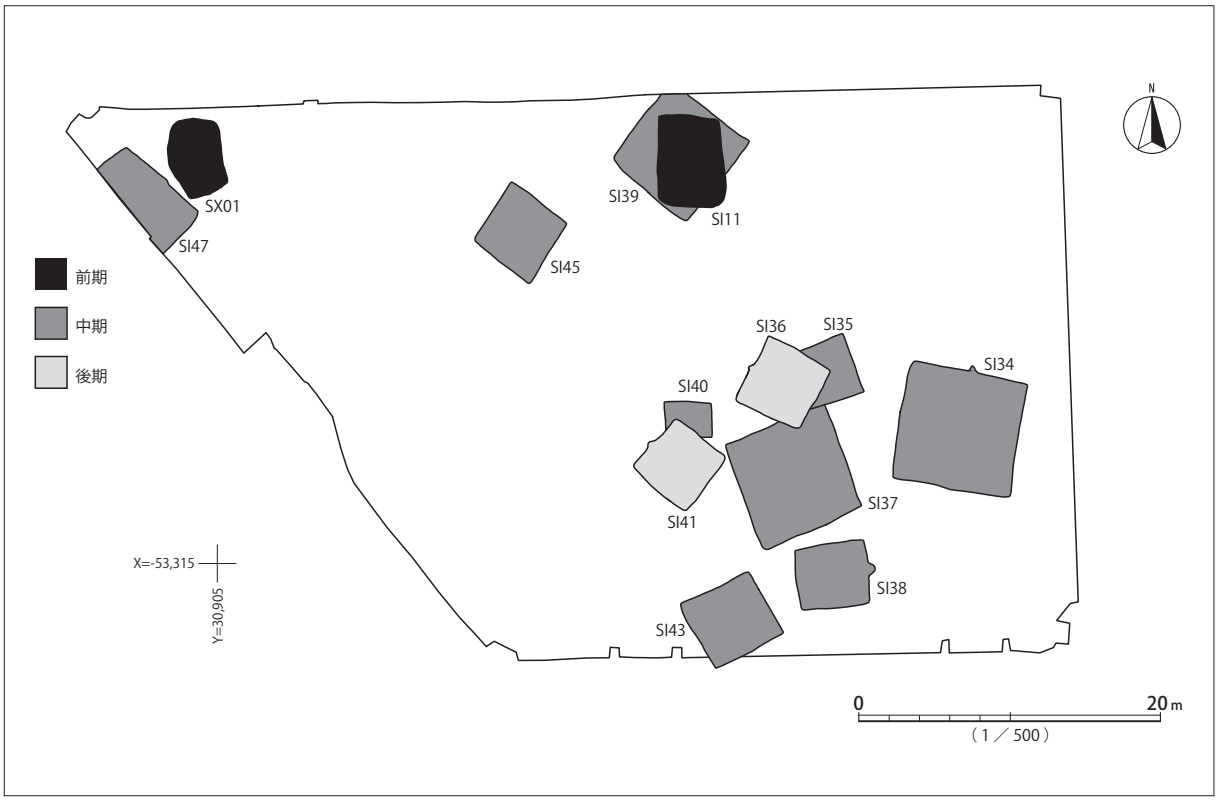
平安時代に至ると、９世紀前葉～中葉にかけて掘立柱建物跡（SB01・SB02・SB03・SB04・SB05・SB07・SB08・SB09・SB12・SB13・SB15・SB16）が主流となり、竪穴建物跡の数は比較的少数となる（SI54・SI55・SI56・SI66・SI76・SI77・SI78・SI79）。その後、中葉～後葉になると竪穴建物跡が主流となり（SI57・SI58・SI60・SI64・SI65・SI67・SI70・SI73・SI74・SI75）、掘立柱建物跡は少数となる（SB06・SB11・SB17）。そして９世紀後葉～ 10世紀前葉には掘立柱建物跡は検出されなくなり、竪穴建物跡（SI52・SI53・SI59・SI61・SI62・SI63・SI69・SI71・SI72）や廃棄坑と思われる比較的大型の土坑（SK007・SK008・SK009・SK010・SK011・SK013・SK014・SK015・SK016・SK043・SK091・SK115・SK116）が散見される。

10世紀中葉以降では今回の調査区では遺構は確認できなかった。中世になると区画溝や道路跡（SD01・SD02）、方形土坑（SK039・SK113・SK114）、小規模な土坑（SK027）が確認されるのみであり、C区以西では西端区のSB14を除いて遺構は確認されていない。

弥生時代

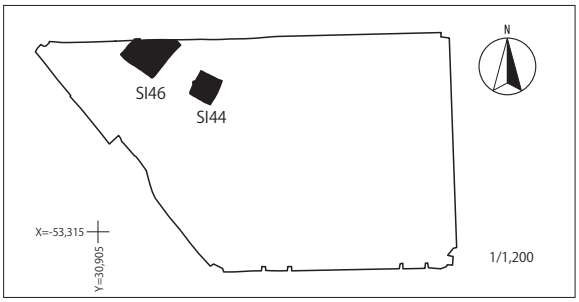


古墳時代

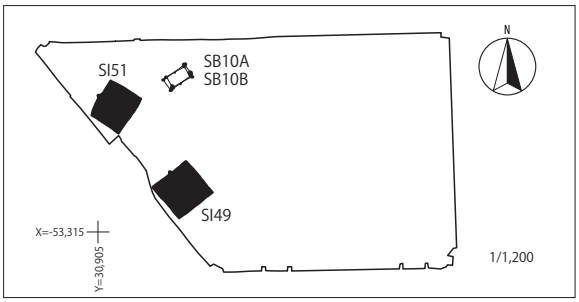


第124図　遺構変遷図(1)

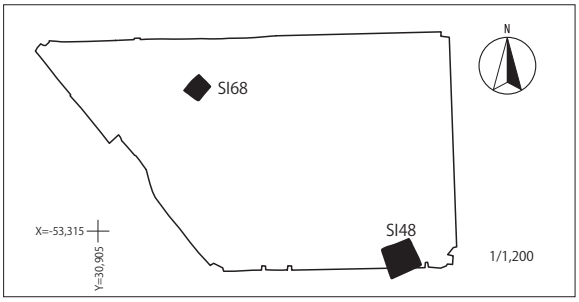
Ⅰ期



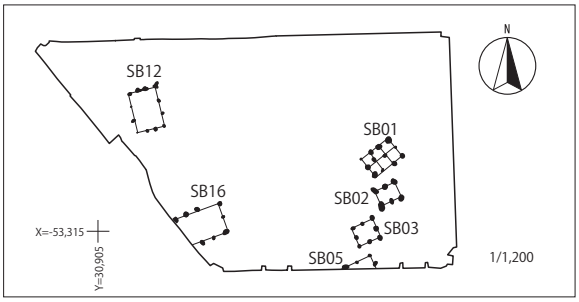
Ⅱ期



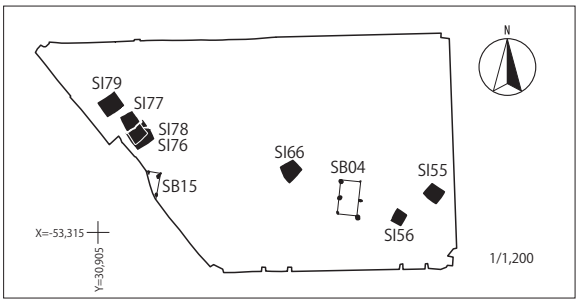
Ⅲ期



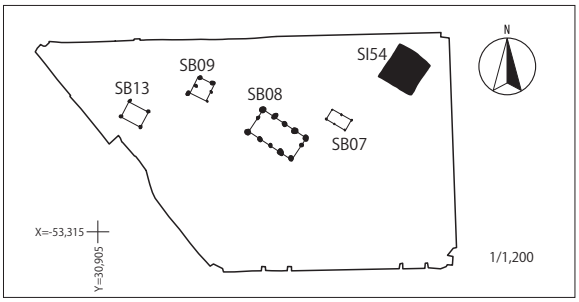
Ⅳ期



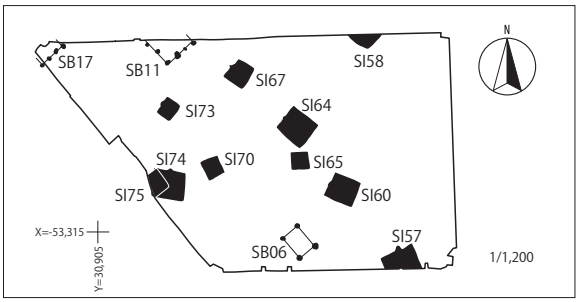
Ⅴ期



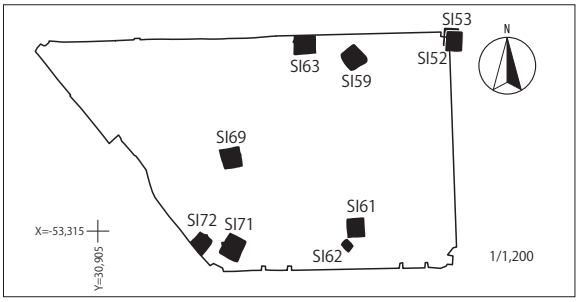
Ⅵ期



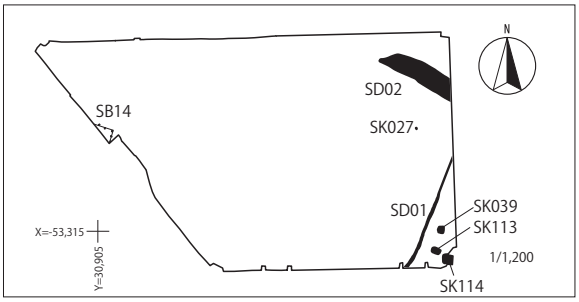
Ⅶ期



Ⅷ期



中世



第125図　遺構変遷図(2)

第３章　まとめ

今回の調査では弥生時代中期から中世にかけての多くの遺構・遺物が確認され、居住域としての継続的な利用の様相が明らかとなった。本章では弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世遺構の特徴や変遷をまとめる。

第１節　弥生時代（第 124 図）

この時期は判断が困難な遺構も含めて、32 棟の竪穴建物跡が確認されており今回の調査区内では最多である。特に後期（久ヶ原式～山田橋式期）～終末期（中台式期）の住居が大半であり、先述のようにこの２つの時期間に居住空間の変容があったと思われる。その他の特徴的な変化として外形があり、後期は円形が主流なのに対して、終末期になると隅丸方形が主流となる。

この他に特徴的な遺構として、SI26 が挙げられる。この建物の上端検出範囲面積は約 56.588 ㎡であり、炉は３箇所確認されている。この規模は久ヶ原式期を加えた、その他の弥生時代後期の計測可能な建物 12 棟（SI02・SI04・SI05・SI06・SI09・SI10・SI14・SI15・SI16・SI21・SI25・SI30）の平均面積約 14.281 ㎡を凌駕する。また、終末期の計測可能な建物８棟（SI17・SI18・SI19・SI22・SI23・SI27・SI28・SI31）の平均面積約 21.008 ㎡と比較しても遥かに大きい。出土遺物は鉢類と壺が主であり、他の住居の出土遺物と差別化できる要素はないが、突出した面積と複数の炉を有していることから、この遺構はリーダー層の居住用とを兼ね、集会場としても利用された中心的な建物であった可能性がある。

その他にも、今回の調査区内では SI21 から出土した北関東系の甕（後期）、SI33 から出土した東関東系の甕（中期後半、阿玉台北式系）、D4 区から出土した東海系のＳ字甕（終末期～古墳時代前期）など外来系の遺物が数点確認されている。点数が僅かであり詳細は不明だが、この遺跡一帯では中期から継続的に、村田川水系を介した外部との交流があったことを示す資料である。

第２節　古墳時代（第 124 図）

この時期において注目されるのは、SI34 をはじめとした調査区南東に位置する古墳時代中期～後期の竪穴建物群である。特に SI34 は一辺 7.8 ～ 7.9m と同時期の建物の中では最大であり、西壁に間仕切り溝、北壁にはカマド、南壁沿いやや東側に貯蔵穴が付随する。本遺構からは外面をケズリ調整し、赤彩を施した平底の杯が多く出土し、内面に放射状暗文を施す個体もある。また第 33 図 14 のような短い脚部を有し、内弯する口縁を持つ平底状杯部の高杯は、同時期の周辺遺跡では稀で、鬼高式期に主流となる丸底杯タイプの椀形高杯への過渡的形状を示す可能性がある。このような土器組成と和泉式土器の型式変化の傾向を踏まえると、SI34 出土の土師器杯群は県紀要編年Ｖ期（ON46 ～ TK208 型式期）（木原ほか 2012）に並行する様相と考えられる。この遺構から当該時期の須恵器は出土しておらず、時期推定に議論の余地はあるものの、当期のカマドは県内で広く普及する前段階と言える（小林 2005・木原ほか 2012）。市内の例をみると、御林跡遺跡等では遅くとも TK216 型式期の竪穴建物跡にカマドが付随しており、御林跡遺跡 II83 号遺構は TK73 型式期に遡る可能性が示されている（木對ほか 2008）。周辺遺跡では、村田川対岸台地上の草刈遺跡（Ｊ区）100 号住居（TK73 ～ TK216 型

式並行期）のように古い段階での導入事例を確認できる（小林2007・木原ほか2012）。

この他に特徴的な遺物として、第33図18の土師器鍋が挙げられる。製作技法は在地的であるが、器形は同時期の周辺遺跡では特異であり、平底で底面が広く、胴部立ち上がり際には把手があった可能性がある。おそらく渡来系遺物である韓式系軟質土器の模倣品と考えられ、製作技法は在地のものを受容していることから、所謂「定着型軟質土器」（中久保2017）と推測される。

これらの観点から、大型のSI34は集落一帯では初期段階にカマドを設置した事例であり、外来系の土器を有する中心的な建物であったと考えられる。そして近接する潤井戸西山遺跡や草刈尾梨遺跡では、和泉式期に位置付けられる竪穴建物にはカマドが設置されていないことから、SI34は周辺集落の中で先進的な建物であったことが窺える（鈴木1986、半田1992）。さらに草刈遺跡群や御林跡遺跡など、市内における同時期の中心的な集落と比較しても、大きく遅れることなくカマドを導入している様相は、今回の調査区周辺の開発・居住が草刈遺跡群等と連動して展開した状況を示唆する。

中期後葉（TK23 ～ TK47型式並行期）になると、中心的な建物はSI37へと移る。この建物は規模やカマドと貯蔵穴との位置関係がSI34と類似性することから、SI34の後継建物と推測される。一方、SI34は土師器杯、SI37は土師器高杯が多く出土している点は対照的な様相を示すが、性格の変化を反映するかまでは不明確である。廃絶時の出土遺物の様相変化が機能時の活動の移り変わりを示すとすれば興味深い。

後期になると、後葉にSI36、中葉～後葉にSI41が建築され、集落域としての利用は継続すると思われる。しかし、その後は7世紀中葉～後葉に帰属するSI44・46までの約100年間遺構は確認されず、遺物も確認されていない。今回は遺跡が位置する微高地のごく一部の調査であり、後期後葉以降の集落域が調査区外に展開していたとも考えられるが、当該時期の遺物が確認されていないことを踏まえると、一時的に微高地から人がいなくなったと推測される。

墓域との関係については、近傍では残存地形から復元的に想定される潤井戸高野前古墳が全長約90mの中期前方後円墳である可能性を持つものの、埴輪等は表採されず不確定である。また、調査区南方約300mの微高地上に位置する宿後古墳は全長約35mの前方後円墳で、今回検出された遺構群の存続時期に築造された可能性も考えられる。しかし、未調査であり、現在整理作業中の潤井戸遺跡群（鎌之助地区）を含め、居住域と対応する古墳については今後の検討課題とせざるを得ない。

第３節　奈良～平安時代（第 125 図）

この時期になると畿内産土師器の出土や掘立柱建物跡など、古墳時代後期までの集落様相から大きな変化が見られる。ここでは便宜上、SI44・46が帰属する7世紀中葉～後葉（TK217 ～ TK46型式並行期）から10世紀前葉までの今回の調査区内での集落の変遷・特徴を整理する。

Ⅰ期は7世紀中葉～後葉であり、この段階の遺構はSI44・SI46があり、掘立柱建物は確認されていない。これらの竪穴建物跡からは丸底で口縁部が少し内弯し、胴部外面はヘラケズリ、内面はミガキ調整が施された小型の土師器杯や内面黒色処理された土師器高杯、須恵器の杯身・杯蓋などが出土している。これらの建物構成や出土土器の様相は古墳時代後期からの連続性が認められ、次段階以降に見られる畿内産土師器や掘立柱建物の出現との過渡的な時期と判断した。

Ⅱ期は8世紀前葉であり、前段階と集落様相が大きく異なる。この段階に帰属する遺構はSI49・

51、SB10A・SB10Bである。SB10AはSI49と主軸方位が類似していることから、建て替え前のSB10Bも含めてこの段階の遺構と判断した。この時期は平城Ⅰ～Ⅱ期に相当し、SI49とその周辺で畿内産土師器が出土する。土器組成を見ると少なくとも杯A・C、皿A・Bの4種類が確認されており、特に杯A・Cが多い。また赤彩盤状杯がSI49と51から出土し、この遺物は律令国家形成期を象徴する土師器供膳具と考えられる（鶴間2019）。特に林部氏は、畿内産土師器は東日本において官衙を含む拠点的な地域・集落から出土する傾向があると述べている（林部1986・1992）。

この他の特徴的な遺物として、SI49から閂金具が出土しており、SI49には閂を必要とする施錠可能な扉が取り付けられていた可能性がある。松田氏の論考によると、千葉県内から閂金具が装着された住居があるのは地域を代表する拠点集落が大半を占めるとされている（松田2008）。

加えて、SI74から底部外面に「家」の墨書が記された、8世紀前半の土師器杯が出土しており、帰属時期からこの遺物は下層のSI49に由来すると考えられる。「家」の墨書については同様に、千葉県東金市作畑遺跡から「山口家」の墨書土器が出土しており、「上総国山辺郡山口郷の有力者の建物」と解釈されている（桐谷・大賀1986）。今回の調査区周辺は古代の行政単位では上総国市原郡湿津郷（うるつごう）に位置していることを踏まえると（宮本2007）、SI74から出土した「家」も湿津郷の有力者の建物を示していた可能性がある。

これらの観点から、この時期には律令国家の地域支配が進展し、SI49・SI51は官人と饗宴などを行う重要な施設の一端であったと同時に、遺跡一帯が律令国家の湿津郷統制における重要拠点であったと考えられる。

その他に、SI79の貼床から鉄製馬具の遊環と青銅製の銙帯金具が出土している。この遺構はSI51に内包されており、貼床の標高はSI51と同程度であったため、現場作業の段階で両遺構の貼床を判別することは困難であった。そのため、遊環と銙帯金具はSI51由来であった可能性がある。またこの銙帯金具について、静岡県静岡市半兵衛奥横穴から出土した類似品が馬具と共伴していることから（濱田1942）、同じく馬具と考えられ、SI51の想定時期から8世紀前葉の遺物と推測される。これらの遺物は、当該期の集落内に馬、そしてその馬を扱う有力者が存在していたことを示唆している。

Ⅲ期は8世紀中葉～後葉と考えられ、この時期の遺構はSI48・SI68と僅かであり、掘立柱建物跡は確認されていない。SI57から下層のSI48由来の遺物と考えられる灯明皿に転用された土師器杯が出土していることから、仏教儀礼が行われていた可能性があるが、今回の調査ではその様相を掴むことはできなかった。

今回調査区では当期の遺構は希薄だが、周辺遺跡を例に挙げると、潤井戸西山遺跡のR－1号住居や掘立柱建物、柵列、四脚門は宮本氏によると8世紀中葉の遺構とされており、竪穴建物からは畿内産土師器甕が検出されている（宮本2007）。また千葉市中央区の大北遺跡では、今回調査のⅢ期に並行する時期に掘立柱建物跡が多く建てられ、さらに掘立柱建物と竪穴建物の境界に区画施設としての柵が設けられている（萩原ほか1986）。今回の調査区において、SA03は8世紀に帰属する可能性があり、仮にこの遺構が8世紀の区画施設であるとすると、調査区の北隣に同時期の掘立柱建物群が位置しているとも考えられる。

Ⅳ期は掘立柱建物が多く建設される時期であり、前段階とは集落様相が大きく異なる。この段階に帰属する遺構は、SB01・SB02・SB03・SB05・SB12・SB16である。SB01・SB03・SB12・SB16は柱

穴の出土遺物から９世紀代とみなし、SB02・SB05はSB03と主軸方位が類似することから同時期と判断した。また後世の掘立柱建物の主軸方位が真北を基準に西から東へと変遷していることを考慮すると、この段階の年代は８世紀末～９世紀初頭と考えた。この時期の建物の主軸方向は真北から西に傾き、調査区東側には倉庫と考えられる建物群が南北に並ぶ。また西側の建物は倉庫群より規模が大きく、倉庫の管理棟のような施設であったと思われる。この時期の建物群の柱通りは比較的悪く、さらに東西の建物群の位置関係は明確に区別されているが､間に柵列などの区画施設は確認されていない。

またこの時期の特徴として、調査区内で唯一の総柱建物であるSB01の柱穴b2検出面上層から「丈子万呂○」の人名墨書土器が出土した。また、SB16の柱穴c3から９世紀前葉～中葉の土師器杯が出土しており、内面に「丈」の刻書が見られる。「丈」は「丈部」姓を指すと考えられ、この姓は８世紀中葉～９世紀前葉にかけて下総国印旛郡で多く見られる（天野2005）。加えて、調査区から南方約3kmの冬込野遺跡から「刑房私印」と銘された銅印が表採されており、９世紀の私印と考えられている。Ⅳ期になると掘立柱建物が主体となり、４棟と比較的多くの倉が建ち並ぶ遺跡様相から、遺跡周辺で活発な開発が行われたことが考えられ、こうした開発に伴い、湿津郷に「丈部」姓や「刑部」姓の人々が流入したと考えられる。特に「丈部」姓の人々は調査区一帯の集落経営に何らかの関わりがあったと推測され、それはⅦ期頃まで継続したと推察される。

Ⅴ期は竪穴建物と掘立柱建物が共存する時期であり、SI55・SI56・SI66・SI76・SI77・SI78・SI79、SB04・SB15がこの段階に帰属する。年代は９世紀前葉と考えられる。掘立柱建物２棟は南北棟建物であり主軸方位は真北から６～11°東に傾くが、今回の調査区内では最も真北に近づく。竪穴建物群はD区を境に東西に分かれ、規模は比較的小規模である。SI76・SI77・SI78は重複しており同時期に併存することはないこと踏まえると、この時期は掘立柱建物１棟と竪穴建物２～３棟で集落単位が形成されていたと推測される。

Ⅵ期は掘立柱建物群が再び主体的になる時期であり、SI54、SB07・SB08・SB09・SB13がこの段階に帰属する。この段階から掘立柱建物群の主軸方位が真北から大きく東に傾き、柱通りは比較的良好な建物が多い。またSI54の上端面積は調査区内の同じ平安時代の住居の上端面積より比較的大きく、推定主軸方位は近接するSB08・SB09と類似する。さらにSB08の面積も約34㎡と比較的大規模であり中心的な施設であったと考えられる。この掘立柱建物はSI66より新しく、SI64より古いことを踏まえると、この時期の年代は９世紀中葉と考えられる。この時期は大規模な掘立柱建物と竪穴建物１棟ずつと小規模な掘立柱建物数棟の集落単位が形成されていたと思われる。

Ⅶ期は前段階と対照的に竪穴建物が主体となる時期であり、SI57・SI58・SI60・SI64・SI65・SI67・SI70・SI73・SI74・SI75、SB06・SB11・SB17がこの段階に帰属する。SB11・SB17は出土遺物から９世紀代と考えられ、SB06はこれら２つの掘立柱建物と主軸方位が類似することから同時期と判断した。さらに掘立柱建物の主軸方位が前段階よりさらに真北から東に傾く。またこの段階の竪穴建物からは多くの遺物が出土しており、この時期の年代は９世紀後葉と考えられる。この時期の掘立柱建物は主に調査区南北際に位置していることから建物群としての展開の把握は困難であり、竪穴建物と掘立柱建物の集落単位は判然としない。さらにSI67から「大」の墨書土器が出土している。特にSI67－7は「大」が単独で記されており、集団の共通記号の役割を果たしていた可能性があるが、詳細は不明である。

またこの時期の特徴的な遺物として、SK012から出土した緑釉陶器椀皿類やSK007から出土した海老錠やクルル鉤が挙げられる。緑釉陶器は当時、高級食器であり、湿津郷にこうした品物を入手できる階層がいたことを示している。また鍵類は、物品の管理・運用に不可欠な倉の施錠道具であり、これらは市内においては稲荷台遺跡E地区などで出土している（浅利ほか2003）。合田氏によると、カギが出土するのは官衙関連遺跡や地域の中心的な集落として機能していた遺跡であり、その性格として官人の居宅や富裕層の屋敷・荘園などが考えられる（合田1998）。今回はこれらのカギと同時期の倉庫や大規模な掘立柱建物跡は確認できなかったが、潤井戸遺跡群は未調査の範囲も広く、9世紀後葉にカギを必要とする重要な施設が調査区外へ展開していた可能性は高い。

VIII期は掘立柱建物が造られなくなる時期であり、SI52・SI53・SI59・SI61・SI62・SI63・SI69・SI71・SI72がこの時期に帰属する。この時期の竪穴建物遺構は貼床のみ、またはその上層を僅かに検出した例が多い。また柱穴が確認できた遺構はないことから、掘り込みの浅い簡素な作りの竪穴建物が並んでいた可能性がある。さらにこの時期には、廃棄坑と思われる比較的大型の土坑が一定数見られるようになる。年代としては9世紀末～10世紀前葉と考えられる。

第4節　中世（第125図）

中世以降では検出される遺構・遺物は希薄となり、東側に区画溝と見られる溝（SD01）や道路（SD02）、方形土坑などが確認されている。また西端区には掘立柱建物跡SB14が位置する。この時期における遺跡の様相は不明瞭だが、SD02から龍泉窯系青磁の盤が出土している。また出土遺物の様相から、SD01とも帰属時期はほぼ同一と考えられることから、SD02はSD01によって区画された地域を結ぶ重要な道路であった可能性がある。

第5節　遺跡の性格

上記の遺構変遷や出土遺物から、調査区内での縄文時代～中世にかけての土地利用や集落の様相が明らかとなった。縄文時代では早期の深鉢や落とし穴と思われる大型の土坑などが確認されているが、遺構・遺物ともに僅少で継続的な土地利用の様相は見られない。弥生時代中期後葉以降になると竪穴建物が造られ、一時的に遺構が希薄となる時期はあるものの、古墳時代終末期まで継続的に集落が営まれたと考えられる。そして、特徴的な様相として、8世紀以降になると、畿内産土師器や掘立柱建物が検出され始める。近隣の潤井戸西山遺跡でも畿内産土師器や掘立柱建物が確認されていることから、遺跡一帯が湿津郷内において中心的な拠点であったことが窺える。しかし、9世紀になると、倉庫をはじめとする掘立柱建物が主体の集落構成へと変化し、律令制が弛緩するとともに、地域有力者による周辺の土地開発が活発に行われたことが示唆される。そして、9世紀後葉になると竪穴建物が中心の構成へ再び変化し、掘立柱建物の数は減少する。一方、同時期の緑釉陶器や海老錠、クルル鉤が出土していることから、中心的な集落としての機能はこの時期まで続いたと思われる。その後、9世紀末～10世紀前葉にかけて竪穴建物の数も減少し、10世紀中葉頃には集落は廃絶したと考えられる。中世以降には道路や区画溝、掘立柱建物が僅かに形成されるが、集落としての性格は認められない。弥生時代～中世における集落の成立・発展・廃絶のより具体的な様相の解明については、現在整理作業中の潤井戸遺跡群（鎌之助地区）も含めて今後の資料の蓄積に期待したい。

引用参考文献

赤井博之1998「古代常陸国新治窯跡群の基礎的研究（1）～奈良・平安時代の須恵器編年を中心に～」『婆良岐考古』第20号　婆良岐考古同人会

浅野健太2023『市原市五所四反田遺跡』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第57集

浅利幸一・坂野和信・笹生衛・田所真・平田和明・星野敬吾2003『市原市稲荷台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第Ⅸ集

天野努2005「墨書土器からみた古代房総の郷と村と集落・家族」『千葉県文化財センター　研究紀要24―30周年記念論集―』財団法人千葉県文化財センター

稲田孝司1978「忌と竈と王権」『考古学研究25－1』　考古学研究会

井上喜久男2015「瓷器」『愛知県史　別編』窯業1古代猿投系　愛知県

大村直・石田広美・加藤正信1989『市原市文作遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第30集

大村直・西野雅人・鶴岡英一・加納哲哉・上奈穂美2004『市原市山田橋大山台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第88集

大村直・鶴岡英一2009『市原市南中台遺跡・荒久遺跡A地点』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集

小沢洋2008『房総古墳文化の研究』六一書房

川上知哉2024「潤井戸遺跡群（西ノ崎地区）」『令和5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第64集

木對和紀1992『市原市椎津茶ノ木遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第49集

木對和紀・藤根久・長友純子・渡辺新・鶴岡英一・上奈穂美2008『市原市御林跡遺跡Ⅱ』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第5集

木原高弘・黒沢崇・神野信2012「古墳時代中期の房総―中期的要素の波及とその評価―　第3章　集落の様相」『研究紀要27』財団法人千葉県教育振興財団文化財センター

桐谷優・大賀健1986『作畑遺跡発掘調査報告書』作畑遺跡調査会

合田芳正1998『考古学ライブラリー66　古代の鍵』ニュー・サイエンス社

後藤建一2015『遠江湖西窯跡群の研究』六一書房

小林清隆2005「房総における竈導入の頃の様相―竈と貯蔵穴　その2―」『千葉県文化財センター　研究紀要24―30周年記念論集―』財団法人千葉県文化財センター

小林清隆2007『千原台ニュータウンXIX―市原市草刈遺跡（J区）―』財団法人千葉県教育振興財団文化財センター

財団法人千葉県文化財センター 1993『研究紀要14』

櫻井敦史・大村 直・小橋健司・忍澤成視・金子浩昌・永嶋正春・植木真吾・金井慎司2009『上総国分僧寺跡I』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第8集

佐々木義則1997「木葉下窯跡群の須恵器生産―奈良時代前半を中心に―」『婆良岐考古』第19号　婆良岐考古同人会

柴垣勇夫・中野晴久・仲野泰裕・安井俊則・青木修2012『愛知県史　別編』窯業3中世・近世常滑系　愛知県

鈴木英啓1986『潤井戸西山遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第9集

高橋康男1992『市原市小谷1号墳』財団法人市原市文化財センター調査報告書第45集

滝澤誠2024「関東地方における武蔵型甕の様相」『研究紀要　第38号』公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

鶴岡英一2001「潤井戸鎌之助遺跡（第2次）」『市原市文化財センター年報（平成10年度）』財団法人市原市文化財センター

鶴間正昭2019『律令国家形成期の土器様相』六一書房

中久保辰夫2017『日本古代国家の形成過程と対外交流』大阪大学出版会

奈良国立文化財研究所1962『平城宮発掘調査報告Ⅱ―官衙地域の調査―』（奈良国立文化財研究所10周年記念学報第15冊）

奈良国立文化財研究所1993『平城宮発掘調査報告XIV―第二次太極殿院の調査―』（奈良国立文化財研究所創立40周年記念学報第51冊）

萩原恭一・池田大助・相京邦彦・麻生正信・小林清隆・田井知二1986『大北遺跡・谷津遺跡・瓜作遺跡・池田古墳群』財団法人千葉県文化財センター

濱田齊1942「駿河国美和村半兵衛奥古墳遺物に就て」『考古学雑誌32－10』日本考古学会

林部均1986「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器」『考古学雑誌72－1』日本考古学会

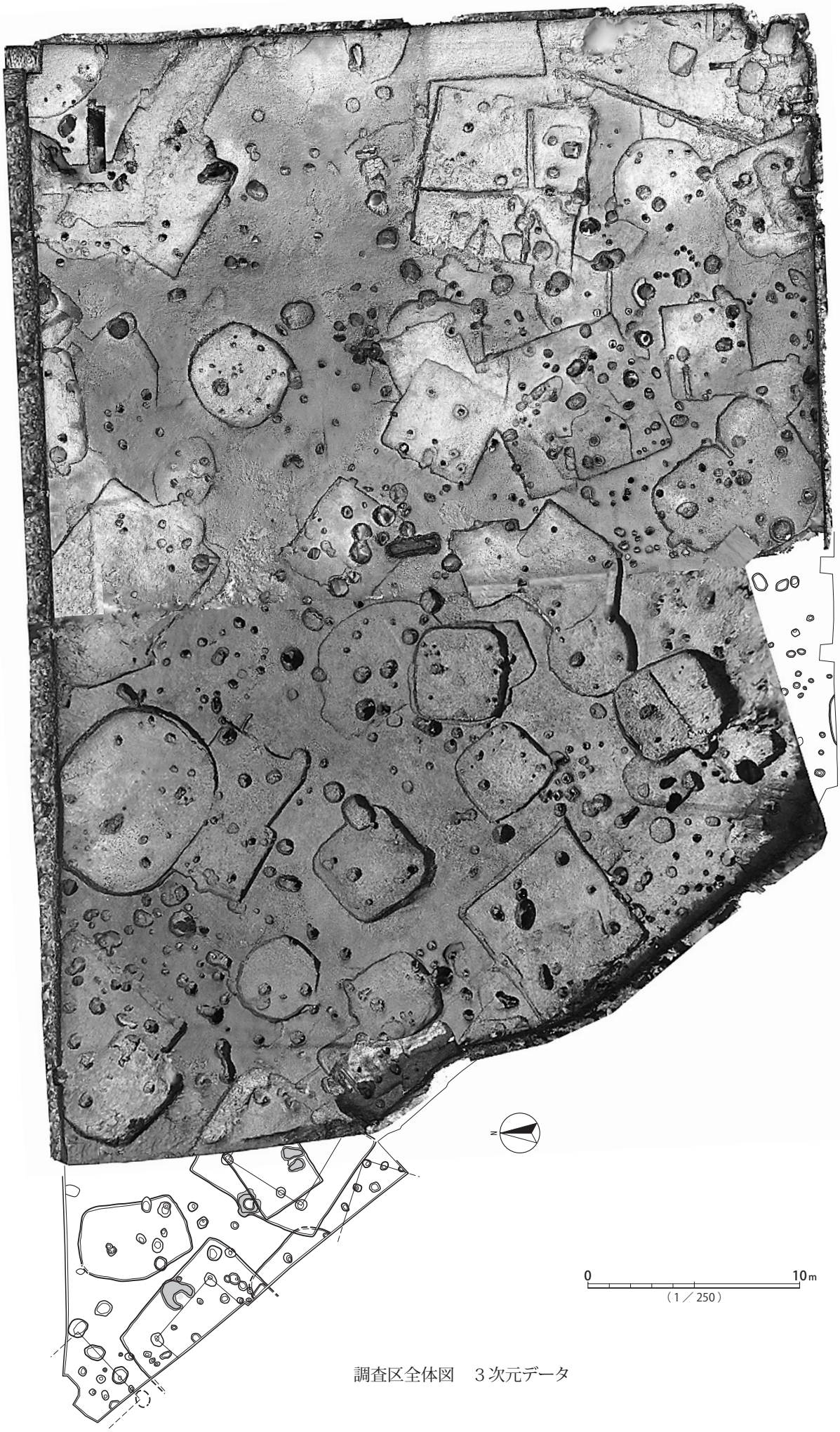
林部均1992「律令国家と畿内産土師器―飛鳥・奈良時代の東日本と西日本―」『考古学雑誌77－4』日本考古学会

半田堅三1992『千葉県市原市草刈尾梨遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第46集

坂野和信2007『古墳時代の土器と社会構造』雄山閣
房総歴史考古学研究会1987『房総における歴史時代土器の研究』
松田富美子2008「閂金具の事例―千葉県内の集成―」『多知波奈の考古学―上野恵司先生追悼論集―』橘考古学会編
祭り野遺跡・山王後古墳発掘調査団1982『千葉県市原市潤井戸地区祭り野遺跡・山王後1号墳　東京電力送電線拡張建替工事に伴う考古学的緊急発掘調査報告書』
宮本敬一2007「村田川流域の古代地名」『市津地区・ちはら台地区の遺跡と文化財　市原市歴史と文化財シリーズ　第12輯』市原市地方史研究連絡協議会
山本信夫2022「第7章　貿易陶磁器　第1節　中世前期の貿易陶磁器」『新版　概説　中世の土器・陶磁器』日本中世土器研究会

写真図版

潤井戸遺跡群周辺航空写真（昭和36年撮影）

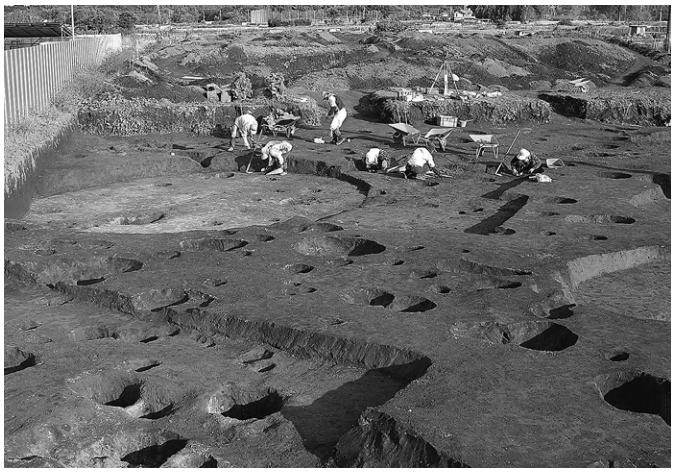


調査区全体図　３次元データ

発掘前状況 1（南から）

発掘前状況 2（南から）

作業風景 1（南から）



作業風景 2（西から）

調査区北側（スイッチバック前）遺構検出状況（南西から）

調査区中央（スイッチバック前）遺構検出状況（西から）

調査区南側（スイッチバック前）遺構検出状況（東から）

調査区北側（スイッチバック後）遺構検出状況（南西から）

調査区中央（スイッチバック後）遺構検出状況（東から）

調査区南側（スイッチバック後）遺構検出状況（東から）

法定外道路区 1 遺構検出状況（南から）

法定外道路区 2 遺構検出状況（北東から）

西端区遺構検出状況（南から）

SI01 掘削状況（南西から）

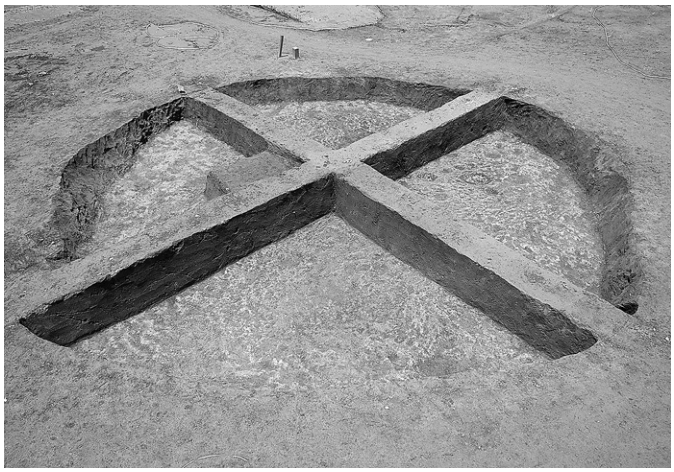
SI01 完掘（南西から）

SI02 完掘（南西から）

SI03・SK021・025 完掘（西から）

SI04・56 掘削状況（南西から）

SI04・56 完掘（北西から）


SI05 掘削状況（南東から）

SI05 完掘状況（北西から）

SI06・35 掘削状況（北西から）

SI06 土器 1・2 出土状況（南から）

SI06・35 完掘（西から）

SI08・SK044 完掘（南西から）

SI09 完掘（南から）

SI10 完掘（北西から）

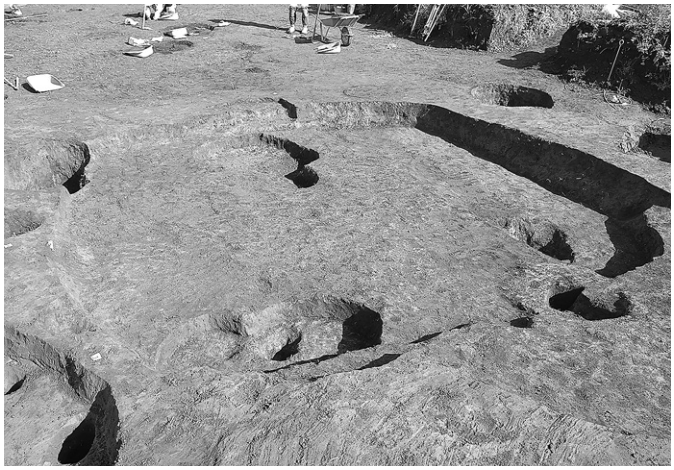
SI11・39 完掘（南東から）

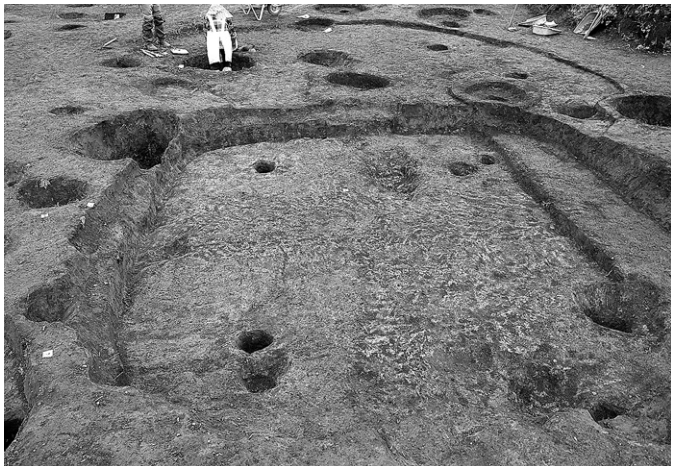
SI12・14・15・43 完掘（北西から）

SI16 完掘（南西から）

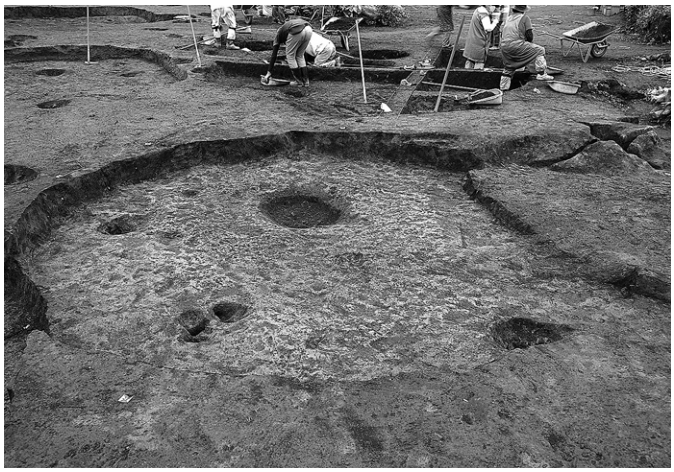
SI17 完掘（北西から）

SI18 土器 3 出土状況（北西から）


SI18・SK117 完掘（南西から）


SI19 完掘（南から）

SI20 完掘（北東から）


SI21 完掘（南東から）

SI22 完掘（南東から）

SI23・71・SK014・016 完掘（南東から）

SI25 完掘（南東から）

SI26・45 完掘（南から）

SI27 完掘（北西から）

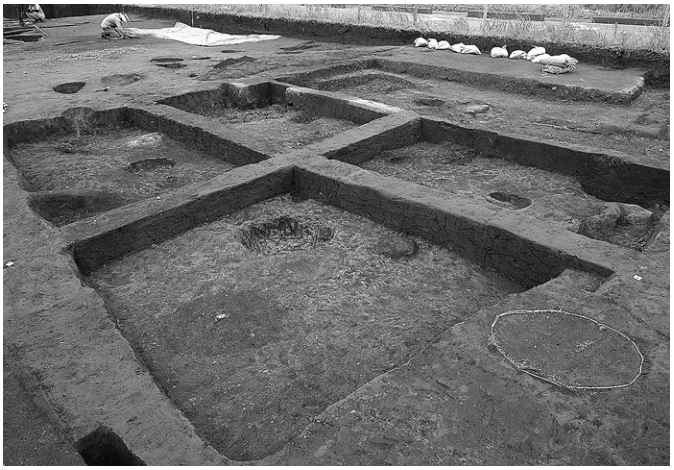
SI28 完掘（北西から）

SI29・46・SK103 完掘（南から）

SI30 完掘（東から）

SI31・76 完掘（南東から）

SI76 完掘（北西から）



SI34 掘削状況（南西から）

SI34 遺物出土状況（南から）

SI34 鉄鎌 38 出土状況（南から）

SK001 土器 5 出土状況（北から）

SI34 カマド断面（南から）

SI34 カマド煙道（南西から）

SI34 完掘（南から）

SK002 検出状況（南西から）

SK002 煙道 完掘（東から）

SI36 カマド完掘（南東から）

SI36 遺物出土状況（南東から）

SI36 完掘（南東から）

SI37 掘削状況（南西から）

SK003 土器 1 出土状況（西から）

SI37 カマド完掘（南から）

SI37 完掘（南西から）

SI38 カマド完掘（西から）

SI38 遺物出土状況（南から）

SI38 完掘（西から）

SI11 遺物出土状況（北から）

SI41 カマド完掘（南東から）

SI41 土器 16 出土状況 1（西から）

SI41 貯蔵穴（SK005）土器 2・5 出土状況（北東から）

SI41 土器 14 出土状況 2（東から）

SI40・41・66 完掘（スイッチバック前）（北から）

SI44 完掘（南東から）

SI46 土器 5・7 出土状況（西から）

SI47 カマド完掘 土器 2 出土状況（南西から）

SI47 土器 1・3・4 出土状況（西から）

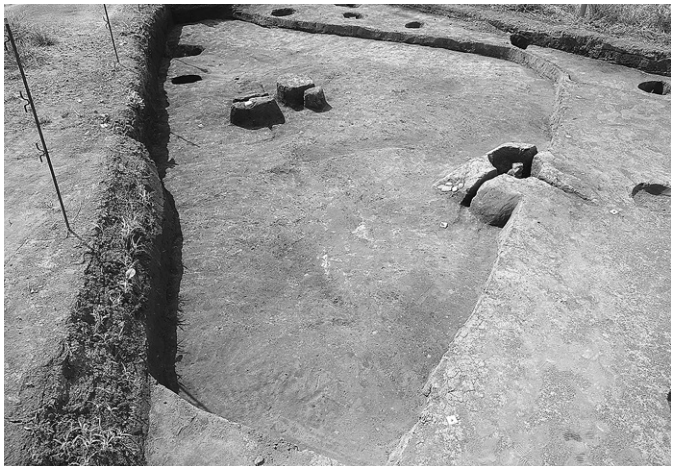
SI48・57 完掘（北から）

SI49 カマド完掘（南東から）

SI49・Pit027 完掘（南東から）

SI50 完掘（北東から）

SI51 カマド完掘（南東から）



SI51・79 完掘（北から）

SI52・53 完掘（南西から）

SI54・SK029 完掘（西から）

SI57 カマド完掘 支脚 24・25 出土状況（南から）

SI58・SK045・SK115・116 完掘（南から）

SI59 遺物出土状況（南から）

SI59 長頸瓶 17 出土状況（南から）

SI60 カマド掘削状況（南から）

SI63 カマド掘削状況（東から）

SI63 鉄鎌 4 出土状況（南から）

SI64 カマド完掘 支脚 21 出土状況（南東から）

SI64・SK066 完掘（南東から）

SI65 貼床検出状況（南から）

SI67 カマド完掘（南東から）

SI68 カマド完掘（南東から）

SI69 カマド完掘（西から）

SI70 カマド構築材土器類（南から）

SI70 カマド支脚 34 出土状況（南から）

SI72 カマド完掘（南西から）

SI74 完掘（南から）

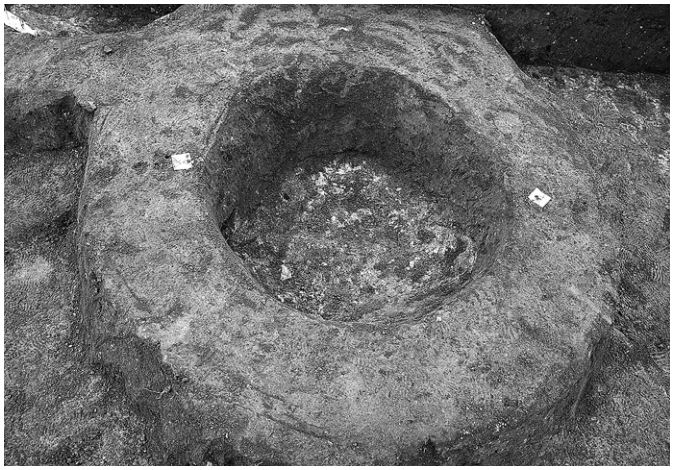
SI77 完掘（北から）

SI79 カマド完掘 土器 5 出土状況（北から）

SB01 a3 完掘（南東から）

SB01 b1 完掘（南から）

SB01 b2 完掘（南から）


SB01 c3 完掘（東から）

SB02 a1 完掘（西から）

SB02 a2 半截状況（南から）

SB02 b2 半截状況（南から）

SB03 a1 完掘（南から）

SB03 b1 完掘（北から）

SB03 c1 半截状況（南から）

SB08 完掘（東半分）（南東から）

SB08 完掘（スイッチバック後）（北西から）

SD01 完掘（北から）

SD02 完掘（北西から）

SK008 完掘（北東から）

SK017 完掘（東から）

SK039 完掘（南から）

SK066 長頸瓶 7 出土状況（南から）

SK043 半截状況（北から）

SK071 完掘（南東から）

Pit028 土器 1 出土状況（南東から）

SX01 完掘（南東から）

調査区北側完掘（スイッチバック前）（南西から）

調査区中央完掘（スイッチバック前）（西から）

調査区南側完掘（スイッチバック前）（北西から）

調査区北側完掘（スイッチバック後）（南東から）

調査区中央・南側完掘（スイッチバック後）（北西から）

調査区完掘（法定外道路区）（南から）

調査区完掘（西端区）（南東から）

SI01－1

SI01－7

SI02－1

SI04－2

SI04－3

SI05－1

SI05－2

SI06－1

SI06－2

SI08－1

SI09－1

SI09－12

SI09－2

SI09－4

SI09－5

SI09－6

SI09－8

SI09－9

SI11－2

SI12－1

SI12－2

SI12－4

SI12－5

SI12－7

SI15－1

SI16－2

SI18－3

SI19－1

SI21－2

SI22－3

SI22－4

SI22－5

SI22－6

SI22－7

SI23－1

SI23－3

SI25－1

SI26－2

SI26－6

SI26－7

SI26－8

SI27－1

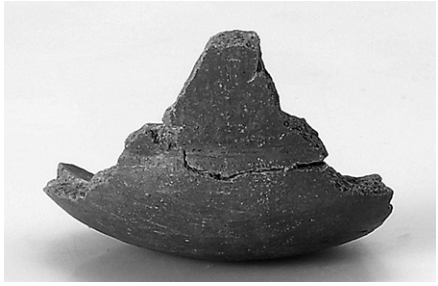
SI27－2

SI27－3

SI27－4

SI28－3

SI29－1


SI29－3

SI29－4

SI29－7

SI30－2

SI31－1

SI31－2

SI31－3

SI34－1

SI34－2

SI34－10

SI34－14

SI34－17

SI34－18

SI34－3

SI34－4

SI34－5

SI34－6

SI34－7

SI34－8

SI34－9

SI34－21

SI35－1

SI35－2

SI36－1

SI36－2

SI36－3

SI36－4

SI36－5

SI36－6

SI36－17

SI36－18

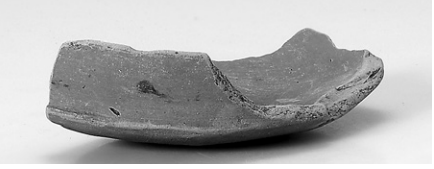
SI36－20

SI36－21

SI36－23

SI37－1

SI37－2


SI37－4

SI37－11

SI37－12

SI37－17

SI37－13

SI37－14

SI37－15

SI37－18

SI37－19

SI37－21

SI37－22

SI37－24

SI37－25

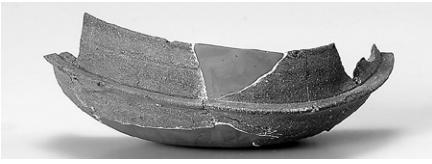
SI37－28

SI37－32

SI37－33

SI37－34

SI37－35


SI37－36

SI37－40

SI38－1

SI38－2

SI38－5

SI38－4

SI38－6

SI38－7

SI38－9

SI38－10

SI38－11

SI38－13

SI38－14

SI39－2

SI39－4

SI39－5

SI40－1

SI41－4

SI41－5

SI41－6

SI41－7

SI41－10

SI41－11

SI41－14

SI41－15

SI41－16

SI43－1

SI43－2

SI43－3

SI43－4

SI43－5

SI43－8

SI44－1

SI44－2

SI44－3

SI44－4

SI44－5

SI44－6

SI44－7

SI44－8

SI45－2

SI46－1

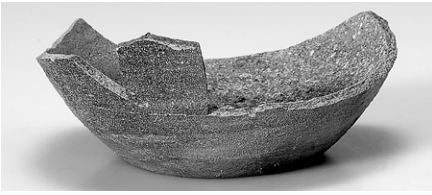
SI46－4

SI46－5

SI46－6

SI46－7

SI46－10


SI46－12

SI47－1

SI47－2

SI47－3

SI47－4

SI47－5

SI48－2

SI48－4

SI49－1

SI49－2

SI49－18

SI49－19

SI49－29

SI51－10

SI52－1

SI52－2

SI52・53－1

SI54－7

SI55－1

SI56－3

SI57－1

SI57－24

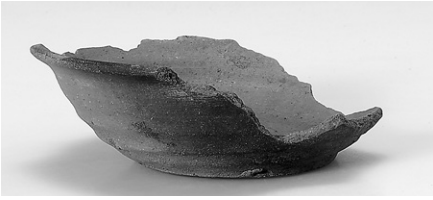
SI57－25

SI57－3

SI57－5

SI57－10

SI57－12


SI58－1

SI58－2

SI58－4

SI58－5

SI59－1

SI59－2

SI59－3

SI59－4

SI59－11

SI59－13

SI59－17

SI60－1

SI60－5

SI60－6

SI60－12

SI61－1

SI61－2

SI62－1

SI62－2

SI63－2

SI64－11

SI64－14

SI64－17

SI64－18

SI64－2

SI64－3

SI64－7

SI64－16

SI67－11

SI67－19

SI64－21

SI64－22

SI67－6

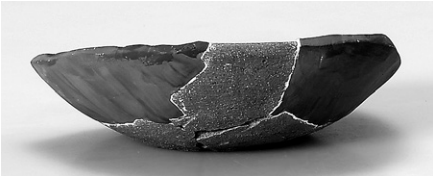
SI67－7

SI67－12

SI68－2

SI68－3

SI69－1


SI69－2

SI69－3

SI70－1

SI70－2

SI70－3

SI70－4

SI70－5

SI70－14

SI70－17

SI70－18

SI70－19

SI70－20

SI70－24

SI70－26

SI70－28

SI70－32

SI70－34

SI71－2

SI72－1

SI74－6

SI74－7

SI75－3

SI76－1

SI76－4

SI76－6

SI76－7

SI77－1

SI79－1

SI79－5

SB02b3－1

SB08a2－2

SB16c3－1

SK001－1

SK001－2

SK001－3

SK001－4

SK001－5

SK001－6

SK001－7

SK003－1

SK004－3

SK005－1

SK005－2

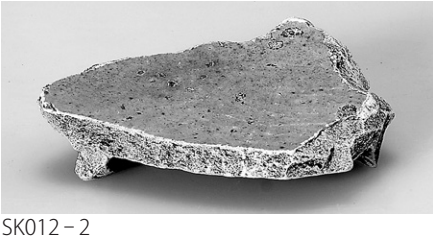
SK005－5

SK006－1

SK007－3

SK008－1

SK012－1


SK012－2

SK013－1

SK014－1

SK014－3

SK045－1

SK057－2

SK066－5

SK066－7

SK096－1

Pit028－1

SX01－2

B3 区－1

B3 区－5

B4 区－3

B4 区－6

C4 区－7

C4 区－9

C4 区－12

D1 区－1

D2 区－4

D3 区－2

D3 区－3

D4 区－2

E3 区－1

E3 区－3

E4 区－1

西端区－2

遺構外出土遺物－2

遺構外出土遺物－17

遺構外出土遺物－18

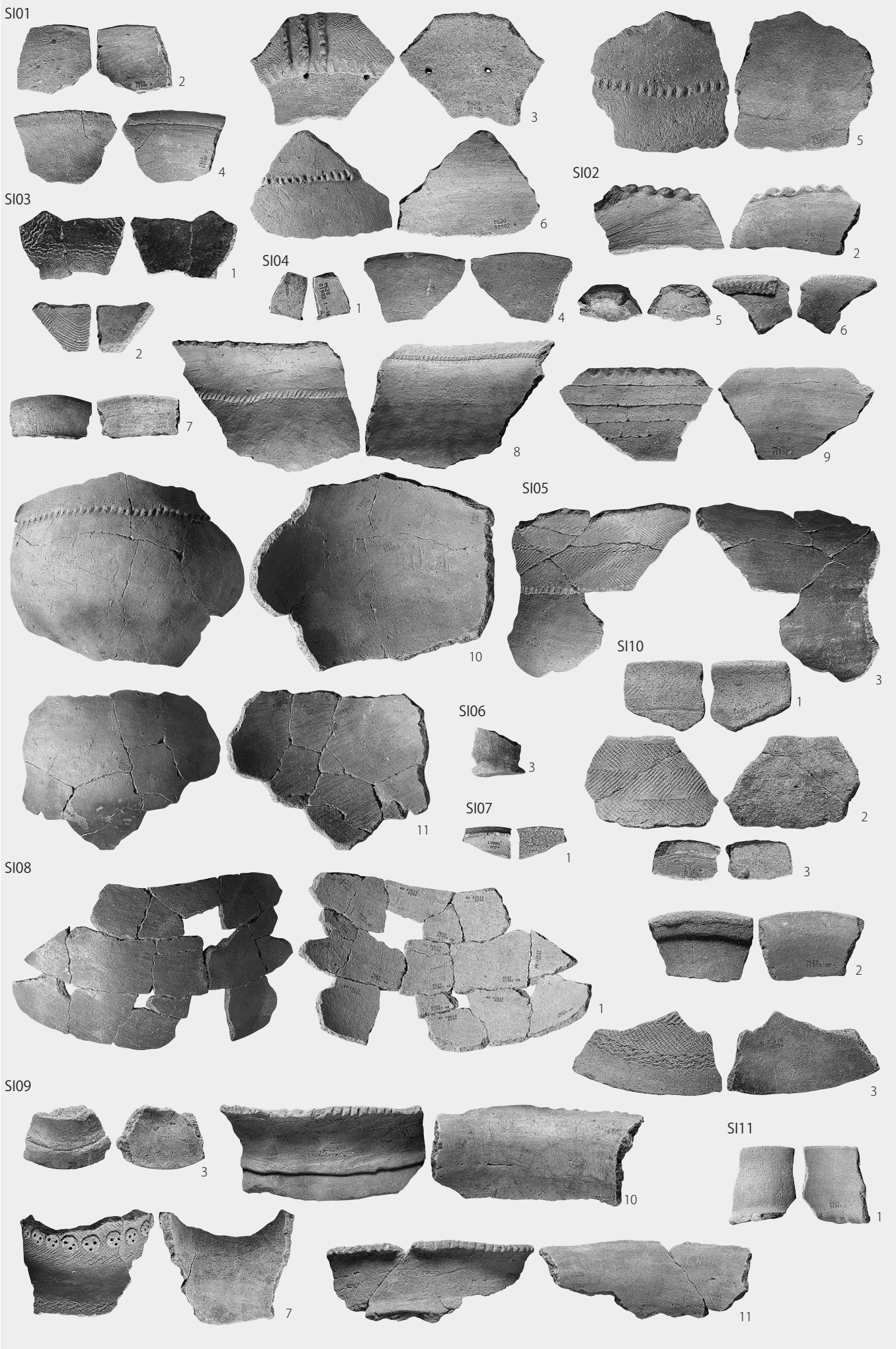
遺構外出土遺物－19

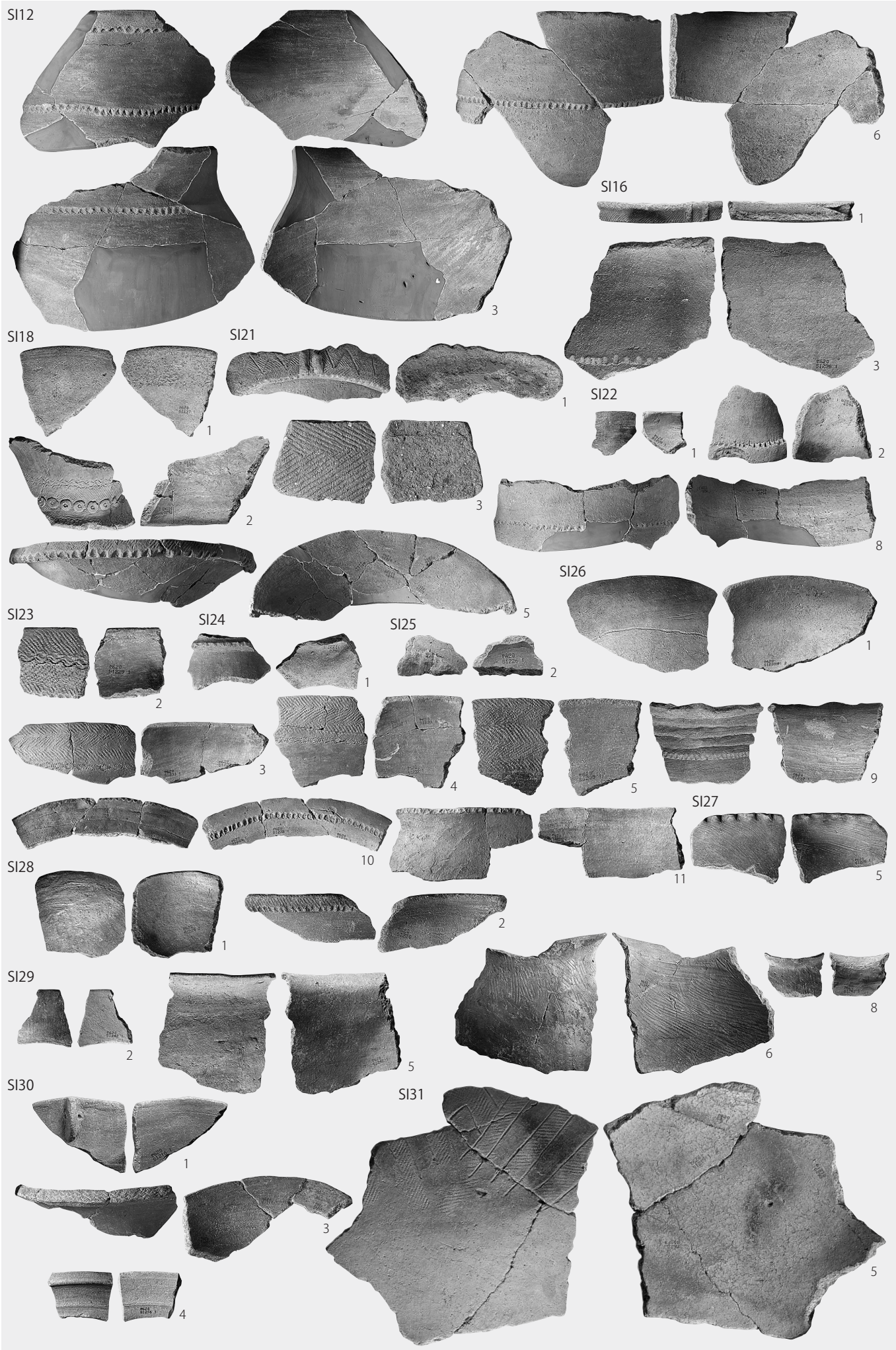
遺構外出土遺物－23

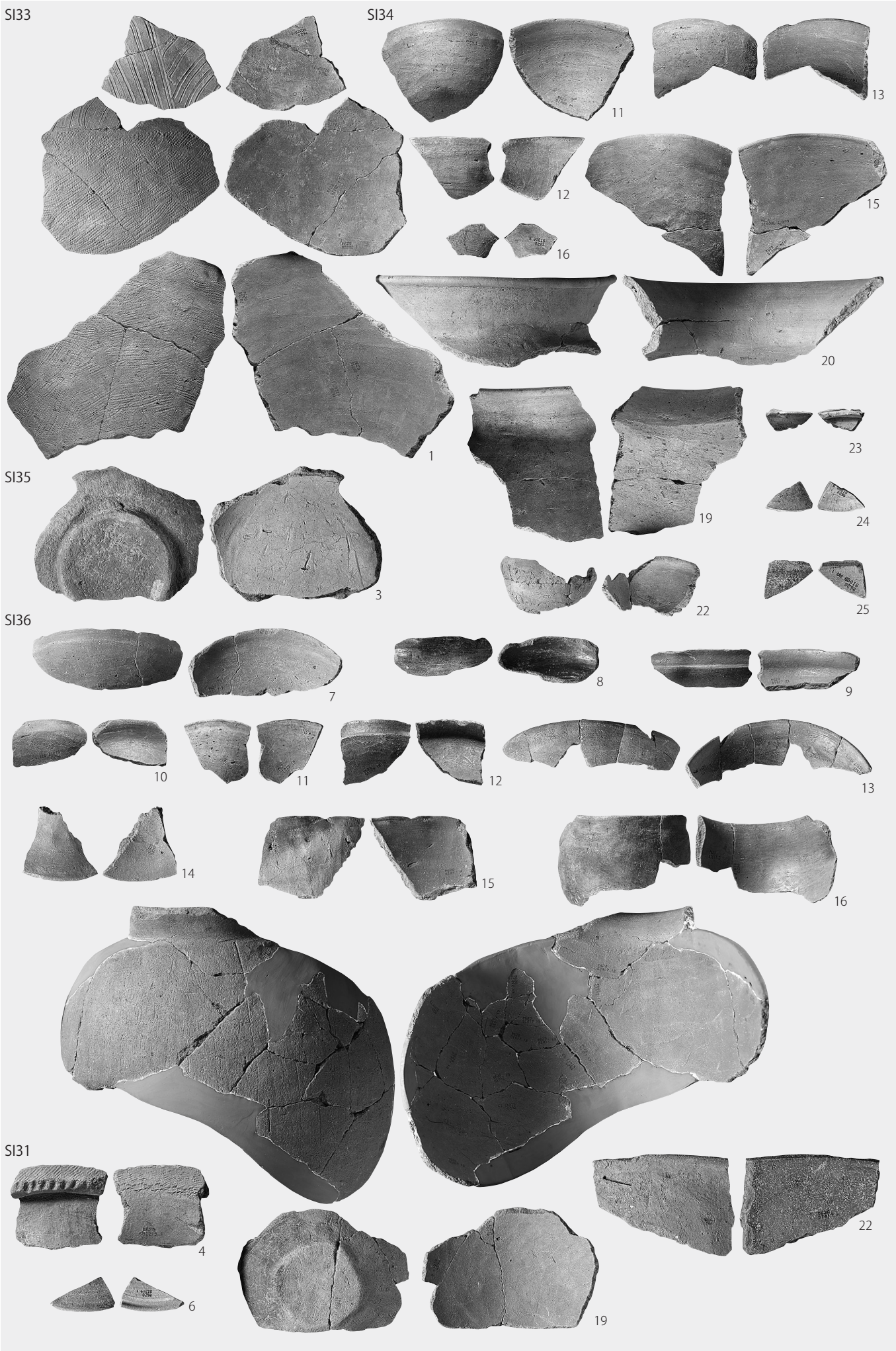
遺構外出土遺物－25

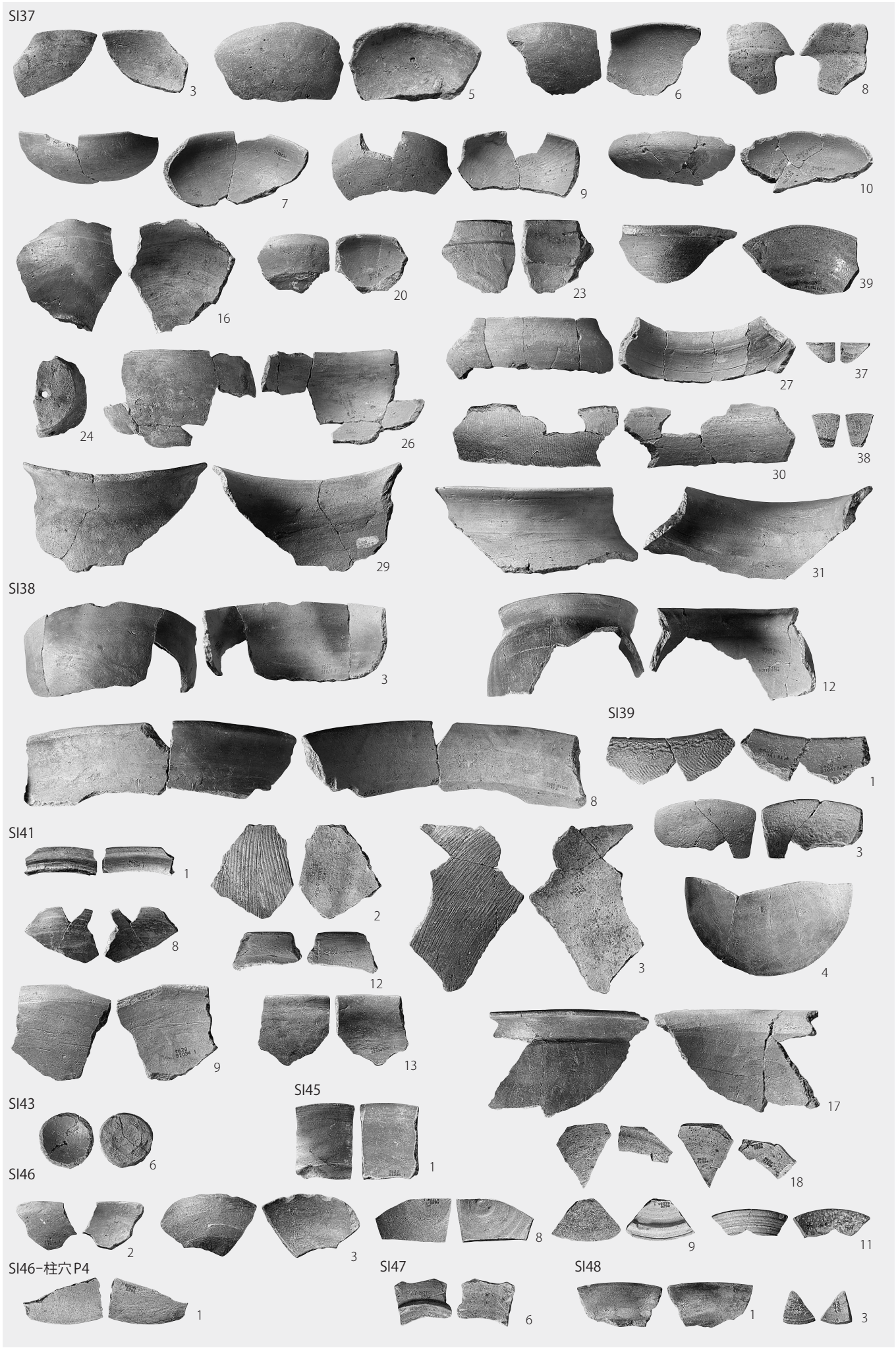
遺構外出土遺物－27

遺構外出土遺物－28

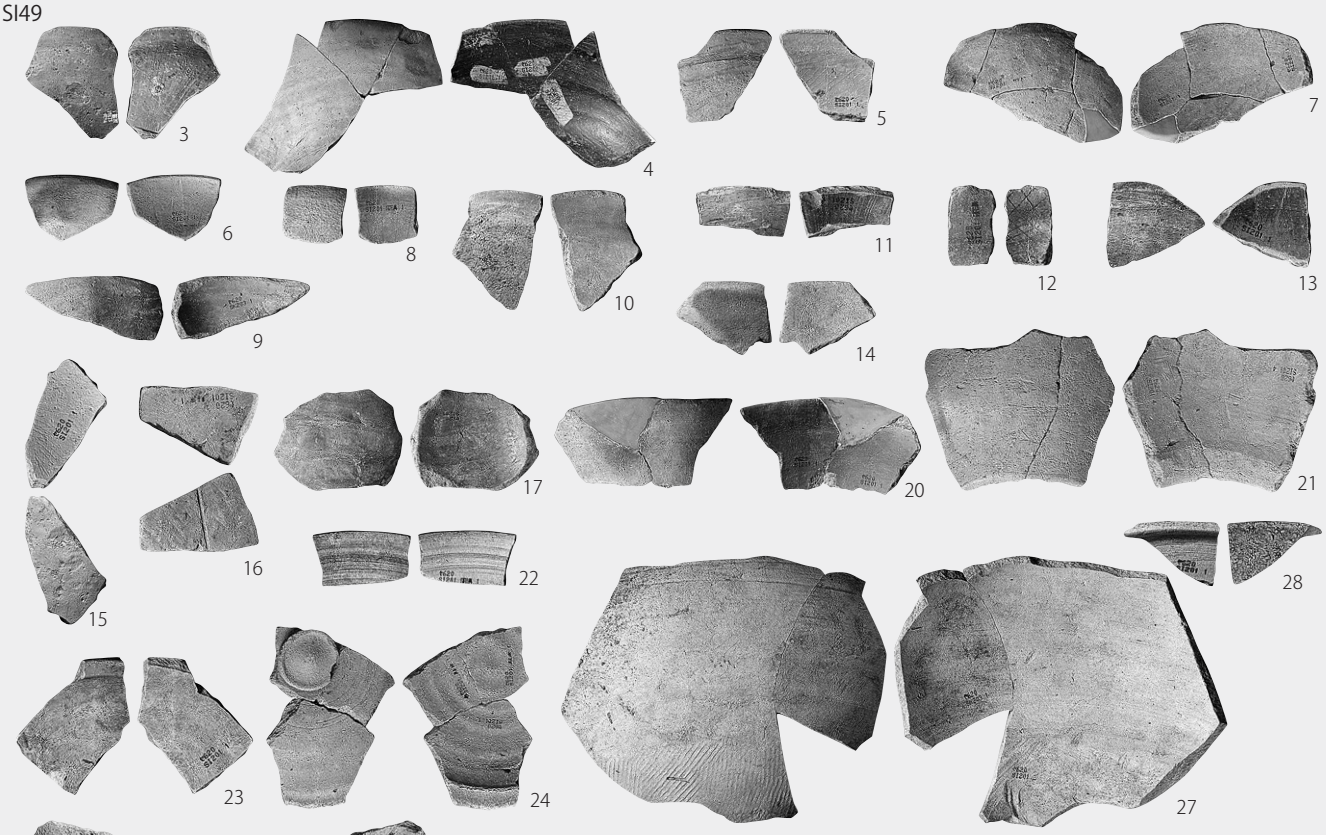

SI01
2
3
4
5
6
SI02
2
SI03
1
2
SI04
1
4
5
6
7
8
9
SI05
10
3
SI10
1
2
3
SI06
3
SI07
1
11
SI08
1
2
3
SI09
3
10
SI11
1
7
11


SI12
6
SI16
1
3
SI18
1
SI21
1
3
SI22
1
2
2
3
8
SI26
5
1
SI23
2
SI24
1
SI25
2
3
4
5
9
SI27
10
11
5
SI28
1
2
SI29
2
5
6
8
SI30
1
SI31
3
4
5

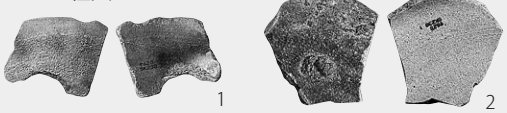

SI33
SI34
11
13
12
15
16
20
1
23
SI35
19
24
3
22
25
SI36
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
SI31
4
22
6
19


SI37
SI38
SI39
SI41
SI43
SI45
SI46
SI46-柱穴P4
SI47
SI48

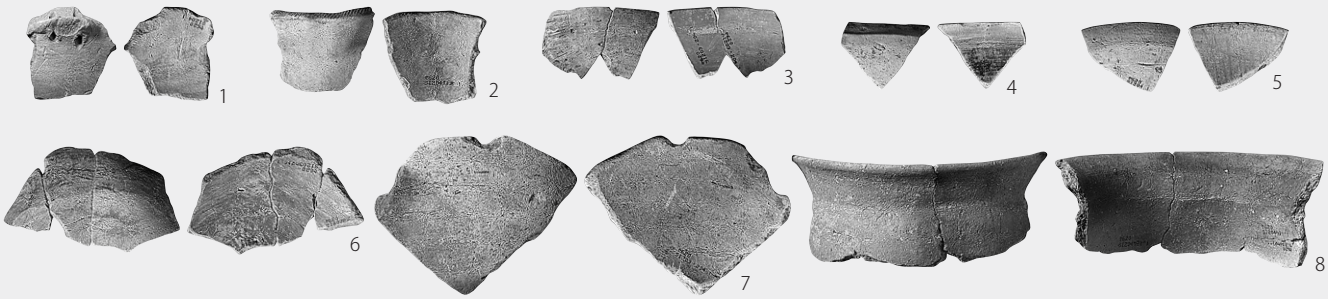
SI49



SI49- 柱穴P4



SI51

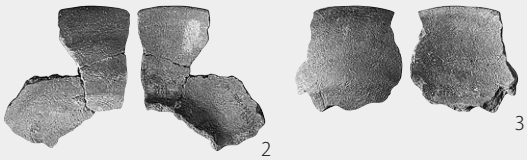


SI51-柱穴P3

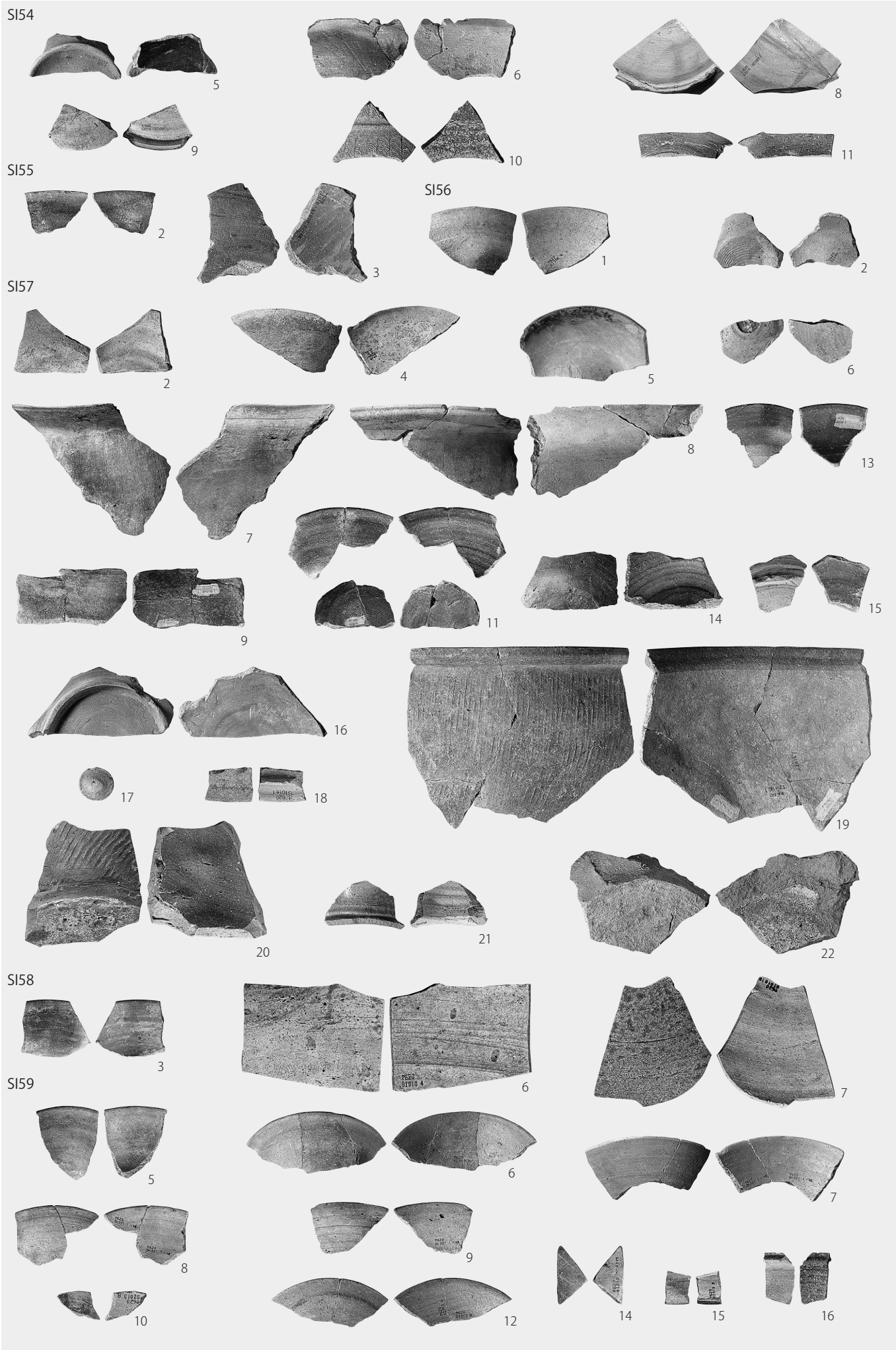
SI52

SI53

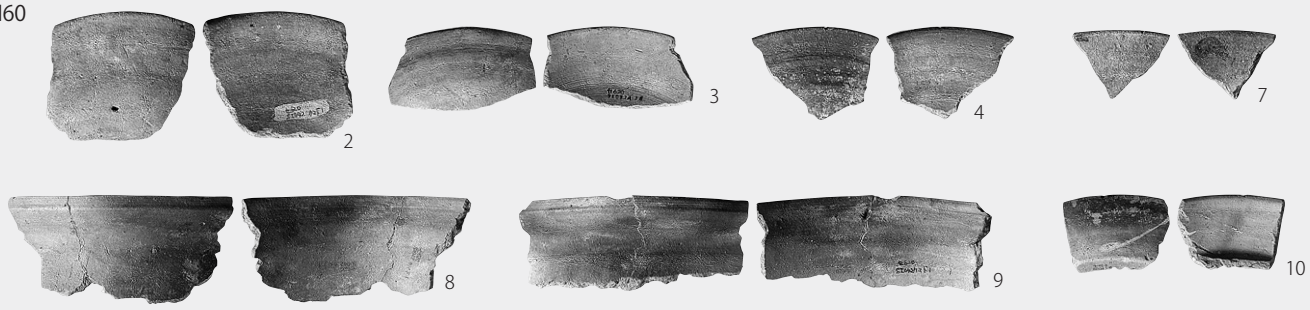
SI52・53



SI54

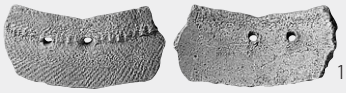

SI54
5
6
8
9
10
11
SI55
2
3
SI56
1
2
SI57
2
4
5
6
7
8
13
9
11
14
15
16
17
18
19
20
21
22
SI58
3
6
7
SI59
5
6
7
8
9
10
12
14
15
16

SI60

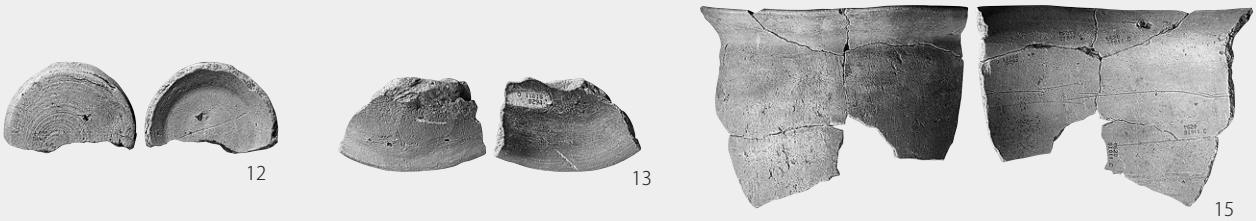


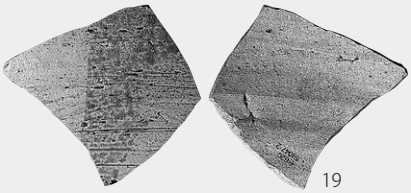
SI62

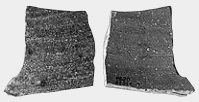
SI63



SI64



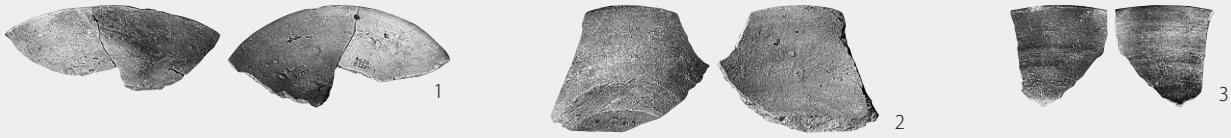


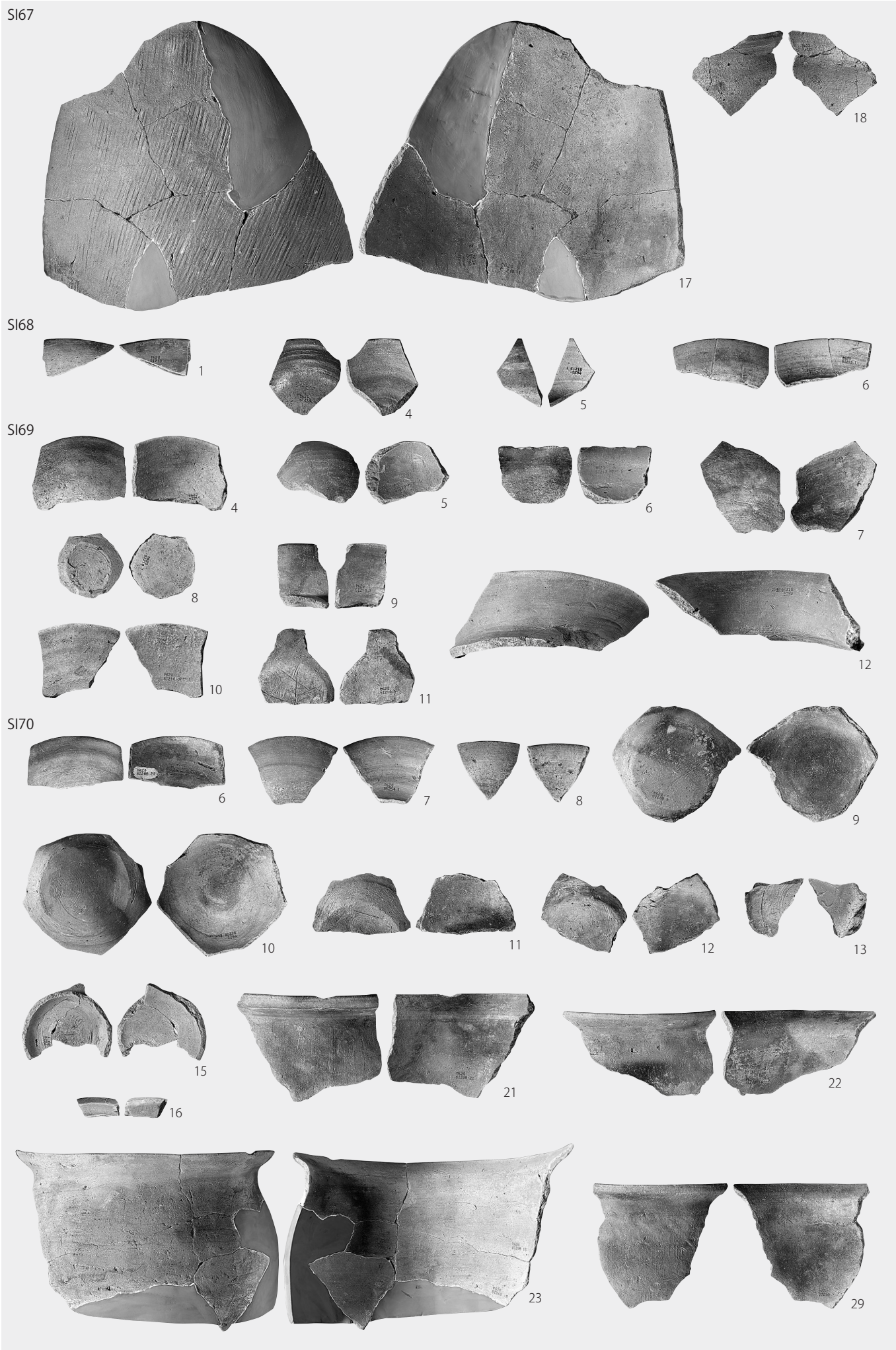


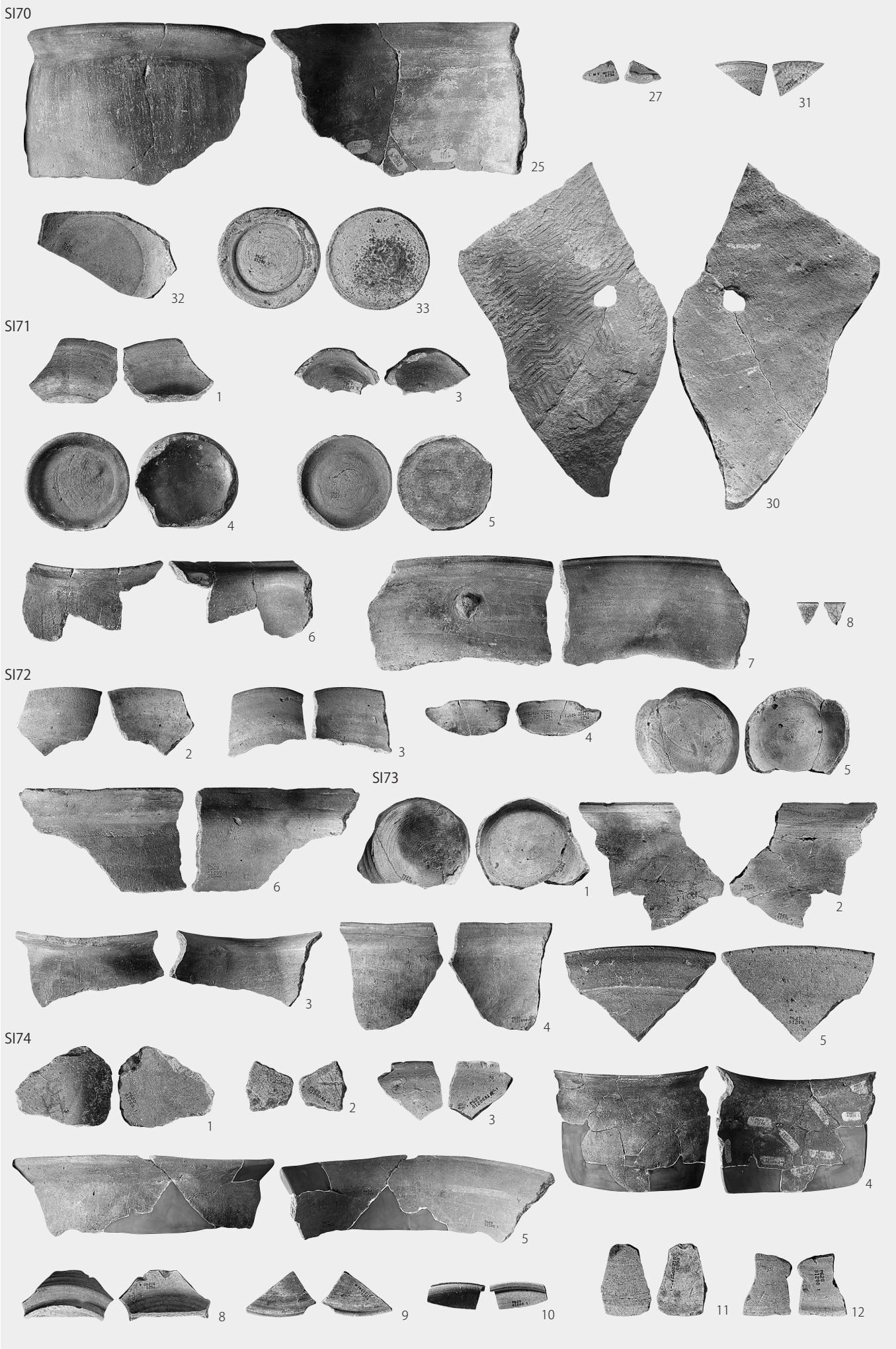
SI64-柱穴P4

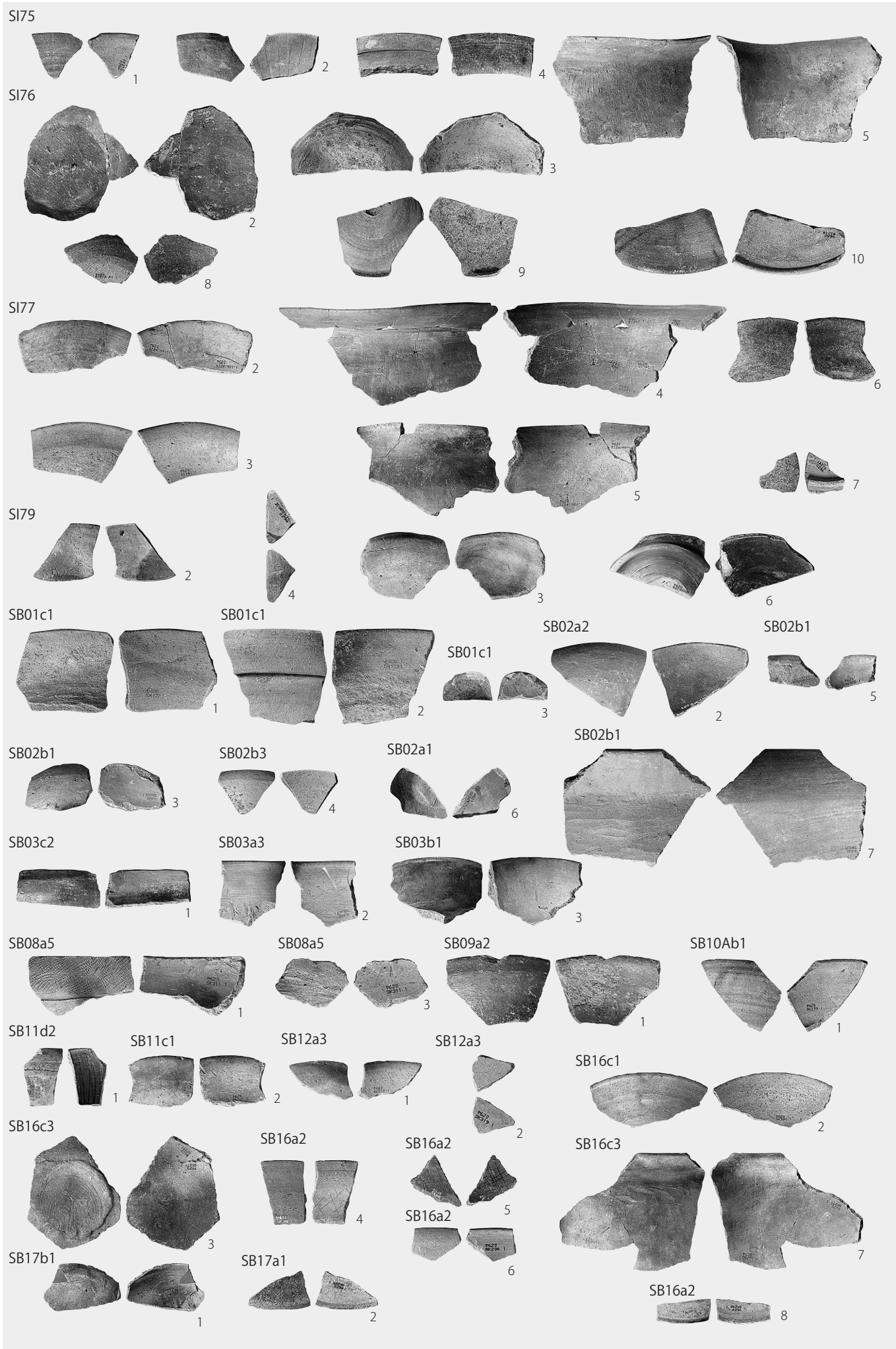
SI66

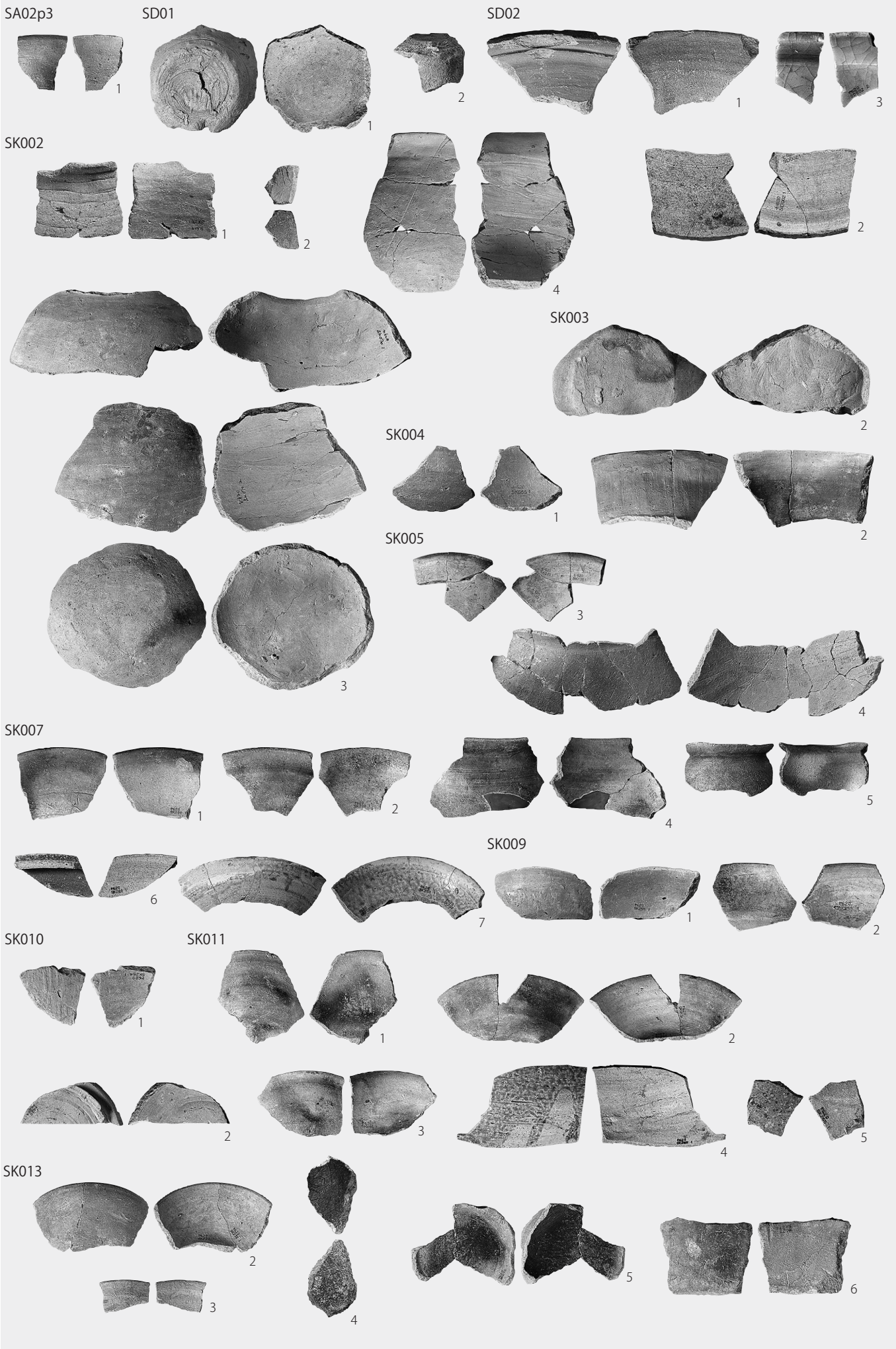
SI67




SI67
17
18
SI68
1
4
5
6
SI69
4
5
6
7
8
9
10
11
12
SI70
6
7
8
9
10
11
12
13
15
16
21
22
23
29

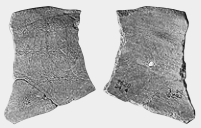

SI70
25
27
31
32
33
30
SI71
1
3
4
5
6
7
8
SI72
2
3
4
5
6
SI73
1
2
3
4
5
SI74
1
2
3
4
5
8
9
10
11
12

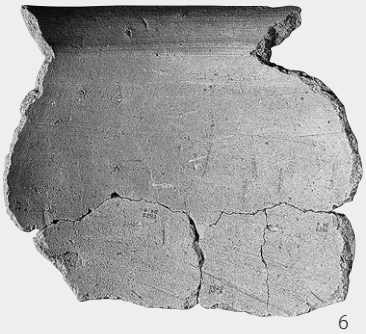

SI75
1
2
4
5
SI76
2
3
8
9
10
SI77
2
4
6
3
5
7
SI79
2
4
3
6
SB01c1
1
SB01c1
2
SB01c1
3
SB02a2
2
SB02b1
5
SB02b1
3
SB02b3
4
SB02a1
6
SB02b1
7
SB03c2
1
SB03a3
2
SB03b1
3
SB08a5
1
SB08a5
3
SB09a2
1
SB10Ab1
1
SB11d2
1
SB11c1
2
SB12a3
1
SB12a3
2
SB16c1
2
SB16c3
3
SB16a2
4
SB16a2
5
SB16a2
6
SB16c3
7
SB17b1
1
SB17a1
2
SB16a2
8


SA02p3
SD01
SD02
SK002
SK003
SK004
SK005
SK007
SK009
SK010
SK011
SK013

SK014

2


5


6

4

7

8

SK015

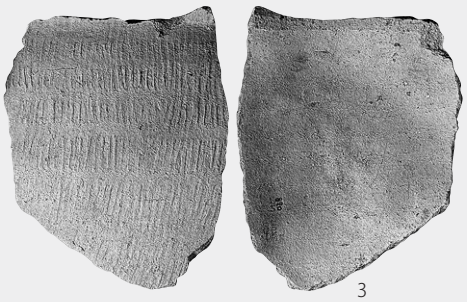
1

SK016

1

SK018

1

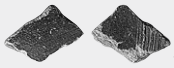

3

SK023

1

2

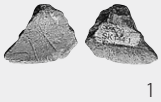
SK027


1

SK029

1

SK037


1

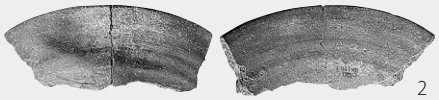
SK038

1

SK041

1

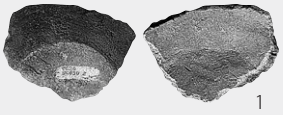
SK045


2

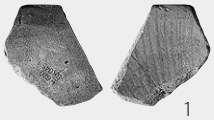
3

4

SK043


1

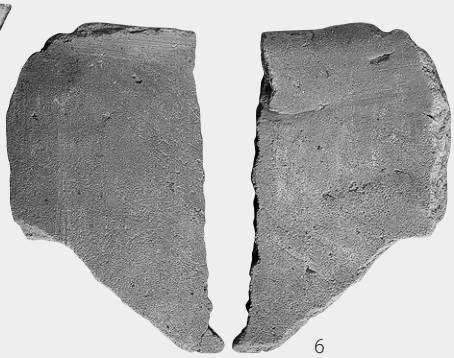
SK055

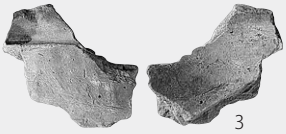

1

SK057

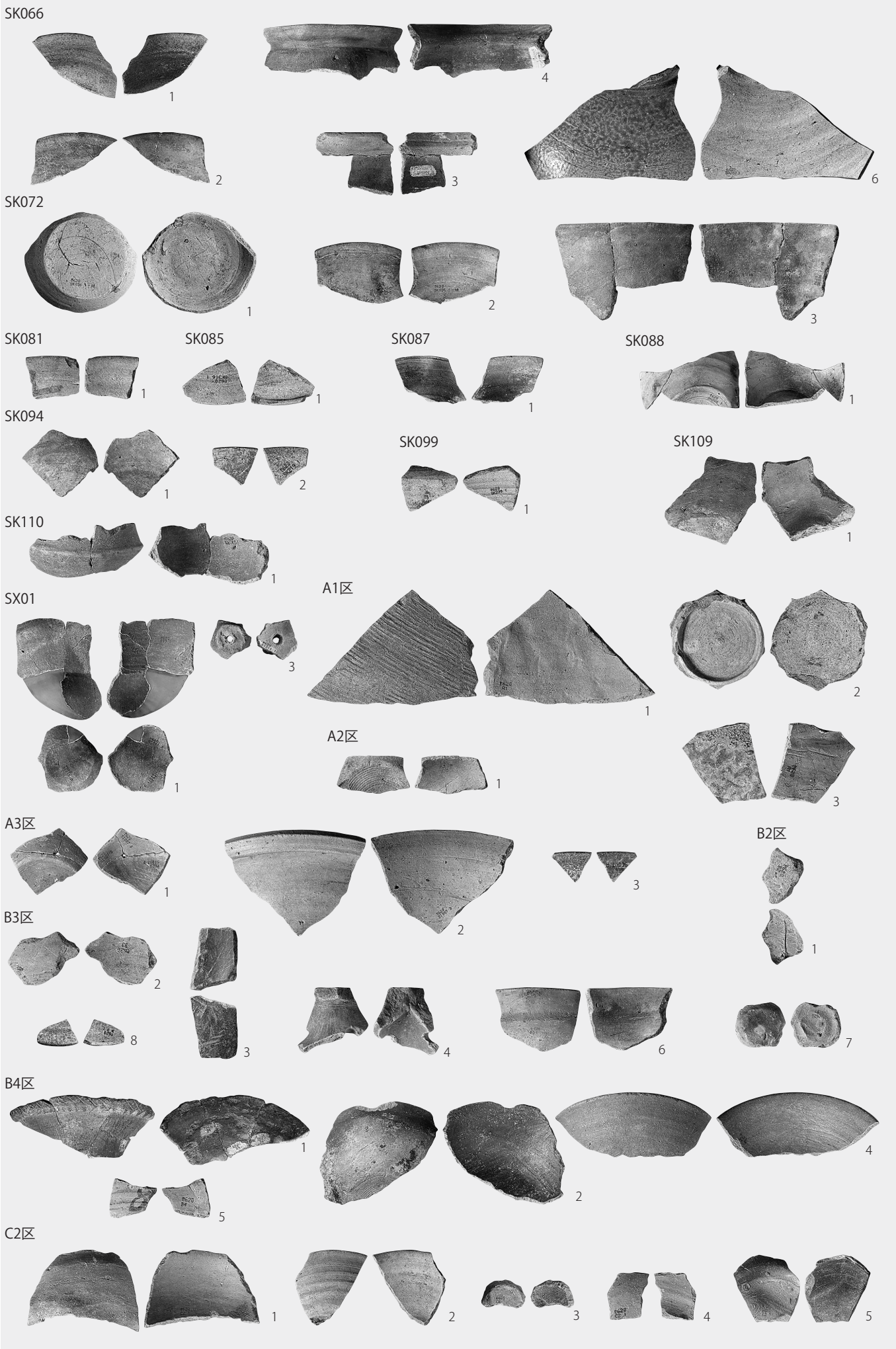
1

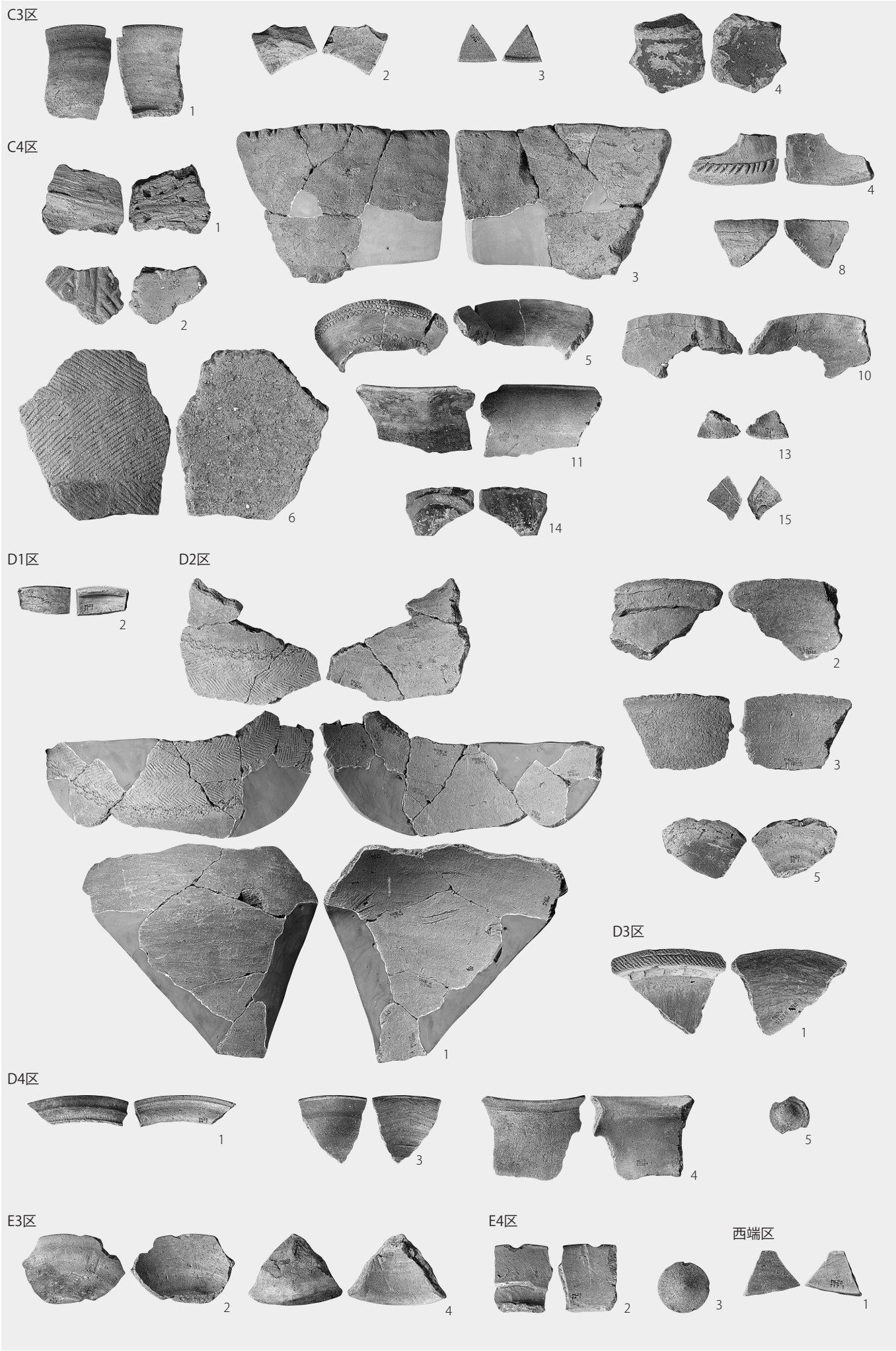
4


6

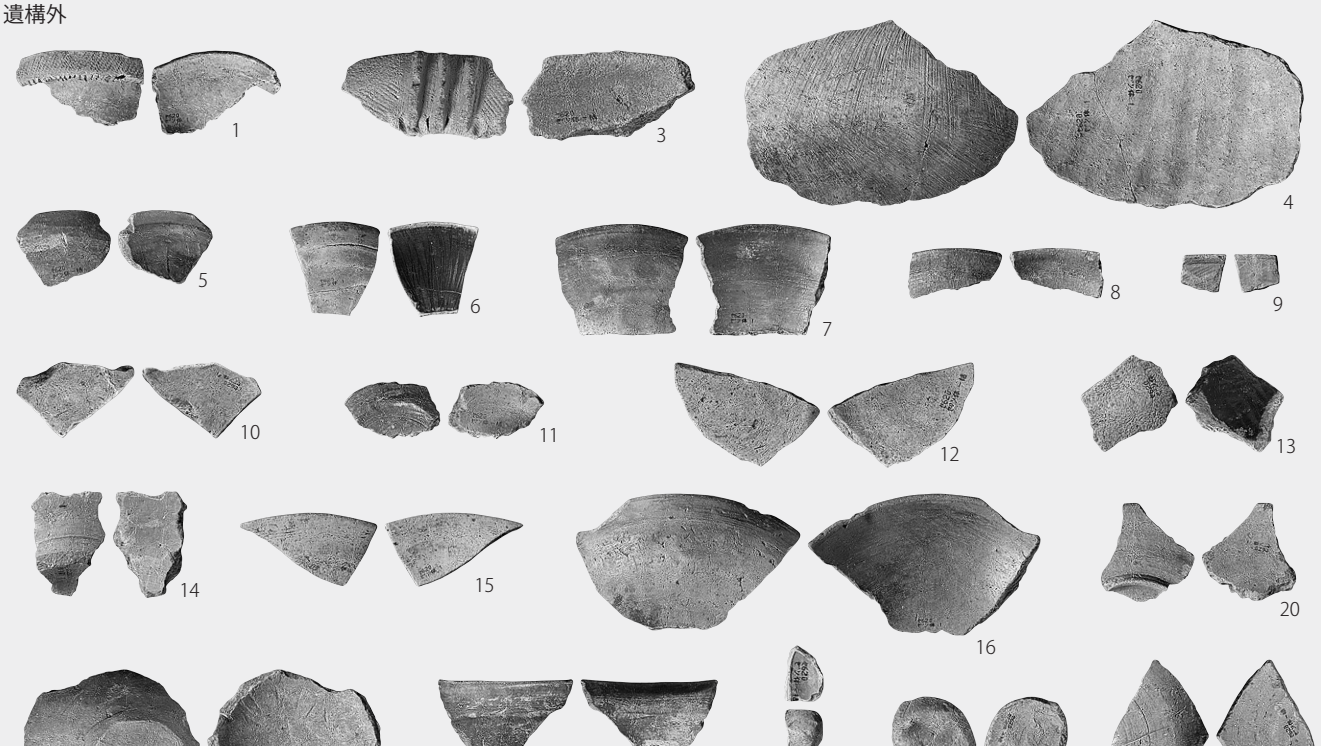

3

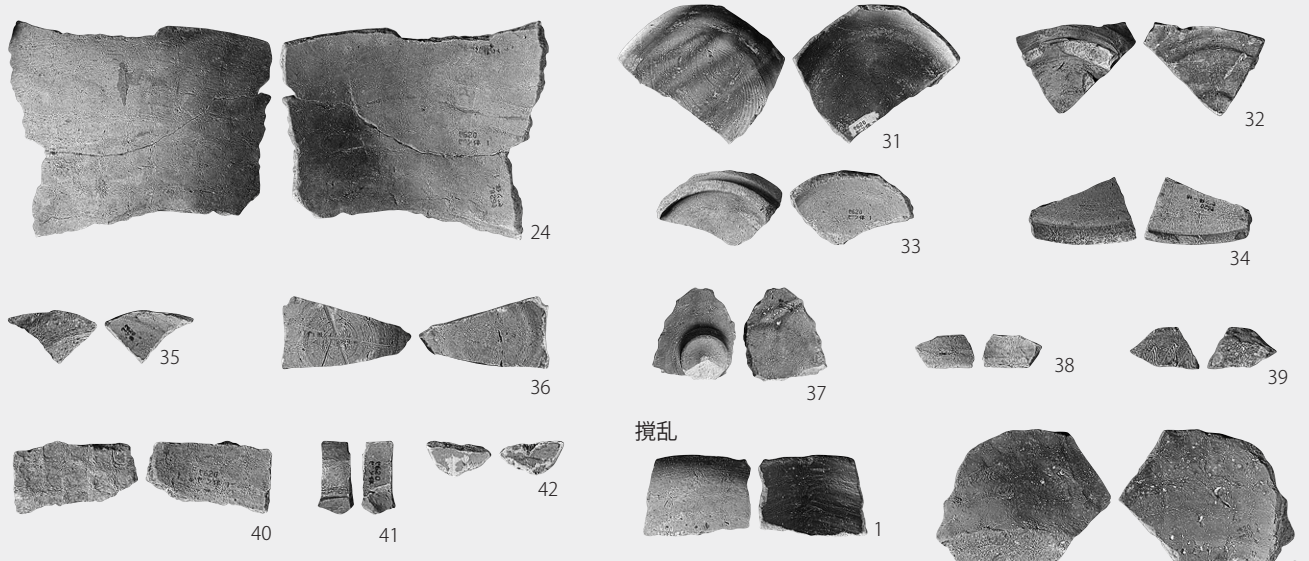
5


SK066
SK072
SK081
SK085
SK087
SK088
SK094
SK099
SK109
SK110
SX01
A1区
A2区
A3区
B2区
B3区
B4区
C2区


C3区
1
2
3
4
C4区
1
2
3
4
8
5
10
6
11
13
14
15
D1区
2
D2区
2
3
5
1
D3区
1
D4区
1
3
4
5
E3区
2
4
E4区
2
3
西端区
1

遺構外



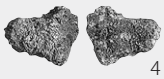


撹乱

土製品

SI04

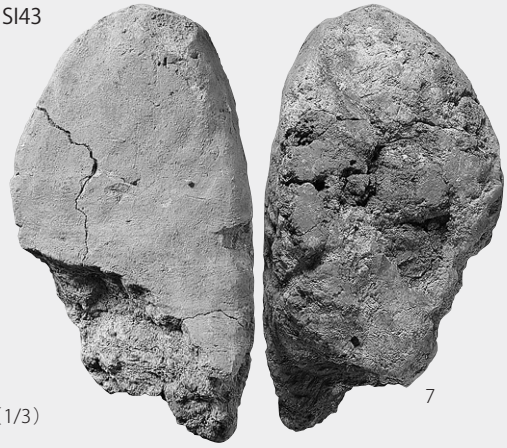
SI05



SI07

SI34

SI43



SI12

SI36

SI37

焼成粘土塊（1/3）

土製品

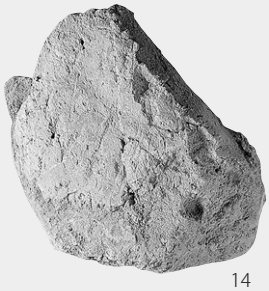
SI49

30

SI49

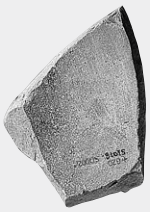
焼成粘土塊（1/3）

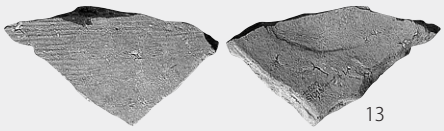
SI51



14

SI54





13

15

SI52・53

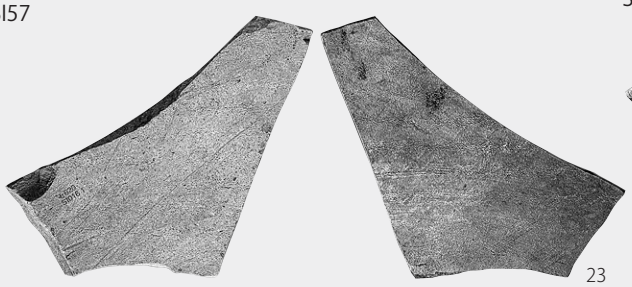
4

SI68

7

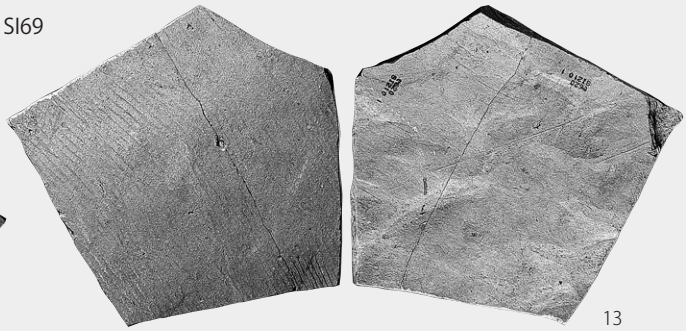
12

SI57



23

SI69



13

SI71

9

SI75

5

SI77

8

SB06a1

1

SK002

焼成粘土塊（1/3）

SI76

11

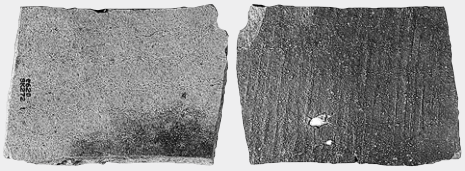
SK010

3

SK014

9

SK013



7

土製品

A4区

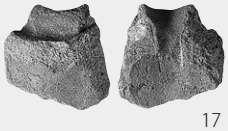
1

B4区

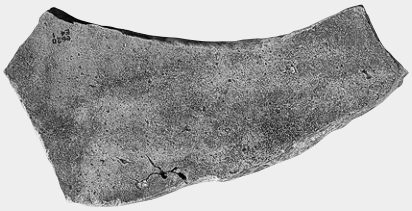
7

C4区

16

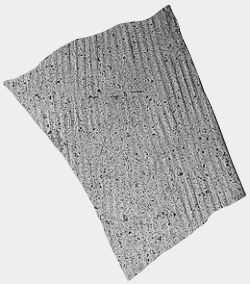

17

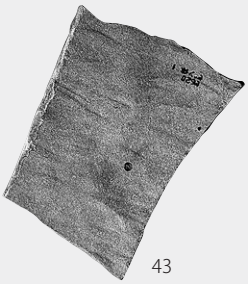
E4区

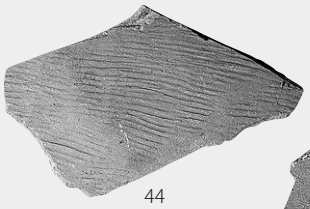


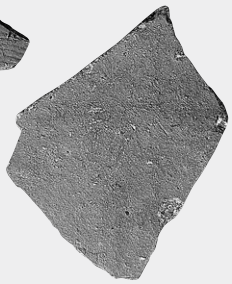
5

遺構外




43


44



45

46

撹乱

3

瓦

SI60

14

E4区

4

遺構外

47

48

石製品

SI02

3

4

SI05

5

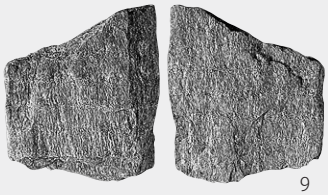
6

7

SI06

4

SI12


9

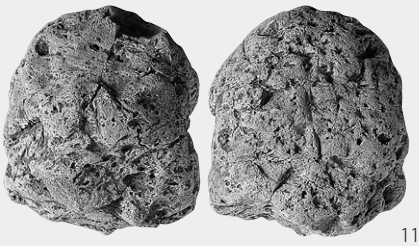
SI18

4

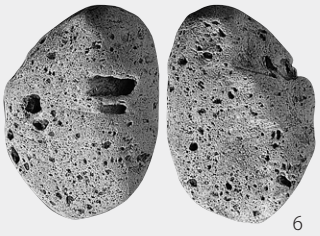
SI22

9

10


11

SI27


6

石製品

SI29

9

31

SI31

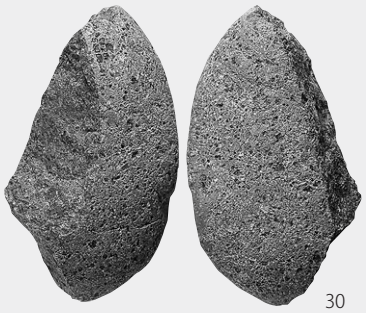
7

32

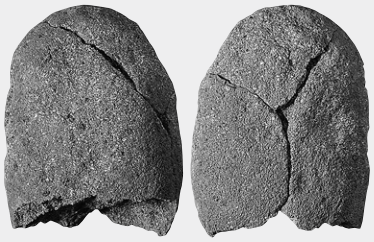
SI34

29

33


30

SI37


41

SI39

6

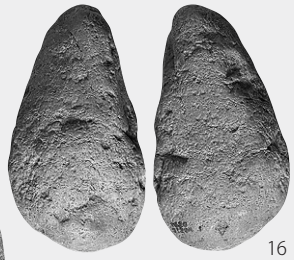
SI41

19

SI47

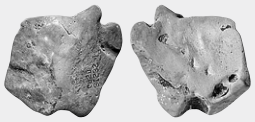
7

SI51


16

SI44

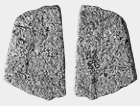
9


12

10

11

SI52


5

SI57

26

SI59

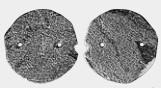
18

19

SI64

23

SI68


8

SI69

14

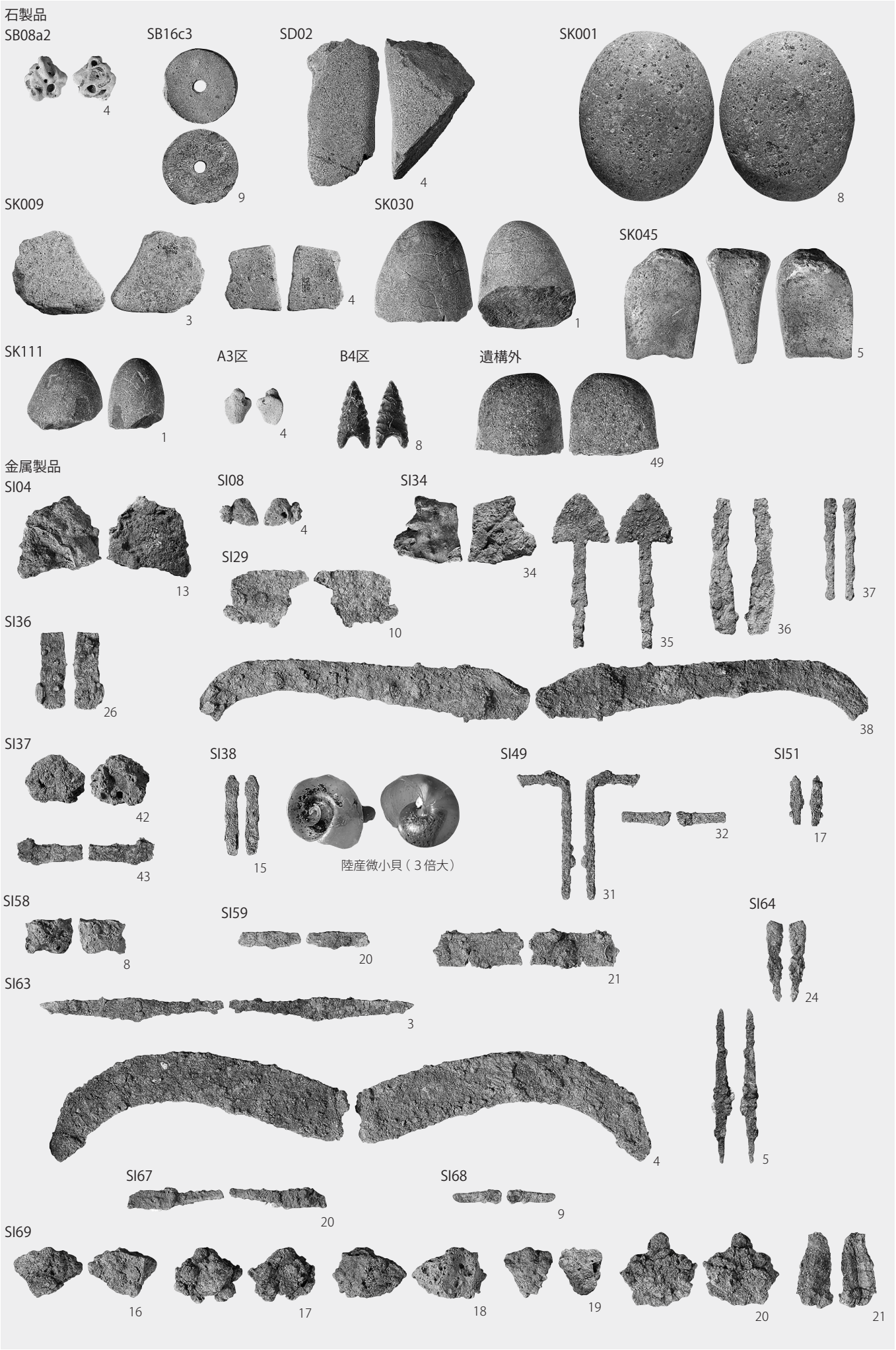
15

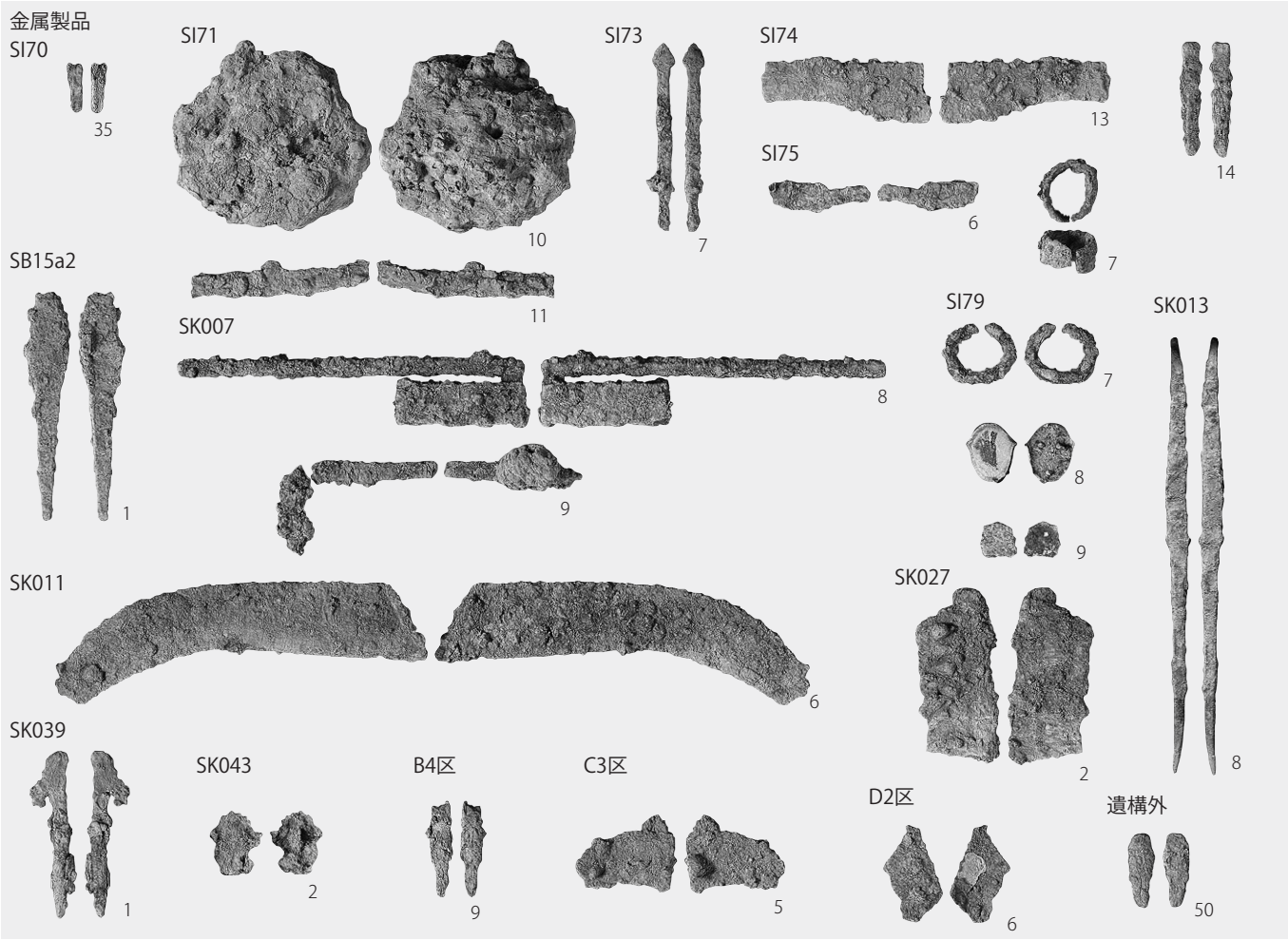
SI73

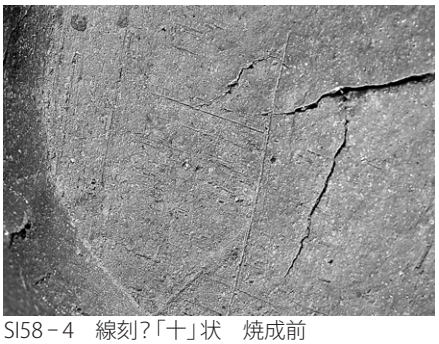
6

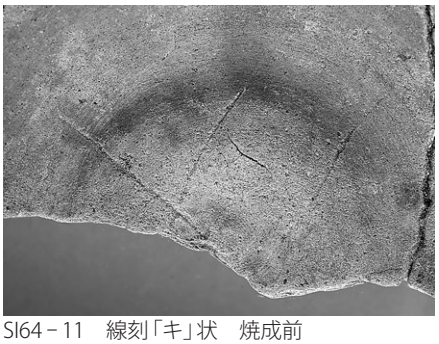
SI76

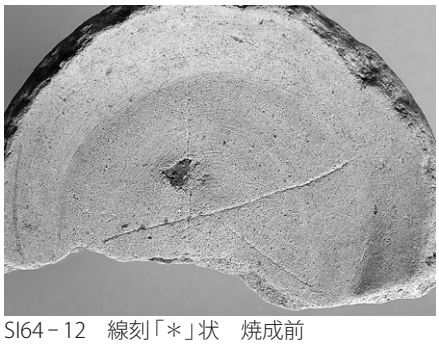
12


石製品
SB08a2
4
SB16c3
9
SD02
4
SK001
8
SK009
3
4
SK030
1
SK045
5
SK111
1
A3区
4
B4区
8
遺構外
49
金属製品
SI04
13
SI08
4
SI34
34
SI29
10
35
36
37
SI36
26
38
SI37
42
43
SI38
15
陸産微小貝（３倍大）
SI49
31
32
SI51
17
SI58
8
SI59
20
21
SI64
24
SI63
3
4
5
SI67
20
SI68
9
SI69
16
17
18
19
20
21



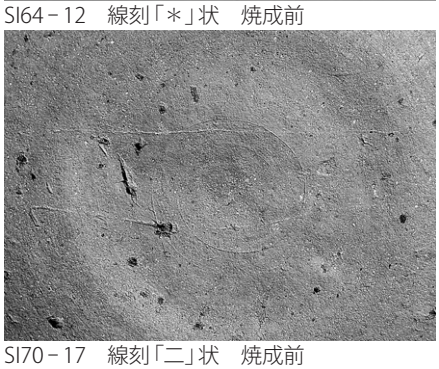

SI58－4　線刻?「十」状　焼成前

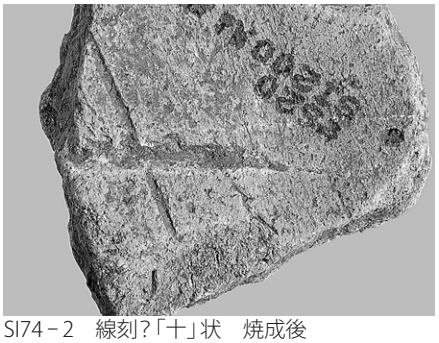

SI64－11　線刻「キ」状　焼成前

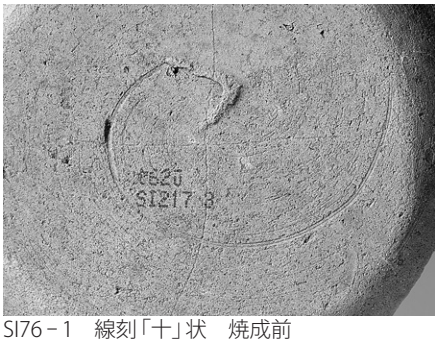

SI64－12　線刻「＊」状　焼成前

SI69－1　線刻「与」　焼成前

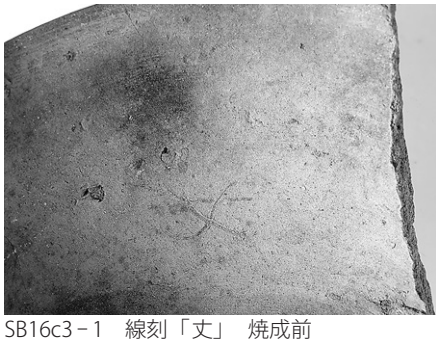
SI70－13　線刻判読不能　焼成前

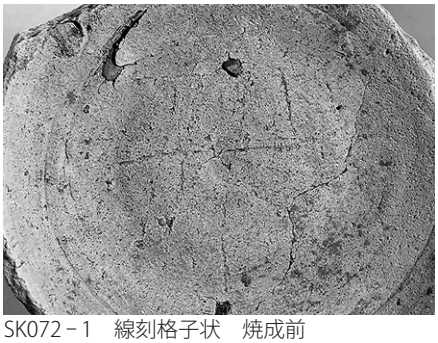

SI70－17　線刻「二」状　焼成前

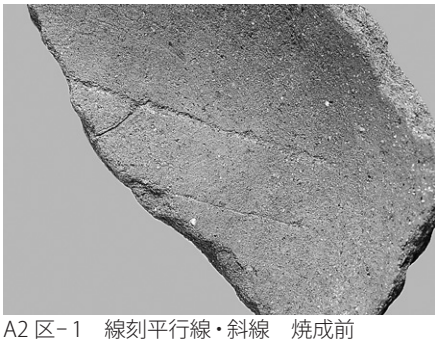

SI74－2　線刻?「十」状　焼成後


SI76－1　線刻「十」状　焼成前

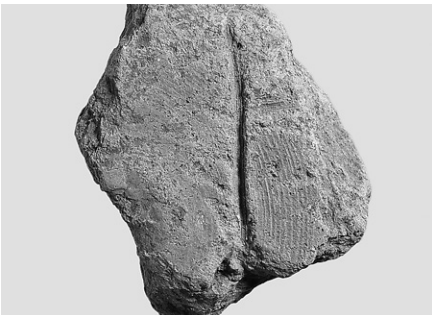
SI79－5　線刻「力」　焼成前


SB16c3－1　線刻「丈」　焼成前

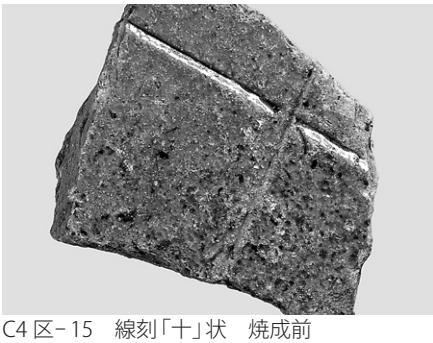

SK072－1　線刻格子状　焼成前

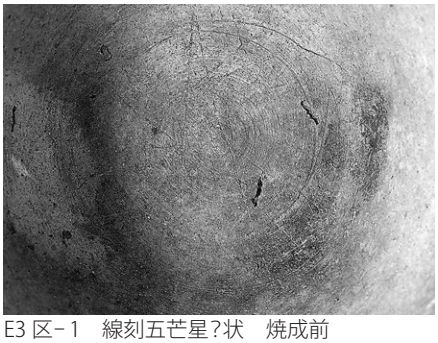

A2 区－1　線刻平行線・斜線　焼成前

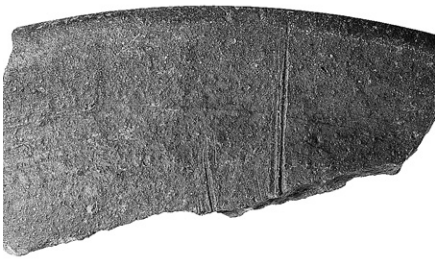
A3 区－1　線刻?平行線　焼成後

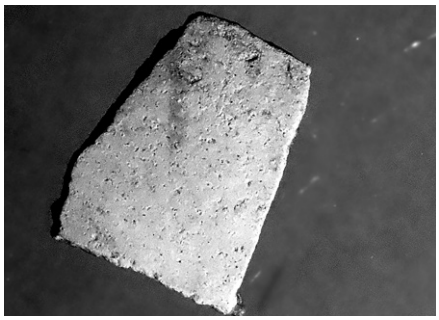

B2 区－1　線刻直線　焼成前

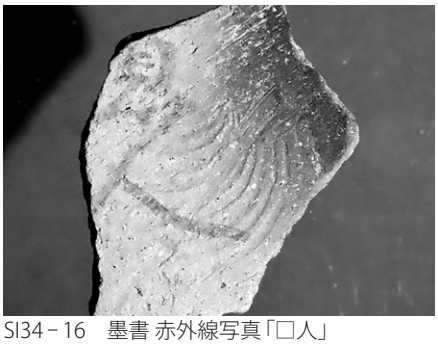
B3 区－2　線刻?「人」　焼成後

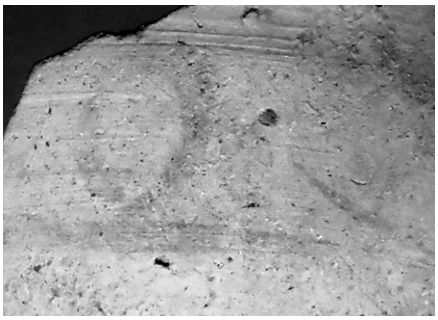

C4 区－15　線刻「十」状　焼成前

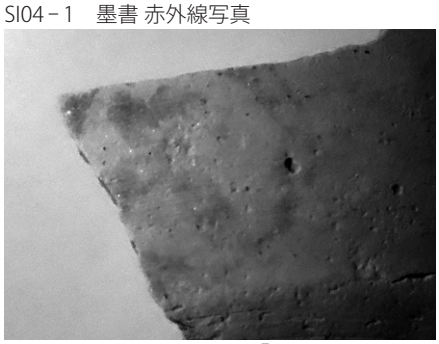

E3 区－1　線刻五芒星?状　焼成前

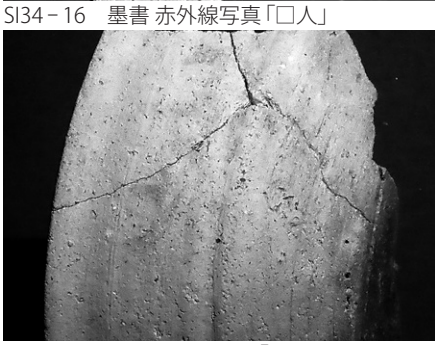

遺構外出土遺物－8　線刻平行線　焼成前

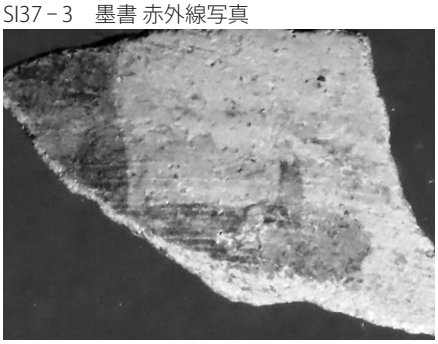

SI04－1　墨書 赤外線写真

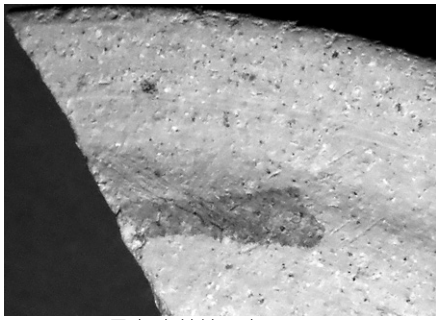

SI34－16　墨書 赤外線写真「□人」

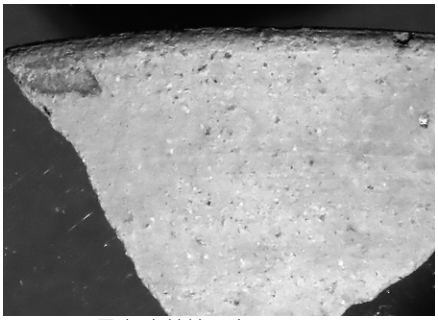

SI37－3　墨書 赤外線写真

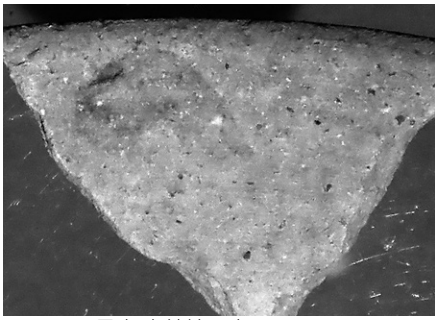

SI49－4　墨書 赤外線写真「⊕」

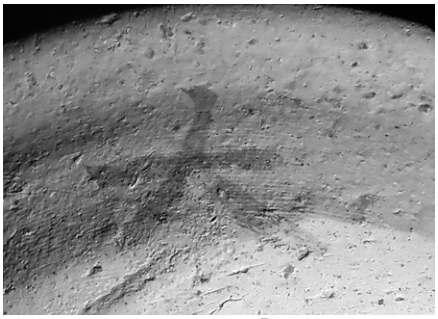

SI57－1　墨書 赤外線写真「土土」


SI59－10　墨書 赤外線写真

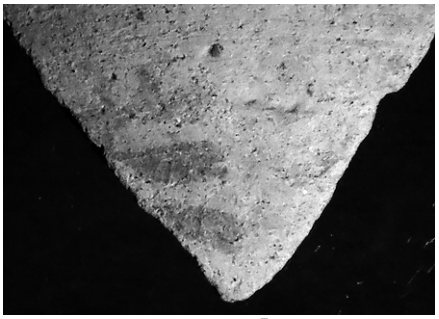

SI59－12　墨書 赤外線写真

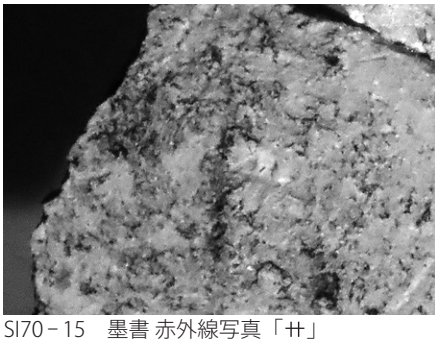

SI60－7　墨書 赤外線写真

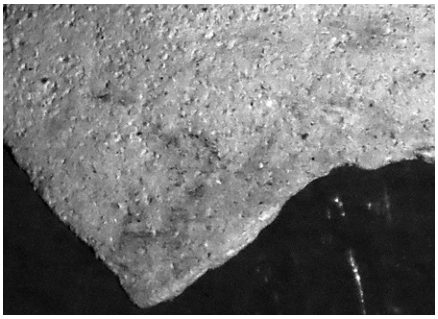

SI60－7　墨書 赤外線写真

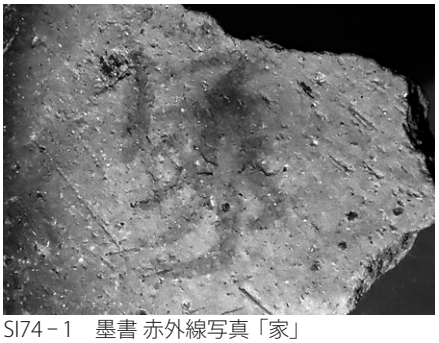

SI67－7　墨書 赤外線写真「大」

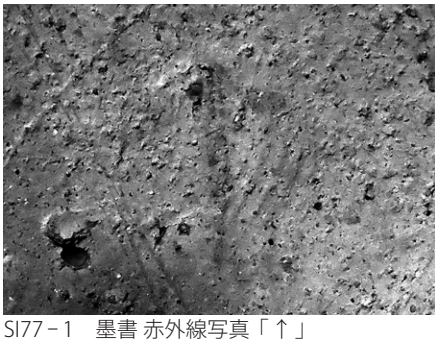
SI67－8　墨書 赤外線写真「大」

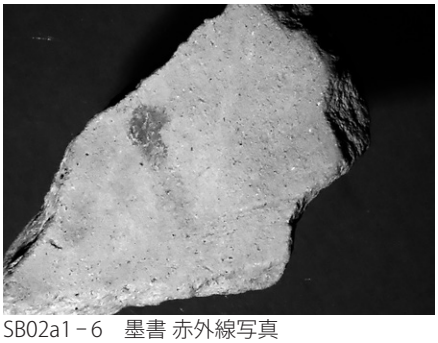

SI70－8　墨書 赤外線写真「荒ヵ」

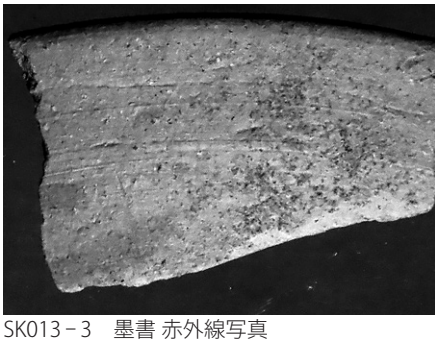

SI70－15　墨書 赤外線写真「卄」

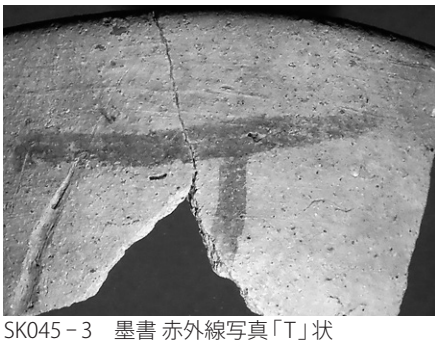

SI72－2　墨書 赤外線写真

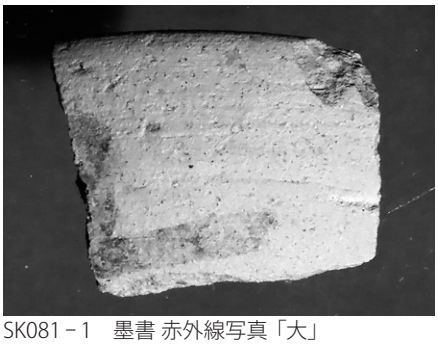

SI74－1　墨書 赤外線写真「家」

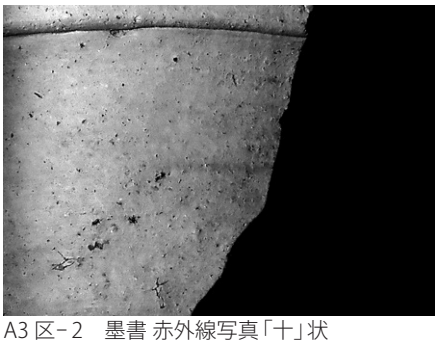

SI77－1　墨書 赤外線写真「↑」

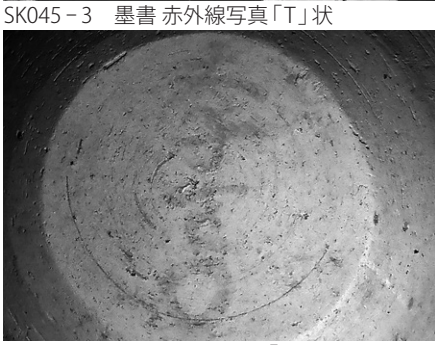

SB02a1－6　墨書 赤外線写真

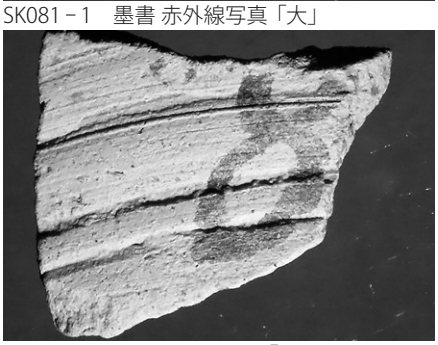

SK013－3　墨書 赤外線写真

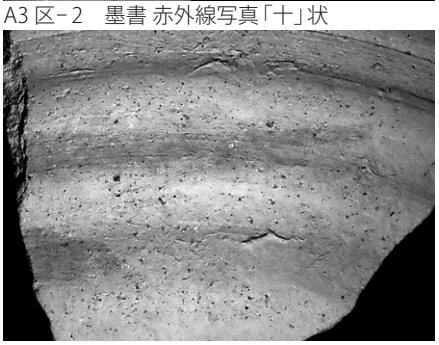

SK045－3　墨書 赤外線写真「T」状

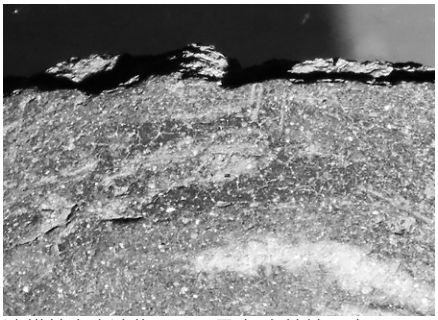

SK081－1　墨書 赤外線写真「大」

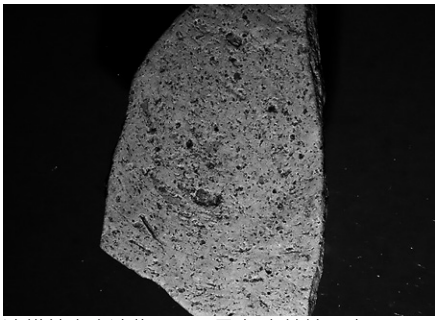

A3 区－2　墨書 赤外線写真「十」状

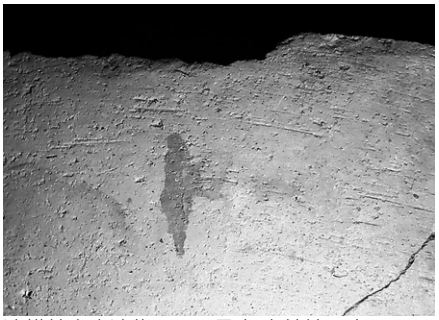

B3 区－5　墨書 赤外線写真「丈子万呂○」


B4 区－5　墨書 赤外線写真「8」状


C2 区－2　墨書 赤外線写真


遺構外出土遺物－11　墨書 赤外線写真


遺構外出土遺物－12　墨書 赤外線写真


遺構外出土遺物－24　墨書 赤外線写真

報　告　書　抄　録

ふりがな	いちはらしうるいどいせきぐん（にしのざきちく）
書　名	市原市潤井戸遺跡群（西ノ崎地区）
副書名	
巻　次	
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第 66 集
編著者名	川上知哉
編集機関	市原市教育委員会（市原市埋蔵文化財調査センター）
所在地	〒 290－0011　千葉県市原市能満 1489 番地　TEL 0436（41）9000
発行年月日	2025 年（令和 7 年）3 月 27 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
うるいどいせきぐん 潤井戸遺跡群 （にしのざきちく） （西ノ崎地区）	ちばけんいちはらしうるいどあざにしのざき 千葉県市原市潤井戸字西ノ崎 720 番 1、720 番 2、720 番 3、756 番 2、地先道路水路	12219	841	35° 31′ 09″	140° 10′ 28″	20240520 ～ 20241126	2,059.69	店舗新設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
潤井戸遺跡群 （西ノ崎地区）	集落跡、 貝塚	縄文時代、 弥生時代、 古墳時代、 奈良時代、 平安時代、 中世	縄文時代 3 基、弥生時代中期～終末期竪穴建物跡 31 棟・土坑 1 基・ピット 1 基、古墳時代竪穴建物跡 15 棟・土坑 6 基、奈良時代竪穴建物跡 4 棟・掘立柱建物跡 2 棟、平安時代竪穴建物跡 27 棟・掘立柱建物跡 15 棟・土坑 18 基、中世掘立柱建物跡 1 棟・溝 1 条・道路 1 条・土坑 4 基、不明遺構 1 基、時期不明竪穴建物跡 2 棟・柵列 3 条・土坑 85 基・ピット 28 基	縄文土器・石器、弥生土器・石器、古墳時代土師器・須恵器・土製品・鉄器、奈良時代土師器・須恵器・土製品・鉄器・青銅器、中世土器・陶器	弥生時代～平安時代の竪穴建物跡や、奈良～平安時代の掘立柱建物跡を多数検出した。また 8 世紀前葉の畿内産土師器が一定数出土した。

要　約	潤井戸遺跡群（西ノ崎地区）は市原市北部を流れる村田川とその支流の開析によって形成された標高約 17m の低位段丘に位置する。調査の結果、弥生時代～平安時代の竪穴建物跡や奈良～平安時代の掘立柱建物跡、中世の掘立柱建物跡や溝・道路跡などが多数確認され、畿内産土師器や墨書土器が一定数出土した。弥生時代～平安時代まで長期間にわたって居住域としての土地利用が認められ、特に古墳時代中期中葉の住居遺構からカマドや韓式系軟質土器の模倣品と思われる鍋が確認された。また 7 世紀末～ 8 世紀前葉頃は遺跡一帯が律令国家の「湿津郷」統制における拠点的集落であった可能性があり、9 世紀になると総柱建物や規模の大きい掘立柱建物が建てられるようになる。畿内産土師器や海老錠、クルル鉤はこの時期の遺跡の性格を推し量る上で重要な出土遺物である。

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第66集

市原市潤井戸遺跡群（西ノ崎地区）

令和７年３月27日　発行

編　　集　　市原市教育委員会
市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436（41）9000

発　　行　　株式会社セブン‐イレブン・ジャパン
市原市教育委員会
千葉県市原市国分寺台中央1-1-1
TEL 0436（22）1111

印　　刷　　株式会社　正　文　社
千葉県千葉市中央区都町1-10-6
TEL 043（233）2235